

奈良学園大学
教育研究業績書
(保健医療学部看護学科)

令和7（2025）年度



※次ページ「教員一覧」の各教員をクリックすると、当該教員の教育研究業績を閲覧できます。
※PDF機能の「しおり」から、各教員の教育研究業績を閲覧できます。

NARAGAKUEN'S TEACHERS



服部 律子

副学長
専門分野
母性看護学、助産学



上野 栄一

研究科長・教授
専門分野
対人関係、コミュニケーション
能力に関する研究、現象の可視化



岩本 淳子

学部長・教授
専門分野
看護学（成人老年看護学）、
保健管理学分野



臼井 キミカ

教授
専門分野
老年看護学、高齢者虐待、
認知症高齢者に関する研究



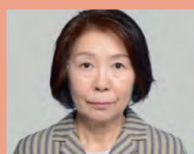
嶋田 理博

教授
専門分野
宇宙物理学、天文学教育、
情報学教育



阪元 勇輝

特任教授
専門分野
環境プロセス工学、
エネルギー変換工学



城島 哲子

特任教授
専門分野
公衆衛生看護学



西菌 貞子

特任教授
専門分野
看護教育学、基礎看護学、
教育工学



小池 伝一

准教授
専門分野
小児看護学



小林 由里

准教授
専門分野
基礎看護学、エンドオブライフケア、
臨床教育



西川 美樹

准教授
専門分野
母性看護学、助産学



蓮池 光人

准教授
専門分野
精神看護学



松井 利江

准教授
専門分野
成人老年看護学



宮本 雅子

准教授
専門分野
助産学、母性看護学



森岡 朋子

准教授
専門分野
基礎看護学、こども救急医療相談、
高齢者看護学



井上 葉子

講師
専門分野
公衆衛生看護学、
地域・在宅看護学



高橋 晶

講師
専門分野
地域・在宅看護学



高橋 寿奈

講師
専門分野
老年看護学、認知症看護、
看護教育



西出 順子

講師
専門分野
精神看護学



林 文子

講師
専門分野
小児看護学、こども救急医療相談、
危機時のホームケア支援



山本 真樹子

講師
専門分野
母性看護学、助産学



浅野 千晶

助教
専門分野
成人老年看護学、急性期看護学



趙 聖櫻

助教
専門分野
地域・在宅看護学領域



平山 久枝

助教
専門分野
母性看護学、助産学



松浦 尚子

助教
専門分野
学校看護学



溝口 みちる

助教
専門分野
成人老年看護学



宮原 聡子

助教
専門分野
小児看護学



村川 圓美

助教
専門分野
小児看護学



森本 早紀

助教
専門分野
保健医療、医療人類学

研究室訪問

詳しくはこちらから



教 育 研 究 業 績 書		
令和 7 年 5 月 1 日		
氏 名 服部 律子		
研 究 分 野	研究内容のキーワード	
母性看護学・助産学	親準備性、青年期の健康支援、災害時の母子支援	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
(1) 産後の母子の看護過程学習におけるアクティブラーニングの導入	2015 年 4 月～ 2016 年 3 月	相山女学園大学看護学部「母子支援看護論演習Ⅱ（母性）」（3 年次配当、半期、必修科目、1 単位）において、2013 年度より産後の母子の看護過程の授業でアクティブラーニングを導入した。臨床場面で経験する状況に沿って事例を提示し、看護過程の段階ごとにグループワークと発表、解説等を相互に繰り返しながら展開した。このことにより、学生たちからは実践的思考と看護過程の展開の流れが理解できるようになったと評価が得られた。
(2) 周産期の看護過程学習におけるロールプレイ形式での演習の導入	2015 年 4 月～7 月	相山女学園大学看護学部「母子支援看護論演習Ⅱ（母性）」（3 年次配当、半期、必修科目、1 単位）において、実践的な技術の習得を目的に、2014 年度よりロールプレイ形式での実践的な技術の演習を導入した。 設定に基づいて教員が妊婦・褥婦を演じ、学生は看護師として臨床場面に即した観察を行う。このことにより、学生はコミュニケーション技術とフィジカルアセスメント技術を統合させ、看護行為としての観察技術が学習できるようになったと評価を得ている。
	2021 年 7 月～ 2023 年 7 月	奈良学園大学保健医療学部看護学科「母性看護援助論演習」（3 年次配当、半期、必修科目、1 単位）において、実践的な技術の習得と周産期の女性の心身の特性の理解を深めることを目的に、学生同士でロールプレイ形式での総合演習を導入した。 学生は事前に示された褥婦の看護診断となる褥婦を演じる褥婦役と、看護師役にわかれ、看護師役はコミュニケーション技術とフィジカルアセスメント技術を統合させながら場面に即した観察を行う。役割を交代しながら演習することや相互フィードバックなどから、看護師としての態度も含めた褥婦の観察などの学びにつながっている。
(3) クリッカーの活用	2015 年 4 月～ 2016 年 2 月	相山女学園大学看護学部「母子支援看護学概論」（2 年次配当、半期、必修科目、2 単位）において、2014 年度より授業内でクリッカーを活用し、学生の意見を聞いたり、授業への導入の小テストを行ったりした。
(4) 母性看護技術演習における反転授業の導入	2015 年 4 月～7 月	相山女学園大学看護学部「母子支援看護論演習Ⅱ（母性）」（3 年次配当、半期、必修科目、1 単位）において、母性看護技術部分を反転授業で実施した。事前に VTR で事前学習した技術を、授業では“声掛け”やその時に観察すべきこと、留意点などと統合して「看護行為」として組み立てることができ、学生は、実習場面でも一連の行為としてスムーズに実施できるようになった。
(5) 観察に基づく理論の学習の試み	2015 年 9 月～ 2022 年 7 月	奈良学園大学保健医療学部「母性看護学概論」（2 年次配当、半期、必修科目、2 単位）において、2014 年度より母性看護学の基本となる理論の理解を促すため、日常生活場面で母子の観察結果をグループで理論

(6) ジグソー法やペアワーク、グループワークの導入	2017 年 9 月～ 2024 年 1 月	に基づいて分析しながら理論の理解と看護場面への理論の活用方法の理解を促す取り組みを行った。実際に自分が観察してきた具体的な場面と理論が結びつくことにより理解が深まっていた。 奈良学園大学保健医療学部「母性看護学概論」（2 年次配当、半期、必修科目、2 単位）ならびに「母性看護援助論」（2 年次、半期、必修科目、1 単位）と「統合看護論」（4 年次、半期、必修科目、2 単位）の担当回の授業において、学生たちの能動的な学習を促し、学習内容の理解を深めたり、多様な考えに触れ多角的な理解を促すことを目的として、ジグソー法やシンク・ペア・シェア、ペアワークやグループワーク等アクティブラーニングの手法を取り入れた。
(7) 課題評価へのルーブリックの導入	2017 年 9 月～ 2025 年 3 月	奈良学園大学保健医療学部「母性看護学概論」（2 年次配当、半期、必修科目、2 単位）の課題評価にルーブリックを導入した。作成したルーブリックを課題提示時から学生と共有することにより、学生自身が取り組むべき課題を具体的に理解すると共に、求められている水準も理解できたことで低い評価のレポートが減少した。
(8) 配布シラバスの活用	2018 年 9 月～ 2025 年 3 月	「母性看護学実習」（3 年次配当、半期、必修科目、2 単位）の評価にもルーブリックを導入した。複数の教員で評価するため、ルーブリックでより評価基準を具体化することで教員間での評価の違いが少なくなり、調整が容易になった。 奈良学園大学保健医療学部「母性看護学概論」（2 年次配当、半期、必修科目、2 単位）で 15 回の授業計画、各授業の事前・事後課題、評価方法、レポート課題の詳細と採点基準（ルーブリック）、受講生へのメッセージなどを記載した配布用シラバスを導入した。学生たちからは全体像を示されたことで計画的に準備ができたなどの反応があり、主体的に取り組めるようになっていた。2023 年度からは「母性看護援助論」（2 年次配当、半期、必修科目、1 単位）でも導入し、母性看護学領域の科目間の関連などについての説明も加え、学生の主体的な学習行動を促した。
2 作成した教科書、教材 (1) 母性看護技術の V T R	2015 年 4 月～ 2015 年 7 月	反転授業用に、授業内容に沿った技術の V T R を作成した。要点はキャプチャーを入れるなど、授業と連動する内容とした。学生からは「眠くならない」「実習前の復習にも使え思い出しやすい」などの評価を得た。
(2) e ラーニングコンテンツの作成	2020 年 4 月～ 7 月	コロナ禍で対面授業が制限されたことに伴い、奈良学園大学「母性看護学概論」（2 年次配当、半期、必修科目、2 単位）において、動画での授業や課題と確認テストで 1 科目全体が構成される e ラーニングコンテンツを作成した。最終評価での到達度は前年度までと比較しても同程度の達成度となり、学習効果があったことを確認できた。
(3) 看護系教員研修用動画	2022 年 3 月	看護系教員向けの研修動画「講義の学習指導案作成」「リアリティのある教材を活用する」「実技テストを設計する」「実技テストを評価する」「ルーブリックを作成する」「多様な学生に配慮する」（中井俊樹企画・監修）を作成し、医学書院 NEO Nursing Education
3 教育上の能力に関する大学等の評価		

(1) 学生による授業評価	2015 年 7 月 2016 年 7 月 ~ 2018 年 7 月 2020 年 7 月 2021 年 7 月 2022 年 7 月 2023 年 7 月	平成 25 年度に相山女学園大学で実施された授業アンケートでは、看護学部「母子支援看護論演習Ⅱ（母性）」ABCD クラス、EFGH クラスにおいて、総合的にみて満足であった学生は、「その通りである」が 86.5~77.1%「どちらかといえばそのとおりである」20.8~13.5%という結果であった。授業の理解のしやすさは「その通り」が 73.1~77.1%、「どちらかといえばその通り」が 22.9~26.9%となっていた。平成 27 年の授業評価でもほぼ同様の結果で、満足度の高い授業と評価された。 相山女学園大学「ピアサポート理論と実践」（非常勤）の授業アンケートの結果「総合的にみてこの科目は充実していた」で、「その通りである」63.2~54.5%「どちらかといえばその通りである」40.9~26.3%であった。 奈良学園大学保健医療学部看護学科「母性看護学概論」の授業評価アンケートで、各項目の平均点が 5 点満点中 4.41~4.79、「総合的にみて満足のいくものだった」で 4.58 であった。 奈良学園大学授業評価アンケートにおいて、保健医療学部看護学科「母性看護学概論」では各項目の平均が 5 点満点中 4.27~4.69、「総合的にみて満足のいくものだった」では 4.57 であった。「母性看護援助論演習」では各項目の平均が 4.18~4.59、「総合的にみて満足のいくものだった」では 5 点満点中 3.95(全体平均 3.93)で概ね平均的に満足しているという結果であった。この年から授業時間外学習に関する項目が加えられた。全体では約 14%が「していない」と回答していたが、この科目では、授業時間外学習をしていない学生はなかった。 奈良学園大学授業評価アンケートにおいて、保健医療学部看護学科「母性看護学概論」では「総合的にみて満足のいくものだった」では 5 点満点中 3.94 で概ね平均的に満足しているという結果であった。授業への参加の積極性は 4.50 と高く、座席をくじで決めてグループワークを行う授業形式を評価する自由記述が多く、アクティブラーニングの導入により学生の積極的受講に繋がっていると評価した。授業の要点の明確さが 4.28、授業のわかりやすさが 4.09、聞き取りやすさが 4.34 と高いのに対し、資料のわかりやすさが 3.91 と低くなっており、覚える要点は色を変えて欲しいなどの記述があり、思考を促す資料の意図が伝わっていなかったと相山女学園大学での教員の授業相互評価において授業デザインの明確さとグループワークのファシリテートで学生の主体的取り組みと学びが整理されていると評価された
(2) 授業の教員の相互評価	2015 年 12 月	
4 実務の経験を有する者についての特記事項 特記すべき事項なし		
5 その他		

(1) 修士論文指導	2018 年 4 月～ 2023 年 3 月	奈良学園大学大学院看護学研究科修士課程において、 主指導教員として修士論文の指導を行った。 [修士論文] 「肯定的な出産体験を構成する要因の解明」(2020 年 3 月修了) 「妊産婦のエンパワメントに影響を及ぼす要因」(2023 年 3 月修了)
(2) 修士論文・課題研究審査	2020 年 1 月～ 2025 年 1 月	奈良学園大学大学院看護学研究科修士課程において、 次の修士論文および CNS コースの課題研究の主査を務 めた。 [修士論文] 「助産師の災害実践能力としての準備力に関する調査 研究」 「発達に特徴のある中高生の自己効力感と未来展望の 関係」 「病院から在宅移行支援する効果的な連携のあり方」 「在宅療養者の意思決定を尊重した遺族におけるアド バンス・ケア・プランニングの意義」 [課題研究] 「トラウマ・インフォームドケアからみた急性期の状 態にある複雑で解決困難な統合失調症患者への看護師 の関わり」
(3) 奈良県看護教員継続研修 講師	2020 年 12 月	「トラウマ・インフォームドケアからみた急性期の状 態にある複雑で解決困難な統合失調症患者への看護師 の関わり」
(4) 奈良県臨地実習指導者講習会 講師	2021 年 8 月～ 2024 年 7 月	2021、2022 年度は「教育評価」(1 単位, 15 時間)の講師 を、2023 年度は「実習指導方法論」の中の[統合実習、 カンファレンス](3 時間)と[実習評価の実際](3 時間) の講師を務めた。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 (1) 看護師免許	1988 年 6 月 15 日	看護師免許取得 (登録番号第 642045 号)
(2) 助産師免許	1989 年 4 月 28 日	助産師免許取得 (登録番号第 91302 号)
(3) アドバンス助産師認証	2015 年 12 月 24 日 2021 年 12 月 20 日	日本助産評価機構アドバンス助産師認証取得 同上更新
2 特許等 該当なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 病院での看護研究指導	2015 年 4 月～ 2020 年 8 月	2000 年から担当している愛知県厚生連の 2 病院におい て、院内看護研修の一環として行われている看護研究 の研修会(クリニクラダーレベル 2 並びに 3) の講師 を務め、同対象者への看護研究の指導を行うとともに、 そのほかに院内で実施されている看護研究の指導を行 なった。(海南病院～2015 年度、稲沢厚生病院～2020 年)
(2) 思春期の健康教育講師等	2015 年 4 月～ 2025 年 1 月	ノートルダム女学院中学校 (2003 年から継続中)、奈良 県葛城市立北新庄小学校などにおいて、男女のからだ のしくみや妊娠・出産のしくみ、性行動と性感染症な ど、性と生殖に関する内容を中心に、思春期の健康教 育の講師を務めている
(3) 思春期ピアカウンセラーの養成と活動	2015 年 7 月～ 2017 年 2 月	2010 年度より、栃木県における思春期ピアカウンセラ ー養成に携わっている。2013 年度からは相山女学園大 学において、主になって思春期ピアカウンセラー養成 と活動支援を行った。

(4) ピア・サポーター養成	2023 年 2 月～ 2024 年 2 月	奈良学園大学において、大学生活への移行を支援する ピア・サポーターの養成を行っている。2023 年度前期 は、新入生の履修登録支援や学生生活での疑問などに 養成したピア・サポーターが支援する活動を支援した。		
(5) 女性やセクシュアリティへの健康支援活動	2015 年 4 月～ 2024 年 3 月	2012 年度から 2017 年度まで週末に愛知県助産師会女 性の健康なんでも相談、思春期電話相談の相談員とし ての活動を行った。2016 年 1 月からは SANE-J（日本フ ォレンジック看護学会認定性暴力被害者支援看護師） の認定を取得し、名古屋第二赤十字病院性暴力救援セ ンターで被害者支援の実践活動に携わっている。		
4 その他				
(1) 県看護協会における理事・委員会活動	2015 年 4 月～ 2018 年 6 月	2012 年度から愛知県看護協会において教育委員、2014 年度からは教育委員長、2016 年 6 月から教育委員長・ 理事として、主に県内の看護職を対象とした教育計画 の立案、研修会の企画・運営を行った。 理事としては県看護協会の運営に参画し、主に、クリニ カルラダーに沿った卒後教育の整備に携わった。		
(2) 奈良県看護学教育協議会（仮称）設立準備	2019 年 4 月～ 2021 年 3 月	2018 年 4 月から会長を務める奈良県看護師等学校教務 主任協議会（大学、短期大学、専門学校の全ての学校種 が加盟）において看護教育機関と行政機関や看護関連 団体が連携して看護教育を行うための「奈良県看護学 教育協議会（仮称）」の設立準備に携わった。		
(3) 奈良県看護学教育協議会理事・委員会活動	2021 年 4 月～ 2024 年 3 月	奈良県看護学教育協議会理事・副会長として会の運営 に携わると共に、研修委員会委員として看護学教育に 携わる看護職のための研修会の企画と運営に携わると 共に、看護教員を対象とした研究指導の講師を務めて いる。		
(4) 病院での研修会 講師	2022 年 6 月、 2023 年	奈良県大和高田市立病院において、師長、副師長及び主 任を対象とした、現任教育における職員の評価と評価 に基づく支援に関する研修会で講師を務めた。		
(5) 県看護協会における研修会講師	2024 年 11 月	奈良県看護協会周産期看護職者職能集会で講師を務め た。タイトル「女性に対する暴力予防の支援」(LoCMip® III 認証申請のための必須研修及び選択研修)		
(6) 性暴力被害者支援看護師養成講座 講師	2022 年 12 月～ 2024 年 12 月	日本福祉大学社会福祉総合研修センター主催の「性暴 力被害者支援看護師 (SANE) 養成プログラム」において、 「若者の生と性を考える」の講師を務めた。		
(7) 他大学の FD 研修会等の講師	2024 年 8 月～ 12 月	愛媛大学カリキュラム・コーディネーター養成講座（テ ーマ「カリキュラムルーブリックによって評価する」）、 岐阜聖徳学園大学看護学部 FD 研修会（テーマ「看護学 生の学びを保障する教授方法」）の講師を務めた。		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の 別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				

1. 主体的な生き方を支えるピア・カウンセリング実践マニュアル改訂新版	共著	2015 年 4 月	小学館	「ピア活動の有効性」の章を担当し、先行研究と筆者らの研究結果を踏まえて、中高生とピアカウンセラー自身へのピア活動の有効性について解説した。 B5 版全 143 頁 本人担当部分：総頁数 143 頁中 19 頁を担当 (4-1, 4-2) 高村寿子編集, 高村寿子, 江角伸吾, 堀内成子, 前田ひとみ, 渡辺純一, 安達久美子, 沼尾歩, 小川正美, 岩間薫, 遠藤明希, 高田昌代, 川崎由紀子, 井戸修一, 堀井千華子, 渡辺恵美子, 船橋悠希, 渡邊至, 篠澤侃子, 佐々木明子, 池田悦子, <u>服部律子</u>
2. セクシュアリティがわかる本	共著	2015 年 7 月	一般社団法人日本家族計画協会	避妊法、性感染症、ネゴシエーション、トピックス (月経痛、マスターベーション、性的犯罪、レイプ、リベンジポルノ、カレンシ・カノジョより友達?) を担当し、解説した。 B5 版全 57 頁 本人担当部分：総頁数 57 頁中 26 頁を担当 (5 章～7 章) 高村寿子編著, 安達久美子, <u>服部律子</u>
3. 看護教育実践シリーズ 3 授業方法の基礎	共著	2017 年 7 月	医学書院	看護学教育において、1 回の授業をどう組み立てるかや、アクティブラーニングを導入した授業の方法などについて解説した本である。第 11 章「授業時間外の学習を促す」を共著し、授業時間外の学習の重要性や課題の出し方などについて解説した。 A5 版全 184 頁 本人担当部分：総頁数 143 頁中 12 頁 (11 章) を共著者と共に担当 中井俊樹・小林忠資編, 中井俊樹, 小林忠資, 清水栄子, 内藤佐知子, 根岸千悠, 根本淳子, <u>服部律子</u>, 森千鶴
4. 看護教育実践シリーズ 2 授業設計と教育評価	共著	2018 年 3 月	医学書院	看護教育における授業設計から、評価、授業の改善方法までを解説した本である。全体に編者として関わり、10 章「評価基準を可視化する」を担当して執筆した。担当部分では、評価基準を可視化し学生と共有することの必要性やルーブリックなどの評価指標の作成について解説した。A5 版全 184 頁 本人担当部分：編集・総ページ数 184 頁中 13 頁 (10 章) 中井俊樹・<u>服部律子</u>編, 中井俊樹, <u>服部律子</u>, 岡田聡志, 加地真弥, 小林忠資, 嶋崎和代, 高植幸子, 中島英博, 肥田武
5. 看護のための授業づくりガイド	共著	2024 年 4 月	医学書院	初めて看護学の授業を担当する教員向けに、講義、演習、実習の授業設計、授業方法、実習や演習の指導方法、評価方法などについて Q&A 方式で解説した本である。 A5 版、全 138 頁。 本人担当部分：書籍の構成の企画を共同で行い、全体の執筆を担当した (Q30 個中 22 個を単著、8 個を共著。コラム 10 個中 7 個を単著、3 個を共著)。加えて付録の動画やコンテンツの作成を担当した。 <u>服部律子</u>, 任和子

(学術論文) 1. 青年期女子のライフデザインと親準備性	共著	2015 年 3 月	梶山女学園大学看護学研究 7 巻	女性を対象としたライフデザイン教育のあり方を検討するための基礎資料を得ることを目的に、A 大学 1 年生 510 人を対象に青年期女子のライフデザインや親準備性について明らかにした。結果、約 6 割の学生は将来の職業を決めて 1 年次から準備をしており、約 8 割の者が将来結婚を、約 7 割の者が出産を考えており、その予定平均年齢はそれぞれ、26.3 歳、27.7 歳であった。また離職のタイミングとしては第 2 子出産時が最多であった。 論文掲載：pp41～49 本人担当部分：研究計画の立案から分析とまとめまでを主になって行った。 共同執筆者：服部律子，後藤宗理
2. 高校生の対人関係への認識と性に関連する悩み (査読付き論文)	共著	2018 年 9 月	日本性感染症学会誌 29 巻 1 号	高校生の日常生活での対人関係への認識と性に関連する悩み、及び性交経験者と未経験者の認識の違いを明らかにし、思春期の母性保健の向上に効果的な保健指導・性教育のありかたを検討することを目的に分析を行った。無記名式自記式質問紙調査に回答された 7,739 名を分析対象とし、その結果、約 7 割が「友達の数が多い」「今幸せ」と認識し、9 割が「今の家族の中で育って良かった」と認識していた。性交経験者は 5.3%であり、未経験者に比べて「今幸せ」「今の家族の中で育って良かった」と回答した者が有意に多い一方で、「一人ぼっちとを感じる」と回答した者も有意に多かった。思春期は自立し社会に巣立つ準備期であり、自己肯定感を高めつつ、他人との関係性・コミュニケーション能力を高める教育が必要であることが示唆された。 論文掲載：pp43-52 本人担当部分：研究計画立案、調査票作成、調査の実施、結果の考察を担当した。
4.Estimation of Pregnant Women Possibly Left Behind Tsunami Predicted Areas of Nagoya City A Simulation for Rescue Planning (査読付論文)	共著	2020 年 3 月	Disaster Medicine and Public Health Preparedness https://doi.org/10.1017/dmp.2019.164	機械学習と GIS(Graphic information system)を用いて愛知県名古屋市における東南海地震発生時の津波浸水域の妊婦数を算出し、河川情報なども含めて避難可能な方向性から避難した妊婦の集中する地域を推定し、医療体制整備を提案した。 論文掲載：https://doi.org/10.1017/dmp.2019.164 本人担当部分：機械学習のための分析モデルの検討、考察、論文執筆 共同執筆者：服部律子，宮川祥子，服部兼敏

5.Prevalence and Associated factors of Suicidality in Japanese Adolescents: Results from A Population-based Questionnaire Survey. (査読付論文)	共著	2020 年 10 月	BMC Pediatrics, https://doi.org/10.1186/s12887-020-02362-9	13 歳から 18 歳の 22,419 人を対象に調査を実施し、自殺傾向に関連する要因を特定するために多項ロジスティック回帰分析を行った。自殺念慮を抱いたことがある者は男子 21.6%、女子 28.5%で、家族関係に関するストレスといじめが自殺傾向と強い関連が認められた。その他関連していた要因は性別、友人との関係についてのストレス、ジェンダーアイデンティティなどであった。相談に活用されるリソースで最も多かったものはインターネットであった。 DOI: https://doi.org/10.1186/s12887-020-02362-9 本人担当部分:研究の計画、質問票の作成、データ収集、結果の考察 共同執筆者: NAGAMITSU S., MIMAKI M., KOYANAGI K., TOKITA N., KOBAYASHI J., <u>HATTORI R.</u> , ISHII T., MATSUOKA M., YAMASHITA Y., YAMAGATA Z.
6. Estimation of Pregnant Women Possibly Left Behind in Tsunami Predicted Areas of Nagoya City: A Simulation for Rescue Planning, Disaster Medicine and Public Health Preparedness (査読付論文)	共著	2022 年 9 月	Disaster Medicine and Public Health Preparedness https://doi.org/10.1017/dmp.2022.189	名古屋市をモデルにして、東南海地震で津波到達予測時間までに、徒歩での避難を基本にして避難が不可能な地域に居住する妊婦の避難方法を検討するため、general-purpose geographic information system を用い、道路中心線で算出された避難距離を用いて実際の避難時間に近づけるとともに、小学校区単位で分析を行った。その結果、今回のシミュレーションモデルで小学校区単位での避難リスクが判定できる事が明らかになった。しかし、建物の分布に差がある地域ではリスクが高く評価されることが示唆された。 DOI: https://doi.org/10.1017/dmp.2022.189 本人担当部分: 研究の計画、分析のためのデータの選択、結果の考察
(その他) -報告書- 1. より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究	共著	2016 年 3 月	公益社団法人日本助産師会 平成 27 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業報告書	厚生労働省の補助金を得て産後ケアの実態について調査し、今後のあり方について提言した。 論文掲載: pp59~90 本人担当部分: 「有床助産所ならびに病院・診療所で行っている産後ケアならびに産後ケア事業に係わる実地調査」を分担研究し、その結果を主になってまとめた。 共著者: 島田真理恵, 佐藤香, 安達久美子, 稲田千晴, <u>服部律子</u> , 葛西圭子, 相良有紀, 市川香織, 國分真佐代

2. 本学看護学部におけるクリッカー導入の評価	共著	2016 年 3 月	相山女学園大学看護学研究 8 巻	アクティブラーニングの一貫として新たに導入したクリッカーの効果について、学生の質問紙調査とグループインタビューの結果から分析した。その結果クリッカーの使用による「ライブ感」が学生の授業への積極的参加を促している、他学生との類似点や相違点を見出したことが学習への動機づけとなっているという効果が明らかとなった。 論文掲載：pp47～55 本人担当部分：評価の計画、データ収集、分析、まとめの全般を主になって実施した。共著者：服部律子, 和田貴子, 佐原弘子, 竹井留美, 又吉忍, 後藤宗理
3. 健やか親子 21(第 2 次)を推進するための思春期の母性保健の向上を目的とした効果的な保健指導のあり方についての調査研究	共著	2017 年 3 月	厚生労働省平成 28 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業報告書	厚生労働省の補助金を得て、思春期の母性保健の向上を目的とした効果的な保健指導のあり方について提言し、研究結果に基づき保健指導媒体として「Adolescence わからないことがここにある」を作成した。 本人担当部分：研究計画、調査用紙の作成、4 校におけるデータ収集、考察を共に担当し、「性の自己受容(多様性)・gender identity に対する保健指導」について文献レビューを行った(pp127-129 に掲載)。保健指導媒体では、「からだの性、こころの性 ～これって変?～(p18)を執筆した。 共著者：永光信一郎、安達久美子、石井隆大、内山有子、岡明、岡永真由美、葛西圭子、片岡弥恵子、川名敬、熊谷智子、小林順子、小柳憲司、齋藤伸治、鵜田夏子、永山美千子、二宮啓子、野々山未希子、服部律子、松岡美智子、松寄く

4. チームビルディングを基盤とした全学合同新入生研修の試み	共著	2023 年 3 月	奈良学園大学紀要第 15 集	2022 年度に初めて全学合同で実施した新入生研修の企画や運営のプロセスと実施後の評価について報告した。実施後の学生へのアンケートに自由記述で回答された内容をテキスト・マイニングにより分析した結果、他学科の学生と一緒にチームビルディングを基盤とした謎解きゲームに取り組んだことで、新入生は「楽しい」体験とともに 4 年間で頑張ろうという気持ちになっていることが生じていることが明らかとなり、チームビルディングを基盤とした新入生研修はその目的を達成し、効果があったことが明らかとなった。 本人担当部分：研修の企画、運営を統括して行い、アンケート結果の分析と紀要への報告の執筆を担当した。 共同執筆者：服部律子、松岡克典、阿波邦彦、安東雅訓、川端咲子、松浦尚子、荻布優子、嶋田理博、高橋寿奈、坪内善仁、辻井直幸
5. カリキュラム改正に伴う本学保健医療学部看護学科の新カリキュラム構築のプロセス	共著	2023 年 3 月	奈良学園大学紀要第 15 集	カリキュラム改正に伴い、3 ポリシーの見直しからはじめ、新しいカリキュラム構築に取り組んだプロセスをまとめ、報告した。 本人担当部分：カリキュラム構築のプロセスを主になって進め、紀要への執筆を担当した。 共同執筆者：服部律子、吉村雅世、西菌貞子、三浦康代、嶋田理博、小林由里、佐藤郁代、西出順子、溝口みちる
6. 初年次学生の学習への動機づけを目的とした地域住民との交流の試み	共著	2025 年 3 月	奈良学園大学紀要第 17 集	看護学科において 2 年次での学生の学習への意欲が低下している現状から、その対応策として、1 年次終了時点で 2 年次に向けての目標を考える機会として、令和 4 年度に開催した地域住民向けの「健康フェスティバル」について報告した。 実施後のアンケートから学生たちにとっては、地域住民との交流から楽しさや喜びを感じ、学生同士ではない実践からの学びになったり、自己の成長を実感する機会などになったりしており、主体的な学びを誘発する一助となっていることが示唆された。また、教員にとっても学生を理解する機会となっていたことが示され、この取り組みが一定の効果をもたらしていることが確認された。 論文掲載：pp295-299 共同執筆者：服部律子、吉村雅世 本人担当部分：実施後評価の計画、アンケートの実施、データ分析、まとめを担当した。また、健康フェスティバルの企画と運営にも携わった。
-講演- 1. 母と子のメンタルヘルスのために助産師ができること、助産師がすべきこと	単独	2016 年 5 月	第 2 回母と子のメンタルヘルスフォーラム(於名古屋市)	青年期の親準備性形成に関する研究成果と、前年度に取り組んだ「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」の結果から、そして現代の若者の特徴などから、親となる人々の特性を理解し、妊娠中から子育て期までを包括したケアのあり方について概観し発表した。

2. 母と子のメンタルヘルスのために助産師ができること、助産師がすべきこと	単独	2016 年 10 月	第 57 回日本母性衛生学会総会・学術集会教育講演 (於東京)	平成 27 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「より効果的な妊娠出産包括支援事業としての産後ケアのあり方に関する研究」成果を基に、産後の母親の特徴を解説するとともに、親準備性研究の成果に基づいて妊娠前から子育て期までの継続的で包括した支援の必要性について講演した。
3. 子育て支援と社会資源の活用	単独	2016 年 11 月	平成 28 年度奈良県アウトリーチ型子育て支援モデル事業子育て支援者研修会	親準備性研究や産後ケアのあり方に関する研究での結果を踏まえ、子育て支援の対象の特性について解説し、子育て支援者に求められる姿勢などについて講演した。
4. 妊娠期からの包括支援に向けて～対象を理解する～	単独	2018 年 2 月	平成 29 年度葛城地区保健衛生担当課長会保健師部会全体研修会	子ども虐待防止に向け、妊娠期からのリスクの早期発見や予防のための寄り添いや支援のあり方について講演した。
5. 子どもたちの生きる力を支える性教育	単独	2019 年 10 月	京都府私立中学高等学校教育研究大会	厚生労働省平成 28 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業の調査で明らかになった結果、近年の若者の特性などを踏まえ、エンパワーメントやライフスキル教育の視点から中高生への性教育のあり方に
—学会発表— 1. 助産所・病院・診療所で行われている産後ケアの実態	共同	2016 年 10 月	第 75 回日本公衆衛生学会総会 (於大阪市)	わが国における産後ケアのあり方を検討するための基礎資料として、助産所、病院、診療所計 9 施設において、インタビュー調査を行った。結果、母親が育児技術を獲得し、自信をもって家庭生活へのスタートが切れるよう支援することが求められていた。また、産後ケア施設を提供するためには経済面、感染対策と癒しの空間の確保など施設面での課題があることが明らかとなった。 共同発表者：市川香織，服部律子，國分真佐代，稲田千晴，相良有紀，島田真理恵
2. Baseline survey with the purpose of developing adolescent peer activities related to reconstruction support in the wake of the Great East Japan Earthquake: For developing peer activities designed to support the ability to lead active lives in affected areas	共同	2017 年 8 月	The 21 st International Epidemiological Association (大宮市)	南相馬市における中学生へのピアサポートの実施に向けた中学生対象のベースライン調査の結果を報告した。将来の夢をもっていない群はもっている群に比べて自尊感情が低く、自分自身の心身への関心が低いことが明らかとなり、自尊感情を高める取り組みであるピアサポート活動の必要性が示唆された。 共同発表者：Hattori R, Takamura H, Nakamura
3. Prevalence and prediction of suicide ideation in Japanese adolescents: result from a population-based questionnaire survey	共同	2017 年 1 月	American Academy of Child and Adolescent Psychiatry (Washington DC, USA)	全国の各地方に在住する中高生を対象に心身の健康状態について調査した結果から、希死念慮を抱く割合と自殺率を中心に精神健康状態に焦点をあてて報告した。 共同発表者:Nagamitsu S, Mimaki M, Koyanagi K, Tokita N, Kobayashi Y, Hattori R, Yamashita Y, Yamagata Z, Igarashi T

4. 健やか親子 21 (第 2 次) : 思春期の保健課題の克服—中高生 2 万人のアンケート調査から	共同	2017 年 8 月	日本思春期学会第 36 回学術集会	全国の各地方に在住する中高生を対象に健やか親子 21 (第 2 次) に盛り込まれている思春期の保健課題を中心に調査した結果の概要を報告した。 共同発表者: 永光信一郎、三牧正和、 <u>服部律子</u> 、小柳憲司、鴛田夏子、小林順子、五十嵐隆
5. 産婦の肯定的な出産体験を構成する要素	共同	2021 年 3 月	日本助産学会第 35 回学術集会	肯定的な出産体験を構成する要素を明らかにすることを目的に、12 名の褥婦を対象に半構造化面接を実施し、質的記述的に分析した結果、【基本的欲求が満たされたことによる満足感】【出産へのコントロール感を持てたことによる出産体験の受容】【自身の行動を肯定的に自己評価したことによる自尊心の高まり】【元気な我が子が誕生したことによる喜び】の 4 つのカテゴリーが抽出された。 共同発表者: 堀井有紗、美甘祥子、 <u>服部律子</u>
6. 妊婦のエンパワメントを促す要因の検討	共同	2023 年 10 月	日本助産学会第 37 回学術集会	妊産婦へのメンタルヘルスケアのあり方を検討するため質的記述的研究により妊婦のエンパワメントを促す要因を明らかにした研究である。12 名の褥婦に半構造化面接を実施し、質的記述的に分析した結果、34 のコードから【尊重された体験】、【夫との良好なパートナーシップ】、【同じ境遇の人と不安や辛さを共感・共有できた体験】、【身近な人の様子を見て獲得した自己の妊娠・出産・子育ての見通し】、【社会的に対等な立場を取り戻せた実感】という 5 つのカテゴリーが抽出された。 共同発表者: 古井あゆみ、 <u>服部律子</u>
7. 看護専門学校の教員が抱く仕事上の困難感	共同	2024 年 8 月	日本看護教育学会第 34 回学術集会	専門学校に勤務する看護教員が抱いている仕事上の困難感の要因とそれに影響する因子を明らかにすることを目的に、25 校の常勤の看護教員 309 人を対象として無記名自記式質問紙を用いた質問紙調査を実施した。因子分析の結果、困難感の要因として「仕事上の教員としての役割」「上長、同僚との人間関係」「実習施設との関係」が、困難感の原因として「上長、同僚との関係」「教員としての経験や能力の不足」「仕事のプレッシャー」「教員としての経験や能力の不足」の因子が抽出され、心理的安全性と「上長、同僚との人間関係」との間に有意な相関が認められた。看護師としての実務経験年数と困難感に関係はなかった。 共同発表者: 松浦尚子、 <u>服部律子</u> 、森西弘、大沼住江
—その他— 1. 周産期のメンタルヘルスの動向と助産師に求められるかかわり	単著	2017 年 4 月	医学書院「助産雑誌」	周産期のメンタルヘルスケアについて、施策の動向、筆者が取り組んできた今までの研究から明らかとなった親になる人々の特性、若者研究の成果などを踏まえて、対象の理解を中心に助産師に求められる関わりについて概説した。 論文掲載: pp262～267 (特集 「周産期のメンタルヘルスのために助産師ができること、すべきこと」の中の 1 編)

2. 母性看護学の授業設計と演習・実習の進め方～母性看護学教育を取り巻く現状の把握～	単著	2019 年 1 月	日総研 「臨床助産ケア」スキルの強化」 Vol. 1, No. 1	保健師助産師看護師学校養成所指定規則や国家試験出題基準について解説し、母性看護学の講義、演習、実習で求められている教育内容について解説した。 掲載：pp95～99
3. 母性看護学の授業設計と演習・実習の進め方～「母性看護学」の授業設計 何をどのように教えるか～	単著	2019 年 3 月	日総研 「臨床助産ケア」スキルの強化」 Vol. 1, No. 2	母性看護学の講義科目の授業設計について、授業設計の意義や学習内容の配列など教育の基本を母性看護学の講義に当てはめて解説した。 掲載：pp60～64
4. 母性看護学の授業設計と演習・実習の進め方～「母性看護学」演習を計画する～	単著	2019 年 5 月	日総研 「臨床助産ケア」スキルの強化」 Vol. 1, No. 3	母性看護学で扱う演習の計画について、ARCS モデルなどを学習理論を示しながらどのように設計するかを解説した。 掲載：pp89～92
5. 母性看護学の授業設計と演習・実習の進め方～「母性看護学」演習を評価する～	単著	2019 年 7 月	日総研 「臨床助産ケア」スキルの強化」 Vol. 1, No. 4	評価の構成要素や種類の基本を解説し、演習の評価表を例示しながら母性看護学の演習をどのように評価するかについて解説した。 掲載：pp71～75
6. 母性看護学の授業設計と演習・実習の進め方～「母性看護学」臨地実習の調整と具体的な進め方～	単著	2019 年 9 月	日総研 「臨床助産ケア」スキルの強化」 Vol. 1, No. 5	臨地実習を取り巻く現状を解説し、実習開講に向けた実習施設の開拓や協力体制づくり、複数の実習施設で実習を行う場合の留意点などについて説明した。 掲載：pp67～71
7. 母性看護学の授業設計と演習・実習の進め方～「母性看護学」教育の課題と展望～	単著	2019 年 11 月	日総研 「臨床助産ケア」スキルの強化」 Vol. 1, No. 6	少子社会で看護基礎教育で母性看護学領域で求められている教育内容を考え、実習の工夫やリプロダクティブヘルス領域の教育の強化の必要性などについて述べた。
8. 学生アスリートのスポーツ事故を防止する安全教育実践について	共著	2020 年 12 月	奈良学園大学紀要 第 13 集	奈良学園大学硬式野球部を対象に実施した安全教育について、実施プログラムとその成果について報告した。 掲載：pp61～70 本人担当部分：安全教育の計画・実施と成果の評価計画、成果の分析

[注]

- 最近 10 年間の教育活動、研究活動について作成すること。
- 「教育活動」については各項目ごとに年月日順に、「学会等および社会活動」については就任年月日順に記入すること。
- 「研究活動」については、下記の点に留意すること。
 - 著書・論文及びその他の順に、発表年月日順に記入すること。
 - 著者が複数にわたる場合で、筆頭著者が著書・論文等において明示されている場合には、その氏名に◎印を付すこと。
 - 共著（論文）の場合、「該当頁数」の記入にあたっては、本人の分担箇所を特定できる場合は、その頁数を記載すること。
 - 最近 10 年間に著書・論文等の発表のなかった者についても、教員名を挙げてその部分を空欄にしておくこと。
 - 芸術分野や体育実技等の分野を担当する教員については、著書・論文等以外の競技会、展覧会または演奏会等での発表のうち、特に顕著な業績と認められるものについても記載すること。このほか、専門分野の特性を考慮し、顕著な業績と認められるものがある場合もこれに含めてもよい。

教育研究業績書

2025 年 9 月 25 日

氏名 上野栄一



研究分野	研究内容のキーワード	
基礎看護学	看護理論、看護管理、コミュニケーション、糖尿病	
精神看護学	対人関係、統合失調症、うつ病、会話分析、テキストマイニング	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 (1)シナリオ作成によるロールプレイの授業	平成 19 年 4 月～	科研で研究したコミュニケーション技法をもとにロールプレイ用のシナリオを作成し、授業に活かし学生からの高い評価を得ている。
(2)大学教育入門セミナーの開講	平成 23 年 4 月～	初年次教育（2 単位）をカリキュラムに取り込み、学生生活を有意義に過ごせるように、生活面、学習面、マナーなどの講義を取り入れ、高い評価を得た（現在、オムニバス方式で 15 コマの授業を行っている。本授業の中には、文部科学省の指定する薬害の特別講演もいれている）。
(3)双方向授業システムのクリッカーを用いた授業展開	平成 26 年 4 月～	双方向授業システム（3e Analyzer）を用いた授業を、研究での検証を行った後、高い効果を得ることができ、リスクマネジメント論などの授業で展開し、学生の高い評価を得た（学生評価で優秀教員として選ばれた）。
(4)授業後のミニッツペーパーの分析による講義の構築	平成 26 年～	毎回の授業ミニッツペーパーによる授業の理解度を確認し、次の授業に活かし、学生のモチベーションを高めている。
2 作成した教科書、教材 (1)看護診断のためのアセスメントポケットガイド（共著）	平成 12 年 7 月	「9 つの人間の反応パターン」を表した用語の定義を、各パターンごとに説明し、理論的背景は、各パターンの下位概念までの範囲で、看護理論をはじめ関連のある心理学・社会学の理論などもふまえて説明している。患者の主観的情報の聴取が、分類しやすいように一連の関連した質問で構成した。根拠に基づいた意図的な質問を、的確に表現するようなガイドラインとなっている。臨床教育、看護学生に役立つ護診断のためのアセスメントポケットガイドを作成した。学部教育では、看護診断、看護過程の導入に用い、新人看護師の教育にも使用

		した。
(2)看護研究コンパクトガイド (単著)	平成 14 年 3 月	看護研究のコンパクトガイドを作成し、卒業研究の副読本として活用した。また、本書は、看護師の看護研究指導にも用いられ、高い評価を得ている。
(3) 楽しくなる看護研究	2012 年 12 月	本書は、看護診断カテゴリーに基づいて、看護婦が臨床の場で活用でき、効率的に患者情報を引き出せるように工夫した。看護研究のプロセスをもとに、研究計画書の記載方法、分析方法、結果、考察、結論の書き方までは系統に開設した学生、臨床看護師向けに解説した。
(4)臨床看護総論 第 3 版 新体系看護学全書 基礎看護学④	2019年12月	全体をとおして「臨床という場の理解」「患者（・家族）という対象者の理解」に焦点をあてている。また、地域で健康に暮らしていた人（生活者）がそれまでの日常とはまったく異なる患者としての生活を送るということが、その人とその家族にとってどのような経験なのかを理解し、看護への活かしかたを学べる。 (担当) 第 2 章 臨床看護の場 (著者) 宮脇美保子、八木彌生、上野栄一、宮林郁子、桑田恵子、大釜徳政
(5) 看護診断の看護過程ガイド	2022 年 8 月 10 日	看護過程についてドードンの 11 の機能的健康パターンに基づく看護過程のプロセスについて事例を中心に解説した書であり、学生から看護師まで学ぶことのできる書である。 (編集) 上野栄一、西田直子 (著者) <u>上野栄一</u> 、道重文子、茅野友宣、西田直子、杉島優子、藤本ひとみ、松浦純平、内田宏美、本田裕美、上澤悦子、任和子、長光代、濱野陽子
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
(1) 福井大学個人評価	平成 14 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日	3 年ごとの教員評価にて常に上位 0 の評価を受けている。
(2) 福井大学学生評価優秀教員	平成 25 年度	福井大学学生授業評価において「リスクマネジメント論」の講義について優秀教員に選ばれた。
(3) 福井大学学生評価優秀教員	平成 29 年度	福井大学学生授業評価において「リスクマネジメント論」の講義について優秀教員に選ばれた。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 第 10 回分子糖尿病学シンポジウム 企画運営	平成 10 年	富山医科薬科大学 <u>上野栄一</u>

2)富山県糖尿病懇話会	平成 19 年	富山医科薬科大学 <u>上野栄一</u>
3)平成 16 年度第 1 回内容分析研究会	2004 年 5 月	<u>上野栄一</u> ，横田恵子
4)コンピュータと言葉・意味解析	平成 16 年度第 2 回内容分析研究会，	<u>上野栄一</u> ，横田恵子
5)富山市民病院院内研修会	2004 年 5 月 富山市民病院看護研究貢献	<u>上野栄一</u>
6)富山医科薬科大学基礎看護学教室実践看護研究研修会	2004 年 6 月	看護研究・プレゼンテーション <u>上野栄一</u>
7)平成 30 年超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）看護セミナー	平成 29 年 11 月	文部科学省 地域で暮らすがん患者への支援（村山正子氏）の企画： <u>上野栄一</u>
8)平成 30 年超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）看護セミナー	平成 30 年 11 月	文部科学省 がんプロ公開講座「地域で暮らすがん患者への支援」（片山寛治）の企画： <u>上野栄一</u>
9)令和元年度文部科学省「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」がんプロフェッショナル養成プラン（がんプロ）	令和 1 年 11 月	文部科学省 がんプロ公開講座の実施「患者のニーズに沿った寄り添う看護」（田端恭平）の企画： <u>上野栄一</u>
10)令和 2 年度文部科学省「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」がんプロフェッショナル養成プラン（がんプロ）	令和 2 年 10 月	文部科学省 がんプロ公開講座の実施「地域でのがん患者への支援」（日本がん看護学会理事長：小松浩子）の企画： <u>上野栄一</u>
11)中小規模病院における看護研究活動の教育と発表達成への取り組みについて	2023 年 3 月	第 36 回日本看護研究学会近畿・北陸地方会 学術集会交流集会 1：京都テレッサ <u>上野栄一</u> 、濱野陽子
5 その他 (1)文部科学省北陸がんプロフェッショナル養成プラン（がんプロ）講義（動画）資料作成	平成 30 年 4 月	「がん患者と家族」、「がん患者へのコミュニケーション」（北陸がんプロ教育課程の受講生に対するビデオ作成）
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要

1 資格, 免許 中学校教諭一級普通免許状 高等学校教諭二級普通免許状 (社会科) 文学士 (奈良大学文学部地理学科) 測量士補 (建設省国土地理院) 看護師免許	昭和 54 年 3 月 20 日 昭和 54 年 3 月 20 日 昭和 54 年 3 月 30 日 昭和 54 年 9 月 25 日 昭和 60 年 5 月 4 日	登録番号 563 号 登録番号第 571 号 登録番号文第 1320 登録番号第 S54-805 番号第 5989 号
救命救急士 医学博士	平成 5 年 11 月 12 日 平成 14 年 4 月 10 日	登録番号 第 05163 号 富山医科薬科大学医学博士 医乙第三二六号 [論文タイトル] Potential Role of Gab1 and Phospholipase C- γ in Osmotic Shock-Induced Glucose Uptake in 3T3-L1 Adipocytes
2 特許等 英検 2 級	 昭和51年	 奈
3 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 福井大学医学誌 編集委員 日本国有鉄道金沢鉄道管理局勤務	平成 14 年 4 月 1 日～現在に至る 1 年 2 ケ月の勤務	大学紀要の編集担当委員 (平成 15 年 3 月 31 日) 日本国有鉄道における乗客への安全面に関する業務
4 その他 (1) コミュニケーション技法が人間の感情に与える影響—主観的評価と客観的評価について— (2) 福井市における糖尿病予備群と健診者への糖尿病教育支援の効果検証と学生への教育支援 COVID-19 感染症拡大の状況下での精神看護学実習における看護学生の学びの実態	平成 17 年 4 月 1 日～平成 18 年 3 月 31 日 平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 30 年 3 月 31 日 令和 4 年 5 月 13 日	富山第一銀行奨学財団からの奨学金を受け、コミュニケーション技法が人間の感情に与える影響について採択され、主観的評価と客観的評価についての研究を行った。 福井大学と福井市が共同で糖尿病予防支援を行い、健診者や市民に糖尿病予防の啓蒙活動を行った。 奈良学園大学保健医療学部共同研究費助成報告書 (共同研究) 報告日 申請者: 山崎睦代

調査				共同研究者：西出順子、高田勝子、上野栄一
[報道] 社会貢献・国際交流活動情報 1. 安心医療寸劇で紹介 福井 看護の日大会に 600 人 毎日新聞, 日刊県民福井 2. パネル討論看護大会 福井県協会 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」		平成 19 年 5 月 12 日 平成 19 年 5 月 12 日 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月		看護の日のイベントにおける看護の紹介 福井新聞：看護の日のイベントにおいて、高校生を対象とした講演会の講師を務めた。 福井市保健センターと共同企画して、糖尿病予備軍の実態調査をした。
4. 平成 29 年度「地（知）の拠点整備事業：福井市における糖尿病予備群と健診者への糖尿病教育支援の効果検証と学生への教育支援」糖尿病予備軍への講演会：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構国立大学教育研究評価委員会専門委員		平成 28 年 10 月 令和 2 年 2 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日		福井市保健センターと共同企画して、約 100 名の市民に対し食事会と講演会を実施し食事指導を栄養士も招いて実施した、また、対象者に生活習慣の判定結果をフィードバックした。 令和 2 年 2 月 1 日 発布 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構 長：福田秀樹 評価事業部 評価企画課法人評価係
富山医科薬科大学リカレント教育，富山県糖尿病ナース養成講習会		2004 年 3 月		<u>上野栄一</u> ：富山医科薬科大学基礎看護学教室，平成 16 年度看護ケアを考える会，対人関係講義
富山県糖尿病ナース養成講習会：事例研究		2004 年 3 月		講義. 富山医科薬科大学リカレント教育，富山県糖尿病ナース養成講習会 <u>上野栄一</u>
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概要

(著書) 1. 対人関係（コミュニケーション）の技術：ナースのための糖尿病療養指導テキスト	共著	平成 13 年 3 月	南江堂、P. 245-254	糖尿病患者への指導として、コミュニケーションの観点から解説をした。 効果的なコミュニケーションには受容、認知、自己開示、焦点化、明確化、要約化などがあり、非効果的なコミュニケーション技法には、安易な励まし、保証、審問、感情の軽視などが、あり看護者はこれらの技法を使い分けることが看護する上で重要である。この章では、糖尿病患者への効果的なコミュニケーション技術の方法について述べた。 担当部分：第 25 章「対人関係（コミュニケーション）の技術」執筆 共著者：小林 正、浦風 雅春、明満 喜子、笹岡 利安、春田 哲郎、吉田 百合子、佐藤 啓、大角 誠治、中村 典雄、山崎 勝也、藤川 真理子、平井 康子、<u>上野 栄一</u>、高間 静子
2. セルフケア理論にもとづく評価と援助：ナースのための糖尿病療養指導テキスト	共著	平成 13 年 3 月	南江堂、P. 216-224	糖尿病患者への看護で重要なことは患者のセルフケア能力を高めることである。セルフケアを高めることの前提には、自己効力をあげることが必要となる。セルフケア理論には、オレムのセルフケア理論がある。この理論は、「セルフケア理論」、「セルフケア不足の理論」、「看護システム理論」がある。糖尿病患者への評価項目とし

3. 看護研究ポケットガイド	単著	平成 14 年 3 月	医学書院	ては、生活習慣の評価、糖尿病に関する認知レベルの評価、身体症状の評価、精神・心理面の評価、ソーシャルサポートの評価、行動レベル評価、医療従事者からの説明の評価があげられる。この章では、セルフケアを認知レベルから行動レベルまでを視野に入れて患者のモチベーションのみならず自己効力をも視野に入れた評価、援助について詳細に説明した。 担当部分：第 18 章「セルフケア理論にもとづく評価と援助」執筆 [著者名]小林 正、浦風 雅春、明満 喜子、笹岡 利安、春田 哲郎、吉田 百合子、佐藤 啓、大角 誠治、中村 典雄、山崎 勝也、藤川 真理子、平井 康子、<u>上野 栄一</u>、高間 静子 看護職及び学生、研究職を対象にしたコンパクトな看護研究のポケットガイドを作成した。看護研究の取り組み方を豊富な図表を用いて、研究題材の決定から統計処理の方法（パラメトリック検定、ノンパラメトリック検定、相関検定、t 検定、分散分析、カイ二乗検定、多重比較、因子分析、判別分析等）、図表の書き方、プレゼンテーションの方法について解説し、さらに論文を仕上げるまでのプロセスにそって看護研究のプロセスを平易に解説した。また、巻末には豊富な統計処理の実例を示し、さらには看護研究の理解を助けるようにスクリープロット図、チャート図、箱ひげ図等の特殊なグラフを紹介し解説をした。
4. 平成 19 年教科別看護師国家試験対策問題集	共著	平成 18 年 7 月	メディカ出版	本人担当部分：編集と総括 最新国家試験問題をすべての領域から解答・解説とともに要点をまとめた。本書では、基礎看護学を担当した。さらに過去 6 年間の国家試験問題を徹底分析した予想問題について、新出題基準に対応した問題集を作成した。
5. 教育と臨床のギャップー知識, 技術, 態度の課題①	共著	平成 19 年 3 月	看護の科学社	担当部分：基礎看護学 [著者名]<u>上野 栄一</u>、長谷川 智子、上原 佳子、上木礼子、佐々木 百恵 学校教育と臨床でのギャップがなぜ、起こるかについて学校教育のカリキュラムと臨床での学びの観点から解説をするとともに、その課題を明確に解説した。 [著者名] <u>上野 栄一</u>、松村 愛都

6. 教育と臨床のギャップ知識, 技術, 態度の課題②	共著	平成 19 年 4 月	看護実践の科学 32(4), 92-96	学校教育と臨床でのギャップに対する対応について、知識・技術、態度の観点からその具体的な対応方法について解説した。 [著者名] <u>上野 栄一</u> , 松村 愛都
7. 平成 20 年教科別看護師国家試験対策問題集	共著	平成 20 年 8 月	メディカ出版	最新国家試験問題をすべての領域から解答・解説とともに要点をまとめた。本書では、基礎看護学を担当した。さらに過去 6 年間の国家試験問題を徹底分析した予想問題について、新出題基準に対応した問を作成した。 [著者名]上原 佳子, <u>上野 栄一</u> , 長谷川 智子, 上木 礼子, 佐々木 百恵 執筆、編集 基礎看護学
8. 平成 21 年教科別看護師国家試験対策問題集	共著	平成 20 年 12 月	メディカ出版	最新国家試験問題をすべての領域から解答・解説とともに要点をまとめた。本書では、基礎看護学を担当した。さらに過去 6 年間の国家試験問題を徹底分析した予想問題について、新出題基準に対応した問題集を作成した。 [著者名]上原 佳子, <u>上野 栄一</u> , 長谷川 智子, 上木 礼子, 佐々木 百恵 執筆、編集 基礎看護学
9. エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図	共著	平成 20 年 12 月	中央法規	精神看護における代表的な症状について、解説した。特に臨床や実習で遭遇する疾患・症状について、その誘因・原因から病態生理学的変化、看護ケアまでを図式化した便利な関連図ガイドを作成し、看護過程の展開にも有用な書籍とした。観察のポイントや看護ケアの介入時期を詳細に記載し、臨地実習にも、役立つ内容とした。 [著者名]浅沼瞳, 石川 幸代, 石川 康博, 一ノ山 隆司, 伊藤 桂子, 猪股 健一, <u>上野 栄一</u> , 宇都宮 智, 大迫 哲也, 大迫 充江, 北野 進, 小西 奈美, 下里 誠二, 高岡 裕美, 高橋 寛光, 高間 さとみ, 瀧口 宗宏, 田中 留伊, 土谷 朋子, 福山 なおみ, 藤森 里美, 舟崎 紀代子, 松本 賢哉, 明神 一浩, 村上 満, 森 千鶴, 山田 洋 (担当) 自己実現
10. 新 2010 年教科別看護師国家試験対策問題集		平成 21 年 7 月	MC メディカ出版	最新国家試験問題をすべての領域から解答・解説とともに要点をまとめた。本書では、基礎看護学を担当した。さらに過去 6 年間の国家試験問題を徹底分析した予想問題について、新出題基準に対応した問題集を作成した。(共著者) 上原 佳子, <u>上野 栄一</u> , 長谷川 智子, 佐々木 百恵, 吉田 華奈恵 (担当部分) 基礎看護学分野

11. 看護管理用語集 第 3 版	共著	2016. 7 第 2 版	日本看護管理学会	日本看護管理学会学術活動推進委員会編集 日本看護管理学会， (著者) 共著 草刈淳子、石垣恭子、中村恵子、上野栄一、叶谷由佳、中村綾子、ほか
12. 日本看護管理学会 臨床看護の場 Ⅲ 患者にとっての 在宅	共著	令和 1 年 2 月	メヂカルフレンド社	臨床看護学総論 (第 3 版) 宮脇美保子編 (共著者) 宮脇美保子、 <u>上野栄一</u> ほか、メヂカルフレンド社
(学術論文) 1. 看護婦の職務満足度への影響因子の追求	共著	平成 6 年 9 月	第 3 回日中看護学術会議論文集 Vol13, P.110-P.117	公立病院に勤務する看護婦 91 名、婦長 29 名を対象に、職務満足度調査用紙日本版 (尾崎)，STAI, Pines Burnout Scale, Rosenberg の Self-Esteem Scale、Zung の Self-Rating Depression Scale を用い、職務満足度と個人の特性、身体・精神的ストレス、人間関係、就労姿勢、専門的自律度との関係、快眠度を調べた結果、これらのすべての独立変数と有意な高い相関を示した。また、看護婦の職務満足度はこれらの諸因子によって影響を受けることがわかった。 担当部分：データ入力・解析 共著者：高間 静子， <u>上野 栄一</u> ，尾崎 フサ子
2. 看護婦の職務満足度とストレスとの関係	共著	平成 6 年 12 月	富山医科薬科大学医学部看護学科紀要第 1 号：P. 11-P. 17	T 県に勤務する看護婦を対象に、職務満足度スケール、バーンアウトの尺度を用いて、看護婦の職務満足度と身体的・精神的ストレス、バーンアウト、快眠度、ストレスフルな生活、仕事中毒等との関係を調べると、ストレス、バーンアウトの高いものは満足度が低く、快眠度の高いものは満足度が高かった。ストレスフルな生活をしている者、仕事中毒の看護婦は「地位に対する満足度」が低かった。以上のことから、看護婦のストレスは職務満足度に有意に影響することがわかった。 担当部分：調査用紙の配布、データ解析、 共著者：高間 静子， <u>上野 栄一</u> ，福田 正治，湯川 倫代，塚原 節子，山田 里江，林美紀

3. 看護婦の職務満足度と対人関係との関係	共著	平成 6 年 12 月	富山医科薬科大学 医学部看護学科紀 要第 1 号：19 -27	看護婦 120 名を対象に、看護婦の職務満足度と職場および過程における人間関係の善し悪し、対人関係能力との関係を調べた。その結果、職場や家庭での人間関係の円満な群はそうでない群よりも「地位」に対する満足度が高かった。また、対人関係能力の高い群は低い群に比べ満足度が有意に高い値を示し、人間関係の善し悪しおよび対人関係能力は職務満足度に影響することがわかった。さらに、給料に対する満足度は、対人関係能力、職場の人間関係、家族関係のいずれの群にも影響受けなかったことから、職務満足度には、人間関係が重要であることが示唆された。 担当部分：論文全般 共著者： <u>上野 栄一</u> ，高間 静子，福田 正治，尾崎 フサ子，塚原 節子
4. 看護婦の就労姿勢の職務満足度への影響	共著	平成 7 年 12 月	富山医科薬科大学 医学部看護学科紀 要 2：15-22	看護婦の職務満足度と就業理由、企業帰属意識、勤労意欲、集団主義傾向等との関係をみると、生計を理由にしている群よりも生きがいを理由にしている看護婦の方が満足度が高かった。看護婦の企業帰属意識、勤労意欲、集団主義等と職務満足度とは高い相関関係を示した。 担当部分：データ解析、抄録作成 共著者：高間静子，田中いずみ，川西千恵美， <u>上野栄一</u> ，塚原節子
5. 看護婦のストレス対処行動と職務満足度との関係	共著	平成 7 年 12 月	富山医科薬科大学 医学部看護学科紀 要 2：P. 7- P. 13	看護婦の職務満足度とストレス対処行動との関係について調べた。効果的に対処行動群は「給与」「看護管理」等に対する満足度が高く、婦長群ではみられなかったが看護婦群ではみられた。看護婦経験年数から対処行動との関係をみると経験年数 5 年以上の群では「給与」に対する満足度は対処行動のよい群のほうが有意に高い値を示した。 担当部分：論文全般 共著者： <u>上野 栄一</u> ，福田 正治，高間 静子，得地 晃二，藤永 重美
6. 看護婦の行動パターン別にみたバーンアウトと職務満足度との関係	共著	平成 7 年 12 月	富山医科薬科大学 医学部看護学科紀 要 2：P. 23- P. 30	看護婦の行動パターン別（タイプ A とタイプ B）に、バーンアウトと職務満足度との関係を調べた。Pines バーンアウトの徴候ではタイプ A の看護婦群はタイプ B 群よりも高い満足度を示した。タイプ A 群では Staff Burnout と「医師-看護婦関係」「看護婦間の相互作用」等の人間関係に対する満足度との間に負の相関を示し、タイプ B 群では「自律度」「看護婦間の相互作用」等との間に正の相関を示した。さらに、Maslach Burnout Scale の下位概念の「自己成就」「地位」に対する満足度との間に、タイプ A では正の、タイプ B 群では負の相関を示した。 担当部分：論文全般

7. 看護婦の自己実現傾向，達成動機，独自性欲求等の職務満足度への影響	共著	平成 7 年 12 月	富山医科薬科大学 医学部看護学科紀 要 2：31-37	共著者：<u>上野 栄一</u>，高間 静子，塚原 節子，福田 正治 看護婦の自己実現傾向，達成動機，独自性欲求等の職務満足度への影響について調べた。その結果，看護婦の自己実現傾向と「地位」や「看護婦間の相互関係」等に対する満足度とは有意な相関を示した。また，看護婦の独自性欲求と「給与」「看護管理」「自律度」「看護婦間の相互作用」に対する満足度とは有意な負の相関を示した。さらに達成動機を自己充實的達成動機と競争的達成動機とに分けて職務満足度との関係をみると，「地位」「看護婦間の相互作用」等に対する満足度と自己充實的達成動機との間には高い正の相関があり，競争的達成動機との間には負の相関があった。 担当部分：データ解析 共著者：高間 静子，塚原 節子，福田 正治，湯川 倫代，<u>上野 栄一</u>
8. 看護婦の専門的自律に関する研究 その 1-就労姿勢の専門的自律度への影響-	共著	平成 8 年 5 月	富山医科薬科大学 医学会誌 9(1)， 55-60	富山県下の看護婦 161 名を対象に就労姿勢の専門的自律への影響について調べた結果，生きがいを理由にしている看護婦は，生計を理由にしている群よりも専門的自律度（PNQ）が高かった。また，モチベーターモラルについての勤労意欲の高い看護婦は専門的自律度が高かった。職階別にみると，企業帰属意識の下位概念の「組織の目標・規範・価値観」の高い婦長は専門的自律度が高かった。 担当部分：データ解析 共著者：高間 静子，川西 千恵美，塚原 節子，福田 正治，<u>上野 栄一</u>
9. 看護婦の専門的自律に関する研究 その 2-達成動機の専門的自律度への影響-	共著	平成 8 年 5 月	富山医科薬科大学 医学会誌 9(1)， 61-65	富山県に在住する看護婦を対象に，看護婦の達成動機が専門的自律度に影響しているかについて調査した。看護婦の専門的自律度（PNQ）の高い看護婦は自己充實的達成動機が高い。職階別にみると，患者の権利に関する専門的自律度（PNQ2）の高い婦長は自己充實的および競争的達成動機のいずれもが高かった。婚姻別にみると，自己充實的達成動機の高い未婚群はPNQ2，3 およびPNQ合計が高い。また，自己充實的達成動機の高い既婚群はPNQ2 が高かった。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者：塚原節子，高間静子，川西千恵美，<u>上野栄一</u>

10. 看護婦の勤労意欲に関する研究 - 就労姿勢の勤労意欲への影響,	共著	平成 8 年 6 月	富山医科薬科大学 看護学科紀要 3, 1-7	富山県に在住する看護婦を対象に、看護婦の勤労意欲への就業理由、企業帰属意識、達成動機、集団主義等の就業姿勢の影響について調べた。仕事を生きがいにしている者は生計を理由にしている者よりも勤労意欲が高く、また、企業帰属意識の下位概念の「目標・規範・価値観」と勤労意欲のモチベーターモラル以外のすべての項目に対する勤労意欲も高かった。またモチベーターモラルの高い看護婦は自己充實的達成動機が高かった。さらに、集団主義傾向の強い看護婦はコミュニケーションに関する勤労意欲が高かった。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者：湯川 倫代、高間 静子、塚原 節子、 <u>上野 栄一</u> 、福田 正治、田中 三千雄
11. 看護婦の勤労意欲に関する研究 その2-ストレスの勤労意欲への影響-	共著	平成 8 年 6 月	富山医科薬科大学 看護学科紀要 3, 9-13	富山県に在住する看護婦を対象に、ストレスの勤労意欲に与える影響について調べた。その結果、ストレスの少ない看護婦は慢性的ストレスのある看護婦よりもチームワーク、メンタルハイジーン等についての勤労意欲が高かった。また、経験年数 5 年以上の看護婦において、効果的対処行動のできる群は非効果的対処行動群よりもハイジーンモラルについての勤労意欲が高かった。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者： <u>上野 栄一</u> 、塚原 節子、福田 正治、落合 宏、高間 静子
12. 看護婦の勤労意欲に関する研究 その2-仕事中毒の勤労意欲への影響-	共著	平成 8 年 6 月	富山医科薬科大学 看護学科紀要 3, 15-19	仕事中毒傾向の高い婦長は低い婦長よりもチームワークに関する勤労意欲が高かった。また、経験年数 5 年以上の仕事中毒傾向の高い看護婦は、仕事中毒傾向の低い群に比べ、モチベーターモラル、チームワーク、会合評価等の勤労意欲が高かった。これらの結果は未婚者には見られなかったが、仕事中毒傾向の強い既婚者にも見られた。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者：塚原 節子、 <u>上野 栄一</u> 、福田 正治、落合 宏、高間 静子
13. 看護婦の価値観の職務満足度への影響	共著	平成 8 年 6 月	富山医科薬科大学 看護学科紀要 3, 21-27	看護婦 171 名に価値観の職務満足度への影響を調べた結果、博愛的、道徳的、多彩的人生観の傾向の強い看護婦は、「看護業務」についての満足度が低かった。努力的人生観の傾向の強い看護婦は「自律度」についての満足度が高かった。以上のことから、看護婦の価値観が職務満足度に影響していることが示唆された。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者：高間 静子、塚原 節子、 <u>上野 栄一</u> 、福田 正治、田中 三千雄

14. セミクリーンルーム入室患者と多床室入室患者のうつ状態とストレスとの関係	共著	平成 8 年 10 月	臨床看護 22(11 月, 1681-1688	T 附属病院における内科病棟の患者を対象にセミクリーンルーム入室患者と多床室入室患者の精神状態について、及びうつ状態とストレスとの関係について調べた。その結果、ストレス得点が高くなると、うつ状態が有意に増え、また、セミクリーンルームの患者は多床室患者に比べて多くのストレスをかかえていることが明らかとなった。また、援助として、代理行為や訪室等の重要性があげられた。 担当部分：データ解析、論文全般 共著者：<u>上野 栄一</u>，森本 久美子，島田 葉子，境 美代子
15. 看護婦の充実感の勤労意欲への影響	共著	平成 9 年 3 月	富山医科薬科大学 医学会誌 10(1)， 64-68	富山県内の国立病院に勤務する看護婦 122 名を対象に質問紙留置法で、勤労意欲測定尺度、充実感尺度を用いて看護婦の充実感の勤労意欲への影響を検討した。その結果、(1) 看護婦群では充実感尺度の下位概念である第 4 因子（信頼-時間的展望因子）と勤労意欲の下位概念のモチベーター-モラールと業績規範との間に正の有意な相関を示した。(2) 第一因子（充実感気分因子）とハイジーンモラールでは正の有意な相関があった。(3) 第 2 因子（自立、自信因子）とモチベーター-モラールとの間には正の有意な相関があった。(4) 第 3 因子（連帯因子）とハイジーンモラール因子との間には負の有意な相関があった。以上のことから、充実感の高い看護婦は勤労意欲が高いことが判明した。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者：川西 千恵美，竹川 由希子，<u>上野 栄一</u>，高間 静子
16. 看護婦の創造的構えの勤労意欲への影響	共著	平成 9 年 3 月	富山医科薬科大学 医学会誌 10(1)， 69-74	富山県内の公立病院に働く看護婦 122 名を対象に創造的構えと勤労意欲との関係について調べた。調査測定は創造的構えテストと勤労意欲測定のための尺度を用いた。その結果、婦長群において、創造的構えの下位概念の「持久力」と勤労意欲の下位概念の「ハイジーンモラール」とのあいだには負の有意な相関があった。また、経験年数 3 年未満の看護婦群において、創造的構えの持久力と勤労意欲の「メンタルハイジーン」とのあいだには正の有意な相関があった。一方、婚姻別にみると、未婚群において、創造的構えの下位概念の「細心さ」と勤労意欲の下位概念の「チームワーク」とのあいだには負の有意な相関があった。以上のことから、看護婦の創造的構えと勤労意欲は相関することが示唆された。 担当部分：調査票集計、データ解析共著者：<u>上野 栄一</u>，安藤 素子，塚原 節子，高間 静子

17. 看護婦の社会的スキルの勤労意欲への影響	共著	平成 9 年 3 月	富山医科薬科大学 医学会誌 10(1), 59-63	富山県内の 6 つの国・公立病院に勤務する看護職を 132 名を対象に、和田らの社会的スキル尺度を用い、看護婦の社会的スキルの勤労意欲への影響を検討した。その結果、社会的スキルの下位概念の関係維持は勤労意欲の下位概念の業績規範と正の相関を示した。また、社会的スキルの自己主張は勤労意欲の会合評価、コミュニケーション、メンタルハイジーン等と正の相関を示した。婦長群においては勤労意欲のチームワークと社会的スキルの自己主張とは負の相関を示した。また、自己主張は看護婦経験 3 年未満群において勤労意欲のモチベーターモラル、メンタルハイジーンと正の相関を示した。さらに未婚群では勤労意欲のモチベーターモラル、チームワーク、業績規範等と正の相関を示した。以上のことから、看護婦の社会的スキルは勤労意欲に影響し、職階、経験年数、婚姻の違いにより勤労意欲への影響が異なることが示唆された。 担当部分：調査票集計、データ解析 共著者：高間 静子、大久保 友香子、 <u>上野 栄一</u> 、川西 千恵美
18. 病室環境におけるディストレス度測定尺度作成の開発	共著	平成 10 年 3 月	富山医科薬科大学 医学会誌 11(1), 65-68	病室環境におけるディストレス度を測定するための尺度を作成した。作成するにあたって、患者への面接調査、文献等によりディストレスとなる項目をあげ、26 項目の原案を作った。これをもとに因子分析を行ったところ 3 因子 13 項目が抽出された。妥当性の検討には不安度、快眠度テストを用いた。いずれも、ディストレス尺度と有意な相関が認められ、妥当性は支持された。また、信頼性の検討には Chronbach の α 係数を用いた。その結果、0.8 以上の値を示し、この尺度の信頼性が証明された。以上のことからこの尺度は、妥当性、信頼性ともに支持されたものであった。 担当部分：論文全般、データ解析 共著者： <u>上野 栄一</u> 、高間 静子

19. 看護婦の専門的自律度のリーダーシップへの影響	共著	平成 10 年 3 月	富山医科薬科大学看護学会誌 1(1), 23-27	富山県内の公立病院に勤務する婦長、副婦長 108 名を対象にリーダーシップ行動評定尺度, Pankratz Nursing Questionnaire (PNQ) の日本版を用い, PNQ が看護婦のリーダーシップに及ぼす影響を検討した。 その結果, 副婦長の PNQ2, 3 とリーダーシップ M 機能との間に有意な相関を示した。婚姻別にみると, 既婚群の PNQ3 と M 機能との間に, 高い相関を示した。また, 未婚群でも PNQ1 と M 行動との間にも高い相を示した。年齢別においても, 41-50 歳群において PNQ2 と P 機能との間に正の相関を示した。以上のことから, 看護婦の専門的自律度はリーダーシップ行動に影響していることが示唆された。 担当部分: 統計処理 共著者: 塚原 節子, <u>上野 栄一</u> , 高島 佐知子, 高間 静子
20. 看護婦の社会的スキルのリーダーシップ行動への影響	共著	平成 10 年 3 月	富山医科薬科大学看護学会誌 1(1), 29-33	富山県内に就労する看護職の社会的スキルのリーダーシップ行動への影響について調べた。調査対象は無作為抽出により調査をし, 有効回答の得られた婦長, 副婦長 108 名とした。測定用具には三隅らのリーダーシップ行動評定尺度, 社会的スキルの測定には和田の社会的スキル尺度を用いた。その結果, 婦長の関係維持スキル度とリーダーシップの M 機能とは高い正の相関を示した。年齢群においては 35 歳以下の群にのみ社会的スキルの関係開始のスキル度とリーダーシップの P 機能とのあいだに正の相関を示した。以上のことから看護職の社会的スキルはリーダーシップの集団維持機能に影響を与えていることが示唆された。 担当部分: 統計処理 共著者: 高間 静子, 塚原 節子, <u>上野 栄一</u>
21. Involvement of Heat Shock Protein 90 in the Degradation of Mutant Insulin Receptors by the Proteasome	共著	平成 10 年 5 月	The Journal of Biological Chemistry Vol. 273(18), 11183-11198.	タイプ A のインスリン抵抗性症候群は, 細胞表面のインスリンレセプターが減少することによって起こることが先の研究で明らかとなっているが, 今回の研究では HSP90 の役割について調べた。デルタ Ex13-IR に Asp1179 あるいは Leu1193 を付加した結果, 急激なデグラデーションの起こることがわかった。また Asp1179 あるいは Leu1193 の変異体のレセプターが Hsp90 と結合することを発見した。これらのことから Hsp90 が cytosol 内の細胞内小網からのミュータント-インスリンレセプターに関与していることが明らかとなった。 担当部分: 解析 共著者: Takeshi Imamura, Tetsuro Haruta, Yasumitsu Takata, Isao Usui, Minoru Iwata, Hajime Ishihara, Manabu Ishiki,

22. Relative involvement of Shc tyrosine 239/240 and tyrosine 317 on insulin induced mitogenic signaling in rat1 fibroblasts expressing insulin receptors	共著	平成 10 年 11 月	Biochemical and Biological Research Communications 252, 139-144	<u>Eiichi Ueno</u>, Toshiyasu Sasaoka, Masashi Kobayashi Shc はGrb2 の結合部位として、Tyr-239/240, Tyr-317 でチロシンリン酸化されるが、本研究では、インスリンで誘導された細胞分裂における Shc-239/240 と Tyr-317 の関連するかわりについて明らかにするために、Rat1 の Y317F (1F) shc, Y239/240F (2F) shc, Y239/240 /317F (3F)-shc のベクターを作成し実験した。その結果、Rat1 線維芽細胞において、Shc Tyr-317 がMAP kinase の活性化と細胞分裂に導かれる Grb2 と結合するTyr-239/240 よりも、インスリンで誘導されたチロシンリン酸化部位が多いことが明らかとなった。担当部分：解析共著者：Hajime Ishihara, Toshiyasu Sasaoka, Tsutomu Wada, Manabu Ishiki, Tetsuro Haruta, Isao Usui, Minoru Iwata, Atsuko Takano, Tatsuhito Uno, <u>Eiichi Ueno</u>, And Masashi Kobayashi
23. 看護婦の自己開示度, 孤独度の職務満足度へ影響	共著	平成 11 年 3 月	富山医科薬科大学看護学会誌第 2 号、117-126	Kobayashi富山県内に就労する看護婦 146 名を対象に、看護婦の職務満足度と自己開示度および孤独度との関係について調べた。測定用具は尾崎の職務満足度スケール、小口のオプナースケール、工藤らの孤独感尺度を用いた。その結果、婦長群の「なごませ」因子の得点は看護婦群よりも高かった。また、職務満足度の「給与」「地位」「看護管理」の因子においては、婦長群が看護婦群よりも有意に得点が高かった。自己開示度と職務満足度との関係を職階別にみると、看護婦群において、「なごませ」因子と 「看護婦間の相互作用」との間に有意な正の相関があった。経験年数別では、3 年未満の群で自己開示度合計と「地位」との間に有意な正の相関があった。 学歴別では、専修学校群において、「なごませ」因子と「地位」との間に有意な正の相関があった。婚姻別では、未婚群の自己開示度合計と「地位」との間に正の有意な相関があった。以上の結果から、看護婦の職務満足度は自己開示度、孤独度に影響することが示唆された。 担当部分：論文全般 共著者：<u>上野栄一</u>，生地洋子，塚原節子，高島佐知子，高間静子

24. 看護職のタイプA行動のリーダーシップ行動への影響	共著	平成 11 年 3 月	富山医科薬科大学看護学会誌第 2 号、127-132	本研究ではタイプA行動の看護職のリーダーシップ（P機能，M機能）への影響について調べた。調査対象は富山県内に就労する看護婦 108 名とした。対象の属性は平均年齢 43.42 才，経験年数 22.44 年，婦長 32 名，副婦長 76 名，既婚 94 名，未婚 14 名，専修学校卒 100 名，短大卒 8 名であった。測定用具は，KG式日常生活質問紙とリーダーシップ行動評定尺度（自己評定質問紙）を用いた。その結果，タイプAB行動とリーダーシップ類型とは有意に関係があった。タイプA総得点とP得点との間には 1%有意水準 $r=0.375$ の正の相関があった。さらに，タイプAの下位概念の精力的活動・時間切迫感と P 得点との間には 5%有意水準で $r=0.375$ の正の相関があった。看護婦全体の P，M 得点とタイプAとの関係について重回帰分析の結果，P機能には精力的活動，時間切迫感が影響因子となっていることが明らかとなった。また，婚姻別，学歴別に，タイプA行動がPM機能に異なる影響を与えていることが示された。 担当部分：論文全般 共著者：上野 栄一，塚原 節子，高島 佐知子，高間 静子
25. インスリンシグナル伝達における SHIP2 の役割	共著	平成 11 年 10 月	分子糖尿病学 VOL. 10、169-173	SHIP2 は Shc と結合する蛋白として同定された。SHIP の構造は N 端に SH2 ドメインが，小央に酵素活性をもつドメインが，また C 端にはプロリン・リッチな領域が存在し，PTB 結合モチーフが 2 カ所存在した。本研究ではラット骨格筋細胞より SHIP の isozyme である SHIP 2 をクローニングし，その構造とインスリンシグナル伝達における機能を解析した。ラット SHIP 2 のクローニングは，ラット骨格筋由来の CDNA ライブラリーを用いて degenerate PCR を行い，すでに発表となったヒト SHIP 2 と極めて相同性の高い CDNA 断片を得た。 この CDNA 断片をもとに RACE を行い CDNA 全長を得た。得られた CDNA はヒト SHIP 2 と 92%の相同性が認められたことより 6L ラット SHIP 2 と確認された。SHIP 2 はその 5-phosphatase 活性により PIP3 を代謝する機能を有しており，P13 キナーゼを介するインスリンの代謝作用を負に制御することが示唆される。さらに，SHIP 2 は Grb2 と競合的に Shc に結合することにより，MAP キナーゼ活性化に至るインスリンの増殖作用をも負に調節することが示唆された。これらの結果からインスリンの標的細胞では SHIP 2 が，本研究で明らかとなったことで，SHIP と同様に機能することが示唆された。 担当部分：実験、統計処理

26. Retinoblastoma Protein Phosphorylation via PI 3-Kinase and mTOR Pathway Regulates Adipocyte Differentiation	共著	平成 12 年 8 月	Biochemical and Biophysical Research Communications, Vol. 275, No. 1, pp.115-120 (doi:10.1006/bbrc.平成 12 年.3201)	共著者：石原 元、笹岡 利安、和田 努、堀宏之、平井 洋生、春田 哲郎、薄井 勲、岩田 実、宇野 立人、高野 敦子、<u>上野 栄二</u>、小林 正 本研究では、3T3-L1 細胞におけるインスリンで誘導された脂肪細胞の分化 (clonal expansion) について研究した。インスリンで誘導された clonal expansion、Rb のリン酸化と脂肪細胞の分化は、PI 3-kinase inhibitors と rapamycin によってすべて抑制されたが、MEK inhibitor では抑制されなかった。一方で、MEK inhibitor は、c-fos の誘導を減少させた。これらのことからインスリンは、PI 3-kinase を介す Rb の高リン酸化を誘導して、mTOR に依存するパスウェイを誘導するものと考えられた。このことが、3T3-L1 細胞の clonal expansion と脂肪細胞の分化を促進させていると考えられた。 担当部分：解析 共著者：Isao Usui, Tetsuro Haruta, Minoru Iwata, Atsuko Takano, Tatsuhito Uno, Junko Kawahara, <u>Eiichi Ueno</u>, Toshiyasu Sasaoka, Masashi Kobayashi
27. 最近の精神医療の動向について-過去 13 年間の文献探索から-	共著	平成 12 年 11 月	旭川医科大学フォーラム第 1 巻 (創刊号), 69-77.	過去 13 年間の文献を内容分析法により、語彙にまでタイトルを分析し、さらに名詞句を抽出し最近の精神医療の動向について内容分析を用いて分析した。その結果、「法」、「精神衛生法」、「精神保健法」の語句が上位に抽出された。これは、1987 年に「精神衛生法」から精神保健法に改正されたことに関連していることが考えられる。また、「リエゾン精神医療」「地域医療」「報道機関」「阪神淡路大震災」といった社会情勢を示す語句もみられた。これらのことから、精神医療が社会福祉と連携をとりながら綿密な再検討がなされていることが明らかとなった。 担当部分：研究企画、データ処理 共著者：山内学、<u>上野 栄一</u>

28. 精神看護学実習におけるプロセスレコードの分析	共著	平成 13 年 3 月	奈良県立医科大学 医学部看護学科紀要(1349-3884)2 巻 P. 34-39	看護系短期大学生の精神看護学実習を履修した学生のうち、患者との関わりの場면을記述したプロセスレコードが 3 場面以上記述されていた 10 名分の内容を、ヘイズとラーソンの治療的技法(25 種類)と非治療的技法(19 種類)を用いて比較分析した。実習期間は 2 週間で、精神科病棟において受け持ち患者を 1 名受け持ち、治療的関係の形成を第 1 の目的として、その関係性の上に対象への必要な援助を経験できるよう進められた。分析の結果、221 件中、治療的技法の使用は 204 件(92.3%)、非治療的技法の使用は 17 件(7.7%)であった。関係の形成に効果的な技法を多く用いており、非効果的な技法の使用は少数であったということが明らかになった。 担当部分：解析 共著者：上平 悦子， <u>上野 栄一</u>
29. Pioglitazone Ameliorates Tumor Necrosis Factor- α -Induced Insulin Receptor by a Mechanism Independent of Adipogenic Activity of Peroxisome Proliferator-Activated Receptor- γ	共著	平成 13 年 5 月	Diabetes 50: 1083-1092	.TNF- α は、肥満に関連するインスリン抵抗性の mediator の一つである。本研究では、TZDs のインスリン感受性の示唆を得るためにピオグリタゾンの効果について実験した。その結果、(1)pioglitazone は TNF- α 処置の 3T3-L1 脂肪細胞内の 2DOG uptake を改善し、IR/IRS-1 のタンパク量を改善したり、PI3-kinase の活動を改善させた。さらには IRS-1 と p85 の結合を改善させた。(2)h PPAR- γ 2 の過剰発現はタンパク量を改善させるだけではなく、IR/IRS-1 のチロシンリン酸化や TNF- α で処置した 3T3-L1 脂肪細胞の 2DOG uptake を改善させた。これらの結果から、インスリンで刺激された IR/IRS-1 のチロシンリン酸化を回復させる pioglitazone の能力は、IR/IRS-1 のタンパク量を調節する PPAR- γ の adipogenic の活動には独立したものであるかもしれないことを示唆するものである。 担当部分：解析 共著者：Minoru Iwata, Tetsuro Haruta, Isao Usui, Yasumitsu Takata, Atsuko Takano, Tatsuhito Uno, Junko Kawahara, <u>Eiichi Ueno</u> , Toshiyasu Sasaoka, Osamu Ishibashi, and Malachi Kobayashi

30. Potential Role of Gab1 and Phospholipase C- γ in Osmotic Shock-Induced Glucose Uptake in 3T3-L1 Adipocytes.	共著	平成 13 年 7 月	Hormone and Metabolic Research	インスリンによるブドウ糖取り込みにおいては、インスリン受容体、インスリン受容体基質のチロシンリン酸化、続いて生じる PI3-kinase の活性化が重要であることが知られている。これまでの高浸透圧刺激による研究では、ブドウ糖取り込みが PI3-kinase を介さない経路によって引き起こされることが示唆されている。本研究では、高浸透圧刺激によるブドウ糖取り込みにおけるチロシンリン酸化タンパクの意義を検討した。結果、(1) 高浸透圧刺激により 120-130kDa 付近のタンパクのチロシンリン酸化を認めた。(2) 抗 Gab1 抗体の免疫沈降、PY blot では、高浸透圧刺激により Gab1 のチロシンリン酸化が増強した。 (3) 抗 PLC-γ 抗体の免疫沈降、PY blot では、高浸透圧刺激により Gab1 のチロシンリン酸化が増強した。(4) 抗 Gab1 抗体の免疫沈降、PY blot では、高浸透圧刺激により Gab1 のチロシンリン酸化が増強した。 (5) 抗 PLC-γ 抗体の免疫沈降、PY blot では、高浸透圧刺激により PLC-γ のチロシンリン酸化が増強した。(6) 抗 Gab1 抗体の免疫沈降では、高浸透圧刺激により PLC-γ が結合した。(7) 抗 PLC-γ 抗体の免疫沈降では、高浸透圧刺激により Gab1 が結合した。(8) 高浸透圧刺激による 2DOG uptake は Genistein、U73122、GF により抑制された。本研究により、Gab1、PLC γ のチロシンリン酸化および PLC γ の活性化が高浸透圧刺激による glucose uptake が関与している可能性が示唆された。 担当部分：実験全般、論文作成 共著者：Eiichi Ueno, Tetsuro Haruta, Tatsuhito Uno, Isao Usui, Minoru Iwata, Atsuko Takano, Junko Kawahara, Toshiyasu Sasaoka, Osamu Ishibashi and Masashi Kobaysshi

31. Growth Hormone Induces Cellular Insulin Resistance by Uncoupling Phosphatidylinositol 3-kinase and Its Downstream Signals in 3T3-L1 Adipocytes	共著	平成 13 年 10 月	DIABETES 50, 1891-1900	成長ホルモン（GH）は、生体内でインスリン抵抗性を引き起こすことが知られているが、分子レベルでの説明はほとんどなされていない。本研究では長時間GHで処理した分化した 3T3-L1 細胞はインスリンで刺激した 2DOG の取り込みとAkt の活性化を減じること、長時間のGHでの処置は 3T3-L1 細胞の 2-DOG 取り込には影響を与えないこと等の結果を得た。これらのことから、3T3-L1 細胞において、長時間GH処置によって引き起こされた細胞内のインスリン抵抗性はPI3-kinase の活性化とその下流のシグナルとの間の非連結によって引き起こされることが示唆された。 担当部分：解析 共著者：Minoru Iwata, Tetsuro Haruta, Isao Usui, Yasumitsu Takata, Atsuko Takano, Tatsuhito Uno, Junko Kawahara, Eiichi Ueno, Toshiyasu Sasaoka, Osamu Ishibashi, and Malachi Kobayashi
32. Mechanism on Acceleration of Sorbitol Shock-Induced Glucose Uptake in 3T3-L1 Adipocytes （3T3-L1 脂肪細胞におけるソルビトール刺激による糖取込みの促進機序に関する研究）	単著	平成 14 年 3 月	富山医科薬科大学博士号授与機構	従来の研究では、細胞内への糖の取込みはPI3-キナーゼを介し Glut4 の細胞膜へのトランスロケーションにより引き起こすとされているが、Pessin らはPI3-キナーゼとは独立の経路で Glut4 トランスロケーションが起きることを示唆した。本研究では、高浸透圧刺激により PI3-キナーゼとは独立した経路で生じることを明らかにし、またそれに関与する蛋白質を同定することを目的とした。分化した 3T3-L1 脂肪細胞を用い、16 時間 serum free medium に附置し、Genistein（チロシンキナーゼ阻害剤）、U73122（PLCγ 阻害剤）、GF109203X（conventional/novel PKC 阻害剤）、PP2（Src キナーゼ阻害剤）、Cytochalasin D（アクチンポリメライゼーション阻害剤）、Wortmannin（PI3-キナーゼ阻害剤）で前処置後、30 分間の高浸透圧刺激（0.3M Sorbitol）を加えた後、[3H]2-deoxyglucose の取り込みへの影響を測定した。また、各種抗体を用いて免疫沈降法、PY プロットによるウエスタンブロット法により、PI3-キナーゼとは独立した経路を中心に糖の取り込みに関与する蛋白質の同定を検討した。本実験の結果から Gab1 のチロシンリン酸化を刺激すると、①PLCγ の Gab1 への結合活性②PLCγ のチロシンリン酸化、そして③糖の取り込みが観察され、いずれもが PLC 阻害剤によって抑制されることを示した。以上のことから、高浸透圧刺激下においては、PI3-キナーゼとは独立した経路で細胞内への糖の取り込みが促進していた。また、高浸透圧刺激による糖の

33. 結核・抗酸菌症教育はいかにすべきか、いかにあるべきか 看護師教育への提言	共著	平成 15 年 1 月	福井大学医学部研究雑誌(1348-8562)20 巻 P. 17-27	取り込みにおいては、Gab1 のチロシンリン酸化、続いて起こる Gab1 と PLCγ の結合能の増大とその活性化が重要な役割を担っていることが示唆された。 担当部分：解析 共著者：上野栄一、春田哲郎、小林正 他
34. 内容分析を用いた臨地実習における学習達成の自己評価と指導者評価の分析	共著	平成 16 年 3 月	Quality Nursing(1340-9875)10 巻 3 号 P. 257-265	本研究は病院管理者である病院長と看護部長及び日常看護ケアに従事している看護師を対象に結核・抗酸菌感染症卒後教育の現状と学習ニーズを把握することを目的とした。結果、限られた人材と時間について回答者全員が現状では不十分と感じていた。病院長側は抗酸菌症に関する講義時間不足と抗酸菌症ケアに必要な機器や防護用具の購入予算の限界等を認識し、基礎的な研修会開催数増加を重要視していた。また看護部長・看護師側からは呼吸器感染症・抗酸菌症に経験のある講師の不足と研修機会の少なさを痛切に感じていた。看護部の講義内容は診断から検査、感染予防までの基本的な知識や技術を重視していた。また、日本結核病学会認定の抗酸菌症エキスパートナース資格者の活躍が期待される。今後は必要とする領域に勤務する看護職への集中的な講師人材派遣研修機会の増加及び抗酸菌症に強い医療職の養成が急務であり、抗酸菌症のエキスパート制度は、大変意義があると考ええる。 担当部分：解析、総括 共著者：上野 栄一，石崎 武志 学生の実習評価についてテキストマイニングを用いたミックスメソッド法にて、自由記載の実習指導の評価について、自然言語処理にて単語頻度解析、クラスター解析を行い、学修効果を検証した。 担当部分：解析 共著者：須永 恭子、保田 明夫，上野 栄一
35. 精神科病棟に勤務する看護師の性格特性と精神的健康度との関係	共著	平成 16 年 9 月	富山医科薬科大学看護学会誌(5 巻 2 号 P. 19-28	精神科病棟に勤務する看護師の性格傾向と精神的健康度の関係を検討することを目的に、看護師 19 名(うち、女性 16 名)を対象に東大式エゴグラムと GHQ30(General Health Questionnaire 30)を用いたアンケートを実施した。GHQ30 の各下位尺度得点を目的変数とした重回帰分析、内容分析の結果、以下のことが分かった。1)Adult(成人), Adapted Child(従順した子供。以下、AC)は、身体的症状に影響を与えていた。2)AC は不安と気分変調に影響を与えていた。3)Nurturing Parent(教育的親), AC は、希死念慮、うつ傾

36. 高血圧症患者の日常生活における自己管理度測定尺度の作成	共著	平成 17 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)28 巻 2 号 P.73-80	向に影響を与えていた. 4) 仕事上の負担には, 対人関係に関する事項が多かった。 担当部分：データ解析 共著者：小倉 克行, <u>上野 栄一</u> 本研究では外来に通院する高血圧症患者の日常生活における自己管理度測定尺度を作成し, 妥当性と信頼性について検討した. 調査対象は大学病院の外来患者 105 名とした. 文献検討等により高血圧症患者の日常生活における自己管理の概念枠組みを行い, 概念枠組みに添って自己管理の程度を測定するための質問紙原案を作成した. 因子分析により 3 因子 27 項目の因子解が抽出された. 各因子は項目内容により, 「食事管理因子」「運動管理因子」「ストレス管理因子」と命名した. 基準関連妥当性については, 高血圧症患者の日常生活における自己管理尺度と概念が近似した 2 つの既存の尺度との間に有意な相関を確認した. 内的整合性を示す信頼性係数 α は 0.911 であった. これらのことから, 本尺度は妥当性・信頼性の高い尺度であることが確認できた 担当部分：データ解析
37. 看護師における患者とのコミュニケーションスキル測定尺度の開発	単著	平成 17 年 6 月	日本看護科学会誌(0287-5330)25 巻 2 号 P.47-55	共著者：坪田 恵子, <u>上野 栄一</u>, 高間 静子 本研究では, 看護師における患者とのコミュニケーションスキルを測定するための尺度を開発することを目的とした. 54 の質問項目を作成後, 看護職 368 名を対象に調査を行い, 有効回答の得られた 355 名に対して分析を実施し, 質問紙の信頼性, 妥当性を検証した. その結果, 最初の質問項目数は 54 項目であったが, 内容妥当性, 相関係数, 共通性の値の検討により精選された質問紙原案 19 項目について因子分析を行った. その結果, 第 1 因子「情報収集」, 第 2 因子「話のスムーズさ」, 第 3 因子「積極的傾聴」, 第 4 因子「パーソナルスペース・視線交差」, 第 5 因子「アサーション」の 5 つの因子が抽出された. 信頼性の検討では, 全体での Cronbach の α 係数は 0.874 と内的整合性の高い値を示し, 本尺度が信頼性の高いものであることが検証された. また, 併存妥当性の検討では, 本尺度と KiSS-18 との間には, 高い有意な相関を示し, 妥当性の高い尺度であることが証明された. 以上の結果から, 本尺度は高い信頼性と妥当性のあることが示された. 担当部分：データ解析、総括 著者（単著）：<u>上野 栄一</u>

38. 外来で化学療法を受けている患者の不安要因についての分析	共著	平成 17 年 12 月	日本看護学会論文集: 成人看護 II、36 号 P. 51-53	外来で化学療法を受けている患者の不安要因を明らかにすることを目的に、当該患者 4 名(男性 2 名, 女性 2 名, 平均年齢 58.2 歳)を対象に半構成的面接を実施した. 内容分析の結果, 患者が抱えている不安として, 【副作用に対する不安】 【予後に対する不安】 【治療施行中の不安】 【不安はない】 の 4 つのカテゴリーが抽出された. 担当部分: データ解析 共著者: 林 寿美, 野尻 泉, <u>上野 栄一</u>
39. 終末期の患者の家族に CD 音楽が及ぼした影響	共著	平成 17 年 12 月	日本看護学会論文集: 成人看護 II (1347-8206) 36 号 P. 303-305 (平成 17 年. 12)	終末期の患者の家族に CD(α 波オルゴール) 音楽が及ぼした影響を検討することを目的に, 大腸癌の 82 歳女性患者の長女(62 歳, 保育士)を対象に, 半構成的面接を実施した. 長女は仕事を抱えているため患者に十分に付き添うことができなかったが, 患者のそばで流れている CD 音楽が「自分の代わりをしてくれている」という意識をもっており, CD 音楽により癒しの効果も得ていた. また, 看取り後の CD 音楽は, 【故人の回想】や【共に過ごした時の流れ】を感じるよすがともなっていることが分かった. 担当部分: データ解析 共著者: 長 光代, 石若 弘美, 上井 陽子, 表寺 直美, 飯田 真由美, 広田 牧子, <u>上野 栄一</u>
40. 統合失調症患者を支える家族の主観的負担感に関する研究 自由記載文の分析を試みて	共著	平成 18 年 1 月	日本看護学会論文集: 精神看護 (1349-2985) 36 号 P. 65-67	統合失調症患者を支える家族の主観的負担感を明らかにすることを目的に, 「生活困難度尺度」 「日本語版 ZBI 尺度」を用いたアンケート調査を実施し, 自由記載欄の「日ごろ感じていること」への記述を内容分析した. その結果, 家族は【世話への負担】 【自責感】 【精神的支えの欠如】 【健康資源の欠如】 【支援体制の未熟さ】 【経済的な負担】を感じ, さらに将来への見通しから生じる【将来への不安】 【退院に対する困難】 【受け入れ先の欠如】 , また, 過去への【後悔】などを負担に感じていることが分かった. 担当部分: データ解析 共著者: 一ノ山 隆司, <u>上野 栄一</u> , 永山 くに子

41. 内容分析技法を用いた基礎看護実習における学生の感想文の分析	共著	平成 18 年 3 月	日本看護学会誌 (0917-513X) 15 巻 2 号 P. 122-130	基礎看護実習終了後の学生の感想文に用いられている用語の特徴を明らかにすることを目的に、看護大学 2 年生 52 名の実習感想文の内容をクリッペンドルフの内容分析の手法を用いて分析した。その結果、感想文に多く用いられていた名詞は、「患者」「実習」「会話・話」などで、感想文に 5 回以上使用されていた名詞で類似しているものをカテゴリー化した結果、〈対人〉〈コミュニケーション〉〈情報収集〉〈自己評価・自己分析〉〈心理〉〈時間〉〈病態〉〈病院環境〉の 8 つのカテゴリーが抽出された。また、多く使用されていた動詞・形容動詞に連動する前後の文脈を読み取るコロケーション解析を行った結果、学生は初回の実習ではコミュニケーションや情報収集に困難さを感じていたが、病棟実習を行う中で自然な会話から必要とする情報を得ることができるようになっていくことが分かった。 担当部分：データ解析、まとめ 共著者：坪田 恵子，<u>上野 栄一</u>，塚原 節子
42 慢性統合失調症患者に対する認知療法的接近法 ストレスコーピングの向上にパンフレットを使用して	共著	平成 18 年 12 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985) 37 号 P. 166-168	ストレスに対処することができず幻聴に悩まされている慢性統合失調症患者 (50 代・男性) のストレスコーピングを高まるため、患者と話し合いながらパンフレットを作成し、日中は幻聴にすぐ対応できるようパンフレットを持ち歩くなどの指導を行った。当初は、幻聴への対処方法を考えることができず、16 時の振り返り時に看護師に頼ることが多かったが、次第に「今日はガムをかんだ」「散歩をしてみました」などの言葉が聞かれるようになり、それとともに幻聴の訴えも減っていった。介入前後の P-F スタディ (絵画-欲求不満テスト) の比較では、介入後に問題の解決思考が高まったことが確認できた。 担当部分：データ解析 共著者：明堂 文祐，四十田 里美，大塚 佳奈子，青山 正春，柳原 裕姫子，荒井 宏文，<u>上野 栄一</u>
43. 下肢牽引患者の良肢位を保ちながら出来る足浴方法の考案 密封式足浴を試みて	共著	平成 18 年 12 月	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 37 号 P. 194-196	整形外科病棟の下肢牽引患者が良肢位を保ちながら足浴ができる方法として、独自に考案した架台と筒状ビニールを用いた密封式足浴方法を考案し、大腿骨骨折患者 4 名 (43～88 歳、平均年齢 73.5 歳) へ同法による足浴を実施し、足浴前後のバイタルサイン、フェイススケールなどの測定を行った。その結果、これまで足浴ができなかった患者も安楽に足浴が行えることが確認できた。 担当部分：データ解析、まとめ 共著者：山地 慶子 (富山県厚生農業共同組合連合会滑川病院)，永原 泰子，今野 友

44. データマイニングを用いた精神看護学実習記録からみた看護学生の学びの分析	共著	平成 19 年 1 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 37 号 P. 90-92	子, 米澤 陽, 吉森 祐美, 松嶋 瞳, <u>上野 栄一</u> 精神看護学実習における学生の学びを明らかにすることを目的に、精神看護学実習を履修した 50 名の実習記録における「実習で学んだこと」についての自由記述を、データマイニングに基づき形態素解析し、解析後に分類された単語(名詞・動詞)をコロケーション解析し、Krippendorff の内容分析手法を参考に分析した。その結果、名詞の分析により、学習内容を示す【対人関係】【コミュニケーション・相互作用】【自己評価・自己分析】【時間】【情報収集】【環境】【病態関連】の 7 因子が抽出された。また、動詞の分析から、動詞と連動する先行・後続文脈が抽出され、実習目標に沿った学生の自己評価の視点を捉えることができた。 担当部分：解析、まとめ 共著者：一ノ山 隆司, 宮本 眞弓, <u>上野 栄二</u>
45. 混合病棟における末期がん看護に関する看護師の葛藤	共著	平成 19 年 2 月	日本看護学会論文集：成人看護 II (1347-8206) 37 号 P. 186-188	混合病棟における末期癌看護に関する看護師の葛藤を明らかにすることを目的に、混合病棟である A 病棟に勤務して 1 年以上の看護師 16 名(平均年齢 34.2 歳)を対象に半構成的面接を実施した。内容分析の結果、「患者への対応の難しさ」「時間が作れない」などのサブカテゴリーよりなる【患者との関わりと看取りへの思い】、「家族へのサポート」「家族への声かけの難しさ」などよりなる【家族との関わり】、「麻薬の使い方」などよりなる【医師との関わり】、の 3 つのカテゴリーが抽出された。 担当部分：データ解析 共著者：早崎 智美, 田中 美樹, 安居 洋美, 古金 祥子, 船屋 彩子, <u>上野 栄一</u>

46. 看護師のストレス要因とコーピングとの関連 日本版 GHQ30 とコーピング尺度を用いて	共著	平成 19 年 3 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)6 巻 2 号 P.37-46	本研究では、看護師のストレスとコーピングとの関係について調べた。調査対象は、T 市の総合病院に勤務する看護師 104 名とした。ストレスの測定には、一般健康調査質問紙 General Health Questionnaire(GHQ)30 項目を、コーピングの測定には尾関のコーピング尺度(1993)を使用した。その結果、勤続年数と一般的疾患傾向には負の相関が見られた。通勤時間の長さには比例して不安・うつが増長していた。睡眠時間の長さとの身体的症状の間には負の相関があった。婚姻別にみると、未婚群は問題焦点型行動を多く取っていた。ストレス、対処行動の内容分析では、仕事に関するストレスが全体の 87.4%を占めていた。ストレス対処行動としては、コミュニケーションや食事、趣味等が挙げられた。以上のことより、健康状態を良好に保つために、ストレスを効果的に発散できる場・方法を見つけ出す必要性が考えられた。 担当部分：解析 共著者：加藤 麻衣，鈴木 敦子，坪田 恵子，<u>上野 栄一</u>
47. 統合失調症患者を支える家族支援に関する研究 ソーシャルサポート・セルフケア機能からの視点	共著	平成 19 年 3 月	日本看護学会論文集：地域看護(1347-8257)37 号 P.42-44	入院中の統合失調症患者を支える家族を対象に調査し、家族の負担要因と資源的条件である家族のソーシャルサポート・家族のセルフケア機能に注目した。地域の社会資源のひとつである病院における看護師の役割を再考するために、患者の行き場が課題である現状と地域精神保健看護の展望を見据え福祉との連携を視野に入れ、ストレス・コーピングモデルを家族支援システムとして位置づけた。主要なソーシャルサポートといえる家族会所属の有無において、家族会に所属していない家族の「病気への不安」は小さいことが示された。健康資源が低下している家族は不安を抱え込む傾向があり「病気への不安」への対処能力が低下していると推察された。ソーシャルサポート・セルフケアの視点からも家族が精神障害者を支えるためのストレス・コーピングモデルの構築が必要であると示唆された。 担当部分：データ解析、まとめ 共著者：一ノ山 隆司，村上 満，宮本 眞弓，<u>上野 栄一</u>

48. 外来患者が好感をもった看護師の言動に関する質的分析	共著	平成 19 年 3 月	日本看護学会論文集：地域看護 (1347-8257) 37 号 P. 252-254	患者が看護師のどのような言動に快く感じ、好感を持つか調査した。外来患者を対象としたアンケート調査を実施し患者が好感を持った看護師の言動を分類し、その質と傾向を明らかにした。外来通院中の患者(家族を含む) 13 科(放射線科と精神科を除く) 280 例を無作為に抽出し、有効回答 93. 9%であった。看護師の「お大事に」「心配り」「励まし」「ほめる」の声がけに対し、多くの患者が好感を持った。看護師の「安心感」を与える言葉と笑顔に対し、患者は好感を持ち、看護師が「名前を覚えていてくれた」と感じると嬉しい気持ちになっていた。「思いやり、やさしい、親切」「謙虚な態度」に対し、理解的態度で、患者の話を傾聴する姿勢が患者に好感を与えた。忙しくても穏やかに対応し、手際良い看護技術を提供することが患者の好感につながった。 担当部分：データ解析 共著者：高橋 まゆ子, 岩城 吉子, 池田 京子, 栃山 ひろ子, 安原 陽子, 渡辺 富美子, <u>上野 栄一</u>
49. 精神科救急における入院時の隔離・拘束観察シート導入効果の検討	共著	平成 19 年 12 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985) 38 号 P. 21-23	A 精神科病院に勤務する看護師 10 名を対象に、半構成的面接法を用いて「精神科救急における心理的負担」と「隔離・拘束観察シート導入の効果」の 2 点についてインタビュー調査を行い、語られた内容を質的帰納的に分析し、カテゴリー化を図った。結果、心理的負担については【不安・緊張】【暴力行為の遭遇】【対応技術の不足】【要望の未充足】というカテゴリーと 16 のサブカテゴリーが抽出された。隔離・拘束観察シート導入の効果は【記録】【観察】【報告】というカテゴリーと以下の 10 サブカテゴリーが抽出された。1) 時間ごとの記入が可能。2) 看護経過記録内容の焦点化。3) 正確な記録に対する動機づけ。4) 観察項目の明確化。5) 事故防止。6) 情報収集の容易さ。7) 身体管理の向上。8) 時間ごとの推移でわかりやすい。9) 申し送りの円滑化。10) 隔離・拘束の判断資料。 担当部分：データ解析、まとめ 共著者：明神 一浩, 一ノ山 隆司, <u>上野 栄二</u>, 川野 雅資

50 精神科看護師と一般科看護師とのストレス要因を探る 看護師ストレス尺度を用いて比較する	共著	平成 19 年 12 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985)38 号 P. 170-172	A 総合病院の精神科病棟看護師 23 名と一般病棟看護師 97 名を対象に、三木らにより信頼性が検証された『看護師ストレス尺度 (8 因子で構成)』による調査を行い、群間比較した。結果、一般病棟群に比べて精神科病棟群のストレスレベルは全体的に低かったが、第 3 因子(患者・家族との関係)の得点は有意に高かった。 担当部分：解析 共著者：日塔 恵理香，石政 直子，前田 憲，高松 聡，海原 真澄，柳原 裕姫子，荒井 宏文， <u>上野 栄一</u>
51. 糖尿病療養指導士外来におけるセルフケア評価に関する研究(第 5 報) 段階的なセルフケア評価 (GSEQ) 導入による指導効果と関連要因	共著	平成 20 年 2 月	日本看護学会論文集：成人看護 II (1347-8206)38 号 P. 142-144	糖尿病初期入院患者のセルフケア能力向上のために開発された上野の「段階的セルフケア評価 (GSEQ)」を糖尿病療養指導士 (CDEJ) 外来に導入し、有効であったことを前回報告した。今回、導入後 1 年 6 ヶ月までの指導効果について GSEQ スコアと HbA1c・BMI 値を指標に検討し、あわせて HbA1c・BMI 値の関連要因について検討した。その結果、指導効果は導入 1 年 6 ヶ月後まで維持されていることが確認された。HbA1c の関連要因として[間食の有無]と[家族協力の有無]が抽出された。BMI の関連要因は見出せなかった。 担当部分：解析 共著者：大西 みさ， <u>上野 栄一</u>
52. 終末期がん患者の病院食の配膳停止に対する看護師の思い	共著	平成 20 年 2 月	日本看護学会論文集：成人看護 II (1347-8206)38 号 P. 210-211	A 総合病院の消化器外科病棟に勤務する看護師 16 名に質問紙調査を行い、「終末期がん患者に対して病院食の配膳停止を伝えるときの思い」を自由記述してもらい、記載内容を質的帰納的に分析した。その結果、以下の 7 カテゴリーが抽出された。1) 経口摂取の諦め。2) 死生観。3) 生への希望。4) 食ケアに関するアンビバレンスな感情。5) 患者・家族の意思尊重。6) 嗜好品への期待。7) 葛藤。 担当部分：解析 共著者：村澤 嘉江子，卜部 麻美，村田 千紘，深美 まり子，飯田 真由美，武田 睦子， <u>上野 栄一</u>

53. 終末期がん患者の男性家族員が捉えたギアチェンジ	共著	平成 20 年 3 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)7 巻 2 号 P.15-28	終末期がん患者の男性家族員が捉えるギアチェンジの様相とその関連要因を探るために、死別後 1 年以上経過した 13 名を対象とし、半構成的面接を行った。得られた逐語録をクリッペンドルフの内容分析手法で分析した結果、ギアチェンジの様相は、第 1 【理性を持ちながらギアチェンジできないもどかしさ】、第 2 【永遠の絆】と第 3 【リジリアンス】が、《生の希望》《時の流れ》に沿って 3 コアカテゴリーとして生成された。第 1 には、《がんとの共生》を中心に、《がんの脅威と危機》《ソーシャルサポート》《患者から放たれていたスピリチュアリティ》《パートナーシップ》《死への諦めと受容》《がん闘病の複雑さ》が、第 2 には、《相互作用》《尊厳》が、第 3 には、《行きつ戻りつする死別後の悲嘆》《立ち直り》が関連していた。死別悲嘆からの回復には、円滑な第 1 のギアチェンジが重要であり、その関連要因の中に、がん看護への多くの示唆が含まれていると考えられる。 担当部分：データ解析 共著者：長 光代，落合 宏，<u>上野 栄一</u>
54. パークベンチ体位における腋窩枕の検討	共著	平成 20 年 7 月	日本手術看護学会誌(1880-4780)4 巻 1 号 P.73-76	パークベンチ体位では通常の側臥位に比べて腋窩にかかる体圧が高く、さらに頭部挙上によるずれ力が加わるため、腋窩枕の接触面に皮膚障害が生じやすいと考えられる。今回、3 種類の腋窩枕を用いてパークベンチ体位における褥瘡予防効果を比較検討した。3 種類の内訳は、1) 褥瘡予防マット(ソフトナース)で作製した枕(35×16×7cm)、2) アクションパッド(ゲル枕;45×11×5cm)、3) エアー枕(輸液用生食 1000ml の空バックに空気 1200cc を注入したもの)で、健常人 5 名を対象に検討した結果、褥瘡予防効果が最も高いのは 1) であると考えられた。 担当部分：解析 共著者：橋場 まゆみ，澤田 浩美，西川 昇，井尻 那美，大前 明博，<u>上野 栄一</u>
55. 入院中の統合失調症患者を支える家族の日頃の心理的負担に関する研究	共著	平成 20 年 11 月	共創福祉 3 巻 2 号 P.21-30	本研究の目的は、統合失調症の患者を支える家族の負担要因を明確にし、家族支援の枠組みに示唆を得ることである。精神科病院 6 施設に入院中の統合失調症患者 20 名の家族の負担要因を「日ごろ感じていること」の自由記載文から抽出した。家族の負担要因の抽出のために Krippendorff の内容分析手法を用い、形態素解析・コロケーション解析した。名詞[96 語]の内訳は「障害」、「場・場所」、「家族」、「世話」、「生活」、「人」、「病院」、「退院・入退院」、「看護師」、「心配」であった。その名詞[96 語]についてコロケーシ

56. データマイニングによる看護専門学校の教育理念に関する分析	共著	平成 20 年 12 月	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 39 号 P. 164-166	ョン解析した結果、36 事象の内容(文脈)が抽出され、7 つのサブカテゴリー、3 つのカテゴリー(3 要因)が形成された。第 1 の要因は保健・医療・福祉に対する要求や従事者に対する期待と希望からなる要望と提言、第 2 の要因は社会復帰・社会参加あるいは退院を困難にさせている要因や今後の生活状況への不安と心配からなる負担と困難、第 3 の要因は入院を継続することでの安心感や家族会活動への意欲からなる安心と安堵であった。これらを【要望・提言】、【負担・困難】、【安心・安堵】と命名しカテゴリー化した。この方法によって、キーワード(単語:名詞)とカテゴリー(【要望・提言】、【負担・困難】、【安心・安堵】)の 2 つの次元で家族の心理的負担を捉えることができ、入院中の統合失調症患者を支える家族に対する看護の役割を見出すことができた。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司, 村上 満, 舟崎 起代子, <u>上野 栄一</u> 全国の看護専門学校の中から層化無作為抽出法で選定した 154 校のうち学校のホームページ上に教育理念が記されている 121 校を分析対象とし、これらの教育理念について形態素解析を行った。その結果、10640 個の形態素が抽出され、記号””句読点”などの 1097 個を除く 9443 語の中から名詞 4571 語、動詞 1382 語が得られた。名詞のうち最も出現頻度が高かったのは「看護」(216 語)であり、次いで「人間」(157)、「育成」(117)、「専門」(87)、「豊か」(78 語)、「医療」(73 語)、「実践」(68)、「生命」(65)、「技術」(63)、「知識」(60)の順であった(日本看護学会論文集：看護総合(1347-815X)39 号 P. 164-166 平成 20 年. 12)。動詞のうち最も出現頻度が高いのは「目指す・めざす」(49)であり、次いで「持つ・もつ」(46)、「養う」(38)、「基づく」(31)、「学ぶ」(22)、「行う」(19)、「育む」(17)、「応じる」(14)、「求める」(11 月)、「備える」(9)の順であった。教育理念を構成する概念を抽出するため、動詞で最も頻度の高い「目指す・めざす」についてコロケーション解析を行い、何を目指しているのかを検討した結果、以下の 3 カテゴリーが生成された。1) 社会人としての人間形成。2) 自己教育力の獲得。3) 専門的知識・技術の向上。 担当部分：解析 共著者：舟崎 起代子, 一ノ山 隆司, 明神一浩, <u>上野 栄一</u>

57. 精神看護学実習前後における学生の不安・イメージに関する変化要因	共著	平成 21 年 2 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 39 号 P. 265-267	精神看護学実習における学生の不安要因と実習前後の患者のイメージの変化を明らかにすることを目的に、A 看護専門学校の 3 年次生 40 名を対象に実習前後に自由記述によるアンケート調査を行った。内容分析の結果、看護学生の実習における不安要因として、【対象への接近困難性】【対象の威圧・圧迫性】【看護過程展開の難易性】の 3 つのカテゴリーが抽出された。また、実習前の看護学生の患者へのイメージとして、【共通性の欠如】【排除・区分性】【嫌悪感】の 3 カテゴリーが、実習後では【関係性の保持】【親密性】【固定観念の打破】の 3 カテゴリーがそれぞれ抽出された。 共同京谷 和哉，一ノ山 隆司，舟崎 起代子，明神 一浩， <u>上野 栄一</u> ，川野 雅資 関節拘縮があり、依存傾向、意欲低下が顕著な統合失調症患者(60 代・女性)に対し、治療的契約を結び、患者自身が設定した目標に沿って看護計画の修正と追加を行いながら援助したことで、セルフケア能力が向上し、「身の回りの動作」「移動動作」「食事」のそれぞれにおいて目標達成につながった事例について報告した。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司，明神 一浩，川野 雅資，舟崎 起代子， <u>上野 栄一</u>
58. 精神臨床看護検討レポート 関節拘縮がある統合失調症患者のケアに治療的契約を取り入れた事例	共著	平成 21 年 3 月	臨床看護 (0386-7722) 35 巻 3 号 P. 410-416	
59. 精神臨床看護検討レポート「患者の安寧は看護師の言葉だけではない」ことの経験知自己の癒し体験をケアに生かすケアリング	共著	平成 21 年 4 月	臨床看護 (0386-7722) 35 巻 5 号 P. 811-815	長期化する入院生活により不安や悩みが増大し、強いストレス状態に陥り、腸腰筋膿瘍の再手術後 3 日目より夜間に創部のガーゼを剥がす行為と「死にたい」などの希死念慮が顕著に出現した患者(60 代。男性)に対し、日々の看護業務に追われ十分な対応ができないことに申し訳ない気持ちにさいなまれていた看護師(著者)は、普段何気なく通り過ぎていた病院内のギャラリー(絵画の展示)に目を奪われ、ホッとした体験をしたことから、ギャラリーの絵画を一緒に見ることを患者に勧めた。絵画を見ている患者は、病室ではみられない穏やかな表情をしており、この日以降、患者から絵を見に行きたいといった希望があり、援助計画に取り入れて実施した。回を重ねるごとに、無口であった患者は仕事での経験談や、幼い頃から絵を描くことが好きでインテリアデザイナーとして働いている娘の話などを語るようになった。また、趣味である山登りについて生き生きとした表情で話した際、「退院したら山登りができたらいいですね」と問いかけると、「そうだね。山登りができるように歩く練習もしくちな」と退院後の生活を見据えた言動があり、以後、患者自ら病棟内を散歩するよう

60. 幻聴のある患者に対する心理教育的アプローチの方法	共著	平成 21 年 3 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)8 巻 2 号 P.33-40	になった。それに伴い日中の臥床時間が次第に短くなり、夜間の創部のガーゼを剥がす行為や、「死にたい」などの希死念慮の訴えも少なくなった。 担当部分：解析 共著者：舟崎 起代子，一ノ山 隆司，川野 雅資，高野 悦子，上平 悦子，<u>上野 栄一</u> 本研究は、幻聴のある患者に対して、心理教育的アプローチの介入が幻聴に苛む患者の自己対処能力の獲得によって、幻聴の軽減にどのように影響したかについて、その効果を検証する目的で研究を行った。研究対象者は 2 名の統合失調症患者を対象に、精神症状の陽性・陰性症状が高い患者 2 人を対象とした。評価方法は、心理教育プログラムは、幻聴の自己対処行動を獲得するために、原田のテキストを用い 10 回(約 1 回 1 時間程度)をプログラム実施前後で、陽性・陰性評価尺度で評価をした。最後のセッションでは、自己対処をより具体的にすする為に、患者自身が自己対処できると思う方法を自分で選び SST で訓練した。心理教育プログラムの結果、患者自身が症状悪化の兆候を知る機会になり、幻聴に対する自己対処行動のスキルが働き易くなった。 担当部分：データ解析 共著者：明神 一浩，一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u>，舟崎 起代子，川野 雅資
61. 幻聴に苛む患者の自己対処行動を支えるための心理教育的アプローチ	共著	平成 21 年 4 月	共創福祉 4 巻 1 号 P.1-10	本研究の目的は、幻聴に苛む入院中の統合失調症患者 2 名(陽性症状片寄り、陰性症状片寄り)に対する心理教育的アプローチが幻聴の対処にどのように影響したかについて、その効果を検証することである。精神症状の評価には陽性・陰性評価尺度(PANSS)を使用し、介入前後の評点の対比では、精神症状の軽減になった。心理教育的アプローチによる 10 回のセッションを実施した結果、患者自身が症状悪化の兆候を知る機会になり、幻聴に対する自己対処行動のスキルが働き易くなった。この心理教育プログラムによって、幻聴の自己対処行動が可能であることが示唆された。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司，村上 満，舟崎 起代子，牧野 かおる，明神 一浩，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資

62. データマイニングによる精神科病院の理念・方針の特徴に関する分析	共著	平成 21 年 4 月	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 39 号 P. 405-407	日本精神科病院協会に登録されている病院のうち、インターネット上に病院の理念・方針が公開されている 938 病院の中から、層化無作為抽出法を用いて各都道府県 5 病院、計 235 病院を選定し、ホームページに掲載されている「理念・方針」を分析した。形態素解析を行った結果、出現頻度の最も高い名詞は「医療」であり、次いで「患者」、「地域」、「提供」、「社会」、「病院」、「精神」、「心」、「尊重」、「信頼」、「貢献」の順であった。コロケーション解析を行った結果、理念・方針の構成要素として【病院内の充実】 【職務満足】【地域連携】が抽出され、理念・方針の目指している内容として【地域医療と貢献】【サービスの向上】【信頼と安心・安全】【やりがいのある職場環境】というカテゴリーが生成された。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司, 舟崎 起代子, 上野 栄一, 川野 雅資
63. 地域生活する精神障がい者を支える家族の思いの分析 (Analysis of the Feelings of Family Members Who Support Mentally Handicapped Persons Living in Regional Communities) (英語)	共著	平成 21 年 10 月	共創福祉 4 巻 2 号 P. 85-91 平成 21 年. 10)	目的: 家族の負担要因の明確化から、今後の家族支援への有効な手がかりに示唆を得ることである。方法: Krippendorff の内容分析の手法を参考に、全記載文をデータ化した後、形態素解析、コロケーション解析を行った。内容分析の手順は、(1) 自由記載文の電子テキスト化、(2) 形態素解析の実行、分析単位は単語として品詞の出現頻度を算出、(3) 出現頻度と研究者が注目した名詞をコロケーション解析した。解析後、類似性に基づいてカテゴリ化し、その因子をネーミングした。結果: 形態素解析、コロケーション解析した結果、【本人の病気に関する不安】、【家族自身の体調の心配】、【本人の将来の生活に対する焦り】、【社会や周囲、身内からの理解不足に関する苛立ち】、【自分が責任を持ってケアする重圧】、【本人が家にいることによる束縛感】、【地域の施設が十分整備されないことへの不満感】の 7 つのカテゴリを生成した。結論として、家族の思いは、本人の病気に関する不安、家族自身の体調の心配、本人の将来の生活に対する焦り、社会や周囲、身内からの理解不足に関する苛立ち、自分が責任を持ってケアする重圧、本人が家にいることによる束縛感、地域の施設が十分整備されないことへの不満感の 7 項目であった。家族が精神障がい者のケアの担い手ではあっても、家族はケアの対象者である観点から福祉との融合施策に反映させていくための看護ケアに有効な知見が示唆された。 担当部分：解析

64. 大学生の喫煙行動と喫煙に対する態度と知識への影響要因	共著	平成 21 年 10 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)19 巻 2 号 P. 110-114 平成 21 年. 10)	共著者：一ノ山 隆司, 村上 満, 舟崎 起代子, <u>上野 栄一</u>, 川野 雅資 大学生 1406 名を対象に、喫煙行動、喫煙に関する知識・態度について、集団調査法による無記名自記式質問紙調査を実施した。大学生の喫煙行動は性別・年齢・家族や友人の喫煙の影響、喫煙に関する知識は現在の喫煙行動・大学での専攻の影響、喫煙に対する否定的態度は現在の喫煙行動・大学での専攻・友人の喫煙の影響を受けていた。大学生への喫煙防止教育では、知識の提供や喫煙に対する否定的態度の育成については専攻別に内容や方法を検討し、友人の喫煙への対処の技術を組み込む必要があることが示唆された。 担当部分：解析結果、考察 共著者：上原 佳子, 長谷川 智子, <u>上野 栄一</u>, 佐々木 百恵, 吉田 華奈恵, 上木 礼子, 石崎 武志
65. 地域連携精神看護学の実践	共著	2009 年 平成 21 年 12 月	地域連携精神看護学研究 実践 英・米・日 3 カ国の地域精神看護 P17-26	本研究は、地域連携精神看護の現状からその必要性を示唆を得ることである。文献検討、内容分析の手法を用いた量的・質的記述的研究である。文献は 1998 年～2008 年の医学中央雑誌ウェブ版から精神看護・退院支援・地域というキーワードで検索した論文と、病院を層化無作為化そた 235 病院の理念・方針を調べ、分析した。結果、地域連携は、市域で精神障がい者が共生・共存するためのノーマライゼーションとしての【地域連携】であることが空き明らかとなった。 担当部分：内容分析、結果 共著者：一ノ山隆司、村上満、川野雅資、舟崎起代子、<u>上野栄一</u>
66. 精神臨床看護検討レポート(case 9) 統合失調症患者の援助にフットケアを取り入れた介入効果とセルフケアレベルの変化について	共著	平成 21 年 12 月	臨床看護 (0386-7722)35 巻 14 号 P. 2215-2224	統合失調症患者 2 名(70 代女性)の援助にフットケアを取り入れ、その効果を、介入前後の「セルフケアチェック表」(6 項目)によるセルフケア行動の評価の比較から検討した。フットケアは 2 週間に 1 回、5～10 分程度、6 ヶ月間実施した。その結果、事例 1 ではセルフケア行動評価の 6 項目のうち、「空気・水・食物」「活動と休息」「孤独とのつきあい」の 3 項目で、また、事例 2 では「活動と休息」「安全を保つ能力」の 2 項目で、それぞれ改善が認められた。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司, 後藤 美沙江, 舟崎 起代子, 川野 雅資, 村田 美津代, 吉田 誠, 明神 一浩, <u>上野 栄一</u>

67. 地域で生活する精神障がい者を支える家族の思い	共著	平成 22 年 1 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985)40 号 P. 143-145 平成 22 年. 01)	地域で生活する精神障害者の家族 273 名にアンケートを行い、「日頃から気になっていること」について自由記載してもらい、その内容を質的帰納的に分析した。その結果、以下の 7 カテゴリーが抽出された。1) 患者の病気に関する不安。2) 家族自身の体調の心配。3) 患者の将来の生活に対する焦り。4) 社会や周囲・身内の理解不足に対する苛立ち。5) 自分が責任を持ってケアする重圧。6) 患者が家に居ることによる束縛感。7) 地域の施設が十分整備されないことへの不満感。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司、村上 満、舟崎 起代子、<u>上野 栄一</u>、川野 雅資
68. 重症心身障害児病棟実習が看護学生の障害児に対するイメージに及ぼす影響	共著	平成 22 年 2 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265)40 号 P. 218-220 平成 22 年. 02)	看護学生が小児看護学実習を通して抱く障害児に対するイメージの変化を明らかにするため、看護専門学校 3 学年 45 名を対象に、小児看護学実習前、重症心身障害児病棟実習終了直後、小児看護学実習後、全専門分野の実習終了後に調査を行った。舟越らが作成した 30 項目の形容詞対尺度の平均値を比較したところ、重症心身障害児病棟実習終了直後では 15 項目が最もポジティブであり、小児看護学実習後では 11 項目が最もポジティブであった。また、全専門分野の実習終了後には小児看護学実習前に比べて 30 項目全てがポジティブに変化していた。重症心身障害児病棟における 4~5 日の直接的な接触体験を伴う実習は、障害児に対するイメージをポジティブに変化させ、そのイメージの定着に有効であることが示唆された。 担当部分：解析 共著者：梅田 尚子、小笹 幸子、笠原 香理、<u>上野 栄一</u>

69. 看護師学び直しプログラム病棟実習の学習効果 潜在看護師と就業看護師の比較	共著	平成 22 年 4 月	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 40 号 P. 93-95	本学では、文部科学省の『社会人学び直しニーズ対応教育推進プログラム』委託事業として、平成 19 年度から「看護師学び直しプログラム」を実施している。このプログラムは、潜在看護師と就業看護師の両者が共に学ぶことが特徴で、講義、演習、病棟実習を行っている。今回、病棟実習における両者の学習効果を比較検討した。調査方法は、平成 19 年度と 20 年度のプログラム受講生 70 名に対して実習終了後にアンケートを行い、実習で体験したこと、学んだこと、意見などについて自由記載で回答を求めた。そして、記載文を電子テキスト化し、形態解析を行い、「学んだ」「できた」内容のキーワードを抽出した。次にコロケーション解析により、「学んだ」「できた」の単語を含む文章を抽出し、カテゴリー化を図り、潜在看護師と就業看護師の学習内容を比較した。その結果、潜在看護師は就業看護師に比べて、【基本的看護技術】を中心に【与薬技術】【外科的処置】【看護管理】【電子カルテ】など多くのことを学び、自信を深めていることが明らかになった。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者：橘 幸子，清水 由加里，<u>上野 栄一</u> 悪性症候群を発症して A 総合病院の精神科病棟に転院してきた統合失調症患者（30 代・男性）で、入院時に発熱と多量の発汗、持続した振戦、意識障害が認められた症例に対し、身体症状の急性期に声かけ、励まし、タッチングなど、五感へのはたらきかけを通して患者の自我機能にはたらきかけ、自己回復力が高まるような支援を継続した。その結果、身体症状が改善した直後から、患者は看護師に親しみを込めた会話（言語的・非言語的反応）を行うようになり、良好な患者-看護師関係へとつながった。 担当部分：データ解析 共著者：千 英樹，野原 茂，一ノ山 隆司，川野 雅資，<u>上野 栄一</u>
70. 支持的精神療法的なかかわりが患者-看護師関係の構築に有効であった事例 意思表示ができない重症の悪性症候群を併発した患者の看護	共著	平成 22 年 6 月	臨床看護 (0386-7722) 36 巻 7 号 P. 974-981	悪性症候群を発症して A 総合病院の精神科病棟に転院してきた統合失調症患者（30 代・男性）で、入院時に発熱と多量の発汗、持続した振戦、意識障害が認められた症例に対し、身体症状の急性期に声かけ、励まし、タッチングなど、五感へのはたらきかけを通して患者の自我機能にはたらきかけ、自己回復力が高まるような支援を継続した。その結果、身体症状が改善した直後から、患者は看護師に親しみを込めた会話（言語的・非言語的反応）を行うようになり、良好な患者-看護師関係へとつながった。 担当部分：データ解析 共著者：千 英樹，野原 茂，一ノ山 隆司，川野 雅資，<u>上野 栄一</u>

71. 看護系大学における呼吸ケアカリキュラム 卒前・卒後の教育	共著	平成 22 年 6 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)20 巻 1 号 P. 69-75	全国の看護系大学および関連大学病院看護部にアンケートを依頼した。結果は、大学と大学病院とでの教育内容・重点項目に相違があり、学生に求める実践能力と臨床で求める実践能力の違いも判明した。看護実践能力の向上のためには、学校サイドと臨床サイドがさらに連携し、卒前・卒後の一貫した教育を念頭に効果的な呼吸ケアの教育方法について工夫する必要があると考える。また、学生への標準的な呼吸ケア教育カリキュラムの構築が望まれる。 担当部分：統計解析、総括 共著者：石崎 武志，吉田 華奈恵，佐々木 百恵，上木 礼子，上原 佳子，長谷川 智子，<u>上野 栄一</u>
72. 精神臨床看護検討レポート(case13) 幼児退行した統合失調症のケアにおいて、生活技能の維持と向上に段階的な目標を設定したかかわりの効果	共著	平成 22 年 7 月	臨床看護(0386-7722)36 巻 8 号 P. 1088-1095	最終入院から 25 年が経過し、幼児退行した慢性期統合失調症患者(50 代女性)に対し、生活技能の維持・向上へ向けたアプローチとして生活行動表を導入し、患者が生活行動表に沿って各項目に自己記入し、目標の達成度を点数化する取り組みを 9 ヶ月間にわたって行った。患者とともに目標設定を行い、1 ヶ月ごとに合計点数を算出することが患者の動機づけとなり、介入後 7～9 ヶ月には盗癖や収集癖などの行動がなくなり、他の患者とのトラブルも減り、他患者との良好な関係が築けるようになったことでラジオ体操やグループ活動にも積極的に参加するようになった。 担当部分：解析 共著者：村田 美津代，一ノ山 隆司，舟崎 起代子，川野 雅資，後藤 美沙江，<u>上野 栄二</u>
73. 精神臨床看護検討レポート(case14) 水中毒患者の水分摂取方法の改善に対する援助 認知行動療法的なかかわりの取り組み	共著	平成 22 年 8 月	臨床看護(0386-7722)36 巻 9 号 P. 1218-1224	水中毒が疑われるため総合病院の精神科病棟に入院した統合失調症疑いの患者(20 代・男性)に対し、段階的に行動療法的アプローチ、認知行動療法的アプローチを実施した事例について報告した。患者が記載した飲水チェックシートと日記を活用し、患者の多飲行動に対して認知的にはたらきかけ、患者自身が解決方法を見出すよう導き、具体的な対処方法を提示しながら支持的に見守る援助を行った結果、患者自身が振り返りを行い飲水の自己管理に対する課題を明確にすることができた。 担当部分：事例解析 共著者：信永 州洋，一ノ山 隆司，千 英樹，佐々木 祐一朗，川野 雅資，<u>上野 栄一</u>

74. 著しい視力・聴力低下をともなった高齢のアルコール精神病患者への看護	共著	平成 22 年 9 月	臨床看護 (0386-7722) 36 巻 10 号 P. 1350-1355	著しい視力・聴力低下を伴った高齢のアルコール精神病患者 (80 代・男性) への看護について報告した。入院時、アルコール離脱せん妄による意識障害があり興奮状態で、対応そのものがきわめて困難であったため、行動制限が長期化することも推定して看護計画を立案した。しかし、看護ケアを実施するうちに、障害をもちながらもアルコールに助けを求めざるを得なかった患者の立場を看護師が理解し、何とか患者の回復に役立つ援助方法はないかと模索し関わった。その結果、安心感が得られるように 2 名以上の看護師で関わり、患者の残存機能の一つである触覚を活用し、患者の体にそっと触れてから処置を行い、車椅子移乗など移動の際には患者に物や場所を触れてもらって確認してもらい、などを行った結果、退院につなげることができた。 担当部分：解析 共著者：渡辺 富美子，一ノ山 隆司，川野 雅資， <u>上野 栄一</u>
75. 維持透析患者の体重管理意識向上に向けて 除水制限を試みて	共著	平成 22 年 9 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 33 巻 4 号 P. 123-129	本研究は除水制限の効果について明らかにする事を目的とした。短期検討期間は 32 名，長期検討期間は 22 名を対象として，体重増加率 (以下 $\Delta\%$ DW) ・心胸比・ドライウエイト・アルブミンの各項目データと，透析中のショックや足つり等の透析合併症出現回数の変化と，自己管理意識や自己効力感 (以下 GSES) を 2 年間にわたって追跡調査し検討を加えた。その結果，除水制限導入後では短期・長期検討期間の双方でアルブミンの上昇が認められた。また，透析合併症の血圧低下やショック等の予防にも効果があった。アンケート結果からは自己管理への意識の高まりを示し，GSES の上昇が明らかとなった。これらの結果からは導入後は延長や引き残したくないという意識が高まり，徐々に生活スタイルを変容させたものと推測される。一方で自己管理を徹底し $\Delta\%$ DW を下げる過程において，失敗と成功を繰り返しながら徐々に達成体験を積み重ねた事で，前向き志向となり自己効力感が上昇したと推測される。 担当部分：解析 共著者：岩城 敏之， <u>上野 栄一</u>

76. 精神臨床看護検討レポート(case16) 修正型電気けいれん療法を自己決定した双極性障害の看護 インフォームド・コンセントと精神的サポートの実践	共著	平成 22 年 10 月	臨床看護 (0386-7722)36 巻 11 号 P. 1484-1491	修正型電気けいれん療法(mECT)を選択(自己決定)した、誇大妄想、多弁、多動を伴う双極性障害患者(60 代後半、女性)の看護における、インフォームド・コンセントと精神的サポートの実践について報告した。合併症や身体症状の出現により薬物療法が限界となった患者に対し看護師は、患者の意思決定を支え、支持的精神療法的かわりを行い、精神症状の観察に努めるとともに、インフォームド・コンセント時には同席して、患者の不安感の解消を図った。その結果、mECT との相乗効果により感情の自己コントロールが可能となり、簡易精神症状評価尺度の興奮、敵意・疑惑、不安・抑うつにおいて著明な改善がみられた。 担当部分：事例検討 共著者：千 英樹，一ノ山 隆司，上島 有香里，川野 雅資， <u>上野 栄一</u>
77. 自力体動困難患者にできる手浴用具の改良・検討	共著	平成 23 年 1 月	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 41 号 P. 63-65	自力体動困難な患者でも手を湯に浸けて手浴できる用具を改良し、病棟看護師 10 名に改良前後で手浴を実施してもらいアンケート調査を行った。ワセリンの量を一定にしたこと、固定具をエラスコットからゴムベルトへ変更したこと、ビニールの幅や長さを小さくしたことで、密着性、固定性、水漏れ、ビニールの幅、ビニールの長さ、使用感についての設問で有意差がみられた。用具の使用感についての自由記載では、「入浴できない患者に早く使いたい」という回答もみられ、今後のケアの充実につながると考えられる。 担当部分：解析 共著者：古川 絵理，角田 愛，木下 成美，宮坂 純香，武田 睦子， <u>上野 栄一</u>
78. 乳がんの術前化学療法後に全摘術を受けた患者の心理的援助	共著	平成 23 年 1 月	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 41 号 P. 387-390	術前化学療法を受けたが腫瘍の縮小率が少なく全摘術になった乳癌患者 2 名を対象に、術前、術後、現在に至る心理的状況を面接および看護記録から調査し、援助のあり方を検討した。入院時は、乳房喪失感よりも生命の危険性を考え、全摘術になることは十分覚悟できていたが、手術や麻酔に対する不安が強く、いくつもの要因が重なり不安がピークに達していた。患者個々の問題や不安を正しく評価し看護師の思い込みで援助してはならない。手術後から退院以降では、転移や再発に対する不安が大きいことを理解し、乳癌に罹患する前の自分を保持できるように再構築への援助が必要である。 担当部分：結果、まとめ 共著者：小倉 弘子，石倉 誠子， <u>上野 栄一</u>

79. 看護師のスピリチュアルケア測定尺度の開発	共著	平成 23 年 2 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)10 巻 1 号 P.15-27	本研究では、看護師のスピリチュアルケア測定尺度の開発を目的とした。対象は、看護師 374 名。スピリチュアルおよび看護師のスピリチュアルケアについて、自由記載によるアンケート調査を実施し、帰納法的に概念を抽出、さらに文献に依拠した概念を抽出した後、質問紙原案を作成し因子分析した。その結果、第 1 因子は「霊的アプローチ」、第 2 因子「死生観」、第 3 因子「自然と他者との関係性」、第 4 因子「生きる意味」、第 5 因子「愛と受容」、第 6 因子「永遠のいのちへの希望」と命名された。合わせて 6 因子 60 項目で構成した尺度が開発された。本尺度の信頼性係数は全体で、0.9 以上を示した。また、本尺度と「スピリチュアリティ測定尺度」との相関は高かった。以上のことから、本尺度は高い信頼性と妥当性のあることが検証された。 担当部分：統計解析 共著者：江口 富子，落合 宏，塚原 節子，<u>上野 栄一</u>
80. 介護老人保健施設における要介護高齢者の自己を生きる思い	共著	平成 23 年 3 月	畿央大学紀要(1349-5534)13 号 P. 43-50	要介護高齢者(以下、高齢者)への面接調査の結果、高齢者の自己を生きる思いは 5 カテゴリーに分類された。高齢者は、自己の身体上に起こっている現実を【病気による身体的苦痛と不自由】と意識し、介護老人保健施設(以下、施設)を【自分の生活の場】であるという思いを抱いていた。また、【支えてくれる人と帰れる家】があることで自己を支え、高齢者は過去の自己の人生を【自身への誇りと回顧】していた。さらに、高齢者は人生の最終段階としての最大の課題である死を意識しながら、【生きがいと死】という思いを抱きながら自らの老いを生きていた。この結果から、高齢者がその人らしく老いを生きるために、看護職者は、施設で他者とともに生活する高齢者の自己実現に向けた援助、入所している高齢者相互間の関係を築くための援助を実践していく必要性が示唆された。 担当部分：解析 共著者：船瀬 孝子，上平 悦子，明神 一浩，<u>上野 栄一</u>

81. データマイニングを用いた精神看護学実習における学習内容の分析	共著	平成 23 年 3 月	滋賀医科大学看護学ジャーナル (1348-7558)9 巻 1 号 P. 67-72	精神看護学実習における学生の学びをデータマイニングを用いて明らかにすることを目的に、3～4 学年にかけて精神看護学実習を履修した看護大学生 60 名の実習記録を電子テキスト化し、形態素分析により名詞・動詞ごとの出現頻度を算出し、名詞を類似性に基づいてグループ化し、研究者が特徴的と考えた動詞と連動する文脈をコロケーション解析した。その結果、【対人専門職としての治療的関係を築く術】【精神障害者のノーマライゼーション】【看護過程の展開】【指導者も含めたグループ学習における相互作用】の 4 つのカテゴリーが抽出された。 担当部分：解析 共著者：田中 智美，瀧川 薫，<u>上野 栄一</u> 目的：看護学生 92 名の読後感想文をデータマイニングの概念に基づいて解析し、絵本の教材化の観点から学生の学びの特徴を明らかにし、今後の学習支援のあり方に示唆を得ることである。方法：絵本「くまのこうちようせんせい」の読後感想文をデータマイニングに基づき形態素解析し分類された単語(名詞・動詞)をコロケーション解析した。分析の手順は、(1)記載文の電子テキスト化、(2)形態素解析の実行、分析単位は単語(名詞・動詞)の出現頻度を算出、(3)名詞を類似性に基づいてグループ化、その因子をネーミング、(4)出現頻度を参考に研究者が特徴的(学生の学びを形成する単語)と捉えた動詞と連動する先行・後続文脈を調べるコロケーション解析である。結果：学生の読後感想文の名詞から【対人関係】、【コミュニケーション・相互作用】、【学習】、【環境】、【時間】の 5 因子を生成した。また、動詞においては学生の学びを構成している内容であり、対人関係を学ぶための準備性に必要な項目に相当していた。結論：名詞の分析によって【対人関係】、【コミュニケーション・相互作用】、【学習】、【環境】、【時間】の 5 因子が抽出され、学習内容を提示するための項目の形成を示した。また、動詞の分析によって学生の学びの視点を捉えることが可能となり、絵本のもつ言語的・非言語的刺激が学習への動機づけに関連していた。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者：一ノ山 隆司，村上 満，舟崎 起代子，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資
82. 絵本の教材化と対人関係の教育に関する研究 言語的・非言語的刺激を用いた対人教育の効果	共著	平成 23 年 3 月	共創福祉 6 巻 1 号 P. 27-36	共著者：田中 智美，瀧川 薫，<u>上野 栄一</u> 目的：看護学生 92 名の読後感想文をデータマイニングの概念に基づいて解析し、絵本の教材化の観点から学生の学びの特徴を明らかにし、今後の学習支援のあり方に示唆を得ることである。方法：絵本「くまのこうちようせんせい」の読後感想文をデータマイニングに基づき形態素解析し分類された単語(名詞・動詞)をコロケーション解析した。分析の手順は、(1)記載文の電子テキスト化、(2)形態素解析の実行、分析単位は単語(名詞・動詞)の出現頻度を算出、(3)名詞を類似性に基づいてグループ化、その因子をネーミング、(4)出現頻度を参考に研究者が特徴的(学生の学びを形成する単語)と捉えた動詞と連動する先行・後続文脈を調べるコロケーション解析である。結果：学生の読後感想文の名詞から【対人関係】、【コミュニケーション・相互作用】、【学習】、【環境】、【時間】の 5 因子を生成した。また、動詞においては学生の学びを構成している内容であり、対人関係を学ぶための準備性に必要な項目に相当していた。結論：名詞の分析によって【対人関係】、【コミュニケーション・相互作用】、【学習】、【環境】、【時間】の 5 因子が抽出され、学習内容を提示するための項目の形成を示した。また、動詞の分析によって学生の学びの視点を捉えることが可能となり、絵本のもつ言語的・非言語的刺激が学習への動機づけに関連していた。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者：一ノ山 隆司，村上 満，舟崎 起代子，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資

83. 看護学生に対する喫煙防止教育の効果 喫煙行動・喫煙に関する知識・喫煙に対する態度への介入	共著	平成 23 年 6 月	日本看護医療学会雑誌(1345-2606)13 巻 1 号 P.3141	目的:看護学生を対象に、介入群に喫煙防止教育を実施し、対照群との喫煙行動、喫煙に対する態度、喫煙に関する知識の経時的変化の違いから、介入の効果を明らかにする。方法:看護学生 1 年次生 291 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。介入群(59 名)と対照群(232 名)に、第一次調査は平成 19 年 4 月、第二次調査は平成 19 年 10 月に実施した。教育的介入は介入群に、平成 19 年 7 月に実施した。介入は講義と演習を組み合わせて行った。結果:173 名(介入群 43 名、対照群 130 名、有効回答率 60%)を分析対象とした。喫煙率は、両群で有意な変化はなかった。喫煙に関する態度は、介入群で否定的に変化していたが、対照群では肯定的に変化していた。喫煙に関する知識は両群とも向上がみられ、特に介入群で有意に向上した。結論:介入による喫煙に関する知識の向上の効果を明らかにすることができた。そして介入により喫煙に対する態度を否定的な方向へ変化させる可能性があることについても示唆された。 担当部分:解析 共著者:長谷川 智子, <u>上野 栄一</u>, 佐々木 百恵, 吉田 華奈恵, 礪波 利圭
84. COPD 患者の療養状況による自己管理情報ニーズの違い Lung Information Needs Questionnaire(LINQ)を用いた実態調査	共著	平成 23 年 10 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)21 巻 2 号 P.153-158	COPD 患者の、療養状況による自己管理情報ニーズの違いを明らかにすることを目的に調査を行った。LINQ を用いた情報ニーズ調査の結果、全体に自己管理、栄養、運動に関する情報ニーズが高く、76 歳以上の患者は 75 歳以下に比べ自己管理、栄養、運動に関する情報の必要度が有意に高かった($p<0.05$)。特に高齢者へは栄養や運動などの生活に即したセルフマネジメントができるための支援が必要である。 担当部分:解析結果 共著者:上木 礼子, 長谷川 晴美, 長谷川 智子, 上原 佳子, 佐々木 百恵, 吉田 華奈恵, 良 貴子, 門脇 麻衣子, <u>上野 栄一</u>, 中村 康孝, 石崎 武志

85. 異なる水質への入浴による保温効果と気分の違い	共著	平成 23 年 12 月	日本看護医療学会雑誌(1345-2606)13 巻 2 号 P.26-35	本研究は水道水・人工浴用剤水・温泉水への入浴による、保温効果と気分への影響の違いを明らかにし、看護の中での人工浴用剤の活用の基礎資料とすることを目的とした。対象者は、20 歳代男性 12 名で慢性疾患及び心疾患や高血圧等の循環器疾患、皮膚疾患のない者とした。対象者は、実験の説明を受けた後で、3 条件の異なる水質への入浴を行った。実験は、10 分間の安静座位の後で、38℃に設定した湯に 30 分間入り、入浴終了後に再度、30 分間の安静座位を行った。調査内容は、保温効果指標として深部体温(腋窩温)、末梢体温(右中指温)、気分の指標として、日本語版 POMS、唾液中コルチゾールの測定を行なった。保温効果指標の深部体温では、[温泉水]への入浴では温熱作用が緩やかに伝わる事が明らかになった。また、末梢体温では[浴用剤水]への入浴で末梢体温の保温状態が持続することが明らかになった。気分の指標は、日本語版 POMS は 3 条件共に入浴前と比べ入浴後に『抑鬱-落ち込み』『怒り-敵意』『混乱』の気分が低下し、『活気』が高まった。しかし[温泉水]では『疲労』も入浴前と比べ入浴後に高まった。本研究においては[浴用剤水]の入浴において、入浴中の末梢保温状態が入浴後も持続した。また 3 条件共に入浴によって気分が「快」になることが明らかになった。 担当部分：解析 共著者：礪波 利圭，長谷川 智子，上原 佳子，佐々木 百恵，吉田 華奈恵，<u>上野 栄一</u>
86. 出産した子ども数の決定影響要因 50 歳代の夫婦	共著	平成 24 年 2 月	日本看護学会論文集：母性看護(1347-8230)42 号 P.96-99	50 代の夫婦が出産した子どもの数とその決定要因を明らかにすることを目的にアンケート調査を行い、114 組の夫婦より回答を得た。その結果、子ども数は 2 人(44.7%)と 3 人(43%)で大半を占めた。また、出産した子ども数の決定要因は、多く挙げられた順に、「住宅状況」「夫婦の年齢」「夫の協力」「母親の健康状態」などであった。 担当部分：解析 共著者：山内 弘子，高間 静子，<u>上野 栄一</u>

87. 頭頸部外科領域における術後せん妄発症要因の検討 内容分析、セブン・クロス（7×7）法の分析より	共著	平成 24 年 3 月	富山大学看護学会誌(1882-191X) 11 巻 1 号 P. 9-18	本研究の目的は、頭頸部外科病棟に勤務する経験豊富な看護師が考える術後せん妄発症要因は何かを明らかにして、臨床での術後せん妄発症患者に対する看護実践への示唆を得ることである。対象は、A 大学医学部附属病院頭頸部外科病棟に勤務する頭頸部外科勤務経験 5 年以上の看護師 5 名とした。術後せん妄発症要因について半構成的面接を実施、結果は K. Krippendorff の内容分析手法およびセブン・クロス法にて分析した。内容分析の結果から【性格特性】、【理解力不足】、【長期安静】、【高齢】、【不眠】、【男性】、【独居】の 7 つのカテゴリーが生成された。セブン・クロス法の結果から、優先順位が高い順に【不眠】、【性格特性】、【高齢】、【長時間手術】、【術中出血量】、【眠剤の影響】、【術前不安】の 7 つのカテゴリーが生成された。内容分析とセブン・クロス法の両方に含まれていたのは、【高齢】、【不眠】、【個人特性】の 3 つのカテゴリーであった。この結果から今後の術後せん妄看護についての示唆を得た。 担当部分：内容分析 共著者：松浦 純平，喜田 加奈子，<u>上野 栄二</u>
88. テキストマイニングによる看護師の考える術後せん妄発症予測について	共著	平成 24 年 3 月	日本看護学会論文集：成人看護 I (1347-8192) 42 号 P. 62-65	一般外科病棟に勤務する臨床看護経験が豊富な看護師が考える術後せん妄発症予測要因を明らかにすることを目的に、一般外科領域における臨床経験 5 年以上の当該看護師 20 名へ半構成的面接を行った。逐語録のテキストマイニングによる内容分析の結果、経験豊富な看護師は、術後せん妄発症予測につながる前駆症状として、「術後患者の体動増加」「不眠」「手術前と異なる患者の表情」「言語的・非言語的コミュニケーションを通して感じる患者の認識の変化」「幻覚や失見当識の出現の有無」「患者の不快感に関する訴え」などを重要な観察の視点として捉えていることが分かった。 担当部分：解析 共著者：松浦 純平，喜田 加奈子，福田 弘子，<u>上野 栄一</u>，水野 正延

89. 看護師の属性からみた倫理的問題と対処行動との関連	共著	平成 24 年 3 月	日本看護学会論文集：看護総合 (1347-815X) 42 号 P. 316-318	看護師 126 人を対象に質問紙調査を行った。日々の看護業務の中で倫理的ジレンマを感じたことがあると回答したのは 89.7%であった。看護師の属性と倫理的問題 20 項目、対処行動 20 項目との関連はなかったが、重回帰分析の結果、倫理的ジレンマと個人背景のチームワークとやりがいに有意差がみられた。職場で倫理的な問題を検討する機会があるか否かについては、約 40%が「ない」と回答した。相談対象の上司、先輩、同僚については約 80~90%が「よく聞いてくれる」「まあまあ聞いてくれる」と回答し、医師については「少し聞いてくれる」が最も多く 40.5%、次いで「あまり聞いてくれない」が 29.4%であった。医療チーム全体のコミュニケーションの円滑化が重要である。 担当部分：統計解析 共著者：舟崎 起代子，田中 志穂，梁川 由美，大浦 千恵，立野 恵子，<u>上野 栄一</u>
90. 精神科急性期における心的外傷体験に遭遇した看護職のストレス反応とその関連要因	共著	平成 24 年 3 月	滋賀医科大学看護学ジャーナル (1348-7558) 10 巻 1 号 P. 28-33	患者からの心的外傷体験に遭遇した精神科の急性期看護を担う看護職のストレス反応とコーピング特性、体験した看護職の属性との関連を検討した。対象は、公立・私立の精神科病院で急性期治療病棟および精神科救急病棟に勤務する看護職 171 名とした。ストレス反応の指標に出来事インパクト尺度 (IES-R) を、コーピングの方法はコーピング特性簡易尺度 (BSCP) を用いた。対象者の約 9 割には心的外傷体験があった。精神科勤務年数が長いほど、その機会が増大していた。患者の疾患と心的外傷体験の種類には関連が見られた。IES-R の結果では、13.7%の看護師がハイリスク群に該当した。心的外傷体験に影響を及ぼす要因としては、体験後の辞職希望の有無があった。ハイリスク群の看護職は「問題解決のための相談」「回避抑制」というコーピングを多く用いる傾向があった。 担当部分：統計解析 共著者：田中 智美，清水 純，<u>上野 栄一</u>，<u>瀧川 薫</u>
91. 7 対 1 と 10 対 1 看護体制別でみた職務満足の違いの検討	共著	平成 24 年 4 年	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 42 号 P. 424-427	500 床以上の病院 6 施設に勤務している看護師 1141 名を勤務体制別に 7 対 1 群 (565 名) と 10 対 1 群 (576 名) に分け、尾崎の『職務満足尺度』による得点を比較した。その結果、各群の総得点平均は 7 対 1 群が 153.2 点、10 対 1 群が 143.6 点であり、7 対 1 群のほうが有意に高かった。ローテーション研修の有無別で職務満足度を比較したところ、有り群が有意に高かった。年齢別、経験年数別、勤務年数別、職位別、最終学歴別による比較も行ったところ、全て

92. 組織貢献意識尺度の信頼性・妥当性の検討	共著	平成 24 年 4 月	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 42 号 P. 466-469	の比較で有意差が認められた。 担当部分：統計解析 共著者：明神 一浩，<u>上野 栄一</u>，前川 哲弥 先行研究に基づき、組織貢献意識を構成する概念は「組織の目的達成」「専門職としての自律性の発揮」「組織変革への寄与」「責任意識を持った組織活動」であると考え、これら 4 概念を測定する質問紙原案(各概念 6 項目、計 24 項目)を作成した。その信頼性・妥当性について検討するため、350 床以上の総合病院 2 施設に勤務する看護師 471 名に試用した。回答の因子分析を行った結果、以下の 4 因子(計 14 項目)が抽出され、各項目の妥当性や尺度の信頼性に問題はないことが確認された。1)組織目標達成への積極性。2)組織の発展と自律性の発揮。3)組織変革への寄与。4)組織活動における責任意識。 担当部分：統計解析 共著者：近藤 やよい，藤本 ひとみ，<u>上野 栄一</u>，高間 静子
93. 妄想のある統合失調症患者との対話場面におけるコミュニケーション技法	共著	平成 24 年 4 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985) 42 号 P. 137-140	妄想のある慢性期の統合失調症患者(30 代男性)と看護師(60 代男性)の対話場면을録音し、トランスクリプト表示した会話内容から妄想場面における看護師の対応とコミュニケーションの特徴を抽出した。妄想に関する 4 場面が抽出され、患者の妄想体験に看護師が対応していた各場面を分析した結果、「メタファー的な要素に相当する看護師の言葉」「表現の促しに相当する看護師の言葉」「焦点化に相当する看護師の言葉」の三つの技法の活用が明らかになった。看護師の言葉の特徴は、表現の促しや、感情の明確化であり、そこでは相槌を意図的に活用し、看護師は患者の視点に合わせて、妄想体験を否定しない態度に徹し、患者の感情表現を促していた。 担当部分：解析 共著者：一ノ山 隆司，舟崎 起代子，松浦 純平，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資

94. 精神臨床看護検討レポート (case18) (最終回) 病的体験の幻聴に対して患者の自己対処力を高めるアプローチ	共著	平成 24 年 12 月	臨床看護 (0386-7722) 36 巻 14 号 P. 1900-1906	幻聴がある入院中の統合失調症患者 2 名 (40 代前半男性、40 代後半男性) に対し、幻聴への対処力を高めるため心理教育的アプローチとしてビデオ学習、テキスト活用、社会生活技能訓練 (SST) を段階的に実施し、その効果を陽性・陰性症状評価尺度 (PANSS) を用いて検討した。その結果、幻聴に対する自己対処力が高まり、自己コントロールが可能となったことで、2 事例とも陽性症状に改善が認められた。 担当部分：解析 共著者： 一ノ山 隆司、崎 起代子、村上 満、川野 雅資、 <u>上野 栄一</u>
95. 看護学生の禁煙支援力尺度の開発	共著	平成 24 年 12 月	福井大学医学部研究雑誌 (1348-8562) 13 巻 1-2 号 P. 19-29	看護学生が禁煙支援を実施できる能力・態度・資質を測定し、禁煙支援者育成教育の客観的評価の指標として使用することが可能となる禁煙支援力尺度の開発と信頼性・妥当性を検討した。尺度を構成する因子として、「リーダーシップ力」「喫煙の有害性の説明能力」「コミュニケーション力」「企画立案力」「喫煙への態度」の 5 因子 18 項目が抽出された。禁煙支援力を構成する概念として研究者が考えていた尺度原案のうち、喫煙に関連した内容である、非喫煙維持行動、喫煙に関する意識、禁煙支援者としての役割への意識の計 40 項目のうち、項目分析で偏りが強かったことでその 6 割が削除された。項目分析で項目として残った内容は、喫煙に対する否定的態度の 3 項目と、禁煙支援の知識に関する 3 項目であった。保健指導力に関しては、予想していた 7 項目から最終的に「リーダーシップ力」「コミュニケーション力」「企画立案力」の 3 項目に絞られた。 担当部分：解析 共著者： 上原 佳子、長谷川 智子、佐々木 百恵、北野 華奈恵、礪波 利圭、 <u>上野 栄一</u> 、石崎 武志

96. 転倒・転落に対する看護師の意識変化 定期的なカンファレンスで看護計画の評価を行って	共著	平成 25 年 3 月	日本看護学会論文集：看護総合、43 号 P. 263-266	カンファレンスで看護計画を評価することで、患者の転倒・転落防止に対する看護師の認識や行動は変化するかどうかを明らかにするため、病棟看護師 17 名を対象として調査を行った。週 1 回のカンファレンスで対象患者を 1 人決め、転倒・転落リスクや離床センサー「マッタ君」の必要性の検討に加え、看護計画の評価・修正を行った。カンファレンスを強化した後は、チームモニターとコミュニケーションの「認識」と「行動」が高まった。カンファレンスで看護計画の評価を行うことで、転倒・転落リスクのある患者の疾患や歩行状態、転倒・転落予防に対する患者自身の理解度などの情報を、それぞれの看護師が持ち寄り、情報を共有し、患者に対する共通認識を持つことができた。その上で、アイデアを出し合って患者に合わせた個別性のある転倒・転落予防対策を考え、その場でタイムリーに計画に反映させることで、どの看護師も統一した行動が取れるようになった。 担当部分：データ解析 共著者：三竹 香，竹島 裕恵，大谷 麻里子，中島 正喜，大森 貞， <u>上野 栄一</u>
97. ICU における PNS (Partnership Nursing System) の現状と課題	共著	平成 25 年 4 月	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 43 号 P. 195-198	新看護方式パートナーシップナーシングシステム (PNS) 導入から 1 年が経過した ICU における現状と課題を明らかにするため、ICU 看護師 15 名を対象に、ケアに関する 6 項目、効率化に関する 7 項目、対人関係に関する 7 項目の質問紙調査を行った。また、自由記載をテキストマイニングソフトウェアを用いて分析した。「できる」「ややできる」と回答した割合は、患者ケアで平均 92%、効率化で 86%、対人関係で 86%であった。ペアで患者を受け持つことで協働関係が生まれていた。PNS はスタッフの精神的な負担の軽減、知識の共有、業務の効率化などに効果的であった。PNS の今後の課題は、信頼関係の確立や対等な関係を保つためのコミュニケーションスキルを養うことである。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者：片山 静，青池 智小都，北川 康代，桑原 勇治，蔵田 恭子，高山 裕喜枝， <u>上野 栄一</u>

98. 糖尿病患者のセルフケア能力を測定するための尺度開発 基本的概念枠組みの特徴について	共著	平成 25 年 4 月	日本看護学会論文 集：看護管理 (1347-8184) 43 号 P. 275-278	糖尿病患者のセルフケア能力を測定する尺度を開発するため、演繹的・帰納法的に抽出した 100 項目についてテキストマイニング手法を用いて、その特徴を明らかにした。セルフケア能力を測定する構成概念は、生活習慣(23 項目)、認知レベル(40 項目)、身体症状(13 項目)、精神-心理的側面(10 項目)、ソーシャルサポート(3 項目)、対処行動レベル(11 項目)の六つであった。単語レベルでの質問項目の特徴としては、「知る」「インスリン」「自分」「糖尿病」「足」「症状」「多い」「高血糖」「食品交換表」「低血糖」「薬」の使用頻度が高かった。糖尿病患者のセルフケア能力の評価は、認知レベルでの評価が特に重要であり、段階的に評価することが重要であることが示唆された。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者：<u>上野 栄一</u>，大西 みさ
99. 片麻痺患者の日常生活における危険防止のためのコーピング行動の特徴 テキストマイニングによる分析	共著	平成 26 年 3 月	日本看護学会論文 集：看護総合 (1347-815X) 44 号 P. 138-141	A 県内のリハビリクリニックに通院する発症後 5 年以上経過した屋外歩行自立している片麻痺患者の日常生活における危険防止のためのコーピング行動の特徴について検討した。50 名の対象者に、敷居や段差のあるところ、平らな所、畳み上、階段の昇降時、ビニール素材の床、浴室内、雨の日道路の歩行時、信号機のある横断歩道の歩行時、履物の選択方法、人の多い場所、荷物を持つての歩行時に転倒しないためにとってのコーピング方法について尋ねる質問紙調査を実施した。有効回答数は 34 名(男性 23 名、女性 11 名)であった。テキストマイニング(TM)による分析の結果、危険防止のためのコーピング行動の特徴として歩行と手すりが抽出された。歩く、については「歩行時の工夫」「歩行時の心構え」「足元の確認」「歩き方」「麻痺側の意識」等のコーピング行動があった。手すり、については「階段昇降時の工夫」「家屋の改造」「生活場面」等のコーピング行動があった。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者： 藤本 ひとみ，高間 静子，<u>上野 栄一</u>

100. EGFR 阻害薬治療を受ける大腸がん患者の QOL の経時的変化とその影響	共著	平成 26 年 4 月	日本看護学会論文集：成人看護 II (1347-8206) 44 号 P. 113-116	大腸がん治療に用いられる EGFR 阻害薬は、副作用として皮膚障害が 80%以上の頻度で出現し、その出現と重症度は治療効果にほぼ比例するといわれている。今回、皮膚障害の出現が QOL に与える影響を明らかにするため、外来で EGFR 阻害薬治療を受けている大腸がん患者 21 例を対象に、皮膚疾患特異的 QOL 尺度(Skindex-16 日本語版)を用いた調査を行い、以下の結論を得た。1)皮膚障害の「ざ瘡」は QOL の感情領域に強い影響を及ぼす。2)皮膚障害の「爪囲炎」は QOL の症状領域に強い影響を及ぼす。 担当部分：統計解析 ：久保 博子, 木谷 智江, 中川 敦子, 藤田 弘子, 広田 法子, 金 祥恵, 富永 知恵子, <u>上野 栄一</u>
101. 看護専門学校 3 年課程の看護教員集団の教師教育の実態 看護教員集団のグループインタビュー分析より	共著	平成 26 年 4 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 44 号 P. 260-263	A 看護専門学校(都会に位置し規模が大きい)に所属経験のある看護教員 6 名と、B 看護専門学校(郊外に位置し規模が小さい)に所属経験のある看護教員 4 名に対してそれぞれフォーカスグループインタビューを行い、「どのような教師教育をしているか」「どのような教師教育を受けているか」「教師教育に対する思い」の 3 点について聴取し、修正版グラウンデッド・セオリアプローチに準拠して分析を行い、カテゴリー化した。分析テーマは「看護教育に対して困難さを感じている看護教員と看護教員集団の特徴および教師教育の取り組みとその結果」とした。分析の結果、A 校・B 校とも以下の 3 カテゴリー、1)発達段階にある教育、2)アリング的な教育、3)入職時の教員の姿が抽出された。 担当部分：カテゴリー化 共著者： 梶谷 薫, 北出 千春, 石橋 千夏, 松岡 小百合, <u>上野 栄一</u>

102 看護専門学校の教師集団における教師教育の実態 テキストマイニングによるデータ分析から	共著	平成 26 年 4 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 44 号 P. 264-267	A 看護専門学校(都会に位置し規模が大きい)に所属経験のある看護教員 6 名と、B 看護専門学校(郊外に位置し規模が小さい)に所属経験のある看護教員 4 名に対してそれぞれフォーカスグループインタビューを行い、「教師教育の現状とその思い」について聴取し、テキストマイニングソフト Studio を用いて単語の出現頻度を分析するとともに、単語間の共起関係について分析した。結果、A 校・B 校とも[学生][先生][言う][凄い]などの単語が頻出し、共起関係については A 校で[学生][先生][自分]が多くの単語と共起関係にあり、B 校では[人][凄い][学生]が多くの単語と共起関係にあった。詳細な分析の結果、両校ともに教師教育はプログラムされておらず、インフォーマルな同僚との関係によって教員が教師として成長していることがわかった。また、教師教育を阻む組織の特徴として、A 校では派閥が存在する官僚主義的な組織の姿があり、B 校では倫理的に問題となる管理者やハラスメントの存在があった。 担当部分：テキストマイニング解析 共著者：
103. 背景別にみた看護学生の自己健康管理モニタリングの比較	共著	平成 26 年 6 月	富山大学看護学会誌(1882-191X) 14 巻 1 号 P. 81-90	北出千春, <u>上野 栄一</u>, 梶谷 薫 本研究は、看護学生の自己健康管理モニタリング測定尺度を使用し、背景別に比較し教育的示唆を得ることを目的とした。対象は看護学生 1,056 名。「就学態度の自律性」、「対人関係の健全性」、「思考の健全性」、「食生活の健全性」、「対処行動能力」、「身体変調の注意力」、「予防行動力」の 7 つの下位概念からなる 30 項目の質問紙調査表を使用した。結果、「性別」、「年齢」、「学年」、「学校種別」、「家族との同居の有無」、「アルバイトの有無」、「平均睡眠時間」、「運動習慣」、「健康への気づかひの程度」に特徴的な有意差が認められた。自己健康管理できていない看護学生に対し、健康管理できるように、まず自分の状況・状態を捉えられているかを知ること、すなわちモニタリングできることが自己健康管理する上で必要であり、本研究は、対象の背景や生活状況と自己モニタリングとの関係を明らかにした。今後、自己健康管理指導時の教育的資料となる。 担当部分：統計解析 共著者： 成瀬 早苗, <u>上野 栄一</u>

104. NANDA-I「急性混乱」の変遷およびその特徴について	共著	平成 26 年 7 月	看護診断 19 号 : p2 : 112-113 発行年 : 2014 年 07 月 12 日	担当部分 : 統計解析 共著者 : 松浦純平、上野栄一
105. 看護実践レポートからみる、私たちの看護の容”(かたち)”	共著	平成 26 年 9 月	看護実践の科学 (0385-4280) 39 巻 10 号 P. 55-62	ナラティブを取り入れた看護実践レポートから Benner の看護実践領域分類およびテキストマイニングを用いて看護の「容(かたち)」を表出した。富山市民病院において平成 17 年から 2010 年の 5 年間に提出された実践レポート約 200 題のうち、患者への直接的な看護実践以外のテーマのもの(個人の思い、自己啓発、スタッフ育成、看護管理など)を除いた 187 題を分析対象とした。Benner が看護師へのインタビューを用いて抽出した臨床実践内容の 7 領域は、1) 援助役割、2) 教育とコーチングの機能、3) 診断とモニタリングの機能、4) 容態の急変を効果的に管理する、5) 治療処置と与薬を実施し、モニターする、6) 医療実践の質をモニターし、確保する、7) 組織能力と役割遂行能力であった。提出されたレポートではどの領域の看護実践が看護師の心に留まる実践としてあげられているか分類した。一番多くあげられていたのは(1)援助役割 118 題、次いで(2)教育とコーチングの機能 46 題、(3)診断とモニタリングの機能 12 題などであった。 担当部分 : 分析 共著者 : 神保 浩子, <u>上野 栄一</u> , 八塚 美樹
106. 看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度の開発	単著	平成 26 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会年報 (1880-4543) 20 巻 P. 59-69	総合病院 5 施設の看護師 426 名にアンケートを行い、「看護学生に求めるコミュニケーション能力」(4 つの質問)について自由記述で回答を求め、その結果をもとに「看護学生に必要なコミュニケーション能力」178 項目を抽出し、看護学生用の質問紙原案を作成した。そして、この原案による調査を看護系大学 5 校の学生 372 名に実施し、得られた回答をもとに、信頼性・妥当性の検証と因子分析(主因子法・プロマックス法)を行った。結果、『看護学生の段階的コミュニケーション能力評価尺度』を構成する因子として以下の 9 因子が抽出され、本尺度の信頼性・妥当性は高いことが確認された。1) 積極的傾聴。2) アサーション。3) 音響学的配慮。4) 係わり。5) 人間尊重。6) 観察。7) 感情コントロール。8) フォーカシング。9) 言語化。 <u>上野 栄一</u>

107. 在宅片麻痺療養者の自律度測定尺度の開発	単著	平成 26 年 9 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)37 巻 4 号 P.23-30	【目的】本研究の目的は、在宅で生活する片麻痺療養者の自律度測定尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することである。 【方法】在宅片麻痺療養者の自律度尺度試作案は、質問 46 項目のリッカートスケールとした。対象者 145 名に面接法で実施した。 【結果】主因子法プロマックス回転にて、因子分析を実施し、第 1 因子は「周囲に支えられた在宅生活」、第 2 因子は「在宅で前向きに生きる意欲」、第 3 因子は「在宅における安全な生活動作の工夫」の計 16 個の質問項目を採用した。信頼性は Cronbach の α 係数 0.783 であり、内的整合性が確認できた。 【結論】本尺度は、在宅で日常生活を送る片麻痺療養者自身が短時間に自己評価できる尺度であり、療養者自身の判断材料となる。また、主介護者から自律を尊重されるきっかけとなり得る。 担当部分：統計解析 共著者：統計解析と考察 横山 孝枝，<u>上野 栄一</u>
108. 胃瘻患者における在宅介護の成功要因の検討 二者の介護を行う男性介護者の語りから	共著	平成 26 年 12 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)14 巻 2 号 P.159-171	本研究ではアルツハイマー型認知症の妻を介護しながら、パーキンソン病で胃瘻造設を行った実母を介護する男性介護者のケースに着目する。この二者の介護を行う男性介護者が胃瘻管理を含め介護を前向きに取り組んでいる要因は何かを検討し、その要因を抽出することを目的とした。本研究では面接調査方法を用い、半構造化インタビューによりデータ収集を行った。その後、「KH Coder」を使用し内容分析を行った。今回は共起ネットワーク分析と対応分析により質的データを可視化した。結果、(1)介護と死を自分も含めた人間の通る道としての受容。(2)被介護者への感謝の思いや経済的基盤の安定。(3)制度の利用に加え、医療従事者との関わりの多さ。(4)被介護者の状態が落ち着いていること。(5)自分の殻に閉じこもらず、自ら他者に働きかけていく介護者の特性。以上 5 要因が抽出できた。これらの結果から、医療者には介護者が孤立しない配慮が必要である。 担当部分：統計解析 共著者：杉島 優子，<u>上野 栄一</u>
109. 年次看護学生の行動規範と職業的アイデンティティの関連	共著	平成 27 年 3 月	日本看護学会論文集：看護教育(1347-8265)45 号 P.75-78	A 看護専門学校で、全ての臨地実習を終えた 84 名を対象に、西山らの『行動規範の自己評価表』(以下 A)と、藤井らの『医療系学生における職業的アイデンティティ尺度』(以下 B)を用いた調査を行い、両指標の相関性について検討した。結果、A の下位因子[実習態度の向上]と B の下位因子[医療職の選択と成長への自信][医療職として必要とされることへの自負][社会への

110. 看護師が体験する造血幹細胞移植を受ける患者・家族への困難な看護介入 自由記載内容の分析から	共著	平成 27 年 3 月	滋賀医科大学看護学ジャーナル (1348-7558) 13 巻 1 号 P. 23-26	貢献の志向]との間に有意な相関が認められた。また、A の下位因子「医療者としての人格形成」と B の下位因子[医療職観の確立]との間に有意な相関が認められた。小坂美映子, <u>上野 栄一</u> 本研究の目的は、移植を受ける患者・家族への困難な看護介入について看護師の体験の実際を明らかにし、看護のあり方について検討することである。調査票に、移植看護に携わるなかで患者・家族への看護で困難だった出来事について記入を求める自由記載欄を設け調査を行った。調査票は 251 部配布し、192 部の回収(回収率 76.5%)であった。そのうち、自由記載欄への回答のあった者は 37 名(回答率 14.7%)であった。自由記載文は約 4255 文字で、看護師 1 人につき約 115 文字であった。分析の結果、看護師が体験する移植を受ける患者・家族の困難な看護介入として、【移植と向き合い揺れ動く患者の精神的支援】、【医師との協働にジレンマを抱く】、【移植に対して後悔を残さないための意思決定支援】、【患者-家族関係の調整を図る援助】、【合併症と副作用に対する患者の理解とその対応】、【移植後の急変時における患者の希望の事前確認】、【ADL が低下した状況下での移植への介入】が明らかとなった。 担当部分：質的解析 共著者： 田中 智美, 瀧川 薫, <u>上野 栄一</u>, 木藤 克之, 藤野 みつ子
111. 造血幹細胞移植を選択する患者への看護師の意思決定支援と影響要因 医師からの移植説明時における看護援助の実際	共著	平成 27 年 3 月	滋賀医科大学看護学ジャーナル (1348-7558) 13 巻 1 号 P. 27-30	本研究の目的は、移植を選択する患者への意思決定における看護師の支援の実態と、その影響要因を明らかにすることである。同意の得られた病院の看護師に対して質問紙調査を実施した。調査内容は、属性以外に移植の説明時における看護援助や心理・社会的支援に関する看護援助について調査を行った。調査票は 251 部配布し 192 部回収(回収率 76.5%)された。そのうち有効回答数は 189 名(75.3%)で、これらを分析対象とした。その結果、医師からの移植の説明時における看護援助では、【情報提供と医師との連携】 【説明内容の理解と精神的支援】 【権利と意思の尊重】 の 3 つの因子が抽出された。また、移植を選択する患者に対する看護師の意思決定支援は、卒後教育における継続的な教育や学習経験が必要であることが示唆された。 担当部分：解析 共著者：田中 智美, 瀧川 薫, <u>上野 栄一</u>, 木藤 克之, 藤野 みつ子

112. フットケア外来における糖尿病指導効果に関する研究, 段階的なセルフケア評価質問紙(GSEQ)と間食に焦点をあてた解析から	共著	平成 27 年 3 月	日本糖尿病教育・看護学会誌(1342-8497)19 巻 1 号 P. 5-13	本研究の目的は, フットケア外来に段階的なセルフケア評価質問紙(GSEQ)を取り入れ, フットケアに加え間食を減らすための情報提供を行い, 間食に焦点をあてた解析から血糖コントロールや足病変の経時的変化を検討することである. 2 型糖尿病でフットケア外来に通院し研究の同意を得た外来患者 120 名に, 初回に GSEQ で情報収集と低値のセルフケア項目についての情報提供を同時に行い, 指導 6 ヶ月後, 1 年後, 2 年後に血糖コントロールと足の評価を t 検定(paired, t-test), Wilcoxon 符号付順位検定で分析した. 結果, GSEQ で最も点数が低く問題のある項目は「間食」であった, 間食 3 群(A: 毎日間食する, B: 時々する, C: 全くしない)の比較でみると, C 群が HbA1c, インスリン量, 足病変($p<0.001$)と振動覚閾値 VPT($p<0.001$)で最も改善した. 以上により, フットケア外来で血糖コントロールと足病変を改善するには, フットケアと CSEQ を初回に行い, 間食を減らすための情報提供を同時に行っていくのは有効であることが示唆された. 担当部分: 解析 共著者: 大西 みさ, <u>上野 栄一</u>
113. PNS を取り入れた A 病院におけるリーダー行動と、職位、経験年数、リーダー経験年数との関連	共著	平成 27 年 4 月	日本看護学会論文集: 看護管理 (1347-8184)45 号 P. 11-14	勤務帯リーダー役割自己評価尺度を用いてアンケート調査を行い、パートナーシップナーシングシステム(PNS)におけるリーダーの実際の行動を調べた。対象は PNS を取り入れた福井大学医学部付属病院の勤務帯リーダー経験のある病棟看護師 14 名で、全員から回答が得られた。職位に就いている看護師は、「業務遂行に必要な内容をメンバーが学習できる機会をつくる」「援助方法に関するメンバーとの話し合いを推進する」の自己評価が高かった。看護師経験年数とリーダー経験年数との間に相関関係があったのは、「病棟全体を見守り、先を見通しながら業務を進める」「病棟状況の変化に柔軟に対応する」であった。以上より、リーダーとして行動している内容が明らかになった。 担当部分: 解析 共著者: 前田 弥生, 三竹 香, 大森 貞, <u>上野 栄一</u>

114. PNS を取り入れた A 病院における理想のリーダー像、実際の行動、理想のリーダー像に近付くための課題	共著	平成 27 年 4 月	日本看護学会論文集：看護管理 (1347-8184) 45 号 P. 15-18	パートナーシップナーシングシステム (PNS) を取り入れた福井大学医学部付属病院の病棟看護師 18 名を対象として、リーダーの認識についてアンケート調査した。調査内容は属性、PNS における理想のリーダー像、実際の行動、理想のリーダー像に近づくための課題で、アンケート用紙に自由に記述させた。看護師経験 10 年目以上の看護師はタイムマネジメントできるリーダーを理想とし、実際の行動にもつながっていた。看護師経験 10 年目未満の看護師は業務の進捗に関しての役割を果たすリーダーを理想とし、実際に行動していた。リーダーの理想像に近づくには看護師経験に共通して努力と経験を課題とし、実践から経験を重ねるという自分自身の努力が求められていると認識していた。 担当部分：解析 共著者： 前田 弥生，三竹 香，大森 貞，<u>上野 栄一</u>
115. テキストマイニングによるアルコール依存症者の発言内容の分析	共著	平成 27 年 4 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985) 45 号 P. 215-218	A 病院では 2 週間に 1 回、アルコール外来を開設し、認知行動療法を主とした診察に加え、仲間同士の自助グループを通して断酒生活を支援する外来アルコールミーティング(ミーティング)を行っており、今回、ミーティングに参加している患者がどのような思いを抱いているのかを明らかにすることを目的に、平成 23 年 4 月～25 年 12 月のミーティングに参加した患者、延べ 630 名の発言内容を、テキストマイニングにより分析した。単語分析の結果、「自分」という言葉の出現頻度が 3 番目に多く、「自己中心的な自分」「自分の責任」「自分の意志で」「自分を振り返る」「自分にとって」など自己を意識した発言が聞かれ、断酒への強い意志とともに、自信がない「自分」が存在し、断酒することは自分一人では困難であるため、そうした「自分」を支えるため、「仲間」「家族」「自助グループ」の存在があることが窺えた。 担当部分：解析 共著者： 藤嶋 裕美，山本 育子，山口 達也，<u>上野 栄一</u>

116. 看護学生の自己健康管理モニタリング測定尺度の開発と信頼性・妥当性の検証	共著	平成 27 年 6 月	日本看護医療学会雑誌(1345-2606)17 巻 1 号 P. 33-42	【目的】本研究は、看護学生の自己健康管理モニタリング測定尺度を開発し、その信頼性・妥当性を検討する。【対象・方法】看護学生 1,056 名を対象として、121 項目 5 段階のリッカート法質問紙調査を行った。 【結果】主因子法プロマックス回転にて因子分析を行った結果、7 因子 30 項目の因子解が抽出され、「就学態度の自律力」、「対人関係の健全力」、「思考の健全力」、「食生活の健全力」、「対処行動能力」、「身体変調の注意力」、「予防行動力」と命名した。全体のCronbach α 係数は.914、各因子は.705～.875 であり、G-P 分析・I-T 分析、基準関連妥当性も検討し、信頼性・妥当性は確認できた。【結論】本尺度は簡便に測定でき、繰り返し評価することで健康管理の指標として活用できる。今後は、看護以外の学生にも使用できる尺度を検討し、青年期における自己健康管理能力を向上させる一助としていく必要がある。看護学生の自己健康管理モニタリング測定尺度の開発と信頼性・妥当性の検証 担当部分：解析 共著者： 成瀬早苗、<u>上野栄一</u>
117. 福井大学医学部附属病院で開発された PNS の効果 導入 1 年後の病棟看護師の認識	共著	平成 28 年 3 月	福井大学医学部研究雑誌(1348-8562)16 巻 1 号 P. 37-46	福井大学医学部附属病院では、新看護方式 PNS を平成 21 年に消化器外科病棟で開発し 2011 年 4 月からは全病棟で実施している。今回、消化器外科病棟以外の病棟看護師 10 名に PNS について、自由に語ってもらい、「PNS」の効果を検証し、今後の発展性について検討した。分析はテキストマイニング自然言語処理した。思う、良い、PNS、人、1 人、いう、ペア、やる、聞くなどの単語が上位を占め、PNS の良さ、聞く態度、自分や人に関する関心度が高まっていた。これは PNS が自己に関心を向けさせ、人に関心を持たせ、更に自己成長を促すきっかけとなっていた。更に、ことばのネットワークでは、PNS、ペア、自分、人、良いの特徴が示され PNS のポジティブな効果が示されていた。PNS 導入 1 年目の効果として、常に相互作用が促進され、看護師のコンピテンシーがお互いに向上することが示唆された。 担当部分：質的解析 共著者： 松村 愛都、清水 由加里、橘 幸子、<u>上野栄一</u>

118. 看護学生の子ども理解の程度と小児看護学実習後の自己評価との関連	共著	平成 28 年 4 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 46 号 P. 51-54	看護学生の子ども理解の程度と小児看護学実習における自己評価の関連を明らかにすることを目的に、小児看護学実習を終えた A 看護専門学校(3 年課程)3 年次生 94 名へ、西原らの「子ども理解の評価尺度」、A 看護学校の小児看護学実習評価表に準じた自己評価表(17 項目)を用いた質問紙調査を行った。その結果、「子ども理解の評価尺度」の 4 下位尺度のうち、【身体生理の特徴】は自己評価表 17 項目のうち 15 項目と相関が認められ、「患児の成長・発達に基づいた身体的側面が把握できた」自己評価と最も関連していた。その他、【知的・情緒・社会機能の発達】は自己評価の 11 項目と、【健康障害のある子どもの体験】は 10 項目、【自律性】は 7 項目の自己評価と、それぞれ相関が認められた。 担当部分：質的解析 共著者： 中林 美寿々、<u>上野 栄一</u>
119. 成人看護学演習でエンゼルケア・エンゼルメイクを取り入れた学習の構造と特徴 テキストマイニングの解析から	共著	平成 28 年 8 月	ホスピスケアと在宅ケア(1341-8688)24 巻 2 号 P. 84-91	在宅での死が望まれながら、在宅死の割合は 2013 年(平成 25 年)12.9%と多いとは言えない。その理由として核家族の増加による社会構造の変化があげられる。家族の看取りや死後の対応に関わった学生は殆どいない。そこで終末期看護に人形を用いたエンゼルメイクを取り入れる教育機関が増えてきている。本研究は、成人看護学演習で 80 人の看護学生に行ったエンゼルケア・エンゼルメイクの学びの構造と特徴を明らかにする目的で授業感想からの学びをテキストマイニングで解析した。解析した文章は、総行数 935、平均行長(文字数)24.2、平均文長(文字数)1333、延べ単語数 8760、単語種別数 1366 であった。単語頻度解析では、エンゼルメイク(393)、家族(313)、思う(221)などであり、係り受け頻度解析では、「メイク-行う」(24)、「意向-沿う」(18)、「一緒-行う」(16)、「大切-感じる」(15)などが抽出された。ことばのネットワーク分析では、「エンゼルメイク」と「家族」の 2 つの KeyWords からネットワークが繰り広げられていた。「エンゼルメイク」は実際に行った事柄に関する言葉が繋がっていた。よって、エンゼルメイクを実際実施することにより「エンゼルメイク」を「家族」と「行う」ことで「つながり」を感じ、「意向」に「沿う」、「(その)人らしさ」を慮ることに思考が広がり、「家族」が「死」を「受容」、「受け入れる」ことに繋がること示唆された。 担当部分：解析 共著者：

120. 高血圧症患者の日常生活行動における自己管理の実態調査	共著	平成 28 年 9 月	看護実践学会誌 (1882-2428) 29 巻 1 号 P. 8-18	原 元子, <u>上野 栄一</u> 本研究は高血圧症患者の日常生活行動における自己管理の実態を明らかにすることを目的とした。本態性高血圧症患者 174 名を対象に食事・運動・ストレス・服薬・飲酒・喫煙の 6 領域に関する自己管理について「高血圧症患者の日常生活行動自己管理尺度」を用いた質問紙調査を実施した。その結果、領域全体の平均得点で自己管理が出来ていると捉えられる基準の 3 点以上であったものは、領域毎にみると服薬管理のみであった。さらに、自己管理が困難な日常生活行動としては、食事管理では食塩制限・肥満予防に向けた行動、ストレス管理では入浴時の温度変化に配慮する行動、服薬管理では薬を飲み忘れない環境作りを行うこと等があった。性別においては、男性は女性よりも得点が低く、身体を擁護的に見ることや細かな配慮ができにくいことが示唆された。年齢別では 65 歳未満群の方が 65 歳以上群よりも管理得点が低く、ライフサイクル上の役割の大きさが影響していると考えられた。職業別においては、有職者が無職者よりも得点が低い実態がみられた。本研究結果は対象の特性に応じた自己管理への援助に活用できることが示唆された。 担当部分：解析 共著者： 坪田 恵子, 稲垣 美智子, <u>上野 栄一</u>
121. 2 年課程昼間定時制の看護学生のレジリエンスに関する実態調査(第二報)	共著	平成 29 年 3 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 47 号 P. 31-34	准看護師として仕事を行いながら学業や子育てを両立させている 2 年課程昼間定時制の看護学生のレジリエンス(「ストレスフルな体験をどのように受け止めるか(落ち込む深さ)、どのように立ち直るか(跳ね上がる力と時間)の一連の回復する力」)の実態を明らかにすることを目的に、A 看護専門学校 26・27 年度在学学生(1～3 年生)を対象に「二次元レジリエンス要因尺度」を用いた質問紙調査を行い、253 名より有効回答を得た。その結果、当該看護学生のレジリエンスは、社会人経験年数、准看護師経験年数との関連性はなく、「2 年生」「30 代」で低い傾向がみられた。 担当部分：解析 共著者： 石田 雪子, 河西 恵子, 荒川 由紀美, 矢部 由香里, 松田 由加里, 島崎 真理子, 中井 秀成, 野城 亜弥子, 島田 英子, 平山 園子, <u>上野 栄一</u>

122. 看護学生を対象とした助産外来見学実習の学び 学生のグループインタビューを通して	共著	平成 29 年 3 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265)47 号 P. 107-110	母性看護学実習の助産外来見学実習における学生の学びを明らかにすることを目的に、母性看護学実習を終了した看護大学生(4 年生)15 名を対象にグループインタビューを行った。内容分析の結果、助産外来見学実習における学生の学びは、学生が見学した健診場面と学生の理解の 2 つの側面から構成されており、学生は妊婦健診、生活指導、妊婦や家族の心理・社会的側面を見学することで、助産外来の特徴や助産師の指導技術に対する理解を深めていることが窺えた。 担当部分：解析 共著者：森兼 眞理, 岡山 真理, 山名 香奈美, 上平悦子, <u>上野 栄一</u>
123. パートナーシップがケーススタディ指導にもたらす効果と課題	共著	平成 29 年 7 月	看護展望 (0385-549X)42 巻 8 号 P. 82-87	1 人の学生に対し 2 人の教員で指導するパートナーシップが、ケーススタディ指導にもたらす効果を明らかにすることを目的に、A 看護専門学校が導入したパートナーシップによるケーススタディ指導に関わった教員 9 名へ半構成的面接(1 名につき 2 回)を行うとともに、学生 29 名へ自由記述を含む質問紙調査を行った。教員への半構成的面接の逐語録をグラウンデッドセオリー法を用いて分析した結果、パートナーシップによるケーススタディ指導の取り組みとして、【得意な分野を引き受ける】【頼れるパートナーシップ】【いいところ取りの論文作成】【立ち止まってみるケーススタディ指導】の 4 カテゴリーからなる《パートナーシップにより生成された効果》、【論文作成過程を深めたい】【自己研鑽の場としたい】【論文の仕上がりを懸念する】【協働することへの不安が生じる】の 4 カテゴリーからなる《論文完成度の向上を願う》、【2 人だからこそ出てきた困りごと】の《パートナー運営上の課題》の 3 コアカテゴリーが抽出された。また、学生への質問紙調査の自由記述を内容分析した結果、パートナーシップによる指導で学生が感じたこととして、「教員役割の有効活用」「連携による時間の有効利活用」のサブカテゴリーからなる【合理的な学習を支える環境】、「学生の思考過程を刺激」「作成過程の心理的支援」からなる【多様な視座による論文完成度の高まり】、「教員間の連携不足」の【パートナーシップの未熟性】の 3 カテゴリーが抽出された。 担当部分：解析 共著者：坂中 善恵, 小山 直美, <u>上野 栄一</u>

124. 口腔ケアについての意見に関する実態調査	共著	平成 29 年 7 月	日本精神科看護学術集会誌 59 巻 2 号 P. 341-344	対象は北陸 3 県の精神科病院に勤務する看護師で、口腔ケアについての意見に関する実態調査を実施し、132 名について精神科看護師が精神障がい者へ向けた口腔ケアについてどのようなことを考えているのかを明らかにするために、精神科病棟看護師の口腔ケアに対する意見について質問紙調査を行った。調査票は 132 部が回収され回収率は 79.1%であった。口腔ケアの有効性や必要性、看護師の間での業務のばらつきや、不十分な現状、方法がわからない、という迷いや悩みなどにまとめられた。 担当部分：解析 共著者： 西田 実紗子, <u>上野 栄一</u>
125. 論文表題におけるがん看護研究と対がん政策との関連テキストマイニングを用いた過去 46 年間の時代的変遷の分析	共著	平成 29 年 12 月	日本看護医療学会雑誌(1345-2606)19 巻 2 号 P. 60-71	<文献概要>【目的】がん関連看護論文において、1972 年から 2017 年の研究動向を探ることである。【方法】医学中央雑誌(Web 版)の表題に使用された語句の傾向や対がん政策年代別の特徴等について、テキストマイニングの手法を用いて分析した。 【結果】12,030 件の論文が検索された。対がん政策以前は「術前後の看護」、第 1 次対がん 10 か年総合戦略は「看護ケア」、第 2 次対がん克服新 10 か年総合戦略は「QOL」、第 3 次対がん 10 か年総合戦略は「化学療法」、がん研究 10 か年戦略では「退院支援」が出現していた。研究内容は、6 カテゴリーに分類された。大学等所属研究者は「がんの包括的研究」、看護師は「患者との関わり」を主な研究テーマにしていた。【考察】がん看護の研究テーマは、対がん政策と関連し変遷しており、家族を含めた終末期がん患者への看護はがん看護研究の中でも重要な位置を占めてきている。臨床看護師と大学等研究者では、研究テーマの関心が異なっている。 担当部分：分析 共著者： 李 慧瑛, 高原 理恵, 深田 あきみ, 新橋 澄子, 緒方 重光, <u>上野 栄一</u>

126. 1 泊 2 日で白内障手術を受けた患者の退院後の思い テキストマイニングを用いての分析	共著	平成 30 年 3 月	日本看護学会論文集：慢性期看護 (2188-6466) 48 号 P279-P282	1 泊 2 日で白内障手術を受けた患者の退院後の思いをテキストマイニングを用いて明らかにすることを目的に、A 病院で当該手術を受けた患者 14 名(男性 8 名、女性 6 名、平均年齢 75.5 歳)へ半構成的面接を行った。インタビューの回答全体に対する単語頻度解析では、名詞では「メガネ」が頻出しており、退院後に 24 時間装着する必要がある保護メガネへの思いが強いことが窺え、装着指導は守られているものの、寝ている間に外れた経験を多くの者が有していた。メガネの装着に加え、点眼、洗面に患者は負担を感じており、看護師は医師と連携して個別性を取り入れた退院指導を行う必要があると考えられた。入院期間が 20 年以上におよび、かつ 10 年以上の長期間を確率室で過ごしている自閉症スペクトラム(ASD)の 40 歳代男性患者の行動拡大に関する看護ケア内容をテキストマイニングの手法を用いて分析した。知能指数(IQ)62、医療保護入院となっていた。Z 病院 B 病棟所属の現在のプライマリーナースと、4 年前から継続的に対象患者の看護ケアを担っている看護師 5 名(男性 1 名、女性 4 名、平均年齢 47.8 歳)にインタビューガイドを用いた半構成的面接調査を実施した。対象者の発言内容の総抽出語数は 6461 であり、単語種別は 1416 であった。分析の結果、看護師は問題点に注目するのではなく、評価点に注目しポジティブフィードバックを行っていた。対象患者に伝わりやすいシールでフィードバックしたことが、ポジティブな行動の強化につながり、結果とした他害行動の減少と行動拡大につながったと考えられた。安全を守るため、リスクアセスメントの視点で、状況に応じた声かけを行っていた。 担当部分：解析 共著者： 多田 徹，山本 亮成，中川 理絵，金森 政枝，<u>上野 栄一</u> 本研究の目的は、パイロットスタディとしての精神障害者用のスピリチュアリティ尺度を開発し、その信頼性と妥当性を検討することであった。 因子分析の結果、【生活の工夫と楽しみ】【つながり感と希望】【周囲との人間関係】【生きることの意味感】【理解者の存在】の 5 つの因子を抽出し、最終的に 21 項目となった。FACIT-Sp と精神障害者用スピリチュアリティ尺度との相関係数は $r=0.76$ ($p<.001$) であり、Cronbach の α 信頼性係数は $\alpha =0.95$ であった。このことから、精神障害者用スピリチュアリティ尺度
127. 地域で暮らす精神障害者のスピリチュアリティ尺度の開発	共著	平成 30 年 3 月	聖マリア学院大学紀要 (2185-0054) 9 巻 P. 3-9	

128. 日本の公衆衛生研究の歴史的概観	共著	平成 30 年 3 月	鹿児島大学医学部保健学科紀要 (1346-2180) 28 巻 1 号 P. 9-19	の信頼性と妥当性が確認された。 担当部分：解析 共著者： 安藤満代，川野 雅資，<u>上野 栄一</u>，八谷 美絵 日本の公衆衛生に関する原著論文について，施策等時事的事項との関連を分析し，1970 年から 2017 年までの研究動向を明らかにすることである。医学中央雑誌（Web 版）に掲載されている原著論文のうち，“公衆衛生”をキーワードとして検索された論文を対象とし，表題に使用された語句の傾向，年代別の推移と特徴語について，テキストマイニングの手法を用いて分析した。結果、英文を除く 298,898 件の論文が検索された。公衆衛生関連の論文数は経年的に増えており，特に 2000 年前後を境として急増していた。表題に使用される頻出語上位は，“検討”「1 例」であった。係り受け頻度解析で上位の「有用性－検討」は，診断や治療に関する研究であり，“現状－課題”では，保健，看護，リハビリテーションに関する研究が多く見られた。年代別の特徴語では，1970 年代以前は「カドミニウム」「大気汚染」「公害」，1980 年～1990 年代は「二重盲検比較試験」「臨床評価」「予防接種」「集団検診」，2000 年代は「患者」「家族」「QOL」「高齢者」，2010 年代は「東日本大震災」と「1 例」「課題」が出現していた。結論：研究動向は社会的背景や施策の影響を受けており，2000 年頃の治療から QOL へと舵が切られた時期が，公衆衛生研究の転換期と考えられる。病院完結型医療から地域包括ケアへと移行する過程が，研究内容にも反映されている。 担当部分：解析 共著者： 下高原 理恵，李 慧瑛，峰 和治，西本 大策，緒方 重光，<u>上野 栄一</u>
129. 長期隔離処遇の自閉スペクトラム症患者の行動拡大に向けたアプローチ テキストマイニングによる看護ケア内容の分析	共著	平成 30 年 4 月	日本看護学会論文集：精神看護 (1349-2985) 48 号 P. 63-66	入院期間が 20 年以上におよび、かつ 10 年以上の長期間を確率室で過ごしている自閉症スペクトラム(ASD)の 40 歳代男性患者の行動拡大に関する看護ケア内容をテキストマイニングの手法を用いて分析した。知能指数(IQ)62、医療保護入院となっていた。Z 病院 B 病棟所属の現在のプライマリーナースと、4 年前から継続的に対象患者の看護ケアを担っている看護師 5 名(男性 1 名、女性 4 名、平均年齢 47.8 歳)にインタビューガイドを用いた半構成的面接調査を実施した。対象者の発言内容の総抽出語数は 6461 であり、単語種別は 1416 であった。分析の

130. A 看護専門学校における社会人基礎力育成の課題 基礎看護学実習 III 前後の社会人基礎力の変化より	共著	平成 30 年 7 月	看護実践の科学 (0385-4280) 43 巻 8 号 P. 60-65	結果、看護師は問題点に注目するのではなく、評価点に注目しポジティブフィードバックを行っていた。対象患者に伝わりやすいシールでフィードバックしたことが、ポジティブな行動の強化につながり、結果とした他害行動の減少と行動拡大につながったと考えられた。安全を守るため、リスクアセスメントの視点で、状況に応じた声かけを行っていた。 担当部分：テキストマイニング 共著者： 宮崎 宏一，山本 浩之，山口 達也，<u>上野 栄一</u> 新卒看護師に求められる社会人基礎力の実態、および看護学生 of 社会人基礎力の現状を把握することを目的に、B 病院の病棟勤務で入職 5 年目以上の看護師 115 名へ新卒看護師および学生に期待する社会人基礎力などについて、A 看護専門学校 2 年生 38 名へ調査時時点で身についていると感じる社会人基礎力および今後身につけたい社会人基礎力について、それぞれアンケート調査を行った。その結果、経済産業省が示した社会人基礎力を構成する 12 の能力要素のうち、看護師に高く求められているのは「主体性」「傾聴力」「規律性」で、新卒看護師、看護学生に共通して不足しているのは「創造力」であることが分かった。また、看護学生 10 名の基礎看護学実習 III 前後の社会人基礎力に対する自己評価を比較、検討した結果、実習後に 12 の能力要素中 7 つの能力要素で中央値が上昇し、「主体性」「計画力」「創造力」で有意差を認めた。 担当部分：分析 共著者： 多喜 早苗，藤井 貴子，<u>上野 栄一</u>
131. 精神科病棟看護師の精神障害者へ向けた口腔ケア行動意図尺度の開発	共著	平成 30 年 9 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 41 巻 4 号 P. 665-674	【目的】本研究の目的は、精神科病棟看護師の精神障害者へ向けた口腔ケア行動意図尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することである。【方法】精神科病棟看護師の精神障害者へ向けた口腔ケア行動意図尺度施策案は、質問 72 項目のリッカートスケールとした。対象者 363 名に質問紙法で実施した。【結果】主因子法プロマックス回転にて因子分析を実施し、第 1 因子は【社会性獲得へむけた教育】、第 2 因子は【援助的關係に基づく口腔疾病予防】、第 3 因子は【継続的ケア遂行のための柔軟な対応】、第 4 因子は【相互の安全確保】と命名し、4 因子、42 項目が抽出された。信頼性は Cronbach の α 係数。967 であり、内的整合性が確認できた。【結論】本尺度は、精神科病棟看護師が入院中の精神障害

132. 短時間仮眠の実施が看護学生の眠気と睡眠への関心を与えた影響	共著	平成 31 年 2 月	日本看護学会論文集：看護教育 (1347-8265) 49 号 P. 11-14	者に向けて口腔ケアを実施する際の行動意図を自己評価できる尺度であり、質向上のための基礎資料となる。 担当部分：解析 共著者： 西田 実紗子，<u>上野 栄一</u> 3 年課程のA 看護専門学校の 3 年生 38 名と 1 年生 40 名のうち同意を得られた学生を対象に、昼食後 15 分の短時間仮眠を実施し、前後の睡眠調査・午後の眠気の調査を実施した。眠気の評価尺度はvisual analogue scale(VAS)を用いた。学生に研究の目的・方法・参加の自由等を説明し、予告期間に短時間仮眠を平日の各 5 日間実施した。短時間仮眠の参加状況は 1 日平均 18.6 人(参加率 23.8%)であった。睡眠調査の回収率は 32%で、有効回答率は 14%であった。全体的には午後の眠気の VAS は軽減した。各学年で 5 日間の実施をしたが、4 日以上参加している学生の午後の眠気の VAS は軽減しているが、参加が 1 から 3 日の参加学生の VAS は軽減していなかった。日頃より睡眠負債がある場合、短時間仮眠では午後の眠気に繋がらない可能性があることが示唆された。学生に睡眠調査・短時間仮眠を体験してもらうことは、睡眠への教育的関わりに関心を向ける機会となった。 担当部分：統計解析 共著者： 井上 くるみ，竹中 優子，上野 栄一
133. 地域高齢者の楽しみと張り合い	共著	平成 31 年 3 月	看護実践学会誌 (1882-2428) 31 巻 2 号 P. 35-47	目的:地域高齢者の楽しみと張り合いの関連要因を検討し、一人暮らしと家族同居の相違を明らかにすること。方法:地域高齢者 61 名を対象に、自己記入式質問紙調査を実施した。55 部を分析対象とし、量的データは統計的分析、質的データはテキストマイニング(TM)を用いて分析した。結果:回収は 55 部(回収率 90.2%)で、すべてが有効回答であった。一人暮らし群は家族同居群と比較して楽しみと張り合いは、共に一人暮らし群が有意に低かった。影響要因を検討すると、楽しみでは、一人暮らし群は食事(内容)、家族同居群は、趣味の外出頻度、睡眠、筋骨格系疾患が抽出された。張り合いでは、一人暮らし群では抽出されず、家族同居群では睡眠、運動が抽出された。結論:一人暮らし群と家族同居群の楽しみと張り合いの比較から、一人暮らし群は楽しみと張り合いが低く、特に張り合いは低いだけでなく、張り合いがないことでネガティブな思いを持っていることが明らかになり、支援の必要性が示唆された。 担当部分：解析

134. 穿刺困難患者に対するシャントカルテの効果	共著	平成 31 年 3 月	日本看護学会論文 集：慢性期看護 (2188-6466)49 号 P. 319-322	共著者：解析 成瀬 早苗，加藤 真由美，上野 栄一 A 病院人工透析センターでは、穿刺時に独自のシャントスケールを用いてシャント評価を行っている。評価の技術にスタッフ間で大差はないが、触診や視診で読み取った情報は主観的で他者との共有は難しく、個々の穿刺技術や知識・経験の違いから穿刺トラブルにつながることもある。またシャント血管への穿刺は、血腫をつくったり、シャントの狭窄や閉塞につながる危険性があるため、スタッフは不安やストレスを抱えている。特に穿刺困難な患者ではスタッフの心理面への負担は大きいと考えられる。そこで、患者個々のシャントの特徴を示したカルテ(シャントカルテ)を作成して情報を共有することで、スタッフのシャントに対する知識や技術が向上し、穿刺トラブルの減少や穿刺に対する不安の軽減につながるのではないかと考え、実施した。シャントカルテには基本情報として「患者名」「生年月日」「透析導入日」「シャント作成日」を明記した。またシャント情報として、シャント肢をデジタルカメラで撮影した写真を掲載し、血管の走行に合わせて穿刺可能箇所を脱血側は赤色、返血側は青色で記し、有用であった。 担当部分：解析 共著者： 藤田 拓也，十二 由光，室谷 恵，前野 典綱，<u>上野 栄一</u> 本研究は病院管理者である病院長と看護部長及び日常看護ケアに従事している看護師を対象に結核・抗酸菌感染症卒後教育の現状と学習ニーズを把握することを目的とした。結果、限られた人材と時間について回答者全員が現状では不十分と感じていた。病院長側は抗酸菌症に関する講義時間不足と抗酸菌症ケアに必要な機器や防護用具の購入予算の限界等を認識し、基礎的な研修会開催数増加を重要視していた。また看護部長・看護師側からは呼吸器感染症・抗酸菌症に経験のある講師の不足と研修機会の少なさを痛切に感じていた。看護部の講義内容は診断から検査、感染予防までの基本的な知識や技術を重視していた。また、日本結核病学会認定の抗酸菌症エキスパートナース資格者の活躍が期待される。今後は必要とする領域に勤務する看護職への集中的な講師人材派遣研修機会の増加及び抗酸菌症に強い医療職の養成が急務であり、抗酸菌症のエキスパート制度は、大変意義があると考え
135. 結核・抗酸菌症教育はいかにすべきか、いかにあるべきか 看護師教育への提言	共著	令和元年 5 月	福井大学医学部研究雑誌 (1348-8562)20 巻 P. 17-27	本研究は病院管理者である病院長と看護部長及び日常看護ケアに従事している看護師を対象に結核・抗酸菌感染症卒後教育の現状と学習ニーズを把握することを目的とした。結果、限られた人材と時間について回答者全員が現状では不十分と感じていた。病院長側は抗酸菌症に関する講義時間不足と抗酸菌症ケアに必要な機器や防護用具の購入予算の限界等を認識し、基礎的な研修会開催数増加を重要視していた。また看護部長・看護師側からは呼吸器感染症・抗酸菌症に経験のある講師の不足と研修機会の少なさを痛切に感じていた。看護部の講義内容は診断から検査、感染予防までの基本的な知識や技術を重視していた。また、日本結核病学会認定の抗酸菌症エキスパートナース資格者の活躍が期待される。今後は必要とする領域に勤務する看護職への集中的な講師人材派遣研修機会の増加及び抗酸菌症に強い医療職の養成が急務であり、抗酸菌症のエキスパート制度は、大変意義があると考え

136. 在宅療養体制に対する課題の認識に関する地域間比較 テキストマイニングと GIS による 47 都道府県の医療計画の分析	共著	令和 1 年 5 月	癌と化学療法、46 巻 Suppl. I P. 110-112	る。 担当部分：総括、統計解析 共著者：<u>上野 栄一</u>，石崎 武志 医療計画は地域の現状を反映している。本研究はテキストマイニングによる医療計画の分析と地理情報システムによる地理的特徴の検討を目的とする。47 都道府県の医療計画から全国、6 地域区分、高齢化別 4 区分のテキストファイルを作成し単語を抽出した後、語の関連性を分析した。さらに重要課題である「看取り」の単語出現率で日本地図を色分けし特徴を検討した。全国の集計では 214,716 語抽出され、頻出上位は医療、在宅、支援、介護、訪問、診療、連携であった。共起ネットワークでは医療-在宅-介護-連携が体制-構築と連結していた。関東と近畿で人材-育成の連結があった。高齢化率の高い地域で「看取り」が頻出し、低い地域で人材-育成-確保の連結あった。「看取り」の出現頻度は西日本で高かった。医療計画では医療と介護の連携構築が重視され、西日本や高齢化率の高い地域では看取りが、低い地域では人材育成が重視されていると示唆された。 役割分担：解析、考察 共同研究者：板谷 智也，堀池 諒，平和也，<u>上野 栄一</u>
137. 地域高齢者の楽しみと張り合い	共著	平成 31 年 3 月	看護実践学会誌 Journal of Society of Nursing Practice, Vol. 31, No. 2, pp. 35～47, 2019	目的:地域高齢者の楽しみと張り合いの関連要因を検討し、一人暮らしと家族同居の相違を明らかにすること。方法:地域高齢者 61 名を対象に、自己記入式質問紙調査を実施した。55 部を分析対象とし、量的データは統計的分析、質的データはテキストマイニング(TM)を用いて分析した。結果:回収は 55 部(回収率 90.2%)で、すべてが有効回答であった。一人暮らし群は家族同居群と比較して楽しみと張り合いは、共に一人暮らし群が有意に低かった。影響要因を検討すると、楽しみでは、一人暮らし群は食事(内容)、家族同居群は、趣味の外出頻度、睡眠、筋骨格系疾患が抽出された。張り合いでは、一人暮らし群では抽出されず、家族同居群では睡眠、運動が抽出された。結論:一人暮らし群と家族同居群の楽しみと張り合いの比較から、一人暮らし群は楽しみと張り合いが低く、特に張り合いは低いだけでなく、張り合いがないことでネガティブな思いを持っていることが明らかになり、支援の必要性が示唆された。(著者抄録)い 役割分担：解析、考察 共同研究者：短時間仮眠の実施が看護学生の眠気と睡眠への関心に与えた影響成瀬 早

				苗(福井医療大学 保健医療学部看護学科), 加藤 真由美, <u>上野 栄一</u>
138. 看護過程のアセスメントとしての看護診断	単調	2022 年 3 月	看護診断(1341-3007)27 巻 1 号 Page15-21(2022. 03)	<文献概要>看護診断は, 一連の看護過程の展開を示すものであり, 診断名をつけることのみに特化したものではない. 重要なことはいかに対象のニーズをとらえ, 適切な看護ケアを提供するということである. 看護過程の中で重要なことはアセスメントであり, 多くの情報の中から患者のケアの最適さを求めるプロセスである. そのために重要なことは情報を的確にとらえ, アセスメントすることである. そのためには正確な情報と臨床推論が必要となる. 本稿では情報のとらえ方とアセスメントに焦点を当てて述べる. また, 今後の情報共有ツール, 標準用語としての看護診断名についても言及する. 担当部分: 計画排尿ケアチーム看護師が活動するうえで抱く困難感分析、総括
139. 計量テキスト分析を用いたアメリカ心臓協会一次救命処置ガイドラインのキーワード分析	共著	2024 年 2 月	日本臨床救急医学会雑誌 27 (1), 40-47	アメリカ心臓協会 (AHA) の一次救命処置 (BLS) は新しい蘇生に関する科学的エビデンスを加え更新されてきた。本研究の目的は AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル 2000 年, 2005 年, 2010 年, 2015 年版を, 計量テキスト分析ソフトウェア (KH-coder) で分析し, ガイドライン更新に伴うキーワードの変化を明らかにした。。 関口 浩至, 仲間 敏春, 佐藤 彩, 嶺井 陽, 近藤 豊, 福田 龍将, 上野 栄一, 梅村 武寛, 久木田 一郎
文部省科学研究費およびその他の研究助成金				
1. 文部省科学研究費補助金基盤研究C	-	平成 13 年～平成 14 年	文部科学省	学校トイレの環境衛生と児童の健康な排泄に関するヘルスプロモーション 研究代表者: 松浦 和代 研究助成金: 2,700 千円 分担者: <u>上野栄一</u>
2. 富山第一銀行奨学財団「研究活動に対する助成」	-	平成 17 年	富山第一銀行奨学財団	研究期間: 平成 17 年 代表者: 上野栄一, コミュニケーション技法が人間の感情に与える影響—主観的評価と客観的評価について— 研究代表者: <u>上野栄一</u>
3. 文部省科学省研究費補助 金基盤研究C	-	平成 17 年～平成 19 年	文部科学省	看護学生・医学生のための効果的禁煙教育指導プログラムの開発萌芽研究 科学研究費補助金: 3,300 千円 研究代表者: 上原佳子 分担者: <u>上野栄一</u> 他

4. 文部省科学省研究費補助 金基盤研究C	-	平成 18 年～平成 20 年	文部科学省	看護診断正確性に基づく看護診断能力測定尺度開発と看護診断能力育成プログラムの構築基盤研究(C)一般 科学研究費補助金：3,950 千円 研究代表者：長谷川智子 分担者：上野栄一
5. 文部省科学研究費補助 金基盤研究C	-	平成 19 年～平成 20 年	文部科学省	看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度・教育プログラムの開発 日本学術振興会： 科学研究費補助金：1,300 千円 代表者：上野 栄一 研究代表者：上野栄一
6. 文部省科学研究費補助 金基盤研究C	-	平成 20 年～平成 22 年	文部科学省	看護学生の喫煙行動危険度予測尺度の開発と喫煙防止教育プログラムの構築基盤研究(C) (一般) 日本学術振興会：科学研究費補助金 研究代表者：上原 佳子 平成 21 年度 分担者：上野栄一 科学研究費補助金：4,290 千円
7. 文部省科学研究費補助 金基盤研究C	-	平成 20 年～平成 22 年	文部科学省	COPD患者の情報ニーズに対応したセルフケア能力向上のための教育プログラムの構築基盤研究(C) (一般) 日本学術振興会科学研究費補助金 研究代表者：上木 礼子 平成 20 年度 分担者：上野栄一 科学研究費補助金：3,770 千円
8. 文部省科学研究費補助 金基盤研究C	-	平成 21 年～平成 23 年	文部科学省	看護診断過程の能力育成プログラムによる包括的教育介入の効果基盤研究(C) (一般) 日本学術振興会：科学研究費補助金 研究代表者：長谷川 智子 平成 21 年度 分担者：上野栄一 科学研究費補助金：4,550 千円
9. 文部省科学研究費補助 金基盤研究C	-	平成 21 年～平成 23 年		看護診断過程の能力育成プログラムによる包括的教育介入の効果基盤研究(C) (一般) 日本学術振興会：科学研究費補助金 研究代表者：長谷川 智子 平成 21 年度 分担者：上野栄一 科学研究費補助金：4,550 千円
10. 文部省科学研究費補助 金基盤研究C	-	平成 22 年～平成 24 年	文部科学省	話し手としての看護学生のコミュニケーション技法が聞き手の自律神経系に与える影響基盤研究(C) (一般) 日本学術振興会：科学研究費助成事業 研究代表者：上野栄一
11. 北陸地区国立大学学術研究連携支援研究	-	平成 26 年 4 月～平成 30 年 3 月	北陸地区国立大学学術連携支援機構	がん患者と家族への支援に対する研究デザイン 共同発表者：天野 良平、八塚 美樹、正源 寺 美穂、上野栄一

12. 文部省科学研究費補助金基盤研究C	-	平成 30 年～令和 1 年	文部科学省	研究題名：看護学生のコミュニケーションにおける共感性と共鳴性との関係 研究助成金：2,470 千円 研究代表者： <u>上野栄一</u>
13. 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」	-	平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月	文部科学省	福井市在住の住民に対する糖尿病予防のためのランチセミナーにおける食生活習慣に関する意識調査 研究代表者： <u>上野栄一</u>
14. 文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」	-	平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月	文部科学省	「福井市における糖尿病予備群と健診者への糖尿病教育支援の効果検証と学生への教育支援」 研究代表者： <u>上野栄一</u>
(学会発表)				
1. 看護婦の勤労意欲とストレスとの関係	-	平成 8 年 7 月	第 22 回日本看護研究学会，広島	看護婦の勤労意欲とストレスおよび対処行動との関係について調べた。その結果，看護婦全体において，時々のストレスのある群は慢性的ストレス群に比べて，勤労意欲の下位概念のチームワーク，メンタルハイジーンが高かった。経験年数 5 年以上の看護婦の時々のストレスのある群は慢性的ストレス群に比較して勤労意欲のモチベーターモラル，チームワークの得点が高かった。また，経験年数 5 年以上の看護婦において，効果的対処行動群は非効果的対処行動群に比べてハイジーンモラルが高かった。 担当部分：統計処理、抄録作成 共同発表者： <u>上野栄一</u> ，高間静子，塚原節子，福田正治
2. 看護婦の就労姿勢の勤労意欲への影響	-	平成 8 年 7 月	第 22 回日本看護研究学会，広島	看護婦の就労姿勢が看護婦の勤労意欲にどのように影響しているかについて調べた。その結果，勤労意欲と就労理由との関係では，生きがいを理由に働く群の勤労意欲のモチベーターの得点は生計や集団帰属を理由に働く群のそれらよりも有意に高かった。企業帰属意識と勤労意欲との関係では，帰属意識の構成要素「組織の目標・規範」についての看護婦群の得点と勤労意欲の大半の構成要素の得点と正の有意な相関を示した。また，看護婦群の勤労意欲の構成要素「モチベーターモラル」の得点と自己充実的達成動機との間に正の有意な相関を示した。さらに，看護婦の集団主義と勤労意欲との関係では，勤労意欲のコミュニケーションとの間で正の有意な相関を示した。 担当部分：統計処理 共同発表者：塚原節子， <u>上野栄一</u> ，高間静子，福田正治

3. 看護婦の自己開示度, 孤独度の職務満足度への影響	-	平成 9 年 7 月	第 23 回日本看護研究学会, 久留米	看護婦の就労姿勢が看護婦の勤労意欲にどのように影響しているかについて調べた。その結果、(1)孤独度と自己開示度の下位概念および自己開示度合計との間には負の有意な相関があった。(2)職階別にみると、看護婦群において、自己開示度合計と「看護業務」との間には負の有意な相関があった。(3)経験年別に自己開示度と職務満足度との関係を見ると、3 年未満の群と 5 年以上の群において、自己開示度合計と「看護婦間の相互作用」との間には正の有意な相関があった。(4)学歴別に自己開示度と職務満足度との関係についてみると、自己開示の「なごませ」因子と「看護婦間の相互作用」との間には正の相関があった。(5)婚姻別について、孤独度と職務満足度との関係についてみると、既婚群において、孤独度と「地位」、孤独度と「看護婦間の相互作用」との間にそれぞれ負の有意な相関があった。以上のことから、看護婦の自己開示度と孤独度は有意に職務満足度に影響を与えていることがわかった。 担当部分：統計処理、抄録作成 共同発表者：<u>上野栄一</u>、川西千恵美、高間静子
4. 看護婦の社会的スキルの勤労意欲への影響	-	平成 9 年 7 月	第 23 回日本看護研究学会, 久留米	富山県内の 6 つの国・公立病院に勤務する看護職を 132 名を対象に、和田らの社会的スキル尺度を用い、看護婦の社会的スキルの勤労意欲への影響を検討した。その結果、以下のことが明らかになった。社会的スキルの下位概念の関係維持は勤労意欲の下位概念の業績規範と正の相関を示した。また、社会的スキルの自己主張は勤労意欲の会合評価、コミュニケーション、メンタルハイジーン等と正の相関を示した。婦長群においては勤労意欲のチームワークと社会的スキルの自己主張とは負の相関を示した。自己主張は看護婦経験 3 年未満群においては、勤労意欲のモチベーターモラル、メンタルハイジーンと正の相関を示した。さらに未婚群では勤労意欲のモチベーターモラル、チームワーク、業績規範等と正の相関を示した。以上のことから、看護婦の社会的スキルは勤労意欲に影響し、職階、経験年数、婚姻の違いにより勤労意欲への影響が異なることが示唆された。 担当部分：調査票集計、統計処理 共同発表者：高間静子、<u>上野栄一</u>、川西千恵美

5. 看護婦の創造的構えの勤労意欲への影響	-	平成 9 年 7 月	第 23 回日本看護研究学会, 久留米	富山県内の公立病院に働く看護婦を対象に創造的構えと勤労意欲との関について調べた。調査測定は創造的構えテストと勤労意欲測定のための尺度を用いた。その結果、婦長群において、創造的構えの下位概念の「持久力」と勤労意欲の下位概念の「ハイジーンモラルとのあいだには負の有意な相関があった。また、経験年数 3 年未満の看護婦群において、創造的構えの持久力と勤労意欲の「メンタルハイジーン」とのあいだには正の有意な相関があった。一方、婚姻別にみると、未婚群において、創造的構えの下位概念の「細心さ」と勤労意欲の下位概念の「チームワーク」とのあいだには負の有意な相関があった。以上のことから、看護婦の創構えと勤労意欲は相関することが示唆された。 担当部分：統計処理 共同発表者：塚原節子, <u>上野栄一</u>, 高間静子
6. 看護婦の充実感の勤労意欲への影響	-	平成 9 年 7 月	第 23 回日本看護研究学会, 久留米	富山県下に就労する看護婦 150 名を対象に、看護婦の就労姿勢が看護婦の勤労意欲にどのように影響しているかについて調べた。その結果、充実感の第 1 因子（充実感気分-退屈・空虚感因子）と勤労意欲の下位概念のハイジーンモラルとの間には有意な正の相関があった。充実感の第 4 因子（信頼・時間的展望-不信・時間的展望因子）とモチベーターモラル, 業績規範との間には有意な正の相関を示した。充実感の第 3 因子（連帯-孤立因子）とハイジーンとの間には相関があった。これらのことから、看護婦の充実感の高い人は勤労意欲が高いということが明らかとなった。 担当部分：統計処理 共同発表者：川西千恵美, <u>上野栄一</u>, 高間静子

7. 看護職のタイプA 行動のリーダーシップ行動への影響	-	平成 9 年 12 月	第 17 回日本看護科学学会、神戸	本研究では富山県下に就労する看護婦を対象に、看護職のタイプA行動のリーダーシップ行動への影響について調べた。その結果、タイプA、タイプB行動とリーダーシップ類型とは有意に関係があった。タイプA総得点とP（目標達成）との間には正の有意な相関があった。さらに、タイプAの下位概念の精力的活動・時間切迫感とPとの間には正の有意な相関があった。看護婦全体のPM得点とタイプAの下位概念との関係について重回帰分析をした結果、P値には精力的活動、時間切迫感が有意な正の影響因子となっていることが明らかとなった。また、婚姻別、学歴別に、タイプA行動がPM機能に異なる影響を与えていることが示された。以上のことからタイプA行動はリーダーシップ行動に有意に影響を与えていることが示唆された。 担当部分：統計処理、抄録作成 共同発表者：<u>上野栄一</u>、高間静子
8. 看護職の社会的スキルのリーダーシップ行動への影響	-	平成 9 年 12 月	第 17 回日本看護科学学会、神戸	富山県内に就労する看護職の社会的スキルのリーダーシップ行動への影響について調べた。調査対象は無作為抽出によ調査をし、有効回答の得られた富山県の 3 つの国公立病院に就労する婦長・副婦長 108 名とした。対象の内訳は婦長 32 名、副婦長 76 名、既婚 94 名未婚 14 名、専修学校卒 100 名、短大卒 8 名であった。測定用具には三隅等のリーダーシップ行動評定尺度（自己評定質問紙）を用い、社会的スキルの測定には和田の社会的スキル尺度を用いた。その結果、婦長の社会的スキルの下位概念の関係維持のスキル度とリーダーシップの集団維持機能のM得点とは高い正の相関を示した。35 歳以下の若い群にのみ社会的スキルの下位概念の関係開始のスキル度とリーダーシップの目標達成機能のP得点とは正の相関を示した。以上のことから、特に看護の社会的スキルのうちの関係維持のスキルはリーダーシップの集団維持機能に影響を与えていることが示唆された。 担当部分：統計処理 共同発表者：高間静子、<u>上野栄一</u>、塚原節子

9. Pervanadate による 3T3L1 細胞の glucose uptake に関する検討	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	Pervanadate および Osmotic shock によるブドウ糖の取り込みにおけるチロシンリン酸化タンパクの役割について検討した。その結果、(1) Pervanadate による 2DOG Glucose uptake は Wortmannin により部分的にしか抑制されなかった。(2) Pervanadate による 2DOG Glucose uptake は Wortmannin, Genistein の同時処置により、抑制された。これらのことから Osmotic shock 下では、IRS-1 から PI3-kinase を介しない別の経路があることが示唆された。また、Gab1, PLCγ が Glut4 translocation に関与していることが示唆された。 担当部分：実験全般、抄録作成 共同発表者：<u>上野栄一</u>, 春田哲郎, 薄井勲, 岩田 実, 宇野立人, 高野敦子, 石橋修, 石原 元, 和田 努, 笹岡利安, 小林正
10. 成長ホルモンのインスリン作用およびインスリン抵抗性の機序の検討	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	成長対レモン (GH) は短時間刺激ではインスリン様作用を有する反面、長時間処置では抗インスリン作用を有するが、この機序はまた解明されていない。我々は 3T3-L1 脂肪細胞を用いて GH の短時間・長時間作用を検討した。方法：(1) GH 刺激(短時間、長時間)を加えた 3T3-L1 脂肪細胞で 2 deoxyglucose(2DOG) uptake により糖の取り込みを測定した。(2) GH, インスリンで刺激した細胞で Western Blot を用いて各蛋白のリン酸化を検討した。これらの結果、(1) 2DOG uptake での糖の取り込みは、GH 刺激 15 分の短時間刺激では Basal の約 4 倍、インスリンの約 1/2 の uptake を認めた。GH 長時間処置した細胞でのインスリンに対する糖の取り込みは非処置群よりも低下していた。(2) Western Blot では GH 短時間刺激では IRS-1 のリン酸化は認めず、GH 長時間処置したものでは IRS-1 のリン酸化はやや増加していた。GH 長時間処置した後にインスリンで刺激したものでは IRS-1 およびインスリンレセプターのリン酸化は増強していた。これらのことから、3T3-L1 脂肪細胞では GH による糖の取り込みは IRS-1 を介しない可能性が示唆された。また長時間処置による抗インスリン作用には IRS-1 より下流のシグナル過程が抑制されている可能性が示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：高野敦子, 春田哲郎, 薄井勲, 岩田 実, 宇野立人, <u>上野栄一</u>, 笹岡利安, 石原 元, 石木 学, 和田 努, 石橋 修, 小林 正

11. インスリン刺激による IRS-1 のセリン/スレオニン酸化の検討	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	インスリン抵抗性の成因の一つとして、IRS - 1 のセリンリン酸化の関与が示唆されている。本研究では、インスリンによる IRS - 1 のセリンリン酸化の機序について、3T3-L1 脂肪細胞を用いて、(1) インスリン刺激による IRS - 1 のチロシンリン酸化および IRS - 1 のリン酸化によると考えられる electrophoretic mobility shift (EMS) を検討した。また (2) EMS に対する wortmannin, LY294002 および pioglitazone の影響を検討した。その結果、(1) IRS - 1 のチロシンリン酸化はインスリン刺激後、5 分から 60 分まではほぼ同程度であったが、時間依存性に増大する IRS - 1 の EMS を認め、IRS - 1 のセリン/スレオニンリン酸化が生じていると考えられる。(2) インスリンによる IRS-1 の EMS は wortmannin, LY294002 および pioglitazone 前処置によっても抑制される傾向を認めた。これらの結果から、インスリンシグナルは PI3-Kinase を介した IRS-1 のセリンリン酸化により負の制御を受けており、チアゾリン誘導体は IRS-1 のセリンリン酸化のレベルで拮抗的に作用する可能性が示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：宇野立人，春田哲郎，薄井勲，岩田実，高野敦子，<u>上野栄一</u>，笹岡利安，石原 元，石木 学，和田 努，石橋修，小林 正
12. 脂肪細胞への分化におけるインスリンシグナルの働き	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	脂肪細胞の分化におけるインスリンの働きを調べる目的で clonal expansion 以下 CE) に注目し以下の実験を行った。(実験 1) Ploglitazone (以下 Pio) の存在，非存在下で 3T3 - L1 細胞に I, IBMX + dexamethazone (以下 D) , または 3 者を処置した。CE を BrdU 取り込みで，増殖系シグナルを c-fos の誘導で，脂肪細胞分化率を脂肪染色と中性脂肪量で評価した。(実験 2) Pl3 - kinase 阻害薬である wortmannin (以下 WM) または MEK 阻害薬である PD98059 (以下 PD) を前処置後，3 者による分化処置を行った。これらにおける CE と脂肪細胞分化率を測定した。その結果、(1) I は CE を促進した。(2) I は D 存在時，著名に分化を促進させた。よって、CE を伴う脂肪細胞分化には I が重要であると考えられた。(3) pio は分化率を著しく上げたが、CE には有意な影響を与えず、CE 以外の機序により分化を促すことが示唆された。(4) c-fos は I よりも D で強く誘導された。(実験 2) WM は BfdU 取り込みと分化率を濃度依存的に抑制した。PD は BfdU 取り込みを軽度抑制したが、分化率を

13. TNF- α のインスリン抵抗性に対する Pioglitazone の効果について	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	軽度促進した. 以上のことから、CE を伴う脂肪細胞化には、PI3-kinase を介すシグナルが重要と考えられる。 担当部分：実験、解析 共同発表者：薄井 勲, 春田哲郎, 岩田 実, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野栄一</u>, 石木 学, 和田 努, 石原 元, 石橋 修, 笹岡利安, 小林 正 TNF - αによるインスリン抵抗性の機序とそれに対する Pioglitazone の効果を解明するために脂肪細胞 (3T3-L1 細胞) を用い検討した。方法は (1) 短期効果として 3T3-L1 細胞を Pioglitazone $5\mu\text{M}$ にて 6 時間前処置後、TNF - α $25\text{ng}/1$ を 6 時間投与した。 (2) 長期効果として TNF - α $3\text{ng}/\text{ml}$ にて 4 日間処置後、さらに $5\mu\text{M}$ の Pioglitazone を 16 時間追加投与した。次に (1)、(2) の後、IRS - 1 の発現量及びインスリン刺激によるインスリン受容体 (IR) の自己リン酸化、IRS - 1 のチロシンリン酸化、糖取り込みについて検討した。その結果、TNF - α は短期間では IR の自己リン酸化、IRS - 1 の発現量及びチロシンリン酸化、糖取り込みに影響を与えなかったが、長期間では IRS - 1 の発現を対照に比較し 50%程度に低下させ、同程度に IRS - 1 のチロシンリン酸化、糖取り込みを抑制した。また、Pioglitazone により IRS - 1 の発現及びチロシンリン酸化、糖取り込みが対照レベルまで改善した。これらの結論から、脂肪細胞において TNF - αによるインスリン抵抗性は IRS - 1 の発現を低下させることにより牛じ Pioglitazone は IRS - 1 の発現を回復させることによりインスリン抵抗性を改善させると考えられる。 担当部分：実験、解析 共同発表者：岩田 実, 春田哲郎, 薄井 勲, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野栄一</u>, 石木 学, 和田 努, 石原 元, 石橋 修, 笹岡利安, 小林 正
14. GTP γ S による PI 3-kinase 非依存性 GLUT4 translocation におけるチロシンリン酸化の意義	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	GTP γ S による GLUT4 translocation は、PI3kinase を介さない機序が考えられる。この経路におけるチロシンリン酸化蛋白の役割を検討した。3T3 - L1 脂肪細胞を用いて、(1) GTP γ S のMicroinjection による GLUT4 translocation に対する抗リン酸化チロシン抗体 (PY20) の影響を検討した。 (2) In situ electroporation 法により導入した GTP γ S による、2-deoxy - D - glucose (2 - DOG) 取り込み、白チロシンリン酸化について wortmannin (W), genistein (G), およびcalphostin C (C) の影響を検討した。その結果、(1) GTP γ S による

15. L6 細胞でのグリコーゲン合成に至るシグナル伝達における Shc の役割	共著	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	GLUT4 translocation はPY20 により 65%抑制された. (2) GTPγS による 2-DOG 取り込みは (W) および (C) により影響を受けず (G) により濃度依存性に抑制された. この蛋白の一部は paxillin および p130CAS であった. これらのことから、GTPγS はPI3-Kinase の下流あるいは、独立した経路において、インスリン受容体、IRS 以外のチロシンリン酸化蛋白を介して、Glut 4 translocation を惹起するものと考えられる。 担当部分：実験、解析 共同発表者：春田哲郎, 岩田 実, 薄井 勲, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野栄一</u>, 石木 学, 和田 努, 石原 元, 石橋 修, 笹岡利安, 小林 正 筋肉細胞でのグリコーゲン合成はインスリンの代謝作用として重要であるが、その細胞内シグナル伝達経路は不明である。今回グリコーゲン合成に至るシグナル伝達における Shc の関与を検討した。Wild Type (WT)-Shc に加え、Shc の PTB ドメインを含んだ PTB - Shc と、チロシンリン酸化部位をすべて P 島に置換した Y239/240/317F (3F) - Shc のGST 融合蛋白を作製し、L6 細胞にトランスフェクションした。今回、インスリン作用との比較検討のため、IGF - I 刺激による IRS のチロシンリン酸化、pKB/Akt 活性、グリコーゲン合成に Shc の過剰発現が及ぼす影響を測定した。 〔成績〕 IGF1 による PKB/Akt 活性とグリコーゲン合成は、WT-または 3F-Shc のどちらの過剰発現においても抑制された。これらの抑制効果は、PTB - Shc のみの発現においても認められ、さらに、IGF-I による IRS のチロシンリン酸化は Wt - または 3F - Shc の過剰発現により低下を認めた。〔結論〕 L6 筋芽細胞では、IGF-I のグリコーゲン合成作用には Shc は抑制的に作用した。その機序として、IGF-I 受容体の基質レベルでの Shc による IRS チロシンリン酸化の競合的阻害による事が示唆された。 担当部分：解析共同発表者：石木 学, 笹岡利安, 石原 元, 和田 努, 平井洋生, 薄井 勲, 岩田 実, 高野敦子, 宇野立人, <u>上野栄一</u>, 高田康光, 春田哲郎, 小林 正

16. インスリンと IGF-1 における SH2 Domain Containing Inositol 5-Phosphatase (SHIP) の役割	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	SHIP は血球系の細胞で増殖作用への役割が報告されている。そこで、インスリンと IGF - I の増殖作用発現における SHIP 関与につき検討した。(方法) Wild Type (WT), SHIP, SHIP の SH2 ドメインを欠いた delta SH2 - SHIP, SHIP のチロシンリン酸化部位を Shc に加え、Shc の PTB ドメインを含んだ PTB - Shc と、チロシンリン酸化部位を欠いた deltaSH2-SHIP, SHIP のチロシンリン酸化部位を置換した Y917/1020F (2F) - SHIP を COS7 細胞と L6 筋芽細胞に発現させた。インスリンと IGF-I 刺激による SHIP の細胞内蛋白への結合をウエスタンブロットにより検討し、SHIP 発現が IGF-1 の増殖作用に及ぼす影響を 3H - チミジンの取り込み測定により検討した。その結果 deltaSH2 - SHIP 発現での Shc との結合は、WT-, または、2F-SHIP の過剰発現により低下したが、delta SH2 - SHIP の発現においては変化を認めなかった。以上の結果から、L6 筋芽細胞では、IGF - 1 の増殖作用発現に SHIP は Negative に制御している事が示唆された。その機序としては、IGF - 1 による Shc リン酸化チロシンと Grb2 の SH2 ドメインとの結合を SHIP がその SH2 ドメインとを介して競合的に阻害することが示唆された。担当部分：実験、解析 共同発表者：和田 努, 笹岡利安, 石原元, 石木 学, 薄井 勲, 岩田 実, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野栄一</u> , 高田康光, 春田哲郎, 小林 正
17. Shc に結合するラット SH2 domain containing inositol 5-phosphatase subfamily (SHIP-2) のクローニング	-	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	インスリンによる PIP35-phosphatase (5-ptase) の活性化が、抗 Shc 抗体による沈殿物に認められる。抗 SHIP 抗体での沈殿物中にはインスリンによる 5-ptase 活性は認めず、SHIP2 の isozyme の存在が示唆されている。今回の実験では Shc に結合する 5-ptase のクローニングを行った。方法としては、各 5-ptase 間での高ホモロジー領域をもとに degenerate PCR を行い、得られた塩基配列をもとに RACE を行った。その結果、得られた cDNA (SHIP-2) は約 135 kDa の 5-ptase をコードしており、SHIP 同様、N 末に SH2 ドメインが、C 末にプロリン・リッチな領域が存在した。また、PTB ドメインの結合モチーフ (NPXY) が 1 ケ所存在した。SHIP とのホモロジーは、ptase 部分で 60%, SH2 ドメインを含む N 末で 50%, C 末で 30% であった。これらのことから、今回得られたクローンは、SHIP の subfamily と考えられ、インスリンシグナル伝達においても、SHIP 同様、Shc の増殖作用を負に制御する可能性が示唆され、また、さらに P K B /Akt を介し、インスリンの代謝作用

18. インスリンと IGF-1 における SH2 Domain Containing Inositol 5-Phosphatase (SHIP) の役割	共著	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	に影響する可能性が示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：石原 元, 笹岡利安, 平井洋生, 石木 学, 和田 努, 薄井 勲, 岩田実, 高野敦子, 宇野立人, <u>上野栄一</u>, 高田康光, 春田哲郎, 小林 正 SHIP は血球系の細胞で増殖作用への役割が報告されている。そこで、インスリンと IGF - I の増殖作用発現における SHIP 関与につき検討した。(方法) Wild Type (WT), SHIP, SHIP の SH2 ドメインを欠いた delta SH2 - SHIP, SHIP のチロシンリン酸化部位を Shc に加え、Shc の PTB ドメインを含んだ PTB - Shc と、チロシンリン酸化部位を欠いた deltaSH2-SHIP, SHIP のチロシンリン酸化部位を置換した Y917/1020F (2F)-SHIP を COS7 細胞と L6 筋芽細胞に発現させた。インスリンと IGF-I 刺激による SHIP の細胞内蛋白への結合をウエスタンブロットにより検討し、SHIP 発現が IGF-1 の増殖作用に及ぼす影響を 3H - チミジンの取り込み測定により検討した。その結果 deltaSH2 - SHIP 発現での Shc との結合は、WT-, または、2F-SHIP の過剰発現により低下したが、delta SH2 - SHIP の発現においては変化を認めなかった。以上の結果から、L6 筋芽細胞では、IGF - 1 の増殖作用発現に SHIP は Negative に制御している事が示唆された。その機序としては、IGF - 1 による Shc リン酸化チロシンと Grb2 の SH2 ドメインとの結合を SHIP がその SH2 ドメインとを介して競合的に阻害することが示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：和田 努, 笹岡利安, 石原元, 石木 学, 薄井 勲, 岩田 実, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野栄一</u>, 高田康光, 春田哲郎, 小林 正
19. Shc に結合するラット SH2 domain containing inositol 5-phosphatase subfamily (SHIP-2) のクローニング	共著	平成 10 年 5 月	第 41 回日本糖尿病学会, 和歌山	インスリンによる PIP35-phosphatase (5-ptase) の活性化が、抗 Shc 抗体による沈殿物に認められる。抗 SHIP 抗体での沈殿物中にはインスリンによる 5-ptase 活性は認めず、SHIP2 の isozyme の存在が示唆されている。今回の実験では Shc に結合する 5-ptase のクローニングを行った。方法としては、各 5-ptase 間での高ホモロジ領域をもとに degenerate PCR を行い、得られた塩基配列をもとに RACE を行った。その結果、得られた cDNA (SHIP-2) は約 135 kDa の 5-ptase をコードしており、SHIP 同様、N 末に SH2 ドメインが、C 末にプロリン・リッチ

20. Role of Tyrosine Phosphorylation Induced by GTP γ S and Osmotic shock in 3T3L1 Adipocytes	共著	平成 10 年 6 月	58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), Chicago, USA	な領域が存在した。また、PTBドメインの結合モチーフ(NPXY)が1ヶ所存在した。SHIPとのホモロジーは、ptase部分で60%、SH2ドメインを含むN末で50%、C末で30%であった。これらのことから、今回得られたクローンは、SHIPのsubfamilyと考えられ、インスリンシグナル伝達においても、SHIP同様、Shcの増殖作用を負に制御する可能性が示唆され、また、さらにPKB/Aktを介し、インスリンの代謝作用に影響する可能性が示唆された。 担当部分：解析共同発表者：石原 元，笹岡利安，平井洋生，石木 学，和田 努，薄井 勲，岩田 実，高野敦子，宇野立人，<u>上野 栄一</u>，高田康光，春田哲郎，小林 正 GTP γ S と高浸透圧によって誘導されるチロシンリン酸化される蛋白について検討した。免疫沈降、ウエスタンブロットによって、70-80kDa, 120-130kDa の蛋白がリン酸化されることがわかった。また、各種阻害剤(Wortmannin, Calphostin C, Cytochalasin D)にてpaxillin, p130CAS, PYK2 のチロシンリン酸化を検討した結果、これらのチロシンリン酸化はGTP γ S やosmotic shock によって誘導された糖輸送には影響を与えていないことがわかった。したがって、GTP γ S と高浸透圧によって誘導される未知の蛋白の存在が示唆された。 担当部分：実験全般、抄録作成 共同発表者：<u>Eiichi Ueno</u>, Minoru Iwata, Isao Usui, Atsuko Takano, Tetsuro Haruta
21. Mechanism of Insulin-induced Adipocyte Differentiation and Clonal Expansion in 3T3L1 Cells	共著	平成 10 年 6 月	58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), Chicago, USA	本研究では、3T3-L1 細胞におけるインスリンで誘導された脂肪の分化とクローナルエクспанション(DNA 合成)のメカニズムについて調べた。その結果、脂肪の分化とクローナルエクспанションにはインスリンは不可欠であり、また、c-fos には関与していないことがわかった。さらに、Wortmannin, PD98059 などの各種阻害剤を使った実験の結果、インスリンで誘導された脂肪の分化は、MAP kinase やc-fos を介さず、PI3-kinase を介することが示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：Isao Usui, Tatsuhito Uno, Atsuko Takano, <u>Eiichi Ueno</u>, Tetsuro Haruta

22. Mechanism of Insulin-like Effect and Insulin Antagonistic Effect of Growth Hormone	共著	平成 10 年 6 月	58th Scientific Sessions (American Diabetes Association) Chicago, USA	成長ホルモンはインスリン抵抗性を起こすことが知られているが、本研究では成長ホルモンの短期刺激と長期刺激のインスリン抵抗性のメカニズムについて調べた。これらの結果、3T3-L1 脂肪細胞では GH による糖の取り込みは IRS-1 を介しない可能性が示唆された。また長時間処置による抗インスリン作用には IRS-1 より下流のシグナル過程が抑制されている可能性が示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：Atsuko Takano, Minoru Iwata, Tatsuhiro Uno, <u>Eiichi Ueno</u>, Masashi Kobayashi
23. Role of Tyrosine Phosphorylation Induced by GTP γ S and Osmotic shock in 3T3L1 Adipocytes	共著	平成 10 年 6 月	58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), Chicago, USA	GTP γ S と高浸透圧によって誘導されるチロシンリン酸化される蛋白について検討した。免疫沈降、ウエスタンブロットによって、70-80kDa, 120-130kDa の蛋白がリン酸化されることがわかった。また、各種阻害剤 (Wortmannin, Calphostin C, Cytochalasin D) にて paxillin, p130CAS, PYK2 のチロシンリン酸化を検討した結果、これらのチロシンリン酸化は GTP γ S や osmotic shock によって誘導された糖輸送には影響を与えていないことがわかった。したがって、GTP γ S と高浸透圧によって誘導される未知の蛋白の存在が示唆された。 担当部分：実験全般、抄録作成 共同発表者：<u>Eiichi Ueno</u>, Minoru Iwata, Isao Usui, Atsuko Takano, Tetsuro Haruta
24. Mechanism of Insulin-induced Adipocyte Differentiation and Clonal Expansion in 3T3L1 Cells	共著	平成 10 年 6 月	58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), Chicago, USA	本研究では、3T3-L1 細胞におけるインスリンで誘導された脂肪の分化とクローナルエクспанション (DNA 合成) のメカニズムについて調べた。 その結果、脂肪の分化とクローナルエクспанションにはインスリンは不可欠であり、また、c-fos には関与していないことがわかった。さらに、Wortmannin, PD98059 などの各種阻害剤を使った実験の結果、インスリンで誘導された脂肪の分化は、MAP kinase や c-fos を介さず、PI3-kinase を介することが示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：Isao Usui, Tatsuhiro Uno, Atsuko Takano, <u>Eiichi Ueno</u>, Tetsuro Haruta

25. Pioglitazone Improves Insulin Resistance by Inhibiting TNF α -induced Decrease of IRS-1 Protein in 3T3L-1 Adipocytes	共著	平成 10 年 6 月	58th Scientific Sessions (American Diabetes Association), Chicago, USA	脂肪細胞 (3T3-L1 細胞) を用い TNF - α によるインスリン抵抗性の機序とそれに対する Pioglitazone の効果を解明するために検討した。その結果、TNF - α は短期間では 1R の自己リン酸化、IRS - 1 の発現量及びチロシンリン酸化と糖の取り込みに影響を与えなかった。また、長期間では IRS - 1 の発現を対照に比較し 50%程度に低下させ、同程度に IRS - 1 のチロシンリン酸化、糖取り込みを抑制した。これらの実験結果から、脂肪細胞において TNF - α によるインスリン抵抗性は IRS - 1 の発現を低下させることにより生じ、また、Pioglitazone は IRS - 1 の発現を回復させることによりインスリン抵抗性を改善させると考えられた。 担当部分：実験、解析 共同発表者：Minoru Iwata, Isao Usui, Tatsuhiro Uno, Eiichi Ueno, Tetsuro Haruta
26. 病室環境における入院患者のディストレス度測定尺度作成の試み	共著	平成 10 年 7 月	第 24 回看護研究学会, 弘前	病室空間は入院患者の生活・心理に大きく影響し、さまざまなディストレス (負のストレス) をもたらしめている。この特殊な空間での生活に適応するための看護を行うには、その患者のディストレスの質と程度を知る必要があり、本研究では入院患者の病室環境におけるディストレス度を測定するための尺度の開発を試みた。第 1 段階として用語「ディストレス」の操作的定義を検討した。セリエの定義に基づき、ディストレスを負のストレスとし、入院中の病室環境に対して、苦痛・不安・不眠・恐怖・不便・不快・苦悩・羞恥・屈辱・心配・悲嘆・負担・不適応等、苦悩となっているような事項を先行文献より収集した。第 2 段階として、患者 30 人に病室での生活でディストレスとなっている事項を記入してもらい、先行文献より得たディストレス項目とを参考に調査紙の原案を作成した。この原案をもとに無作為抽出によって調査に同意が得られた大部屋入院の内科系患者 97 名を母集団とし、調査した。その結果、(1) 因子分析 (主因子法、バリマックス回転) の結果、固有値 1.0 以上を考慮しスク립ト法により 3 つの因子を抽出した。(2) 因子負荷量 0.5 以上を項目の決定の基準にした。また、第 1 因子で 3 項目、第 2 因子で 5 項目、第 3 因子で 5 項目の計 13 項目あげることができた。累積寄与率は第 1 因子で 29.0、第 2 因子で 35.4、第 3 因子で 40.8 であった。因子の命名は、第 1 因子を物理的不快因子、第 2 因子を危険・不安因子、第 3 因子を人的不快因子とした。内部整合性の指標である Cronbach の α 係数を

27. 病室環境における入院患者のディストレスと不安度との関係	共著	平成 10 年 7 月	第 24 回看護研究学会, 弘前	各因子ごとに算出した結果をみると、物理的不快因子で 0.837, 危険・不安因子で 0.727, 人的不快因子 0.701, 質問紙全体で 0.862 と高い値を示した。 担当部分：論文全般共同発表者：<u>上野栄二</u>、高島佐知子、高間静子 患者にとって入院は多くのディストレス（否定的ストレス）が予測される。特に生活の場である病室環境はさまざまな質のディストレスを患者は経験する。本研究では病室環境におけるディストレス測定尺度を使って入院患者のディストレス度を測定し、患者の不安度との関係を調べた。調査対象：富山県内の公立の総合病院に入院し、無作為抽出によって調査に同意が得られ、有効回答のあった内科系疾患患者 97 名を母集団とした。結果、対象 97 名全体から 3 つのディストレス因子と特性不安・状態不安との関係をみると、患者の状態不安は物理的ディストレスに影響し、また、入院回数が多いほど影響し、特性不安は入院回数が少ない群においてディストレスに影響することが示唆された。 担当部分：データ処理の指導 共同発表者：横田恵子、大江美由紀、谷優美子、<u>上野栄一</u>、高間静子
28. 看護婦の社会的スキルと専門的自律度との関係	共著	平成 10 年 7 月	第 24 回看護研究学会, 弘前	間で $r=0.927$ の高い偏相関係数を示した。看護職経験年数別でみると経験 20～30 年未満群の PNQ1・2 と関係維持とはそれぞれ有意水準 5%の危険率で $r=0.297$, $r=0.295$ の偏相関係数を示した。全体的にみると、関係開始や自己主張は PNQ とは相関を示さなかった。学歴別でみると、専門学校卒群の PNQ2 は関係維持と $r=0.255$ の正の相関を示し、短期大学卒群の PNQ3 は関係開始と $r=0.858$ の負の相関を、自己主張と $r=0.812$ の正の相関を示した。婚姻別にみると既婚群の PNQ1, 2, 3 と関係維持とはそれぞれ有意な正の相関を示した。これらの結果から、看護婦の専門的自律度には主として社会的スキルの下位概念の関係維持のスキルのみか関係し、その他の関係開始、自己主張等のスキルは関係していないことが示唆され、この関係は性、年齢、婚姻、学歴、経験年数により異なっていることが明らかとなった。 担当部分：データ解析 共同発表者：堂下芳美、八田朱美、江守外志子、<u>上野栄一</u>、高間静子

29. 血糖コントロールに伴い一過性の透視化をきたした一例	共著	平成 10 年 9 月	第 58 回日本糖尿病学会中部地方大会	症例は 56 歳男性で平成 4 年より糖尿病を指摘され今回血糖コントロール目的に平成 9 年 5 月 3 日当科入院。入院時、FPG251mg/dl、HbA1c8.9%で網膜症を認めないためインシュリン治療を開始し 6/6 には FPG101mg/dl まで改善した。しかし同時期より眼鏡が合わないなどの症状が出現したため眼科受診。網膜症は認めず、屈折力が右眼にて-3.0D から-2.0D、左眼にて-3.0D から-2.5D の遠視化を認めた。視力障害が出現したため患者がインシュリン治療に不信感を抱いたが 6/27 には屈折力は入院時の値まで回復し症状も改善した。血糖コントロールに伴い網膜症が増悪した場合、回復しないことが多い。しかし屈折異常は可逆性の変化であることを患者に十分説明し、安心させることの心理的アプローチが必要であると考え。 担当部分：解析 共同発表者：岩田 実、春田哲郎、簿井 勲、宇野立人、高野敦子、<u>上野栄一</u>、笹岡利安、石木 学、和田 努、石原 元、石橋 修、小林 正、星山真理、池田成子
30. 高齢糖尿病患者とその家族の治療や療養法に対する満足度とギャップ	共著	平成 10 年 11 月	第 14 回富山県糖尿病懇話会, 富山	老年糖尿病患者と家族の療養生活上の負担度と QOL, ADL, ストレスによる抑うつ性との関連について、富山医科薬科大学第 1 内科糖尿病専門外来通院の患者・家族 105 組について、糖尿病総合負担度スケール、老研式活動能力指標、日本版 SDS を使用し調査した結果、患者群では症状と食事療法負担度の相関がみられ、家族群では療養生活の支援を患者ほど負担とは思っていなかった。また、患者、家族の糖尿病総合負担度・QOL・ADL と抑うつ性との間には、相関を認めなかった。うつ傾向は患者の約 1 割に認められ、約 2 割はうつ傾向境界型であった。うつ状態群の患者は、食事療法、不安度、糖尿病総合負担度得点が有意に高いという結果を得た。以上の結果から、うつ傾向にある患者は食事療法に対する負担度が正常群より高く、このことが糖尿病のコントロールを困難にしていると考えられる。 担当部分：研究計画 共同発表者：木谷真由美、鍋山昭子、日下智子、猪谷久美、砂田厚子、野上悦子、<u>上野栄一</u>

31. インスリンシグナル伝達における SHIP-2 の役割	共著	平成 10 年 12 月	第 10 回分子糖尿病学シンポジウムプログラム, 松山	SHIP2 は血球系のサイトカインのシグナルを負にする作用を持つ。本研究では、ラット骨格筋による SHIP の isozyme である SHIP2 をクローニングして、その構造とインスリンシグナル伝達機構について調べた。その結果、SHIP2 は SHIP と同様に、インスリンの増殖作用を負に調節することが示唆された。また、SHIP2 はインスリンの代謝作用をも負に制御することが示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：石原 元, 笹岡利安, 和田 努, 堀 宏之, 平井洋生, 春田哲郎, 薄井 勲, 岩田 実, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野 栄一</u> , 小林 正
32. Klinefelter 症候群に合併した糖尿病の一症例	共著	平成 11 年 3 月	第 59 回日本糖尿病学会中部地方大会, 名古屋	症例：46 歳、男性。家族歴：父親が糖尿病。現病歴：昭和 61 年より DM、depression、mental retardation にて他院で medication (グリベンクラミド 7.5mg) を受けていた。平成 4 年より paresthesia を自覚し、HbA1c11.5%とコントロール不良であり平成 8 年 12 月に柏崎中央病院に入院。入院時所見：恥毛薄く、女性化乳房、精巣の萎縮、両下肢の腱反射消失、振動覚低下を認めた。染色体検査で 47XXY、血中テストステロン低値、LH, FSH も高値で Klinefelter 症候群と診断した。蛋白尿 1.1g/day Ccr74.3ml/min、simple retinopathy(+)と triopathy を認めた。一般に欧米では、Klinefelter 症候群に伴う糖尿病は軽症例が多く本例のように triopathy を伴うものは珍しい。Klinefelter 症候群に伴う mental retardation による糖尿病への理解不足が triopathy をきたした一因と考えられた。 担当部分：実験、解析 共同発表者：岩田 実, 春田哲郎, 薄井 勲, 宇野立人, 高野敦子, <u>上野 栄一</u> , 笹岡利安, 石原 元, 和田 努, 堀 宏之, 石橋 修, 大角誠治, 小林正, 星山真理
33. 糖尿病外来通院中断者の特性と中断理由について	共著	平成 11 年 3 月	第 12 回日本看護研究学会地方会京都	糖尿病中断者を対象に、その理由と患者の特性を把握し、今後の指導に役立てたいと考えた。当院第一内科で糖尿病の治療をしていたが、平成 9 年に入り 1 年以上通院していない人を中断者として、計 180 名にアンケート（無記名）を郵送し、56 名から回答を得た。その中で有効回答の得られた 47 名を対象とした。患者の特性を測定するために、健康認識度、健康帰属傾向、保健行動の優先性、支援、タイプ A 尺度を用いた。その結果、中断理由の中で多かったものは、「病院での待ち時間が長いから」「自覚症状がないから」「食事、運動療法のみならば自分でできるから」などであっ

34. 脂肪細胞の分化におけるインスリンシグナル、特に PI3 kinase 及び Rapamycin 感受性の重要性	共著	平成 11 年、4 月	第 42 回日本糖尿病学会，横浜	た。通院の継続条件としてあげられたものは、「自宅又は職場の近くに病院がある」「病院までの交通の便がよい」「時間予約制が確実で、待ち時間が短い」「医師の対応が丁寧で親切」などであった。患者の特性を見ると、入院回数と保健行動の優先性、入院回数と健康帰属傾向、入院回数と健康認識度との間に負の相関関係があった。また、中断者の保健行動の優先性は、支援と健康帰属観に大きく関与していた。以上のことを総括すると、患者の通院継続に対する二ーズには、地理的条件、時間的側面、病院のソフトの側面（医師の対応）が多かった。入院回数と保健行動の優先性、健康帰属傾向、健康認識度には有意な相関があった。保健行動の優先性は、支援と健康帰属傾向が影響していた。 担当部分：研究立案、データ解析共同発表者：北林正子、広上眞里子、<u>上野栄一</u> インスリンによる脂肪細胞分化促進の機序について検討した。【方法】3T3-L1 前駆脂肪細胞に、PI3 kinase 阻害薬である wortmannin（以下 WM），LY294003（以下 LY），MEK 阻害薬である PD98059（以下 PD），mTOR 経路の阻害薬である rapamycin（以下 rapa）を処置，または持続活性型 PI3 kinase（以下 p110 CAAX）をアデノウイルスベクターを用い発現後，脂肪細胞への分化を誘導．分化率，BrdU の取り込み，c-fos の誘導，Rb のリン酸化と cyclin D の蛋白量について検討した。【結果】脂肪細胞への分化率，分化誘導 1 日目の DNA 合成，Rb のリン酸化，cyclin D の蛋白量は WM，LY により完全に，rapa により部分的に抑制されたが，PD には影響を受けなかった．c-fos の誘導は PD により抑制されたが，WM，LY，rapa には影響を受けなかった．p110 CAAX は分化率を抑制した。【考察】インスリンは cyclin D の蛋白量の上昇と Rb のリン酸化による，分化初期の一過性の DNA 合成の促進（clonal expansion）を一つの機序とし，脂肪細胞の分化促進に寄与する可能性を示した．この際，MEK から c-fos に到る経路でなく，PI3 kinase と rapa 感受性経路の一過性の活性化が重要であると考えられた。 担当部分：実験、解析 共同発表者：薄井勲、春田哲郎、岩田実、宇野立人、高野敦子、<u>上野栄一</u>、川原順子、笹岡利安、石原元、小林正

35. 老年病糖尿病患者・家族の負担度と抑うつ性との関連	共著	平成 11 年 5 月	第 42 回日本糖尿病学会, 横浜	老年糖尿病患者と家族の療養生活上の負担度と QOL, ADL, ストレスによる抑うつ性との関連について、糖尿病総合負担度スケール、老研式活動能力指標、日本版 SDS を使用し、富山医科薬科大学第 1 内科糖尿病専門外来通院の患者・家族 105 組について調査した結果、(1) 患者では症状と食事療法負担度が有意に高かった。(2) 家族は療養生活の支援を患者ほど負担とは思っていない。(3) 患者、家族の糖尿病総合負担度・QOL・ADL と抑うつ性との間には、相関を認めなかった。(4) 患者の約 1 割にうつ傾向が認められ、約 2 割はうつ傾向境界型であった。(5) うつ状態群の患者は、食事療法、不安度、糖尿病総合負担度得点が有意に高かった。以上の結果から、うつ傾向にある患者は食事療法に対する負担度が正常群より高く、このことが糖尿病のコントロールを困難にしていると考えられる。看護介入としては、うつ状態を引き起こした背景をつさぐり、その改善をはかることが重要と考える。 担当部分：データ解析、考察 共同発表者：鍋山昭子、木谷真由美、猪谷久美、砂田厚子、杉政美雪、<u>上野栄一</u>、小林 正
36. ラパマイシン感受性経路を介するインスリンシグナル伝達抑制機構	共著	平成 11 年 5 月	第 42 回日本糖尿病学会, 横浜	インスリン刺激により SDS-P. における IRS-1 の electrophoretic mobility shift (EMS) 及びその degradation が生じる。本研究では IRS-1 の EMS の機序とその機能的意義を検討した。また、3T3-L1 脂肪細胞を用いてインスリン、PMA、p110CAAX による IRS-1 の EMS および degradation を検討した。その結果、(1) インスリン、p110CAAX および PMA による IRS-1 の EMS はラパマイシンにより抑制された。(2) ラパマイシンにより IRS-1 の EMS および degradation を抑制するとインスリン刺激後 4 時間における p85 と IRS-1 の結合および Akt リン酸化は対象に比し上昇を認めた。これらの結果から、PI3-Kinase の下流に存在するラパマイシン感受性経路がインスリン刺激による IRS-1 のセリン/スレオニンリン酸化および degradation に関わっており、インスリン長時間刺激後に生ずるインスリン作用抑制機構の少なくとも一部を構成するものと考えられた。 担当部分：解析共同発表者：宇野立人、春田哲郎、薄井 勲、岩田 実、高野敦子、<u>上野栄一</u>、川原順子、笹岡利安、石原 元、小林 正

37. 入院患者の日常生活における適応度測定尺度作成の試み	共著	平成 11 年 7 月	第回日本看護研究学会	本研究では、入院患者の日常生活における適応の程度を測定するための尺度の開発を試みた。無作為抽出によつて調査に同意が得られた富山県下の公立病院に入院する内科系患者 100 名に調査し、有効回答の得られた 97 名を対象とした。質問紙の原案は 50 項目からなる 4 段階のリッカートタイプとし、これを用いて調査し分析したところ、次の結果を得た。(1) 因子分析(主成分法・バリマックス回転)の結果、固有値 1.00 以上を考慮しスクリプト法により 6 つの因子を抽出した。(2) 因子負荷量 0.5 以上を項目決定基準にした結果第 1 因子で 8 項目、第 2 因子で 9 項目、第 3 因子で 6 項目、第 4 因子で 5 項目、第 5 因子で 3 項目、第 6 因子で 4 項目の計 35 項目を確認した。累積寄与率は 6 因子で 50.8 であった。因子の命名は、第 1 因子を「病床因子」、第 2 因子を「病院食因子」、第 3 因子を「排泄環境因子」、第 4 因子を「同室者因子」、第 5 因子を「病室の物理的因子」、第 6 因子を「保清規制因子」とした。(3) 質問紙の信頼性検討のため、内的整合性の指標である Cronbach の信頼性係数を算出したところ、質問紙全体で 0.929 であった。(4) 質問紙の妥当性検討のため、不安度や快眠度との相関をみた結果、質問紙と関学版の特性不安・状態不安とはそれぞれ有意水準 5% で $r=0.378$, 0.354 の正の相関を示した。以上の結果から 35 項目からなる質問紙は、高い信頼性・妥当性が支持された。 担当部分：データ処理、考察 共同発表者：高島佐知子、<u>上野栄一</u>、高間静子、谷優美子

38. 看護における対人関係の研究の動向	共著	平成 12 年 6 月	第 11 回日本看護研究学会北海道地方学術集会、札幌	本研究では、過去 15 年間における日本国内での対人関係に関する研究の動向についてその特徴を内容分析の手法を用いて明らかにした。研究方法是医学中央雑誌（CD-ROM 版）より過去 15 年間（1985 年～平成 11 年）の文献より、次の手順により分析した。その結果、過去 15 年間における対人関係に関する文献数は 1987 年 67 件、1990 年 85 件と他の年度と比べて多く、対人関係+看護の文献検索では、数は少ないものの 1990 年度以降増えてきている。次に、内容分析による単語の種類をみると、1987 年では、法（24）、精神医療改革（5）、新・精神保健法（4）と精神保健に関する研究が増加している。これらは 1988 年に精神保健法が制定されるということで、この法律に関する関心が高まったためにこの結果につながったと考えられる。また、平成 6 年の雲仙・普賢岳噴火災害、平成 11 年の災害 P T S D など、災害に関する研究もされてきている。以上のことを総括すると、対人関係に関する研究は、1987 年より増加の傾向にある。また、看護に関する対人関係の研究も 1990 年以降増加の傾向にあり、患者との対人関係をテーマとする研究が増えてきている。担 当部分：研究企画、統計処理、抄録作成 共同発表者：上野栄一、山内 学、望月吉勝、北村久美子
39. 最近の精神医療の動向について－過去 13 年間の文献探索から－	共著	平成 12 年 6 月	第 11 回日本看護研究学会北海道地方学術集会、札幌	本研究では、過去 13 年間の精神医療の動向について、文献探索的研究を行い、最近の精神医療の特徴について考察した。文献は、医学中央雑誌 CD-ROM 版を用い、内容分析手法を用いて、タイトルを品詞に分解し、その名詞句の頻度から最近の精神医療の特徴を明らかにした。その結果、（1）精神衛生法から精神保健法へと改正された 1987 年においては、「法」「精神衛生法」「精神保健法」という語が上位に現れ、その後の法改正と併せて、精神保健福祉行政、施策の変遷に伴う変化が見られた。 （2）「精神医療」「現状」という語句は、通年を通して見られた。（3）国内において、「リエゾン精神医療」「地域医療」「報道機関」「阪神-淡路大震災」等の社会情勢を反映した用語も見られた。 担当部分：研究立案、内容分析共同発表者：山内 学、上野栄一、望月吉勝

40. セミクリーン ルーム入室患者の ストレス要因と対処 行動	共著	平成 12 年 6 月	第 31 回日本看護学 会、浜松	個室・カーテン隔離を強いられた患者にストレスをもたらす要因と程度、対処行動を明らかにし、さらにそれぞれの相違を検討し、必要な看護介入について明らかにした。調査対象：個室隔離を経験した患者(以下個室群とする)14 名。カーテン隔離を経験した患者 (以下カーテン群とする) 7 名。(両群に重複症例あり)。文献、患者からの情報、当科の特殊性から個室群に対して 20 項目を選びオリジナルのストレスチェックテスト(以下KST とする)を、カーテン群に対して 23 項目を選びオリジナルのストレスチェックテスト(以下C S Tとする)を作成し併用した。K S T・C S Tの項目としては基本的日常生活行動で分類し、『苦痛』と『気兼ね』の 2 つでストレスの程度を測定した。その結果、(1)『苦痛』としてのストレスは、「食事」がもっとも強く、「排泄」「コミュニケーション」は少なかった。(2)『気兼ね』としてのストレスは比較的少なかった。(3)カーテン隔離を経験した群はストレスに対して対処行動が取れていたが、個室群では対処行動は取れていなかったことがわかった。 担当部分：研究計画 共同発表者：我妻あゆみ、萩原 正子、上田好恵、小山 智美、佐藤 華代、加藤 澄江、<u>上野 栄一</u>
41. 看護学生の健康度と対人関係との関係	共著	平成 12 年 7 月	日本看護研究学会、千葉	睡眠障害は、精神面において記憶力の低下やいらいら感が生じることなどから、対人関係にも悪影響を与えていると考えられる。本研究では、看護学生の健康度と対人関係との関係について調査した。、使用尺度として、健康度の指標として睡眠度、行動特性としてタイプ A 尺度、対人関係の測定にはシャイネス尺度、対人態度基本インベントリ-尺度、対処行動の尺度として積極的・効果的尺度を用いた。その結果、健康度は対人態度に影響を与え、また健康を害すると対人関係において、対人不安が高まる一方で、よりよい対人関係にしようとする働きのあることがわかった。 担当部分：研究計画、統計解析 共同発表者：松田美千代、田中いずみ、長谷川ともみ、前畑夏子、安田智美、大野昌美、伊藤廣美、山内 学、松浦和代、<u>上野 栄一</u>、望月吉勝

42. 個室・カーテン隔離を強いられた患者のストレス要因と対処行動との関係	共著	平成 12 年 7 月	日本看護研究学会、千葉	個室隔離を経験した 14 名の患者、カーテン隔離を経験した患者に対し、ストレスをもたらす要因と程度、対処行動の比較の検討をおこなった。使用尺度として、心理的ストレス反応尺度 (P S R S) とオリジナルのストレス尺度を開発したものを用いた。その結果、(1) 苦痛としてのストレスは、食事がもっとも強く、排泄、コミュニケーションは少なかった。(2) 気兼ねとしてのストレスは、比較的少なかった。(3) カーテン隔離を経験した群はストレスに対して対処行動がとれていたが、個室群では対処行動はとれていなかった。 担当部分：調査票集計、データ解析 共同発表者：萩原正子、<u>上野栄一</u>
43. 看護学生の自我状態と対人関係との関係	共著	平成 12 年 7 月	日本看護研究学会、千葉	本研究では、看護学生 (62 名) の自我状態と対人関係との関係について調べた。その結果、(1) 自我状態と対人不安、対人態度との間には有意な相関があった。(2) 対人態度は自我状態に影響を与えていた。(3) 自我 (CP と A) とタイプ A との間には有意な相関があった。 担当部分：研究立案、データ解析 共同発表者：田中いずみ、松田美千代、長谷川ともみ、前畑夏子、安田智美、大野昌美、山内 学、<u>上野栄一</u>、松浦和代、望月吉勝、伊藤廣美
44. WHO/QOL-26 調査票による看護学生の QOL の検討	共著	平成 12 年 7 月	日本看護研究学会、千葉	将来の保健医療福祉の担い手となる看護学生の QOL を測定し、関連する要因を、看護学科 3 学年 66 名を対象に調査し探索した。使用尺度は、QOL-26 日本語版 (田崎・中根、平成 9 年)、Self-Esteem Scale (RSES: Rosenberg, 1965)、Breslow の健康習慣 7 項目を用いた。その結果、QOL-26 全体と領域別の得点の中央値をみると、全体では 3.35 であったが、包括的認識はやや小さく、社会的認識はやや大きい値であった。また、QOL-26 全体および領域別得点と RSES との間にはいずれも有意な相関関係がみられた。なかでも、心理的領域の相関係数は大きく、身体的領域と社会的関係がそれに次ぎ、環境と包括的認識は他に比して小さかった。 担当部分：研究立案、データ解析 共同発表者：望月吉勝、<u>上野栄一</u>、山内学、松浦和代

45. 精神科に対する看護学生のイメージと対人不安・対人態度・自我状態との関係	共著	平成 12 年 7 月	日本看護研究学会、千葉	本研究では、シャイネス尺度、基本的対人態度測定インベントリ、エゴグラム、タイプ A 尺度を用いて、対象である看護学生 62 名の精神科に対するイメージと対人不安、対人態度、自我状態との関係について調べた。その結果、(1) 看護学生の実習前の精神科に対するイメージはマイナスイメージが多いが、実習後にはイメージの変容が見られた。(2) 対人態度とイメージには有意な相関があった。(3) 自我状態はイメージに影響を与えていた。 担当部分：抄録作成、プレゼンテーション 共同発表者：<u>上野栄一</u>、山内 学、松浦和代、望月吉勝、伊藤廣美、田中いずみ、長谷川ともみ、前畑夏子
46. 精神科看護の歴史に関する研究の動向	共著	平成 12 年 7 月	日本看護研究学会、千葉	日本看護研究学会、千葉 本研究では我が国における精神看護の歴史の研究の動向について調べた。研究内容の分析を、看護、看護教育、管理面の視点よりおこなった。その結果。(1) 精神看護の歴史に関する研究は数少ない。(2) 精神科看護に関する文献が多く、教育に関する文献は少ない(3) 内容の分析では、我が国では、職業看護婦の道を歩み出したのは明治以降であるが、精神医療の閉鎖性、後進性の中で精神科看護は停滞していた。また、精神疾患患者をとりまく環境の変化はその時代の社会背景、および精神医療の発達と密接につながり、精神科医療の中で果たす独自の役割機能も変化しきっていることがわかった。 (4) 本研究で行った内容分析による語彙レベルによって日本語の文章を分別、分析することは精神医療の動向を評価する際に大変有効であることが示唆された。 担当部分：研究立案、データ解析 共同発表者：山内 学、<u>上野栄一</u>

47. Phorbol 12-myristate 13-acetate(PMA)によるインスリン抵抗性はmammalian target of rapamycin(mTOR)経路を介する	共著	平成 13 年 4 月	第 44 回日本糖尿病学会年次学術集会、京都	PMA 刺激による IRS-1 の electrophoretic mobility shift(EMS) の機序およびその意義について検討し、また 3T3-LI 細胞を用いてインスリン、PMA 刺激による IRS-1 の EMS およびそれ以下のシグナルについて検討した。その結果、(1)インスリン刺激とは異なり PMA 刺激により生じた IRS-1 の EMS は、GF 109203X 前処置により抑制された。 (2)PMA60 分刺激後インスリン 10 分刺激を加えると、IRS-1 のチロシンリン酸化、Akt のセリンリン酸化はコントロールに比べ減弱したが、rapamycin 前処置とアミノ酸欠損により改善した。以上の結果から、インスリン刺激と PMA 刺激により生じる IRS-1 のセリンスレオニンリン酸化は異なる経路を介しているが、mTOR 経路を介する点において共通していた。またこの経路が、インスリン刺激後のインスリンシグナルの減弱に関与していることが示唆された。 担当部分：解析 共同発表者：宇野立人、春田哲郎、高野敦子、川原順子、<u>上野栄一</u>、薄井 勲、岩田実、笹岡利安、石原 元、小林 正
48. The professional duty of nurses in Japan: Analyzing malpractice cases in 1990's.	共著	平成 13 年 6 月	International council of nurses ICN 22nd Quadrennial congress , 10-15, june, 平成 13 年 (CNS), Copenhagen.	本研究の目的は、事例を通し看護婦の専門的義務を明らかにすることである。看護婦に関与する医療事故は、これまでに 10 件起こっている。与薬ミス 2 件、人工呼吸器に関係するもの 2 件、ベッドからの転落 2 件、抑制帯に関するもの 1 件、外科処置中の観察に関するもの 1 件、新生児の体位に関するもの 1 件、子どもの観察に関するもの 1 件であった。どの判決も看護婦の観察の注意義務を怠っていると指摘している。将来、患者ケアのレベルの向上と看護婦の法的責務の明確化が必要となることが示唆された。 担当部分：事例の分析 共同発表者：Sadako Yoshimura, Yoko Sato, Abe Noriko, Eiichi Ueno

49. 内容分析を用いた看護学生の考える現代医療の特徴	共著	平成 13 年 7 月	第 27 回日本看護研究学会学術集会、金沢	20 世紀の医療は、インフォームドコンセント、臓器移植、遺伝子治療などの発展をみたように大変複雑化してきた。21 世紀はますます IT（情報技術）の進歩により医療・看護も大きな影響を受けると予想される。本研究では、精神看護学の課題レポート「現代医療」について内容分析法を用いて分析することにより、学生の考える現代医療の特徴を明らかにした。分析対象は看護大学第 3 学年生の記載した「現代医療」についてのレポート（平成 11 年度 9 月）60 人分を内容分析法を用いて解析した。一人のレポート枚数は 400 字詰め原稿用紙 4 枚程度であった。その結果、学生の考える現代医療の特徴について次のことが明らかとなった。 （1）現代医療には心のケア、精神的なケアが必要であることが認識されていた。（2）患者、家族、人間等の対人関係に関する語彙が多く使用され、学習内容を端的に示す用語が用いられていた。（3）死という語は、救命救急と連動して使用されていることが多かった。（4）精神に関わる語彙は多様な表現に用いられていた。 担当部分：データ解析、抄録作成 共同発表者：<u>上野栄一</u>、山内 学、松浦和代、望月良勝、萩原正子、小山智美、伊藤廣美、石崎佳奈子、須永恭子
50. 多床室での間仕切りカーテンの有用性	共著	平成 13 年 7 月	第 27 回日本看護研究学会学術集会、金沢	病院での入院生活は、集団生活を余儀なくされ、患者は常にプライバシーの問題にも多くのストレスをかかえることになる。本研究では、多床室で生活している患者の同室者を気にする生活場面と度合い、間仕切りカーテンで保持されるプライバシーの度合いを調査し、多床室における間仕切りカーテンの有用性を明らかにした。調査対象は内科病棟の 6 床室に 1 週間以上入院している患者 40 名を対象とした。その結果、同室者を気にする場面としては「排泄」「更衣」「清拭」が高かった。カーテン使用の有無では、「診察」で閉めるとした者が多いにもかかわらず、気にする度合いとしては低かった。さらに「診察」においては、患者が気にする前に医療者が配慮しているといった行為があることも明らかになった。以上のことより、気密性の少ない間仕切りカーテンには、患者間の人間関係というデリケートな感情を含んでいる事が明らかになった。また音や臭いといった限界もある事も考慮して看護をしていく必要性のあることが明らかとなった。 担当部分：データ解析、抄録作成指導 共同発表者：小山智美、黒田夕香、萩原正子、<u>上野栄一</u>

51. 精神看護学実習前後の精神科に対するイメージの変容	共著	平成 13 年 10 月	北海道地域福祉学会研究大会、札幌	我が国は IT 等の国策により情報産業、グローバル化が進み、より機械化文明となってきた。その一方で心の病の増加がみられる。今後、精神看護領域における心のケアはますます重要となると考えられているが、精神科や障害者に対して持つマイナスのイメージは看護の質に影響すると考えられる。本研究では、学生の実習後の精神科に対するイメージの変容について調査した。調査対象：2 大学の看護大学学生 62 名（4 学年）。調査期間：平成 11 年 5 月～同年 8 月。イメージ調査にあたっては、自由記載方式とした。内容分析により、イメージの変容について形容詞、名詞を中心に抽出した。実習前調査では、マイナスのイメージのみ回答した群：50 名、プラスのイメージのみ回答した者 1 名、マイナスとプラスのイメージを回答した群（混合型）：11 名であった。どちらにも属さないイメージ：15 名（複数回答処理）、全イメージ数は 321 個であった。マイナスのイメージとしては、暗い、暗い、不安、鉄格子などが、プラスのイメージとしては、なごやか、ゆったり、純粹、おおらか、楽しい等があげられていた。実習後の調査では、イメージの変化した学生は、100%であり、「マイナスイメージはなくなった」、あるいは「軽減した」と表現していた。また、マイナスイメージを持つ根拠としてマスコミの影響が大きかった 担当部分：データ解析、抄録作成 共同発表者：上野栄一、山内 学

52. 内容分析による 「Notes on Nursing」の特徴	共著	平成 14 年 8 月	第 28 回日本看護研 究学会学術集会、 横浜	フローレンス・ナイチンゲール(Florence Nightingale, 1820-1910:以下ナイチンゲールと略す)は、イギリスの看護婦であり看護専門職の創立者である。日本でもよく親しまれている「Notes on Nursing: 看護覚え書き」は今なお看護の原典として教育に実践に生かされている。本研究では、Notes on Nursing を内容分析を用いてその特徴を明らかにした。その結果、彼女は nurse を「a good nurse」「a careful nurse」「careless nurse」「a true nurse」「professional nurse」「the kindest nurse」「the private nurse」「the clever nurse」「the experienced nurse」「a confidential nurse」等の使い分けをしていた。以上のことから、内容分析による「Notes on Nursing」の特徴として次のことが明かとなった。1) 全体では、冠詞、前置詞、助動詞、代名詞がよく用いられていた。2) 名詞では、医療に関わる人々、環境に関する単語が多く用いられていた。3) 動詞では、make, say, want, think, take, give が上位を占めた。4) nurse (nurses)には、専門職としての特徴や役割が描写されていた。以上のことを総括すると、ナイチンゲールの看護理論の基礎をなす環境に関する単語が多く用いられていた。また内容分析により Notes on Nursing」の特徴をみることができた。 担当部分：データ解析、抄録作成 共同発表者：<u>上野栄一</u>、三田村保、伊藤幸子、 須永恭子

53. 寒冷地降雪期における女子高校生の冷えに関する実態調査	共著	平成 14 年 8 月	第 28 回日本看護研究学会学術集会、横浜	北海道は暖房設備の充実、交通機関の発達により人々の冬季寒冷暴露は減少しているといえる。しかし戸外はマイナス気温であり、何らかの防寒対策は必要である。近年、降雪期であっても素足に短めのスカートで通学する女子高校生を見かけ、保温を考慮しているとは考えがたい。本研究では、高校生を対象に降雪期間の冷えに関する実態調査を行った。対象は協力が得られた旭川市及び近郊の制服のある公立高校 3 校の 2 年女子、319 名である。平成 14 年 2 月 12 日より同 19 日まで、無記名自己記載アンケート調査を実施した。その結果、回収は 279 名、有効回答数は 250 名であった(有効回答率 78.4%)。冷えを自覚していた者(冷え有群とする)は 32.0%であり、ややそう思うを含めると 70.0%であった。冷えを感じる時期については、74.8%が冬期間をあげ、年間を通して感じている者は全体の 16.4%であった。冷え有り群は通学時の冷え($P<.005$)と年間を通しての冷え($P<.0001$)を有意に感じていた。冷えの部位は足先、指先、膝、足底の順に多く、冷え有り群に有意に多かった部位は足先($P<.001$)、足底($P<.001$)、指先($P<.001$)、踵($P<.005$)、尻($P<.005$)であった。冷えによって生じると考えられる症状と冷えに対する意識、関連すると思われる日常の習慣について 4 段階評定による平均点を、冷え有り群と無し群との間で比較した。その結果、冷え有り群の平均 BMI は 20.3 であり、無し群(21.3)に比較し有意に差があった($p=.038$)。以上のことから、寒冷地において、冷えやそれに伴う身体症状は高校生の世代から現れている。思春期の特性を考慮した冷え予防や生活習慣の指導を高校生世代から行う必要のあることが明らかとなった。 担当部分：データ解析、抄録作成 共同発表者：伊藤幸子、<u>上野栄一</u>
54. 内容分析による最近の糖尿病に関する看護の研究の動向	共著	平成 15 年 4 月	糖尿病 46 巻臨増 P. S242	最近の糖尿病に関する看護の研究の動向をテキストマイニングを用い分析した糖尿病研究に関する特徴を明らかにした。結果、全体では、リハビリテーションに関する研究が多く、また糖尿病の合併症や後遺を関するものも多く研究されていた。各年度別に研究の特徴をみると、リハビリテーションに関する研究は 1990 年～平成 2000 で上位を占め、1996 年度からは、患者教育、糖尿病教育に関する看護研究が多くなされるようになっていた。担当部分：研究計画、統計処理共同発表者：北林正子、<u>上野栄一</u>、<u>広上真里子</u>

55. 内容分析による精神科病棟の看護カルテに記載される用語の特徴	共著	平成 15 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)26 巻 3 号 P.227	T 大学附属病院精神科病棟で使われている退院時看護要約(以下看護要約)に記載された 64 件を分析対象とした。精神科病棟で用いられる用語の特徴を明らかにした。その結果、1. 全体では読点、助動詞、助詞が上位をしめた。2. 名詞では、入院、退院、症状、改善、療法が多かった。3. 看護要約によく用いられる用語には、9 つの種類(ファクター)があり、特に症状に関する用語の中に精神科看護特有の用語が多くあった。 4. 日本語表記では、句読点、「うつ」と「鬱」、「こと」と「事」などといった漢字・ひらがなの表記の違いがあった。 担当部分：研究計画、統計処理 共同発表者：辻口喜代隆, <u>上野栄一</u>
56. 内容分析の手法を用いた観光客がとらえる八尾町の印象とまちづくりの視点 観光客からの 1,011 通の手紙を分析して	共著	平成 15 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)26 巻 3 号 P.444	人口約 2 万 3 千人の町に、「おわら風の盆」という祭り期間(前夜祭含め 14 日間)になると、約 30 万人の観光客が全国から訪れる富山県八尾町において観光客による視点を取り入れるべく、「町に対する感想」や「まちづくりへの提言」等を手紙に綴ってもらい、それを内容分析法を用いて、八尾町の印象やまちづくりの視点を明らかにした。町内 148 ケ所において、「おわら風の盆」に訪れた観光客 22,626 人に、八尾町を訪れての感想、」や「まちづくりへの提言」等について自由に言随してもらったための手紙を配布したところ、返信のあった 1,011 通分(回収率 4.47%)について、内容分析法を用いて鱗斤した。その結果、(1)観光客がとらえる八尾町の印象は、抽出された若詞、形容詞、動詞のどの語彙においても、肯定的な表現が上位を占めた。(2)観光客の多くは、八尾を「おわらの町」よりも「風の盆の町」として表現し、認識していた。(3)「多い」啜念」に関わる語彙には、多様な表現が達動して使用されていた。(4)本研究で用いた内容分析法は、町の印象やまちづくりについて、観光客がとらえた視点を客観的かつ的確に把握していた。(5)今後この手法は、自由言磁等の分析には有効であり、地域看護等の分野での応用が期待できることが示唆された。 担当部分：解析、考察 共同発表者：村上満, <u>上野栄一</u>

57. 内容分析による「Notes on Nursing(看護覚え書)」の特徴 collocation による解析から	共著	平成 15 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 26 巻 3 号 P. 458	フローレンス・ナイチンゲール(以下、ナイチンゲール)の著書「Notes on Nursing」には、13 の章がある直本研究では、これら 13 章につけられたタイトルから、単語レベルでの解析を試み、キーワードの前後の単語の分析をした。また、キーワードを設定し、コロケーション解析をした結果、キーワードの前後には冠詞、定冠詞、前置詞が多く配列され、また、動詞、動名詞による単語の違いが、前後の単語の配列に影響を与えていた。担当部分：研究総括、統計処理 共同発表者：上野栄一、須永恭子
58. 福祉関連用語とエンパワーメント～「障害者」と「障がい者」のイメージの変化と内容分析～	共著	平成 15 年 6 月	日本福祉心理学会 第 1 回大会、東京.	本研究では、地域住民に対し、「障害者」と「障がい者」の用語から受けるイメージの特徴ならびに差異について調査を行い、その構造を明らかにした。対象は富山県八尾町に住む中高生以上の者、計 430 名に調査票を配布し、回答が得られた 425 名であった。その結果、「障害者」と「障がい者」に対するイメージの評定漢字群では、「重い」「現実的な」「複雑な」の 3 項目において、平均値が 4.0 以上であった。これに対し、ひらがな群では、「強い」「重い」「鋭い」「太った」「急激な」の 5 項目を除いた 25 項目すべてにおいて 4.0 以上で肯定的な方向であった。主成分分析では、5 因子が抽出され、第 1 因子は、『快感因子』と命名し、第 2 因子は、『包容感不快感因子』、第 3 因子は、『活力因子』、第 4 因子は、『親近感因子』、第 5 因子は『感情因子』と解釈できた。 共同発表者：村上 満、岩倉伸一、島滝しず子、小坂鐘治、新村吉通、上野栄一、安部 良
59. 図形描画を利用した対人コミュニケーションの伝達効果	共著	平成 16 年 3 月	第 17 回日本看護研究学会近畿・北陸 地方会学術集会、 京都.	基礎看護教育におけるコミュニケーション技術の修得は大変重要である。本研究では、一方通行のゲーム(以下、課題 1)とする)と両面通行のゲーム(以下、「課題 2」)とする)を通して、両者のコミュニケーションの違いを主観的、客観的に評価した。実施期及び対象者：平成 15 年度基礎看護実習(病棟実習)前。第 2 学年の調査の同意が得られた 50 名(68 名中)のデータを分析(4 名は図形の伝達者)した。結果、両面通行のコミュニケーションは一方通行のコミュニケーションよりも、より精度の高い図形描写ができていた。また、一方通行のコミュニケーションでは、混乱、不安・緊張感などの感情が表出し、両面通行のコミュニケーションでは安心感があつた。 担当部分：研究計画、研究総括 共同発表者：上野栄一、横田恵子

60. 基礎看護実習における学生の感想文の分析－患者とのコミュニケーションを通して－.	共著	平成 16 年 3 月	第 17 回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会, 京都.	本大学では 2 年次に基礎看護実習において初めて病棟実習が行われる。実習期間は平成 14 年 10 月から平成 15 年 2 月であり、病棟での実習は 7 回実施している。分析対象は、研究に対し同意の得られた本大学の看護学生(2 年生)52 名の感想文であり、全実習終了時に自由記載により記述してもらった。分析は、内容分析法を用いて解析した。その結果、感想文全体において、名詞の出現頻度を見ると、第 1 位:患者(149 回)、第 2 位=実習(116 回)、第 3 位:会話、話(81 回)と続いた。次に 5 回以上出現した 61 の名詞に関して、グループ化し、ネーミングを行った。その結果、コミュニケーション因子(コミュニケーション、相互交渉、会話等)、対人因子(患者、看護師、医師、家族、人、自分等)、病院環境因子(ナースステーション、病棟、入院、生活等)、病態因子(病気、病状、疾患、状態)、情報収集因子(情報、カルテ、目的、課題、見方、アセスメント、観察等)、心理的因子(緊張、不安、余裕、心、心理、気持ち、思いなど)、自己評価・自己分析因子(実感、把握、理解、大切、反省、不足、努力、経験、成長、勉強、知識など)、時間因子(最初、毎回、今回、時間など)の 8 つの因子が抽出できた。 担当部分：研究計画、統計処理共同発表者：横田恵子，<u>上野栄一</u>
61. セルフモニタリング法を使用した成人型アトピー性皮膚炎患者の掻破行動に関する内容分析	共著	平成 16 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)27 巻 3 号 P. 92	本研究では、セルフモニタリング法にて得られた自由記載欄の文章を単語単位に解析し、客観的に解析することで、セルフモニタリング法効果及び成人型 AD 患者の新たな特性を明らかにした。対象は平成 15 年 6 月から 9 月に S 病院皮膚科外来に通院した成人型 AD 患者に対し、文書にて本研究の目的を説明し同意を得、患者による 4 週間の掻破行動目記記載と面接を行ない、掻破行動日記を回収できた 7 名の自由記載欄に記載された文章を解析した。その結果、「手指」が掻破行動を行なう器官であるため、介入前半で「上肢」の掻く行為が自覚され、介入後半にその関心が「上肢」以外の部位へ向けられ、「上肢」に関する単語記載量が介入後半では減少したと考えられる。さらに「意識下」での掻破行動の状況から、掻破行動には身体面の健康状態だけでなく、日常生活も大きく関係していることが示唆された。掻破行動を意識し抑制していると考えられる単語が表出され、セルフモニタリング法により自分自身が掻破行動をコントロールすることにつながると示唆された。 担当部分：統計処理

62. 外来に通院する 高血圧症患者の日常 生活における自己管 理度の実態調査	共著	平成 16 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 27 巻 3 号 P. 99	共同発表者：長内志津子，八塚美樹，安田智美，吉井美穂，田澤賢次，<u>上野栄一</u> 生活習慣病である高血圧症をもつ患者が増えてきている。そこで，本研究では外来に通院する高血圧症患者が日常生活においてどの程度自己管理できているのか。また，患者の背景の違いによる自己管理の程度を調査した。対象者は大学病院に本態性高血圧症で通院の外来患者 105 名(年齢 33～83 歳)である。測定用具は「高血圧症患者の自己管理度測定尺度」を用いた。その結果，全体の合計得点は 65.8 点であり，全体の得点で運動管理の得点が低かったのは，運動療法は効果があることをあまり知らないという知識の不足が影響している可能性が考えられた。また，肥満は血圧を上昇させることが報告されており，本研究の対象者には BMI が 25%以上の者が 44 人(42%)いたことから，肥満改善・予防にむけた食事療法や運動療法を患者が行えるような支援が必要であり，また患者への支援に関して，男性・比較的若い年齢層・有職者に対し，特に充分に行う必要性のあることが示唆された。 担当部分：抄録 共同発表者：横田恵子，<u>上野栄一</u>，高間静子
63. データマイニングによる看護学生の考える看護観 自由 記載文の分析から	共著	平成 16 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 27 巻 3 号 P. 132	看護教育の中で看護実践能力の修得は重要である。その基礎となるのが看護観である。看護観を高めることは，専門職としての基盤ともなる。本研究では学生がどのような看護観をもっているかについて，その特徴を明らかにすることを目的とした。1)調査対象：県内の看護大学生 58 名。2)調査内容：看護観について自由記載する。3)調査期間：平成 15 年 7 月～8 月 4)分析方法：単語レベルで分析し，コロケーション解析を行った。倫理的配慮としては，氏名や固有名詞があれば除去すること，形態素解析を行い文章が特定できないようにした。全体の解析結果総単語数は 28,107 個，2,253 種類の単語があった。上位頻度の単語では，患者，看護，人，思う，看護師，私患者さん，考え，思い，時間，できる，必要，病気，健康等であった。 3. 学語頻度上位 5 語以上の名詞を抽出し分類した。その結果，対人関係，症状，看護ケア，自己啓発，看護理論，時間の 6 つのカテゴリーに分かれた。 4、コロケーション解析では次の結果を得た。何を『重要』と捉えているか(20 件)：<人間><科学，技術，精神> <社会・健康・看護><信頼関係><自立><知識><環境> <感性><観察力><コミュニケーション>等があった。何を『難しい』と捉えているか(12 件)：<信頼関係><看護> <気持ちの理解>等。何を『必

64. ナイチンゲール書簡集にみるスピリチュアルケアの記述内容の分析	共著	平成 17 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	要』としているのか(71 件)=〈技術や知識×経験×観察力×経済, 環境, 政治の知識×的確な情報収集と客観的な半 1」断×コミュニケーション×精神的ケア〉等があった。何を『大切』と捉えているか(70 件):〈コミュニケーション×出会い×信頼関係×専門性×自立〉等があった。 担当部分: 研究総括、統計処理 共同発表者: <u>上野栄一</u>, 横田恵子 ナイチンゲールの看護観がなぜ今も生きて働き行動につながっているのかについて考えた時、それはスピリチュアルな側面が大きく影響を及ぼしているのではないかと推測する。本研究では、スピリチュアルな側面を明らかにすることを目的とした。その結果、新訳・ナイチンゲール書簡集の中から分析した結果、下記の 6 つのサブカテゴリと 4 つのカテゴリを抽出できた。【自己自身にむけられた思考】【神 (Spirit) にむけられた感謝や賛美・喜び・祈り】からは、①『自己』、【教訓や教え】【他者へのとりなしや祈り】からは、②『他者(人・自然)』と命名でき、【神 (Spirit) の存在】は『超越的存在』、【時間的過去、現在、未来】は『時間』とそれぞれカテゴリを抽出した。以上のことを総括すると、ナイチンゲールは、書簡集の中で、聖書から 116 箇所を取り入れて看護を語っている。今後、看護の実践の場、教育にスピリチュアル的な考えや評価を十分活用することが人間を統合的に捉えるという看護に必要なことと考える。 担当部分: 質的解析 共同発表者: 江口富子、長 光代、<u>上野栄一</u>
65. コミュニケーションスキルと自己開示度との関係	単著	平成 17 年 5 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	本研究では、看護師の自己開示度とコミュニケーションスキル尺度との関係について調査した。研究対象は、N 総合病院に勤務する看護師 163 名にアンケート用紙を配布し、103 名の回収 (回収率 63%)、データは独立変数として、年齢、経験年数、ホスピス緩和ケアの関心の有無など 8 項目設定し、分析対象とした。測定尺度は自己開示度尺度 (小口孝司、1989)、看護師における患者とのコミュニケーションスキル測定尺度を用いた。結果、専門学校卒と、短大・大学卒のコミュニケーションスキル尺度の関係では、専門学校卒の方が、コミュニケーションスキル尺度の、「話のスムーズさ」「積極的傾聴」の得点は、短大・大学卒群よりも高い値を示した。所得免許数とコミュニケーションスキル尺度の関係: 所得免許数とコミュニケーションスキル尺度には有意差はみられなかった。ストレス

66. 糖尿病専門看護師の役割 スタッフへの教育と実践評価について	共著	平成 17 年 4 月	糖尿病 (0021437X) 48 巻 Suppl. 2 P. S298	感とコミュニケーションスキル尺度の関係 ストレス感とコミュニケーションスキル尺度には有意差はみられなかった。 担当部分：統計解析、総括 研究者： <u>上野栄一</u> 担当部分：調査票作成、解析 共同発表者：杉政美雪，北林正子， <u>上野栄二</u>
67. 糖尿病と長谷川式簡易痴呆スケール得点との関係	共著	平成 17 年 4 月	糖尿病 (0021437X) 48 巻 Suppl. 2 P. S113	共同発表者： <u>上野栄一</u> ，坪田恵子，山崎勝也，小林正
68. ヘイズとラーソンの治療的技法の因子構造と社会的スキルについて	共著	平成 17 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 28 巻 3 号 P. 143	本研究では、看護師を対象に治療的技法の 25 項目の因子構造と社会的スキルとの関係について明らかにした。看護師 163 名にアンケート用紙を配布し、103 名の回収を得た。結果、ヘイズとラーソンの治療的技法の 25 項目は、7 因子に分類できた。第 1 因子は、現実提示②焦点化③順序立て④比較の促し⑤探索⑥行動計画の促し⑦明確化⑧評価の促し⑨表現の促し⑩沈黙があり、「情報の整理」と命名した。第 2 因子は、①反復②反射③言語化④合意による確認⑤感情理解の試みがあり、「相互の確認」と命名した。第 3 因子は、①献自②一般的リード③開示があり、「他者の主導性」と命名した。第 4 因子は観察があり、「観察」と命名した。第 5 因子は、①受容②認知があり、「受け入れの姿勢」と命名した。第 6 因子は疑念の表明があり、「疑念の表明」とした。第 7 因子は、要約化があり、「要約化」と命名した。社会的スキルに影響する要因について、7 因子を独立変数として重回帰分析した結果、「相互の確認」と「疑念の表明」が社会的スキルに影響を与えていた。 担当部分：統計処理 共同発表者：加藤直美，長光代，横山真代， <u>上野栄一</u>
69. コミュニケーションのロールプレイ実施後の実習における効果 自由記載のアンケートを分析して	共著	平成 17 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 28 巻 3 号 P. 119	担当部分：統計処理，抄録作成 共同発表者： <u>上野栄一</u> ，塚原節子，坪田恵子，吉井美穂

70. 高血圧症患者の日常生活における自己管理度測定尺度の作成	共著	平成 17 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)28 巻 2 号 P.73-80	本研究では高血圧症 患者の日常生活において管理の必要な側面を抽出し、各項目に指標を設けて自己管理の実施の程度を把握するための「自己管理度測定尺度」を作成することを目的とした。査対象 大学附属病院に通院中の本態性高血圧症患者で医師が調査可能と判断した者に調査を依頼し、同意の得られた 105 名に行なった。その結果、因子分析により 3 因子 27 項目の因子解が抽出された。各因子は「運動管理因子」「ストレス管理因子」「食事 管理因子」と命名した。また、本尺度は内容妥当性、表面妥当性、因子的妥当性、基準関連妥当性の検討、さらに信頼性の検討を行っており、本尺度は妥当性・信頼性のある尺度であることが確認できた。 役割分担：統計解析 共同研究者：坪田恵子， <u>上野栄一</u> ，高間静子
71. 看護師・患者役のロールプレイによる学生の気づき	共著	平成 17 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)28 巻 3 号 P.118	本研究ではロールプレイを通して学生が気づいた事を明らかにすることを話的とした。科 2 年生 60 名を対象とし患者 とのコミュニケーションにおけるロールプレイを行った。結果、学生は看護締役を通して、コミュニケーションにおける困難性や重要性を 9 つの観点から学びとっていた。そして、患者役を経験することで、これらの重要性を符認識したり、困難性は患者に戸惑いや不快感を与えていることに気づいている。しかしながら、看護締役では気まずく感じていた沈黙は患者役を通して必要とも感じ、看護締に適切に対応されることが患者に安心感をもたらすこと等、患者の観点に立つことで、看護師役では気づかなかった患者の気持ちを体験から感じとっている。 役割分担：質的解析 共同研究者：坪田恵子，吉井美穂， <u>上野栄一</u> ，塚原節子 担当部分：統計解析

72. 看護師の家族死別経験・ホスピスケアの関心とコミュニケーション技法との関係	共著	平成 17 年 6 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)28 巻 3 号 P.99	本研究では看護師における家族の死別経験・ホスピスケアの関心とコミュニケーション技法との関係について調査した。調査対象は、N総合病院に勤務する看護師 163 名に研究の主旨を説明し、同意の得た 103 名の回収データ（回収率 63%）を分析対象とした。測定尺度は、KiSS-18（菊地章夫, 1988）、自己開示度尺度（小口孝司, 1989）、又ヘイズとラーソンの治療的技法を 5 段階評価として用いた。家族の死別経験有群では、治療的技法の「沈黙」「受容」「認知」「焦点化」「探索」「情報提供」「明確化」「合意による確認」の得点は、無群よりも高い値を示した。1. ホスピス・緩和ケアの関心有群では、治療的技法の「反射」「共同の提言」の得点は、無群よりも高い値を示した。治療的技法を従属変数としての得点は、重回帰分析した結果、看護師経験年数 ($\beta = 0.435, P < 0.05$) となごませ因子 ($\beta = 0.342, P < 0.01$) が、治療的技法に影響を与えていた。 担当部分：統計解析、総括共同発表者：横山真代、長光代、加藤直美、 <u>上野栄一</u> 担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：一ノ山 隆司、 <u>上野栄一</u>
73. 精神看護学実習における学生評価－自由記載の感想文の分析－	共著	平成 18 年 3 年	日本看護研究学会近畿・北陸地方会、大津	
74. コミュニケーションと感情との関係	共著	平成 18 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会、大津	コミュニケーションは感情の交流とも言われる。コミュニケーション能力は、看護実践の中で大変重要なスキルである。また看護過程を展開する上でも、情報の収集においてコミュニケーション能力がなければよい情報を得ることはできない。このコミュニケーション能力を評価する方法としては、コミュニケーションの測定尺度があり、質的に分析する方法として、ヘイズらの治療的技法と非治療的技法がある。本研究では、コミュニケーション技法が感情にどのような影響を与えるかについて明らかにすることを目的とした。対象は 2 つの看護大学生 240 名で有効回答のあった 152 名を分析対象とした。調査票の内容は治療的技法、非治療的技法の事例を作成し、会話場面を想定して各項目の[快－不快]度を 5 段階評価した。 担当部分：総括、研究計画 共同発表者： <u>上野栄一</u> 、坪田恵子、上平悦子

75. 看護師のホスピスケアの関心度とコミュニケーションスキルとの関係	共著	平成 18 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会, 大津	本研究では、看護師のホスピスケアの関心度とコミュニケーションスキルとの関係について調査した。調査対象は、N 総合病院に勤務する看護師 163 名に配布、103 名の回収（回収率 63%）をしたデータを分析対象とした。測定尺度は、「看護師における患者とのコミュニケーションスキル測定尺度」（上野栄一，平成 17 年）を用い、統計処理ソフトは StatView5.0 を使用した。結果、以下について有意差を認めた。1. ホスピスの関心有群では、「パーソナルスペース・視線交差」の得点は無群より高く、「アサーション」では、得点は無群より低かった。2. 死別経験有群では、「話のスムーズさ」の得点は無群より高かった。3. 安楽の配慮有群では、「情報収集」「積極的傾聴」「パーソナルスペース・視線交差」「アサーション」の得点は無群より高かった。4. 患者とのコミュニケーションの困難さとコミュニケーションスキルとの関係：患者とのコミュニケーションの困難さ有群では、「アサーション」の得点は無群より高かった。5. 家族とのコミュニケーションの困難さとコミュニケーションスキルとの間に差はなかった。6. サポートの積極性の有群では、「情報収集」「アサーション」の得点は無群より高かった。7. 患者・家族への説明の有群では、「アサーション」の得点は無群より高かった。8. 患者・家族の思いの受容有群では、「情報収集」「積極的傾聴」「パーソナルスペース・視線交差」の得点は無群より高かった。 担当部分：研究計画、抄録作成指導 共同発表者：横山真代、加藤直美、長光代、小林春奈、村田亜悠美 四十竹美千代、三輪恵里、江口富子、一ノ山隆司、上平悦子、 <u>上野栄一</u>
76. ナイチンゲール書簡集にみるスピリチュアルケアの記述内容の分析	共著	平成 18 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会, 大津	担当部分：解析、考察 共同発表者：江口富子、長光代、 <u>上野栄一</u>
77. 看護師の「沈黙」に対する認識の分析	共著	平成 18 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会, 大津	担当部分：計画、解析 共同発表者：長光代、小林春奈、横山真代、加藤直美、 <u>上野栄一</u>
78. コミュニケーションスキルと自己開示度との関係	共著	平成 18 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会, 大津	担当部分：研究計画書、解析 共同発表者：加藤直美、横山真代、長光代、小林春奈、 <u>上野栄一</u>

79. 温泉と水道水による半身浴の生理的・心理的影響の検証 1) 気分とストレスホルモンへの影響	共著	平成 18 年 8 月	生理心理学と精神生理学 (0289-2405) 24 巻 2 号 P. 213	担当部分：解析と考察 共同発表者：佐々木 百恵，長谷川 智子，上原 佳子，上木 礼子，米澤 弘恵， <u>上野 栄一</u>
80. 温泉と水道水による半身浴の生理的・心理的影響の検証 2) 循環能への影響	共著	平成 18 年 8 月	生理心理学と精神生理学 (0289-2405) 24 巻 2 号 P. 214	役割分担：結果考察 共同発表者：上原 佳子，長谷川 智子，上木 礼子，佐々木 百恵，米澤 弘恵， <u>上野 栄一</u>
81. 温泉と水道水による半身浴の生理的・心理的影響の検証 3) 消化器能と免疫能への影響	共著	平成 18 年 8 月	生理心理学と精神生理学 (0289-2405) 24 巻 2 号 P. 215	役割分担：研究結果、考察 共同発表者：上木 礼子，長谷川 智子，上原 佳子，佐々木 百恵，米澤 弘恵， <u>上野 栄一</u>
82. 新人ナースの職場適応能力を育てるその現状と対策 教育と臨床のギャップ 知識、技術、態度の課題 (1)	共著	平成 19 年 3 月	看護実践の科学 (0385-4280) 32 巻 3 号 P. 75-80 (2007. 3 月)	担当部分：総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松村 愛都
83. 手術室における医師・看護師が捉える倫理的問題の特徴	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 102	本研究では、手術室において医師と看護師がどのような状況を倫理的問題として捉えているかを明らかにする。S 病院にて手術に携わる医師 6 名と手術室に勤務する看護師 6 名を対象に調査を行った。結果、医師はくプライバシーの確保等の患者の人権擁護、自己決定権の尊重に対し問題有と捉えていたが、看護師は同施設職員が患者になった場合、〈職員の優遇〉等一般患者との待遇が異なる場合が多い事を問題と捉えていた。 担当部分：考察 共同発表者：佐々木 絹代， <u>上野 栄一</u> ，長谷川 智子，上原 佳子，上木 礼子，佐々木 百恵，Edmont Katz
84. 看護師の褥瘡予防行動予測評価尺度の開発 信頼性・妥当性の検討	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 104	褥瘡予防に必要と予 iJ!1J された看護師の行動を測定するための予 iJ!1J 評価尺度を開発する。:F 県内 2 ヶ所の総合病院に勤務する看護師 824 名を対象に 2006 年 8 月から 9 月にかけて調査した。結果、抽出した因子は第 1 因子「支援型学習・実践的知識因子 J. 第 2 因子「価値信念因子 J. 第 3 因子「組織因子」、第 4 因子「関心因子 j. 第 5 因子「知識因子」とそれぞれ命名した。看護師の褥瘡予防行動予測評価尺度は、妥当性. 信頼性の 検討において高い値を示し褥瘡予防を行おうとする看護 師の行動心理を明らかにする事で、個人，集団，組織単位 で褥瘡予防のために必要な対策，職場教

85. 看護師のライフストーリーからみたピカッと光る感性獲得過程	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 104	育の立案が可能な 尺度であることが示唆された 担当部分：研究経過 k、統計解析 共同発表者：橘 幸子，<u>上野 栄一</u>，長谷川 智子，上原 佳子，上木 礼子，佐々木 百恵，Edmont Katz 臨床の間では，“ピカッ”と光る感性を持つ看護師による．素晴らしい看護に感心することがしばしばある．本研究 は，“ピカッ”と光る看護師のライフストーリーの分析により，感性の獲得過程を明らかにし看護仰の感性育成のた めの示唆を得ることを目的とした。 研究対象者は総合病院に勤務する女性看護師 10 人で副看護師長に次ぐ立場にあり，看護モデルの役割を果たすことができ，かっピカッと光る感性を持つとユニット 責任者が 判断した看護師。結果、看護師の特徴を幼少期からみると 家庭や地域が子供を見守る時代にのびのびと遊び基本的な挾を受け，両親祖、父母兄弟から影響を受け人格を形成してきたことが伺われた。生育過程で幼少期から家の手伝いをした者と，手伝いの経験は少ないが青年期に入り一人暮やアルバイト等 で、対人関係能力を築いた者の 2 群に分かれた 劣等感・受験の失敗，勤務の辛さから退職願望をもつ等の人生のあらゆる困難な場面で、両親・教師・友人・先輩看護師らに助 けられていた。その困難な場面でも常に謙虚で前向きな考え方であった。 担当部分：研究計画、質的解析 共同発表者：松村 愛都，<u>上野 栄一</u>，長谷川 智子，上原 佳子，上木 礼子，佐々木 百恵，Edmont Katz
86. データマイニングによる研究テーマからみた院内看護研究の特徴と傾向	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 107	今後の研究指導にとっても意義のある ことと考え、院内看護研究テーマを内容分析することで、臨床実践病院としての A 病院における看護研究の特徴と 傾向を調査した。対象資料過去 26 年間(1978~2004)院内研究発表された看護研究 599 題。研究領域では、看護技術の揮発自己管理への援助が多く、キーワードでは患者の看護援助・支援・アプローチが主要なテーマとなっていた。研究デザインでは質的研究と量的研究が 8 割を占め、デイケアの研究タイプ加では 関子探索研究が圧倒的に多かった。病院の研究傾向は 「実態、・認識調査からスタートしそれについて検討する」といった認知領域の表現に移行するものと、「患者への指導・教育を効果的に実施するためのパンフレット・しおり・チェックリスト」を「試

87. 新人看護師の捉える看護技術の学校教育と臨床とのギャップ	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P.111	み・導入・施行」する具体的行動に移行する研究に分かれる傾向が見られた。 担当部分：解析 共同発表者：神保 浩子，重松 理恵，小林 幸子，<u>上野 栄一</u> 本研究では，新人看護師の捉える委譲技術の学校教育と 床とのギャップについて明らかにすることを目的とした。対象は，総合病院に勤める新人看護師 35 名。結果、看護技術のギャップの多かったものには，呼吸ケアに関する項目が上位を占めていた。これらの看護技術項目は，見学のレベルでの実習が多く，臨床に出て初めてケアする時に大きなギャップを感じたものとする。ギャップの少ない技術には，ベッドメイキングや食事介助などの項目があり実際に実習で多く経験できた項目と推察する。自由記載の分析では多忙さが〈臨機応変の対応〉等に関連している要因として明らかとなった。 担当部分：解析 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，松村 愛郎，橘 幸子
88. がん患者の男性家族員が捉えたギアチェンジの様相	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P.118	本研究目的は，男性家族員の内的体験から，ギアチェンジの様相と関連要因を明らかにすることである。〔研究方法〕(I) 研究デザイン：クリッペンドルフの内容分析を参考にした質的帰納的研究、X 県内一般病棟でお治療を受けたがん患者の看病経験の有無に関わらず病状説明を受け 死別後 1 年以上経過した男性家族員 13 名(平均 55.5 歳)である。3 コアカテゴリー，ギアチェンジの様相の中でも，第 1 の ギアチェンジは，〈がんとの共生〉を中心に 6 つの構成カテゴリーが複雑に相互作用し葛藤しながらギアチェンジせずに〈生への希望?〉を小さくしていったと推察するが，ギアチェンジが円滑に行えるような支援と同時に，ギアチェンジしない入の受容も示唆された。 担当部分：研究計画、分析 共同発表者：長 光代，<u>上野 栄一</u>
89. 手指衛生指導に向けての取り組みとその効果	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P.126	本研究では看護婦への感染防止対策についての意識調査を行い，その係閤を改義することでヒビスコール S ジェルを効果的に使用できるような介入・検討することを目的とした。看護婦 24 名。3. 調査 1) アンケートによる看護婦の感染防止対策への意識調査を学習会実施前・実施後の 2 回行った。看護婦の手指衛生に対する認識の低さが明らかとなった。特に易感染性宿主に対する交差感染の原因として医師・看護婦ら医療従事者の手指が重要視されている。これ

90. 看護師の方言使用に関する意識調査	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 132	らを学習会を通して看護郎に伝達し S ジェルの必要性の教育・指導を行った結果、研究終了時 95%の看護隔が「効果的に使用できている」との有意な結来を得た。 担当部分：統計解析 共同発表者：辻 真梨亜，竹森 友香，渡辺美貴，石田 喜美子，井村 敏子，森北 裕美子，<u>上野 栄一</u> 本研究では，実際に白々の看護業務の中で使用されている方言の種類や使用頻度. 方言使用に関する認識を明らかにする事を目的とした。A病院の対象者 217 名にアンケート調査(一部自由記述)を実施。倫理的配臈：調査目的について対象者に説明し 調査を途中で放棄できること，そのことにより不利益を被る事がないこと等を説明し同意を得られた看護締のみアンケートを実施。有効回答の得られた看護部 209 名を分析対象とした。結果、方言使用については，(1)方言の使用を良いと考える回答では，「時と場合をわきまえて方言で対応しても良いと思う。」等があった。(2)方言の使用が悪いと考える回答では「ナース同士の会話での方設は言葉がきたない。」等があった。〔考察〕方言と標準語にはそれぞれ長所と短所があるが，方言は長い年月をかけてその地域の人々の生活の中から生まれてきたものであり，そのことばが使用されている地域の文化と後接に関わっている。骸妙な身体状態を表現したり親しみを感じさせたい場合などには. 標準語より効果的な言葉だと考えられる。 担当部分：データ解析 共同発表者：平野 佐知子，南 隆子，<u>上野 栄一</u> 阪療の高度化，複雑化が進み，かつ. 個人情報保護法が施行され，看護締の役実 1)は多様化している。看護師には患者のQOLを保障するため，患者の状況や必要に応じてケアを提供する責務がある。本研究の目的は，看護締の行う礎看護技術が適切であるかを評価することである。調査方法:費関紙調資法、対象 :T 病院看護締 132 名。結果から、全体的にみて. 看護技術の判断. 磯認の部分がやや弱いといえる。看護師の看護技術を向上させるには，新人にはブリセプター，ブリセプターには中堅看護師の支援が必婆であり，また経験年数の長短を問わず，自分の技術を再確認し自己研鑽することが大切であると考え 担当部分：統計解析
91. 看護技術の到達度に関する調査	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 132	らを学習会を通して看護郎に伝達し S ジェルの必要性の教育・指導を行った結果、研究終了時 95%の看護隔が「効果的に使用できている」との有意な結来を得た。 担当部分：統計解析 共同発表者：辻 真梨亜，竹森 友香，渡辺美貴，石田 喜美子，井村 敏子，森北 裕美子，<u>上野 栄一</u> 本研究では，実際に白々の看護業務の中で使用されている方言の種類や使用頻度. 方言使用に関する認識を明らかにする事を目的とした。A病院の対象者 217 名にアンケート調査(一部自由記述)を実施。倫理的配臈：調査目的について対象者に説明し 調査を途中で放棄できること，そのことにより不利益を被る事がないこと等を説明し同意を得られた看護締のみアンケートを実施。有効回答の得られた看護部 209 名を分析対象とした。結果、方言使用については，(1)方言の使用を良いと考える回答では，「時と場合をわきまえて方言で対応しても良いと思う。」等があった。(2)方言の使用が悪いと考える回答では「ナース同士の会話での方設は言葉がきたない。」等があった。〔考察〕方言と標準語にはそれぞれ長所と短所があるが，方言は長い年月をかけてその地域の人々の生活の中から生まれてきたものであり，そのことばが使用されている地域の文化と後接に関わっている。骸妙な身体状態を表現したり親しみを感じさせたい場合などには. 標準語より効果的な言葉だと考えられる。 担当部分：データ解析 共同発表者：平野 佐知子，南 隆子，<u>上野 栄一</u> 阪療の高度化，複雑化が進み，かつ. 個人情報保護法が施行され，看護締の役実 1)は多様化している。看護師には患者のQOLを保障するため，患者の状況や必要に応じてケアを提供する責務がある。本研究の目的は，看護締の行う礎看護技術が適切であるかを評価することである。調査方法:費関紙調資法、対象 :T 病院看護締 132 名。結果から、全体的にみて. 看護技術の判断. 磯認の部分がやや弱いといえる。看護師の看護技術を向上させるには，新人にはブリセプター，ブリセプターには中堅看護師の支援が必婆であり，また経験年数の長短を問わず，自分の技術を再確認し自己研鑽することが大切であると考え 担当部分：統計解析

92. 重症心身障害児の看護問題の特徴 看護診断に焦点をあてて	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 140	共同発表者：小林 美穂子，小林 幸子，<u>上野 栄一</u> 病棟においては療養生活の場であり日常生活の援助がほとんどで潜在的問題を掘り下げて抽出している現状がある。看護診断ラベルを用いた表現では適切に使用されているかについては明らかにされていない。本研究では看護診断についての理解を明らかにすることを目的とした。対象看護 1 談員 59 名で有効回答 55 名分を分析対象。本研究結果から看護記録マニュアルでは看護診断の使用を言われているが、看護診断の継続的な勉強がなされていない現状があり看護診断が適切に使用できないことや療養生活の場となっている病棟にとって現在の看護診断をと当てはめる難しさがある。既存の看護診断では当てはまらないものが多いため、重症心身障害児については独自の看護診断マニュアルを作成することが重要であると考えた。 担当部分：解析 共同発表者：矢矧 仁，随原 さとえ，谷橋 千鶴子，高原 眞佐江，<u>上野 栄一</u>
93. ロールプレイング演習における教育効果の検討	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 142	ロールプレイに参加した学生から「ロールプレイを体験して学んだこと」の記述を求めた。記載文の用語の特徴と学生の学びを把握することを目的に量的・質的な分析を試みた。 学生の記載文を形態素解析し出現頻度の多い名詞を類似性に基づきグループ化した結果、〔対象理解〕〔共感的能力〕〔対応技法〕の 3 因子を抽出した。学生の学びが反映している動詞と連動する文献をコロケーション解析し先行・後続文脈に注目した結果、学生の学びの特長として今一ここでの体験を学生自身の行動・思考・感情から捉えようとしていることが分かった。例えば、今一ここでの関係を焦点化する必要性や看護締役がどのような考えで行動したのか、その絞拠を学んで、いた。 担当部分：質的解析 共同発表者：一ノ山 隆司，村上 満，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資
94. 唾液バイオマーカーを用いた新たな子どものストレス評価	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 187	i 唾液バイオマーカーによる簡易ストレス評価手法を用いて、中学生を対象にストレス検査を実施し消化酵素の一つである唾液アミラーゼに注 EI. その活性変化の実態を明らかにした。〔研究方法 1 1. 調査対象：県内の A 中学校の 18 名(男子 9 名，女 9 名)とし平成 18 年 12 月に実施した。結果、 〔結果〕男子の唾液アミラーゼ活性は、27.9kU/ℓ± 12.4(mean ± SD). 女子は、

95. 乳がん患者の患者会における満足度と乳がん告知後の不安内容の変化	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 240	40kU/l$\pm$ 21. 43 (mean $\pm$SD) の範囲であった。アミラーゼ活性および主観的評価と性差との関連については、ともに男子に比べて女子が有意に高かった。子どもの交感神経活性には性差があることが認められ、主観的評価とも相関することが示唆されたが、今後はこのような唾液バイオマーカーによる新たなストレス評価手法の活用が望まれる 担当部分：統計解析 共同発表者：村上 満，一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u> 本研究では、乳がんと告知を受けてから患者の不安内容の変化を把握することで、適切な看護を提供するための示唆を得る目的でアンケート調査を行った。対象は、患者会に参加した 22 名に研究の趣旨を説明し研究者が作成した半構成的質問用紙を院長の許可を得て配布し同意を得られ返信された患者 10 名。{考察 i 患者会参加の 8 的は、患者間で情報を提供・収集することでき、精神的な不安要素が解消できると考える。知後の不安内容では、すべての時期において、死に対する不安がある c これは、がん=死と言うイメージが以前よりあると推察できる c また、情報においてもすべての時期に見られ、継続的に'箔報提供が必要で、あり、本研究対象の患者会は、情報交換、さらには不安等の気持ちを共有できる 良き場であったと考える。孤担当部分：解析 共同発表者：加藤 直美，横山 真代，長 光代，小林 春奈，<u>上野 栄一</u>
96. 看護専門学校生の基礎看護学実習前後における自己効力感と健康度の変化	共著	平成 19 年 6 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 30 巻 3 号 P. 253	本研究の目的は、基礎看護学実習前後における看護学生の自己効力感と健康度の関係性、個人の属性が実習前後の健康度および自己効力感に与える影響を明らかにすることである。} 象者・看護専門学校 2 年 402 名。実習前および実習後の得られた 337 名を分析対象とした。結果、本調査の対象となった学生の 7 割以上が精神的不健康と分かった。不安定な青年期におかれていたことと、実習という課題による精神的ストレスが大きく影響していたと推察する。自己効力感の実習後に上昇が見られた。加えて、社会に役立つことが自己効力感に正の影響要因として挙げられていたことは、社会に対する貢献ができたことを実習を通して実感できたことによるものと考え 担当部分：統計解析 共同発表者：清水 由加里，<u>上野 栄一</u>，長谷川 智子，上原 佳子，上木 礼子，佐々木 百恵，Edmont Katz

97. 幻聴体験のある患者に対する自己対処能力の獲得をねらいとしたアプローチ	共著	平成 19 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 27 回 P. 495	担当部分：考察 共同発表者：一ノ山 隆司, <u>上野 栄一</u>
98. 乳がん患者のサプリメントの認識に関連する要因	共著	平成 20 年 1 月	日本がん看護学会 誌(0914-6423) 22 巻 Suppl. P. 120	担当部分：データ解析 共同発表者：加藤 直美, 横山 真代, 長 光代, <u>上野 栄一</u>
99. 日本の 47 都道府県における病院の経営理念の特徴	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262) 31 巻 3 号 P. 108	本研究では病院の経営理念の特徴を明らかにすることを目的とした。全国の病院を抽出するにあたっては全国の病院を層化無作為抽出法により各都道府県 5 病院ずつ選定し（総合病, インターネットで公開されている病院のホームページ上の理念についてデータ集積, 遁子テキスト化して解析した。解析はクリッペンドルフの内容分析にて行った。結果、名詞レベルでの分析結果, 病院としての理念には, [先進医療] といった高度の医療を実施していることの PR があり次に [尊厳] に基づいた [患者中心の医療] を行い, [地域との連携] のなか [高い質のサービス], [安全提供] といった経営努力していることを [組織の主張] として述べている。これらのカテゴリからは病院組織の意気込みを感じさせる。また現代医療に不可欠な要素が網羅されていると考える。動詞の分析では, [安全] [信頼] を中心とした [高度医療] を軸に [愛] ある [患者中心] の医療を実施し, さらに [職務満足] の高い組織であることを主張していた。 担当部分：解析、研究考察 共同発表者： <u>上野 栄一</u> , 長谷川 智子, 上木 礼子, Katz Edmont C., 吉田 華奈恵, 一ノ山 隆司, 明神 一浩
100. 形態素解析で得られた 235 病院における看護理念の特徴	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262) 31 巻 3 号 P. 108	看護理念は病院理念と整合し職員に周知され, 一貫性のある各看護単位の目標及び活動計画の具体化には必須である。本研究は, 病院組織における看護理念の特徴を明らかにすることを目的とした。病院の抽出は層化無作為抽出法により各都道府県から 5 病院（特定機能病院・一般病院）を選定した。235 病院のホームページに記載された看護組織の看護理念を電子テキスト化した後形態素解析した。 名詞の分析から看護理念には看護の提供について, 質の高 看護・ニーズに応じた看護が提言され, {信頼・安全・安心をもって満足させることを管っている。このカテゴリは看護の適切な提供のための思案が組み込まれた鍵概念であると考えられる。動

				詞の分析から安全・信頼を基調に質の 高い患者中心の看設の遂行が重視され，医療の中で時代の 変動・変化に対応できることを目指していると考えられ，看設師は社会に対し， 職業として看設を提供するという権限を有すると共に， 自らを規制する責任を持つ存在である と捉えることができる。本研究結果では， 看設理念は看設 師にそのメッセージが届けられ，看設の適切な提供のため の仕組みになり組織管理の一端を担うと同時に対象者への宣誓の効果を持つものであることが示唆された。 担当部分：テキストマイニング解析、まとめ 共同研究者：一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u>，上野 佳子，佐々木 百恵，Katz Edmont C.，砺波 利圭 担当部分：解析 共同発表者：中田 佑里子，下方 光枝，神保 浩子，<u>上野 栄一</u>
101. 看護師の業務以外の役割別にみたストレスサー・ストレス反応の特徴	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 31 巻 3 号 P. 111	
102. 看護師が患者に行う清潔援助の満足度 ～施行する側の看護師の満足度に焦点をあてて～		2008/9/21 浜松	第 10 回日本看護医療学会学術集会 (2008/9/21 浜松)	担当部分：解析 共同発表者：美濃 佑佳，八木 恵，田谷由美子，稲沢 優花，檜谷 裕子，重松理恵，上野 栄一
103. 看護師の持続的血液浄化療法 (CHDF) に対する不安に焦点を当てた支援の効果	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 31 巻 3 号 P. 145	担当部分：統計解析 共同発表者：七尾 美樹，坪田 知美，浦田千賀子，小林 幸子，重松 理恵，<u>上野 栄一</u>
104. 透析スタッフに教育ツールとしてパス・アルゴリズムを使用した結果	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 31 巻 3 号 P. 163	担当部分：統計解析 共同発表者：高柳 佳忠，松木 理浩，古村和枝，竹林 陽子，<u>上野 栄一</u>
105. 勤務配置交代者の院内研修の効果について考える フィッシュボーンを使用して	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 31 巻 3 号 P. 164	担当部分：質的分析 共同発表者：矢矧 仁，森北 裕美子，<u>上野 栄一</u>
106. 実習指導者がロールモデルを示す効果の検討	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 31 巻 3 号 P. 175	担当部分：質的分析 共同発表者：明神 一浩，一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資

107. 内容分析を用いた院内急変時の看護師の対応分析	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)31 巻 3 号 P.224	本研究では、院内急変時に第一発見者の看護 締がどのような対応をしているかを明らかにすることを 目的とした。対象は急変対応した 17 名の看護師への面接調査を実施した。院内で起きる急変時〈組織の体制〉の中で、〈時間〉と〈場所〉という限られた空間において、患者の〈状態の観察〉をしながら〈学習経験〉を活かした仕事の〈量〉を〈学習経験〉に基づき調節しながらを行っていた。さらに、看護師は、様々な〈感情〉を持ちながら実践をこなしているという実態が明らかとなった。また、今後の院内 BLS 研修や、新人教育の改善点について示唆された。 担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：井上 理恵, 高山 裕喜枝, 川上 三千穂, <u>上野 栄一</u>
108. 終末期がん患者と非終末期がん患者に対する看護師の感情労働の比較	共著	平成 20 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)31 巻 3 号 P.321	担当部分：統計解析、考察 共同発表者：吉田 華奈恵, <u>上野 栄一</u> , 長谷川 智子, 上原 佳子, 上木 礼子, 佐々木 百恵, 砺波 利圭
109. 百日咳流行に対する介入予防の成功事例	共著	平成 20 年 10 月	CAMPUS HEALTH(13414313)4 5 巻 3 号 P.77	A 大学における百日咳流行における実態と介入に対する効果を検証した。 担当部分：統計分析、考察 共同発表者：玉川 美津恵, 山本 恭弘, 齋藤 由紀雄, 石本 秀守, <u>上野 栄一</u> , 梅澤 有美子, 真弓 光文, 李 鍾大, 伊藤 春海, 大林 貴代, 山田 和弘, 岩井 敬治, 日下 幸則, 室井 洋子, 岩崎 博道, 小淵 岳恒, 寺澤 秀一, 山口 明夫
110. 大学生の喫煙行動および喫煙に対する態度への影響要因	共著	平成 20 年 10 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)18 巻Suppl. P.196s	担当部分：統計解析と考察 共同発表者：上原 佳子, 石崎 武志, 長谷川 智子, <u>上野 栄一</u> , 上木 礼子, 佐々木 百恵, 吉田 華奈恵
111. COPD 患者の自己管理情報ニーズの変化 LINQ を用いた実態調査	共著	平成 20 年 10 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)18 巻Suppl. P.208s	担当部分：考察 共同発表者：上木 礼子, 長谷川 晴美, 長谷川 智子, 上原 佳子, 佐々木 百恵, 吉田 華奈恵, 良 貴子, 門脇 麻衣子, <u>上野 栄一</u> , 石崎 武志
112. 内容分析による過去の医療事故に関する研究の特徴 看護研究に焦点を当てて	共著	平成 20 年 11 月	医療の質・安全学会誌(1881-3658)3 巻 Suppl. P.191	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> , 一ノ山 隆司, 明神 一浩, 上木 礼子, 舟崎 紀代子, 宮崎 由美子

113. 医療職の医療安全に対する認識の違い 医療安全文化の視点から	共著	平成 20 年 11 月	医療の質・安全学会誌(1881-3658)3 巻 Suppl. P.246	担当部分：データ解析 共同発表者：舟崎 起代子，一ノ山 隆司， <u>上野 栄一</u> ，上木 礼子，明神 一浩，泉 朱子，境 美代子
114. 精神看護における癒しとケアリング効果の有効性に関する研究	共著	平成 20 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 28 回 P.437	担当部分：解析 共同発表者：明神 一浩，一ノ山 隆司， <u>上野 栄一</u> ，川野 雅資
115. 就労継続支援事業所の実習を終えた学生の地域連携精神看護の視点	共著	平成 20 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 28 回 P.442	担当部分：結果と考察 共同発表者：一ノ山 隆司，明神 一浩， <u>上野 栄一</u> ，川野 雅資
116. 終末期がん患者と非終末期がん患者に対する看護師の認識、感情、感情労働の比較	共著	平成 20 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 28 回 P.501	担当部分：結果と考察 共同発表者：吉田 華奈恵， <u>上野 栄一</u> ，長谷川 智子，上原 佳子，上木 礼子，佐々木 百恵
117. 臨床が求める看護学生のコミュニケーション能力	共著	平成 21 年 4 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 16 回 P.57	担当部分：解析、研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司，明神 一浩
118. 看護大学におけるコミュニケーション能力の特徴	共著	平成 21 年 4 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 16 回 P.58	担当部分：解析 共同発表者：一ノ山 隆司， <u>上野 栄一</u> ，明神 一浩
119. 看護学生に求められる病院職員へのコミュニケーション能力の特徴	共著	平成 21 年 4 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 16 回 P.59	担当部分：解析 共同発表者：明神 一浩， <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司
120. 障害者自立支援法下の福祉サービスに関する当事者の自由記述にみる内容分析	共著	平成 21 年 4 月	日本病院・地域精神医学会総会抄録集 52 回 P.108	担当部分：質的解析 共同発表者：村上 満 子，一ノ山 隆司，舟崎 起代子， <u>上野 栄一</u>
121. 抗がん剤取り扱いにおけるリスクマネジメント 化学療法に対する看護師の意識調査	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)32 巻 3 号 P.194	抗がん剤の細胞毒性には「発がん性」「変異原生」「催奇形 性」が知られており，微賊でも繰り返し接触することで被 爆へのリスクが高まると言われている。本研究では抗がん 剤を取り扱う看護師の認識を明らかにすることを目的とし た。G 総合病院看護師 100 名。アンケートの回収率は 89 名 (89%)，有効回答率は 73 名(73%) であった。 2. 抗がん剤使用時の不安と感じる時：抗がん剤を調剤するとき 65 名(89%)，ボトルにル ートをつける時 60 名(82%)，患者に投与する時 70 名(96%)，点滴終了時ボトル，ル ー ト を破棄する時 47 名(64%)，

122. 病床稼働率の変動が看護師の疲労度やストレスに及ぼす影響	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 32 巻 3 号 P. 198	点滴がこぼれた時 64 名(88%) 等であった。 3. 抗がん剤調剤時のガウン着用について：調剤時のガウン着用者は 3 1%, マスク装着者 64%, 手袋装着者 8 1%, ゴーグル付マスク装着者 29%。すべて装着する人は 19%であった。 4. 防護具の装着率：化学療法を扱う際の防護具の装着率はボトルにルートをつける時ガウンをつける 10%, マスクを装着する 54%, 手袋を装着する 73%等であった。 5. 看護師経験年数別にみた不安：看護師経験年数別では調剤する時の不安は 1 年から 3 年と 21 年以上に有意差がみられた。抗がん剤を扱った年数では 1 年から 3 年と 21 年以上に有意差がみられた (p<0.05)。 担当部分：統計解析 共同発表者：田中 理津子, 吉本 有里, <u>上野 栄一</u> 病床稼働率の変化があった 8 月と 10 月にアンケート調査を行い、看護師のストレスの特徴と病床稼働率との関連を明らかにすることを目的とした。 対象 HCU の看設師 15 名。結果、ストレス度で有意差があったのは 10 月の〈イライラ感〉〈気分が晴れない〉〈集中できない〉の 3 項目が 8 月より高く、逆に 10 月の〈便秘や下痢をする〉は 8 月より低かった。 担当部分：統計解析 共同発表者：北島 弥生, 神保 浩子, 吉野 麻利, 浦田 久美子, <u>上野 栄一</u>
123. 看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度からみた看護大学生のコミュニケーションの特徴	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 32 巻 3 号 P. 217	本研究では、看護学生の段階別コミュニケーション能力評価尺度を用いて、看護学生のコミュニケーション能力の特徴を明らかにし、また効果的な授業プログラムを開発についての助言を得ることを目的とした。 対象は 3 つの看護大学生 710 名の看護学生を対象とし、有効回答 351 名分を分析対象とした。 看護学生のコミュニケーション能力の特徴としては、総得点で 4 学年, 1 学年, 2 学年, 3 学年の順で高かった。又、各下位概念の得点では、4 学年の次に 2 学年の順位で得点が高かった。本尺度を利用した看護教育への応用として、看護大学におけるコミュニケーションに関する教育の展開は、1 学年~4 学年において段階別に教授することの必要性が助言された。 尺度全体の学年別得点では 1 学年 154.0±18.8, 2 学年 150.9 ±18.8, 3 学年 150.0±18.6, 4 学年 159.7±18.6 で、1, 2, 3 学年の順で高かった。学年別で一元配置分散分析の結果、F=3.74 (p=0.011), 多重比較では、4 学年のコミュニ

124. がん患者の家族へのインタビューから見えた遺族への援助	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌、32 巻 3 号 P. 220	ケーション能力総得点は 159.7 であり、2 学年の得点 150.9 及び 3 学年の得点 150.0 と比較して高い値を$\bar{m}$した ($p < 0.05$)。 担当部分：統計解析 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，一ノ山 隆司，明神 一浩，上平 悦子 終末期の看設は早期から患者と家族を同様に援助することとを十分受け止め理解し、最後までその人らしさをした援助が重要である。本研究では胆嚢癌を発症し緊急入院した女性（以下 A 氏）と夫の思いを明らかにすることを目的とし、事例の振り返りと遺族インタビューを試みた：【研究方法】 1. 研究デザイン：事例研究 2. 研究対象：200X 年 4 月 -200Y 年 5 月まで 5 回入院退院された A 氏と A 氏。 事例の振り返りではセカンドオピニオンを勧めその後の受容がうまくいったこと、本人の意向を汲んで女性らしさを維持する援助に努めたこと、亡くなる 2 日前にも関わらず本人が外泊を希望されたため、可能にしたことなどは本人らしさを尊重した看設であったと考える。 担当部分：質的分析 共同発表者：青山 紀子，重松 理恵，<u>上野 栄一</u>
125. 事例検討による BPD 患者の支援のあり方に関する研究	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 32 巻 3 号 P. 245	【はじめに】 近年増加傾向にある疾患の一つに境界型人格障害 (BPD) がある。本事例では BPD 患者の看設において家族の役割を再構築した事で不安が軽減し退院に至った事例である。ロイ適応看護モデルを活用し不安が強い BPD 患者の看護を三期に分け援助した過程を報告する 【研究目的】 BPD 患者の看護を振り返り患者支援のあり方に示唆を得る。 【研究方法】 1. 研究デザイン：事例研究 2. 研究期間：2008 年 6 月から 12 月 3. 分析方法：本事例の検討から患者の言動と看護師の関わりを分析し、経過を三期に分けロイ適応看護モデルを活用し患者の心理・精神的背景と行動化の意味を抽出する)。 4. 事例概要：A 氏，30 歳後半女性（三人兄弟の長女、a 県外で就職し働いていたが職場のストレスから抑うつ傾向を呈し BPD と診断される。帰郷して母親への強い依存から母親との別居後自傷行為から a 県内の B 精神科病院に入院となった事例である。 5. 倫理的配慮：本研究は研究者が所属する。 1. 医療従事者への不$\bar{m}$言感 入院時は抑うつ傾向があったが、次第に入院になれば、BPD 特有の衝動性が出現した。治療の不満を医療者へ向け看設師を指定するようになった。A 氏の気持ちを受容する関わりによつ

126. 看護学生の倫理的態度育成に関する基礎的研究 学年毎の特徴と変化	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)32 巻 3 号 P. 296	て母に対しての気持ちを話すまで になった。 2. 偲親への不満と父への抗議 入院 2 ヶ月後 母が面会に来てくれない不満の矛先が父に 向けられ親子関係は悪循環を招いていた。看護師は父親 に対して約束を守るように助言した所.A 氏は父親が自分 を見放さないといった感情を抱き安心感を得て状態は安定した。3. 新たな家族の関係づくり (第三期) 入院 3 ヶ月後, 母への依存はなくなり経過の中で A 氏の心 のゆとりが見られるようになり, A 氏は依存という愛情の 確認行為をせずとも安心感が得られ退院した。 担当部分：事例解析 共同発表者：明神 一浩, 一ノ山 隆司, 上平 悦子, 舟崎 起代子, <u>上野 栄一</u> 看護学生の倫理的態度の学年による違いと, 学年の進行に よる変化を明らかにし, 倫理的態度育成の基礎資料とする。【研究方法】 対象：A大学看護学科 1~4 年生 (編入生を除く) 229 名。 得られた。性格傾向は, 4 年生で「内向的」が多く, 2 年生で「外向的」が多かった。社会的スキルの「関係維持」は 1・3 年生, 「関係開始」は 2 年生, 「自己主張」は 2・3 年生で大学生女子の平均点よりも高かった。 学年別では, 「自己主張」で 2 年生が有意に高かった ($p < 0.05$)。自尊感情尺度の全体の平均点は 29.3 点で, 学年別では 2 年生が最も高かった。倫理的態度の平均点は, 3・4 年生はほとんどの項目で全体の平均点を上回っていた。性 格傾向の外向群は, 社会的スキルのすべての下位項目と 自 尊感情尺度で有意に高かった ($p < 0.001$)。倫理的態度は「身だしなみ」を除くすべての項目で, 外向群が有意に高 かった ($p < 0.01$)。社会的スキルの「関係維持」は, 倫理的 態度に強く影響していた ($p < 0.001$)。また社会的スキル には自尊感情と性格傾向, 自尊感情には性格傾向と社会的スキルが影響していた ($p < 0.05$)。学年の進行による変化 は, 昨年度の結果と比較した。社会的スキルと自尊感情は 違いはなかった。倫理的態度の「身だしなみ」は, すべての 学年で 0.02~0.07 点上昇したが, 有意差はなかった。 担当部分：統計解析 共同発表者：月田 佳寿美, <u>上野 栄一</u>, 酒井 明子, 長谷川 美香, 田邊 美智子

127. 救急部における新人看護師のローテーション教育の効果	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)32 巻 3 号 P.326	担当部分： 共同発表者：川崎 智美，高山 裕喜枝，井上 理恵，清水 由加里，早川 美津江，橘幸子， <u>上野 栄一</u>
128. 新人看護師の健康状態の変化	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)32 巻 3 号 P.328	担当部分：解析 共同発表者：清水 由加里，橘 幸子，早川 美津江，松村 愛都， <u>上野 栄一</u>
129. 入院中の統合失調症患者を支える家族の主観的負担の構造	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌、32 巻 3 号 P.338	担当部分：解析と考察 共同発表者：一ノ山 隆司，村上 満，舟崎 起代子，明神 一浩， <u>上野 栄一</u> ，川野 雅資
130. 看護師のスピリチュアルケア能力測定尺度の開発と信頼性・妥当性の検討	共著	平成 21 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)32 巻 3 号 P.356	役割分担：研究計画、統計解析 共同発表者：江口 富子， <u>上野 栄一</u>
131. 外来に通院する高血圧症患者の運動管理における関連要因	共著	平成 21 年 8 月	Health Sciences(0911-7024)25 巻 3 号 P.219	役割分担：解析 共同発表者：坪田 恵子， <u>上野 栄一</u> 共
132. コミュニケーション技法が人間の感情に与える影響 主観的評価と客観的評価について	単著	平成 21 年 8 月	生理心理学と精神生理学(0289-2405)27 巻 2 号 P.183	(単独) <u>上野 栄一</u>
133. 救急部における新人看護師のローテーション教育の効果 ローテーション時期を比較して	共著	平成 21 年 10 月	日本救急看護学会雑誌(1348-0928)11 巻 2 号 P.133	役割分担：共同発表者：高山 裕喜枝，井上 理恵，川崎 智美，川上 三千穂，清水 由加里， <u>上野 栄一</u>
134. 看護師のインシデントレポート提出行動の影響要因としての組織風土・熟慮性・安全態度の分析	共著	平成 21 年 11 月	日本看護科学学会学術集会講演集 29 回 P.223	役割分担：統計解析 共同発表者：畑中 美智子， <u>上野 栄一</u> ，長谷川 智子，上原 佳子，佐々木 百恵，吉田 華奈恵，上木 礼子，砺波 利圭
135. 怒りの場面と共感的相互作用が生じている場面での看護師の感情と交感神経活動との関係	共著	平成 21 年 11 月	日本看護科学学会学術集会講演集 29 回 P.303	役割分担：研究残飯 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司，舟崎 起代子

136. 看護学生の喫煙行動および喫煙への態度と知識に関する喫煙防止教育の効果	共著	平成 21 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 29 回 P.399	役割分担： 共同発表者：上原 佳子，長谷川 智子， <u>上野 栄一</u> ，佐々木 百恵，吉田 華奈恵，礪波利圭
137. 異なる水質への入浴による身体の保湿効果と気分の違い 水道水・人工浴用剤水・温泉水の比較	共著	平成 21 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 29 回 P.424	役割分担：結果と考察 共同発表者：礪波 利圭，長谷川 智子， <u>上野 栄一</u> ，上原 佳子，佐々木 百恵，吉田 華奈恵
138. 心臓カテーテル検査・治療時患者が看護師に期待すること	共著	平成 21 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 29 回 P.433	役割分担：質的解析 共同発表者：東 治美，大野 文江， <u>上野 栄一</u>
139. 精神障がい者を支える家族の負担要因		平成 21 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 29 回 P.501	役割分担： 共同発表者：一ノ山 隆司，舟崎 起代子，明神 一浩， <u>上野 栄一</u> ，川野 雅資
140. 強迫性障害のある患者の症状克服過程における心理的变化	共著	平成 21 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 29 回 P.515	役割分担： 共同発表者：明神 一浩，一ノ山 隆司， <u>上野 栄一</u> ，上平 悦子
141. 患者の家族との関わりを通して抱く看護師の思い～苦手意識や戸惑いの要因に焦点をあてて～		2012 年	第 21 回富山県看護研究学会 (2010/2/27 富山)	役割分担：データ解析 共同発表者：
142. の属性からみた倫理的問題と対処行動との関連		平成 22 年	第 42 回日本看護学会論文集(看護総合):316-318, 2012	舟崎起代子、田中志穂、梁川由美、大浦千恵、立野恵子、上野栄一（福井大学医学部看護学科） 第 42 回日本看護学会論文集(看護総合):316-318, 2012
143. 糖尿病療養指導士外来における段階的なセルフケア評価(GSEQ)の疫学的有用性の検討	共著	平成 22 年 4 月	糖尿病、53 巻 Suppl.1 P. S-265	役割分担：統計解析 共同発表者：大西 みさ， <u>上野 栄一</u> ，岸 雅也，小川 浩平，大見 仁斉
144. 看護師の職場適応度測定尺度の信頼性・妥当性	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.122	病院に勤務する看護師の職場における適応の度合いを測定 するための看護師の職場適応度測定尺度の開発をする。 :北陸 地区 3 県内の 500 床以上の 3 つの大学附属病院に勤務する 看護師 1405 名を対

145. 精神臨床看護師が捉える急性期看護における患者の暴力行為の予見要因	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.146	象とした。結果、看護師の職場適応について概念枠組みを行い「看護師の職場適応度測定尺度」を作成した。抽出した因子は 第 1 因子「業務自律」、第 2 因子「上司との関係」、第 3 因子「職場雰囲気」、第 4 因子「環境受容」と命名した。本尺度は表面妥当性、内容妥当性、因子的妥当性、弁別的妥当性、基準関連妥当性等を行い、信頼性の高い構成概念妥当性のある尺度であった。 役割分担：研究計画、統計解析 共同発表者：藤本 ひとみ、高間 静子、長谷川 智子、上原 佳子、佐々木 百恵、吉田 華奈恵、礪波 利圭、<u>上野 栄一</u> 本研究では臨床看護師が 患者の暴力行為をどのように予見するかを明らかにし、急性期看護への示唆を得る目的とした。対象：α 県内 A 精神 科病院の経験年数 5 年以上の看護師（男性 6 名、女性 4 名）計 10 名とした。2. 研究方法：半構成的面接法により逐語記録を作成し、データ分析は質的帰納的に行った。結果、データ分析の結果、患者の暴力行為 に対する看護師の予見を抽出した。情報収集として【患者の行動パターンの把握】、【過去に起こった場面の想起】、【患者の話す内容の整合性】の 3 カテゴリーを生成した。臨床の看護師がこれまで経験して来た 経験知の語りが大部分を占めていた。 （共同研究者） 明神 一浩、一ノ山 隆司、村上 満、舟崎 起代子、<u>上野 栄一</u>、川野 雅資 本研究では、看護大学生の学年別にみたコミュニケーションの特徴を明らかにすることを目的とした。3 つの看護大学生 720 名を対象は有効回答 356 名とした。調査内容は 1 学年～4 学年までの看護学生のコミュニケーション能力スキルを上野の看護師のコミュニケーションスキルを測定するための尺度を用いた。結果、【考察】第 4 学年は、『情報収集』『積極的傾聴』で他の学年よりも高いスキル得点を示した。合計得点の比較でも 4 学年は高い値を示した。このことは、コミュニケーションの基本スキルである積極的傾聴と情報収集については大きな学習成果と推察する。『話のスムーズさ』『パーソナルスペース・視線交差』『アサーション』の各スキルにおいては、学年ご
146. 学年別にみた看護学生のコミュニケーションスキルの特徴	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.154	本研究では、看護大学生の学年別にみたコミュニケーションの特徴を明らかにすることを目的とした。3 つの看護大学生 720 名を対象は有効回答 356 名とした。調査内容は 1 学年～4 学年までの看護学生のコミュニケーション能力スキルを上野の看護師のコミュニケーションスキルを測定するための尺度を用いた。結果、【考察】第 4 学年は、『情報収集』『積極的傾聴』で他の学年よりも高いスキル得点を示した。合計得点の比較でも 4 学年は高い値を示した。このことは、コミュニケーションの基本スキルである積極的傾聴と情報収集については大きな学習成果と推察する。『話のスムーズさ』『パーソナルスペース・視線交差』『アサーション』の各スキルにおいては、学年ご

147. 30 代女性看護師の心理的 well-being に影響を及ぼす要因 役割達成感との関連から	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 33 巻 3 号 P. 159	とにスキルが上昇しておらず、今後の課題と考える。 役割分担： 共同発表者：上野 栄一，一ノ山 隆司，明神 一浩，舟崎 起代子，村上 満 本研究では、看護大学生の学年別にみたコミュニケーションの特徴を明らかにすることを目的とした。A総合病院30代女性看護師 78名を対象とした。結婚の有無別心理的well-beingで有意差がみられたのは、自律性で30代性の発達課題から考えると Josselson のいう「女性は親密な関係をもつことでアイデンティティがより確かになる」ことが考えられる。子供の有無別心理的well-beingで有意差がみられたのは「人格的成長」で武内によれば「子育て期の女性は子育てだけ人生を終わりとくなくないと思い、自分を生かすことと供という他者を生かすことの統合を試みようとしている」という。役割達成感の「夫のために若さを維持しようと努力している」に有意差がみられたが、妻より母役割を重視することで優先順位が決まると推察する。 役割分担：研究総括 共同発表者：上野 栄一，一ノ山 隆司，明神 一浩，舟崎 起代子，村上 満 患者の状態を客観的にアセスメントすることができ、身体拘束の必要性を判断するための「身体拘束アセスメントシート」を作成し、スタッフ間の身体拘束開始基準の統一を図ることを目的とした。結果、すべての看護師が身体拘束を行った経験があり、身体拘束開始の判断は看護師が行う傾向が強かった。身体拘束開始の判断では、アセスメントシート使用後は身体拘束開始について判断しやすくなった ($p < 0.01$)。患者とのコミュニケーションでは、身体拘束を行うにあたり、アセスメント使用後には患者とのコミュニケーションを重視する人が減少した。調査対象者：F 県内の 3 つの総合病院で勤務している看護職者 1351 名。調査期間：平成 21 年 7 月 13 日～10 月 30 日。看護部長に調査への協力を
148. ICU における看護師の身体拘束アセスメントシート使用前後の効果について	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 33 巻 3 号 P. 175	患者の状態を客観的にアセスメントすることができ、身体拘束の必要性を判断するための「身体拘束アセスメントシート」を作成し、スタッフ間の身体拘束開始基準の統一を図ることを目的とした。結果、すべての看護師が身体拘束を行った経験があり、身体拘束開始の判断は看護師が行う傾向が強かった。身体拘束開始の判断では、アセスメントシート使用後は身体拘束開始について判断しやすくなった ($p < 0.01$)。患者とのコミュニケーションでは、身体拘束を行うにあたり、アセスメント使用後には患者とのコミュニケーションを重視する人が減少した。調査対象者：F 県内の 3 つの総合病院で勤務している看護職者 1351 名。調査期間：平成 21 年 7 月 13 日～10 月 30 日。看護部長に調査への協力を

149. 看護職者の自律性および教育ニーズ・学習ニーズの特徴	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.224	求め、了解が得られた後、質問紙を持参、各病棟の師長から配布してもらった。 役割分担： 共同発表者：村井 純子，廣田 悟志，吉田 智美，<u>上野 栄一</u> 研究目的は、看護職者の自律性および教育ニーズ・学習ニーズの特徴を明らかにする。回収は 1255 部（回収率 92.9%），欠損データを除いた 977 名対象とした。結果、学習ニーズの診断は『中』で，学習ニーズの高さが平均的であった。3. 教育ニーズの診断は『中』で，病院に就業する看護専門職者として平均的な状態にあった。4. 自律性が高い看護職者は，チームリーダー等の役割の経験があるという特性を備えていた。自立的判断能力においては助産師の得点が高かった。5. 教育ニーズが高い看護職者の特性は，スタッフ看護師，チームリーダー等の経験がないという特性を備えていた。 共同発表者：林 宏美，長谷川 智子，上原 佳子，佐々木 百恵，吉田 華奈恵，礪波 利佳，<u>上野 栄一</u>
150. スピリチュアルケアの構成概念	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.263	本研究では、スピリチュアルケアの構成概念について明らかにした。 【研究方法】2006 年 3 月。全国緩和ケア病院承認 151 施設に対し，20 施設を乱数表にて選んだ。看護部長の同意を得た 9 施設に対しアンケート協力依頼し，回答をもって同意とみなした。郵送法にて実施。また，文献よりスピリチュアルに関する用語を抽出し，概念を生成した。結果、44 名よりスピリチュアルに関する 157 の回答（自由記載）を得た 597 のスピリチュアルに関する文章を抽出した。さらにこれらの文章を意味内容の類似性に基づいて，『自己理解』『人生観』『霊的痛み』『自然との関係性』『人間関係』『基本的看護観』『死生観』『信仰・信念』の 8 つの概念が抽出できた。 共同発表者：江口 富子，<u>上野 栄一</u>
151. 高齢男性介護者の介護に対する自己の構え	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.313	今回在宅で妻を介護している高齢の男性高齢者を対象に，その介護の状況を特に介護者自身の心理面に焦点をあて明らかにすることを目的とした。対象者；対象者は，研究者のネットワークを活用し選定した。本

152. 就労継続支援事業所実習後の学生が捉えた地域支援活動の視点	共著	平成 22 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)33 巻 3 号 P.319	研究の趣旨に同意され、現在在宅で妻を介護している 70 歳代の男性 2 名。面接内容より 61 センテンスを抽出し、その中から 8 つのサブカテゴリーと 4 つのカテゴリーが抽出された。「介護を必要とする妻への思い」は介護は妻への感謝の気持ちとして生きがいとして行っており、また病気の妻に対する憐憫の情であった。「高齢介護者の心理的負担」は介護による疲れや不安としての負担であった。 役割分担：解析 共同発表者：上平 悦子、松浦 純平、船瀬孝子、明神 一浩、<u>上野 栄一</u> 本研究では、討議用紙の記載文を分析し、学生が捉えた地域支援活動に必要な知見を抽出することを目的とした。 対象は、A 看護短期大学の学生で、研究の同意が得られた学生 38 名。結果、記載文を分析した結果、〔地域型社会資源の充実〕〔利用者 の意向の尊重〕〔多様な生活ニーズの把握〕〔地域の社会 資源とニーズの融合〕〔継続可能なサービス供給の確保〕〔社会資源の改善と開発の推進〕〔復権というリハビリテーション〕の 7 カテゴリーが生成された。自立支援法制定の理念である「障がい者の自立した地域生活の実現」について、当事者の尊重や福祉分野との協働の必要性が反映されていた。また、精神障がい者支援に活かすための地域連携精神 看護の方法を模索していた。 役割分担： 共同発表者：一ノ山 隆司、舟崎 起代子、村上 満、<u>上野 栄一</u>、川野 雅資 役割分担：解析と考察 共同発表者：坪田 恵子、<u>上野 栄一</u>
153. 外来に通院する高血圧症患者の食事管理における関連要因	共著	平成 22 年 8 月	Health Sciences(0911-7024)26 巻 2 号 P.127	共同発表者：<u>上野 栄一</u>、一ノ山 隆司、明神 一浩、舟崎 紀代子
154. 看護学生に必要とされるコミュニケーションスキルと評価	共著	平成 22 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 17 回 P.51	共同発表者：明神 一浩、<u>上野 栄一</u>、松浦 純平、一ノ山 隆司
155. 看護師のコミュニケーションスキルをレベルアップするための方略	共著	平成 22 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 17 回 P.60	

156. 看護職者の自律性に影響を与える要因	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.172	看護職の自律性に対する説明変数の影響力の大きさを明らかにする。調査対象：調査対象者は F 県内の 3 つの総合病院で勤務する 正規採用の看護職者 977 名。結果、自律性の総得点において、チームリーダーの経験、臨床経験年数、看護研究発表の経験、役職、教育委員の経験、臨床実習指導者の経験、所属部署、看護の基礎教育機関の 8 つの変数が影響要因となっていた看護基礎教育が 4 年制 大学化へと移行する中で、臨床経験年数や所属部署に配慮した看護管理、院内研修の必要性が示唆された。 役割分担：統計解析 共同発表者：林 宏美、 <u>上野 栄一</u> 役割分担：統計解析 共同発表者：牛丸靖子、菅田真澄、永見明日香、井澤愛実、本多由美子、 <u>上野 栄一</u>
157. 北陸の公立病院における一人前看護師の職務満足度に影響を及ぼす要因		平成 13 年 10 月	第 42 回日本看護学会(看護管理)	
158. 一般外科領域における術後せん妄発症予測要因の検討 経験豊富な看護師へのインタビューより	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.178	本研究の目的は一般外科病棟に勤務する経験豊富な看護師が直観的に判断している術後せん妄の発症予測につながる患者の前駆症状を明らかにすることである。研究参加の同意が得られた看護師 20 名を対象とした。術後せん妄発症予測の前駆症状に関する発言内容を形態素解析した結果、総単語数 33,593 個より 7,434 個、1,112 種類の名詞を抽出。その名詞からせん妄予測項目に該当する語句に着目すると、78 の構成要素があり、類似性により分類した結果、【表情】、【認識】、【患者の反応】、【置かれた環境】、【コミュニケーション】、【時間感覚】、【失見当識】、【行動】、【対象者】、【対象物】、【情意】、【直観】、【患者特性】、【不安】、【睡眠】の 15 のカテゴリが生成された。 共同発表者：松浦 純平、福田 弘子、 <u>上野 栄一</u>
159. 高血圧症患者の日常生活自己管理尺度の作成	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.203	本研究では高血圧症患者の日常生活自己管理尺度の作成、及び妥当性と信頼性の検討を目的とした。対象は 4 施設の病院に通院する本態性高血圧症患者 186 名。高血圧症患者が日常生活を送る上で必要な自己管理項目（食事・運動・ストレス管理）について、アンケート調査を実施した。回収数は 183 名（回収率 98.4%）であり、有効回答数は 174 名であった。結果、高血圧症患者の日常生活自己管理尺度として、食事・運動・ストレス管理因子が確認でき、妥当性及び信頼性のある尺度を作成できた。また、既知グループ技法により、自己管理得点と血圧値との関係が確認できたことか

160. 内容分析による最近の診療報酬の特徴	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.227	ら、高血圧症患者が血圧をコントロールするための生活を送る上で、本研究で作成された自己管理尺度の項目を療養行動の目標として示すことができると考える 役割分担：解析 共同発表者：坪田 恵子，稲垣 美智子，<u>上野 栄一</u> 本研究では、医療政策の中での診療報酬の内容について分析し、その特徴を明らかにすることを目的とした。平成 21 年 10 月～平成 22 年 9 月までの過去 1 年間の診療報酬に関する記事について分析した。結果、診療報酬の記事の特徴として、薬価，入院医療に関するものが，看護関係では指定訪問看護，看護体制，看護要員等があげられた。これらのことから，病院経営，質の高い看護を提供するためにも診療報酬の情報を精緻に分析しに活用するかが重要な課題と考える 役割分担：研究総括、テキストマイニング解析 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，一ノ山 隆司，明神 一浩，松浦 純平，上平 悦子
161. 緩和ケアにおけるスピリチュアルの概念について	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.232	スピリチュアルとは何かを明らかにすることは，看護ケアの質の向上につながる。本研究ではスピリチュアルとは何かについて明らかにすることを目的とした。対象は、全国緩和ケア病院承認 151 施設に対し，9 施設に対しアンケート協力依頼し，スピリチュアルとは何かについて回答を求め内容分析した。結果、抽出されたカテゴリーは「霊的アプローチ」にはじまり「死生観」「自然と他者との関係性」「生きる意味」「愛と受容」「永遠のいのちへの希望」と続くスピリチュアルの重要な概念であり，今後のケアへの活用が期待される。 共同発表者：江口 富子，<u>上野 栄一</u>
162. 看護師のキャリア発達と組織コミットメントが職務満足に与える影響の検討	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.241	本研究では，看護師のキャリア発達と組織コミットメントが，職務満足にどのように影響しているのか，その関連性を明らかにする。調査対象者は，北陸 3 県にある 500 床以上の病院に勤務する看護師 1400 人を対象に自記式質問紙調査を行い，重回帰分析（ステップワイズ法）を用いて，従属変数は職務満足尺度合計に対して，22 の独立変数を用いて分析をした。結果、看護師の職務満足に影響を与えるものとして，情動的コミットメント（愛着形成），キャリア自律性，キャリア関心性が高かった。これは看護師の職務満足を形成する上で，愛着を持って働ける職場であることが，看護師の自律性を喚起していた。 担当部分：解析 共同発表者：明神 一浩，<u>上野 栄一</u>

163. 新 ICU 病衣の作成	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.362	現状の ICU 病衣の特徴を把握するために、被服学の文献検索や他施設の ICU 病衣に関する先行研究の調査、ICU スタッフに聞き取り調査を行い病衣を試作し、その特徴をみた。結果、ワンフロアである ICU においても、他患者や面会者の目を気にすることなく動け、プライバシーの保護にもつながる。意識レベルの低下している患者の胸元を直す、回復の望めない患者でもその個人を尊重し着飾ってあげたいと言う家族の意見、これまでの患者のライフスタイルやイメージを尊重したいという気持ちの現れていた。 共同発表者：富永 弥生，土開 美和，本波 さやか，重松 理恵， <u>上野 栄一</u>
164. 看護師の年齢・経験年数別にみた接遇・尊重・説明・指導における看護行為の評価	共著	平成 23 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)34 巻 3 号 P.402	年齢や経験年数 別による接遇に対する意識の違いを明らかにすることを目的とした。対象 A 病院の同意を得られた病棟勤務の看護師 88 名（20 歳代～50 歳代の各年代 22 名）に質問紙調査を行った。結果次のカテゴリーが抽出できた。《接遇カテゴリー》・経験年数よりも年齢別で有意差がみられ、若い世代では 全体的に評価が低かった。《尊重カテゴリー》・経験年数 3 年未満，20 歳代での評価が低く，40-50 歳代での評価が高かった。《説明・指導カテゴリー》・40 歳代の評価が高く，人としての価値観や知識が説明・指導能力を左右していた。 共同発表者：吉川 侑希，山田 智樹，高澤 みさき，小長井 麻衣，高柳 佳忠， <u>上野 栄一</u>
165. 生活習慣改善の内容を調査して 効果的な保健指導のあり方を考える	共著	平成 23 年 7 月	人間ドック、26 巻 2 号 P.396	共同発表者：谷口 素美，岸 宏栄，永田 隆恵，岡田 亜子，高吉 治子，松谷 優子，新田 一葉， <u>上野 栄一</u>
166. 看護師の基本属性性別におけるキャリア発達の特徴	共著	平成 23 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 18 回 P.30	役割分担：研究計画、解析 共同発表者：明神 一浩， <u>上野 栄一</u>
167. 看護理論にみるカウンセリング技法の特徴	共著	平成 23 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 18 回 P.48	役割分担：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，明神 一浩

168. 看護学生の喫煙行動および喫煙に対する態度への影響要因	共著	平成 23 年 10 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)21 巻Suppl. P. 211s	役割分担：結果と考察 共同発表者：上原 佳子，長谷川 智子，佐々木 百恵，吉田 華奈恵，礪波 利圭，浅川 久美子，田中 美由紀， <u>上野 栄一</u> ，石崎武志
169. 効果的な手術時手洗い・手袋交換とSSI の関係 感染率低下を目指して	共著	平成 23 年 10 月	日本手術看護学会誌(1880-4780)7 巻 2 号 P. 185	役割分担：統計解析 共同発表者：杉田 朋美，石田 喜美子，長谷 由紀子， <u>上野 栄一</u>
170. 看護学生の月経時のセルフケア測定尺度の作成	共著	平成 23 年 10 月	北陸公衆衛生学会誌(0386-3530)38 巻学会特集 P. 25	役割分担：統計解析 共同発表者：山内 弘子， <u>上野 栄一</u> ，高間 静子
171. コミュニケーション技法が看護学生の感情に与える影響	共著	平成 23 年 10 月	日本看護科学学会学術集会講演集 31 回 P. 196	役割分担：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，上平 悦子
172. 看護師の経験年数別にみたキャリア発達と職務満足の関係	共著	平成 23 年 10 月	日本看護科学学会学術集会講演集 31 回 P. 358	役割分担：研究計画、統計解析 共同発表者：明神 一浩， <u>上野 栄一</u>
173. 経験豊富な看護師が考える術後せん妄発症予測要因の検討 データマイニングを用いたインタビューの分析	共著	平成 23 年 10 月	日本看護科学学会学術集会講演集 31 回 P. 393	役割分担：分析と考察 共同発表者：松浦 純平，一ノ山 隆司， <u>上野 栄一</u>
174 看護実践レポートから見た看護の容(かたち)		平成 24 年 3 月	第 25 回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会	神保浩子、八塚美樹、上野栄一
175. 臨床看護師が考える術後せん妄発症予防に関する看護実践について KH Coder を利用した分析	共著	平成 24 年 3 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)11 巻 1 号 P. 38	役割分担：結果と考察 共同発表者：松浦 純平， <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司，京谷 和哉，上平 悦子，梅林 かおり
176. 3e-analyzer システムを用いた双方向授業の効果	共著	平成 24 年 3 月	富山大学看護学会誌(1882-191X)11 巻 1 号 P. 39	役割分担：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平
177. 医療政策の中での看護の動向	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラ	役割分担：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司，明神 一浩，松浦 純平，上平 悦子，八塚 美樹

			ム・抄録集 24 回 P. 29	
178. 頭頸部外科領域における術後せん妄発症予測要因の検討 経験豊富な看護師へのインタビューより	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 24 回 P. 34	役割分担：考察 共同発表者：松浦 純平， <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司，明神 一浩，福田 弘子
179. デイサービスにおける村田理論による援助的コミュニケーションの有効性	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 24 回 P. 43	役割分担：研究計画、分析 共同発表者：江口 富子， <u>上野 栄一</u>
180. 過去 10 年間の職務満足の研究タイトルの分析による研究動向の検討	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 24 回 P. 48	役割分担：統計改正 共同発表者：明神 一浩，前川 哲弥，森下 憂一，松浦 純平，上平 悦子， <u>上野 栄一</u>
181. 看護学生の捉えるケアリングと絵本の教材化に関する研究	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 24 回 P. 53	役割分担：分析 共同発表者：一ノ山 隆司，舟崎 起代子，村上 満，川野 雅資， <u>上野 栄一</u>
182. わが国における術後せん妄発症予測に関する研究の動向 過去 27 年間の文献検討より	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 24 回 P. 57	役割分担：分析 共同発表者：松浦 純平， <u>上野 栄一</u> ，一ノ山 隆司，明神 一浩，福田 弘子
183. 看護学生の授業における 3eAnalyzer による学習効果	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 25 回 P. 37	役割分担：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，上平 悦子
184. テキストマイニングによる看護管理の研究の動向 過去 10 年間の文献より	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 25 回 P. 47	役割分担：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，上平 悦子，安東 則子，八塚 美樹，神保 浩子
185. 看護実践レポートからみる看護の容（かたち）	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 25 回 P. 54	役割分担：解析 共同発表者：神保 浩子， <u>上野 栄一</u> ，八塚 美樹

186. 過去 10 年間の医療機関における暴力に関する研究の動向	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 25 回 P. 55	役割分担：解析と考察 共同発表者：明神 一浩， <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，上平 悦子
187. テキストマイニングを用いた術後せん妄に関する研究論文タイトルの分析	共著	平成 24 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 25 回 P. 57	役割分担：分析 共同発表者：松浦 純平，梅林 かおり，植木 健康，安東 則子，八塚 美樹， <u>上野 栄一</u>
188. フットケア外来における糖尿病指導効果に関する研究、GSEQ と間食に焦点をあてた解析から	共著	平成 24 年 3 月	糖尿病 (0021437X) 55 巻 3 号 P. 231	役割分担：統計解析 共同発表者：大西 みさ， <u>上野 栄一</u> ，服部 麗，蜂谷 真代，岸 雅也，小川 浩平
189. The characteristics of the research of bed ulcer during past ten years		2012 年 9 月	The 4th Congress of the World Union of Wound Healing Societies 2012 年 9 月 2 日～6 日パシフィコ横浜 第 24 回富山県看護研究学会 2012 年	役割分担：解析 共同発表者：久保博子、上野栄一
190. 各年齢別でみた看護師と新人看護師の職場ストレス要因とコーピング行動の比較				
191. 育児休業・産後休暇をとり職場復帰した病棟看護師の仕事と家庭の両立に対する役割葛藤の明確化			第 24 回富山県看護研究学会 2012 年	
192. 看護師の組織貢献意識に影響する要因の分析	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 111	看護師の組織貢献意識と基本属性（性別，年齢，経験年数，職位，最終学歴），目標管理に対する受容度，組織コミットメント，職務満足度，自己実現，達成動機との関連性を明らかにすることを目的とした。対象は北陸県の病院に勤務する看護師 550 名に自記式質問紙法による調査を実施した。結果、年齢と経験年数については，長くなればなるほど所属する組織の目標にも関心と理解を示し，仕事に対する自己評価能力を高め，責任と自律性を高めることで組織貢献意識が高まると考える。今後は，組織の目標達成と個人の自己実現欲求を充足させることを可能とする目標管理を有効に活用し，個人の自己実現と組織の成果（組織への貢献）がつながるような人材育成が必要である。 役割分担：研究計画、統計解析

				共同発表者：吉江 由加里, <u>上野 栄一</u>
193. 看護師の職場適応度測定尺度の再検討	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 111	本研究では、看護師の職場適応度測定尺度を作成し、その信頼性・妥当性について検討した。看護師の職場適応を測定するための項目原案は、先行文献と看護師の経験等の概念枠組みに沿って作成した。対象者は、300 床以上の総合病院に勤務する看護師 700 名とした。因子分析の結果、「業務自律」、「上司との関係」、「職場雰囲気」、「環境受容」の 4 因子 20 項目からなる尺度であった。本尺度は、内容妥当性、回答分布の偏り、弁別的妥当性、基準関連妥当性、信頼性が確認でき、高い信頼性と妥当性のある尺度であることが確認できた。 共同発表者：藤本 ひとみ, 高間 静子, <u>上野 栄一</u>
194. 看護師の安全行動尺度の開発	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 113	看護師一人一人が安全な看護業務を遂行するため身につけておくべき必要のある安全行動を可視化し、臨床で活用できる信頼性・妥当性の検証された安全行動尺度の開発を本研究の目的とする。北陸 ^D 県の病床数 ³⁰ 。床以上の総合病院に勤務する看護師 600 名を対象とした。結果、第 1 因子〈科学的根拠〉、第 2 因子〈チームワーク〉、第 3 因子〈報告・連絡・相談〉、第 4 因子〈リスク認知〉、第 5 因子〈コミュニケーション〉、第 6 因子〈問題の発見〉、第 7 因子〈確認〉、第 8 因子〈個人衛生〉と命名された。 役割分担：統計解析、考察 共同発表者：共同発表者：永岩 里美, <u>上野 栄一</u>
195. 臨床看護師が希望する術後せん妄アセスメントツールに関する分析	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 127 平成 24 年 10 月	術後せん妄アセスメントツール（以下、アセスメントツール）に関するニーズについて臨床経験年数別に明らかにした。対象は全国の国立大学医学部附属病院を乱数表を用いて無作為抽出した。協力の承諾が得られた 19 病院の外科病棟勤務の看護師 725 人を対象とした。結果、有効回答数 337 部（有効回答率 46.5%）、経験年数別のアセスメントツールの必要性、使用希望、所要時間に関する 5 群間の多重比較では項目数の群間比較において経験年数 20 年以上群が他群の全てと比較して有意な差が生じていた。 共同発表者：松浦 純平, 梅林 かおり, 石澤 美保子, 京谷 和哉, 一ノ山 隆司, <u>上野 栄一</u>

196. テキストマイニングを用いた周手術期における皮膚トラブルに関する研究の動向と課題	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P.141	本研究では、国内の周手術期における皮膚トラブルに関する研究の動向と課題を明らかにした。方法：Web 版医学中央雑誌 Ver.5 を使用した。キーワードは「手術室」，「手術体位」，絞り込み検索は「看護」，「原著論文」とし、93 編を対象とした。結果、階層的クラスタ分析結果より「発赤 予防のための物品の工夫」，「仰臥位時の皮膚調査」，「褥瘡発生予防」，「術中体位の工夫」，「術中体位固定についての 効果の検討」の ^a 個のカテゴリーに分類された。共起ネットワーク分類結果から，術中の褥瘡発生予防を目的とした 物品の使用効果に関する研究に取り組んでいたことが明らかになった 担当部分：テキストマイニング解析、考察 共同発表者：西山 和成，松浦 純平， <u>上野 栄一</u>
197. 緩和ケア病棟実習に参加した学生の学びを明らかにする実習後の学びレポートの分析から	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P.153	本研究は緩和ケア病棟実習を体験した学生の学びレポートから，学生の学びを明らかにすることを目的とした。研究対象：2010 年～2011 年に緩和ケア病棟実習を体験した 36 名の学生の学びレポート。結果、名詞レベルでの分析の結果，学生は緩和ケア病棟を患者と 家族の生活の場として捉え，看護は，苦痛と緩和を目的に行われていたと学んでいた。実習目標に掲げている Total Pain の理解と家族のおかれている状況を理解したと解釈できた。また学生は緩和ケアを支えるものとしてのボランティアの存在について学びを深めていた。 担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：安東 則子，四十竹 美千代，八塚 美樹，長 光代， <u>上野 栄一</u>
198. 終末期にある心不全患者への関わり医師と看護師の認識の相違から	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P.165	本研究では患者の治療に携わる医師，直接，看護介入を行う 看護師の心不全患者の終末期に対する認識を明らかにし今後 の終末期看護における課題を探索することを目的とする。 研究対象：A 病院循環器内科病棟医師 4 名 看護師 4 名とした。結果、医師は，【心不全の終末期における特異性】を認識し《積極的な治療》《あきらめない治療》を行っている。末期的 心不全患者においても，一時的に状態の改善を認めるケースもあり，身体的苦痛の軽減を重視し，治療を中断しない という姿勢を保持していると考えられる。 看護師は【人間関係を重視した関わり】を重要だと考えて おり，死に向かう患者に対し，《コミュニケーション》を最も必要と考え，《精神的支え》になりたいという気持ちを持ち続けていた。

199. 短時間正社員制度を利用している看護師を受け入れる側の意識調査	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 175	担当部分：質的解析 共同発表者：高田 奈奈, 鎌 沙緒里, 村井 純子, <u>上野 栄一</u> 日本看護協会の調査で、看護職の確保定着対策として「多様な勤務形態の導入」が最も有効だという結果が出ている。多様な勤務形態の中には「短時間正社員制度」があり、A 病院では 2010 年 1 月より制度が導入され、2011 年 11 月までに²・人が利用している。そこで、制度についての理解・周囲の受け入れ態勢が整うことで、働き続けられる職場づくりに繋がるのではと考え、制度利用者を受け入れる側の意識調査を行った。結果、A 病院の病棟看護師 108 人に質問紙によるアンケート調査を行った。結果、制度に対する意識として、結婚歴の有無で有意差を認め たのは「業務のリスクが大きい」。結婚歴と、出産経験の 有無の両方で有意差を認めたのは「制度は周りのスタッフ と利用する本人にとって仕事の負担が大きい」「ケアの提供時間」「以前に制度があったら利用してみたかった」であった。また、子供の有無で有意差が出たのは「制度は周りのスタッフ と利用する本人にとって仕事の負担が大きい」「今後この 制度を利用したい」「以前に制度があったら利用してみたかった」であった。 担当部分：統計解析 共同発表者：島崎 麻由美, 西田 香菜, 平井 千絵, 山崎 洋子, 田中 順子, <u>上野 栄一</u>
200. 話し手としての看護学生のコミュニケーション技法が聞き手の自律神経に与える影響	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 186	パーソナルに関与する、効果 的な場の構成があるとされる。本研究では、話し手としての看護学生のコミュニケーション技法が聞き手の自律神経 に与える影響について Z 看護 大学生 12 名を対象に明らかにした。結果、受容的態度では、副交感神経系が有意となり、お互いが緊張なくコミュニケーションがとれることが明らかとなった。このことにより話し手が受容的態度で相手に接することによりお互いの信頼関係が構築されていくことが示唆された 担当部分：総括 共同発表者：<u>上野栄一</u>, 瀧川薫, 田中 智美, 八塚 美樹, 安東 則子, 上平 悦子, 松浦 純平, 一ノ山 隆司
201. 精神科初回入院患者の家族支援に関する動向と課題	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 35 巻 3 号 P. 247	本研究では、精神科初回入院 となった家族への支援の重要性から、退院後の地域生活を 継続するために必要な家族支援に関しての動向を明らかにし今後の示唆を得ることを目的とする。

202. 認知症患者への ちんどん音楽の効果	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)35 巻 3 号 P.316	医学中央雑誌 Web 版 Ver. 4 を使用 (2000 年～2010 年現在)。得られた 23 件の原著論文を対象とした。結果、【考察】 発行件数の年度、調査実施者の大半が臨床看護師であり、今後ますます臨床の場に還元されるべき分野であると推察 する。今回対象とした文献では、入院患者を対象とした研 究が多く、地域生活中的の研究は取り組まれていなかった。このことから、今後、退院後および地域へ戻ってからの実 証的な家族支援の研究が行われることが望まれる。 担当部分：質的分析 共同発表者：植木 健康，松浦 純平，<u>上野 栄一</u>，川野 雅資 本研究ではちんどんによる認知症患者への効果について明らかにすることを目的とした。：Z 県 α 特養ホームにて認知症をもつ患者 14 名に実施した。演奏曲目は、青島マーチ， 青春のパラダイス，あの丘こえて，港町 13 番地，あこがれ のハワイ航路，お袋さん等をメドレー方式で演奏した。結果、本結果からは，表情や活動性が高まる ことが明らかとなった。これは中根らが音楽療法は生活 意欲を向上させると報告しているように音楽や視覚効果が 影響すると考えられる。また回想法と同様に昔生活していた頃の音楽を聴くことにより，当時のことを思い出し，大脳血液流量を増加させ大脳を活性化さえ活動を活性化したことが推察された。 担当部分：統計処理 共同発表者：江口 富子，<u>上野 栄一</u>，安東 則子，八塚 美樹
203. 経皮内視鏡的胃 瘻造設術(PEG)後に 生じた瘻孔周囲皮膚 炎のケア効果の検証	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)35 巻 3 号 P.334	本研究は、経皮内視鏡的胃瘻造設術（以後 PEG）後、瘻孔周囲皮膚 炎を生じた症例に対する看護ケアの効果を明らかにすることを目的とした。対象は、男性 病名：老人性嚥下性肺炎 廃用症候群、認知症。今回、高齢期で誤嚥性肺炎となり、PEG 後に消化液により生じた瘻孔周囲皮膚炎への改善に身体活動性が増加する ケア介入を行った。蠕動運動の低下する要因には加齢・臥床があり腹筋の低下という病態がる。進行の予防には活動性の増加を図る必要がある。本研究では主治医の治療と並行し身体活動性が増加するケアを取り入れた事で漏れ、瘻孔 周囲皮膚炎の改善に至る効果が得られたと考える。 担当部分：事例解析 共同発表者：長谷川 美智子，<u>上野 栄一</u>

204. 過去 3 年間に いて世界で報告され た暴力に関する文献 のタイトルの特徴	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)35 巻 3 号 P.344	本研究では過去 3 年間に及ぶ暴力に関する 文 献の特徴を明らかにし、今後の暴力に対 する研究への示唆 を得る目的で研究を行っ た。グーグルスカラー (WEB 版) で、過去 3 年間に発表された、2009 年～2011 年までの 研究タイトル 18190 件を分析対象とした。 コロケーション解析の結果からもわかるよ うに、ケア においては、日本の暴力に対す る研究と同様に海外でも “psychiatric care”，“mental health care” などのよ うな、暴力の被害者に対してのケアが必要 である。 担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：明神一浩， <u>上野 栄一</u>
205. 国内の災害看護 に関する研究の動向 と課題	共著	平成 24 年 10 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)35 巻 3 号 P.346	本研究では国内における災害看護に関する 研究動向と課題を明らかにした。 対象とし たのは、医学中央雑誌 Web 版 Ver5 に収載さ れている 1983 年～2007 年までの国内で発 表された、災 害看護に関する文献のタイト ルであるキーワードは「災害」と「看護」 で、絞り込み条 件としてそれぞれ看護分 野，原著論文に限定し、全年で AND 検索し た。師の継続教育の一環として災害看護研 修が開始されている。本研究結果から抽出 単語では「調査」，「課題」，「検討」，「訓 練」といった語句が上位にあげられ、災害 に対する看 護研究はまだ歴史は浅く、これ からの調査に基づく対策が 早急の課題であ ることが示唆された。近年の日本国内の災 害から、災害看護の意識は高まっている が、具体的な対策 がこれから求められる。 担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：梅林 かおり，松浦 純平，石 澤 美保子，東田 佳子， <u>上野 栄一</u>
206. 話し手の治療的 コミュニケーション 技法と非治療的コミ ュニケーション技法 が聞き手の感情に与 える影響 POMS を用 いた調査から	共著	平成 24 年 10 月	ヘルスカウンセリ ング学会学術大 会・総会プログラ ムおよび講演抄録 集 19 回 P.33	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平
207. コミュニケーシ ョンにおける話し手 と聞き手の発話量の 比較	共著	平成 24 年 10 月	ヘルスカウンセリ ング学会学術大 会・総会プログラ ムおよび講演抄録 集 19 回 P.51	担当部分：統計解析 松浦 純平， <u>上野 栄一</u>

208. EBN に基づいた 会話分析とは何か	共著	平成 24 年 10 月	ヘルスカウンセリ ング学会学術大 会・総会プログラ ムおよび講演抄録 集 19 回 P. 52	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平
20.9 話し手としての 看護学生のコミュニ ケーション技法が聞 き手の自律神経系と 感情に与える影響	共著	平成 24 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 32 回 P. 206	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平
210. 造血幹細胞移植 の意思決定支援にお ける看護援助と影響 要因	共著	平成 24 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 32 回 P. 238	担当部分：統計解析 共同発表者：田中 智美，瀧川 薫， <u>上野 栄一</u> ，藤野 みつ子
211. テキストマイニ ングによる術後せん 妄アセスメントツ ールのニーズに関する 自由記述の分析	共著	平成 24 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 32 回 P. 288	担当部分：質的分析の考察 共同発表者：松浦 純平，一ノ山 隆司， <u>上野 栄一</u>
212. 認定看護師によ る看護学生に対する がん化学療法看護講 義の感想の分析	共著	平成 25 年 1 月	日本がん看護学会 誌(0914-6423) 27 巻 Suppl. P. 208	担当部分：質的データの解析 共同発表者：久保 博子，繁田 里美， <u>上野 栄一</u>
213. 臨床経験別でみ た病棟看護師の共感 と行動の違い検討	共著	平成 25 年	第 44 回日本看 護学会(看護管 理) (平成 25 年 9 月 19 日 大阪)	担当部分：解析 共同発表者：水須千歌、清水麻衣、岡崎 博樹、穴口美里、本多由美子、明神一浩 (富山市医師会)、上野栄一(福井大学医 学部看護学科)
214. 臨床経験別にみ た病棟看護師の家族 看護の違いの検討～ 看護実践評価尺度を 用いて～	共著		第 44 回日本看護学 会(看護管理) (平成 25 年 9 月 20 日 大阪)	担当部分：解析 共同発表者：楠智津子、川口真理子、若 嶋郷子

215. 臨床経験別でみた病棟看護師の家族看護の違い検討 - 看護実践評価尺度を用いて	共著	平成 25 年9月	第 44 回日本看護学会(看護管理) (平成 25 年 9 月 19 日 大阪)	担当部分：解析 共同発表者： 楠智津子、川口真理子、若嶋郷子、明神一浩(富山市医師会)、上野栄一(福井大学医学部看護学科)
216. A 病院における看護師のバーンアウトの現状-バーンアウトしにくい職場環境を目指して-	共著	平成 25 年8月	日本看護研究学会 第 39 回学術集会 (平成 25 年 8 月 22 日 秋田)	担当部分：統計解析、考察 共同発表者： 伊藤まり子、池田満知子、山崎浩子、高柳佳忠、 <u>上野 栄一</u>
217. スピリチュアルケアに関する研究の動向	共著	平成 25 年 1 月	日本がん看護学会誌(0914-6423) 27 巻 Suppl. P. 269	担当部分：統計解析 <u>上野 栄一</u> ，長 光代，松浦 純平
218. 臨床と教育との協働	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 13-15	(単著) <u>上野 栄一</u>
219. 看護師の自己実現に関連する要因の分析	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 22	担当部分：統計解析 共同発表者：吉江 由加里， <u>上野 栄一</u>
220. 看護学生の自己健康管理モニタリング行動における概念枠組み	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 23	担当部分：統計解析 共同発表者：成瀬 早苗， <u>上野 栄一</u>
221. 糖尿病患者の段階的セルフケア能力評価尺度の開発	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 25	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> 、大西 みさ

222. 「聞き書き」手法を用いて聞いた患者の思いを、テキストマイニングから考える	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 26	担当部分：テキストマイニング解析 安東則子，八塚美樹， <u>上野 栄一</u>
223. 介護職員の考える「看取り」について 自分だったら何をしてほしいか	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 29 平成 25 年 3 月	担当部分：質的解析 共同発表者：江口 富子， <u>上野 栄一</u>
224. 看護師が抱く精神的負担感の状況および感情と対処方法	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 33	共同発表者：北野 華奈恵，長谷川 智子， 上原 佳子，佐々木 百恵，礪波 利圭， <u>上野 栄一</u>
225. 重症心身障害児(者)の評価に関する文献の検討	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 43	担当部分：質的解析 共同発表者：坂本 幸繁， <u>上野 栄一</u>
226. ICU 看護師が捉える PNS の特徴	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 51	担当部分：質的解析 共同発表者：青池 智小都，片山 静，北川 康代，高山 裕喜枝， <u>上野 栄一</u>
227. 看護師のコスト意識向上を目指した研修会の効果	共著	平成 25 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 26 回 P. 52	担当部分：解析 共同発表者：舟川 裕香，重松 理恵， <u>上野 栄一</u>
228. 看護管理者昇任の意思が職務キャリアに与える影響	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)36 巻 3 号 P. 129	本研究の目的は，看護管理者昇任の意思の有無や，意思の強さが，職務キャリアにどのように影響を及ぼしているかを明確にすることである。全国から無作為に抽出し，同意を得た 79 施設の看護管理者 972 名を対象とした。結果、【考察】看護管理者昇任の意思があった管理者は，職務キャリア得点が高かった。この結果は，昇任の意思があった管理者は，看護業務の遂行や，自己研鑽などに対し，自分の看護に自信を持っているや，常に向上心をもち，学ぶ姿勢があるなど，自信を持って業務を遂行しているからではないかと考えられる。また自己決定した行為には，やりがいと責任が伴

229. 冷え症の若年成人女性への日常生活でできる冷え対策指導の有用性の検討	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)36 巻 3 号 P.146	う（手塚ら，2007）と言われている。意思を強く持って 昇任した看護管理者は職務キャリアが高く，高い成果に繋がるのではないかと推察できる。 担当部分：統計解析、考察 共同発表者：吹矢 三恵子，<u>上野 栄一</u> 担当部分：解析 共同発表者：八塚 美樹，<u>上野 栄一</u>
230. 代替医療の研究の特徴について テキストマイニングによる分析から	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)36 巻 3 号 P.147	代替医療は，近年急速に脚光をあびている医学分野であり，WHO は世界の健康管理業務の 65 から 80%を伝統的医療と分類している。本研究では，代替医療の研究にどのような 特徴があるかについて明らかにすることを目的とした。医学中央雑誌を用いて（2013 年 2 月現在），過去 5 年間 1,305 件について分析した。解析ソフトは KHCoder を用いた。結果、代替医療には多くの研究がなされていた。医療における代 替医療では，マッサージ，アロマセラピー，リンパドレナージなど多彩な種類があった。また，効果，有効，取り組み，事例ななどの単語が上位にあがり，代替医療においては，ケア効果の検証がされてきているという特徴があった。 担当部分：研究総括 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，八塚 美樹，須永 恭子
231. 高血圧症患者の服薬管理行動に影響する要因	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)36 巻 3 号 P.164	高血圧症患者にとって血圧をコントロールするためには日常生活行動を自己管理していくことが必要となる。本研究 は高血圧症患者の日常生活行動の一部と考えられる服薬行 動の自己管理に影響する要因を明らかにすることを目的と した。対象は外来に通院する本態性高血圧症患者 166 名であり，高血圧症患者の日常生活行動自己管理尺度の下位尺度である服薬管理尺度（7 項目）を用いた無記名自記式質問紙 調査を実施した。結果、飲酒習慣のある者は服薬管理得点が低かったことから，服 薬は食後であることが多く飲酒後にはアルコールの影響で服薬の必要性の認識が低下し，服薬を忘れることが考えら れる。また，家庭血圧を測定する者の方が測定しない者よりも服薬管理得点が高いことから，自己の血圧値をモニタリングすることで服薬管理の意識が高まるのではないかと 考える。高血圧症患者の服薬管理指導においては，男性，65 歳未満の者，有職者，飲酒習慣のある者，家庭血圧測定 をしていない者に特に配慮して生

				活状況及び服薬管理状況を確認することが必要と考える。 担当部分：統計解析、考察 共同発表者：坪田 恵子，稲垣 美智子，<u>上野 栄一</u>
232. 看護学生の自己健康管理モニタリング測定尺度の開発	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 36 巻 3 号 P. 185	担当部分：統計解析 共同発表者：成瀬 早苗，<u>上野 栄一</u>
233. テキストマイニングによる看護学生の臨地実習中でのヒヤリハットの分析	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 36 巻 3 号 P. 230	本研究の目的は、看護学生が、自己健康管理をモニタリングしているかをみるための自己健康管理モニタリング測定尺度の開発を目的とした。対象は、看護専門学校の看護学生 1,056 名に自記式質問紙調査を実施した。【考察】結果より正規性が確認され、基準関連妥当性が検証された。また、信頼性係数、リテストの結果より、信頼性の高い尺度であることが確認できた。本尺度は、看護学生が自己の健康管理をモニタリングしているかを測定する尺度として簡便に使用でき、これにより自己健康管理の状況を把握し、自己健康管理能力向上への一助となる。 担当部分：解析 共同発表者：藤本 ひとみ，高間 静子，<u>上野 栄一</u>
234. A 病院における看護師のバーンアウトの現状 バーンアウトしにくい職場環境を目指して	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 36 巻 3 号 P. 311	A 病院の看護師のバーンアウトの現状とその要因を調査しバーンアウトしにくい環境を明らかにすることである。：A 病院各病棟に勤務する 20 ～50 代の看護師を 177 名と対象とした。結果、A 病院では脱人格化の得点は低い傾向にあり、相談や報告ができず、ストレスの原因となっていた。職場内のコミュニケーションを良好にすることがバーンアウトの回避に繋がると考えられる。また、向にはなく、全体的に差はみられなかった。このことより、新人看護師へのフォローアップ体制が整っていることが考えられる。職場環境とバーンアウトの相関からは、看護師と医師、看護師同士のコミュニケーションが良好であれば、バーンアウト得点が低いという事を示していた。 担当部分：統計解析、考察 共同発表者：伊藤 まり子，池田 満知子，山崎 浩子，高柳 佳忠，<u>上野 栄一</u>
235. 在宅片麻痺患者の自律度測定尺度の開発	共著	平成 25 年 7 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 36 巻 3 号、P. 328	本研究は、在宅片麻痺患者の自律度を測定する尺度を作成することである。本研究の意義は、片麻痺患者自身が在宅での生活方法を能動的に評価できる指標とすることである。調査は、福井県内 33 施設の在宅片麻痺患者 152 名に面接法 125 名，郵送法 27

236. 看護学生の自己健康管理モニタリングにおける精神的要因の特徴	共著	平成 25 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 20 回 P. 47	名で実施した。結果、第 1 因子は「周囲に支えられた在宅生活」，第 2 因子は「安全な日常生活動作の工夫」，第 3 因子は「心身状態の自己管理」，第 4 因子は「同じ片麻痺患者との交流」，第 5 因子は「運動能力の把握と対処行動」と命名した。統計解析の結果，廃棄すべき項目はなく，正規分布の範囲内にあると判断できた。 担当部分：統計解析 共同発表者：横山 孝枝，<u>上野 栄一</u> 担当部分：解析と考察 共同発表者：成瀬 早苗，<u>上野 栄一</u>
237. 看護学生のコミュニケーションの特徴 会話分析の視点から	共著	平成 25 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 20 回 P. 48	担当部分：研究総括 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，成瀬 早苗
238. 話し手としての看護学生のコミュニケーション技法が聞き手の自律神経系に与える影響 治療的技法と非治療的技法を用いた快度と POMS との関係	共著	平成 25 年 9 月	生理心理学と精神生理学(0289-2405)31 巻 2 号 P. 169	担当部分：研究総括 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，安倍 博
239. 終末期の患者の家族に CD 音楽が及ぼした影響	共著	平成 25 年 10 月	平成 17 年日本看護学会成人看護Ⅱ	担当部分：質的分析 共同発表者：長光代、石若弘美、上井陽子、表寺直美、飯田真由美、広田牧子、<u>上野栄一</u>
240. 統合失調症患者を支える家族の主観的負担感に関する研究—自由記載文の分析から—	共著	平成 25 年 10 月 3	平成 17 年日本看護学会精神看護	担当部分：質的分析、一般化 共同発表者：一ノ山隆司、廣田朋子 <u>上野 栄一</u>、永山くに子
241. ハンドマッサージが感情と脳波に与える影響	共著	平成 25 年 12 月	日本統合医療学会誌 6 巻 3 号 P. 158	担当部分：研究総括 共同発表者：<u>上野 栄一</u>，室谷 良子
242. F 病院こころの医療センター外来における時間外電話相談の傾向 テキストマイニングによる分析	共著	平成 26 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 27 回 P. 21	担当部分：質的分析、考察 共同発表者：青山 幸子，<u>上野 栄一</u>，林 宏美，中村 恵子，大永 幸代，田中 薄治

243. 外来ミーティングにおけるアルコール依存症者の発言内容の分析	共著	平成 26 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 27 回 P. 22	担当部分：質的分析 共同発表者：藤嶋 裕美，山本 育子，山口達也， <u>上野 栄一</u>
244. 統合失調症と退院支援に関する研究の特徴	共著	平成 26 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 27 回 P. 23	担当部分：統計解析 共同発表者： <u>山本 勝也</u> ，上野 栄一
245. 高血圧症患者のストレス管理行動に関連する要因の分析	共著	平成 26 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 27 回 P. 30	担当部分：結果、考察 共同発表者：坪田 恵子，稲垣 美智子， <u>上野 栄一</u>
246. 精神看護学実習における新人臨床指導者の指導の実態について テキストマイニングにおける分析を通して	共著	平成 26 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 27 回 P. 39	担当部分：質的貝瀬 k 共同発表者：増田 安代，埴山 雅宏， <u>上野 栄一</u>
247. 新聞記事に記載された看護教育の特徴	共著	平成 26 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 27 回 P. 41	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，須永 恭子
248. 継続的質改善を用いた腹膜透析スタッフ指導能力の向上	共著	平成 26 年 5 月	日本透析医学会雑誌(1340-3451)47 巻 Suppl. 1 P. 820	担当部分：解析と考察 共同発表者：西村 佑佳，中川 詞織，中田美智代， <u>上野 栄一</u>
249. 災害に関する研究の動向 こころに焦点をあてて	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)37 巻 3 号 P. 118	担当部分：質的解析 共同発表者：成瀬 早苗， <u>上野 栄一</u>
250. 精神看護学における会話分析の手法	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)37 巻 3 号 P. 167	本交流集会では，会話場面の分析の一部を報告し，討議の材料として会話分析の示唆を得たことを目的とした。結果、質的分析方法としては，認知行動療法，ナラティブセラピー，スピリチュアリティ，ヒューマニスティック ナーシング，など精神看護学の理論や技法に基づいて分析する方法が可能である。質的に分析する場合には，以下の 6 点 に注意を払う必要がある。会話分析研究の限界として，量的研究方法は，文脈の中での会話の意味を分析することを見落としがちで，質的研究方法は，反芻性，一般性に疑問が残る。この限界を乗り越えるには，量的研究方法と質的研究方法の両

251. 一般病棟看護師の退院支援における認識・行動と役割受容の関連性	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 37 巻 3 号 P. 191	方を行うことが有用であることが示唆された。 共同発表者：川野 雅資，<u>上野 栄一</u>，安藤 満代，揚野 裕紀子，曾谷 貴子，伊藤 桂子，片山 典子，石川 純子，柳田 崇姉，松浦 純平 一般病棟看護師の個人的背景（年齢・経験年数・臨床領域・教育課程・退院支援研修受講の有無）と退院支援における認識・行動と役割受容との関連性を明らかにすることを目的として、北陸 3 県の施設基準として退院調整加算を取得している病院 16 施設に勤務する一般病棟看護師 770 人に、個人的背景，退院支援の認識，退院支援の行動，看護師としての役割受容について無記名の自記式質問紙調査を郵送法にて実施した。結果、退院支援の認識・行動と役割受容は年齢，経験年数の高い看護師と，退院支援に関する研修を受講している看護師が有意に高かった。今後わが国では高齢化率や障害をもつ生活者が増えていくことが推測されており，在宅や施設へつなぐまでの関わりとして，一般病棟看護師は退院支援の役割を肯定的に受け止め，看護ケアを提供していくことが重要な課題である。 担当部分：統計解析 共同発表者：吉田 一代，<u>上野 栄一</u> 本研究の目的は、病院看護師のメンタルヘルス不調による休職後の復職支援に関して，看護管理者はその必要性をどのように認識しているのか，組織の動向に示唆を得ることである。関東圏内の精神科病院を除く，総合病院（200 床以上）からランダムに 350 施設を選定し、有効回答は 129 部を分析とした。結果、復職に伴う支援には，訓練の導入やプログラムの活用，厚労省の手引き用いて努力しているが，明らかな効果を示していない現状と支援を受ける側とする側にとって負担が大きくなることが推察される。また、メンタルヘルスはプライバシーの観点から慎重に扱うことが求められ，支援体制にはその理解の必要性が示唆された。解析 担当部分： 共同発表者：大津 聡美，遠藤 加奈子，一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u> F 病院こころの医療センター（以下，F センター）は，精神科病床 300 と精神科外来を有し，夜間，休日の電話相談を受け入れている。今回，F センター外来における電話相談で，時間外に限局し，分析し考察した（平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月までの当外来時間外で，看護師が受けた電話相談（患者が話した総数 4,258 件）。結果、当
252. 看護師のメンタルヘルス不調による休職後の復職支援に関する研究	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 37 巻 3 号 P. 192	方を行うことが有用であることが示唆された。 共同発表者：川野 雅資，<u>上野 栄一</u>，安藤 満代，揚野 裕紀子，曾谷 貴子，伊藤 桂子，片山 典子，石川 純子，柳田 崇姉，松浦 純平 一般病棟看護師の個人的背景（年齢・経験年数・臨床領域・教育課程・退院支援研修受講の有無）と退院支援における認識・行動と役割受容との関連性を明らかにすることを目的として、北陸 3 県の施設基準として退院調整加算を取得している病院 16 施設に勤務する一般病棟看護師 770 人に、個人的背景，退院支援の認識，退院支援の行動，看護師としての役割受容について無記名の自記式質問紙調査を郵送法にて実施した。結果、退院支援の認識・行動と役割受容は年齢，経験年数の高い看護師と，退院支援に関する研修を受講している看護師が有意に高かった。今後わが国では高齢化率や障害をもつ生活者が増えていくことが推測されており，在宅や施設へつなぐまでの関わりとして，一般病棟看護師は退院支援の役割を肯定的に受け止め，看護ケアを提供していくことが重要な課題である。 担当部分：統計解析 共同発表者：吉田 一代，<u>上野 栄一</u> 本研究の目的は、病院看護師のメンタルヘルス不調による休職後の復職支援に関して，看護管理者はその必要性をどのように認識しているのか，組織の動向に示唆を得ることである。関東圏内の精神科病院を除く，総合病院（200 床以上）からランダムに 350 施設を選定し、有効回答は 129 部を分析とした。結果、復職に伴う支援には，訓練の導入やプログラムの活用，厚労省の手引き用いて努力しているが，明らかな効果を示していない現状と支援を受ける側とする側にとって負担が大きくなることが推察される。また、メンタルヘルスはプライバシーの観点から慎重に扱うことが求められ，支援体制にはその理解の必要性が示唆された。解析 担当部分： 共同発表者：大津 聡美，遠藤 加奈子，一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u> F 病院こころの医療センター（以下，F センター）は，精神科病床 300 と精神科外来を有し，夜間，休日の電話相談を受け入れている。今回，F センター外来における電話相談で，時間外に限局し，分析し考察した（平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月までの当外来時間外で，看護師が受けた電話相談（患者が話した総数 4,258 件）。結果、当
253. F 病院こころの医療センター外来における時間外電話相談の傾向 テキストマイニングによる分析	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌 (0285-9262) 37 巻 3 号 P. 202	方を行うことが有用であることが示唆された。 共同発表者：川野 雅資，<u>上野 栄一</u>，安藤 満代，揚野 裕紀子，曾谷 貴子，伊藤 桂子，片山 典子，石川 純子，柳田 崇姉，松浦 純平 一般病棟看護師の個人的背景（年齢・経験年数・臨床領域・教育課程・退院支援研修受講の有無）と退院支援における認識・行動と役割受容との関連性を明らかにすることを目的として、北陸 3 県の施設基準として退院調整加算を取得している病院 16 施設に勤務する一般病棟看護師 770 人に、個人的背景，退院支援の認識，退院支援の行動，看護師としての役割受容について無記名の自記式質問紙調査を郵送法にて実施した。結果、退院支援の認識・行動と役割受容は年齢，経験年数の高い看護師と，退院支援に関する研修を受講している看護師が有意に高かった。今後わが国では高齢化率や障害をもつ生活者が増えていくことが推測されており，在宅や施設へつなぐまでの関わりとして，一般病棟看護師は退院支援の役割を肯定的に受け止め，看護ケアを提供していくことが重要な課題である。 担当部分：統計解析 共同発表者：吉田 一代，<u>上野 栄一</u> 本研究の目的は、病院看護師のメンタルヘルス不調による休職後の復職支援に関して，看護管理者はその必要性をどのように認識しているのか，組織の動向に示唆を得ることである。関東圏内の精神科病院を除く，総合病院（200 床以上）からランダムに 350 施設を選定し、有効回答は 129 部を分析とした。結果、復職に伴う支援には，訓練の導入やプログラムの活用，厚労省の手引き用いて努力しているが，明らかな効果を示していない現状と支援を受ける側とする側にとって負担が大きくなることが推察される。また、メンタルヘルスはプライバシーの観点から慎重に扱うことが求められ，支援体制にはその理解の必要性が示唆された。解析 担当部分： 共同発表者：大津 聡美，遠藤 加奈子，一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u> F 病院こころの医療センター（以下，F センター）は，精神科病床 300 と精神科外来を有し，夜間，休日の電話相談を受け入れている。今回，F センター外来における電話相談で，時間外に限局し，分析し考察した（平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月までの当外来時間外で，看護師が受けた電話相談（患者が話した総数 4,258 件）。結果、当

254. 看護職の専門職間協働における実践力測定尺度開発の試み	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)37 巻 3 号 P. 267	外来時間外電話相談では、「薬」は〈副作用〉〈受診日〉〈不足〉〈処方希望〉〈夕食後〉〈朝食後〉と共起性があり、副作用による苦痛や飲み間違いなど服薬行動における悩みが推察された。「辛い」は〈我慢〉〈人間関係〉〈頓服〉〈診察希望〉〈思考伝播〉と共起性があり、病的体験や付き合いにおける生き辛さを抱え、医療につながりながら生きて いる相談者の生活が推察された。また、相談者の生活上の障害に 焦点を当て、傾聴することが重要と考える。 担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：青山 幸子，<u>上野 栄一</u>，林 宏美，中村 恵子，大永 幸代，田中 薄治 本研究の目的は、看護職の専門職間協働における実践力測定尺度の開発である。調査対象北陸 3 県の看護職 773 名（保健師 237 名，助産師 226 名，看護師 310 名）。結果、項目分析で抽出された 48 項目を，共通性と因子負 荷量を確認しながら因子分析した結果， 5 因子 31 項目を採用した。第 1 因子を「チーム内での役割に進んで取り組む力」，第 2 因子「専門職との繋がりを太くする力」第 3 因子「チームメンバーとの良好な関係を築く力」第 4 因子「専門職のチーム力を発揮させる力」第 5 因子「チームメンバーの協働を引き出す力」と命名した。 担当部分：統計解析 共同発表者：白崎 千恵美，<u>上野 栄一</u>
255. 卒後 3 年目の看護師が受けた承認と非承認行為による感情の違いの検討	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)37 巻 3 号 P. 273	本研究は、卒後 3 年目の看護師（以下，卒 3）が受けた承認と非承認 行為での感情内容を明らかにし，今後の看護管理の在り方に示唆を得ることである。対象はα 県内 A 総合病院に勤務する 卒 3 の看護師 12 名を対象にした。結果、言葉のネットワークの分析から分かったことは，看護師の 承認行為を振り返る過程において，新人時代にプリセプターとの関係が強く，プリセプターに承認を受けたこと が，3 年目まで強く意識に焼きついていたことが，このような結果となったのではないかと推察する。また，非承認 行為では，自身→悪口→陰など，陰で悪口を言われた経験 も強く印象づいたのだと考える。 担当部分：質的解析 共同発表者：古川 智恵，武井 美佳，村上 愛，大亀 未貴，川崎 美樹，本多 由美子，明神 一浩，<u>上野 栄一</u>
256. A 総合病院における男性看護師のチームワーク能力に対する調査研究	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)37 巻 3 号 P. 302	本研究の目的は、チームワーク能力尺度を用い，男性看護師が求められる チームワーク能力を解明することで今後の業務を円滑に行うための示唆を得るためである。結果、『リーダーシッ プ能力尺度』で有意差

257. テキストマイニングを用いたうつ病患者へのカウンセリング場面の会話分析	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)37 巻 3 号 P.311	が出た項目としては公平対応因子のみであった。特に 2 項目がより低い値を示していた。この要因として男性看護師の経験によるものが大きいと予測され、性別に関係なく男性看護師はリーダーシップ能力を発揮すべきであるという思いがある事が考えられる。しかし、期待値に届かなかったと解釈し、男性看護師はリーダーシップ能力を成長させ、経験を積んでいく事が必要であると考ええる。 担当部分：統計解析 共同発表者：加納 春洋, 城戸 涼子, 田中 裕美, 高柳 佳忠, <u>上野 栄一</u> 本研究の目的は、うつ病患者へのカウンセリング場面の会話分析からうつ病患者への援助の特徴を明らかにして今後のうつ病患者へのカウンセリングに活用することである。対象者へのカウンセリングの会話内容を録音し録音内容から逐語録を作成した。計量テキスト分析ソフトKH Coder にて記述統計、共起関係ネットワーク分類、階層的クラスタ分析を実施した。結果、【考察】共起関係ネットワーク分類と階層的クラスタ分析の結果、「対象者の嗜好」は、対象者が好きなラーメンの話題を自ら積極的に話していた。このことは対象者とカウンセラー間に堅固な信頼関係が構築されている証ではないかと推察する。 担当部分：会話分析 共同発表者：松浦 純平, 川野 雅資, <u>上野 栄一</u>
258. NANDA-I 看護診断における「急性混乱」の変遷およびその特徴について	共著	平成 26 年 7 月	看護診断(1341-307 月 19 巻 2 号 P.112-113	担当部分：結果の考察 共同発表者：松浦 純平, <u>上野 栄一</u>
259. CPR(心肺蘇生)講習会において患者・家族の意見から見えてきたこと-過去 6 年を振り返って-	共著	平成 26 年 7 月	日本看護研究学会雑誌、37 号、p3	担当部分：分析 共同発表者：草野玲奈、山上美竹、舟川裕香、重松理恵、<u>上野栄一</u>
260. 外来インスリン導入に段階的なセルフケア評価(GSEQ)を用いた有効性の検討	共著	平成 26 年 8 月	日本糖尿病教育・看護学会誌(1342-8497)18 巻特別号 P.142	担当部分：統計解析 共同発表者：大西 みさ, <u>上野 栄一</u>
261. 看護師のメンタルヘルス不調による休職後の復職支援に関する研究	共著	平成 26 年 8 月	第 40 回日本看護研究学会学術集会、	【目的】 病院看護師のメンタルヘルス不調による休職後の復職支援 に関して、看護管理者はその必要性をどのように認識しているのか、組織の動向に示唆を得る。 自記式質問紙調査の横断的研究であり、対象者は看護職員を総括する管理職（看護部

262. 一般病棟看護師の退院支援における認識・行動と役割受容の関連性	共著	平成 26 年 8 月	第 40 回日本看護研究学会学術集会	長等) で、関東圏内の精神科病院を除く、総合病院 (200 床以上) からランダムに 350 施設を選定した。結果復職に伴う支援には、訓練の導入やプログラムの活用、厚労省の手引きを用いて努力しているが、明らかな効果を示していない現状と支援を受ける側とする側にとって負担が大きくなることが推察される。しかし、復帰支援には個に応じた勤務調整が図られている。それでもその後の休職や離職に至るケースもあり、職場環境でのメンタルヘルスの難しさと捉えられる。専門相談員については、予防や復職支援の資源であるが、メンタルヘルスはプライバシーの観点から慎重に扱うことが求められ、支援体制にはその理解の必要性が示唆された。 担当部分：統計解析 共同発表者：大津聡美，遠藤加奈子 2，一ノ山隆司，上野栄一 一般病棟看護師の個人的背景 (年齢・経験年数・臨床領域・教育課程・退院支援研修受講の有無) と退院支援における認識・行動と役割受容との関連性を明らかにすることである。北陸 3 県の施設基準として退院調整加算を取得している病院 16 施設に勤務する一般病棟看護師 770 人に、個人的背景、退院支援の認識、退院支援の行動、看護師としての役割受容について無記名の自記式質問紙調査を郵送法にて実施。調査表の回収率は 539 部 (70%)，有効回答率 90.7%であった。結果、本研究から、退院支援の認識・行動と役割受容は年齢、経験年数の高い看護師と、退院支援に関する研修を受講している看護師が有意に高かった。今後わが国では高齢化率や障害をもつ生活者が増えていくことが推測されており、在宅や施設へつなぐまでの関わりとして、一般病棟看護師は退院支援の役割を肯定的に受け止め、看護ケアを提供していくことが重要な課題である。 担当部分：統計解析 共同発表者：吉田 一代，上野 栄一 【目的】 チームワーク能力尺度を用い、男性看護師が求められる チームワーク能力を解明することで今後の業務を円滑に行うための示唆を得るため。【研究方法】 研究方法：相川らの作成したチームワーク能力尺度を元に 全 76 項目の質問紙を作成した。分析方法：Mann-Whitney の U 検定を使用して統計処理を行った。結果、『モニタリング能力尺度』については、尺度全体と各因子の全てに有意差が見られた。特に得点の差が大きく出たものとして、状況把握因子の 2 項目、調整思考因子の 1 項目が
263. A 総合病院における男性看護師のチームワーク能力に対する調査研究	共著	平成 26 年 8 月	第 40 回日本看護研究学会学術集会	【目的】 チームワーク能力尺度を用い、男性看護師が求められる チームワーク能力を解明することで今後の業務を円滑に行うための示唆を得るため。【研究方法】 研究方法：相川らの作成したチームワーク能力尺度を元に 全 76 項目の質問紙を作成した。分析方法：Mann-Whitney の U 検定を使用して統計処理を行った。結果、『モニタリング能力尺度』については、尺度全体と各因子の全てに有意差が見られた。特に得点の差が大きく出たものとして、状況把握因子の 2 項目、調整思考因子の 1 項目が

264. 卒後3年目の看護師が受けた承認と非承認行為による感情の違いの検討	共著	平成26年8月	第40回日本看護研究学会学術集会、日本看護研究学会雑誌 Vol.37 No.3 2014、P267	挙げた。回答した男性看護師は、経験年数1～5年目の者が半数以上を占めていた。男性看護師としては、個人の業務で言えば及第点が与えられても良いが、チームワーク能力でいえば周囲を見る事が出来ていないと考える。女性看護師の年齢は広範に及んでおり、中堅・達人レベルに至っている者の数が多い事も要因の1つであると考え。このことより男性看護師は、自身の業務を確実に行う事は当然であるが、周囲の状況にも気を配りながら柔軟な対応を行っていく必要があると考える。 担当部分：統計解析 共同発表者：加納春洋，城戸涼子，田中裕美，高柳佳忠 <u>上野栄一</u> 【研究目的】 卒後3年目の看護師（以下、卒3）が受けた承認と非承認行為での感情内容を明らかにし、今後の看護管理の在り方に示唆を得る。【研究方法】 1. 対象及び期間及び場所：α県内A総合病院に勤務する卒3の看護師12名を対象にした。結果、言葉のネットワークの分析から分かったことは、看護師の承認行為を振り返る過程において、新人時代にプリセプターとの関係が強く、プリセプターに承認を受けたことが、3年目まで強く意識に焼きついていたことが、このような結果となったのではないかと推察する。また、非承認行為では、陰で悪口を言われた経験も強く印象づいたのだと示唆された。結果、同意を得た。【結果】 対象者の発語総数は7,181語であった。高頻度に出現した単語に着目した結果、思う（48）、言う（47）、会社（15）、自分（15）、感じ（13）、聞く（9）、悪い（8）などが抽出された。共起関係ネットワーク分類と階層的クラスター分析の結果、「対象者の嗜好」、「他者への関心」、「自責感」、「無意識的な考え」の4個のクラスターに分類された。 担当部分：統計解析 共同発表者：古川智恵，武井美佳，村上愛，大亀未貴，川崎美樹，本多由美子，明神一浩，<u>上野栄一</u>
265. テキストマイニングを用いたうつ病患者へのカウンセリング場面の会話分析	共著	平成26年8月	第40回日本看護研究学会学術集会	【目的】 本研究の目的は、うつ病患者へのカウンセリング場面の会話分析からうつ病患者への援助の特徴を明らかにして今後のうつ病患者へのカウンセリングに活用することである。【研究方法】 1. 対象：うつ病患者（以下：対象者） 2. 方法：対象者へのカウンセリングの会話内容を録音し録音内容から逐語録を作成した。計量テキスト分析ソフト KH Coder にて記述統計、共起関係ネットワーク分類、階層的クラスター分析を実施した。

				担当部分：統計解析 共同発表者： 松浦純平、川野雅資、上野栄一
266. 看護学生が自己評価の指標を決定する因子 統合実習後のインタビューの検討	共著	平成 26 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 21 回 P. 46	担当部分：解析 共同発表者：南野 まゆみ、 <u>上野 栄一</u>
267. CPR(心肺蘇生)講習会において患者・家族の意見から見えてきたこと 過去 6 年間を振り返って	共著	平成 26 年 9 月	日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌(1881-7319)24 巻Suppl. P. 139s	担当部分：データ解析 共同発表者：草野 玲奈, 山上 美竹, 舟川 裕香, 重松 理恵, <u>上野 栄一</u>
268. 慢性呼吸器疾患看護認定看護師への期待と役割の明確化	共著	平成 26 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 21 回 P. 46	担当部分：データ解析 共同発表者：東 絵理, 高畑 奈津江, 関口 浩至, <u>上野 栄一</u> , 長谷川 智子, 石崎 武志
269. 小児造血細胞移植看護に関わる看護師の気持ち	共著	平成 26 年 10 月	日本小児血液・がん学会雑誌(2187-011X)51 巻 4 号 P. 409	担当部分：質的解析 共同発表者：広瀬 知美, 黒川 歩美, 尾崎 美津子, 岩本 和栄, <u>上野 栄一</u>
270 外来化学療法に関する研究の動向 患者と家族に焦点をあてて	共著	平成 27 年 1 月	日本がん看護学会誌(0914-6423)29 巻 Suppl. P. 143	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> , 長 光代
271. 外来化学療法を受ける患者の栄養評価	共著	平成 27 年 1 月	日本がん看護学会誌(0914-6423)29 巻 Suppl. P. 156 平成 27 年. 01)	担当部分：解析 共同発表者：久保 博子, <u>上野 栄一</u>
272. 外来化学療法を受けている高齢者がん患者の家族の思い	共著	平成 27 年 1 月	日本がん看護学会誌(0914-6423)29 巻 Suppl. P. 203 平成 27 年. 01)	共同発表者：長 光代, 藤森 敦子, <u>上野 栄一</u>
273. 外来がん化学療法を受ける乳がん患者のセクシュアリティへの影響(第 1 報) テキストマイニングによる会話の分析	共著	平成 27 年 1 月	日本がん看護学会誌(0914-6423)29 巻 Suppl. P. 241	担当部分：質的解析 共同担当部分：：木谷 智江, 中野 妃佐恵, <u>上野 栄一</u>
274. 看護政策に関わる研究の動向について	共著	平成 27 年 2 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 28 回 P. 21	担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> , 成瀬 早苗, 増田 安代, 松浦 純平, 内田 真紀, 山本 勝也

275. 一人暮らし高齢者に関する研究の特徴 テキストマイニングによる分析	共著	平成 27 年 2 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 28 回 P. 24	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：成瀬 早苗， <u>上野 栄一</u> ，加藤 真由美
276. テキストマイニングによる「先制医療」の視点からみたせん妄発症予防の実際	共著	平成 27 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)38 巻 3 号 P. 160	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：松浦 純平，足日 和美，中上 昌代， <u>上野 栄一</u>
277. 統合失調症を有する人の地域生活におけるセルフマネジメント能力測定尺度の開発	共著	平成 27 年 7 月	日本看護研究学会雑誌、38 巻 3 号 P. 162 平成 27 年 7 月	担当部分：統計解析、考察 共同発表者：山本 勝也， <u>上野 栄一</u>
278. 高齢者の捉える在宅生活の「楽しみ」と「はりあい」テキストマイニングの解析から	共著	平成 27 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)38 巻 3 号 P. 271	担当部分： 共同発表者：成瀬 早苗， <u>上野 栄一</u> ，加藤 真由美，出村 佳子
279. 各都道府県看護協会の取り組みを協会広報誌巻頭言の特徴から考察する	共著	平成 27 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)38 巻 3 号 P. 299	担当部分：データ解析、考察 共同発表者：濱野 陽子， <u>上野 栄一</u>
280 テキストマイニングを用いた看護診断に関する研究の分析	共著	平成 27 年 7 月	看護診断(1341-307 月 20 巻 2 号 P. 118-119	担当部分：データ解析 共同発表者：松浦 純平， <u>上野 栄一</u>
281. 高齢者の生きがいに関する研究の特徴 テキストマイニングの解析から	共著	平成 27 年 9 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 22 回 P. 57	担当部分：データ解析 共同発表者：成瀬 早苗， <u>上野 栄一</u>
282. 軽度高血糖者への生活実態調査と糖尿病予防の取り組み	共著	平成 27 年 12 月	北陸公衆衛生学会誌(0386-3530)42 巻学会特集 P. 40	担当部分：データ解析 共同発表者：間所 奈美恵，越後 美香，野村 未来， <u>上野 栄一</u> ，出口 洋二，繁田 里美
283. 外来がん化学療法を受ける乳がん患者のセクシュアリティへの影響(第 2 報)テキストマイニングによる会話の分析	共著	平成 28 年 1 月	日本がん看護学会誌(0914-6423)30 巻 Suppl. P. 233	担当部分：データ解析 共同発表者：木谷 智江，中野 妃佐恵， <u>上野 栄一</u>

284. 高齢がん患者が 通院治療を継続する にあたっての負担・ 不安と工夫	共著	平成 28 年 1 月	日本がん看護学会 誌(0914-6423)30 巻 Suppl. P.274	担当部分：質的解析 共同発表者：磯見 智恵, 繁田 里美, <u>上野 栄一</u> , 笹川 良明, 酒井 明子
285. 世界における EBM に基づいたせん 妄研究の現状と課題	共著	平成 28 年 2 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラ ム・抄録集 29 回 P.27	担当部分：結果と考察 共同発表者：松浦 純平, <u>上野 栄一</u>
286. 精神看護学にお ける記録内観導入へ の検討 テキストマ イニングにおける分 析を通して	共著	平成 28 年 2 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラ ム・抄録集 29 回 P.29	担当部分：質的解析 共同発表者：増田 安代, <u>上野 栄一</u> , 明神 一浩
287. 結核・抗酸菌感 染症感染教育はいか にすべきか、いかに あるべきか 看護師 教育	共著	平成 28 年 3 月	結核(0022-9776)91 巻 3 号 P.250	本シンポジウムでは、結核・抗酸菌感染症 感染教育はいかにすべきか、いかにあるべ きか「看護師教育」について講演発表をし た。これからの日本の医療は、少子高齢 化、そして 2025 年を見据えながら、医療 一介護を中心とした医療 体制となる。呼吸 器疾患は在宅でのケアが重要となり病 院と 地域との連携がますます重要となる。本調 査データ の解析から、抗酸菌症・感染症に 関する教育の実態につ いて明らかにし、今 後の看護師教育への提言をした。 担当部分：研究総括 共同発表者： <u>上野 栄一</u> 、石崎武志
288. 精神科病棟看護 師の精神障害者へ向 けた口腔ケア行動意 図尺度の開発	共著	平成 28 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)39 巻 3 号 P.134	担当部分：統計解析 共同発表者：西田 実紗子, <u>上野 栄一</u>
289. パートナーシッ プがケーススタディ 指導にもたらす効果 と課題	共著	平成 28 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)39 巻 3 号 P.151	担当部分：事例解析 共同発表者：坂中 善恵, 小山 直美, <u>上野 栄一</u>
290. A 病院におけ る、新生児看護を行 なう看護師の職務満 足度とストレス要因	共著	平成 28 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)39 巻 3 号 P.170	担当部分：事例解析 共同発表者：米谷 久恵, 村上 愛, 千葉 明 日香, <u>上野 栄一</u> , 明神 一浩
291. テキストマイニ ングを用いた救急隊 からのファーストコ ールの診断別キーワ ード分析	共著	平成 28 年 9 月	日本救急医学会雑 誌(0915-924X)27 巻 9 号 P.465	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：関口 浩至, 近藤 豊, <u>上野 栄一</u> , 久木田 一朗

292. 要支援高齢者の暮らしに関する研究の特徴 テキストマイニングの解析から	共著	平成 28 年 10 月	ヘルスカウンセリング学会学術大会・総会プログラムおよび講演抄録集 23 回 P. 39	担当部分：統計解析 共同発表者：成瀬 早苗, <u>上野 栄一</u>
293. リハビリテーション看護に役立つ手術室看護の要素	共著	平成 28 年 11 月	日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 28 回 P. 83	担当部分：解析 共同発表者：南 まゆみ, 小沼 ますみ, 酒田 外希子, <u>上野 栄一</u>
294. 世界における嗅覚障害看護の現状と展望 テキストマイニングによる定量的分析	共著	平成 28 年 11 月	日本看護科学学会学術集会講演集 36 回 P. 480	担当部分：結果と考察 共同発表者：松浦 純平, <u>上野 栄一</u>
295. 精神看護学実習における実習指導者の看護学生への指導活動において自己効力感を高める要因	共著	平成 29 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 30 回 P. 28	担当部分：解析 共同発表者：藤木 栄司, <u>上野 栄一</u>
296. 高齢慢性心不全患者の在宅療養における自己管理上の特徴 テキストマイニング手法により男女の言語分析を比較して	共著	平成 29 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 30 回 P. 32	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：藤田 三恵, 浅見 美千江, 原元子, 武田 陽子, <u>上野 栄一</u>
297. NICU 看護師のコンピテンシー尺度の開発	共著	平成 29 年 8 月	日本看護研究学会雑誌 (0285-9262) 40 巻 3 号 P. 367	NICU 看護師のコンピテンシー尺度の開発を目的とした。総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センターの NICU 看護師を対象とし、NICU 看護師に必要な成果に繋がる行動特性を文献検索とフォーカス・グループインタビューから、90 項目の質問紙原案を作成し、自記式郵送法による質問紙調査を実施した。併存妥当性は、達成動機測定尺度、看護師の職業的アイデンティティ尺度 (PISN)、看護実践能力自己評価尺度の 3 尺度を使用した。結果、因子分析（主因子法プロマックス回転）結果は、【母体外適応を促進するケア】、【生理学的適応を支える集中ケア】、【神経行動学的発達を助けるケア】、【家族の始まりを支えるファミリーセントードケア】、【NICU 看護師のアイデンティティの確立】の 5 因子 58 項目であった。累積寄与率は 53.40%、G-P 分析は 0.1%有

				意水準の 差を確認し、I-T 分析は全ての項目で有意な相関を示し、Cronbach の α 係数は 0.896～0.963 であった。併存妥当性は、「達成動機測定尺度」「看護師の職業的アイデンティティ 尺度」と因子 5 が最も相関を示した。 担当部分：統計解析 共同発表者：出口 文代，<u>上野 栄一</u>，上澤悦子
298. 『日本看護研究学会雑誌』に論文を掲載しよう！	共著	平成 29 年 9 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)40 巻 3 号 P.299	共同発表者：法橋 尚宏，竹田 恵子，<u>上野 栄一</u>
299. A 病院における新人看護師のリアリティ・ショックの構成因子	共著	平成 29 年 10 月	日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 29 回 P.94	担当部分：解析 共同発表者：前田 恵利，多喜 宏平，堀田 薫，岩井 美知代，藤川 揚子，<u>上野 栄一</u>
300. 省察の概念分析分析の目的と用法	共著	平成 29 年 12 月	日本看護科学学会学術集会講演集 37 回 P. [PA-40-6]	担当部分：解析と考察 共同発表者：加藤 真由美，泉 キヨ子，<u>上野 栄一</u>，鈴木 みずえ，正源寺 美穂
301. テキストマイニングによる看護系大学の初年次教育の傾向分析	共著	平成 30 年 7 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)41 巻 3 号 P.540	目的は、看護系大学のホームページに公開しているシラバス内容から初年次教育に該当する授業概要についてテキストマイニング手法を用いて初年次教育の傾向を明らかにする。方法は、データ収集は、日本看護系大学協議会に所属する会員校 265 校から、研究者らが無作為抽出した 150 校に限定し、公式 Web サイトよりホームページを閲覧した（2017 年 10 月現在）。次に 150 校から初年次教育に該当する科目の記載がみられた 102 校、128 科目の授業概要の記載内容を収集した。データ分析は、102 校、128 科目における授業概要に記載された内容を質的データ化し、KH Coder Ver. 2.00.f を用いて、テキストマイニング（形態素解析、単語頻度分析、共起 ネットワーク分析（ことばネットワーク））を実施した。結果、単語頻度及び共起ネットワーク分析の結果を基に初年次教育の傾向を勘案すると、学習の基本スタイルと学習のスキームの醸成であると考えられる。それは、名詞の「身」からは能動的に学修に取り組むことを念頭に置いた授業によって学習の基本スタイルを確立する意図があり、名詞の「力」からは情報収集を行い根拠のある内容を調べる力、論理的にまとめたレポートを作成する力、プレゼンテーション能力を養い自己表現や情報を的確に伝える力の 3 つを培う学習のスキームで構成している。このことは初年次教育においては、専門的

				な能力を構築するために不可欠な能力を示唆するものである。 担当部分：結果と考察 共同発表者：一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u>，境美砂子
302. 看護系大学生の初年次教育におけるアクティブラーニングの認識	共著	平成 30 年 8 月	日本看護研究学会 第 44 回学術集会 日本看護研究学会	担当部分：結果と考察 共同発表者：境 美砂子，一ノ山 隆司，岩城 敏之，<u>上野 栄一</u>
303. テキストマイニングによる看護系大学の初年次教育の傾向分析	共著	平成 30 年 8 月	日本看護研究学会 第 44 回学術集会	担当部分：結果と考察 共同発表者：一ノ山 隆司，<u>上野 栄一</u>，境 美砂子
304. 臓器提供施設 A 病院における人生の最終段階に係る看護師としての意識調査	共著	平成 30 年 10 月	第 54 回 日本移植学会総会	研究目的は人生の最終段階に係る看護師の意識を明らかにすることである。研究方法は、1) 質問紙書留法 2) 対象；A病院看護師 132 人 3) χ^2 検定にて有意確率を $p < 0.05$ とした。自由記載に対しては共起ネットワーク分析、対応分析を行った。結果：L 事前指示書の作成の賛否は、看護師のラダーレベルが高くなるにつれ有意に反対が高くなっていた。また自らが交通事故により心肺停止になり、あらゆる治療を行なっているが、効果なく死に至る場合、レベルが高くなるにつれ有意に現在の治療を望まないと答えた。 2. 共起ネットワーク分析において、臨床の場面では、患者の病状や患者や家族の意思より DNAR を含めた事前確認の必要性を考えるが、実際には対応に困り苦慮する場面に遭遇している。結果、A病院における先行研究では ICU/HCU 入院患者の意思確認書記載者 95.2%が家族であり治方針の希望は、家族の意思や意向が大きく反映しているとされた。今研究においてA看護師は急変時の病状説明では、患者や家族の意向を引き出す事や情報を提供し話し合いの場を設けていないと考えている。家族を含めたトータルの対応困難、医師対応などに不安があった。今後は終末期医療の意思決定プロセスに関するガイドラインの周知と活用を行う。看護ケアの中で患者・家族との良好な関係を保ちながら決定支援を行う存在であることを認識する必要がある、臓器提供施設の看護師の役割を果たす能力の向上が示唆される。 担当部分：解析 共同発表者：中田 美智代，一ノ山 拓也，八牧 佑美，<u>上野 栄一</u>

305. 臓器提供施設 A 病院における人生の最終段階に係る看護師としての意識調査	共著	平成 30 年 10 月	第 54 回 日本移植学会総会	担当部分：解析と考察 共同発表者：中田 美智代，一ノ山 拓也，八牧 佑美， <u>上野 栄一</u>
306. 看護師の臨床判断における転倒につながる「ふらつき」の言語化	共著	平成 30 年 12 月	日本看護科学学会学術集会講演集 38 回 P. [P2-8-45]	担当部分：解析と考察 共同発表者：加藤 真由美，泉 キヨ子，鈴木 みずえ， <u>上野 栄一</u> ，正源寺 美穂
307. 看護師の臨床判断における転倒につながる「ふらつき」の言語化	共著	平成 30 年 12 月	第 38 回日本看護科学学会学術集会 日本看護科学学会	担当部分：結果と考察 共同発表者：加藤 真由美，泉 キヨ子，鈴木 みずえ， <u>上野 栄一</u> ，正源寺 美穂
308. 臓器提供施設 A 病院における人生の最終段階に係る看護師としての意識調査	共著	平成 31 年 3 月	移植(0578-7947)53 巻総会臨時 P. 469	担当部分：分析と考察 共同発表者：中田 美智代，一ノ山 拓也，八牧 佑美， <u>上野 栄一</u>
309. 看護研究をイノベーションするテキストマイニング	単著	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 32 回 P. 25 平成 31 年 3 月	(単独) 上野 栄一
310. テキストマイニングによる一次救命処置に関する看護の研究に関する動向と課題	共著	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 32 回 P. 40	担当部分：結果と考察 共同発表者：松浦 純平，守本 とも子， <u>上野 栄一</u>
311. 新人教育プログラムにおける研究の特徴について	共著	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 32 回 P. 42	担当部分：結果と考察 共同発表者：藤本 ひとみ，上野 栄一，清水 由加里
312. 精神科病棟看護師の精神障害者へ向けた口腔ケア行動意図尺度の開発	共著	2018 年 9 月	日本看護研究学会雑誌(0285-9262)41 巻 4 号 Page665-674	【目的】本研究の目的は、精神科病棟看護師の精神障害者へ向けた口腔ケア行動意図尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することである。【方法】精神科病棟看護師の精神障害者へ向けた口腔ケア行動意図尺度施策案は、質問 72 項目のリッカートスケールとした。対象者 363 名に質問紙法で実施した。【結果】主因子法プロマックス回転にて因子分析を実施し、第 1 因子は【社会性獲得へむけた教育】、第 2 因子は【援助的関係に

				基づく口腔疾病予防】、第 3 因子は【継続的ケア遂行のための柔軟な対応】、第 4 因子は【相互の安全確保】と命名し、4 因子、42 項目が抽出された。信頼性は Cronbach の α 係数。967 であり、内的整合性が確認できた。 【結論】本尺度は、精神科病棟看護師が入院中の精神障害者に向けて口腔ケアを実施する際の行動意図を自己評価できる尺度であり、質向上のための基礎資料となる。 担当部分：結果と考察 共同発表者： 藤本 ひとみ, <u>上野 栄一</u>, 清水 由加里
313. トラウマに関する研究の特徴 テキストマイニングの分析から	共著	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集 32 回 P. 44	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：<u>上野 栄一</u>, 藤本 ひとみ, 松浦 純平
314. 看護研究をイノベーションするテキストマイニング	単著	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会第 32 回近畿・北陸地方会学術集会	(単独) <u>上野 栄一</u>
315. トラウマに関する研究の特徴 テキストマイニングの分析から	共著	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会第 32 回近畿・北陸地方会学術集会	担当部分：研究総括 共同発表者：<u>上野 栄一</u>, 藤本 ひとみ, 松浦 純平
316. 乳がん術後創部管理の患者指導の統一に向けたパンフレットの導入	共著	2021.08	日本看護学会論文集：急性期看護・慢性期看護 51 回 Page52-55 (2021. 08)	乳癌術後患者の創部管理の退院指導に、新たに作成したパンフレットを導入し、その効果を、当該患者 17 名へパンフレットを用いて指導を行った看護師 13 名へのアンケート調査から検討した。その結果、パンフレットの導入により、看護師は経験年数などに関係なく、創部の管理について統一した指導ができ、患者も退院後の創部の管理について理解できていた。一方、指導を受けた患者より、パンフレットに記載された以外の創部の異変や処置、ケア方法、バストバンドについて複数の質問があり、在宅でも安心して創部の管理を行えるよう、患者の年齢なども考慮した個別性のある指導が必要と考えられた。 担当部分：データ解析 共同発表者： 矢木 沙織, 茶谷 香織, 竹森 まなみ, <u>上野 栄一</u>

317. テキストマイニングによる看護系大学の初年次教育の傾向分析	共著	令和 1 年 7 月	日本看護研究学会 雑誌(0285-9262)42 巻 3 号 P.542	本人担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：一ノ山 隆司, 境 美砂子, <u>上野 栄一</u>
318. 精神看護学実習における TIC を意識したかわりへの学びの過程の解明	共著	令和 1 年 8 月	日本看護研究学会 第 45 回学術集会 日本看護研究学会	担当部分：質的解析 共同発表者：山元 恵子, 川野 雅資, <u>上野 栄一</u>
319. 過去・現在から未来へつなげる看護技術 可視化のイノベーション	単 著	令和 1 年 8 月	日本看護技術学会 学術集会講演抄録 集 18 回 P.38	(単独) <u>上野 栄一</u>
320. ハンドマッサージ施行中の脳波と感情の特徴について	共著	令和 1 年 8 月	日本看護技術学会 学術集会講演抄録 集 18 回 P.58	本人担当部分：研究計画と統計解析 共同研究者： <u>上野 栄一</u> , 四谷 淳子, 出口 洋二, 室谷 良子
321.1 時間年休を獲得する取り組みを実施して	共著	令和 1 年 8 月	日本看護技術学会 学術集会講演抄録 集 18 回 P.118	本人担当部分：統計解析 共同発表者：井上 美穂, 砂原 奈緒, 鶴谷 彩佳, <u>上野 栄一</u>
322. 病棟ローテーションを導入した後の新人看護師の看護技術の習得状況の変化	共著	令和 1 年 8 月	日本看護技術学会 学術集会講演抄録 集 18 回 P.120	担当部分：解析、結果記載 共同発表者：浜野 陽子, <u>上野 栄一</u>
323. テキストマイニングによる看護系大学の初年次教育の傾向分析	共著	令和 1 年 8 月	第 45 回日本看護研究学会学術集会 日本看護研究学会	担当部分：考察 共同発表者：一ノ山 隆司, 境 美砂子, <u>上野 栄一</u>
324. 推奨プロトコルを用いた定期的な評価と口腔ケアの効果	共著	令和 1 年 10 月	日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 31 回 P.106	本人担当部分：解析と考察 共同発表者：森 聖太郎, 水上 灯, 森江 楓, 滝下 杏奈, 濱屋 宏衣, 水野 里紗, 河 浦 恭子, <u>上野 栄一</u>
325. 重症心身障がい児の統一した食事介助方法に向けた取り組み A 病院こども棟における摂食情報調査票作成	共著	令和 1 年 11 月	日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 31 回 P.108	本人担当部分：統計解析 共同発表者：多喜 宏平, 河邊 麻衣子, 田 村 可南子, 河原 孝子, <u>上野 栄一</u>

326. 滅菌材料部における品質管理と滅菌バリデーションの現状	共著	令和 1 年 11 月	医療の質・安全学会誌(1881-3658)14 巻 Suppl. P. 397	担当部分：解析と考察 共同研究者：石本 洋子， <u>上野 栄一</u>
327. 経験の浅い看護師を対象にした転倒予防のための臨床判断力育成に係る省察の仮説モデル	共著	令和 1 年 11 月	日本看護科学学会 学術集会講演集 39 回 P. [PA-4-20]	担当部分：質的解析と考察 共同発表者：加藤 真由美，泉 キヨ子，鈴木 みずえ， <u>上野 栄一</u> ，正源寺 美穂
328. 看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴 テキストマイニングによる分析から	共著	令和 2 年 3 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 33 回.P. 46	担当部分：自然言語処理 共同発表者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，溝口 みちる，田場 真理，杉島 優子
329. テキストマイニングを用いたせん妄と PICS に関する研究動向の分析	共著	令和 2 年 9 月	日本看護研究学会 雑誌 43 巻 3 号,P. 468	担当部分：テキストマイニング解析 共同発表者：松浦 純平，溝口 みちる，植 木 奈美枝，守本 とも子， <u>上野 栄一</u>
330. 看護における AI (人工知能) に関する研究の現状と展望 テキストマイニングを用いた分析	共著	2020. 03	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 33 回 Page47	担当部分：考察 共同研究者：松浦 純平，溝口 みちる，田 場 真理， <u>上野 栄一</u>
331. 新人看護師への転倒予防のための臨床判断と省察の支援に関する指導者の状況	共著	令和 2 年 9 月	日本転倒予防学会 誌 7 巻 2 号, P. 0050	担当部分：質的解析と考察 共同発表者：加藤 真由美，泉 キヨ子，鈴木 みずえ， <u>上野 栄一</u> ，正源寺 美穂，飯田 倫佳
332. テキストマイニングを用いた看護系大学生が考える CPR 実施上の困難感(第一報)	共著		日本看護科学学会 学術集会講演集 40 回 Page P2- 012(2020. 12)	担当部分：解析と考察 共同研究者：松浦 純平，田場 真理，溝口 みちる，守本 とも子， <u>上野 栄一</u>
333. 転倒予防に係る省察、臨床判断力、身体拘束についての意識	共著	2020. 12	日本看護科学学会 学術集会講演集 40 回 Page P2-077	担当部分：質的解析と考察 共同研究者：加藤 真由美， <u>上野 栄一</u> ，鈴木 みずえ，泉キヨ子，正源寺 美穂，飯田倫 佳

334. 自己導尿に関する YouTube 動画の検討 患者作成動画と企業作成動画のテキストマイニング分析による比較	共著	2021. 09	日本排尿機能学会誌 (1347-6513)32、巻 1 号 Page239	担当部分：テキストマイニング解析 共同研究者：佐藤 理乃，西井 久枝，若松 ひろ子， <u>上野 栄一</u> ，中村 みどり，青木 芳隆，鈴木 基文
335. 乳がん術後創部管理の患者指導の統一に向けたパンフレットの導入	共著	2021. 08	日本看護学会論文集：急性期看護・慢性期看護 51 回 Page52-55	乳癌術後患者の創部管理の退院指導に、新たに作成したパンフレットを導入し、その効果を、当該患者 17 名へパンフレットを用いて指導を行った看護師 13 名へのアンケート調査から検討した。その結果、パンフレットの導入により、看護師は経験年数などに関係なく、創部の管理について統一した指導ができ、患者も退院後の創部の管理について理解できていた。一方、指導を受けた患者より、パンフレットに記載された以外の創部の異変や処置、ケア方法、バストバンドについて複数の質問があり、在宅でも安心して創部の管理を行えるよう、患者の年齢なども考慮した個性のある指導が必要と考えられた。 担当部分：解析と考察 共同発表者：矢木 沙織，茶谷香織，竹森まなみ， <u>上野 栄一</u>
336. 定時制看護専門学校教員の組織コミットメントとその関連要因(原著論文)	共著	2021. 08	日本看護学会論文集：看護管理・看護教育 51 回 Page88-91	厚生労働省は『今後の看護教員のあり方に関する検討会報告書概要』で、看護教員の資質の維持・向上に向けて「看護教員の継続教育」を掲げている。看護教員の継続教育を実現するためには、看護教員が就業を継続することが必要であり、看護教員の就業継続意向を高めることが必要である。今回、組織コミットメントを就業継続意向の重要な関連要因と捉え、全国の定時制看護師専門学校に所属する看護教員を対象に、組織コミットメントとその関連要因について検討した。結果、組織コミットメントに関連する因子として「上司の支え」「成長の実感」「業務の負担」「情緒的消耗感」などが抽出された。 担当部分：解析と考察 共同研究者：矢木 沙織，茶谷香織，竹森まなみ， <u>上野 栄一</u>
337. 自己導尿に関する YouTube 動画の検討 患者作成動画コメント欄のテキストマイニング分析	共著	2021. 09	<u>日本排尿機能学会誌</u> 1 号 Page239	担当部分：テキストマイニング解析 共同研究者：若松 ひろ子，西井 久枝，佐藤 理乃， <u>上野 栄一</u> ，中村 みどり，青木 芳隆，鈴木 基文

338. 保健医療福祉研究におけるテキストマイニングの活用 保健医療福祉研究におけるテキストマイニングの活用	共著	令和 3 年 2021 年	日本在宅ケア学会誌 24 巻 2 号 Page22-30	(単独) <u>上野栄一</u>
339. 看護過程におけるアセスメントに関する研究	共著	令和 3 年 2021 年	日本看護研究学会近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 34 回 Page24	役割分担：研究総括 共同研究者： <u>上野 栄一</u> ，松浦 純平，田場 真理，溝口みちる，守本 とも子
340. A 看護系大学生の CPR(心肺蘇生法)教育に関する意識調査	共著	2021. 03	日本看護研究学会近畿・北陸地方会 学術集会プログラム・抄録集 34 回 Page22	担当部分：結果考察 共同研究者：松浦 純平，田場 真理，溝口 みちる，守本 とも子， <u>上野 栄一</u>
341. トラウマに関する看護研究の特徴ーテキストマイニングによる解析ー	共著		第 28 回日本看護 診断学会学術大会 cum the 5th Sigma Asia Region Conference 2022 年 7 月 16 日 (土) ～8 月 23 日 オンデマンド配信	本研究では、トラウマに関する文献検討から、トラウマの研究の特徴を明らかにし、今後のケアの方向性について検討した。方法は中央雑誌ウェブ版(2022 年 4 月 10 日現在)(2017 年3 月～2022 年 1 月)を用いた。検索はトラウマ、看護、原著論文、本文有とした。結果、72 件抽出され本研究対象とした。テキストマイニング(KHCoder 使用)により、タイトルと抄録内容について共起分析、コロケーション解析、対応 分析を行い、トラウマ研究の特徴をみた。トラウマの研究では、様々な事象で発生するトラウマに対する治療、支援、実態に関する研究が行われていた。重要と有効のコロケーション解析では、重要では、患者、家族へのケアの重要性があげられ、有効では症状に対する様々な対処戦略に有効性について検討されていた。トラウマは様々な要因が複雑に絡みあっている。人それぞれによってトラウマのとらえ方はことになっており、NANDA-I の示すトラウマに関する看護診断名は、領域 9 コーピング/ストレス耐性の類 1 トラウマ後反応に「心的外 傷後シンドローム」「心的外傷後シンドロームリスク状態」等がある。診断指標やハイリスク群には多くの項目があり、最近では TIC(Trauma Informed Care)が海外より導入されており、今後、トラウマの理解、トラウマインフォームドケアの実践に必要な要素を熟慮しながらのケアが重要になり、またケアの評価が必要になると推察する。 担当部分：結果、考察 共同研究者： <u>上野 栄一</u> 、西出 順子、山崎 陸世、高田勝子

342. 回復期リハビリテーション病棟における看護師の多職種連携を強化する要因と今後の課題	共著	令和3年 11月	日本リハビリテーション看護学会学術大会集録 33 回 Page58 (2021. 11)	担当部分：データ解析 共同研究者：川村 麻友(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター こども支援センター看護部), 田近 夏姫, 中田 詠子, 河浦 恭子, 上野 栄一
343. 看護学生のコミュニケーション能力と共感性との関係	共著	令和3年 9月	日本看護技術学会学術集会講演抄録集 19 回 Page63 (2021. 09)	担当部分：結果考察 共同研究者：上野栄一, 西村 高宏, 北出順子, 藤本 ひとみ
344. 高次脳機能障害のある患者への対応困難場面における看護師の思い	共著	令和3年 9月	日本脳神経看護研究学会会誌 (1348-3072) 44 巻 1 号 Page20 (2021. 09)	担当部分：結果考察 共同研究者： ・横山 楓樹(富山県リハビリテーション病院・こども支援センター), 花岡 璃子, 渡邊 絵理子, 河浦 恭子, 上野 栄一
345. テキストマイニングによる看護系大学生が考える CPR 実施を阻害する理由 (第2報) 要因の具体的内容	共著	令和2年 12月	日本看護科学学会学術集会講演集 40 回 Page P12-003 (2020. 12)	担当部分：結果考察 共同研究者：田場 真理、松浦 純平、溝口みちる、守本 とも子、上野 栄一
346. 入院患者の予防的スキンケアの標準化への取り組み	共著	11月8日、9日	日本看護学会学術集会	本研究では入院患者の予防的スキンケアの標準化への取り組みについて報告する。 対象：A 病院 B 病棟で勤務する看護師 22 名 方法：スキンケアの知識と介入状況の把握を目的としたアンケート調査実施した。 結果、1) ドライスキンの原因やケア方法、保湿剤の特性についての正しい知識が不足していた、2) フローチャートやパンフレットを使用した勉強会を実施したことで、対象者のスキンケアや保湿剤の知識が向上した。また、予防的スキンケアの勉強会を行うことで対象者の意識が高まり、スキンケア知識の向上と早期からのスキンケア介入に繋がったと考える。さらに、フローチャートとパンフレットは予防的スキンケアの標準化の一助となり、活用を継続することで患者の皮膚状態の改善に繋がると予測する。 担当部分：結果、考察
				共同研究者：柳瀬奈津子、柳澤菜々、坂本絵梨香、横山亜莉沙、土井早希子、上野栄一

347. B 病棟の退院遅延の要因分析—看護師の退院調整に関する意識付けと円滑な退院調整に向けて—	共著	2022 年	富山県看護学会 2022 年	本研究の目的は、B 病棟の退院遅延の要因分析とした。対象は、A 病院 B 病棟のクリニカルラダーレベル I - IV の看護師計 10 名。本研究では内容分析に基づいた質的帰納的研究デザインとした。結果、1) B 病棟の退院遅延の要因は、【知識・経験の未熟さ】【他職種との連携の弱さ】【患者・家族の意思決定支援不足】であった。2) 退院調整についての意識改革、院内研修などを利用し看護師のさらなる知識の向上に努めることが必要である。3) 他職種との連携は不可欠であり、患者・家族が望む生活のためにどのような支援が必要か話し合いイメージを共有あしながら退院後の療養先について具体的に意思決定を支援することが重要であることが明らかとなった。 担当部分： 解析 共同研究者： 町野麻美、水上明子、朝岡悠、<u>上野栄一</u>
348. 新型コロナウイルス感染症患者入院病床での卒後 3 年目看護師のストレスマネジメントについて	共著	令和 5 年 12 月	第 3 群 —1 完全オンデマンド 学会 配信期間：令和 5 年 12 月 1 日～令和 5 年 12 月 27 日	A 病院では新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れており、新たにコロナ感染症患者入院病床が編成された。研究目的は、卒後 3 年目のコロナ病床で勤務経験のある看護師のストレスマネジメントについて明らかにする。研究デザインは、質的記述的研究、結果、コロナ病床で勤務経験のある卒後 3 年目の看護師は、異動前から【異動前から出来る準備】をし【自分の大切な人への感染リスクの軽減】を行うことでストレスマネジメントを行っていた。異動後は【大切な人との会話で気持ちが楽になる】、【仕事以外の時間でのリフレッシュ】によってストレスマネジメントを行い、【強みを生かした業務への対応】に繋がっていた。 担当部分： 質的分析 共著者：菊地彩夏、中橋里奈、館山亜夫、浅生来夢、大江美由紀、<u>上野栄一</u>

349. A 病院看護師のコロナ禍における手荒れの現状とハンドケアの実態調査	共著	令和 5 年 12 月	第 3-3 完全オンデマンド 学会 配信期間：令和 5 年 12 月 1 日～令和 5 年 12 月 27 日	2021 年現在、世界各国では COVID-19 の新規陽性者数が増加の一途をたどっている。2020 年 1 月に日本国内初の COVID-19 陽性者が確認されて以降、A 病院では新型コロナウイルス流行下において手指消毒の取り組みが強化されている。研究目的は、A 病院看護師のコロナ禍における手荒れの現状とハンドケアの実態を明らかにする。 研究デザインは質問紙調査法による実態調査型研究。調査対象は、A 病院で病棟勤務している新型コロナウイルス流行前後の臨床経験のある入職 3 年目以上の看護師 100 名とした。結果、研究対象者の手荒れの要因となる生活環境について水を使用する家事を主に誰が行うかの問いに対し、担当する者が主に「自分」と回答した割合が最も高い結果となった。日常生活において、手荒れの発生に繋がる環境下にあると考える。 1) 手荒れに対する認識について 新型コロナウイルス流行前と比較し手荒れがひどくなった割合は 46.8%と約半数となっている。 担当部分：解析と結果 共著者：高口哲也、境春香、久野友子、志鷹もも、森友里花、尾島めぐみ、<u>上野栄一</u>
350. 深夜入り看護師が年休 1 時間取得するための病棟スタッフの意識と工夫	共著	令和 5 年 12 月	第 4-3 完全オンデマンド 学会 配信期間：令和 5 年 12 月 1 日～令和 5 年 12 月 27 日	A 病院では平成 27 年度より、深夜入りの看護師が日勤勤務で 1 時間早く帰る取り組みである「かえるプロジェクト」を実施している。本研究の目的は、各病棟の主任以上の看護師がかえるプロジェクト取得のために行っている工夫や意識を明らかにする。 質的研究デザイン（因子探索型研究） 研究対象者：A 病院におけるリーダー業務を行う主任以上の看護師 8 名インタビューを実施した。結果、プロジェクトに対する意識と工夫についてカテゴリーは 5 項目に分類され、【帰りやすい環境づくり】、【ペア間での工夫】、【リーダー業務における配慮】、【心

				身の負担の軽減】、【ペアへの配慮】【かえるプロジェクトの必要性】に分類された。 リーダー業務を行う主任以上の看護師は、「かえるプロジェクトの必要性」と「心身の負担の軽減」を重視し、「リーダー業務における配慮」や「帰りやすい環境づくり」を主体的に行い、かえるプロジェクトに取り組んでいた。また、スタッフの一員として「ペア間での工夫」や「ペアへの配慮」を行い、かえるプロジェクトの活用にはPNSの効果的な運用が必要であった。 担当部分：質的分析 共著者：志鷹彩華、竹谷真夕、平木美穂、藤田帆南、谷井遥希、増村沙和、吉川佑希、<u>上野栄一</u>
351. 慢性腎不全患者が自己効力感をもって運動療法に取り組むための関わり方	共著	令和5年12月	第2群-7	A病棟では慢性腎不全患者の教育入院を受け入れており、腎臓の仕組み・食事指導・内服や検査などの知識提供を行っているが、運動療法は重点的に指導していなかった。目的は慢性腎不全患者が自己効力感をもって運動療法に取り組むための関わり方を明らかにする。方法：1. 研究デザイン 質的帰納的研、2. 研究対象 研究期間中にA病棟に慢性腎不全の教育目的で入院し、主治医から運動療法実施の許可があり同意が得られた患者4名とした。W氏は慢性腎不全の診断を受け管理職を担う40代の男性である。4名の対象者へ運動療法後にインタビューした結果、【運動後に感じた効果】 【運動継続に対する消極的思考と他者のサポート】【運動継続に対する積極的思考】の3つのカテゴリーが抽出された。1. 運動の効果を実感してもらうために、爽快感を感じられる程度の運動を提案する。2. 患者が運動療法に取り組むことをサポートし、評価していることを伝える。3. 患者の生活背景を把握し、話し合いのなかで具体的な運動計画を一緒に考える。 担当部分：質的分析 共著者：藤野日香莉、金井優那、竹田睦、<u>上野栄一</u>

352. 新型コロナウイルス感染症患者入院病床での卒後 3 年目看護師のストレスマネジメントについて	共著	令和 5 年 12 月	第 32 回富山県看護研究学会 第 3-1	A 病院では新型コロナウイルス感染の拡大に伴い、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れており、新たにコロナ感染症患者入院病床（以下コロナ病床）が編成された。今回コロナ感染者も増え、卒後 3 年目でコロナ病床へ異動した看護師や、急遽病棟異動となった看護師も少なくない。目的は、卒後 3 年目のコロナ病床で勤務経験のある看護師のストレスマネジメントについて明らかにする。研究方法：研究デザイン：質的記述的研究。A 病院のコロナ病床で勤務したことのある卒後 3 年目看護師（6 名）を対象とした。結果、コロナ病床で勤務経験のある卒後 3 年目の看護師は、異動前から【異動前から出来る準備】をし【自分の大切な人への感染リスクの軽減】を行うことでストレスマネジメントを行っていた。異動後は【大切な人との会話で気持ちが楽になる】、【仕事以外の時間でのリフレッシュ】によってストレスマネジメントを行い、【強みを生かした業務への対応】に繋がっていた。 担当部分：質的分析 共著者：菊地彩夏 中橋里奈 館山亜夫 浅生来夢、大江美由紀、<u>上野栄一</u>
353. B 病棟の退院遅延の要因分析 「看護師の退院調整に関する意識付けと円滑な退院調整に向けて」	共著	2022 年 12 月 3 日	第 32 回富山県看護研究学会 第 4 群-5	C 市の高齢化率は年々増加傾向にあり、全国平均より高く（2020 年 30. 3%、全国平均 28. 9%）2045 年までには 37. 0%に達し、およそ 10 人に 4 人が高齢者になると見込まれている。医療スタッフは退院支援・調整に関して高い意識や知識を持ち他職種間での連携を密にし、患者・家族に対し質の高い支援が求められている。A 病院は急性期病院であり、A 病院の退院スクリーニングシートに該当する患者には、医師とのカンファレンスや他職種との退院計画カンファレンスで情報共有し、患者・家族の希望に沿った在宅支援や療養先への退院調整の介入を行っている。研究目的は B 病棟の退院遅延の要因について明らかにし、今後の課題を明確にする。看護師の退院調整に対する意識や知識の向上、円滑な退院調整の実施を目指す。調査対象は A 病院 B 病棟のクリニカルラダーレベル I -IV の看護師計 10 名とした。本研究では内容分析に基づいた質的帰納的研究デザインとした。

				結果、1. 病棟の退院遅延の要因は、【藤験の未熟さ】鵬種との連携の弱さ】舶・家族の意母決定支援不足】であった。2. 退院調配についての意識改革、院内研修などを利用し看護師のさらなる知識の向上に努めることが必要である。3. 他職種との連携は不可欠であり患者・家族が望む生活のためにどのような支援が必要か話し合いイメージを共有しながら退院後の療養先について具体的に意思決定を支援することが重要である。 担当部分：質的分析 共著者：町野麻美、水上明子、朝岡悠、<u>上野栄一</u>
354. 新型コロナウイルス感染症下でのメンタルヘルスの研究の特徴	共著	(2024.03)	日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集37回、P39	本研究では新型コロナウイルス感染症下でのメンタルヘルスの研究の特徴を明らかにすることを目的とした。医学中央雑誌 Web 版にて、キーワード「新型コロナウイルス、メンタルヘルスを設定し、検索した結果(2023 年 12 月 14 日)、70 件検索され、本文のある 63 件の抄録を分析した。結果、単語頻度解析では、「感染」は「対象」「新型」「コロナ」「ウイルス」と関連しており、新型コロナウイルスは当初、未知のウイルスとされており、新型コロナウイルス感染に対して多くの調査が行われていた。また、不安に関する記述が多く「COVID19」と「メンタル」「ヘルス」の関連性は高いことが示され、今後のさらなるメンタルヘルスの必要性が示唆されていた。厚生労働省(2023)は今後「「体調不安や症状があるときは自宅で療養するか医療機関を受診すること」と見解を述べており、より具体的な対策が今後急務である。 担当部分：質的（テキストマイニング）分析 共著者：<u>上野 栄一</u>, 蓮池 光人, 西出 順子

355. 計量テキスト分析を用いたアメリカ心臓協会一次救命処置ガイドライン看護過程のアセスメントとしての看護診断のキーワード分析	共著	2024 年 4 月	日本臨床救急医学会雑誌 27 (1), 40-47, 2024-02-29	アメリカ心臓協会 (AHA) の一次救命処置 (BLS) は新しい蘇生に関する科学的エビデンスを加え更新されてきた。本研究の目的は AHA-BLS ヘルスケアプロバイダーマニュアル 2000 年, 2005 年, 2010 年, 2015 年版を, 計量テキスト分析ソフトウェア (KH-coder) で分析し, ガイドライン更新に伴うキーワードの変化を明らかにすることである。方法: AHA-BLS 日本語版ヘルスケアプロバイダーマニュアルを, KH-coder を用いて単語出現頻度, 共起ネットワーク, 対応分析を行った。結果: 単語出現頻度では上位 20 位の抽出語がリストアップされ, 共起ネットワークでは 8 つのトピックスが抽出された。対応分析では 2000 年で心停止のリスク因子・FBAO・心臓マッサージ, 2005 年では心臓発作の因子, 2010 年では補助呼吸・死戦期呼吸・CPR の手順, 2015 年ではチームというキーワードが抽出された。すべてに共通したキーワードは CPR であった。 担当部分: 質的分析 共著者: 関口 浩至, 仲間 敏春, 佐藤 彩, 嶺井 陽, 近藤 豊, 福田 龍将, <u>上野 栄一</u>, 梅村 武寛, 久木田 一朗
356. 精神疾患を患う母親をもつ子どもの思いに関する国内文献の検討	共著	2024年8月	日本看護研究学会第50回学術集会、奈良	研究目的 本研究は、精神疾患を患う母親をもつ子どもの思いに関して国内文献検討をおこない、今後の研究に示唆を得ることを目的とする。 抽出文献における子どもの思いは、〈自身の体調や成長発達に関する困難〉など【日常生活における何かしらの支障】、〈他者からの非難〉など【健康な親をもつ同世代とは異なる他者との関係性】、〈親へのケアを実施〉など【病気の親への対応に関する苦悩】、〈生きることへの苦悩〉など【病気をもつ親との生活に対する否定感】の4つのカテゴリーと13のサブカテゴリーが生成された。精神疾患を患う母親をもつ子どもの思いに関する研究は、研究論文数が2編であったことが明らかになった。今後は、倫理的配慮を行った上、精神疾患を患う母親をもつ子どもの、発達段階別などによる思いの違いなど、明らかにする必要がある。 担当部分: 文献抽出 共同研究者: 小池伝一、蓮池光人、西出順子文子、林先生、村川圓美、<u>上野 栄一</u>

(その他) 1. 看護にコンピューターを生かそう	単著	平成 7 年 11 月	Quality Nursing、1(11), p63, 文光堂	コンピューターと看護との接点について、看護教育、看護研究の視点からその利用方法およびコンピューターの必要性とその応用方法について述べた。 単独：上野栄一
2. 看護と現象学	単著	平成 7 年 6 月	Quality Nursing 2(6), p60, 文光堂	日常のケアのなかで、現象とは何かについて説明し、看護の場面においてどのように現象学を取り入れるのかについて、事例を通して説明し、その方法および有用性について簡潔に述べた。 単独：上野栄一
3. Stat View:効果的なプレゼンテーションの必要性-多変量解析, 学会発表用のプレゼンテーション用のグラフ作成を行う-	単著	平成 9 年 12 月	日経サイエンス、2(12), p6, 日本経済新聞社	Stat View 統計ソフトの医学領域における有用性と性能について、基本的統計処理からプレゼンテーション用のグラフ作成の必要性について説明した。 単独：上野栄一
4. Case Study With Stat View-医療の分野における Stat View の活用事例	単著	平成 10 年 2 月	医療とコンピュータ、9(2), 111-123	医療とコンピュータの接点から、看護と統計学との接点について述べ、医療の分野で扱うデータの特長性について説明した。また、基本的統計処理、多変量解析の解説のみならずグラフの作成やプレゼンテーションまでを、医学や看護分野の具体的事例を通してビジュアルに解説した。 単独：上野栄一
5. 北海道看護協会 上川南支部平成 13 年度年頭挨拶	単著	平成 13 年 2 月	北海道看護協会 上川南支部機関紙「大雪」	北海道看護協会 上川南支部における活動内容と抱負を、組織の強化、地域との連携との観点から述べ、平成 13 年度の活動内容について述べた。 (単独) 上野栄一
6. 秋の夜の院内コンサート	単著	平成 14 年 2 月	Quality Nursing、文光堂	旭川市内で行われた藤原真理チェリストによる院内コンサートを患者の視点からレポートした。当日は 150 人もの患者、家族が集い、1 時間程のコンサートが病院玄関ホールで開催された。患者、家族からは 1 曲ごとに大きな拍手が送られた。 (単独) 上野栄一
7. 北海道看護協会 上川南支部平成 14 年度年頭挨拶	共著	平成 14 年 2 月	北海道看護協会 上川南支部機関紙「大雪」	北海道看護協会平成 14 年度の上川南支部における活動内容と抱負を、組織の強化、地域との連携との観点から述べ、平成 14 年度の活動内容について述べた。 発行・編集代表：上野栄一
8. 平成 14 年度医学部看護学科臨地看護学実習ガイドライン	共著	平成 14 年 3 月	旭川医科大学医学部看護学科、第一版	全国大学協議会での報告書を元に、大学教育における臨地看護学実習における到達目標を学年毎に決めて詳細な実習上での指導上の指針とした。 共著者：松浦和代、上野栄一、北村久美子、新開淑子、野村紀子

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。

- 3 「研究業績等に関する事項」には，書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
 - 4 「氏名」の欄の「印」は，本人の署名をもって代えることができること。
-

教 育 研 究 業 績 書		
令和 7 年 5 月 1 日		
氏名 岩本 淳子		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学・保健学・疫学	臨床看護、看護教育、看護管理、保健管理学研究、生活環境、病室環境、病床の明るさ、サーカディアンリズム、病院内転倒、在院日数、入院医療費、ヘルスプロモーション、健康教育	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
・ 論理的思考能力の育成を目指した学習指導方法の活用	昭和63年4月～ ～令和3年まで毎年更新	ことばが持つ意味や内容をこれまでに学生が形成していた言語一経験の重層構造に組み入れ、すでに解釈している枠を超えて新たな内容を理解できるように支援したところ、授業評価アンケートでは、「わかりやすい」「すっきりと繋がった」「意味が理解できたことによって対象者のみかた、範囲、判断の指標が明確になった」「個人の病い体験を看護の視点からみる意味が明確になった」「自己の思考活動の成長によって学習成果に対する満足感が得られた」という学習効果が得られた。
・ 考える基盤を形成するための教授活動	平成3年4月～ ～令和3年まで毎年更新	問題を設定し論議するための枠組みとして、概念や理論を必要に応じて紹介し、実践の場で活用できるように事例をふんだんに使って、問題を解決する実践的知識・技術の修得を支援した。特に統合するプロセスを丁寧にたどれるよう支援した。 授業評価アンケートでは「全体を見失わずに部分を検討することができた」「部分から全体、全体から部分へと行き来する思考過程をたどることができた」という意見が記されていた。これは、これまでの学習経験に新たな学習の構造が加わり、内容の広がりや深化していく前提の枠組みを形成したことを示唆するものである。
・ 講義内容の提示	平成7年4月～ ～令和3年まで毎年更新	講義内容はシラバスに分かりやすい言葉で示し、時事を反映して毎年更新している。
・ 専門職業人としての職業的自律性を支援する教授活動	平成7年4月～ ～令和3年まで毎年更新	入学時より学生の社会的・職業的自律を図るために必要なキャリアガイダンスを行っている。具体的には授業科目の選択等の履修指導や相談、その他の助言、情報提供を学生個々の希望に応じて行っている。また、臨地実習では、専門家としてのイニシアチブをとり、対象者の擁護、権利を尊重し、対象者の希望を実現するケアとは何かをディスカッションできる機会を設けている。最も対象者の近くにいる看護職は、対象者のニーズアセスメントと状況への対応能力を備える責任を持つと学生は理解した。
・ 授業前後の学習課題の提示	平成7年5月～ ～令和3年まで毎年更新	1回の授業前に事前・事後学習課題を提示し、教育内容は配布資料でも入手できるようにしている。対面授業のほとんどは対話中心の授業を行う場合が多い。
・ 成人看護学概論、成人保健活動論	平成7年5月～ ～令和2年まで毎年更新	成人期の対象の発達段階の特徴や役割、成人期の健康課題と健康の維持増進のための援助の考え方や仕組みづくり、成人看護で活用する理論や概念、看護診断を活用した看護過程、等について教授している。

・成人看護学援助論 (慢性状況にある患者の看護、がん看護学)	平成7年5月～ ～令和3年まで毎年更新	慢性疾患の対象、慢性疾患で療養する対象の特徴とセルフケアを支える看護について教授している。看護に活用できる概念として、慢性疾患の鍵（キー）となる概念、病みの軌跡 保健行動、保健信念モデル、ローカス・オブ・コントロール、不確かさ理論、自己効力理論、エンパワメント、アンドラゴジー等を解説している。慢性期の看護問題や看護の考え方の理解を深めるために看護診断を活用した看護過程の演習を2事例展開している。ゴードンの機能的健康パターンの中の11 領域の視点から慢性期にある人の反応を整理し、セルフケアに関連する看護問題を診断し看護計画を立案するまでを授業・演習の課題とし、臨地実習では実際に展開するというつながりを持たせている。
・成人看護学援助論（終末期にある患者の看護）	平成7年6月～ ～令和3年まで毎年更新	がんサバイバー、終末期、緩和ケアの対象の心身の特徴、治療と有害事象、看護に活用できる概念や理論を教授し、がん患者の痛みやその他の苦痛を伴う身体症状のマネジメント、心理・スピリチュアルな問題に対する看護ケア、家族ケアについて解説し、対象者がその人らしさを保ち、また幸福感や人生への満足感を感じつつ、死が訪れるまで積極的に生きていけるように支援するという、がん患者や終末期の看護の考え方が理解できるように授業・演習を行っている。事例学習を通して在宅の見取りをどのように支援していくかを臨床の立場から考え、がん看護の就労や就労支援に関する現状を教材としてガンサバイバーに対して看護がどのような支援ができるかを考えられるような学習を導入している。
・看護研究方法論、看護研究方法論演習	平成7年～ ～令和3年まで	学士課程の集大成となる看護研究方法論は創造的に専門性を深めるための基盤を形成する。看護事象を解明するための研究手法を初回氏、実践場面で活用できる制度の高い研究計画書の作成や文献研究ができることを目的に研究指導を行っている。
・学生からの質問の受け方、授業の振り返り	平成14年4月～ ～令和3年まで	授業終了後のリアクションペーパーで質問を受け、質問に対する回答はA4サイズ用紙1枚程度にまとめ（授業通信という）、次の講義時間の導入前に学生全員へ配布し、解説を行う。場合によっては学生の意見交換を優先し、後に解説を行う。
・地域における看護活動の基本的知識と考え方に關する教授活動	平成21年4月～ ～令和3年まで	成人看護学概論では健康の概念に関する歴史的な経緯をふまえ、QOLの概念を用いて人々の健康と健康生活をどのようにアセスメントしていくかを考究できるよう教授している。各論では学生が対象者を生活の視点と系統的な視点からアセスメントできる知識と方法を学び、健康上の問題を総合的に判断できるような成果が観察されている。
・臨地実習（慢性期にある患者の看護）	平成22年9月～ ～令和3年まで毎年更新	慢性期にある成人のセルフケアを支援する実習を計画し実践を支援している。慢性期にある患者の健康問題に対する反応の特徴を理解し、様々な健康障害について、病態を理解した上で、科学的根拠に基づいた看護を実践できること、慢性期にある患者および家族が体験する心理・社会的な問題およびその看護が実践できることアウトカムとしている。
・臨地実習（終末期にある患者の看護）	平成22年9月～ ～令和3年まで毎年更新	終末期にある成人・老人の患者の全人的苦痛とターミナル期におけるセルフマネジメントについて体験することを目的に実習を計画し、実践している。また、また終末期の対象者と看護援助について理解を深めるために、指導者及びリーダ研修を修了した看護師に自らの終末期の看護体験を話してもらうような機会を設けている。スピーチする側の看護師にとっては看護の省察の機会となり、臨床講義を拝聴した学生は急性期病院で実践する終末期看護の限界と課題を論議する学習に繋がっている。更に、最後の住処を自宅で迎える人の退院支援・退院調整や緩和ケアの意味を考察するために緩和ケア病棟の実習を組み込んでいる。

・臨地実習（急性期にある患者の看護）	平成28年9月～ ～令和4年まで毎年更新	終末期にある成人・老人の命の危機に直面している患者や、手術が必要な患者を対象に、治療から症状が安定してくるまでの看護を体験することを目的に実習を計画し、実践している。特に急激な身体の変化によって、不安や恐怖などの心理面や日常の社会生活にも影響を受けることや患者の家族も同様に看護の対象となること、変化した生活から適応に向かうよう入院期間の短縮や退院後の生活について意図的に介入するための能力や技術が求められることを学べるようにしている。
・臨地実習（危機状況にある患者の看護）	平成7年5月～ 平成16年3月	一次・二次救命救急活動における危機介入の実際を学習できるよう、救急車の同乗体験と救命救急センターで実習を行った。救急車同乗実習は消防署の協力を得て学生は指令発動から救急患者が収容されるまでの時間と搬入までの実際を体験し、救命率の向上に寄与する看護師の役割を学ぶと共に救命救急センターでは危機モデルを活用した危機介入の実際を学習できるように支援した。
・看護師が行う健康教育の企画と実践のスキル修得を目指す教授活動	平成25年後期～ 令和元年3月まで	天理医療大学4年生の後期選択科目「健康支援方法論」では、学生が大学周辺の地域包括支援センターが管轄する地域在住高齢者を対象にインタビュー調査を行い、ブリーチードプロシードモデルを用いて健康寿命延伸の課題を明らかにし、健康教育の企画・実施・評価の過程ができるように支援している。これまでに学生が実践した健康教育のテーマは、「高齢者の肺炎予防と口腔ケア」「生活活動量の低下と健康の関連」「呼吸法と健康」「スポーツ吹矢体験」等で、看護の教育的能力をあらゆる人々の健康生活の自立能力の育成や向上に役立てることが専門職の使命であることを学んでいる。
・反転授業を活用した教授活動	平成26年4月～ 令和4年3月まで	成人看護学実践論（慢性期の看護）の科目にアクティブラーニングの手法の一つとして「反転授業」を導入している。反転授業は病態生理などの既習学習の知識を15分程度にまとめたオンライン上のオリジナルの予習動画を作成し、自宅で予習し、講義では事例検討等の応用課題を学生と教員が対話的に学ぶ講義形式である。予習動画は指定図書や文献を読んで学習するように仕掛け、対面授業では事例学習をおこない、情報を活用する能力を習得できるように支援している。既存の知識を活用し、課題解決の過程を他者と協調しながら展開する対面講義のブレンド型学習と併用することにより、知識の獲得とコンピテンシーの目標達成が反転授業導入前と比べて容易となった。
・協同学習の技法を組み込んだアクティブラーニングの授業実践	平成26年10月～ 令和4年3月まで	看護演習科目にアクティブラーニングを積極的に取り入れている。協同学習の成果は知識の受容にあるのではなく、既習知識を活用して成果を導くことにある。最初の一部の学生がリーダーシップをとりグループワークが進行していくが、次第にグループメンバーに依存する学生は否定的とみなされ、メンバーそれぞれの役割と責任を果たし共同して課題解決に向かうグループが増えてくる。貢献ができない学生は授業を欠席しその環境から逃避する傾向があるが、学習に対する個人の責任とグループメンバーの責任を考えるようになっていく。
・総合実習の指導	平成26年～ 令和4年3月まで	総合実習は(1)一人の患者への看護を実践する(2)早朝あるいは夕方の看護ケアを体験する(3)同時発生的な複数課題に取り組む(4)看護のチーム活動を理解する(5)多職種チームにおける看護の専門性を理解するの4つの要素で構成している。臨床における看護実践への移行を視野に入れ、既習の知識や技術を統合して患者や家族への看護をよりスピーディに実施し、看護を円滑かつ効率的に実施するためのチーム活動や管理の実際を学び、看護実践に必要な基礎的能力を高めることを目的とし、実習場所へ出向いて直接の指導を実施している。

・学生による授業評価	平成24年～令和4年3月まで	すべての授業が終了した後学生から授業に対する評価を受けている。おおむねどの科目も5段階の平均は4.0前後である。特に学生が参加できる授業環境であることや事例をふんだんに使って概念の理解を容易にする授業方法について高評価を得ている。
・大学は主体的に学ぶところであることを共有するための保護者会活動の実施	平成27年～令和4年3月まで	学生、保護者、関係者を対象に入学式終了後のオリエンテーションを行い、「大学は学生が主体的に学ぶところである」という原点に立ち返り、主体的学習の意義と大学での授業の受け方、問いの立て方、推論するということなどを話題に大学での勉強の仕方を指導している。
2 作成した教科書、教材 ・「看護過程」演習用カルテ	平成16年4月～令和3年まで毎年更新	学生が臨床で遭遇しやすい患者の紙上患者事例を作成した。「代謝疾患」「循環器疾患」「呼吸器疾患」「脳血管疾患」等を成人看護演習の看護診断を活用した看護過程の学習教材として使用した。
・「成人看護学看護過程演習の手引き」	平成16年4月～令和3年まで毎年更新	ヘルスケア、看護ケアを必要としている患者や病人に、その人に可能な限り最良で、最善のケアを提供するためにどのような計画、介入援助が望ましいかと考え主体的にグループワークに参加できる演習のサブ教材を作成した。看護過程はゴードン11の機能的パターン・看護診断を活用した方法を指導している。特にアセスメントの結果を統合し、優先順位を考えながら看護問題を抽出し、看護診断ができることに重点を置いている。
・「成人看護学実習指導要領」	平成16年4月～令和3年まで毎年更新	多数の教員が実習担当を行うにあたり、科目責任者として実習指導の考え方を示した。実習指導要領は、本実習の特徴、本実習のゴール、実習単位と実習期間、実習のスケジュール、実習時間、実習施設と実習部署、実習開始前の教員の準備（実習内容、実習病棟の理解、実習指導者との打ち合わせ）、オリエンテーション、実習の展開方法と指導のポイント、看護診断を用いた看護過程展開方法、評価面談、実習評価及び単位認定等の項目で構成される。
・Panasonic ノンリニアAVワークステーションによりビデオを編集	平成16年8月	「手術室入室～麻酔導入までの経過」「患者教育の実際」の自作教材用ビデオ等。
・「国家試験の手引き」	平成17年4月	受験資格、受験の流れ、模擬試験対策などの大学の国家試験サポート体制について、学生が主体的・かつ計画的に国家試験受験対策を講じることができるようマニュアルを作成した。
・「成人看護学看護記録マニュアル」	平成17年4月～令和3年まで毎年更新	看護記録の書き方には、理論的にはいくつかの方法があるが、看護学生が活用しやすいヘンダーソンやゴードンなどの理論に基づいた看護過程の展開の仕方と記録の書き方についてマニュアルを作成した。
・「就職・進学の手引き」	平成17年6月～令和3年まで毎年更新	就職・進学にあたっての心構え、大学の就職・進学活動のサポート体制、就職・進学情報室の利用できる資料の作成・整理、応募方法など、学生が「主体的に就職・進学活動ができるマニュアルを作成した。
・「国家試験の手引き」 修正版	平成18年4月～令和3年まで毎年更新	過去10年間の国家試験問題を編集し、領域別に問題集を作成した。回答までのプロセスを提示し、学生が主体的に国家試験準備を行えるようにした。

・リモート授業を行うための教材作成	令和2年4月～令和4年3月まで毎年更新	新型コロナウイルスの感染によりリモート授業を実施するためのシステム作りに参加した。リモート授業様式の教材作成に尽力した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
・採用決定の際等における評価内容 大学設置・学校法人審議会の教員組織審査結果	平成16年 10月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、奈良県立医科大学医学部看護学科講師（専任）として、「成人看護概論」「成人看護学援助論Ⅱ（慢性期）」「成人看護学実習Ⅱ（慢性期）」「総合実習」「ヘルスアセスメント」「健康教育」「看護学特論」「卒業研究」担当可の判定を受ける。
	平成19年 10月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、奈良県立医科大学大学院医学研究科修士課程講師（専任）として、「合」判定、「成人療養支援学」の担当可と判定される。
	平成21年 2月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、四日市看護医療大学看護学部看護学科准教授（専任）として、「成人看護概論」「成人看護学Ⅰ（急性期・回復期）」「成人看護学Ⅱ（慢性期・終末期）」「成人看護学実習Ⅰ（慢性期）Ⅱ（急性期）Ⅲ（回復期）Ⅳ（終末期）」「地域看護学実習」「基礎セミナー（基礎）」「基礎セミナー（応用）」「看護研究方法論」「看護研究演習Ⅰ（看護研究クリティック）」「看護研究演習Ⅱ（卒業研究）」の担当可の判定を受ける。
	平成22年 10月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、四日市看護医療大学大学院（修士課程）准教授（専任）として、「合」判定
	平成23年4月～平成24年3月	「慢性看護学特論」「慢性看護学演習Ⅰ」「慢性看護学演習Ⅱ」「慢性看護学実習」をオムニバスで担当した。
	平成24年6月～11月	特別研究指導教員の指示を受け、約半年にわたり院生の研究テーマに沿ってデータ解析（修正版グラウンデッドセオリー・アプローチ：M-GTAを用いた質的記述的研究方法）と結果の解釈について指導した。 ・流下ゆかり氏「腹膜透析療養者のセルフケアに影響を及ぼす家族の支えの内容」
	平成25年7月～10月	約半年にわたり院生の研究テーマに沿ってデータ解析（SPSSソフトウェアを使用して記述統計、平均値・分散・相関分析、ロジスティック回帰分析、・因子分析などの多変量解析）と結果の解釈について指導した。 ・田所直子氏「産業看護職のビジネスパーソンとしての能力に影響する要因」 ・伊藤恭子氏「Aグループ病院における夜勤・交代制勤務に従事する看護師のワーク・エンゲイジメントに影響する要因」
	平成23年 10月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、天理医療大学医療学部看護学科教授（専任）として、「フレッシュマンセミナー」「共通基盤看護学概論Ⅱ（発達段階の特徴と看護）」「共通基盤看護学実践論Ⅲ（セルフケアを支える看護）」「広域発展看護概論」「広域発展看護学実践論Ⅰ（地域に生きる人々と看護連携）」「広域発展看護学実践論Ⅱ（地域連携と社会システム）」「広域発展看護学実践論Ⅲ（在宅療養を支える看護）」「広域発展看護学実習Ⅰ（療養生活と看護の実践）」「広域発展看護学実習Ⅱ（在宅療養を支える看護の実践）」「健康支援方法論」「看護研究方法論」「看護研究演習Ⅰ・Ⅱ」「看護実践能力の探求」「総合実習」の担当として「可」と判定される。

	平成29年10月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において、名古屋学芸大学看護学部教授（専任）として、「看護の基礎」「看護研究1」「看護研究2」「ヘルスアセスメント」「成人看護学概論」「成人保健活動論」「成人看護学実践論1（急性期の看護）」「成人看護学実践論2（回復期の看護）」「成人看護学実践論3（慢性期の看護）」「成人看護学実践論4（終末期の看護）」「成人看護学実習1（急性期看護実習）」「成人看護学実習2（回復期の看護実習）」「成人看護学実習3（慢性期・終末期の看護実習）」「老年看護学概論」「老年看護学実践論」「統合実習2」「統合実習3」の担当として「可」と判定される。
・自己点検に対する学科長評価 奈良県立医科大学看護学科長	平成16年4月	平成16年4月4日、当時の看護学科長より大学当局へ次のような報告が行われた。「成人看護学を対象とした看護の基礎教育を担当し、日頃から熱心な教育実践と研究活動に専念されている。修士論文では、地域住民の生活習慣、健康づくりの実態調査より、壮年期死亡の減少及び医療費抑制のための健康教育の意義について論じられた。今後、研究をさらに深められ、その成果を日々の教育の中で生かされることが大いに期待される。
・天理医療大学設立準備委員会による評価	平成23年3月	当該教員は、北野病院、奈良県立医科大学附属病院で、混合外科、心臓血管外科、ICU、内科病棟において、主に成人の急性期から慢性期にある患者を対象とした看護を6年間体験していることから、高い看護実践能力を有した人材と評価する。また、奈良県立医科大学看護短期大学成人看護学領域の専任講師として9年、奈良県立医科大学医学部看護学科成人急性期・慢性期講師として5年、四日市看護医療大学看護学部看護学科准教授として2年の教育経験に加えて、奈良県立医科大学大学院医学研究科専攻「成人療養支援学」修士課程教育担当資格を認められ、大学院での教育にも携わっている。また、奈良県立医科大学寄附講座住居医学講座専任・兼任教員として、住居環境と健康、高齢者のQOLと住居環境の関連性に関する研究において成果をあげ、ストレスと生活習慣病の関係、禁煙指導、食事指導など、一貫して健康生活とセルフケアに焦点化した研究を継続している。これらの成果は修士論文「ヘルスプロモーションに基づいた効果的な地域介入に関する研究」に結実し、看護師の機能として一層の強化が求められる健康教育、セルフケアを高める看護の教育において優れた教育実践能力を有するほか、「看護診断を活用した看護過程」は多くの病院から研修会講師として招聘され、奈良県の看護診断の普及に貢献している。さらに公的競争的研究費を獲得した多数の研究業績があり、本学において予定している授業科目を担当するに十分な教育上の能力を有していると評価する。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 ・奈良県看護功労者知事表彰受賞	平成27年5月	「長年にわたり看護教育に携わり、1800名の学生を看護師国家試験の合格までを支援した。また卒業後も就職先の病院の卒後教育に携わり、看護職員の生涯学習を支援した実績を評価する。また、学際的に開かれた共同研究体制を構築し、医学・工学・栄養学等の専門家と活発に議論しながら研究を進めており、真理を追究する研究姿勢を評価する。 主な研究として、病床の光環境と入院中の転倒頻度、入院期間や医療費との関係が挙げられ、平成27年度文部科学省科学研究費助成 基盤C(一般)へ積極的に応募し、本格的な調査を始めようとしている。最適な病床環境の条件が明らかになれば学術領域に大きな研究成果を生み出すことが期待できることから、教育・社会貢献・研究面で優れた能力を持っていると判断し、知事表彰の対象とした。」
5 その他 なし		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
1. 看護師免許	昭和54年5月	第363638号
2. 看護婦等学校看護教員資格	昭和61年3月	千葉大学看護実践センター
3. 学士(教育学)	平成10年3月	第47473号 佛教大学教育学部教育学科初等教育 論文題目「生死に対する自己教育力とその要因に関する研究」
4. 実践健康教育士	平成15年8月	第20号 日本健康教育学会健康教育士養成機構
5. 日本公衆衛生学会認定専門家	平成23年4月	第764号 日本公衆衛生学会
6. 専門健康教育士	平成24年6月	第15号 日本健康教育学会健康教育士養成機構
7. APRIN e-learningプログラム (CITI Japan)	平成27年9月22日	一般財団法人公正研究推進協会 (APRIN) 提供、研究倫理教育eラーニング終了証
8. eL CoRE 研究倫理e-learning プログラム	令和2年9月27日	日本学術振興会「eL CoRE 研究倫理e-learning」受講終了証
2 特許等		
なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
・看護学生の臨地実習指導の受け入れ(年間80名)	昭和56年4月～ 昭和61年3月	看護学生の臨地実習指導の受け入れ(年間80名) 看護教育における臨地実習の中で、指導者の学生に対する働きかけは、学生の考えや経験を支持することであることを念頭に学生指導に携わった。
・奈良県立医科大学看護短期大学部公開講座	平成10年4月～ 平成6年3月まで	公開講座と学習会を開催 (中高年者の健康管理編 運動・栄養・ストレスと健康教育のすすめ) 岩本淳子 保健師・健康教育に携わる専門家を対象に、生活習慣病予備群の確実な抽出と保健指導の徹底、科学的根拠に基づく健診・保健指導の方法、健診・保健指導の具体的な戦略やプログラムについて解説した。
・奈良県実習指導者講習会講師	平成10年10月～ 現在に至る	専門職対象 実習指導者研修で5年目以上の臨床看護師80名/年を対象に「看護過程の実際」16時間の講義演習を担当している。講義内容は、NANDA看護診断の基礎的知識、看護加入や看護成果で、学生の学習教材としている事例を受講生とともに展開することを通して、看護診断、看護介入、看護成果に関する学生の思考過程を理解し、学生指導に生かすことを目標としている。
・奈良県放射線技師会生涯学習セミナー「看護学」講師	平成17年12月	放射線技師会主催のセミナーで放射線技師役240名を対象に放射線治療や放射線検査を受ける際の対象者の反応を概説した。また放射線治療や治療の副作用に対して、どのような看護ケアを実践しているかを解説した。放射線治療および検査を受ける対象の不安や有害事象を緩和するために実施している看護ケアを放射線治療室の医師や技師が共有することにより、治療の場が変わっても個別的な医療を継続して行うことができることを受講者と共有することができた。
・奈良県天理市 健康サロンの講師	平成27年6月～平成31年3月まで	奈良県天理市地域包括ケアの各地区で健康サロンの講師を隔月に一回程度務めている テーマは「口腔機能と嚥下障害」「効果的な呼吸法としての吹矢教室」等で、吹矢は講演会の後に自主的に練習を希望される高齢者と同好会を作り、活動を継続している。

・研究助成金関連事項

平成13年4月～ 平成14年3月	国民健康保健事業財団 橿原市総合健康指導事業 老人保健法に基づく基本健康診査等受診対象者数の推定に関する調査 研究助成金270万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岩本淳子、岡本希、松村喜世子
平成14年4月～ 平成15年3月	国民健康保健事業財団 橿原市総合健康指導事業 奈良県橿原市の地域住民を対象とした生活習慣・健康状態・健康づくりに関する調査 研究助成金320万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岩本淳子、岡本希
平成14年4月～ 平成15年3月	国民健康保険事業財団 橿原市高齢者健康指導事業 高齢者の健康・生きがい調査 研究助成金210万円 主任研究者：車谷典男 分担者：松村喜世子、岩本淳子、岡本希
平成15年4月～ 平成16年3月	国民健康保険事業財団 橿原市総合健康指導事業 運動習慣の定着化に向けて 研究助成金549万円 主任研究者：車谷典男 分担者：尾形希、岩本淳子、中谷敏昭
平成15年8月	奈良県立医科大学看護短期大学部公開講座 看護専門職対象「看護実践における健康教育の課題」 岩本淳子
平成16年4月～ 平成17年3月	国民健康保険事業財団 奈良県橿原市総合保健指導事業 生活習慣が医療費や健診成績に及ぼす影響 研究助成金269万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岩本淳子、尾形希
平成18年4月～ 平成19年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究助成 高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究－藤原京スタディー 研究助成金415万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岡本希、岩本淳子、森川将之、岸本年史、原納明博、羽崎完、天野信子、柳元和
平成19年4月～ 平成20年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究助成 高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究－藤原京スタディー 研究助成金780万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岡本希、岩本淳子、森川将之、岸本年史、原納明博、羽崎完、天野信子、柳元和
平成20年4月～ 平成21年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究助成 高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究－藤原京スタディー 研究助成金400万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岡本希、岩本淳子、森川将之、岸本年史、原納明博、羽崎完、天野信子、柳元和

平成20年4月～ 平成21年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「病室環境研究」研究 助成 外来化学療法室における細菌の分布 助成金200万円 主任研究者：木村道子 分担者：岩本淳子、御守里絵
平成20年4月～ 平成21年3月	明治安田厚生事業団 体力医学研究所 第24回研究助成 高齢者の1日歩数と身体機能および健康関連QOLに関する 横断研究－適正歩数の設定の試み－助成金100万円 主任研究者：富岡公子 分担者：羽崎完、岩本淳子
平成21年4月～ 平成22年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究 助成 高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究－藤 原京スタディー 研究助成金450万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岡本希、岩本淳子、森川将之、岸本年史、原納 明博、羽崎完、天野信子、柳元和
平成21年4月～ 平成22年3月	大阪ガス助成金研究 高齢者のQOLと住居環境に関するコ ホート研究－藤原京スタディー研究 助成金90万円 主任研究者：岩本淳子 分担者：富岡公子、森川将之
平成21年4月～ 平成22年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究 助成 室内温度による早朝血圧への影響に関する研究 助成金200万円 主任研究者：佐伯圭吾 分担者：岩本淳子
平成21年4月～ 平成22年3月	奈良医大病室環境 研究助成 照明の色温度が起床後の 唾液中メラトニン濃度に及ぼす影響に関する研究 助成金190万円 研究代表者：岩本淳子、 実施責任者：筏義人 分担者：佐伯圭吾、高沢伸、福田映子、田中紀之
平成21年4月～ 平成22年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究 助成 幼児期の家庭内受動喫煙による室内空気汚染環境 に関する研究 助成金130万円 研究代表者：坂東春美 分担者：岩本淳子、濱田薫、吉田亨
平成22年4月～ 平成23年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究 助成 高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究－ 藤原京スタディー研究助成金450万円 主任研究者：車谷典男 分担者：岡本希、岩本淳子、森川将之、岸本年史、原納 明博、羽崎完、天野信子、柳元和
平成22年4月～ 平成23年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究 助成 室内温度による早朝血圧への影響に関する研究 助成金200万円 主任研究者：佐伯圭吾 分担者：岩本淳子

4 その他 ・大学委員会	平成22年4月～ 平成23年3月	奈良医大病室環境 研究助成 照明の色温度が起床後の 唾液中メラトニン濃度に及ぼす影響に関する研究 助成金190万円 研究代表者：岩本淳子 実施責任者：筏義人分担者：佐伯圭吾、高沢伸、福田映 子、田中紀之
	平成22年4月～ 平成23年3月	奈良医大寄附講座 住居医学講座「住居医学研究」研究 助成 幼児期の家庭内受動喫煙による室内空気汚染環境 に関する研究 助成金130万円 研究代表者：坂東春美 分担者：岩本淳子、濱田薫、吉田亨
	平成25年6月13日 ～平成26年3月	三井住友海上福祉財団研究助成 光曝露量が認知症に及 ぼす影響：高齢者1200名の大規模前向きコホート研究 ベースライン横断解析 助成金200万円 研究代表者：大林賢史 分担者：岩本淳子
	平成27年4月～ 平成30年3月	科学研究費助成 基盤C(一般) 病床の明るさが高齢者の 病院内転倒に及ぼす影響に関する前向きコホート研究 助成金494万円 研究代表者：岩本淳子 研究分担者：大林賢史 佐伯圭
	平成27年4月～ 平成29年3月	科学研究費助成 挑戦的萌芽研究 医療者教育における 反転授業を活用したアクティブ・ラーニングの実践と評 価 助成金417万円 研究代表者：西屋克己 研究分担者：岩本淳子 岡田宏基
	平成31年4月～令 和5年3月	科学研究費助成 基盤C(一般) 窓側病床への入院が院内 転倒予防に及ぼす要因：他施設前向きコホート研究 助成金410万円 研究代表者：岩本淳子 研究分担者：大林賢史 山上優紀
	平成20年4月～ 平成21年3月	四日市看護医療大学委員会委員：紀要委員会 教務委員 会 図書委員 実習委員FD委員会
	平成21年～ 平成23年3月	四日市看護医療大学大学委員会委員：研究倫理委員会 紀要委員会 教務委員会 FD委員会
	平成24年4月～ 平成25年3月	天理医療大学 研究委員会 安全管理委員会 セキュリ ティ委員会 大学入試センター試験実施委員会
	平成25年4月～平 成31年3月	天理医療大学 教育研究審議会、点検・評価審議会、予 算委員会、教員・教育組織能力開発委員会、教務委員 会、安全管理委員会、看護学科実習調整委員会、研究委 員会、入試管理委員会、大学入試センター試験実施委員 会 自己点検評価委員会、教育研究審議会、自己点検評 価審議会
	平成31年4月～ 平成4年3月	名古屋学芸大学 運営委員会、教授会、実習委員会(委 員長)、教務委員会、看護学科実習連絡会議委員、研究 倫理委員会、図書館委員(学部図書質委員)、入試教授 会委員

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 2006年メディカコンクール メディカコンクール委員会編	共 著	平成18年10月	メディカ出版	2006年、看護師国家試験の予想問題を出題した。 本人担当部分：呼吸器系（COPD）、循環器系（狭心症、心筋梗塞、心不全）、脳神経系（脳梗塞）の一般問題及び状況設定問題を7題し、解剖生理、病態生理、検査、治療、予後、主な看護を解説した。A5版 全235頁 共著者：小河育恵、岩本淳子、杉崎一美、大塚眞代他
2. 2007年メディカコンクール メディカコンクール委員会編	共 著	平成19年11月	メディカ出版	2007年、看護師国家試験の予想問題を出題した。 本人担当部分：呼吸器系（肺炎）、循環器系（狭心症、心筋梗塞、心不全）、脳神経系（脳出血）の一般問題及び状況設定問題の出題と解剖生理、病態生理、検査、治療、予後、主な看護を解説した。A5版 全202頁 共著者：岩本淳子 他
3. 住居医学（Ⅲ）	共 著	平成21年8月	米田出版	病気やストレスなどの視点のみでなく、快適さなども含めて、「住む」を医学的にとらえて研究した成果の書 本人担当部分：第5章 高齢者の老いと住まいの要素 高齢者の生きがいと規定する要因を踏まえた住まいづくりを考案する必要性を提案した。A5版 全219頁 共著者：筏義人、吉田修、青島均、久野覚、安枝浩、高野康夫、岩本淳子、今井正次、田中紀之
4. 新しい健康教育 ー理論と事例から学ぶ健康教育への道ー	共 著	平成23年4月	保健同人社 p. 209-215	健康教育を学ぶ学生のテキストとして、健康教育を実践する人々を対象とした書である。 本人担当部分：第4章 5. 患者教育 患者教育と患者教育支援システム、実践健康教育士及び専門健康教育士の活動と患者教育について解説した。全239頁：209-215 川田智恵子、大津一義、宮城重二、岩本淳子 他、
5. 地域包括ケアのすすめ	共 著	平成28年4月	ミネルヴァ出版 p. 127-135	保健医療福祉の視点から地域包括ケアシステムに関する法制度や医療介護の基礎知識を概説した。そして住まい、医療、介護、介護予防、生活支援を支える社会資源が相互に連携・協働する実践活動を紹介している。全262頁 本人担当部分：がんの動向とがん看護を担当した。 共著者：宮崎徳子監修、豊島泰子、立石宏昭編集、岩本淳子 他
6. 経過がわかる疾患別看護過程（糖尿病）	共著	平成30年9月	照林社ブチナースvol 1 27No. 10 2018別冊	糖尿病の診断・教育入院期い焦点を当て医療チームと協力して重症化予防を行うための看護ケアの知識と発症から入院・退院後の自己管理の時期に特徴的な看護診断とその根拠、看護計画について解説した。 共著者林みよ子監修、岩本淳子
7. 経過がわかる疾患別看護過程（COPD）	共著	令和元年10月	照林社ブチナースvol 2 7No. 10 2018別冊	COPDの急性増悪期～在宅移行期に焦点を当て、患者が薬物管理や非薬物管理の方法（禁煙、感染予防法、運動療法、栄養管理、在宅酸素導入・管理、社会資源の活用法等）を修得し、退院後の日常生活においてセルフマネジメントを継続できるように支援するための知識と各時期に特徴的な看護診断とその根拠、看護計画について解説した。 共著者林みよ子監修、岩本淳子

(学術論文) 1. 開心術術後患者に対するアフターケア指導の検討ー69名に対する面接調査結果よりー (査読付) 2. 温・湿度、皮膚緊張からみる創傷かぶれの現状と課題 (査読付) 3. 基礎実習における技術チェックの一考察ー自己学習と成績の関係よりー (査読付) 4. 看護学生の老人に対する色と言葉のイメージ変容について (査読付)	共 著 単 著 共 著 共 著	昭和59年11月 昭和62年3月 平成2年4月 平成2年4月	「第15回日本看護学会成人看護集録」 p. 125-126 「日本看護研究学会近畿・四国地区会雑誌」第9巻 第4号 p. 91-92 「看護展望」第15巻第5号 p. 68-72 「日本看護学校協議会雑誌」第21巻 第1号 p. 172-176	昭和56年、奈良県立医科大学に心臓血管外科（第3外科）が開設された。開設後2年間に約400例の開胸・開心術が行われたが術後に冠状動脈の閉塞を生じ再手術が行われたり、心不全を起こすケースがあった。 術後患者69名の面接調査データを分析し、開心術術後患者には手術による侵襲と再建された冠状動脈への治療的介入に加え、冠状動脈狭窄に関連する生活習慣の見直しと生活行動の変容を目的とした健康教育の必要性を明らかにした。健康教育指導資料を作成し、その効果についても共同執筆した。 本人担当部分：調査用紙の作成、データ収集、分析 共著者：岩本淳子、寺川佐知子 心臓カテーテル検査の際に頻発する絆創膏かぶれの要因については製品会社でも素材との関係から検討されている。しかし、臨床場面ではそれでも絆創膏かぶれを起こすケースは決して少なくない。そこで臨床でよく使われている絆創膏3種を選定し、それぞれに貼布時間・皮膚表面温度・湿度・貼付の張力（圧）との関係から絆創膏かぶれの成立機序について検討した結果をまとめた。 岩本淳子 看護の基本技術・援助技術を習得させるためには単なる授業の学内演習に終わらせるのではなく、学生に演習の機会を与え、主体的に学習する意欲づけを行うことが大切である。そこで、基礎実習として行っている技術演習の成績と演習までに費やした学生の自己学習時間アンケート調査の結果を照合し、両者の関係を検討した。その結果、学生の主体的な学習動機は演習準備時間・場所・教員の関わりに影響されていることが明らかになり、カリキュラムの進行度及び時期や方法について考察した。 本人担当部分：学生の実習記録の解析及び実習効果について質的評価を行った。 共著者：今井充子、田淵郁子、東理恵 西浦真千代、岩本淳子、松原登志子 人口の高齢化が進む一方、看護学生の多くは各家族世帯に暮らし、老人と同居した経験がない。そのため老人に対するイメージも抽象化されたものとなっていることが多い。昭和62年度より特別養護老人ホーム実習を実施しているが、学生の特別養護老人施設実習前後における老人に対するイメージの変化を特に色と言葉のイメージを中心に比較検討した。その結果、実習開始時に比べ実習終了後には老人に対する色のイメージが寒色系から暖色系へ、言葉のイメージが弱い立場の人という表現から優しさ、尊敬、智慧という表現に変化していることがわかった。そこで実習目標である老人の発達段階を反映した対象者の理解が特別養護老人ホームの実習によって効果があることを考察し、検討経過を報告した。 本人担当部分：学生の実習記録の解析及び実習効果について質的評価を行った。 共著者：今井充子、東理恵、岩本淳子 吾郷久恵、田淵郁子、西浦真千代、池田佳代

5. 老人のイメージがよくなる特別養護老人ホーム実習の進め方 (査読付)	共 著	平成4年1月	「看護展望」 第17巻 第2号 p. 54-60	昭和62年度より従来の成人看護学から老人看護学を独立させ、特別養護老人ホームの実習を実施してきた。新カリキュラムにおける特別養護老人ホームの実習の成果と問題点を検討し、先行研究の結果を含め実習の進捗・方法について考察した。 本人担当部分：学生の実習記録の解析及び実習効果について質的評価を行った。 共著者：今井充子、岩本淳子、田淵郁子、上平悦子、西浦真千代、堀口陽子
6. 周手術期の看護 ー膀胱がん患者の看護 (査読付)	共 著	平成6年5月	「リニクスダイ」 第15巻第6号 p. 52-58	学生は臨地実習において受け持ち患者のどのような情報に注目し、看護問題を導き出していくとよいかについて不安を持っている。これは看護者としての病気や生活の捉え方について未成熟である場合が多い。 諸学者には看護者として対象者を理解するために既習学習内容のなかでも特に病態生理や術前・術後の身体の構造や機能、ボディイメージ、自己概念、生活行動の変化に着目し、どのように看護行為を導き出していくかを示すことも必要である。本論では看護の問題解決過程に沿って、情報収集と整理の仕方、アセスメント、関連性の検討、問題点の設定、目標の設定、看護計画の立案モデルを示し、看護者の問題解決過程における思考プロセスを解説した。 本人担当部分：紙上患者事例の提供、アセスメント・関連図・看護計画の立案例を示した。 共著者：岩本淳子、岡本千鶴子、松村喜世子
7. 成人臨床看護の授業展開 (1) ー成人臨床看護の位置づけとその概要ー (査読付)	共 著	平成6年5月	「看護展望」 第19巻第6号 p. 45-51	看護の対象者を理解し、健康問題に関する初歩的な臨床判断と看護行為の選択ができる学生の問題解決能力を養うことを目的として、成人臨床看護に紙上患者事例を活用した看護過程の演習を取り入れている。成人臨床看護の目的・目標、看護過程学習構造と事例選択に至った経緯を報告し、講義・演習・実習とのつながりをカリキュラムの配置と授業計画に沿って提示するとともに成人臨床看護における看護過程演習の効果について考察した。 本人担当部分：演習計画の作成と修正 共著者：今井充子、岩本淳子
8. 成人臨床看護の授業展開 (2) (査読付)	共 著	平成6年6月	「看護展望」 第19巻第7号 p. 36-42	成人看護学の看護過程の演習について、情報収集・情報の整理、アセスメント、問題点の設定、目標設定、看護計画の立案モデルを示した。 本人担当部分：紙上患者事例提供、事例の個別性に応じた看護過程の実践についてモデルを作成した。 共著者：今井充子、岩本淳子、松村喜世子
9. 0～3歳児のいる成人男女のサポート源と社会的支援の互酬性 (査読付)	共 著	平成9年3月	「奈良県立医科大学看護短期大学部紀要」第2巻 第1号 p. 67-74	子育ての支援に関する研究は増加傾向にあるが、0～3歳の乳幼児を持つ成人男女の社会的支援に関する研究は少ない。そこで、少子社会における子育て環境や子育て支援の充実に寄与することを目的に、0～3歳児のいる家族のサポート源と支援の内容・方法について調査し、近隣や友人、家族・親族の関係について分析した。その結果、乳幼児期の子どもを持つ父親と母親が求めている子育ての支援は情緒的サポートであることが明確になった。成人期の発達段階である出産・養育に関する役割を獲得していく人々たちに対して支援体制の具現化が図れる必要性を考察した。 本人担当部分：データの分析及び考察 共著者：内藤直子、岩本淳子、南麗子

10. 初心者が行うBLSの手技上の問題点—シュミレーション人形による演習記録を通して— (査読付)	共 著	平成9年3月	「奈良県立医科大学看護短期大学部紀要」第2巻第1号 p. 58-66	突然死は、平常時に突然起こる個人の生命危機であり、現場に居合わせた人々の適切な救命活動によって救命率・社会復帰率は変化する。近年、一般市民に対しCPR (Cardio Pulmonary Resuscitation) の普及運動が高まり、日本医師会、救急隊員、救急指導員等の地道な啓蒙活動が行われ、その広がりを見せている。しかし、救命率の低さから見てもCPRの手技の修得は初心者にとって簡単なものではないため、救急看護学の演習授業で行った初学者である学生のBLS(Basic Life support)の手技上の問題を分析し、指導上の留意点について指導指針を作成した。 本人担当部分：データーの解析、指導指針の作成 共著者：岩本淳子、松村喜子、堀口陽子
11. 初心者が行うBLSの主技上の問題点(2) (査読付)	共 著	平成10年3月	「奈良県立医科大学看護短期大学部紀要」第13号 p. 91-98	初心者が行うBLSの手技上の問題点—シュミレーション人形による演習記録を通して—(第一報)に続いて手技上の問題の要因を実施者の情緒的側面から分析するために救急看護学の演習授業を受講した80名の学生を対象に意識調査を行った。その結果、救命活動に参画することに対して意識づけはなされているが、傷病者の口に実施者の口を直接当てることに抵抗があることがわかり、被覆用材の使用について考察した。 本人担当部分：調査結果の分析、考察 共著者：堀口陽子、松村喜世子、岩本淳子
12. 論理的思考の育成に焦点を当てた看護過程演習の結果分析と今後の課題	共 著	平成10年3月	「奈良県立医科大学看護短期大学部紀要」第13巻 p. 83-90	2年次における学生の看護過程に関するスキルと看護の問題解決過程を学習する学生の論理的思考の育成に焦点を当てた看護過程演習の学習方略について検討した。「一連の流れは経験しているが、その一段階ごとの思考が全体のプロセスに結びついていない」に対して帰納的・演繹的な思考過程がたどれるよう、学習環境の調整や教員の関わりについて指導の方向性を示した。看護モデルの年代的・文化の違いや言葉の意味を看護の生活モデルの視点から構成要素の意味を丁寧に解釈する演習時間を組み入れた。また「臨床で用いられている語句の意味が、これまでに形成してきた言語—経験の構造に組み込まれず、経験を伴わない言葉で論理を形成しようとするところに学習の困難性が生じている」は、特に病態生理や治療方針、治療経過の理解を促すために臨床医の協力を求め疾病論の授業内容を調整した。 担当部分：看護過程における学生の学習上の問題について具体的実践的方略について考察し、報告書作成を支援した。 共著者：岩本淳子、松村喜世子、大塚真代
13. 学習目標到達感を妨げる要因の分析と対策 (査読付)	共 著	平成10年3月	「奈良県立医科大学看護短期大学部紀要」第13巻 p. 99-106	看護基礎教育においては各看護学の特性を踏まえた問題解決過程の演習が重視され、論理的思考の育成が求められている。成人看護学では基礎看護学で看護過程の要素を学習した学生が生活モデルから対象者をより深く洞察できるよう学習目標を設定し、学生の学習を支援しているが、演習後の評価において教員側と学生のズレ(教員が設定した目標レベルの問題状況の抽出が行えているのも関わらず、その思考過程は断片的で一貫性を持っていないことが原因で学習成果に関する満足感が低かった)が生じていた。そこで、対象者のみかたについて演習終了後の学生意見や面接によって得られたデーターを質的に分析し、学生の論理的思考を妨げる要因として、構成要素の意味や充足・未充足の判断基準が明確になっていないことから自信が持てないことを明らかにした。 本人担当部分：学生意見と面接によって得られたデーターの解析と質的分析 共著者：岩本淳子、松喜世子、大塚真代

14. 生死に対する自己教育力とその要因に関する研究 (査読付) (学士論文)	単 著	平成10年9月	佛教大学教育学部教育学部初等教育専攻 全85頁	人の生死にかかわる医療者の生と死に関する自己教育力の必要性について論じた。具体的には人と人の関係性、人と自然の関係性が疎遠になった現代に生きる人の恐怖は自己の死である。生と死は自己において連続しているが、死が不可避な存在であると自覚しない立場では、死そのものを敗北として見なし、死の意味・生の意味を問うことをせず生を忘れた空虚な生を生きることになる。この様相は近代の合理主義を反映しており、死が生を反対概念としてしか受け入れられていない現代文明において、人々がどのように生を全うできるかに何の留意も払われていない現状を考察した。 A 5 版 全85頁 岩本淳子
15. 職場喫煙に関する喫煙者と非喫煙者の意識の相違 —3000名のアンケート調査結果より— (査読付)	共 著	平成10年3月	「松仁会医学誌」 第38巻第2号 p. 179 -188	成人保健を担当する立場から職場喫煙の現状と、喫煙者の職場での喫煙態度や喫煙者と非喫煙者の職場喫煙に関する意識の違いを明らかにすることを目的に、某事業場の提起健康診断受診者3008名を対象に、自記式アンケート調査を実施した。有効回答率は98.8%であった。性・年代別の現在喫煙者、前喫煙者（以前に吸っていたが現在は一ヶ月以上禁煙している）、社会的喫煙者（食事等のつきあいの場で喫煙する）、非喫煙者の割合を示し、喫煙態度は男性より女性の方が、また喫煙本数が少ない者ほど良好であることが明らかになった。一方禁煙タイムや喫煙場所に関する遵守率は性・喫煙本数に関係がなく高かった。喫煙による肺がんのリスクなどの喫煙影響に関する肯定率は、非喫煙者で最も高く、おおむね前喫煙者、社会的喫煙者の順に続き、現在喫煙者が最も低率で、非喫煙者の約1/2程度であった。会議中の禁煙を支持した者は非喫煙者、前喫煙者がともに80%を超えたが、社会的喫煙者は64%、現在喫煙者は30%と低率で、しかも喫煙本数が多い者ほど低く、30本以上群では20%以下であった。また、最も適切と思う喫煙対策に対する回答内訳は喫煙習慣によって異なっていたが、どの群も共通して独立した喫煙室の設置が最も適切とする回答が多く、いずれも40%を超えており、成人の健康被害による実態とその対策が示唆された 本人担当部分：データー収集、解析、考察 共著者：岩本淳子、車谷典男、米増國雄、新楽寛、中西理恵子
16. ヘンダーソン看護論における構成要素の演習評価	共 著	平成13年3月	「奈良医大看護短期大学部紀要」 第4巻 p. 123-130	看護モデルを観察の枠組みとして活用する場合、看護モデルの年代的・文化的背景の違いを解釈し、現代的活用の意味を理解する必要性を先行研究で明らかにした。成人看護学の看護過程の演習では複数の教員が小グループを担当して指導しており、教員の構成要素に関して共通の理解を図ることは学生の学習効果を高めるという意味で必然である。そこで、構成要素の構造について教員の共通理解の内容を「構成要素の意味」「構成要素の欲求を充足させるために人はどのような活動を行っているか」「共通する基本的欲求の充足された状態」について分析し、看護モデルを活用する際の指導要綱を作成した。そして作成した指導要綱を用いて看護過程の演習を指導した演習記録を分析し、学生の学習成果に関する評価と教員評価ズレがないことを確認した。 本人担当部分：学生の演習記録の文節単位の意味づけと一致率についての統計的分析を行い、結果を考察した。 共著者：岩本淳子、松村喜世子、大塚真代、堀口陽子

17. 急性期実習の体験学習における学習内容の構造化 (査読付)	共 著	平成14年3月	「奈良医大看護短期大学部紀要」 第5巻: p. 9-16	成人看護学急性期実習では一週目に集中治療を受ける患者、家族、看護者の疑似体験ができる体験学習を実施している。体験学習を終了した学生のレポートに記載された学びの内容を舟島の「看護概念創出法」に基づき内容分析を行った。その結果、226のコードから47のサブカテゴリ、12のカテゴリ、5のコアカテゴリを抽出した。【集中治療室に入室している患者・家族の理解】【集中治療室の特殊環境の理解】【集中治療室で看護を受ける患者・家族への看護の理解】【実習前段階における看護実践能力の自己洞察】【実習における心構え】の概念は急性期実習体験学習の「体験ー学び」の学習内容を説明し、実習直前における学習の先行理解を成す概念であることが明らかになった。 本人担当部分：学生の演習記録の文節単位の内容分析と意味づけ 共著者：松村喜世子、岩本淳子
18. 情報開示の時代に望まれる看護記録開示の考え方 (査読付)	単 著	平成14年9月	奈良県立医科大学附属病院看護部論文集「葦」 p. 275-280	診療情報の開示は、患者の医療への積極的な参画を実現するための一環として位置づけられ、国立病院をはじめ多くの医療施設では医療情報の提供を実現するためのシステムづくりが進められている。本稿では看護記録の法的位置づけを明確にし、診療情報の開示が求められるゆえんをインフォームド・コンセントに求め、患者の意思決定を支援する看護者の援助の意味と看護記録見直しの具現化をはかるための考え方について概説した。 <u>岩本淳子</u>
19. 看護師の職業的自律性の育成に影響する要因の構造 (査読付)	共 著	平成15年3月	「第34回日本看護学会看護管理 集録集」34 p. 148-150	A病院の助産師・看護師464名を対象に看護師の職業的自律性を阻む要因について調査を行った。自記式調査票に記述された内容をベレルソンの内容分析の手法を用いて内容の構造化を試みた。その結果、看護者が必要と判断した看護行為が煩雑な業務、慢性的な人不足が原因で行えず、看護実践に関する未充足感を感じたり葛藤している現状をはじめ6つのカテゴリー面抽出され、看護者のキャリア発達を支援する方向性について示唆が得られた。 本人担当部分：研究計画、分析、結果を考察した。 共著者：田岡眞由美、森本智磨子、岩本淳子他
20. 看護師の成長・発達の育成に影響する要因の構造化 (1) (査読付)	共 著	平成16年4月	「第35回日本看護学会看護管理 集録集」35 p. 331-333	A病院の助産師・看護師464名を対象に看護師の職業的自律性を阻む要因について調査を行ったが、阻害要因に対してどのように対応しているかについて、ベレルソンの内容分析の手法を用いて内容の構造化を試みた。その結果、「看護職に対する傾倒」をはじめ8つのカテゴリーが抽出され、看護師の対応能力と対応の現状が明らかになった。 本人担当部分：研究デザイン、研究計画、分析方法の指導を担当 共著者：橋口智子、石飛悦子、福山真理、岩本淳子他
21. 看護師の成長・発達の育成に影響する要因の構造化 (2) (査読付)	共 著	平成16年4月	「第35回日本看護学会看護管理 集録集」35 p. 215-217	A病院の助産師・看護師464名を対象に看護師の職業的自律性を阻む要因について調査を行ったが、今度はやめたいと思ったときに乗り越えられた理由について、ベレルソンの内容分析の手法を用いて内容の構造化を試みた。その結果、「自己の成長・自己実現を目指した職務継続意思」をはじめ6つのカテゴリーが抽出され、看護師の辞職を回避するためには個人の自己実現への思い入れとそれを支援する看護管理者と職場環境のありようの3つが構成要素になることが示唆された。 本人担当部分：研究デザイン、研究計画、分析方法の指導を担当 共著者：橋口智子、石飛悦子、福山真理、岩本淳子他

22. 看護師の成長・発達を促進する支援システムの方向性 (査読付)	共 著	平成16年4月	「第35回日本看護学会看護管理 集録集」35 p. 212-214	看護師の成長・発達の育成を阻む要因の構造を基に、看護師に対する看護管理者の役割を個人、支援者、職場環境の観点からの支援が必要であることが示唆された。 本人担当部分：研究デザイン、研究計画、分析方法の指導を担当 共著者：大林末子、石飛悦子、福山真理、岩本淳子他
23. 看護師の専門性の向上を目指すキャリア発達支援システムの必要性 (査読付)	共 著	平成17年5月	「第36回日本看護学会看護管理 集録集」36 p. 156-158	看護師が自らの専門性を向上させるために必要と感じている内容についてベレルソンの内容分析の手法を用いて内容の構造化を試みた。その結果、「自身・プライド・安定性」「成長・発展への志向性」をはじめ6つのカテゴリーが抽出され、看護師の成長・発達支援システムを構築していく必然性が示唆された。 本人担当部分：研究計画、分析、結果を考察した。 共著者：石飛悦子、橋口智子、福山真理、岩本淳子他
24. 健康で健やかに生きるための生きがいの構造 (査読付)	共 著	平成15年5月	「第34回日本看護学会地域看護 集録集」地域看護 34 p. 121-123	5歳年齢階級別、男女別に無作為抽出した3592名のアンケート調査から高齢者の生きがいの構造化を試みた。その結果、「これまでの人生で積み重ねてきた能力が発揮できる」他9つのカテゴリーが抽出され、高齢者が求めている生活のあり方が示唆された。これらは老人の生きがい対策の検討資料になると考えられる。 本人担当部分：研究計画、分析、結果を考察した。 共著者：松村喜世子、岩本淳子、車谷典男
25. 看護実践における健康教育の課題 (査読付)	単 著	平成16年3月	「奈良県立医科大学看護短期大学部紀要」第8巻 p. 24-31	4万5千人の健診データを分析し、生活習慣病の発症率の実態を明らかにした。高齢化が急速に進展する今後5～15年間に保健・医療・福祉への需要が高まることが予測されるため、受診率の高い疾病に対して、発症後の病態の進行及び合併症を予防するために保健行動モデル、アンドラゴジー、エンパワメント、自己効力モデルを活用した看護実践のあり方と研究の可能性について検討した。 岩本淳子
26. 国保医療費の現状と保健予防施策に関する研究 (査読付)	単 著	平成17年3月	「奈良県立医科大学医学部看護学科紀要」第1巻 p. 60-67	国保医療費報告書をデータベース化し、地域における医療費の実態を明らかにした。また保健指導の対象となる健康問題と集団を推定し、地域保険指導事業の課題を提示した。 岩本淳子
27. 住民の主観的健康観と生活習慣、健康診査結果との関連 —奈良県橿原市の健康づくりに関するアンケート調査結果の分析— (査読付)	共 著	平成18年3月	「奈良県立医科大学医学部看護学科紀要」第2巻 p. 17-25	「健康日本21」計画の中間評価の時期を迎えるが、数値目標を達成するための施策を強化し、次の段階で新たな保健事業を設定するためには地域住民のニーズをより詳しく検討する必要がある。そこで、住民の健康に関わりがある行動の中から健康に良くないと感じ、しかも保健予防活動によって改善が期待できる生活習慣と生活習慣改善の考え方について主観的健康観の観点から保健予防事業の課題について解析した。調査の有効対象者数が3300名余りで、しかも20～30歳代の若年齢層を含んでおり、今後の定性的評価を行う上で参考となる結果が得られた。 本人担当部分：研究計画、実施、分析、結果を考察した。 共著者：岩本淳子、車谷典男、尾形希、奥田寧子

28. 高齢者のQOLと住居環境に関するコホート研究—藤原京スタディー (査読付)	共 著	平成19年12月	「奈良県立医科大学医学雑誌」 p. 152-168	高齢者のQOLとADLの関連要因を明らかにし、これから高齢者施策策定に資することを目的に奈良県に在住する独歩可能な65歳以上の住民を対象に平成18年度より5年間のコホート調査を始めた。今回は調査の概要について報告した。本人担当部分：研究分担者、研究計画、実施、分析、結果を考察した。 共著者：車谷典男、岡本希、岩本淳子、森川将之、岸本年史、原納明博、羽崎完、天野信子、柳元和
29. 高齢者の1日歩数と身体機能および健康関連QOLに関する横断研究—適正歩数の設定の試み— (査読付)	共 著	平成21年3月	「第24回健康医学研究所論文集」 p. 6-16	地域在住の65歳以上の男女258名を対象に、客観的かつ定量的な指標で、尚かつ妥当性が検証された加速度計に基づく一日の歩数を調査し、これと脚力を中心とした身体機能および健康関連QOLとの関連性を横断研究で検討し、高齢者の身体機能やQOLの維持の有効な適正歩数の設定を試みた。その結果、女性高齢者の身体機能や健康関連QOLを維持するために必要な一日の歩数は5500歩と推定されたことを報告し、優秀論文賞を受賞した。 本人担当部分：データ収集、健康教育の観点から見た考察の一部を担当した。 共著者：富岡公子、羽崎完、岩本淳子
30. 軽度認知症を伴う女性高齢者の睡眠に関する研究 (査読付)	共 著	平成21年12月	「医学と生物」 第153巻 第12号 p. 594-600	不眠の疫学調査によると、高齢になるほど中途覚醒や早期覚醒が増え、このような傾向は男性より女性が多い、睡眠に問題が生じると社会的適応や社会参加が妨害され、生活の質や健康生活を保つ上で困難が生じやすく認知症発症の危険因子を誘発する要因となることが報告されている。そこで、軽度認知症を伴う女性高齢者の睡眠の実態を睡眠ポリグラフと相関の高いアクティウォッチ (ITI AW-16 ITI社 Aagasaki) を7日間連続で装着し睡眠と覚醒リズムを測定した。夜間の覚醒回数が多いほど就床から起床時間が長く、睡眠効率が低いという傾向が示された。 本人担当部分：データ収集、健康教育の観点から見た考察の一部を担当した。 共著者：赤井由紀子、田中響、岩本淳子、Daniel T KIRK
31. Tooth loss is associated with mild memory impairment in the elderly: The Fujiwara-kyo study (高齢者における歯の損失と軽度の記憶障害の関係) (査読付)	共 著	平成22年7月	「Brain Research」 第1349巻 p. 68-75	残存歯数、認知機能障害、アルツハイマー病への移行率が高いとされる軽度記憶障害との関連を検討した。奈良県内在住の65歳以上の者を対象とした「高齢者のQOLと生活機能に関するコホート研究 (藤原京スタディー)」の受診者4,061名を1. 健常者3,896名 (MMSE;24点以上かつ3単語想起が2または3)、2. 軽度記憶障害121名 (MMSE;24点以上かつ3単語想起が0または1 & GDS;5点以下) (GDS;6点以上の30名除外) 3. 認知機能障害214名 (MMSE;23点以下) の3群に分類し歯の損失との関連を見たところ、残存歯数が0-10本 (3分の1以下) であることと、軽度記憶障害および認知機能障害との間に有意な関連が認められた。生物学的根拠として、歯周病による炎症性サイトカインの産生、炎症性サイトカインの遺伝子多型、歯根膜機械受容体の減少、栄養不良など歯牙喪失と認知機能の相方に関する要因等が考えられた。 本人担当部分：データ収集、健康教育の観点から見た考察の一部を担当した。 共著者：岡本希 森川将行 岩本淳子 岡本健介 佐伯圭吾 富岡公子 車谷典男

32. 地域在住高齢者の「生きがい」スケールの開発 —信頼性・妥当性および再現性の検討— Creation of an “Ikigai” Scale for Community-dwelling Elderly: Investigation of Its Reliability, Validity and Reproducibility (博士論文)	単 著	平成23年3月	女子栄養大学大学院	本研究は地域に在住する元気な高齢者の「生きがい」構造を実証的に明らかにし、信頼性・妥当性のある「生きがい」スケールを開発した。本研究は3つの研究から構成される。研究1は「生きがい」スケール開発のための質的調査、研究2は、「生きがい」スケールの開発、研究3は、「生きがい」スケールの別集団での検討である。 研究1は、65歳以上高齢者から性別年齢階級別層別化による無作為抽出された3,499人、研究2は、研究3は922人である。「生きがい」スケールは17カテゴリ4因子構造で構成され、その信頼性（再現性含む）・妥当性が検証された。 岩本淳子
33. Relationship Between Swallowing Problems and Tooth Loss in Community-dwelling Independent Elderly Adults The Fujiwara-Kyo Study (地域在住高齢者の嚥下障害と歯の損失との関連) (査読付)	共 著	平成22年12月	Journal of the American Geriatrics Society 2012;60(5) p. 849-853.	地域在住高齢者3663人を対象に残歯数と嚥下障害の関係を検討した。嚥下障害は15.1% (n = 554) であった。残歯数三分位値によって分類し、多重ロジスティック回帰分析で、歯損失と嚥下障害は関係していることが明らかになった。残歯が2.04 (95%の信頼区間 (CI) = 1.60-2.60) と1.31 (95%のCI = 1.02-1.70)。残歯が少ないことは咀嚼の能力を妨げ、円滑な嚥下を傷害するため、より若い年齢から歯の損失に対する予防措置が必要であるという健康教育の課題が明らかになった。 本人担当部分：データ収集、健康教育の観点から見た考察の一部を担当した。 共著者：Nozomi Okamoto, Kimiko Tomioka, Keigo Saeki, Junko Iwamoto, Masayuki Morikawa, Akihiro Harano, Norio Kurumatani,
34. スウェーデンにおけるがん患者のターミナルケアシステム (前編) (解説)	共 著	平成23年9月	看護展望 (0385-549X) 36 巻11号 p. 1024-1031	スウェーデンのがん患者のターミナルシステムについて視察を行った。前篇ではスウェーデンのがん患者ターミナルケアシステム成立の歴史的背景を解説した。 本人担当部分：データ分析、考察 宮崎徳子 Biro Mitsuko, 岩本 淳子, 高橋 佳子
35. スウェーデンにおけるがん患者のターミナルケアシステム (後編) (解説) (2011.10)	共 著	平成23年11月	看護展望 (0385-549X) 36 巻12号 p. 1111-1119	スウェーデンのがん患者のターミナルシステムについて視察を行った。後篇では、パリアティブ・ケアの意義とASIH (Advanced Sjukvård I Hemmet) の活動を紹介した。 本人担当部分：データ分析、考察 共著者：宮崎 徳子 Biro Mitsuko, 岩本 淳子, 高橋 佳子
36. Positive Effect of Daylight Exposure on Nocturnal Urinary Melatonin Excretion in the Elderly: A Cross-Sectional Analysis of the HEIJO-KYO Study Date: 2012, Apr 4 (高齢者における日中光曝露が夜間のメラトニン分泌に与える正の影響) (査読付)	共 著	平成24年	J Clin Endocrinol Metab. 2012 Nov;97(11):4166-73. doi: 10.1210/jc.2012-1873. Epub 2012 Sep 4.	メラトニン、ガン、不眠症、落ち込み、痴呆、高血圧と糖尿病を含むいろいろな病気に関係している。メラトニンは環境の明りに影響されるが、日常的な生活における光曝露とメラトニン分泌の関連は明らかではない。そこで、地域在住高齢者192人 (平均年齢69.9歳) を対象に日常生活における光曝露とメラトニン分泌の関連を検討した。多変量解析の結果、1000ルクスの光曝露と尿6-sulfatoxymelatonin排出は有意に関連していることが明らかになった (回帰係数、0.101;95%の信頼区間、0.003-0.199;P = 0.043)。日中光曝露が多いほどメラトニンの分泌量が多いことから、日中は屋内にとどまらず外出することが健康に良い影響をあたえる可能性を示唆し、これらは健康教育のエビデンスに活用することができる。 本人担当部分：データ分析、考察 共著者：Obayashi K, Saeki K, Iwamoto J, Okamoto N, Tomioka K, Nezu S, Ikada Y, Kurumatani N.

37.生活習慣と骨量との関連に関する研究の文献検討 (査読付)	共 著	平成25年4月	医学と生物 第157巻第4号 p. 455-460	生活習慣と骨量の関連に関する文献から骨粗しょう症を予防するための具体的な方法と課題を明らかにすることを目的とした。骨量に影響する因子として運動習慣、BMIが関係していることは報告されていたが、骨量と栄養・運動の効果的な骨量増加につながる具体策は明確ではなく、今後の課題であることが示唆された。 本人担当部分：データ分析、考察 共著者：赤井由紀子，田中馨，坂口京子，高田美子， <u>岩本淳子</u> ，Daniel.T.Kirk
38.Exposure to light at night, nocturnal urinary melatonin excretion, and obesity/dyslipidemia in the elderly: a cross-sectional analysis of the HEIJO-KYO study. (高齢者における夜間の光曝露とメラトニン分泌、肥満症、脂質異常症の関連性) (査読付)	共 著	平成25年1月	J Clin Endocrinol Metab. 2013 Jan;98(1):337-44. doi: 10.1210/jc.2012-2874. Epub 2012 Nov 1.	地域在住高齢者528名を対象に夜の尿メラトニン排出と肥満/脂質異常症との関連を検討した。夜間曝露照度が平均3ルクス以上の群は、3ルクス未満の群に比べ、肥満症や脂質異常症の有病割合が1.9倍であることを認めた。夜間の低照度光曝露が肥満症や脂質異常症（高中性脂血症、高LDL血症、低LDL血症）と関連し、夜間の低照度光曝露環境が健康に良い影響を与えることが示唆されことから、夜間光環境の設定と健康との関連を示す健康教育のエビデンスとして活用できる。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Obayashi K, Saeki K, <u>Iwamoto J</u> , Okamoto N, Tomioka K, Nezu S, Ikada Y, Kurumatani N
39.Nocturnal urinary melatonin excretion is associated with non-dipper pattern in elderly hypertensives (高齢の高血圧患者における夜間のメラトニン分泌と夜間血圧の関係) (査読付)	共 著	平成25年4月	Hypertension Research 36, 736-740 (August 2013) doi:10.1038/hr.2013.20	地域在住高齢者220名を対象に光環境とメラトニン分泌量および夜間血圧低下率の関連を検討した。日中平均光曝露量とメラトニン分泌量、そしてメラトニン分泌量と夜間血圧低下率の間に正の関連を認めた。サーカディアン血圧変動因子は脳卒中や心疾患のリスク因子であり、それらを光環境の調整によって改善できる可能性が示唆された。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Obayashi K, Saeki K, <u>Iwamoto J</u> , Okamoto N, Tomioka K, Nezu S, Ikada Y, Kurumatani N
40.生活習慣と骨量との関連に関する研究の文献検討 (査読付)	共 著	平成25年4月	医学と生物 第157巻第4号 p. 455-460	生活習慣と骨量の関連に関する文献から骨粗しょう症を予防するための具体的な方法と課題を明らかにすることを目的とした。骨量に影響する因子として運動習慣、BMIが関係していることは報告されていたが、骨量と栄養・運動の効果的な骨量増加につながる具体策は明確ではなく、今後の課題であることが示唆された。 本人担当部分：分析・考察 共著者：赤井由紀子，田中馨，坂口京子，高田美子， <u>岩本淳子</u> ，Daniel.T.Kirk
41.The Hearing Handicap Inventory for Elderly-Screening (HHIE-S) versus a single question : reliability, validity, and relations with quality of life measures in the elderly community, Japan (高齢者スクリーニングのためのハンディキャップ問診票：信頼性、有効性、高齢者コミュニティにおけるQOL対策との関連) (査読付)	共 著	平成25年6月	Quality of Life Research June 2013, Volume 22, Issue 5, 1151-1159	本研究は、欧米においてその有用性が評価されているアンケート調査、HHIAを翻訳して、HHIA日本語版を作成し、「Hearing Handicap Inventory」の有用性と生活の質（QOL）を測定する尺度の信頼性・妥当性を確認したところ、高い信頼性をもつ尺度であることが示唆された。難聴の臨床における心理的評価として、社会面および感情面からのアプローチが必要であり、本研究によるスケールの活用の可能性は大きいことを明らかにした。 本人担当部分：調査の実施 データ分析 共著者：Kimiko Tomioka, Hiroki Ikeda, Kaoru Hanaie, Masayuki Morikawa, <u>Junko Iwamoto</u> , Nozomi Okamoto, Keigo Saeki, Norio Kurumatani

42. 独歩可能な地域在住高齢者の日常生活活動の関連要因 —大規模コホート研究(藤原京スタディ) ベースライン健診結果— (査読付)	共著	平成25年4月	日本衛生学雑誌, Vol68, 2013 p.22-32.	地域在住高齢者を対象にした健診結果を用いて、文部科学省新体力テストADL調査票の基本特性を明らかにするとともに、ADLよりも高次の日常生活活動に関連する要因を検討した。ADL低状態には低い身体能力と身体機能だけでなく、痛みの存在や視覚・聴覚機能低下の自覚、抑うつ状態、低い認知機能、低身体活動量、過体重が互いに独立して関連していることが示唆されたことから、ADL低状態の活動運動を支援する取り組みにはこれらの要因をふまえた対策が必要であることが明らかになった。 本人担当部分：調査実施、データ分析 共著者：小松雅代、根津智子、富岡公子、羽崎完、原納明博、森川将行、高木正博、山田全啓、松本善孝、岩本淳子、石塚理香、佐伯圭吾、岡本希、車谷典男。
43. Influence of room heating on ambulatory blood pressure in winter: a randomised controlled study. (冬季に暖房装置が血圧へ及ぼす影響) (査読付)	共著	平成25年6月	J Epidemiol Community Health. 2013 Jun;67(6):484-90. doi: 10.1136/jech-2012-201883. Epub 2013 Feb 27.	高齢者を対象に温熱環境と血圧モーニングサージの関連および光環境、メラトニン分泌量と夜間血圧降下率の関連を検討した。本研究の結果、離床後曝露温度と血圧モーニングサージの間に負の関連を認め、日中平均光曝露量とメラトニン分泌量の間に正の関連を認め、更にメラトニン分泌量と夜間血圧降下率の間に正の関連を認めた。本研究の結果は脳卒中や心疾患のリスク因子であるサーカディアン血圧変動を温熱環境および光環境という普遍性の高い要因を調整することで改善できることが示唆され、健康教育のエビデンスとして活用できる。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Saeki K, Obayashi K, Iwamoto J, Tanaka Y, Tanaka N, Takata S, Kubo H, Okamoto N, Tomioka K, Nezu S, Kurumatani N.
44. Exposure to light at night and risk of depression in the elderly. J Affect Disord. (高齢者における夜間光曝露とうつ病の危険性) (査読付)	共著	平成25年10月	J Affect Disord. 2013 Oct;151(1):331-6.	高齢者の光曝露環境がうつ病と関連するかを検討した。夜間平均光曝露量が5 lux以上の群の「うつ病」に対する粗オッズ比は1.77 (95% 信頼区間: 1.22 to 2.58) と有意に高かった。さらに、性、年齢調整したオッズ比も1.80 (1.23 to 2.63) と有意な関連を認めた。夜間低照度光曝露がうつ症状の原因になるとする宮田季美恵ら (The Impact of Retinal Thickness on Actigraphic Sleep Quality in the Elderly: A Cross-sectional Analysis of the HEIJO-KYO Study.) の結果と一致したことから、夜間照明を調整するという生活習慣の改善により、うつ病予防できる可能性が示唆されたという点で健康教育のエビデンスとして活用する意義は大きい。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Obayashi K, Saeki K, Iwamoto J, Ikada Y, Kurumatani N.
45. The relationship between indoor, outdoor and ambient temperatures and morning BP surges from inter-seasonally repeated measurements (季節間の反復測定による屋内外の温度と血圧モーニングサージとの関係) (査読付)	共著	平成25年4月	J Hum Hypertens. 2014 Aug;28(8):482-8. doi: 10.1038/jhh.2014.4. Epub 2014 Feb 20.	地域在住高齢者192人を対象に住居の温度(リビングルームとベッドルーム)と24時間血圧を測定し、両者の関連を検討した。血圧モーニングサージと曝露温度は、年齢、BMI、喫煙状況、身体活動量に独立して有意な負の相関を認めたことから、脳卒中のリスクファクターである血圧モーニングサージを室温のコントロールによって抑制できる可能性が示唆された。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：K Saeki, K Obayashi, J Iwamoto, N Tone, N Okamoto, K Tomioka and N Kurumatani

46. Stronger association of indoor temperature than outdoor temperature with blood pressure in colder months. (冬季の室内温度は外気温よりも血圧に強く関与する) (査読付)	共 著	平成25年5月	J Hypertens. 2014 Aug;32(8):1582-9. doi: 10.1097/HJH.0000000000000232.	地域在住高齢者868人を対象に、3日間連続して室内及び室外の気温と24時間の血圧を測定した。これまでの疫学研究では冬季に心疾患や脳卒中による死亡が増加し、他の季節に比べて総死亡の相対危険が1.2~1.3に上昇する冬季過剰死亡が認められているが、今回の結果は、単変量線形回帰モデルにおいて、睡眠トラフ血圧モーニングサージと曝露温度は有意な関連を認めた。さらに多変量マルチレベル線形回帰モデルにおいて、曝露温度はABPM の繰り返し測定の順序、年齢、BMI、喫煙状況、身体活動量に独立して、睡眠トラフ血圧モーニングサージと有意な負の相関を認めたことから、脳卒中のリスクファクターである血圧モーニングサージを室温のコントロールによって抑制できる可能性が示唆された。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Saeki K1, Obayashi K, <u>Iwamoto J</u> , Tone N, Okamoto N, Tomioka K, Kurumatani N.
47. Independent associations of exposure to evening light and nocturnal urinary melatonin excretion with diabetes in the elderly. 高齢者における光曝露と夜間の尿中メラトニン排泄と糖尿病 (査読付)	共 著	平成26年	Chronobiol Int. 2014; 31:394-400.	光曝露が生体に及ぼす影響に関する研究は、動物実験やヒトを対象にした小規模な実験研究に限られており、大規模な疫学研究は行われていなかった。本研究では、2010年に開始した平城京コホースタディの追跡調査で、光曝露が健康指標や疾病発症に及ぼす影響を検討した。主な研究結果として、起床後の光曝露の減少や就寝前の光曝露の増加がBMIなどの肥満指標を増加させることや糖尿病の発症が増加することを明らかにした。本人担当部分：調査実施 共著者：Obayashi K, Saeki K, Iwamoto J, Ikada Y, Kurumatani N.
48. Lower melatonin secretion in older females: gender differences independent of light exposure profiles. (高齢女性における低メラトニン分泌：光曝露と独立したメラトニン分泌の性別差) (査読付)	共 著	平成27年5月	J Epidemiol. 2015;25(1):38-43. doi: 10.2188/jea.JE20140035. Epub 2014 Sep 13.	地域在住高齢者528人を対象にメラトニン分泌量の性差による違いを検討した。光曝露量と夜間尿の尿6-sulfatoxymelatonin excretion (UME; an index of melatonin secretion), 排出 (UME;メラトニン分泌) と測定し、メラトニン分泌量は女性が男性より18.4%が低いことが明らかになった。この調査結果は、今後高齢者のメラトニンと関連したいくつかの病気や健康障害の性差を調査するための基本データとして有効な結果が得られたといえる。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Saeki K1, Obayashi K, <u>Iwamoto J</u> , Tone N, Okamoto N, Tomioka K, Kurumatani N.
49. Stronger association of indoor temperature than outdoor temperature with blood pressure in colder months.(査読付)	共 著	平成28年	J Hypertens. 2014; 32:1582-1589.	血圧モーニングサージは24時間血圧とは独立した心血管疾患の危険因子である。192名の自由行動下血圧、室温(居間、寝室)、アクテグラフを用いた身体活動量の同時測定を48時間×2季節(冬および春 or 秋)行い、768人・時間のデータを得た。外気温と居間の室温の相関を検討したところ、朝の外気温が中央値より高い日に比べて外気温の低い日には両者の相関が低下し、単変量および多変量回帰モデルを比較すると、外気温情報のみを用いた先行研究に比べて、室温情報を付加した分析は、血圧変動をより正確に予測していることを明らかにした。本人担当部分：調査実施 健康教育への活用についての分析 共著者：Saeki K, Obayashi K, Iwamoto J, Tone N, Okamoto N, Tomioka K, Kurumatani N.

50. Melatonin Secretion and Muscle Strength in Elderly Individuals: A Cross-Sectional Study of the HEIJO-KYO Cohort (高齢者におけるメラトニン分泌と筋力の関係) (査読付)	共 著	平成28年9月	J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2016 Sep;71(9):1235-40. doi: 10.1093/gerona/glw030. Epub 2016 Mar.	地域在住高齢者760人を対象に尿6-fatoxymelatonin排出 (UME) と握力と四頭筋の強さの関連を検討した。尿中メラトニンの平均は7μg、握力と四頭筋 握力の平均は27.5±8.4Kg 大腿四頭筋の平均は162.6±80.1nmで、メラトニン値を四分位で分けると、一番高いグループは握力・大腿四頭筋力ともに筋力が高い値をしめした。これはBMI、喫煙、飲酒、腎臓の機能、高血圧、糖尿病、身体活動、うつ気分、認知機能障害、睡眠時間、睡眠の質、日長時間で調整してもメラトニンの分泌量の最も少ない群と多い群では、握力と大腿四頭筋の強さに有意な差がみられ、酸化ストレスと炎症が筋力の低下にかかわっているが、メラトニンは抗酸化や抗炎症化の作用を介して筋力の低下を予防することが示唆された。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Saeki K1, Obayashi K, Iwamoto J, Tone N, Okamoto N, Tomioka K, Kurumatani N.
51. Melatonin Secretion and Muscle Strength in Elderly Individuals : A Cross-Sectional Study of the HEIJO-KYO Cohort 高齢者におけるメラトニン分泌と筋力の関係 (査読付)	共 著	平成28年10月	J Gerontol A Biol Sci Med Sci. 2016 Sep;71(9):1235-40. doi: 10.1093/gerona/glw030. Epub 2016 Mar 2.	地域在住高齢者760人を対象に尿6-fatoxymelatonin排出 (UME) と握力と四頭筋の強さの関連を検討した。尿中メラトニンの平均は7μg、握力と四頭筋 握力の平均は27.5±8.4Kg 大腿四頭筋の平均は162.6±80.1nmで、メラトニン値を四分位で分けると、一番高いグループは握力・大腿四頭筋力ともに筋力が高い値を示した。これはBMI、喫煙、飲酒、腎臓の機能、高血圧、糖尿病、身体活動、うつ気分、認知機能障害、睡眠時間、睡眠の質、日長時間で調整してもメラトニンの分泌量の最も少ない群と多い群では、握力と大腿四頭筋の強さに有意な差がみられ、メラトニンは抗酸化や抗炎症化の作用を介して筋力の低下を予防することが示唆された。 本人担当部分：調査実施、健康教育への活用に関する分析 共著者：Saeki K2, Obayashi K, Iwamoto J, Tone N, Okamoto N, Tomioka K, Kurumatani N.
52. Gender differences in the association between melatonin secretion and diabetes in elderly: the HEIJO-KYO cohort. 高齢者の夜間光曝露量とメラトニン分泌、糖尿病の発症率の関係：平城京コホート。	共 著	平成28年8月	Clin Endocrinol. 2018; 89:750-756.	高齢者の自宅寝室へ照度計を設定し、2晩の平均照度を算出した。42ヶ月の追跡期間中に血液検査で糖尿病の診断に至った人を除く670名のうち19人が糖尿病を発症した。分析では糖尿病の新規発症者を従属変数、ベースライン時の夜間光曝露量を独立変数としてポアソン回帰分析を行ったところ、糖尿病の粗発症率は夜間光曝露利用が多い群と少ない群では、夜間光曝露量の多い群が少ない群より有意に高く、カットオフ値として設定した分析でも同様の結果を確認した。 本人担当部分：調査実施、健康教育に活用する部分の分析 共著者：Obayashi K, Yamagami Y, Iwamoto J, Kurumatani N, Saeki K.
53. Decreased daytime light intensity at non-window hospital beds: comparisons with light intensity at window hospital beds and light exposure in non-hospitalized elderly individuals. 非窓側病床における日中光量の減少：病院の窓側ベッドの光量と在宅高齢者の日中光曝露の比較	共 著	平成30年1月	Chronobiol Int. 2018; 35:719-723.	入院中の転倒は外傷や骨折の原因になるだけでなく、在院日数の増加やそれに伴う医療費の増加にも関連する。高齢者の病院内転倒の危険因子として、睡眠障害・うつ症状・認知機能障害が重要であることから、生体リズムに最も影響を与える環境因子である光に着目し、病室の窓側病床と廊下側病床で病院内転倒発生に差があるかを検討した。主な研究結果として、病院の25病室で120日間測定した日中平均照度は窓側病床で廊下側病床より有意に高く、窓側病床群の病院内転倒発生率は廊下側病床群より有意に低いことを確認した。さらに自宅で生活する高齢者(1113名)の光曝露量と比較して、非窓側病床の日中光照度は有意に低く、窓側病床は家庭環境と差がないことを明らかにした。 本人担当部分：調査実施、分析、論文作成 共著者：Iwamoto J, Obayashi K, Kobayashi M, Kotsuji T, Matsui R, Ito K, Yoshida O, Kurumatani N, Saeki K.

54. Gender differences in the association between melatonin secretion and diabetes in elderly: the HEIJO-KYO cohort.	共 著	平成30年	Clin Endocrinol. 2018; 89:750-756.	メラトニンとは膵島を保護し、インスリン抵抗性を低下させ、糖尿病の予防に貢献する可能性がある。メラトニン分泌の低下が女性看護師の糖尿病の発症率の上昇と関連していることは一般の人々には知られていない。本研究ではメラトニン分泌と糖尿病との関連を1096人、高齢男性 (n = 519) と女性 (n = 577) (平均年齢71.8歳) で一晩の尿中6-スルファトキシメラトニン排泄 (UME) を用いて糖尿病の有病率を測定した。その結果、UMEの中央値は6.7 μ g (四分位範囲、4.0-10.5)、糖尿病の有病率は男性で17.5%、女性で10.7%で、糖尿病の有病率は、男性のUME四分位数の増加とともに減少したが (傾向のP = 0.009)、女性では減少しなかった (傾向のP = 0.96)。年齢、喫煙と飲酒の習慣、経済状態、カロリー摂取量、身体活動などの潜在的な交絡因子を調整する多変数ロジスティック回帰分析で、糖尿病のオッズ比 (OR) は最高のUME四分位数グループと比較して有意に低かったことから、メラトニン分泌は男性では糖尿病と有意かつ逆に関連していたが、女性では関連していなかったことが明らかになった。 共著者: Obayashi K, Yamagami Y, Iwamoto J, Kurumatani N, Saeki K.
55. Objectively measured physical activity relates to nighttime blood pressure in older adults: cross-sectional analysis in the HEIJO-KYO cohort. 身体活動と夜間血圧の関連 (査読付)	共 著	令和2年4月	J Hypertens. 2020 Apr;38(4):649-655.	高齢者1100名を対象にアクチグラフを用いて平均夜間SBPとDBPはそれぞれ115.9mmHg (SD, 16.2) および67mmHg (8.6) であり、平均昼間の身体活動は299.2カウント/分 (104.3) であった。昼間の身体活動と夜間血圧の関係を検討したところ、昼間の身体活動強度と夜間血圧の低さと降圧剤を服用しないサブグループにおいても有意な関連が見られた。 本人担当部分: 調査実施、健康教育に活用する部分の分析 共著者: Yamagami Y, Saeki K, Tai Y, Maegawa T, Iwamoto J, Kataoka H, Kurumatani N, Obayashi K
56. Lower incidence of in-hospital falls in patients hospitalised in window beds than non-window beds. 窓側病床と院内転倒の関係 (査読付)	共 著	令和2年4月	J Am Med Dir Assoc. 2020 Apr;21(4):476-480.	高齢者が入院すると日中の光曝露は病室環境に強く依存するため、体内時計の乱れを引き起こし、入院中に発生する転倒の原因になっているのではないかと。この研究仮説を検証するために、まず病室の明るさに関する調査を行った。その結果、窓側病床は廊下側病床より日中平均照度は約3倍有意に高く (327.9ルクス vs. 118.4ルクス)、窓側病床の日中照度は在宅高齢者の日中曝露照度 (337.3 lux) と同等であった。さらに患者電子カルテ情報後向き研究を行った結果、窓側病床に入院した患者の病院内転倒率は、廊下側病床に入院した患者より有意に低いことを明らかにした (発生率比, 0.61; 95%信頼区間, 0.47-0.79)。本論文はJAMDAソーシャルメディアサイトでSNSに取り上げる対象に選ばれた。 本人担当部分: 研究代表者、調査の実施、データ管理・分析 共著者: Iwamoto J, Saeki K, Kobayashi M, Yamagami Y, Yoshida O, Kurumatani N, Obayashi K*
(その他) 「研究助成報告書」 1. 橿原市役所健康福祉部健康増進課国保事業報告書	共 著	平成14年3月	橿原市発行 A4判全132頁	老人保健法に基づく基本健康診査等受診対象者数の推定に関する事業報告書を作成した。本人担当部分: データー入力と解析、本人担当部分: データー入力と解析、共同発表者: 車谷典男、岩本淳子

2. 橿原市総合健康指導事業報告書	共	著	平成14年3月	橿原市発行 A4判全178頁	平成14年度、奈良県橿原市の住民を対象に実施した生活習慣、健康状態、健康づくりに関する調査結果と今後における保健予防事業の課題について事業報告書を作成した。 本人担当部分：データー入力と解析、 共同発表者：共著者：岩本淳子、車谷典男、松村喜世子
3. 橿原市高齢者健康指導事業報告書	共	著	平成14年3月	橿原市発行 A4判全56頁	平成14年度に実施した奈良県橿原市高齢者健康指導事業（健康・生きがい調査）の結果と今後における高齢者健康指導事業の課題について事業報告書を作成した。 本人担当部分：データー入力と解析、共同発表者：共著者 ：松村喜世子、岩本淳子、車谷典男
4. 橿原市総合健康指導事業報告書	共	著	平成16年3月	橿原市発行 A4判全105頁	平成15年度に実施した奈良県橿原市総合保健指導事業（運動指導事業の評価）の事業報告書を作成した。本人担当部分：運動習慣とQOLの関係について報告した。 共著者：尾形希、岩本淳子、車谷典男 中谷敏昭
5. 橿原市総合健康指導事業報告書	共	著	平成17年3月	橿原市発行 A4判全60頁	平成16年度に実施した奈良県橿原市総合保健指導事業（運動継続と非運動継続による健診成績への影響）について分析し、事業報告書を作成した。本人担当部分：運動継続と非継続者のBMIの変化について分析し、報告した。 共著者：岩本淳子、車谷典男、尾形希
6. 橿原市高齢者健康指導事業報告書	共	著	平成19年4月	橿原市発行 A4判全42頁	平成14年度に実施した奈良県橿原市高齢者健康指導事業（健康・生きがい調査）の対象者を追跡調査した。調査内容は4年間の死亡状況と生きがいの定量的評価を行い、事業報告書を作成した。本人担当部分：研究計画、調査、データの解析・考察 共著者：岩本淳子、車谷典男、岡本希
7. 奈良県立医科大学住居医学研究助成報告集（査読付）	共	著	平成19年4月	奈良県立医科大学住居医学教室発行 A4判全52頁	地域在住高齢者男女3400名を研究のベースライン調査の概要を報告した。調査内容はベースライン調査では生活習慣、社会参加、健康関連QOL、認知機能、運動機能、骨粗しょう症、生きがい、咀嚼機能、住居環境の他で、元気な高齢者のゲンキな秘訣を探っている。 本人担当部分：高齢者の生きがいと外出頻度との関係について報告した。 主任研究者：車谷典男 共同研究者：岡本希、岩本淳子、富岡公子、羽崎完、原納明博、森川将之、天野信子、柳元和
8. 奈良県立医科大学住居医学研究助成報告集	共	著	平成20年4月	奈良県立医科大学住居医学教室発行A4判47頁	地域在住高齢者男女980名を対象とした5年間のコホート研究のベースライン調査の概要を報告した。調査内容は生活習慣、社会参加、健康関連QOL、認知機能、運動機能、骨粗しょう症、生きがい、咀嚼機能、住居環境の他で、元気な高齢者のゲンキな秘訣を探っている。 本人担当部分：高齢者の生きがいと健康状態との関係について報告した。 主任研究者：車谷典男 共同研究者：岡本希、岩本淳子、富岡公子、羽崎完、原納明博、森川将之、天野信子、柳元和
9. 患者に安全・安心を提供するための待合環境調査と交差感染防止に関する研究	共	著	平成21年12月	奈良県立医科大学住居医学大和ハウス寄附講座発行 A4判全86頁	仕切りがなく広い待合スペースでは交差感染のリスクが懸念されているが、詳細な結果は見当たらない。そこで、空調設備による風向やフィルタの機能の現状を把握し、6m×25mの広さの待合室の浮遊粒子と座り位置、立ち位置の高さでエアースンプラによる空中粉塵を採集し細菌培養を行った。その結果、冬季より夏季の方が、外来患者の数が多くなるほど細菌数は多くなった。 本人担当部分：測定およびデータ解析。 共著者：徳谷純子、古西満、殿村雅弘、御守里絵、岩本淳子

10. 療養環境の清潔管理に関する細菌学的検討	共 著	平成21年12月	奈良県立医科大学住居医学大和ハウス寄附講座発行 A4判全87頁	化学療法を受ける患者・家族が安全・安楽に治療を受けるための療養環境を提供できるよう、落下細菌、浮遊細菌、付着細菌、ダニアレルゲンの定性的・定量的評価を実施した。その結果、付着細菌で高頻度に接触する面において日和見細菌が検出され、さらに、これまでは家庭でよく知られているダニアレルゲンは、長期間使用した寝具ほど数値が高くなる（未使用：0.07 μ g/gダストに対して1ヶ月使用後の敷布団では11.4 μ g/gダスト）傾向が見られた。本人担当部分：外来化学療法室でダニ被害が発生すると化学療法の副作用である皮膚障害との鑑別が困難で化学療法が中断される恐れがあるため、療養環境におけるダニ対策は一般家庭と同様に十分な対応が必要であることを報告した。 共著者：木村道子、岩本淳子、御守里絵
11. 放射線治療病室の室内環境の改善に関する研究	共 著	平成20年12月	奈良県立医科大学住居医学大和ハウス寄附講座発行 A4判全88頁	放射線治療病室を有する全国108施設を対象に密封小宣言治療病室及びアイソトープ治療病室の環境について任意の自記式アンケート調査を実施した。その結果、室内の照明、室温、香りなどに課題が生じた。そこで、治療病室における患者の反応を自律神経機能の測定や先行研究で妥当性・信頼性が明らかになった調査票を用いて調査した。その結果、自律神経機能では低周波数成分（LF:Low Frequency）の副交感神経活動を示すHF波は治療室では有意に低く、交換神経活動を示す（LF/HF）指標が高くなり、8-OH-dG（クレアチニン補正）でも同様の傾向が確認された。本人担当部分：治療病室使用時の対策を講じる必要性を考察した。 共著者：安藤英次、上野山文男、村上能庸、岩本淳子
12. 高齢者の1日歩数と身体機能および健康関連QOLに関する横断研究－適正歩数設定の試み－ （査読付）	共 著	平成21年3月	明治安田厚生事業団助成 平成20年度報告書A4判 128頁	健康な地域在住高齢者にライフコーダー（スズケン社製）を用いて65歳以上の男女235名の連続4週間の歩数を計測した。また国際標準化身体活動質問票（IPAQ）日本語版Short Version と歩行時間に関する質問票（WTQ）から得られた結果と歩数との関係を分析し、地域在住高齢者を対象にしたIPAQの信頼性・妥当性を検討し事業報告書を作成した。本人担当部分：データの解析・考察 共著者：富岡公子、羽崎完、岩本淳子
13. 奈良県立医科大学住居医学研究助成報告集 （査読付）	共 著	平成21年3月	奈良県立医科大学住居医学教室発行A4判72頁	地域在住高齢者男女4500名を対象とした5年間のコホート研究のベースライン調査から1年後のフォローアップ調査結果の概要を報告した。本人担当部分：高齢者の閉じこもりの要因の解析と報告書の作成を担当した。 主任研究者：車谷典男 共同研究者：岡本希、岩本淳子、富岡公子、羽崎完、原納明博、森川将之、天野信子、柳元和
14. 幼児期の家庭内喫煙による室内大気汚染環境についての研究 （査読付）	共 著	平成22年3月	奈良県立医科大学住居医学教室発行 A4版67頁	子どもの両親および同居家族からの受動喫煙による曝露の実態を把握し、その検査結果を返すことによって行動変容ステージが変化するか否かを確認することを目的に、3歳以上の幼稚園児145名の尿中コチニンの測定を行い、その両親を対象に家庭内における喫煙の自己記入式アンケートと実態調査を行った。両親および同居家族の喫煙者の割合は58.1%で、そのうち、尿中コチニン10mg/ml- $\geq$ 40mg/dlの子どもは22.6%であった。喫煙場所は約80%が台所、ベランダ、車内で台所と車内で子どものコチニン値が有意に高く、受動喫煙の更なる啓発の必要性が考えられた。禁煙の意識は、コチニンのバイオマーカーの測定結果をフィードバックすると、無関心期の人の約40%にステージの上昇が認められ、禁煙意識の導入の可能性示唆された。本人担当部分：データ収集・解析 共著者：坂東春美、岩本淳子、濱田 薫、吉田亨

15. 就寝中および起床後血圧に及ぼす室温の研究に関するランダム化比較試験 (査読付)	共 著	平成22年4月	奈良県立医科大学住居医学教室発行 A4版48頁	「10℃の室温の低下は、被験者の着衣および寝具による調整を行った条件でも、血圧の上昇、モーニングサージの上昇を引き起こすか」という仮説を検証するため無作為化比較試験を実施した。被験者を寒冷群、適温群に単純無作為割り付けし、就寝前2時間から起床後2時間までの室温を介入としてABPMを用いて測定した血圧から①Evening BP (就寝前2時間平均収縮期血圧)、②Pre-awake BP (起床前2時間平均収縮期血圧)、③Morning BP (起床後2時間平均収縮期血圧)、④Lowest BP (就寝中最低血圧値とその前後30分の平均値)、⑤Pre-awake MBPS (Morning Blood Pressure Surge) : ②-④、⑤sleep trough MBPS : ③-④、⑥Nocturnal BP fall : ①-④を算出し、比較し、冬季の部屋の暖房は、血圧上昇の抑制に有用であることが示された。本人担当部分：データ収集、解析 共著者：佐伯圭吾、岩本淳子、田中紀之
16. 奈良県立医科大学住居医学研究助成報告集 (査読付)	共 著	平成22年3月	奈良県立医科大学住居医学教室発行A4判54頁	地域在住高齢者男女4500名を対象とした5年間のコホート研究のベースライン調査から2年後のフォローアップ調査結果の概要を報告した。本人担当部分：高齢者の骨折と骨密度及び生活習慣の関係について解析し、報告書の作成を担当した。 主任研究者：車谷典男 共同研究者：岡本希、岩本淳子、富岡公子、羽崎完、原納明博、森川将之、天野信子、柳元和
17. 地域在住高齢者の家庭内孤立による孤独感の実態と日常生活への影響に関する研究 (査読付)	共 著	平成22年3月	大阪ガスグループ福祉財団研究・調査助成報告書 平成22年6月A4判183頁	家族と同居する高齢者の孤独感に焦点を当て、孤独感が日常生活の質 (QOL) に及ぼす影響、および孤独感を規定する因子について明らかにすることを目的に自記式アンケート調査を行った。調査対象は、独歩可能な65歳以上の高齢者であり、875名からの回答を分析対象とした。結果として、家族形態と孤独感との関連については、男女ともに有意な値は認められなかったが、抑うつや主観的QOLを含む多くの指標において、家族同居高齢者で孤独感が高い人の水準が最も低く、次いで独居高齢者であり、孤独感の低い家族同居高齢者の水準が最も良好であった。同居高齢者の高い孤独感を規定する要因として、有意な関連を示したのは老研式活動能力指標と、配偶者以外の家族からのサポート、友人からのサポートの3変数であった。本人担当部分：研究計画、調査、解析、考察 共著者：岩本淳子、坂口幸弘、富岡公子、車谷典男
18. 竹っ鶏卵の特性 一細菌・形状・栄養成分の解析一	共 著	平成22年4月	環境省「循環型社会地域支援事業」平成21年度報告書	自然との共生を図りながら、人間社会における物質循環を健全なものにすることで、持続的な社会が実現されることを目指す、「第2次循環型社会形成推進基本計画」(以下「新計画」という)に基づく「循環型社会」(3R=リデュース・リユース・リサイクルによる資源循環)、「低炭素社会」(温室効果ガス排出量の大幅削減)、「自然共生社会」(自然の恵みの享受と継承)への取組が推進され、四日市大学の「四日市大学エネルギー環境教育研究会」では、循環型社会の形成に向けて「竹鶏物語〜3Rプロジェクト」に取り組んでいる。産学官の連携で、生ごみに竹粉を混ぜて鶏の飼料を作り、鶏糞は肥料にしては竹の野菜栽培に活用、卵や野菜は地域や市場に戻り循環する実践モデルの開発と評価が期待されている。そこで、私たちは米唐竹粉末含有飼料の養鶏卵と標準配合飼料による養鶏卵の細菌・形状・栄養成分を解析し、その結果をまとめ報告した。本人担当部分：すべて 岩本淳子、赤井由紀子、新田義孝、矢口芳枝、田代義光

19. 早朝光照射の色温度が覚醒に及ぼす影響に関する研究	共 著	平成22年9月	奈良県立医科大学住居医学教室発行 A5版	起床直後より曝露される照明の色温度が唾液 中メラトニン濃度に及ぼす影響を確認した。 5000Kの照明または12000Kの照明に起床直後より 曝露された場合、5000K条件に比べて12000K条件 の方が唾液メラトニン分泌や眠気が抑制され、 集中力や作業効率が改善された。 起床後に高色温度の光環境を作ることにより、 生活者の朝の目覚め感を向上させる住居環境の 開発に資することを報告した。 本人担当部分：データの解析・考察 共著者：福田映子、田中紀之、<u>岩本淳子</u>、篠義 人、佐伯圭吾
20. An Inadequately Heated Environment Increases Morning Blood Pressure and Morning Blood Pressure Surge in Winter : A Randomized Controlled Trial (冬季における不適切な温度環境は午前中の血圧と血圧サージを上昇させる)	共 著	平成22年11月	American Heart Association 2010.11.01 (America)	「10℃の室温の低下は、被験者の着衣および寝具 による調整を行った条件でも、血圧の上昇、 モーニングサージの上昇を引き起こすか」という 仮説を検証するため無作為化比較試験を実施し た。被験者を寒冷群、適温群に単純無作為割り 付けし、就寝前2時間から起床後2時間までの室 温を介入としてABPMを用いて測定した血圧から ①Evening BP (就寝前2時間平均収縮期血 圧)、②Pre-awake BP (起床前2時間平均収縮期 血圧)、③Morning BP (起床後2時間平均収縮期 血圧)、④Lowest BP (就寝中最低血圧値とその 前後30分の平均値)、⑤Pre-awake MBPS (Morning Blood Pressure Surge) : ②- ④、⑤sleep trough MBPS : ③-④、⑥ Nocturnal BP fall : ①-④を算出し、比較し た。群の室温差は9.9℃に対し、寒冷群では有意 に上昇した。Lowest BPでは両群に差を認めな かった。Sleep trough MBPS は寒冷群では適温 群より有意に大きかった。Pre-awake MBPSは拡張 期血圧のみ有意に上昇したことから、冬季の 部屋の暖房は、血圧上昇の抑制に有用であるこ とが示された。 本人担当部分：調査、データ入力・分析 共著者：佐伯圭吾、大林賢治、田中紀之、<u>岩本 淳子</u>、岡本希、富岡公子、車谷典男
「学会発表」省略				

教 育 研 究 業 績 書

令和 7年 3月 31日

氏名 阪元 勇輝

研 究 分 野		研究内容のキーワード	
環境学、プロセス工学		環境影響評価・環境政策、環境技術・環境材料、化学物質影響科学、反応工学・プロセスシステム、エネルギー学	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例			
マルチメディア機器を利用した講義等		平成 17 年 4 月 ～現在に至る	奈良学園の高等教育において、学生に対して、より環境問題や関連する実験等の重要性の理解を深めるため、視覚効果（画像・映像）を利用して、学習効果を高めた。摘要科目としては、「生活と環境」、「環境科学」や「実験で学ぶ科学」、他において、DVD 映像や PC 上での食物連鎖のシミュレーション等。
2 作成した教科書，教材			
1) 環境関連講義用教科書		平成 17 年 4 月 ～現在に至る	奈良学園の高等教育および他大学において、環境関連の講義用教科書を作成した。環境関連の教科書は一般的に専門性が高いため、より平易な教科書を各関係テーマに応じて作成し、学習効果を高めた。摘要科目：環境科学、環境論、環境政策論、地域環境論、他
2) 環境関連講義用補助教材		平成 17 年 4 月 ～現在に至る	奈良学園の高等教育および他大学において、環境関連の補助教材を作成した。特に環境問題に関して、視覚効果（環境破壊の画像・ビデオ等）を利用し、より学習効果を高めるための補助教材を作成し、学習効果を高めた。摘要科目：環境科学、環境論、生活と環境、他
3 当該教員の教育上の能力に関する大学等の評価			
特記事項無し			
4 実務家教員についての特記事項			
1) 事業者、団体および地方行政職員・議員に対する環境関連のセミナーおよび講演		平成 11 年 4 月 ～現在に至る	多くの環境関連のセミナーおよび講演を行っている。詳細は、（公的招待講演会・セミナー発表等）を参照。
2) 関西大学客員研究員（先端科学技術推進機構）		平成 12 年 4 月 ～平成 16 年 3 月	客員研究員として左記大学において、学生の卒業研究および修士研究の研究指導・補助に従事し、卒業論文および修士論文の作成に寄与した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項			
事 項		年 月 日	概 要
1 資格，免許			
1) 工学修士		昭和 59 年 3 月 31 日 授与	固体系アンモニア化物を用いた蓄熱装置に関して、それらの反応特性および熱力学的物性に関して纏めた。
2) エネルギー管理士（経済産業省）		平成 6 年 5 月	エネルギーシステム全てにおいて管理が可能あることを認められている。
3) 環境カウンセラー：事業者・市民両部門（環境省）		平成 11 年 4 月	環境全般に関して、事業者および市民に対してカウンセリング可能あることを認められている。

4) 国際環境アドバイザー（経済産業省）	平成 11 年 10 月	国際的に環境に関するアドバイスが可能であることを認められている。
5) 新エネルギー有識者（NEDO:新エネルギー・産業技術総合開発機構）	平成 12 年 3 月	新エネルギーに関する知見を有していることを公式的に認められている。
6) 博士（工学）	平成 12 年 9 月 21 日 授与	ライフサイクルアナリシスによる省エネルギーおよび炭酸ガス削減技術の評価に関して論文として纏めた。
7) 環境マネジメントシステム・エコアクション 21（EA21）審査人（環境省）	平成 16 年 4 月	環境省の環境マネジメントシステム EA21 の審査することが環境省より公式的に認められている。
8) 環境社会検定（eco 検定）（東京商工会議所）	平成 19 年 12 月	様々な環境問題に関して幅広い知識を有していることを認定されている。
他、多数）危険物取扱者（甲種）、毒物劇物取扱責任者、他		左記のように多様な環境関連の資格を有している。
2 特許等		
磁気記録媒体に関する特許複数出願・所有	平成 2 年～	阪元 勇輝（筆頭）、他：現在存続期限終了
3 実務家教員についての特記事項		
1) 日立マクセル株式会社（現マクセル） 研究開発部	昭和 59 年 4 月～平成 9 年 3 月	主として、磁気メディアの研究開発に従事し、高密度磁気記録媒体としてデジタルオーディオおよびビデオテープの研究開発を行った。（主任研究員）
2) ・財団法人地球環境産業技術研究機構（RITE）：地球環境システム研究室 LCA 研究員、化学的 CO2 固定化プロジェクト研究員、生分解性プラスチックプロジェクト研究員等 兼務 ・通商産業省「地球環境産業技術開発」招聘プロジェクト研究員 兼務	平成 7 年 9 月～平成 11 年 12 月	通産省の環境プロジェクトに招聘研究員として参加し、主として、複数の国家プロジェクトの環境保全技術の研究開発およびその技術評価に従事し、ライフサイクルアセスメント（LCA）による評価手法の開発やそれらを用いた環境技術の評価を行った。
3) 関西大学 先端科学技術推進機構 客員研究員	平成 12 年 4 月～平成 16 年 3 月	客員研究員として自らの環境に関する研究を行うとともに卒業研究および修士研究に従事し、卒業論文および修士論文の作成に寄与した。
4) 奈良県庁 技術アドバイザー	平成 12 年 12 月～平成 24 年 3 月	奈良県商工労働部の技術アドバイザーとして奈良県内の企業に対して、新しい技術の導入の推進を目的にアドバイスを行った。
5) 大阪市役所（財）大阪市産業創造館 環境プロジェクト アドバイザー	平成 13 年 2 月～平成 16 年 3 月	大阪市内において、環境保全を推進するとともに新しく環境ビジネスを創業するあるいは現在の環境ビジネスをさらに発展させる企業に対してのアドバイスや評価を行った。
6) NPO 法人奈良県環境カウンセラー協会 理事	平成 13 年 3 月～現在に至る	環境省環境カウンセラーの奈良県の協会を設立し、設立時より理事として現在まで運営に従事している。
7) 奈良県庁 環境アドバイザー	平成 13 年 3 月～現在に至る	奈良県環境政策課の環境アドバイザーとして奈良県内の企業に対して環境保全技術、省エネルギー技術および新エネルギー技術の指導を行っている。
8)（社）省エネルギーセンター エネルギー使用合理化専門員	平成 15 年 10 月～現在に至る	様々な規模および業種の企業に対して、省エネルギーを推進するために評価および指導を行っている。
9)（社）産業環境管理協会（現（一社）サステナブル経営推進機構）エコリーフ環境ラベル制度 検証評価委員	平成 18 年 4 月～平成 24 年 4 月	国際規格にも準拠している日本のタイプ III 環境ラベル制度であり、当該制度において、事業者の環境ラベルを第三者の評価委員として認定を行っている。

10) 経済産業省（他３省合同：環境省、農林水産省および国土交通省）カーボンフットプリント試行制度評価パネル委員	平成 21 年 4 月～平成 24 年 3 月	4 省合同の国家プロジェクトである我が国の CO2 削減プロジェクトの検証制度の評価員として制度の枠組みおよび評価基準の策定に努めた。
11) 奈良県庁 節電協議会委員	平成 23 年 7 月～現在に至る	奈良県全体の節電を推進するために学識経験者として県の節電政策の策定や普及に努めている。
13) 奈良県庁 エネルギー利活用研究会委員	平成 23 年 12 月～現在に至る	奈良県のエネルギー利活用を目的とし、学識経験者として、特に再生可能エネルギー導入の推進策を研究し策定に努めている。
14) (社) 産業環境管理協会（現（一社）サステナブル経営推進機構）環境ラベルプログラム制度 評価委員	平成 24 年 4 月～現在に至る	国家プロジェクト制度が終了し、制度が民間移行となるに伴い当該制度の評価委員として制度の策定および検証評価委員を務めている。
15) 奈良県庁 奈良県事業者向けエコ経営促進モデル事業 評価委員	平成 24 年 4 月～平成 27 年 3 月	奈良県の事業者を対象に、電力供給不足による事業継続リスクを回避するための先駆的な省エネ設備のモデル的な導入の応募者に対し、その導入事業の先駆性や効果の評価を行い、補助対象の可否の選考を行った。
16) 奈良県庁 エネルギービジョン推進協議会 委員	平成 25 年 8 月～現在に至る	奈良県のエネルギー政策に関する方向性、計画策定およびその成果の評価を目的とし、学識経験者として、奈良県全体のエネルギー政策の推進に努めている。
17) 奈良県庁 エネルギービジョン策定委員会 委員	平成 26 年 4 月～現在に至る	奈良県のエネルギービジョンの策定を目的とし、学識経験者として、奈良県全体のエネルギービジョンの策定に努めている。
18) 環境省 再生可能エネルギー等導入地方公共団体支援基金 選考委員	平成 26 年 9 月～平成 29 年 3 月	環境省の左記事業において、奈良県内の地方行政（市町村）を対象とした災害に強い自立・分散型のエネルギーシステムの導入し環境先進地域（エコタウン）を構築する事業に対して、各市町村から提案された構築事業に関して、その事業の評価を行い、補助対象の可否の選考を行った。
19) 奈良県庁 環境審議会委員：環境総合計画策定委員	平成 27 年 4 月～現在に至る	奈良県の環境保全および保護を目的とし、環境学識経験者として、奈良県の環境基本計画の策定において特にエネルギー政策の策定に努めている。
20) 奈良県庁 奈良県再生可能エネルギー アドバイザー	平成 28 年 4 月～現在に至る	奈良県の再生可能エネルギー導入推進を目的とし、奈良県下の地方行政、市民および事業者に対して、再生可能エネルギーに関する導入可能性、採算性および導入方法についてアドバイスを行っている。
21) 三郷町 三郷町まちづくり総合戦略策定有識者会議 委員	平成 27 年 10 月～平成 28 年 3 月	三郷町のまちづくり総合戦略策定にあたり、今後の 5 ヶ年の目標と具体的な施策に関して、有識者として、三郷町の環境・エネルギー政策の策定に努めた。
22) 経済産業省 「地域中核企業創出・支援事業」審査委員会 委員	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月	経済産業省の左記事業において、近畿地方にて環境およびエネルギービジネスの中核となる企業から提案された事業に関して、その事業の評価を行い、補助対象の可否の選考を行った。
23) 奈良県庁 「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会 委員	平成 28 年 12 月～現在に至る	奈良ならではの美しい景観や持続可能な社会を構築することを目的として、学識経験者として、奈良県全体の環境に関する実践活動を誘発・促進するための計画策定の推進に努めている。

24) 関西広域連合会 環境・エネルギー分科会 委員	平成29年9月～令和5年8月	当該連合会の環境・エネルギー分科会において、奈良県代表委員として関西広域および奈良県の環境政策およびエネルギー政策に関しての方向性や計画の策定に従事する予定。		
25) 奈良県庁 環境審議会委員：奈良県脱炭素戦略計画策定委員	令和6年9月～現在に至る	奈良県の脱炭素（温室効果ガス削減）を目的とし、環境学識経験者として、奈良県の脱炭素戦略計画の策定に努めている。		
1）競争的資金獲得状況				
1. 経済産業省所管 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 「奈良県立医科大学新キャンパスおよび付属病院周辺における再生可能エネルギー面的利用構想」	平成 27 年 9 月～平成 28 年 3 月	奈良県庁、富士通総研、関西電力との共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県橿原市にある奈良県立医科大学の新キャンパスおよび付属病院周辺における再生可能エネルギーの面的利用構想を推進し、その事業性検討を行う。 獲得予算：5,111,231 円		
2. 経済産業省所管 一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 「県と市町村の連携によるエネルギー版「奈良モデル」構想事業」	平成 27 年 9 月～平成 28 年 3 月	奈良県庁、大阪ガスとの共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県庁周辺の世界遺産地域における再生可能エネルギーの導入も含めたエネルギーインフラのあり方および県下市町村のエネルギーマネジメントとの連携を推進し、その事業性検討を行う。 獲得予算：9,978,300 円		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
-				
(学術論文)				
1. Carbon Footprint of Essential Oil from Forest Thinning Residue (査読付)	単 著	平成 27 年 11 月	The Twelfth International Conference on Ecomaterials (ICEM12), D005, (5 pages)	バイオマス資源の有効利用システムとして、間伐材用から抽出された有用成分であるエッセンシャルオイル（アロマティック、防臭および防虫効果）のカーボンフットプリントを推算した。その結果、その環境負荷として CO2 排出量は、エッセンシャルオイル抽出プロセスが最も大きく、次いでオイルの輸送・販売プロセス、間伐材の収集・運搬プロセスの順に大きいことが明らかとなった。
2. Sustainable Urban Energy Planning of a Local City in Japan (査読付)	単 著	平成 29 年 11 月	The Thirteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM13), P-GP-01, (6 pages)	ある地方都市の医科大学の移転に伴い、その都市の再開発計画の一環として、再生可能エネルギーや未利用エネルギーを利用したまちづくりの可能性を検討した。その結果、新医科大学には、太陽光発電の導入および帯水層の地下水が利用できることが明らかとなり、また、高齢者向け住宅には、ソーラーヒーティングシステムおよび下水熱が利用できることが明らかとなり、これらのエネルギーは、地域にも供給でき、新しいまちづくりの基本設計を提案できた。

3. Area Energy Management System of a Local Government in Japan (査読付)	単 著	令和 5 年 11 月	The Fifteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM15), pp.20-27	ある地方都市の行政組織エリアにおいて、そのエリア全体の分散型エネルギーの導入しエネルギーマネジメントを行い、かつ災害避難所としての機能を有することを目的とし、そのエリア全体のエネルギーマネジメントシステムおよび災害避難所としての機能を有するエリアのシステムの検討を行った。その結果、自立分散型のコジェネレーションシステムや再生可能エネルギーを導入し、そのエリア全体のエネルギー利用の最適を行うことにより、地球温暖化防止のためCO2削減が可能であり、また、災害対策本部および災害避難所としての機能を果たすことが可能であることが明らかとなった。
(以上、研究論文)				

(国際学会)				
1. Carbon Footprint of Essential Oil from Forest Thinning Residue - Biomass Utilization System for Forest Thinning Residue -	単	平成 27 年 11 月	Proceeding of Twelfth International Conference on Ecomaterials (ICEM12),Nov.8-12, Tainan, Taiwan	バイオマス資源の有効利用システムとして、間伐材用から抽出された有用成分であるエッセンシャルオイル（アロマティック、防臭および防虫効果）のカーボンフットプリントを推算した。その結果、その環境負荷として CO2 排出量は、エッセンシャルオイル抽出プロセスが最も大きく、次いでオイルの輸送・販売プロセス、間伐材の収集・運搬プロセスの順に大きいことが明らかとなった。
2. Sustainable Urban Energy Planning of a Local City in Japan	単	平成 29 年 11 月	Proceeding of Thirteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM13),Nov.19-23, Bangkok, Thailand	ある地方都市の医科大学の移転に伴い、その都市の再開発計画の一環として、再生可能エネルギーや未利用エネルギーを利用したまちづくりの可能性を検討した。その結果、新医科大学には、太陽光発電の導入および帯水層の地下水が利用できることが明らかとなり、また、高齢者向け住宅には、ソーラーヒーティングシステムおよび下水熱が利用できることが明らかとなり、これらのエネルギーは、地域にも供給でき、新しいまちづくりの基本設計を提案できた。
3. Area Energy Management System of a Local Government in Japan (以上、国際学会)	単	令和 5 年 11 月	Proceeding of Fifteenth International Conference on Ecomaterials (ICEM15),Nov.26-30, Iki, Japan	ある地方都市の行政組織エリアにおいて、そのエリア全体の分散型エネルギーの導入しエネルギーマネジメントを行い、かつ災害避難所としての機能を有することを目的とし、そのエリア全体のエネルギーマネジメントシステムおよび災害避難所としての機能を有するエリアのシステムの検討を行った。その結果、自立分散型のコジェネレーションシステムや再生可能エネルギーを導入し、そのエリア全体のエネルギー利用の最適を行うことにより、地球温暖化防止のため CO2 削減が可能であり、また、災害対策本部および災害避難所としての機能を果たすことが可能であることが明らかとなった。
(公的研究報告書)				
1. 奈良県立医科大学新キャンパスおよび附属病院周辺における再生可能エネルギー面的利用構想	共 著	平成28年2月	一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 成果報告書, pp. 133, (2016)	奈良県庁、富士通総研、関西電力との共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県橿原市にある奈良県立医科大学の新キャンパスおよび附属病院周辺における再生可能エネルギーの面的利用構想を検討した。その結果、太陽光発電、太陽熱利用、下水熱が利用できることが明らかとなった。
2. 県と市町村の連携によるエネルギー版「奈良モデル」構想事業	共 著	平成28年2月	一般社団法人新エネルギー導入促進協議会 地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業 成果報告書, pp.125, (2016)	奈良県庁、大阪ガスとの共同で、奈良県の都市計画の一環として、奈良県庁周辺の世界遺産地域における再生可能エネルギーの導入も含めたエネルギーインフラのあり方および県下市町村のエネルギーマネジメントとの連携の可能性を検討した。その結果、廃棄物焼却炉を新設する計画に伴い、廃棄物発電が可能であり、また発電した電力を売電することが可能であり、余った熱を近隣の農家に供給することも可能であることが明らかとなった。

3. 三郷町 まちづくり 総合戦略	共 著	平成28年3月	三郷町 まちづくり総合戦略策定委員会 報告書, pp. 50, (2016)	三郷町の産業振興（施設見学による新たな観光資源）や雇用創出（自治体PPS）としての観点から、再生可能エネルギーによる「エネルギーの地産地消」を目的とし検討を行った。その結果、町独自の再生可能エネルギーの導入についての検討を行うこととし、その導入可能性調査を計画することを提案し、現在その計画が進行中である。
(以上、公的報告書)				

(公的招待講演会・セミナー発表等)				
1. 「夏季の省エネルギー対策について」 - 事業所における節電対策 -	単	平成 27 年 7 月	奈良県中小企業団体中央会 , 春日ホテル, 奈良市, (7 月 29 日)	様々な事業所の省エネルギーに関して、直近の温室効果ガス排出量の増加にともない、我が国の政策として今後の温室効果ガス排出量削減の対策として、我が国の電源構成の目標が定められ、その目標に対して様々な事業所で特に夏季の省エネルギーとして節電を行うことが早急な課題とされ、その取り組みとして、効果的な節電の方法に関して解説した。
2. 「奈良市の事業系廃棄物について」	単	平成 28 年 3 月	奈良市役所主催, 平成 27 年度事業者 3R 講習会 , 奈良市役所 中央棟 6 階, 奈良市, (3 月 16 日)	奈良市の事業系一般廃棄物に関して、奈良市は大きな削減目標を設定し推進しているが、削減が困難な状況にある廃棄物もある。多くの事業者に対して、奈良市の削減推進政策を認識してもらうとともに削減困難な廃棄物に対する削減方法に関して、その対策として、奈良市の施策の推進策の内容および具体的な削減方法について解説した。
3. 市民のための省エネ・節電セミナー「電力自由化制度について」 - その制度の概要 -	単	平成 28 年 6 月	市民節電所ネットワーク主催, 奈良市ボランティアインフォメーションセンター会議室 1-1, 奈良市, (6 月 11 日)	太陽光発電等を導入し、市民発電所を営んでいる組織や個人の方に対して、本年 4 月からエネルギー自由化として電力自由化制度が始まり、その具体的な制度について解説した。特に新規電力ビジネスに参入した新電力会社の状況や契約時の注意事項等について、Q&A を交えて解説した。
4. 「夏の省エネ・節電対策」	単	平成 28 年 7 月	奈良県中小企業団体中央会 , 春日ホテル, 奈良市, (7 月 8 日)	本年 4 月からエネルギー自由化の第一弾として、電力自由化を迎え、事業所（企業）の夏季における省エネルギーに関して、特に今まで見落とされていたような節電方法について、その省エネルギーの方法や具体的な事例、また、新電力を含む電力会社の効果的な選択方法を解説した。
5. バイオマスの有効利用方法について	単	平成28年8月	奈良県 再生可能エネルギー アドバイザー事業, 宇陀市, (8月 30日)	奈良県中部の酪農地域の酪農家に対して、現在は主として廃棄されている家畜糞尿を有効利用するために、堆肥化处理、バイオマス燃料処理およびその燃料による発電の可能性について、各地の実例を解説するとともに、各処理の採算性について解説した。
6. 「電力・ガス自由化制度の概要」 - エネルギーシステムの一体改革 -	単	平成29年2月	奈良県環境県民フィラム, 奈良県文化会館 第1会議室, 奈良市, (2月23日)	本年4月よりエネルギー自由化として昨年の電力自由化に続きガス自由化制度が始まる、その具体的な制度について電力自由化制度との比較を解説した。特にガス自由化に新規に参入するガス会社の状況や契約（電力とガスのセット等の考え方）のメリット・デメリットや注意事項等について解説した。

7. 「まちづくりとSDGs」	単	令和元年5月	NPO法人 奈良環境 カウンセラー協会主 催, 公開講座, なら環 境市民大学, 舟橋フ ロムワン, 奈良市, (5月26日)	我が国では地方創成と言う取り組みが推 進されているが、地方都市・市町村レベル では、まちづくりに対するその具体的な取 り組みの状況が明確ではない。他方、国連 では、現在SDGsが提唱され、我が国でもそ の独自の取り組みが推進されている。本公 演では、環境問題やエネルギー問題の観点 から、SDGsを概説し、また我が国のSDGsの 政策を基に、まちづくりと言う観点から解 説した。
8. 「中小企業向け省エネ対 策」- 事業所における省エ ネ・節電 -	単	令和4年8月	奈良県庁主催, 令和4 年度, 奈良県庁省エ ネセミナー, WEB開 催	世界および我が国において、地球温暖化 防止に向けた対策が急務となっている。ま た、我が国の化石燃料の調達や電力供給の 問題が喫緊の課題であり、特に中小企業事 業者に対する省エネや節電を推進するため に、様々な具体的事例について解説した。
9. 「地球温暖化とCOOL CHOICE」- 「脱炭素につ ながる 新しい豊かな暮らし を創る国民運動」 -	単	令和5年2月	王子町主催, 令和4年 度, 地球温暖化対策 地方公共団体実行計 画策定事業, 王子町 役場	我が国の地方行政において、地球温暖化 防止実行計画の策定が義務化され、その策 定が急務となっている。王寺町でもその計 画を策定する必要がある、また、その地方 行政に応じた計画を策定するために、王寺 町に応じた地球温暖化防止策やそれらの 効果について解説した。
10. 「これならできる事業 所における脱炭素経営」-ま ずは省エネから-	単	令和6年9月	環境省・奈良県庁共 催, 奈良県の未来を 創る脱炭素ステップ アップセミナー, 大 和信用金庫八木支店 ビル	我が国の地球温暖化防止実行計画の策定 が義務化され、奈良県においても、その実 行計画の推進が急務となっている。その計 画における脱炭素経営の観点から、省エネ ルギーに焦点を当て、特に実効性の高い省 エネルギー経営について解説した。
(以上、公的招待講演会・ セミナー発表等)				

教 育 研 究 業 績 書		
令和 7 年 4 月 15 日		
氏名 西 蘭 貞子		
研 究 分 野	研究内容のキーワード	
看護教育	IBL (Inquiry Based Learning) / 課題発見課題解決 / 看護アセスメント能力 / 教育プログラム/人材育成/トランジション	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		課題発見課題解決の探究的学習方法であるIBLを活用し、学生の主体で探究的な学習の促進継続を目指している。より具体的な事例作成、ロールプレイの活用など、学習者がアクティブに学習を進め、思考力強化に繋ぐ教育に工夫を重ねている。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 奈良県看護協会 新人研修	2025.1	2024 年度 新人看護職員研修「集合研修」講師
2) 宮城大学看護学部 FD 研修	2024.11	「Inquiry Based Learning—による能力育成と教育評価」
3) 奈良県看護協会 新人研修	2024.1	2023 年度 新人看護職員研修「集合研修」講師
4) 鹿児島国際大学看護学部 FD 研修 講師	2023.6	「臨床判断能力の育成につながる Inquiry Based Learning—能力の育成につながる教育方法・評価方法—I」
5) ～ 溝上慎一 と大学教育について考える ～「教学マネジメント」実践事例セミナー第4回	2022.12	「教育目標の明確化、アセスメント開発から能力育成まで～看護師に求められる能力と評価指標開発、教育モデルの確立を目指して～」をテーマに発表、対談
6) メディカ出版「ナースングビジネス12月号対談掲載	2020.12	鼎談テーマ「これからの次世代管理者育成に求められること」 河野秀一氏、箕浦洋子氏と鼎談
7) 週刊医学界新聞 対談掲載	2019.4	テーマ「心からアクティブになるアクティブ・ラーニング」で、溝上慎一氏と対談
8) 第10回日本医療教授システム学会総会「看護領域の臨床推論」	2018.3	シンポジスト「看護に必要な推論—論証能力と IBL 学習法の活用」
9) 兵庫県立尼崎総合医療センター	2016.9	教育研修(人材育成)支援
10) 京都府後援保育士免許取得特例講座	2014.8	特例講座講師
11) 奈良県立医科大学 FD 研修会	2014.3	講演「IBL で看護アセスメント能力をはぐくむ」
12) 京都コンソーシアム主催第18回FDフォーラム	2013.2	シンポジスト講演「学生間の協同的学習を促す授業方法」
13) 日本精神科看護技術協会 臨床指導者講習研修	2012.8	臨床指導者研修における教育講演
14) 京都府看護協会 京都市看護職能力向上研修 その他、多数	2012.1	看護教員を対象とした研修会講師
5 その他		
日本看護研究学会第50回学術集会 実行委員長	2022～	2022.1～準備,2024.8 大会開催
日本移植・再生医療看護研究学会 評議委員	2022～	
関西教育学会 理事	2021～	
日本医療教授システム学会 査読委員	2022～	
日本看護科学学会第32回学術集会 実行委員	2013- 2014	

日本移植・再生医療看護研究学会 第 10 回学術集会 企画委員 日本看護科学学会第 33 回学術集会 企画委員		201～ 2014 2012～	(実行事務局)	
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格、免許		2010 2008 2007		
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 米国における看護研修			・メイヨクリニックにて臨床現任教育に関する視察研修 ・米国看護学部の教育プログラムに関する視察研修	
ベルリン・ドイツ心臓病センターでの臓器移植医療に関する研修			移植待機患者の状況やレシピエントおよびドナーコーディネートの実際、医療と社会保障制度、看護教育制度などの教育研修を受講。	
「魅力ある大学院教育」文部科学省採択教育プログラム 「生活環境の課題発見・解決型女性研究者養成」教育プログラム			奈良女子大学国際交流センター共催「国際的 FD 視察・交流・研修」参加。スタンフォード大学・ワシントン大学・UCLAなどを視察し、実践的なアメリカの FD 理論を考え、研修成果を冊子にまとめた。	
4 その他 補助金（過去 10 年以内を記載）				
1) 文部科学省基盤研究（基盤 B）（代表者）		2022. 4 ～	「看護人材の円滑なトランジションを促す大学教育～新人教育の抜本的な改革と体系化」	
2) 文部科学省基盤研究（基盤 C）（分担者）		2021. 4 ～2024	「エンドオブライフケアに携わる看護師の 暗黙知に基づく臨死期の予測」	
3) 文部科学省基盤研究（基盤 C）（分担者）		2018. 4 ～2023	「看護実践能力の評価指標を基盤とした看護学実習カリキュラムの開発」	
4) 文部科学省基盤研究（基盤 C）（分担者）		2018. 4 ～2023	「学生の思考力強化を図る小児看護学実習の課題構造の明確化と教育方略の開発」	
5) 文部科学省基盤研究（基盤 C）（分担者）		2017. 4 ～2022	「看護リテラシー教育としての看護過程を活性化する IBL 教育プログラム開発」	
6) 文部科学省基盤研究（基盤 B）（代表者）		2016. 4 ～2019	「看護基盤能力の評価指標開発と IBL の進化によるプロフェッショナル教育モデルの確立」	
7) 文部科学省基盤研究（基盤 C）（分担者）		2015. 4 ～2018	「看護領域における臨床推論教育の概念整理と改善された教育プログラムの開発」	
8) 文部科学省基盤研究（基盤 C）（代表者）		2013. 4 ～2016	「IBL 方 式を用いた看護アセスメント能力向上教育プログラムの開発」。	
9) 文部科学省基盤研究（挑戦的萌芽研究）（分担者）		2012. 4 ～2015	「生体肝臓移植を受けたレシピエントの退院後の自己管理支援プログラムソフトの開発」	
10) 医学教育開発研究センター特別経費研究（2,000 千円）（分担者）		2011. 4 ～2014	「医科－歯科連携口腔衛生管理のための多職種連携教育者養成プログラムの開発」	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 小児看護学実習指導 ガイドライン	共著	2023.2	文芸社	泊裕子、大西文子、岡田摩理、竹村淳子、
2. リンパ浮腫ケアのテク ニク	共著	2011	金方堂	リンパドレナージや圧迫療法の手法を 200 点以上のイラストを用いてわかりやすく解説 した。担当部分:5 章 スキンケア、6 章 日常 生活の注意点)赤澤千春、西園貞子、山本 昌恵、福田里砂

3. アクティブ・ラーニング IBL で進める成人看護 学演習法	共著	2010.12	金芳堂	IBL(Inquiry-based Learning) を用いた講義 演習におけるアクティブ・ラーニングの進め 方を詳しく解説した。全 189 頁(担当:第 2. 第 3. 第 4 章), 赤澤千春, 西薊貞子
(学術論文) ・PROG テストを用いた看護 師の能力の特徴と成長	共著	2023.5	日本医療行動科学研究	Vol.10 79-88 西薊貞子 箕浦洋子 勝井伸子
・看護師の暗黙知による予 後予測に関する文献検討	共著	2023.5	日本医療行動科学研究	Vol.10 37-46 小林由里 小笠原 西薊貞子
・A RESEARCH ON COMPETENCY OF NURSES: A COMPARISON WITH WORKFORCE COMPETENCY	共著	2023.7	EDULEARN2023 15th	Teiko Nishizono , Yoko Minoura
・言語化と委嘱—看護師長— 臨床看護師に求められる能 力の構成要素—	共著	2023.3	奈良学園大学紀要	第 15 巻, 145-154 西薊貞子, 箕浦洋子, 勝井伸子
・アメリカ看護由来の用語の わかりにくさの解明 : 看護 師インタビュー調査	共著	2022.3	奈良県立医科大学看護研 究ジャーナル	第 18 巻 61-69 勝井伸子、青山美智代、西薊貞子
・学生が主体的にデザイン する実習 : 統合実習の試 み	共著	2022.1	奈良県立医科大学看護研 究ジャーナル	18 巻 43-51 西薊貞子, 勝井伸子, 箕浦洋子, 橋口智子
・IBL アセスメント教育プログ ラムによる課題発見力開発	共著	2022.1	奈良県立医科大学看護研 究ジャーナル	18 巻 70-77 西薊貞子, 勝井伸子
・看護過程の授業はどう展開 されているか(2): 看護大学 シラバス分析	共著	2021.7	梅花女子大学看護保健学 部紀要	Vol.11. 1-10 青山美智代, 勝井伸子, 西薊貞子
・看護の高等教育化への歩 みとアクティブ・ラーニング展 開の要請	共著	2021.7	奈良県立医科大学看護研 究ジャーナル	第 17 巻 48-57 西薊貞子, 勝井伸子
・看護教育における知識の 構築—IBL の基盤となる考 え方	共著	2021.7	奈良県立医科大学看護研 究ジャーナル	第 17 巻 38-47 勝井伸子, 西薊貞子
・小児看護学実習において 「実践と理論の統合」を必要 とする学習課題の構造	共著	2020.8	日本看護科学会誌	40 巻 474-483 泊祐子, 大西文子, 竹村淳子, 西薊貞子, 川島美保
・看護過程展開はどう展開さ れているか(1)—看護大学 シラバス分析—	共著	2019.6	奈良県立医科大学医学部 看護学科紀要	Vol.15, 青山美智代, 勝井伸子, 西薊貞子
・超高齢社会の医療を担う 看護師・看護学生の「看護 実践力」に関する検討	共著	2018.4	関西看護医療大学紀要	10(1) 58-61 江川隆子, 赤澤千春, 西薊貞子, 他 5 名
・IBL(Inquiry Based Learning)が高める思考・論 証能力の多面的評価	共著	2018.4	奈良県立医科大学医学部 看護学科紀要	Vol.14, 75-82 西薊貞子, 青山美智代
・看護アセスメント教育にお ける Inquiry Based Learning の学習効果	共著	2018.4	奈良県立医科大学医学部 看護学科紀要	Vol.14, 67-74 青山美智代, 西薊貞子

•Characteristics of Nursing Practical Fundamental Capabilities (Literacy and Competency) By Fundamental Education And Acquired Qualification of Nurses	単著	2018.3	INTED2018	proceedings paper 6576-6582
・小児看護学実習における看護実践と理論を結びつけるための指導方法の検討	共著	2016.7	日本看護学教育学会誌 Journal of Japan Academy of Nursing Education	26(1), 79-88 増尾美帆, 泊祐子, 竹村淳子, 西薊貞子, 岩間恵
・看護基礎教育における臨床判断力育成をめざした周手術期看護のシナリオ型シミュレーション演習の効果の検討	共著	2015.2	大阪医科大学看護研究雑誌	第 5 巻 76-86 山内栄子, 西薊貞子, 林優子
・肝移植レシピエントの退院後の生活を支えるサポートの実態－1 事例の分析を通して－	共著	2014.3	大阪医科大学看護研究雑誌	第 4 巻 50-59 谷水名美, 西薊貞子, 赤澤千春, 林 優子
・ Investigation of an actual daily lifestyle leading to continuous self-management after living-donor liver transplantation: More than 5 years living with living donor liver transplantation and emotions of recipients	共著	2013.6	The Japan Journal of Nursing Science	Vol.10(1)79-88 Akazawa C, Nishizono T, Yamamoto M, Teraguchi S
・看護大学生の自己学習力獲得状況の検討	単著	2013.12	人間文化研究科年報	第 28 巻 107-120
・看護大学生における自己学習力構成因子の変化の検討	単著	2013.1	大阪医科大学看護研究雑誌	第 3 巻 90-99
(学会発表) ・自らの実習を学生がデザインする統合実習の試み～研鑽し続ける能力の育成 ・円滑なトランジションを目的とした新人研修の試み～PROG 看護版テストによる能力の可視化の活用～ ・ Research on Competency of Nurses : A Comparison with Workforce Competency、 ・看護学実習をどうデザインするか・課題と展望ー ・看護師の生涯続く能力育成教育戦略 IBL (Inquiry-Based Learning) 活用による経年別能力育成 ・アメリカ看護由来の用語の理解と使用をめぐる問題	共著 共著 共著 共著 共著 共著	2024.8 2024.8 2023.7 2023.8 2022.8 2022.12	日本看護研究学会第 50 回学術集会 日本看護研究学会第 50 回学術集会 EDULEARN2023 15th annual International Conference on Education and New Learning Technologies Palma de Mallorca (Spain) 日本看護学教育学会 第 33 回学術集会 看護管理学会 第 26 回日本看護管理学会学術集会 第 42 回 日本看護科学学会学術集会	交流集会 西薊貞子, 小林由里, 松浦尚子, 井上理子, 森本早紀 高中優子, 須佐庸子, 船山恵生, 熊田ひとみ, 西薊貞子 Teiko Nishizono 、Yoko Minoura 交流集会 西薊貞子, 江川隆子, 赤澤千春, 箕浦洋子 交流集会(インフォメーションエクステンジ 西薊貞子, 箕浦洋子 交流集会 西薊貞子, 勝井伸子, 青山美智代

・看護職固有のコンピテンシー(成果を生み出すための能力)テストの開発	共著	2021.8	看護管理学会 第 25 回日本看護管理学会学術集会	交流集会(インフォメーションエキスチェンジ 西藺貞子, 箕浦洋子, 松村直樹
・IBL (Inquiry-Based Learning) 教育プログラムの導入による課題発見力の育成 看護師の基礎力測定指標 (PROG) による評価	共著	2021.8	看護管理学会 第 25 回日本看護管理学会学術集会	交流集会(インフォメーションエキスチェンジ 西藺貞子, 箕浦洋子, 三浦智恵
・看護学実習前後で看護実践能力のコンピテンシー数値が大きく変化した学生の経験の聞き取り調査～対人基礎力に着目して～	共著	2020.8	第 46 回日本看護研究学会学術集会(横浜)	赤澤千春, 西藺貞子, 青山美智代, 江川隆子, 箕浦洋子
・看護学実習によって獲得する対自己基礎力～PROG テストの前後比較からコンピテンシーが変化した学生の経験分析～	共著	2020.8	第 46 回日本看護研究学会学術集会(横浜)	西藺貞子, 江川隆子, 赤澤千春, 青山美智代, 箕浦洋子
・小児看護学実習において教員が捉えた学習課題の構造	共著	2020.8	日本看護学教育学学会第 30 回学術集会	交流集会 泊祐子, 岡田摩理, 大西文子, 西藺貞子, 他
・Characteristics of the abilities of nurses and general members of society in the evaluation of basic skills in society.	共著	2020.3	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Teiko Nishizono, Takako Egawa , Yoko Minoura
・Capabilities required of nurses as viewed by nurse managers	共著	2020.3	The 6th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science	Teiko Nishizono, Yoko Minoura
・Fundamental Competencies for Professional Nurses: Qualitative Analysis of Interviews with Nursing Directors	単著	2020.11	ICERI2020 13th annual International Conference of Education, Research and Innovation	
・限られた場で小児看護学実習を効果的に行う実習計画と到達目標の設定 課題と対策の検討	共著	2019.11	日本看護科学学会学術集会講演集 39 回	泊 祐子, 大西 文子, 竹村 淳子, 西藺 貞子, 岡田 摩理
・看護学実習前後での看護実践能力テストのコンピテンシー数値が大きく変化した学生のインタビュー調査 ～対課題基礎力～	共著	2019.8	第 45 回日本看護研究学会学術集会(大阪)	ポスター発表 赤澤千春、江川隆子、西藺貞子、箕浦洋子
・看護学実習前後に変化する社会人基礎力(看護実践能力)の特徴	共著	2019.8	第 45 回日本看護研究学会学術集会(大阪)	ポスター発表 西藺貞子、江川隆子、赤澤千春、箕浦洋子
・主体的な学びの好循環を生み出す教育の仕掛け―基盤教育と卒後教育における IBL 教育プログラムでの展開―	共著	2019.8	第 45 回日本看護研究学会学術集会(大阪)	交流集会 西藺貞子、箕浦洋子、吉見絵美子

・看護学実習後における社会人基礎力(看護実践能力)の特徴	共著	2019.7	第 51 回日本医学教育学会大会(京都)	口演発表 西薊貞子, 赤澤千春, 江川隆子
・Competency characteristics acquired by mid-level nurses	単著	2019.3	The ACEID2019 Conference, Tokyo	
・中堅看護師(ラダーⅢ)のPROG(社会人基礎力測定尺度)評価から 継続教育の課題を考える	共著	2018.8	第 22 回日本看護管理学会学術集会(神戸)	交流集会(インフォメーションエキスチェンジ 西薊貞子, 箕浦洋子, 江川隆子, 赤澤千春
・大学における基盤教育と卒後継続教育の連携促進を目指した能力評価の共有～汎用性の高い「社会人基礎力評価」調査結果からの意見交換～	共著	2018.8	第 28 回日本看護学教育学会学術集会(横浜)	交流集会 西薊貞子, 江川隆子, 箕浦洋子, 赤澤千春, 日隈ふみ子, 青山美智代
・看護基盤能力の評価指標開発に向けて～看護管理者が育成したい看護師像とは～	共著	2017.8	第 21 回日本看護管理学会学術集会(横浜)	交流集会(インフォメーションエキスチェンジ 西薊貞子, 箕浦洋子, 江川隆子, 赤澤千春

教 育 研 究 業 績 書

令和 7 年 5 月 20 日
氏名 小池 伝一 印

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
小児看護学・家族看護学・災害看護学		子ども・家族・健康・健康障害・看護援助・災害	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事項		年月日	概 要
1 教育方法の実践例			
奈良学園大学	国際看護論にて第1～6回の講義	2025. 4～	国際看護論にて国際看護の概要から、国際看護の具体的展開方法について講義を実施した。
奈良学園大学	家族看護論にて第1～8回の講義	2024. 4～	家族看護論にて家族の定義から、家族看護に必要な看護理論について講義を実施した。
奈良学園大学	小児看護学概論にて第1～15回の講義	2023. 4～	小児看護学概論において小児看護の役割から学校保健まで講義を実施した。
奈良学園大学	小児看護援助論にて第1～15回の講義	2023. 9～	小児看護援助論において、健康障害をもつ子どもと家族の看護について講義を実施した。

太成学院大学 小児看護学概論にて第 1～15 回の講義	2021. 9～ 2021. 12	小児看護学概論において小児看護の役割から学校保健まで講義を実施した。
太成学院大学 小児看護学援助論にて第 1～24 回の講義	2020. 4～ 2020. 7	小児看護学援助論の総論から災害を受ける子どもと家族の看護の講義を実施した。
太成学院大学 小児看護学実践実習 実習指導	2020. 9～ 2021. 2	小児看護学実践実習にて、学部 3 年生を対象に、健康障害をもつ子どもと家族の看護について、実習指導をおこなった。
北海道科学大学 小児看護学援助論	2015. 10～ 2016. 7	小児看護学援助論第 10 回災害を受けた子どもと家族の援助
北海道科学大学 小児看護学援助技術論演習講義	2016. 4～ 2016. 8	小児看護学援助技術論演習第 1 回総論から第 30 回バイタルサイン演習までの講義・演習を実施した。
自治医科大学 生涯発達看護学概論Ⅱ(小児期)の演習	2016. 10～ 2017. 2	生涯発達看護学概論Ⅱ第 6 回講義「乳幼児期の食行動」において、子どもの食行動の発達、離乳食についての演習を実施した。
自治医科大学 小児実践看護学Ⅱの演習	2016. 10～ 2017. 2	小児実践看護学Ⅱ第 10 回「バイタルサインズの測定」において、体温測定・心拍測定・呼吸測定・血圧測定の演習を実施した。
北海道科学大学 小児看護学実習 実習指導	2016. 9～ 2017. 2	小児看護学実習にて、学部 3 年生を対象に、健康障害を持つ子ども、健康な子どもを対象に、子どもと家族の看護実践の指導をおこなった。
2 作成した教科書, 教材 奈良学園大学 国際看護論 第1～6回の講義資料作成	2025. 4～	国際看護論第1回から第6回までの講義資料及び学生配布資料を作成した。
奈良学園大学 家族看護論 第1～8回の講義資料作成	2024. 4～ 2024. 7	家族看護論第1回から第8回までの講義資料及び学生配布資料を作成した。
太成学院大学 小児看護学概論 第 1～15 回の講義資料作成	2021. 9～ 2021. 12	小児看護学概論第 1 回から第 15 回までの講義資料及び学生配布資料を作成した。
太成学院大学 小児看護学援助論 第 1～24 回の講義資料作成	2020. 4 ～ 2020. 7. 28	小児看護学援助論第 1 回から第 24 回までの講義資料及び学生配布資料を作成した。
北海道科学大学 小児看護学援助論・小児看護学援助技術論演習の講義資料作成	2015. 10～ 2016. 7	小児看護学援助技術論演習第 1 回から第 30 回までの講義資料・演習資料を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 昭和大学による講師認定 文部科学省による講師認定	2012. 4. 1 2016. 4. 1	大学院保健医療研究科講師兼任 北海道科学大学 保健医療学部 看護学科

4 実務の経験を有する者についての特記事項 看護師長	2019. 2 ～ 2020. 3	博慈会記念総合病院小児センター
実習指導者委員会 委員長	2019. 4 ～ 2020. 3	博慈会記念総合病院
昭和大学 教育委員会	2012. 4～ 2014. 3	
北海道科学大学 実習委員会 副委員長	2014. 4～ 2017. 3	
太成学院大学 国家試験対策委員会 国家試験対策担当主担	2021. 4～ 2023. 3	
奈良学園大学 看護学科 教務委員会 委員	2023. 4～	
奈良学園大学 全学 教務委員会 委員	2023. 4～ 2024. 3	
奈良学園大学 看護学科 FD委員会 委員	2023. 4～	
奈良学園大学 看護学科 キャリア支援委員会 委員長	2024. 4～	
奈良学園大学 全学 キャリアセンター運営委員会 委員	2024. 4～	
5 その他 臨床研究指導	2009. 6～ 2020. 3	横浜労災病院・国立病院機構広島西医療センター・博慈会記念総合病院における看護研究指導
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 看護師免許	1997. 4. 26	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他 新生児蘇生法一次インストラクター 介護職員によるたんの吸引等実施のための指導者講習 指導者(不特定多数の者対象) 介護職員によるたんの吸引等実施のための指導者講習 指導者(特定の者対象) DENVERⅡ 発達判定法 判定員 ピアカウンセラー養成者養成 インストラクター	2011. 12～ 2013. 10～ 2013. 11～ 2013. 6～ 2014. 11～	日本周産期・新生児医学会 厚生労働省 厚生労働省 日本小児保健協会 日本家族計画協会

第4回 日本パラスポーツ看護学会 学術集会 一般演題 座長		2023. 6		
第50回 日本看護研究学会 学術集会 運営委員		2024. 5～ 2024. 9		
第50回 日本看護研究学会 学術集会 一般演題 座長		2024. 8		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年 月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
2				
(学術論文)				

1. 積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の育児支援ニーズ（査読付）	共著	2016 年 10 月	北海道科学大学紀要	「積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親のQOL と育児状況に関する実態調査」を実施した質問紙は、461 部配布し、450 部回収し（回収率 97.6%）有効回答は 420 部（有効回答率 91.1%）であった。そのうち自由記載欄への回答がされている 80 名を本研究の分析対象者とした。対象者 80 名の属性については、単純集計を行った。自由記載欄に書かれた文章は、積雪寒冷期に回答した内容であることから、積雪寒冷期に感じていることとして扱った。記載されている内容のうち、「育児に関して困っていること」と、「希望する育児支援内容」について表されているものを、それぞれ文脈単位で抽出し、コード化した。続いて、類似した内容をサブカテゴリー（以下〔 〕で示す）、カテゴリー（以下【 】で示す）へと集約した。小児看護学、母性看護学教員が中心となり、子育てを行う親や家族のストレス解消、QualityofLife(以下 QOL と記述)の向上、児童虐待の防止を目標とし、「HUS 子育て支援カフェ」を立ち上げ、育児支援プログラムを実施した。これまで実施した内容と参加者へのアンケートの結果を報告した。共著者:笹尾あゆみ, 山本八千代, 前田尚美, 草野知美, 伊織光恵, 市川正人, 小池伝一, 須藤 桃代, 関口史絵, 福原朗子, 三田村保 小池担当: データ分析、考察、論文執筆の助言をおこなった。査読有
2. 北海道科学大学が提供する地域子育て支援活動（査読付き）	共著	2016 年 10 月	北海道科学大学紀要	目的：小児看護学・母性看護学教員が中心となり、子育てをおこなう親・家族のストレス解消、QOL の向上、自動虐待防止を目標に、社会貢献事業を展開した結果について報告することである。 結果：プログラム参加者は 270 名で、養育者 124 名、子ども 146

				名であった。プログラム参加者の90%が地域貢献事業に満足していた。 寒冷積雪期の生活状況は厳しく、子育て支援ニーズは高いと言えるため、親の孤立感、ストレスであるが、今後も継続し、寒冷地域の自然環境、住環境を踏まえたプログラムを提供する必要がある。
3. 乳幼児を養育する母親のQOLと影響要因 (査読付)	共著	2016 年 10 月	母性衛生	目的：乳幼児を養育する母親のQOL 得点とQOL への影響要因を明らかにすることを目的とした。 方法：6 歳未満の子どもを養育する母親 375 名を対象に、無記名自記式質問紙調査を実施した。QOL 測定尺度は、WHO が作成したWHOQOL26（日本語版）を用い、QOL 平均点を基準として高群・低群に分け、影響要因の群間比較を行った。 結果：母親のQOL 得点に有意に影響している要因は、世帯年収居住状況、夫の育児協力及び精神的サポート等の物的・人的環境であった。また、育児に費やす時間の長さは、母親のQOL 得点に有意な影響は見られず、自分自身の時間を持つ、気分転換を図る等の育児中の過ごし方や、自分なりの育児観を持つこと等が有意に影響していた。 結論：育児中であっても母親として以外の側面を持つこと、他者との相互作用を通じて母親自身の育児観を育てていくことの重要性が示唆された。 共著者：前田尚美，山本八千代，草野知美，須藤桃代，笹尾あゆみ，市川正人，小池伝一，伊織光恵，関口史絵，三田村保 小池担当分：データ収集と分析、考察、論文執筆の助言をおこなった。査読有
4. 重症心身障がい児の親の認識に対する看護師の捉え方 (査読付)	単著	2019 年3 月	小児保健研究	本研究は、重症心身障がい児の親と看護師が、子どもの日常生活援助を協働して実践する時、子どもの日常生活援助に対する「親の認識」について看護師がどのように

				捉えていたのかを明らかにし、親と日常生活援助を協働するうえで親との関わり方に示唆を得るという目的で、重症心身障がい児施設に勤務する 11 人の看護師からインタビューを行った。その結果、【重症心身障がい児の状況や日々のケアに精いっぱいな親】、【親との難しい関係】、【重症心身障がい児の育児に対する親のこだわり】の 3 カテゴリーが抽出された。親と看護師の日常生活援助に関わる協働について看護師は、親の状態を俯瞰的に観察する、「親の認識」など考えていることを確認し、子どもと親にとってよい影響を与える関わりについてアセスメントする、最初に親がどんな喪失体験をしているかアセスメントして関わる、以上 3 つの示唆を得た。
5. 重症心身障がい児施設に従事する看護師の看護実践状況と役割認識（査読付）	単著	2021 年3 月	太成学院大学紀要	本研究は、重症心身障がい児の看護を実践している看護師が、日々の看護をどこまで認識し、実践しているのか。また、実践できていない部分はどこで、その要因は何かを明らかにした。その結果、重症心身障がい児施設に勤務する看護師の看護実践状況は、25~75% の看護援助を実践していた。
6. 乳幼児の経口与薬と原則に対する国内書籍の検討	共著	2023 年3 月	太成学院大学紀要	本研究は、我が国の小児看護書籍における乳幼児への経口与薬援助・原則の記述内容について明らかにすることを目的とした。その結果、与薬目的、薬剤確認、内服準備、説明と同意、内服方法とタイミング、シリンジ・スプーン・スポイト・乳首による援助方法、与薬後の援助、薬と食の関係、親への参加方法について記載されていた。記述内容には差があるため、統一した内容にすることが望ましいと言える。
7. 在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな	単著	2023 年3 月	自治医科大学大学院看護学研究科博士後期課程博士論文	本研究の目的は、1. 母親は、医療処置を実施して退院後、在宅で重症心身障がい児の養育をする中、養育に対しどのような経験をし、解決していたか、2. 母親は、それ

な医療処置の意思決定にかかわる経験			までおこなって来た養育に対する経験が、重症心身障がい児の新たな医療処置が導入される際の意思決定に、どのように影響するか、を明らかにすることであった。 1. 研究方法；桜井(2002)のライフストーリー法とした。 2. 研究協力者；医療処置を導入後、在宅で養育をし、新たな医療処置を導入した重症心身障がい児をもつ母親 3 人とした。A さん(a さん)、B さん(b さん)、C さん(c さん)のストーリーを分析した。a さんは気管切開術を受け、1 年程度の在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。b さんは胃瘻造設術を受け、在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。c さんは気管切開を受け、在宅療養を経て、胃瘻造設術を受けた。研究結果の分析から、在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処置の意思決定にかかわる経験がメインピックとして明らかとなった。考察として 1) 新たな医療処置の導入を、希望を持って意思決定できていた。医療者は、母親が医療処置導入の先に希望が持てる状況をイメージできるように支援する必要がある。 2) 母親たちの納得は重要であり、母親の子どもの状態の状況把握を確認し、医療処置導入が子どもの状態に必要であることを母親が納得できるように支援する必要がある。 3) 在宅での養育経験の満足から、児との在宅での生活の継続のために医療処置の導入を決定していた。本研究の母親の時代は活用可能な社会資源も十分ではなかったが、近年、訪問看護の充実、支援情報のインターネットによる提供等社会資源も増加しており、在宅での療養を支援する体制が整ってきている。満足いく在宅生活を送ってもらうためには、この社

				会資源を上手に活用することが必要である。今後は適切な情報活用のため、母親のインターネットリテラシーを高め、インターネット情報活用への支援が必要である。
(その他) (学会発表) 1. 重症心身障がい児の親の認識に対する看護師の捉え方	単独	2015 年 9 月	第 22 回日本家族看護学会学術集会 (於国際医療福祉大学小田原キャンパス)	本研究は、重症心身障がい児の親と看護師が、子どもの日常生活援助を協働して実践する時、子どもの日常生活援助に対する「親の認識」について看護師がどのように捉えていたのかを明らかにし、親と日常生活援助を協働するうえで親との関わり方に示唆を得るという目的で、重症心身障がい児施設に勤務する 11 人の看護師からインタビューを行った。その結果、【重症心身障がい児の状況や日々のケアに精いっぱいな親】、【親との難しい関係】、【重症心身障がい児の育児に対する親のこだわり】の 3 カテゴリーが抽出された。査読有
2. 重症心身障がい児施設に従事する看護師の看護実践状況と役割認識	単独	2016 年 6 月	第 63 回日本小児保健協会学術集会 (於大宮ソニックシティ)	重症心身障がい児の看護を実践する看護師がどの程度役割を認識し実践しているかを明らかにした。 質問紙は有効回答 140 名を分析した。対象の年齢は 26～64 歳。性別は女性 110 名。資格は看護師が、教育背景は門学校卒業が多かった。対象の看護経験年数は 4 か月～40 年、重心経験は 2 か月～45 年。実践 30 項目の平均は 2. 67～ 4. 87。平均値が高値の内容は、児の状態を医師に報告と点滴や側管注射管理 4B7、低値は児の遊びや勉強の相手が 2. 67。因子分析の結果は 8 因子が抽出された。看護の役割と回答した割合が 9 割以上の項目は、児の状態を医師に報告が 97. 8%などであった。看護の役割と回答した割合が 6 割以下の項目は児の交流を図る援助 35. 1%、児の遊びや勉強相手 34. 3%であった。実践平均は高いが役割認識が低い項目は、家族の状況に合わせた面会調整が 3. 51 に対し役割認識が 62. 2%。

3. Literature review of the recognition about "daily life" of mother with severe motor and intellectual disabilities.	単独	2016 年 9 月	第 15 回自治医科大学シンポジウム（於自治医科大学）	児と養育者の支援のため、学校教諭やコメディカルなど他職種との調整が 3. 53 に対し役割認識が 62. 0%。実践平均値は低いが役割認識が高い項目は、養育者の相談に乗るが 3. 56 に対し役割認識が 75. 0%。自由記載の結果は 39 件で、8 カテゴリーに分類された。 査読有 This study of purpose determines the recognition about "daily life" of mother with severe motor and intellectual disabilities, and we decided to make a future research theme clear. With CINAHL, Ichyushi, we conducted document retrieval using following Key word, and the methods of study chose the literature which there was in a purpose of study and analyzed the contents. Key word ; "severe motor and intellectual disabilities" "mother" "daily life" "recognition" The results were as follows. Seven of 11 studies for families were the studies that focused on mother. The study that focused on the mother of child with severe motor and intellectual disabilities were as follows, "recognition for the child-rearing" "experience before a home care being stable" "reason why was not given temporary nursing at home by night" "relations with a bileaf and the disorder reception of the family" "present conditions of the respite care hospitalization" "at-home medical treatment life" "a nurture burden feeling" "home care time" "annoyance about brothers" "thought as the parent of father".
4. 積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の QOL ―夏季と冬季の比較― 前田尚美、山本八千代	共同	2016 年 9 月	第 57 回日本母性衛生学会総会・学術集会（於：品川プリンスホテル）	目的：乳幼児を養育する母親の QOL 得点と QOL への影響要因を明らかにすることを目的とした。 方法：6 歳未満の子どもを養育する母親 375 名を対象に、無記名自記式質問

草野知美、須藤桃代、市川正人、小池伝一、笹尾あゆみ、伊織光恵、関口史絵、三田村保				紙調査を実施した。QOL 測定尺度は、WHO が作成した WHOQOL26（日本語版）を用い、QOL 平均点を基準として高群・低群に分け、影響要因の群間比較を行った。 結果：母親の QOL 得点に有意に影響している要因は、世帯年収居住状況、夫の育児協力及び精神的サポート等の物的・人的環境であった。また、育児に費やす時間の長さは、母親の QOL 得点に有意な影響は見られず、自分自身の時間を持つ、気分転換を図る等の育児中の過ごし方や、自分なりの育児観を持つこと等が有意に影響していた。
5. 積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親に必要な育児支援 前田尚美、山本八千代 草野知美、須藤桃代、市川正人、小池伝一、笹尾あゆみ、伊織光恵、関口史絵、三田村保	共同	2016 年 9 月	第 57 回日本母性衛生学会総会・学術集会（於：品川プリンスホテル）	「積雪寒冷地に居住し乳幼児を養育する母親の QOL と育児状況に関する実態調査」を実施した質問紙は、461 部配布し、450 部回収し（回収率 97.6%）有効回答は 420 部（有効回答率 91.1%）であった。そのうち自由記載欄への回答がされている 80 名を本研究の分析対象者とした。対象者 80 名の属性については、単純集計を行った。自由記載欄に書かれた文章は、積雪寒冷期に回答した内容であることから、積雪寒冷期に感じていることとして扱った。記載されている内容のうち、「育児に関して困っていること」と、「希望する育児支援内容」について表されているものを、それぞれ文脈単位で抽出し、コード化した。続いて、類似した内容をサブカテゴリー（以下【】で示す）、カテゴリー（以下【】で示す）へと集約した。小児看護学、母性看護学教員が中心となり、子育てを行う親や家族のストレス解消、QualityofLife(以下 QOL と記述)の向上、児童虐待の防止を目標とし、「HUS子育て支援カフェ」を立ち上げ、育児支援プログラムを実施した。これまで実施した内容と参加者へのアンケートの結果を報告した。

6. 重症心身障がい児をもつ母親の「養育に対する思い」に関する国内文献検討	単独	2021 年 7 月	第 31 回日本小児看護学会学術集会（web 開催）	文献の内容を分類した結果、母親の「養育に対する思い」に関する研究は、育児、医療的ケア、親役割、家族関係、教育、子どもの体調、社会資源、成長・発達、人間関係の 9 つに集約された。母親の思いや経験などを明らかにする際には、重症心身障がい児の、障害の程度やどのような疾患を持っているのかなど、ある程度条件を明確にしていく必要がある。母親の思いを明らかにする際には、いつの時期に、どのような思いや経験が出現したのか、質問紙形式を用いて、出現時期を明らかにすることが必要である。医療的ケアをもつ子どもの養育者を援助するためには、母親の思いに関連する経験について、詳細を明らかにすることが必要である。重症心身障がい児を養育する母親を援助する方略を考えるためには、罪責感などが養育に影響する度合いについて、明らかにする必要がある。
7. 在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処置の意思決定にかかわる経験	単独	2023 年12 月	第 43 回日本看護科学学会学術集会（於：峡海メッセ下関）	本研究の目的は、1. 母親は、医療処置を実施して退院後、在宅で重症心身障がい児の養育をする中、養育に対しどのような経験をし、解決していたか、2. 母親は、それまでおこなって来た養育に対する経験が、重症心身障がい児の新たな医療処置が導入される際の意思決定に、どのように影響するか、を明らかにすることであった。 1. 研究方法；桜井(2002)のライフストーリー法とした。2. 研究協力者；医療処置を導入後、在宅で養育をし、新たな医療処置を導入した重症心身障がい児をもつ母親 3 人とした。A さん(a さん)、B さん(b さん)、C さん(c さん)のストーリーを分析した。a さんは気管切開術を受け、1 年程度の在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。b さんは胃瘻造設術を受け、在宅療養を経て、喉頭分離術を受けた。c さんは気管切開を受け、在宅療養を経て、胃瘻造設術を受けた。研究結果の分析から、在宅で生活する重症心身障がい児をもつ母親が医療処置導入後の児を養育する中での新たな医療処

				置の意思決定にかかわる経験がメイントピックとして明らかとなった。考察として1) 新たな医療処置の導入を、希望を持って意思決定できていた。医療者は、母親が医療処置導入の先に希望が持てる状況をイメージできるように支援する必要がある。2) 母親たちの納得は重要であり、母親の子どもの状態の状況把握を確認し、医療処置導入が子どもの状態に必要なことを母親が納得できるように支援する必要がある。3) 在宅での養育経験の満足から、児との在宅での生活の継続のために医療処置の導入を決定していた。本研究の母親の時代は活用可能な社会資源も十分ではなかったが、近年、訪問看護の充実、支援情報のインターネットによる提供等社会資源も増加しており、在宅での療養を支援する体制が整ってきている。満足いく在宅生活を送ってもらうためには、この社会資源を上手に活用することが必要である。今後は適切な情報活用のため、母親のインターネットリテラシーを高め、インターネット情報活用への支援が必要である。
8. 子どもの最善の利益に関する看護師の援助における概念分析	共 同	2024年7月	第34回 日本小児看護学会学術集会 (大阪府大阪市)	子どもの最善の利益に関する看護師の援助における概念の定義、属性、先行要件、帰結を明らかにし、結果から、子どもと家族への看護援助について検討する目的とした。 研究データとなる文献は、医中誌 Ver. 5及びCINAHLを用いて行った。keywordは、子どもにケアを行う際、子どもにとって一番良いケアについて考察する必要があるケアが含まれるようwordを選択しておこない、文献数は31文献とした。概念分析の方法はRodgers & Knaf1 (2000) の概念分析アプローチを参考とした。 結果は、属性は【ケアの指標になり得るものの参照】【子どもと家族の状況をふまえたかわり】【子どもが一番良い状態でいられるよう継続して考える】【親や多職種、看護師間の協働】の4カテゴリーを抽出した。先行要件は【子どもの背景や状況】【親の心情や子どもに対する意識】【看護師の背景と子どもの現象に対する捉え方】の3カテゴリーを抽出した。帰結では【子どもにとって一番良いケアの決定と家族との意思決定】【子どもにとって一番良いケアのための看護師のさまざまな実践】【家族や多職種との子どものケアの協働】の3カテゴリーを抽出した。 概念分析の結果を実践的に検証する為、概念分析の4つの属性を含むモデルケースを示した。今回、結果で明らかになった4属性は、子どもへの援助

				を充実させる為、家族の思いを重んじた実践という、小児看護の特徴を反映していた。子どもと家族への援助の示唆として、子どもの最善の利益に関する看護師の援助には正解がない。しかし、家族の思い・認識が、子どもの代弁となり得る。従って、子どもの疾患、発達段階を踏まえ、家族の子どもへの思いや認識を理解することが求められる。

教 育 研 究 業 績 書

令和 6 年 3 月 31 日

氏名 小林 由里

研 究 分 野		研究内容のキーワード	
看護学		基礎看護学、看護教育学、看護管理学、エンドオブライフケア	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事項	年月日	概 要	
1 教育方法の実践例 医療事故事例のシミュレーション体験を用いた授業方法	平成 15 年 12 月 ～平成 29 年 10 月	「医療安全」の講義において学生の自己モニタリングやリスクアセスメントを高め、事故防止行動がとれることを目的にシミュレーション教育を実施した。学生一人ずつ誤薬のシミュレーション体験とリフレクションを実施した。体験後レポートの記述から、学生はどのような状況で事故につながるのかや、自分の行動特性について理解できたという結果が得られた。また、実習においても事故防止の意識につながった。	
多重課題を用いたリスクアセスメント力と判断力の育成演習	平成 28 年 1 月	統合分野「看護の統合と実践」の科目として、卒業前に多重課題を用いたリスクアセスメント力と判断力、対応力を育成することを目的に演習を実施した。病室に呼吸不全の患者、転倒リスクのある患者、嚥下困難のある患者などを設定し、学生は、グループでディスカッションして患者への援助計画を立案しておく。教員が患者役を演じ、ロールプレイを行い、患者の状況に対応しながら、リスクアセスメントや優先度の判断を行う体験学習とした。このメリットとして、学生は、臨場感のある患者の反応への対応について思考し判断する機会となった。	
看護管理の考え方を学ぶ事例を用いたグループ討議	平成 28 年 4 月 ～平成 29 年 6 月	統合分野「看護の統合と実践」の科目である、看護管理では、看護管理の定義やマネジメントプロセス、病院・看護部の組織体制などについて教授した。また、倫理的問題のある事例を用いて、自らがミドルマネージャーとしてどのように倫理的判断を行うかのディスカッションや、複数の様々な状況にある患者のケアが必要な事例に対し、チームでケアを実施する際のリーダーシップのあり方についてのディスカッションを取り入れた。	
成人看護援助論Ⅱ、成人看護援助論演習の講義・演習	平成 30 年 4 月 ～令和 2 年 7 月	慢性疾患を持つ患者のセルフマネジメントを支援するための看護について、学生がイメージしながら学べるよう、事例を用いて、段階的に思考プロセスをたどれるよう講義の組み立てを行った。セルフマネジメントの患者教育では、模擬患者（教員）に対してパンフレットを用いて学生が指導する課題とした。患者役の様々な反応に対して思考し、対応するという内容とした。学生は不足する知識や患者教育の技術など課題を明確にすることができた。医療事故防止のリスクアセスメント力を高めるためのシミュレーションを取り入れた。	
看護管理学特論の講義	平成 31 年 9 月 ～現在に至る	大学院の看護管理学特論では、臨床で現在も勤務する学生であるため、生きた教材を活用するべく、各自の管理的疑問や問題を提起しあい、ディスカッションを行った	
想像力・創造力を高めるコミュニケーション論の講義・演習の工夫	令和 3 年 4 月 ～現在に至る	看護の初学者である 1 年次の学生に対し、コミュニケーションが、単なる言葉の伝達ではなく、目標や意図の共有であることや、看護職としてのコミュニケーションが理解できるよう工夫した。例えば様々なシチュエーションや臨床事例を用いて、学生が自ら考え、ディスカッションも組み入れて思考を深めていくようにした。	
看護技術の基礎Ⅰ・Ⅱ、看護実践プロセスの基盤Ⅰ、看護学概論Ⅱの講義・演習	令和 3 年 4 月 ～現在に至る	基礎看護技術やアセスメントは、方法論を患者にあてはめるといふ思考にならないよう、授業外の学習を促進する取り組みを行った。事前課題は、手順を覚えるのではなく、その技術を必要とする根拠、実施の際の判断に必要な要素の視点で考えられるように工夫した。演習においても、自ら考え、学生同士でディスカッションしながら	

		ら、事例患者に応じた援助の内容、方法、時期、留意点などの判断について深められるように促している。また、医療職としての倫理観を醸成するために、リアリティを持たせた事例を用いて体験を通して、深く考察できるよう工夫した。
看護管理学の講義	令和3年4月～現在に至る	4年次の学生が、卒業後に所属する組織の意義や機能、看護管理の定義やマネジメントプロセスなどをイメージすることができることを目指している。そして自らも組織の一員として看護をマネジメントしていく必要があることを理解できるよう教授する。現場で起こりうる様々な事例を用いたり、3年次までの実習を想起させて、マネジメントの視点による判断について思考を促す問いやディスカッションを取り入れている。
学生が4年次前期までの学びを統合させ、現象を捉え思考しながら行動できる力を育成する統合看護論の講義・演習	令和6年9月～現在に至る	既習の知識・技術・態度を統合させ、患者にとっての「より良い」を目指した看護の判断・実践・評価ができることを目的とした授業・演習を計画・実施した。複数の受持ち患者の状態を推論・論証し、模擬患者の流動的な反応に対応しながら、必要なケアを優先順位を考慮して実践すること、看護チームとして患者の課題解決のためのカンファレンス、退院に向けた医療チームカンファレンスなど、臨床現場に即した場面を提供し、学生の興味・関心を揺さぶり、学習意欲の向上につながった。卒業前のDPへの到達状況を確認することができた。
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価	令和元年8月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において奈良学園大学大学院看護学研究科講師、「看護管理学特論」M可、「特別研究」M合と判定
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
教育担当（5年間）として看護師の看護実践力向上のための現任教育の企画・運営	平成19年4月～平成24年3月	院内看護職（看護師、療養介助員、看護助手）の育成を図るため、経年別、役割別研修の企画・運営を担当した。毎年、新人看護師は毎月1回、2年目、3年目、4、5年目は2か月に1回程度、6年目以上は半年に1回程度、実習指導に関すること、褥瘡予防、摂食嚥下などの専門分野の研修などを実施した。経年別研修は、OJTを重視し、それぞれの経験年数での課題をOJTにより達成できるよう取り組み、集合研修ではその補填となるよう位置付けた。その結果、各部署で実践を通して、看護職員同士でお互いを育てあう意識ができた。新人看護職の研修テーマは主に看護技術や看護倫理に関すること、2年目はケーススタディ、3年目は組織におけるリーダーシップ・メンバーシップ、4年目以上は業務改善など組織における管理とし、業務改善につなげた。
教員に対する指導・教育、教員の教育実践力向上のための研修の企画・運営	平成25年～平成30年3月	看護専門学校教育主事として看護学校管理を担当した。近畿内国立病院機構附属看護学校の1、2年目教員を対象とし、教育実践力向上を目的とした研修や、中堅看護教員を対象とし、学校運営・管理の視点の育成を目的とした研修を実施した。
国立病院機構近畿グループ主催実習指導者講習会講師、施設内実習指導者	平成26年6月～平成29年6月	国立病院機構近畿グループ主催実習指導者講習会にて「基礎看護学」や「実習評価」について担当し講義を行った。また、国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校、京都医療センター附属看護助産学校、敦賀医療センターでの実習指導者研修において、教育課程、実習指導の意義、実習評価、実習指導案の作成などについて講義を実施した。
5 その他		
国立病院機構舞鶴医療センター附属看護学校における教育実績	平成25年4月～平成28年3月	「看護学概論」「老年看護学概論」「医療安全」などの講義を担当した。また、「基礎看護学実習」「小児看護学実習」「成人看護学実習」「在宅看護論実習」の実習指導を行った。効果的な実習となるよう、実習施設への実習依頼や調整を行った。院外講師へは学生の講義評価結果をフィードバックし、講義依頼を行った。また、看

国立病院機構京都医療センター附属京都看護助産学校 看護学科における教育実績	平成 28 年 4 月 ～平成 30 年 3 月	護教員の指導、実習施設の実習指導者対象研修の講師などを行った。 「看護管理」「医療安全」の講義を担当した。また、「基礎看護学実習」「小児看護学実習」などの実習指導を行った。効果的な実習となるよう、実習施設への実習依頼や調整を行った。院外講師へは学生の講義評価結果をフィードバックし、講義依頼を行った。また、看護教員の指導や実習施設の実習指導者対象研修の講師などを行った。
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許	平成元 年 4 月	看護婦免許
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 国立病院機構奈良医療センター教育担当看護師長	平成 21 年 4 月 ～平成 24 年 3 月	教育担当として看護職の現任教育の企画・実施を行った。また、医療安全管理係長とともに全職員対象の研修を実施した。人材確保対策事業として、看護職募集活動、復職支援研修や中途採用者研修の企画・運営を実施した。また実習受け入れ態勢整備等の役割を果たした。
4 その他		
実習部会	平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月	看護学科における実習に関する企画・運営、検討を行った。3 年次領域の臨地実習学生配置の作成、次年度実習ローテーション案の作成、実習要綱の修正・検討・作成、実習協議会の企画・運営・評価、統合看護実習の計画案作成、学生配置の検討など多岐にわたり、学生の実習で質の高い学びができるよう取り組んだ。令和 2 年は実習に向けた学生のコロナワクチン接種の対応も行い、コロナ過における臨地実習のあり方についても検討した。
学生生活ワーキング	平成 30 年 4 月 ～令和 2 年 3 月	新入生研修の準備・運営・評価を行った。また、学生の大学生活に関わる事項について情報共有および検討を行った。
国家試験対策ワーキン	平成 31 年 4 月 ～令和 3 年 3 月	国家試験合格に向けた模擬試験や夏季、秋季対策講座の準備、学生の学習状況把握のためのポートフォリオ作成の検討、学習支援のためのアドバイザー教員との連携方法などについて検討し、実施した。
卒業研究ワーキング	平成 31 年 4 月 ～R2 年 3 月	卒業研究に向けたガイダンスの計画と運営、卒業研究抄録集作成に向けた、執筆規程の修正、ポートフォリオ、評価表の検討を行った。
カリキュラム検討ワーキング	令和 2 年 4 月～令和 4 年 3 月	令和 4 年度カリキュラム改正に向けて、本学看護学科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーを検討した。また、そのポリシーを達成するための科目、科目内容、カリキュラムツリー、科目間の関連、担当者等を検討するにあたり、検討案を提示し、意見を述べた。
教員評価制度検討ワーキング	令和 3 年 4 月	教員の教員分野に関する評価（ベストティーチャーなど）について検討し、実現に向けて具体案を計画した。
看護学科教務委員会	令和 4 年 4 月 ～現在 に至る	看護学科における教務に関する検討・運営を行っている。シラバス、授業担当教員の確認、時間割の確認・調整、教室や実習室の重複の確認など、学生の授業が円滑に進むよう、問題点を検討し、調整をおこなった。次年度の専門基礎科目の講師依頼と時間割調整、カリキュラム改正に伴う読み替え履修が必要な対象学生の確認、履修が問題なくできるよう調整した。R4 年度はオンラインによる入学前教育の企画・運営・評価を担当した。また、卒業研究のガイダンス計画及び実施、抄録集の作成などを行った。
入学前スクーリング検討ワーキング	令和 5 年度 4 月～現在 に至る	令和 5 年度は、入学前教育を入学前スクーリングとして、ワーキングが立ち上げられた。そのメンバーとして、企画・運営に携わった。入学生が不安なく大学生活に適応できるようなプログラムを企画し、2 クール、計 5 回実施することができた。

キャリア部会	令和5年4月～令和6年3月	国家試験合格に向けた模擬試験や夏季、秋季対策講座の準備、学生の学習状況把握のための情報交換、学習支援のためのアドバイザー教員との連携方法、卒業年度生以外の国試に向けた学習支援などについて検討し、実施した。他にも、就職活動などのキャリア支援について、キャリアセンターとの情報交換を行うなど行った。		
奈良学園大学自己点検自己評価委員会	令和3年4月～現在に至る	奈良学園大学白書の加筆・修正について、意見を取りまとめ、修正した。令和6年度認証評価に向けて資料の作成に携わった。		
奈良学園大学全学教務委員会	令和6年4月～現在に至る	全学の教務・カリキュラム運営に関する学部間の連絡や調整を行った。シラバス作成依頼や点検、次年度授業担当者の調整、履修の手引きの改訂、新入生ガイダンスの準備等を行った。		
独立行政法人国立病院機構紫香楽病院 看護師ラダー研修 「看護研究」に関する講義・指導	令和5年4月～現在に至る	看護師のラダー研修 レベルⅢ、Ⅳの方を対象とした「看護研究」の講義および研究指導を行っている。看護研究の一連の流れを学習し、研究の基礎を身につけることを目的とし、看護研究の基礎的な内容に関する講義、3題の研究に対する研究計画書作成、倫理審査申請に向けての指導を行った。令和6年度は発表に向けて継続的に指導を行い、3題すべて学会発表ができた。		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1 看護師国家試験 直前社会福祉学領域ファイナルチェック	共著	2021年03月	金芳堂	社会福祉の仕組みを学び、対象者の生活を基盤としたQOLの質の向上に向けた社会福祉の知識を体系的に理解できるものである。3-2) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）を担当した。第Ⅱ部 疾患別／D 肝臓・胆嚢の疾患胆石症を担当した。
2 エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図	共著	2022年03月	中央法規出版	
(学術論文)				
1. 新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性とその特徴（修士論文）	単著	平成25年3月	畿央大学	新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の特徴とその関連性を明らかにすることを目的とした。質問紙は批判的思考態度尺度(常盤ら,2010)、情報活用の実践力尺度(高比良ら,1999)で構成した。分析方法は記述統計、Spearmanの相関係数、重回帰分析を用いた。結果新人看護師および看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性は、双方とも有意な正の相関が認められ($r=.449,p<0.1$)、両能力は有意に関連していることがわかった。クリティカルシンキング能力を高めるには情報活用能力の判断力、創造力、処理力を育成する必要性が示唆された。A4判 全64頁

2. 看護学生の碎石位体位前後の産婦人科診察台に対するイメージと羞恥心の変化 (査読付)	共著	平成 27 年 6 月	畿央大学紀要 p19～P30	看護学生が産婦人科診察台で碎石位を体験することで、体験前後の診察台のイメージや羞恥心の変化を検討することを目的とした。15 項目の産婦人科診察台イメージ尺度を作成した。羞恥心は樋口の状態羞恥心感情測定尺度で碎石位体験前後に調査した。参加者は 80 名。産婦人科イメージは、因子分析の結果「情動イメージ」「体感イメージ」「緊張のイメージ」「見た目イメージ」の 4 因子が抽出された。体験前は 13 項目がマイナスイメージであったが、体験後 5 項目がプラスに有意に変化した。体験後の羞恥心尺度の高値群は、診察台イメージの「高く」「嫌な」の項目でマイナスに有意に変化した。以上から産婦人科診察台に対してマイナスイメージが強い場合、羞恥心が強くなることが示唆された。本人担当部分：データの分析、結果の考察を行った。 共著者：◎中居由美子,小笠原知枝,播金ヤスミ,小林由里,河合まゆみ,文鐘聲
3. 基礎看護学実習評価項目の内容分析によるパフォーマンス評価のためのルーブリックの作成 (査読付)	共著	平成 30 年 2 月	医療福祉情報行動科学研究第 5 巻 P43～P51	基礎看護学実習の評価に用いられた項目から、パフォーマンス評価のためのルーブリックを作成することを目的とした。10 校の基礎看護学実習評価表の評価項目を基礎データとし、Berelson の内容分析を参考にカテゴリ化した。445 記録単位数をコード化し、110 サブカテゴリー、25 カテゴリー、6 コアカテゴリーを抽出した。6 コアカテゴリーは、看護過程展開力、クライアント理解力、自己学習力、チーム医療における看護師役割の認識力、倫理的態度に基づく実践力、コミュニケーション力と命名し、基礎看護学実習の実践力とした。これに基づき、縦軸に 25 カテゴリーの評価規準、100 サブカテゴリーの評価基準から構成され、到達度で評価できる評価表を作成した。本人担当部分：データの分析、結果の考察を行った。 共著者：◎播金ヤスミ,小笠原知枝,中居由美子,河合まゆみ,小林由里,對中百合,新井祐恵,太田容子,伊藤明子

4. 新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の特徴とその関連性 (査読付)	共著	平成 31 年 2 月	医療福祉情報行動科学研究第 6 巻 P3～P11	新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の特徴とその関連性を明らかにすることを目的とした。看護師 712 名に質問紙調査を実施した。質問紙は属性、批判的思考態度尺度(常盤ら, 2010)、情報活用の実践力尺度(高比良ら, 1999)で構成した。 分析方法は記述統計, Spearman の相関係数, 重回帰分析を用いた。結果, クリティカルシンキング能力は, 協同的態度が高く, 看護師との比較では, 探求心が高く, 論理的思考への自信が低かった。情報活用能力では, 収集力, 発信・伝達力が高く, 看護師との比較では表現力が高かった。新人看護師および看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性は, 双方とも有意な正の相関が認められたが, 新人看護師は看護師より関連性が低かった。(修士論文をもとに作成) 本人担当部分: 質問紙の作成と調査及び統計解析, 研究の総括を行った。 共著者: ◎小林由里, 小笠原知枝, 河合まゆみ, 中居由美子, 播金ヤスミ
5. 看護師の暗黙知による予後予測に関する文献検討 (査読付)	共著	令和 5 年 3 月 掲載予定	医療福祉情報行動科学研究第 11 巻 (2022)	【目的】看護師が暗黙知に基づきどのように死期を察知し, 予後を予測しているかを明らかにする。 【方法】対象となる文献から, 看護師の暗黙知による予後予測に関する記述を取り出し, 内容の類似性に基づき抽象化しサブカテゴリ, カテゴリを生成した。 【結果】15 件の文献を分析した。 暗黙知による予後予測は, 目つきや表情の変化, 違和感のある臭気の消失, 土気色のねっとりした皮膚, つじつまの合わない会話, 今までにない異常な言動, 一瞬の回復, 死の恐怖, 惜別に伴う感情, 生へのこだわりの喪失, 看護師自身に生じる何かが違うという感覚の 10 カテゴリが抽出された。 【結論】看護師は, 患者の特異的な身体的情報や, 死を自覚することに関連した心理的变化, 今までにない言動や予想外の反応だけでなく, 看護師自身に生じる「何かが違う」という感覚により死期を察知し, 予後を予測していることが示唆された。 共著者: ◎小林由里, 小笠原知枝, 西薊貞子, 平松幸子, 河合まゆみ, 兒玉 拓

6.看取りケアへの移行を判断するための 看護師の暗黙知に基づく 予後予測指標の開発 ー非がん性呼吸器疾患患者に焦点をあてー (博士論文)	単著	令和5年8月	兵庫大学	非がん性呼吸器疾患は「がん」と比べ病の軌跡が多様なため、予後予測が難しい。本研究では、Polanyi が提唱した暗黙知という概念を理論的背景としている。そこで、仮定した暗黙知に基づき、看護師が、非がん性呼吸器疾患患者の看取りケアへの移行期をどのように判断しているのかを明らかにし、予後予測指標を開発することが研究の目的である。 【研究1】看護師の暗黙知に基づく予後予測に関するシステマティックレビューおよび質的研究【研究2】研究1の質的分析により抽出された予後予測項目の具体的表現をもとに、28項目を予後予測指標原案とした。CVIによる内容妥当性検討により14項目を看護師の暗黙知に基づく予後予測指標項目とした。【研究3】14項目からなる看護師の暗黙知に基づく予後予測指標について、慢性呼吸器疾患看護認定看護師や、呼吸器疾患の看取り経験のある訪問看護師など14名の研究協力者を対象に実用性を調査した結果、看取りケアへの移行期であるかを判断するためにこの指標が実用できるということが概ね示唆された。非がん性呼吸器疾患の特徴をふまえた看取りのケアへの移行期を判断する指標となるには、個人差を考慮する必要があること、また看護師の暗黙知に基づく項目にあわせて、客観的データなども考慮する必要性が示唆された。
7.看護師の暗黙知に基づく 看取りケアへの移行を判断する予後予測指標の開発 ー非がん性呼吸器疾患患者に焦点をあてー (査読付)	共著	令和6年4月	日本看護診断学会「看護診断」第29巻第1号	非がん性呼吸器疾患患者の看取りケアへの移行を判断するために、看護師の経験知から導かれた暗黙知に基づき作成した予後予測指標原案の内容妥当性と実用性を検証することを目的とした。予後予測指標原案（小林，2023）は、看護師の暗黙知の観点から死期が近いことを予測する手がかりとなる兆候を文献から抽出した28項目で構成されたものである。内容妥当性は、看取りケアの経験のある看護師を対象に質問紙調査を実施し、Lynn(1986)の内容妥当性指数(CVI)を算出した。実用性については、非がん性呼吸器疾患患者の査定に際して、予後予測指標原案を用いて評価を依頼した。CVIを算出した結果、0.78以上を示した項目は4項目であった。また症例により指標となる可能性があるCVIが0.67～0.73を示した10項目を含めた14項目を予後予測指標とした。実用性は、呼吸器系非がん患者37名に予後予測指標を使用した結果、70%が看取りケアへの移行の判断に「大いに参考にできた」「まあまあ参考にできた」と回答した。以上から、本研究で開発された看取りケアへの移行を判断するための予後予測指標は内容妥当性と実用性の観点から検証された。 本人担当部分：質問紙の作成と調査及び分析、研究の総括を行った。 共著者：◎<u>小林由里</u>，小笠原知枝，河合まゆみ，平松幸子，西薊貞子
8. 在宅認知症高齢者のエンドオブライフと家族を	共著	令和6年7月	日本地域共生ヘルスケア学会誌第1巻2号	【目的】在宅認知症高齢者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師の

支援する訪問看護師のストレス要因 ーインタビュー調査に基づく質的内容分析ー (査読付)				ストレス要因を明らかにする。【方法】4年以上の訪問看護の経験と在宅認知症高齢者のエンドオブライフケアの経験をもつ訪問看護師19名を対象とした。半構造化面接法を用いてナラティブデータを収集し、質的記述的研究の手法を用いて分析した。在宅認知症高齢者と家族への支援を通して感じる困難感、不安、負担感に関する語りを類似の文節ごとにコード化しカテゴリ化した。【結果】ストレス要因として10カテゴリと28サブカテゴリが抽出された。10カテゴリは、〔認知機能低下に伴う日常生活上の支障への対応〕〔看護介入に対する在宅認知症高齢者の理解困難〕〔認知症高齢者と家族の情緒不安定な言動〕〔家族の認知症に対する受容の難しさ〕〔在宅医療・看護ケアの見直しにかかる費用負担の困難さへの対応〕〔意思決定を代行する家族への支援上の困難さ〕〔意思疎通ができない認知症高齢者の看取りに対する家族の混乱〕〔多職種連携の困難さ〕〔多岐にわたる業務の繁忙に伴う疲労〕〔幅広い看護実践に必要な知識・技術の不足〕であった。【結論】ストレス要因は、認知症に伴う中核症状と周辺症状への対応上の困難、在宅療養の継続上の困難、家族によるエンドオブライフの支援上の困難、訪問看護の業務上の特徴から生じる困難に4分類された。これらの4観点から訪問看護師のストレス要因に対処する必要性が示唆された。共著者：◎平松幸子，小笠原知枝，<u>小林由里</u>，河合まゆみ，兒玉 拓
9. 訪問看護師が認識する認知症患者遺族へのグリーフケア（査読付）	共著	令和6年10月	日本地域共生ヘルスケア学会誌第1巻2号	訪問看護師の認知症患者遺族に対する支援の実態を踏まえ、訪問看護師のグリーフケアに対する認識を明らかにすることを目的とした。その結果、訪問看護師は【否定的・肯定的な感情や思いの表出支援】【思いや悲しみへの共感と寄り添い】【認知症患者の人格を尊重した代理意思決定の行程】【認知症の進行に伴う介護疲労への労い】【遺族間で思いを共有する機会の提供】【今後の生活に向けた社会資源の活用】【認知症の特徴と悲嘆プロセスに関する教育的支援】をグリーフケアと認識していた。 ◎河合まゆみ，小笠原知枝，<u>小林由里</u>，平松幸子，兒玉 拓
(その他)				

1. A Study of Young Women's Images of the Gynecological Examination	—	平成 25 年 10 月	International Nursing Conference & World Academy of Nursing Science	若い女性が婦人科診察台に対して、どのようなイメージをしているのか判明することを目的とした。婦人科診察台のイメージの 15 項目のスケールを作成した。80 人の女子大学生に婦人科診察台で診察を受けるポーズをとってもらった。結果、診察ポーズ前の婦人科診察台のイメージは、「緊張する」67.0%、「恥ずかしい」58.0%、「親しみにくい」50%、「こわい」43.3%、「嫌い」32.7%であった。診察ポーズ後の婦人科診察台のイメージは、「高い」61.7%、「嫌い」45.3%、「緊張」42.7%、「こわい」28.0%、「恥ずかしい」27.7%に変化した。 診察ポーズ後 50 名の学生が婦人科診察台のイメージはマイナスイメージからプラスイメージに変化した。このことから若い女性は診察前は婦人科診察台に対してマイナスイメージをもっているが体験後プラスイメージに変化した。子宮がん検診率を上げるために、ヘルスケア・プロバイダーは、若い女性の婦人科診察台の否定的なイメージを減少させる必要がある。 本人担当部分：データの分析、結果の考察を行った。 共同発表者：◎Yumiko Nakai, Jong-Seong Moon, Yasumi Harikane, <u>Yuri Kobayashi</u>, Mayumi Kawai, Midori Takagi, Akiko Ito
2. 新人看護師のクリティカルシンキング能力と情報活用能力の関連性とその特徴	—	平成 26 年 8 月	日本看護学教育学会 第 24 回学術集会	看護師 1,075 名を対象に自記式質問紙法による調査を行った。質問紙は高比良ら(1999)による情報活用の実践力尺度、常盤ら(2010)による批判的思考態度尺度を使用。分析対象者は新人看護師 158 名、看護師 583 名。 新人看護師および看護師の「クリティカルシンキング能力」と「情報活用能力」の関連性は、双方とも有意な正の相関が認められた。本研究から、新人看護師の両能力は関連していることが示唆された。クリティカルシンキング能力では「懐疑的態度」や「論理的思考への自信」、情報活用能力では「判断力」や「処理力」などの能力を高める教育が必要であると考えられる。(修士論文の一部を発表) 本人担当部分：質問紙の作成と調査及び統計解析、研究の総括を行った。 共同発表者：◎<u>小林由里</u>、河合まゆみ、播金ヤスミ、中居由美子、伊藤明子、小笠原知枝

3. 看護専門学校における高校新卒学生と社会人経験学生の学習意欲に関する要因	—	平成 27 年 8 月	日本看護学教育学会 第 25 回学術集会	専門学校における高校新卒学生と社会人経験学生の学習意欲に関する要因を明らかにすることを目的とした。看護専門学校 3 年課程（4 校）の 1～3 年生 445 名を対象に、自記式質問紙調査を実施。質問紙は永嶋らの学習意欲尺度、斎藤らの志望動機尺度、菅原らの自意識尺度と学習活動で困った場面・学校生活での人間関係・相談の気兼ねなど 6 項目とした。結果は、社会人が学習意欲全体で有意に高く、学習意欲に関する要因とした高校卒は「志望動機」のみであったが、社会人は「志望動機」「自意識」「学校生活の相談」が関与していることが示唆された。さらに高校卒は看護職への憧れと自分に適性があると感じているほど演習・実習に期待が大きいことが推察された。 本人担当部分：データの分析、結果の考察を行った。 共同発表者：◎河合まゆみ、小笠原知枝、中居由美子、小林由里、播金ヤスミ
4. Prognosis Prediction at One Month Before Death Based on Nurses' Assumed Tacit Knowledge: Qualitative Inductive Research Based on Systematic Review	—	令和 4 年 4 月	The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	【目的】看護師の経験に培われた暗黙知に基づく予後予測を可能にする要素を明らかにする。 研究デザインは、系統的レビューに基づく質的帰納的研究。文献検索は、2000 年～2020 年に発行された医療系データベースを使用した。質的データはコード化し分類して分析した。選択基準に合致した 27 文献が分析対象となった。その結果、看護師の暗黙知に基づく死の約 1 か月前の予後予測の要素として、【目つき、表情の変化】【反応の低下】【死に対する恐怖】【家族等との惜別（せきべつ）】【今までにない異常な言動】【違和感のある臭気の消失】【生へのこだわりの喪失】【ただならぬ雰囲気を感じ】【一瞬の回復】【発汗を伴う皮膚色の変化】などの 10 カテゴリが抽出された。 共同発表者：◎Yuri Kobayashi, Chie Ogasawara, Teiko Nishizono, Mayumi Kawai, Sachiko Hiramatsu, Yasumi Harikane.
5. 看護師の暗黙知による予後予測に関する文献レビュー	—	令和 4 年 10 月	日本エンドオブライフケア学会 第 5 回学術集会	【目的】1) 国内外の文献レビューにより、看護師の暗黙知による予後予測に関する研究の動向を把握し、2) 看護師がどのような予感や直観に基づいて患者の予後を予測しているのかを明らかにする。 【方法】文献レビュー方法および対象文献の選定は、医中誌 Web 版、CiNii, PubMed, CINAHL 等を使用した。 【結果】分析対象文献は 17 件となった。暗黙知による予後予測に関する文献の動向は、8 件が看護師の暗黙知による死期の予測に関する文献、7 件は暗黙知による急変や異常の臨床判断に関する文献、2 件は経験により培われた実践知に関する文献であった。 【考察】看護師は過去の経験において培われた暗黙知の視点から予後を予測しており、特に患者の目つき・表情の変化、臭い、いつもと違う雰囲気などから予後を察知し予測していることが示唆された。

				本人担当部分：文献検索，データ分析，研究の総括を行った。 共同発表者：◎小林由里，小笠原知枝
6. 学生の主体性を引き出す有効な教育支援の検討ー学生がデザインする統合実習における教員の実践からー	—	令和4年 12月	日本看護科学学会 第42回学術学会	【目的】対象学生2名への実践から，教員のどのような支援が学生の主体性を引き出しているかを検討しする。今後の教育支援をより有効なものとする具体策を明らかにする。 【方法】「学生が主体的にデザインする実習（西菌）」を活用。この方法は，学生が自ら課題を設定し，看護の現象に対して探究心を持つことにより，研究的手法を用い，情報収集から計画立案，実践，考察を行うものである。 1)探究テーマと理由の明確化 2) 実習施設とのスケジュール調整 3)実習日程の設定 【教育支援の実際】1)言語化へのサポート，2) 主体的な学習行動継続のサポート3)主体的に学ぶ環境づくり，4) カンファレンスで成長確認 共同発表者：◎松浦尚子，西菌貞子，<u>小林由里</u>
7. Stressors for Visiting Nurses Supporting End-of-Life Care for Older Patients with Dementia and Their Families	—	令和5年3月	The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	目的：高齢認知症患者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師のストレス要因を明らかにする。方法：5年以上の訪問看護の経験をもつ看護師に，半構造化面接法を用いてデータ収集し，質的記述的研究の手法を用いて分析した。結果：研究参加者は19名で，訪問看護の経験年数の平均は12.2年であった。分析の結果，訪問看護師のストレスとして，12のカテゴリと28のサブカテゴリが抽出された。12カテゴリはストレスの特徴から，1.中核症状，行動心理症状，2. 在宅療養継続困難，3. 意思決定支援，4. 在宅における看取り，5.職場環境への課題の5つの視点に分類された。 共同発表者：◎平松幸子，小笠原知枝，兼澤あゆみ，<u>小林由里</u>，河合まゆみ
8. Grief Care Provided by Visiting Nurses to Bereaved Families of Patients with Dementia	—	令和5年3月	The 26th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference	目的：認知症患者の遺族に対して訪問看護師が提供するグリーフケアを明らかにする。 方法：訪問看護師を対象にグリーフケアに関する質問紙調査。 結果：調査対象は，平均訪問看護師歴9.2年であった。認知症患者の配偶者や子どもへのグリーフケアは，家庭訪問や電話相談で行われた。訪問看護師が行ったグリーフケアは遺族に寄り添い傾聴，表現の促し，行ってきたことを肯定，ねぎらいの言葉，生前の家族との関係構築，故人の思いを察して言葉をかける(代弁)，新たな問題や心配事の確認と支援，同じ境遇の遺族の紹介，社会資源の活用，遺族の健康状態の把握，悲嘆過程の説明の11項目であった。 共同発表者：◎河合まゆみ，小笠原知枝，<u>小林由里</u>，平松幸子

9. 基礎看護学実習Ⅰの体験想起を活用した看護技術における学びのアウトプット	—	令和6年8月25日	日本看護研究学会第50回学術集会	【目的】基礎看護学実習Ⅰにおける学生の体験想起の活用は、後続の授業＜看護技術Ⅰ＞で、どのように学びのアウトプットにつながるかを明らかにする。【方法】(1)調査対象：同意を得られた学生81名。(2)データ収集方法：「看護技術の基礎Ⅰ」の課題や振り返りの記載内容の中から、基礎看護学実習Ⅰにおける看護師のシャドーイング実習で見学した内容や、その体験から考えたことについて想起して記載された文脈を抽出した。(3)データ分析方法：記述内容を取り出し、想起した場面と学びの特徴や深まりについて考察した。【結果】学生は、朝のバイタルサイン測定場面について実習中は疑問に感じなかったことを想起により疑問に思い、授業後に調べ学習により気づいていた。【結論】看護技術の講義や演習においてインプットした知識は、実習で見学した看護師の言動や行動などの体験の想起により、具体的な場面とつなげた理解の深まりに変化していた。また、体験した内容は、その時どう感じ、考えたのかという学生の感情とともに想起され、記録し、言語化することで体験による知識が意味づけされる。体験場面の想起の活用は、ただ知識を記憶するだけではなく、学びを深化させることにつながる事が明らかとなった。 共同発表者：◎小林由里、松浦尚子、井上理子、森本早紀、西菌貞子
10. 高齢認知症患者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師のコーピング方略尺度の構成要素の探索	—	令和6年9月15日	日本地域共生ヘルスケア学会第4回学術集会	【目的】在宅認知症高齢者のエンドオブライフと家族を支援する訪問看護師のストレス要因を明らかにする。【方法】4年以上の訪問看護の経験と在宅認知症高齢者のエンドオブライフケアの経験をもつ訪問看護士19名を対象とした。半構造化面接法を用いてナラティブデータを収集し、質的記述的研究の手法を用いて分析した。在宅認知症高齢者と家族への支援を通して感じる困難感、不安、負担感に関する語りを類似の文節ごとにコード化しカテゴリ化した。【結果】ストレス要因として10カテゴリと28サブカテゴリが抽出された。10カテゴリは、〔認知機能低下に伴う日常生活上の支障への対応〕〔看護介入に対する在宅認知症高齢者の理解困難〕〔認知症高齢者と家族の情緒不安定な言動〕〔家族の認知症に対する受容の難しさ〕〔在宅医療・看護ケアの見直しにかかる費用負担の困難さへの対応〕〔意思決定を代行する家族への支援上の困難さ〕〔意思疎通ができない認知症高齢者の看取りに対する家族の混乱〕〔多職種連携の困難さ〕〔多岐にわたる業務の繁忙に伴う疲労〕〔幅広い看護実践に必要な知識・技術の不足〕であった。共著者：◎平松幸子、小笠原知枝、小林由里、河合まゆみ、兒玉拓
(その他)				

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（c） （研究分担者）	令和２年４月 ～令和４年３月	研究課題名「終末期患者の意思表示を支えるための高齢者市民を対象としたエンドオブライフケア教育」 市民を対象とした研修会の実施および、報告書冊子の作成に携わった。
令和３年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C） （研究代表者）	令和３年～ 令和６年	研究課題名「エンドオブライフケアに携わる看護師の暗黙知に基づく臨死期の予測」 令和３年度は、看護師の暗黙知に基づく予後予測項目の抽出を目的に、システマティックレビューおよび質的分析を行った。
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（B） （研究分担者）	令和４年～ 令和７年	研究課題名「看護人材の円滑なトランジションを促す大学教育～新人教育の抜本的な改革と体系化」

教 育 研 究 業 績 書		
2025 年 5 月 7 日		
氏名 西川 美樹		
研 究 分 野	研究内容のキーワード	
生涯発達看護学 母性看護学，助産学	周産期医療安全，看護師・助産師業務分析， 救急隊員の施設外分娩対応に向けた教育プログラムの構築	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 産褥期・新生児期における技術演習の工夫	2018 ～ 2021 年 度 2023 ～ 2024 年 度	助産診断・技術学Ⅲの授業科目において、褥婦・新生児の事例を提示し、視聴覚教材の視聴、演習事前学習、手順書の作成を学生自身に学習計画を立案させ、演習に臨ませた。学生に学習者として主体的な学習活動を促す目的で、このプロセスを構築した。また、実際の演習の場面ではグループごとに演習を行い、グループ内でピア評価をさせ、全体フィードバックで学びを共有した。また、演習終了後には、学生に自己評価表の記載を促し、学習課題を明確化させた。この内容は、次年度の授業案作成時の一資料として活用するとともに、演習計画の修正内容につなげた。
2) 健康教育技法の演習における学生の主体性を促す工夫	2015 年 度 2021 年 度	助産診断・技術学Ⅴでは、学生をグルーピングし、「女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する援助」に対して、具体的な健康教育のテーマを学生自身で選定し、対象の設定から行うように授業内容を構成した。その後、グループワークを中心に企画書の作成、指導案・媒体の作成、発表に向けた練習を含めて準備期間5週間のタイムスケジュールを作成させた。また、学生には評価の視点についてあらかじめ提示し、それらを意識しながらグループワークに取り組むように促し、学生の主体性を育む授業を展開した。
3) 受胎調節実地指導員講習会の講習内容の一部実施	2015 年 度 2021 年 度	受胎調節実地指導員の講習会の講義を一部担当した。 担当箇所：「性感染症がリプロダクティブヘルスへ及ぼす影響」「家族計画の目的と歴史」「助産師の行う受胎調節と意義」「受胎調節の基礎」「受胎調節の指導」「演習」 これらの担当箇所の講義及び演習を通して、リプロダクティブヘルス/ライツの視点をもった女性の健康支援に関わる専門職であるという助産師の役割について理解を促した。
4) 研究指導	2018 ～ 2024 年 度	短期大学在職中は、学位授与機構への学士の学位申請のための課題研究指導、大学専攻科においては科目「助産学研究」における研究指導、現職では学士課程の卒業研究指導を行った。学生には研究の楽しさが伝わることを意識し、研究指導を行った。2024年度からは修士課程の研究指導にも携わり、研究計画書作成に向けたリサーチクエスションの明確化、文献クリティーク等のゼミを実施している。
5) 新生児蘇生法 B コース認定講習会インストラクター	2015年6月 2023年6月	新生児蘇生法 B コースの認定講習会を企画・運営するとともに、インストラクターとして講習会を開催した。

6) 新生児蘇生法 A コース講習会開催責任者	2018 年 2020 年 度	大学助産学専攻科着任後は、A コースの講習会開催の責任者として、講習会の企画・運営を担った。講習会は分娩介助技術評価試験をクリアした後、助産学実習開始直前にスケジュールを組んだ。助産学実習では出生直後の新生児の診断能力が必要であり、この時期に講習会を開催することで学生の助産学生として出生直後の児の的確な診断を行うことの責任の重さについて認識を高めるとともに、児の蘇生に必要な蘇生技術の習得を目指した。
7) 分娩介助技術演習における授業構成の工夫とオリジナルの分娩介助技術手順書の作成	2018 年 2023 年 度	分娩介助技術演習では、まずは座学での理論的内容と視覚教材を使用しての講義の後、教員による分娩介助技術のデモンストレーションを実施し、各グループによる分娩介助技術演習を開始した。本授業科目の技術習得のプロセスは学生個々によって術習得の状況に差が生じるので、個別指導を中心に、各グループ演習という形態で、実習前の技術評価試験に向けて学生個々の技術の習得を促した。加えて、学生が安全に分娩介助ができるようになることを目指して、オリジナルの分娩介助手順書を作成した。学生の分娩介助技術実践における課題となる箇所については毎年改善を積み重ねて、演習および指導で活用した。
8) 分娩期 OSCE の導入（企画・実践）	2018 年 2019 年 度	OSCE は多くの大学でも導入されているが、その多くは実習前 OSCE、卒業前・修了前 OSCE である。自身が取り組んだ OSCE は、分娩介助技術の習得がある程度進んだ時期に、介助技術の習得が技術手順の暗記で作業としての技術実践になってしまわないように、産婦への声かけ、間接介助者とのやりとりも含めた技術の習得を目指し導入した。OSCE 受験以降の学生は、その後の自己演習の場面において産婦役や間接介助役の学生に向けた声かけも増え、お互いに臨場感を持ちながらの演習に取り組む姿に変容していった。この時期に OSCE を導入したことによって、学生が自己課題への気づきの促しは効果があったと評価できる。
9) 学部生に対する社会人基礎力育成を目指したセミナーの実施	2021 年 度	国家試験対策の授業科目として位置づけられている基礎セミナーにおいて、ジグソー法を用いて学部 2 年生の病態生理学の国家試験対策を実践した。基礎セミナーでのジグソー法による共同学習を通して、学生が主体的に、能動的に学ぶ姿勢を養い、社会人基礎力の涵養を促した。
2 作成した教科書、教材		
1) 授業リフレクション冊子	2016 年 2018 年 2021 年 2024 年 度	「学習活動の記録」と称するオリジナルの冊子を作成し、学生個々と授業のリフレクション用の媒体として活用していった。特に、助産教員として初年度に着任した短期大学専攻科では、学生数が 40 名と助産学専攻科の学生数としては大人数であった。よって本冊子は学生個々の学習状況の把握のみならず、学生のメンタル面でのフォロー等の場としても活用した。学生からのメッセージに対しては全員に毎回フィードバックし、その学生個々とのやりとりから学生の特性の把握につなげていった。
2) 受胎調節法の自己学習冊子の作成	2015 年 2021 年 度	受胎調節実地指導員のカリキュラムの一部である、受胎調節方法の知識の構築を目指した学生の学習プロセスを基盤にその内容を吟味し、冊子化した。講義及び演習において学生は、事前にその冊子の内容に沿って事前学習をすることによって、技術演習に必要な知識の整理につなげていった。

3) 新生児訪問演習用冊子の作成	2024 年 度	新生児訪問技術の習得に向けて、法的根拠、事例を用いた施設退院後の母児の観察・アセスメントの視点のワーク、振り返りシートを盛り込んだオリジナルの冊子を作成し、新生児訪問指導の演習を実施した。
4) 分娩介助に係る教材の工夫	2018 ～ 2020 年 度 2023 年 度	分娩介助技術の中の臍帯切断については、反復練習ができるように、ストッキングを用いて学生に臍帯を複数本作成させた。業者が販売している練習用の臍帯もあるが、高額となるため反復練習にはコスト面で現実的でなかったため、手作りの教材で代用した。臍帯切断の反復練習を行うことで臍帯切断の手技のおよび安全面を考慮した剪刀の取り扱い方の技術習得につながった。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 授業の教員による相互評価	2024 年 5 月	他の科目との関連性、自己学習内容とのつながりが明確であり、学びの視点がわかりやすい授業であるとの評価を得た。
4 実務の経験を有する者についての特記事項 特記すべき事項無し		
5 その他		
1) 看護専門学校での母性看護学援助論の非常勤講師（奈良県医師会看護専門学校）	2008 年 度	実習受け入れをしている看護専門学校からの要請で看護学校での非常勤講師を行った。
2) 日本看護協会からの依頼で中学校における出前授業	2005 年 5 月 2006 年 6 月 2008 年 11 月	勤務病院の近隣中学校への出前授業講師を行った。「命の大切さ」「命の大切さ・看護の素晴らしさ」「看護師・助産師になるには」をテーマに講演を行った。
3) 奈良県王寺町白鳳女子短期大学セミナー講師	2013 年 6 月	短期大学在職中に、セミナー講師として「家庭教育の中で命の大切さを伝えるには」をテーマに講演を行った。
1) 市民講座講師（大阪府柏原市）	2015 年 4 月	「命について考えよう」をテーマに講演を行う。
2) 第 8 回看護理工学会学術集会シンポジウム「看護学研究者と工学研究者との出会い」にシンポジストとして招聘	2020 年 10 月	左記シンポジウムにおいて「工学研究者との共同を通しての気づきと具現化した看護学研究者の課題」について講演を行った。
3) 第 11 回看護理工学会学術集会運営委員（プログラム委員）	2022 年 8 月 ～ 2023 年 8 月	看護理工学会学術委員会が定めるワーキンググループで工学研究者とともに 2 か月に 1 回研究会を開催し、ICT 技術を活用しての看護師・助産師の業務量調査について検討を行った。
4) 高校出前授業（新潟県佐渡高校）	2023 年 8 月	「命の大切さ」について出生直後の児映像をふまえて講義を行った。
5) 大学地域社会貢献活動 市民向けの講演会講師（上越市）	2023 年 9 月	大学が実施している地域貢献活動の市民向け講座を担当。「女性だけではなく、男性にも起こる更年期障害について」をテーマに講演を行った。
5) 日本看護研究学会 第 50 回学術集会実行委員	2024 年 4 月 ～ 2024 年 8 月	左記学術集会において、実行委員として準備・当日の運営等に携わった。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許		
看護師免許	1993 年 4 月 22 日	
助産師免許	1998 年 4 月 7 日	
受胎調節実地指導員	1998 年 3 月 4 日	

新生児蘇生法Jインストラクター認定	2022 年 12 月 9 日	
アドバンス助産師認定	2020 年 12 月 20 日	
日本女性心身医学会認定更年期指導士	2023 年 9 月 20 日	
2 特許等 特記すべき事項無し		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 看護学実習指導	2010 ～ 2013 年 度	大学病院在職中、母性看護学実習、基礎看護学実習、統合実習指導を行った。看護学実習では看護の魅力が伝わるように、また看護師としての基本的な姿勢（患者に接する時の態度・姿勢など）が伝わるように実習生への指導を行った。
2) 助産学実習指導	2010 ～ 2013 年 度	大学病院在職中、助産学実習指導（分娩介助、助産外来での保健指導等）の実習指導を行った。実習指導を通して、助産師の仕事の魅力を伝えとともに、母児 2 つの命を預かるという責任の重さが伝わるように学生に関わった。
3) 助産外来の立ち上げ	2008 年 度	助産外来の開設に向けて、医師・事務局担当者とともにプロジェクトチームを結成し、開設に向けて備品の検討、医師との規約の作成、マニュアル作成等にプロジェクトチームのリーダーとして取り組んだ。
4) 妊産褥婦指導用テキストの作成	2008 年 度	助産外来の開設に伴い、妊産褥婦が活用する指導用テキストの改正、作成を助産外来プロジェクトチームのメンバーで作成した。この指導用テキストは、出産後の育児期においても育児日記として活用できる内容構成およびレイアウトの工夫を行った。助産外来ではこの指導用テキストをもとに個別性をふまえて保健指導をおこなった。
5) スタッフ現任教育	2010 ～ 2013 年 度	大学病院において主任昇格後は、新人助産師の教育責任者を担った。また、院内の教育委員会に属し、リーダー研修の企画・運営、新入職員研修の企画運営を行った。 企画・運営した院内研修：「新採用者看護技術研修」「新採用者看護記録研修」「リーダー研修」「小児の一次救命処置」「看護倫理研修」 院内の新入職員への研修においては組織に馴染めるように、同期同士の交流を図ることができるように研修内容を工夫し組み立てた。また、新人助産師の教育責任者としては、各新人助産師のプリセプターと連携をとり、新人助産師のフォローのみならずプリセプターのサポートを心掛けて行うようにした。新人助産師の教育責任者を担当した 4 年間は早期離職者を出すことなく、師長とともに病棟の助産ケアの質向上につながるように病棟の運営にも貢献した。
4 その他		
1) 第 8 回看護理工学会学術集会 研究奨励賞	2020 年 10 月	

2) 新潟県母性看護学・助産学・遺伝看護学研究会 役員	2023 年 4 月～ 2024 年 3 月			
3) 上越市男女共同参画審議会第 1 号委員	2023 年 4 月～ 2024 年 4 月			
4) 科学研究費助成事業 若手研究	2023 年～2026 年度	「ICT を活用した総合周産期母子医療センターの看護の可視化と助産師人員配置の検討」採択。		
5) 2023 年度笹川保健財団研究助成	2023 年 4 月～ 2024 年 2 月	「地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育プログラム開発のための基礎研究」採択。		
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
1 看護系大学の学生における看護プロフェッショナルリズムの認知	共著	2018 年 10 月	日本医学看護学教育学会誌，27 巻，2 号，p. 1-8. (査読あり)	看護系大学の学生における看護プロフェッショナルリズムの認知を明らかにするために、看護基礎教育課程の全ての臨地実習が終了した看護系大学 4 年生 16 名に半構成的面接法を実施し、質的記述的に分析した。インタビューの内容から 302 のコードが抽出され、これらを分類した結果【信頼形成の基盤となる態度】【相互作用の促進を促すアプローチ】【医療チームの一員としての責務】という 3 つのコアカテゴリーが生成された。 (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：西川美樹、紙野雪香、細田泰子
2 Perception of midwives on the quality of midwifery care at a comprehensive perinatal medical center	共著	2021 年 10 月	International Nursing Care Research vol.20(3) (査読あり)	The aim of the current study was to ascertain aspects that midwives working at a comprehensive perinatal medical center considered to be crucial to ensuring the quality of care. Semi-structured interviews were conducted with 11 midwives who had worked over a year in a maternity ward or maternal-fetal intensive care unit (MFICU) of a comprehensive perinatal care center, and the collected data were qualitatively and descriptively analyzed. Responses were grouped into 165 codes. Classification of those codes yielded 11 categories and 32 subcategories, which were used to generate 4 core categories—Coordination and Collaboration among the Perinatal Medical Team, Approaches to Pregnant

				and Postpartum Women, Qualities a Midwife must have to Provide Quality Care, and Aspects that can only be Understood by Individuals who have Worked in a Maternity Ward. Midwives perceived the need for coordination and collaboration among the perinatal care team to ensure the quality of care, the need for strategies to provide care as desired by pregnant and postpartum women, and the qualities a midwife must have to work while remaining ready to respond to an emergency. Midwives also perceived elements that diminish motivation while midwives are busily providing care. (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：Miki NISHIKAWA, Izumi SAITO
3 An analysis of the locations visited by night shift midwives and the duration spent in each while providing round-the-clock critical care to high-risk mothers in a maternity ward	共著	2021 年 12 月	Journal of Nursing Science and Engineering, vol.9, p.21-33. (査読あり)	The aim of this study was to use information and communication devices at a perinatal medical center to determine locations visited by midwives and the time spent in each during the night shift and to obtain insight into safe and efficient midwife staffing. Results revealed that midwives did not spend less time in patient rooms or neonatal rooms when sudden events occurred; instead, midwives provided patients with needed care. This is because midwives on the short-staffed night shift worked together as a team. In addition, the current study revealed locations visited by midwives at a perinatal medical center and the time spent in each. These findings have facilitated an examination of proper midwife staffing in the future and they should help to better educate society about the job of a midwife. (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：Miki NISHIKAWA, Izumi SAITO, Chifumi OTAKI, Kayo OSAWA, Shintaro IZUMI
4 Effects of the presence of parturient women on the length of time that nurses and midwives spend in the rooms of other patients during a night shift in a mixed obstetric ward	共著	2022 年 1 月	Journal of Nursing Science and Engineering, vol.9, p.96-107 (査読あり)	Due to the small number of staff working night shifts in hospitals, there are concerns about whether the time spent caring for parturient women decreases the availability of care for other patients. This study aimed to investigate how the presence of parturient women influences the length of time that nurses and midwives spend in other patients' rooms during a night shift in a mixed obstetric ward. The location and length of stay were measured using a

				wireless communication device, and the median length of stay in the 5-night shifts in the presence of parturient women were compared with that of the 7- night shifts in the absence of parturient women. The results revealed that when parturient women were present in the ward, midwives showed a significant increase in the length of stay in the delivery area, while nurses showed a significant increase in the length of stay in the obstetric 4-bed rooms, and a significant decrease in the rest area. Even when parturient women were present during the night shift in a mixed obstetric ward, a significant reduction was not observed in the length of stay in other patients' rooms due to the collaboration of nurses and midwives. (担当部分：分析のプロセス) 研究者：Ayumi TERAOKA, Izumi SAITO, Shintaro IZUMI, Chifumi Otaki, <u>Miki NISHIKAWA</u>, Kayo Osawa
5 総合周産期母子医療センターで就業する助産師の日々のケア実践における母児の安全に対する認識	共著	2022 年 10 月	インターナショナル Nursing Care Research、21 (3) , p.117-126. (査読あり)	本研究の目的は、総合周産期母子医療センターで就業する助産師が安全なケア実践のために日々の業務で認識していることを明らかにすることである。総合周産期母子医療センター産科病棟およびMFICUでの勤務経験が2年以上の助産師11名に半構成的面接法を実施し、質的記述的に分析をした。インタビューの内容から69のコードが抽出され、これらを分類した結果、31サブカテゴリー、9カテゴリー、【助産師としての安全管理】【業務調整能力】【職場風土】という3つのコアカテゴリーが生成された。助産師は、母体搬送や緊急帝王切開手術という母児の救命に奔走しながらも、《新生児管理の徹底》や育児環境を考慮した《療養環境の意図的な整備》という周産期病棟の特性をふまえた安全を認識していた。これら母児の安全管理の認識の根底にあるのは〈円滑なコミュニケーション〉を目指し、〈緊急時ほど周囲とのコミュニケーションを心がける〉といったコミュニケーションの重要性であった。 (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：<u>西川美樹</u>，齋藤いずみ

6	Mobile Device を活用した総合周産期母子医療センターにおけるや 勤怠スタッフの看護行為測定	共著	2023 年 2 月	The Kitakanto Medical Journal, 73(1), p. 51-59. (査読あり)	目的:Mobile Device を活用し, 総合周産期母子医療センターの夜勤帯シフトにおいて実際に行われている看護行為と看護行為数を明らかにする. 方法: 総合周産期母子医療センター産科病棟および母体・胎児集中治療室(以下 MFICU)において, 夜勤帯スタッフ延べ56名が実施した看護行為の種類・その回数の測定を行った. 看護行為分類は日本看護協会看護業務区分表 A を一部改変した 20 項目で構成され, データはスタッフの役割別, 経験レベル層別でそれぞれクロス分析を行った. 結果: スタッフが実施した上位の看護行為項目は「安全」「申し送り・連絡・報告」「看護計画・記録」で, いずれも患者の安全のために必要となる看護行為項目であった. 経験レベル別の各看護行為数の傾向として, 新人レベルでは状況判断能力が求められる看護行為項目の割合が少なかった. 結論: ハイリスク妊産褥婦・新生児の多い施設では経験レベルを考慮した夜勤帯人員配置が, 助産管理上重要であることが再確認された (担当部分: 研究のプロセス全般) 研究者: <u>西川美樹</u>, 齋藤いずみ, 大滝千文, 寺岡歩
7	月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する文献レビュー 月経教育における課題の検討	共著	2024 年 3 月	日本母性看護学会誌, 24 巻, 2 号, 49-55.	月経や月経随伴症状についての実態、月経随伴症状に対するセルフケアの実態、月経教育の実態を明らかにし、セルフケア能力を高めることを目指した月経教育の課題の示唆を得ることを目的に月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する論文を調査対象とし文献検討を行った。キーワードを「月経随伴症状」「セルフケア」「教育」と設定し 23 件を対象文献とした。月経や月経随伴症状についての実態は<月経の正常・異常><月経に対する気持ち><PMS・月経困難症についての認知度><月経痛の程度><月経痛・PMS 症状の頻度><月経痛・PMS による日常生活への影響>、セルフケアの実態は<セルフケアの内容・関連因子><周囲からのサポート>、月経教育の実態は<教育内容><教育ニーズ><教育の効果検証>に関する内容でまとめられた。月経教育の課題において、教育者として看護職の活用や教育方法の検討、継続教育の必要性などが示唆された。 (担当部分: 分析のプロセス) 研究者: 八巻ちひろ, 常盤洋子, <u>西川美樹</u>

(その他) 1 看護系大学の学生における看護プロフェッショナルリズムの認知 2 総合周産期母子医療センターの MMR (Mixed Methods Research) を用いた看護の可視化に関する文献検討 3 情報通信機器を活用した総合周産期母子医療センターの夜勤帯シフトにおける助産師の滞在場所と滞在時間の分析	共著 共著 共著	2018 年 3 月 2019 年 6 月 2020 年 10 月	日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会プログラム・抄録集, 31 回, p. 55. 看護理工学会学術集会, 第 7 回学術集会, プログラム集, p. 93. 看護理工学会, 第 8 回学術集会, 抄録集, p. 40.	看護系大学の学生における看護プロフェッショナルリズムの認知を明らかにするために、看護基礎教育課程の全ての臨地実習が終了した看護系大学 4 年生 16 名に半構成的面接法を実施し、質的記述的に分析した。インタビューの内容から 302 のコードが抽出され、これらを分類した結果【信頼形成の基盤となる態度】【相互作用の促進を促すアプローチ】【医療チームの一員としての責務】という 3 つのコアカテゴリーが生成された。 (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：西川美樹, 紙野雪香, 細田泰子 様々な診療科において看護業務量調査や必要度に関する多くの研究がなされている中で、周産期領域においてその看護を可視化することはいまだ明確に規定されていない助産師の人員配置のための基礎資料として有用である。周産期領域でもハイリスク妊産褥婦の救命・ケアにあたる総合周産期母子医療センターに着目し、看護の可視化に向けた国内外の網羅的な文献検索を行った。その結果、助産師の適正人員配置の検討に向けた量と質の両側面から多角的に分析した先行研究はなかった。 (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：西川美樹, 齋藤いずみ, 大滝千文, 和泉慎太郎 本研究の目的は、情報通信機器を活用し、総合周産期母子医療センター夜勤帯シフトにおける助産師の滞在场所と滞在時間を明らかにし、安全かつ効率的な助産師人員配置の示唆を得ることである。調査にはビーコン（無線標識）とスマートフォン（位置情報センサー）を使用した。結果、夜勤帯シフトで分娩・帝王切開という突発的な事象が生じてても、助産師はスタッフステーション滞在時間、休憩時間を削り、妊産褥婦および新生児へのケアを優先しているということが明らかになった。 (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：西川美樹, 齋藤いずみ, 大滝千文, 和泉慎太郎

4 工学研究者との共同を通しての気づきと具現化した看護学研究者の課題	単著	2020 年 10 月	看護理工学会, 第 8 回学術集会, 抄録集, P. 24. (シンポジウム)	「看護の可視化」に向けて、工学研究者と看護学研究者とで連携を取りながら、チームとして研究に取り組んでいる。工学技術を駆使することによって、「看護の可視化」の実現可能性は大いに高まる。そのためには看護学研究者として、何のために使うデータであるのか、工学研究者に計測機器を提案してもらうための前提条件を明確にしなければならない。そして何よりもお互いの専門性の理解が深まったということは「看工連携」から得たな財産である。
5 Mobile device を活用した総合周産期母子医療センターにおける看護行為測定の試み-夜勤帯シフトに注目して-	共著	2021 年 10 月	看護理工学会, 第 9 回学術集会, 抄録集, p. 21.	看護の可視化に向け情報通信機器を活用した研究はいくつかなされているが、そのほとんどはスタッフの滞り場所と滞在時間から明らかにしているものである。そこで本研究では、先行研究と同様に mobile device を活用し、その画面上に位置する看護行為アプリケーションを使用して看護行為の種類・その回数の測定を試みた。対象はハイリスク母体救命救急に対応している産科単独病棟に就業する助産師で、8 日間×990 分間の夜勤帯シフトに就いた延べ 56 名である。アプリケーション内の看護行為分類は、日本看護協会新看護業務区分表 A を一部改変した 20 項目で構成される。本調査に際し、研究協力者とプレテストを行い産科特有の看護行為とタップした画面 上の行為に齟齬が生じないようにした。結果、夜勤帯で助産師が実施した看護行為の上位 3 項目は「安全」「申し送り・連絡・報告」「記録」の順であり、いずれも医療安全に関連したものであった。 (担当部分：研究のプロセス全般) 研究者：西川美樹, 齋藤いずみ, 大滝千文, 和泉慎太郎
6 地域で支える安全な分娩支援体制構築に向けた救急隊員への周産期救急教育に関する文献検討	共著	2023 年 5 月	第 25 回日本母性看護学会学術集会, 抄録集, p. 70	救急隊員にとって病院前周産期症例に関わる出動要請は年に数回あるのみで、経験によりその知識や技術を修得することは困難といえる。特に分娩時の救急対応については他の救命処置と比して極めて特殊かつ母児の生命に直結する事案であり、救急隊員にとって病院前救急に関する教育の充実が課題である。そこで本研究では、救急隊員への周産期救急教育に関する国内文献を概観することで研究の動向を明らかにし、今後の研究への示唆を得ることを目的に文献検討を行った。医学中央雑誌 web 版 (ver. 5)

				を用いて、「救急隊員」「教育」「周産期」をキーワードに原著論文を全年検索した。これらのうち解説/総説および本研究の目的と異なる論文を除き、ハンドサーチで収集した文献を追加した計 13 件を分析対象とした。13 件の文献のうち、7 件は NCPR B コース、BLS0 コース実践後の受講者へのアンケートの記述内容の分析によるものであった。そこには施設外分娩に至った事例に対する心理面への援助に関する内容は含まれていなかった。その他、独自に企画・実施した講習会の評価・分析に関するものが 2 件、教育プログラム検討のためのニーズ調査に関するものが 4 件であった。独自に企画・実施した講習会の内容としては、いずれも助産師養成機関の教員による「救急車内を想定した分娩介助シミュレーション」「分娩介助技術」「輪状マッサージ技術」などであり実施後の評価・分析をしている内容であった。救急隊員の学習ニーズ・教育ニーズを明らかにする研究は行われていない。よって救急隊員が必要としている教育内容を系統的・計画的に実施するための研究データの蓄積は今後の課題である。 研究者：西川美樹，八巻ちひろ，常盤洋子
7 月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する文献レビュー－月経教育のあり方を考察－	共著	2023 年 5 月	第 25 回日本母性看護学会学術集会，抄録集，p. 82	月経随伴症状に対して我慢するものであるという認識やセルフケア方法を理解できていないという理由からセルフケアをしない女性、セルフケアを実施しても日常生活に支障をきたしている女性が存在している。女性が複数の選択肢の中から自分に合ったセルフケアを主体的に選択し実施することが望まれる。月経随伴症状に対してセルフケアの必要性を認識し、症状軽減のためのセルフケアの能力を獲得を促す教育の検討や普及が必要であると考えられる。そこで、月経随伴症状に対するセルフケアと月経教育に関する文献検討を行い、現状を明らかにし今後の月経教育の課題の示唆を得ることを目的とした。対象文献を分析した結果、実施されているセルフケアは消極的な内容が多く、月経教育の受講機会は小学校が最も多かった。また、月経に対して悩みがあるが相談しない女性は多く、気軽に看護職や周囲の人へ相談しやすい環境づくりが必要であることが浮き彫りとなり、年代に応じた

8 総合周産期母子医療センターと産科混合病棟における助産師のベッドコントロールに対する意識の比較	共著	2023 年 5 月	第 25 回日本母性看護学会学術集会, 抄録集, p. 73	ニーズに沿った継続的な月経教育の必要性が示唆された。 (担当部分: 分析のプロセス) 研究者: 八巻ちひろ, <u>西川美樹</u>, 常盤洋子 病院における出産場所は、約 8 割が産科混合病棟で実施される。産科混合病棟では複数の診療科の患者の看護をしながら分娩介助をしている実態(日本看護協会, 2016)が報告されている。本研究ではこれまで調査されていなかった、総合周産期母子医療センターおよび地域に密着した B 総合病院産科混合病棟に勤務する助産師にそれぞれ質問紙を配布し、ベッドコントロールにたいする意識調査を行った。調査には山口ら(2013)が開発したベッドコントロールに関する 7 項目から構成される尺度を用い調査を行った。その結果、ベッドコントロールに対する意識は総合周産期母子医療センター産科単科病棟の助産師の方が低かった。これは、総合周産期母子医療センターの助産師は患者の病状に特化し勤務していること、一方産科混合病棟は、患者をどの病室に入室してもらうかについては、ゾーニングの必要性の有無など、複雑な条件や要素を入れたベッドコントロールの考え方が必要なのが影響していると考えられる。 (担当部分: データ収集, 分析) 研究者: 齋藤いずみ, 寺岡歩, <u>西川美樹</u>, 大滝千文
9 マンツーマンタイムスタディを用いた大学病院外科系病棟の日勤看護師の看護の可視化—超過勤務時間に焦点を当てて	共著	2023 年 6 月	第 11 回看護理工学会学術集会, 抄録集, p. 53.	大学病院外科系病棟の日勤看護師が行っている看護を明らかにすることを目的とした。対象病棟平日の日勤帯(8 時 30 分から 17 時 15 分)に勤務する患者受け持ち担当看護師 1 名に測定者が 1 人つき、看護師の行動を記録した。測定は 1 月の平日 5 日間で、合計 5 名の看護師の行動を 10 秒単位で測定し、日本看護協会看護業務区分表に基づき分類した。所属施設倫理委員会承認後(B22014-H)に実施し、研究対象者から書面による同意を得た。超過勤務時間は平均 108.2 分であった。看護師の行動を分類すると【()内は勤務時間内の行動分類結果】I 日常生活の援助 5.5 (20.1) %、II 診療場面における援助 12.6 (32.5) %、III 患者に対する記録 48.4 (30.9) %、IV 業務管

10 「産科混合病棟・総合周産期母子医療センターの産科」の看護の可視化 ベッドコントロール・労働環境尺度・職務満足度調査から	共著	2023 年 6 月	第 11 回看護理工学会学術集会，抄録集，p. 55.	理 10.9 (7.0) %、V 組織管理 14.8 (0.0) %、VI その他 7.8 (15.1) %であった。超過勤務時間は、「III 患者に対する記録」が約 5 割を占めていた。 (担当部分：データ収集) 研究者：大滝千文，齋藤いずみ，藤本佳奈，和泉慎太郎，三輪洋靖，<u>西川美樹</u>，井上京子，寺岡歩
11 A Study on the Learning Needs of Japanese Paramedics to Handle Out-of-hospital Deliveries	共著	2024 年 3 月	27th East Asian Forum of Nursing Scholars	わが国特有の現象として、病院における分娩は約 8 割が産科混合病棟で実施される。齋藤の研究から、産科混合病棟の一部では、分娩時と死亡時の看護が、相当数重複することが明らかになった。安全や質の分析のため、数量的調査に加え、勤務する看護者の病棟運営の考え、労働環境、職務満足度を明らかにする必要があると考えた。3 種類の調査用紙、ベッドコントロールに対する考え(山口ら)、看護労働環境 NWI-R(the Revised Nursing Working Index 日本語版(小林ら)、米国の Stamp の論文から改編した看護師の職務満足度(山下ら)を用いて病棟の特性を明らかにした。看護人員配置の改善前後の NWI-R の検出力は特に優れていた。内科系・外科系の看護の可視化研究が進行中である。 (担当部分：データ収集) 研究者：齋藤いずみ，大滝千文，寺岡歩，<u>西川美樹</u>，井上京子，藤本佳奈

				perinatal period prior to hospital arrival. Fire departments in Japan were asked to cooperate with this study, and a self-administered, anonymous questionnaire was distributed to 1,307 paramedics working in 525 fire departments who agreed to participate in this study. The questionnaire consisted of open-ended questions that asked “What do paramedics want to learn in order to deal with out-of-hospital deliveries?” This study was conducted with the approval of the ethics committee of the institution where the author works. Responses were received from 1,118 paramedics (response rate: 85.5%). The vast majority of respondents (88%) wanted to learn how to deal with out-of-hospital deliveries, and most offered comments such as “I am nervous about providing emergency care since I have little experience with perinatal emergencies in the field” and “I have not had the chance to learn about perinatal emergencies.” The topic they most often wanted to learn was “a basic knowledge of how to assist with delivery and care for a newborn.” (担当部分：研究のプロセス全般) <u>Miki NISHIKAWA</u>, Chihiro YAMAKI, Yoko TOKIWA
12 Working Time Analysys of Day Shift Nurses in Internal Medicine Wards of University Hospitals Using Indoor Positioning System in Japan	共著	2024 年 3 月	27th East Asian Forum of Nursing Scholars	Previous studies document the impact of nurse staffing on patients, including mortality and life-saving rates. Furthermore, analysis of safety and quality assurance based on empirical data in nursing is important. This study sought to analyze where and how long nurses stayed in an internal medicine ward of a university hospital. A total of 129 small Bluetooth beacons were placed in the ward, and a smartphone worn by a nurse automatically recorded signals and times from the beacons. The Mann-Whitney U test and Spearman’s correlation analysis were performed

13 救急隊員の施設外分娩対応のための教育シミュレーター開発に向けた基礎研究	単著	2024 年 11 月	第 11 回看護理工学会学術集会，抄録集，p. 102.	using IBM SPSS Statistics Ver. 29.0. The study was conducted with the approval of the ethics committee (B22014-H) of the relevant institution, and written consent was obtained from the subjects. There were no conflicts of interest. The average location and time spent by the 153 nurses was 158.2 min in patient room, 15.9 min in the break room, 3.1 min in the interview/conference room, 19.7 min in the treatment room, 2.6 min in the bathroom/shower room, 73.5 min in the hallway, 188.1 min in the nurses' station, 0.7 min in other areas, and 63.2 min outside the ward (without beacon signal) (Figure 2). When the time spent in patient room per nurse was compared between holidays (weekends) and weekdays, that spent on the ward was significantly longer on holidays ($p = 0.001$) (Table 2), and a significant negative correlation was observed between the number of nurses (< 0.001). Differences were observed in the location and length of stay of per day and time spent on the ward (p nurses depending on holidays and weekdays and the number of nursing personnel. (担当部分：データ収集，分析のプロセス) Chifumi OTAKI, Izumi SAITO, Kana FUJIMOTO, <u>Miki NISHIKAWA</u>, Ayumi TERAOKA, Hiroyasu MIWA, Shintaro IZUMI 【背景】わが国では，産科医師の不足などによって分娩施設が減少している．このことは妊産婦にとって自宅から分娩施設までの移動に時間を要する状況につながり，その結果，病院外や病院到着前に新生児が産まれてしまうリスクにつながり，母児の救命のために救急隊員によるプレホスピタルケアは重要な位置づけにある．しかし，救急隊員に向けた，周産期プレホスピタルケアのための教育システムは整っていない現状である．【目的】救急隊員に向けた学習ニーズの調査から周産期プレホスピタルケアの教育に向けた救急隊員向けのシミュレーター開発の示唆を得る【方法】全国の消防本部（消防署）で就業する救急隊員のうち，承諾の得られた 1307 名を

				対象に無記名自記式質問紙調査を実施した。自由記述内容は計量テキスト分析を行い、施設外分娩対応に向けた学習ニーズの探索を行った。本研究は所属施設倫理委員会承認後に実施した。利益相反（COI）はない。【結果】1118人の救急隊員から質問紙を回収した（回収率85.5%）。学びたい内容として多かったのは「救急隊員が行える範囲の分娩介助や新生児の処置に関する基本的な手技」「分娩の補助」がほとんどであった。【考察】救急隊員にとって施設外分娩は稀な症例であり、現場で経験を積むことが難しい。また、救急車内などの臨床とは異なる狭隘空間で対応が求められることが多く、それらに対応できるシミュレーター開発の必要性が示唆された。 （担当部分：研究のプロセス全般） 研究者：西川美樹

（注）

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書

令和 7 年 5 月 19 日

氏名 蓮池 光人 印

研 究 分 野		研究内容のキーワード	
精神看護学		境界性パーソナリティ障害 青年期のメンタルヘルス	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事 項		年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 音楽、楽曲を活用した講義方法		2017 年 4 月	講義の途中に、その単元に合わせた歌詞などを用いて講義の内容をさらに深める
お笑い芸能事務所社長、構成作家と 「笑い与健康」をテーマしたトークライ ブ形式の講義		2022 年 1 月 2022 年 6 月	大学のキャリアアップセミナーと連携し「笑い与健康」「笑い とコミュニケーション」をテーマに大学ホールで開催
2 作成した教科書、教材 境界性パーソナリティ障害を脅かす要 素の明確化モデル		2017 年 10 月	境界性パーソナリティ障害患者自身の自己評価により「他者との 関係性」「社会的役割」「自傷行為、衝動行為。操作行為」 に大きな影響を与えられていることを図式化して示す
3 教育上の能力に関する大学等の評 価			
森ノ宮医療大学ベストティーチャー賞		2018 年 6 月	全学科教員、大学職員、該当学年の授業評価において全項目に おいて 90 点以上の評価を得て表彰された
在学生在が高校生に薦める講義		2022 年 4 月	在学生在が高校生に薦める講義に、在学生在より選出され大学パン フレットに掲載
夢ナビ講義動画サービスにて講義を公 開		2022 年 4 月	高校生向けサイト、夢ナビ講義動画サービスに看護学科の代表 として講義が公開
4 実務の経験を有する者についての 特記事項			
5 その他			
職 務 上 の 実 務 に 関 す る 事 項			
事 項		年 月 日	概 要
1 資格、免許 保健師 看護師		2005 年 4 月 2005 年 4 月	
2 特許等			
3 実務の経験を有する者についての 特記事項 新人教育担当看護師		2012 年 4 月 ～2015 年 3 月	新人教育担当として病棟内においてプリセプターを担当し、病 院全体として看護理論、コミュニケーション、BPD の看護の研 修会を行った
臨地実習指導者		2012 年 4 月 ～2015 年 3 月	臨地実習指導者会の取りまとめとして看護学校、看護大学との 調整を行った 指導者として学生へ直接指導を行った
4 その他			

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし				
(学術論文)				
3”境界性パーソナリティ障害患者が社会生活に適応していくための看護に関する研究”	単著	平成27年	博士論文	境界性パーソナリティ障害患者が社会生活に適応していくための支援枠組みを開発することである。第一段階の研究目的は、支援枠組み案を作成することである。1 事例への看護過程を分析し、支援枠組み試案を抽出する。試案を意識的に適用しながら2 事例へ看護を実践し、看護過程を分析し、患者の変化の構造と患者の状態に応じた看護の指針を抽出し、支援枠組み案を作成する。第二段階の研究目的は、支援枠組み案を検証し、支援枠組みを完成させることである。
4”本学看護学科における解剖見学実習による学生の学びと今後の課題ー解剖見学実習後のレポートの内容分析からー（査読付）”	共著	平成29年	”森ノ宮医療大学紀要11, 111-126 頁”	学生が解剖見学実習を通して看護の視点から解剖学や生理学の知識を習得することや看護師としての倫理観を育てる機会とするため、学生の学びを明らかにし、その取り組み方法等の検討を行った。解剖見学実習が看護学生としての自覚・学修姿勢などを再確認する機会となり、今後の指導方法の基礎資料を得ることができた。 清水容子、蓮池光人、外村昌子、関口敏彰、上田佳世、高橋可奈英（森ノ宮医療大学）
5”行動変容の契機を作りだすもの（査読付）”	単著	平成29年	”キャリアと人生観10(1), 7-10 頁”	質的分析を担当
6”腹腔鏡手術後消化器がん患者におけるソフトマッサージの効果：予備的ランダム化比較試験（査読付）”	共著	令和2年	”日本統合医療学会誌13(1), 4 0-4 6 頁”	人間は日々、成長発展している。日々の変化は小さいものかもしれないが、その日々のプロセスこそが人生における行動変容の契機を作り出しているのである。そして、行動変容の契機をしっかりと認識し行動を起こしていくのは自分自身なのである。
7”Influence of New Coronavirus Pandemic on Behavior and Awareness of Young Nurses and Nursing Students in Japan（査読付）”	共著	令和3年	”BMC Nursing20(1), 237”	近年増加した腹腔鏡手術に対する安楽ケアとしてソフトマッサージの効果ならびに研究方法の検証をするために、消化器がん患者を対象にマッサージ前後の変化についてRCTを実施した。「不安な気分から安心な気分」は対照群と比較して有意に改善しており「マッサージ中は痛みがない」などの発言が得られた。体温、脈拍、血圧などの測定値には顕著な変化は見られなかったが、心理的安定に寄与することが示唆された。 緒方昭子、井手口範男、外村昌子、 <u>蓮池光人</u> （森ノ宮医療大学） 質的分析を担当
				新型コロナウイルス感染症パンデミックによる看護学生及び看護師の、感染予防・職業観・死生観に関する意識・行動変容につ

8” COVID-19 パンデミックがもたらした看護大学生・卒業生の意識と行動変容に関する研究（査読付）	共著	令和4年	”森ノ宮医療大学紀要 16, 23-38 頁”	いて検討し、学生の心情を理解しより適切な指導内容と看護師への支援内容への示唆を得る。COVID-19 に対する不安・恐怖の増強によって行動変容を余儀なくされ、感染予防行動だけでなく、仕事や勉強に対する行動変容や意識の変化が見受けられた。死生観は看護師よりも看護学生で大きく異なっていた。このことは、若い学生に対する生と死に関する適切な教育の重要性を示唆していた。 Mitsuto Hasuike, Yoshiaki Hara, Hiroko-Miyuki Mori, Norio Ideguchi, Fumie Shirai, Yasuko Yoshimura, Ikumi Murakami, Hirohisa Kawahata, Motokuni Aoki and Toshio Ogihara （森ノ宮医療大学）筆頭論文 「COVID-19 が世界に発生する前と後の意識・行動変容について」尋ねたアンケートの回答を量的に分析し自由記述の内容を質的記述的に分析し学生と卒業生の比較を行った。自分自身が感染のリスクが高い状況にあり、感染に対する不安と恐怖を感じながらも、感染の媒介者とならないようにとの医療従事者としての高い意識を持ち、感染予防行動を行っていた。学生は、死生観に影響を与えられていた。 蓮池光人、原良昭、吉村弥須子、村上生美、白井文恵、小西由起子、青木元邦、荻原俊男（森ノ宮医療大学）筆頭論文
（その他）				
7”社会生活を再開した境界性パーソナリティ障害患者の変化の構造”	単独	平成27年	”日本看護学会－精神看護－ 第46回学術集会(大阪市)”	先行研究で見出した、BPD 患者は《自己否定》《自己表現》《自己実現》の3つの自己評価のレベルをたどりながら回復していくという、この変化の段階をたどる患者の状態の変化と構造を明らかにすることで、患者の支援について考察した。自己評価のレベルごとに、患者の変化の段階があることを明らかにし、患者の変化の構造を導き出した。
8”境界性パーソナリティ障害患者の退院後の支援と今後の課題”	単独	平成28年	”日本看護研究学会 第21回九州・沖縄地方学術集会(宮崎市)”	退院後も継続して関わる中で、再入院に至ることなく社会生活を送ることができた BPD 患者3事例への看護過程を振り返り、退院後の支援と今後の課題を明らかにすることを目的とした。「社会生活を再開する中で生じた衝動的行為を、客観視して振り返られるように支える」「対象の社会生活を支える人々に、対象の今の状況が回復している状態として理解できるように伝える。更に回復を支える存在としての看護者の役割を伝える」という退院後の生活を支える2つの看護の指針を取り出した。
9”境界性パーソナリティ障害患者への支援枠組みの作成と検証 ～第1報～”	単独	平成28年	”日本精神保健看護学会 第26回学術集会(大津市)”	境界性パーソナリティ障害患者が、入院から退院後まで関わりを継続していく中で衝動的な行動を繰り返しながらも退院し、社会生活を継続できた。この事例との看護過程を振り返ることで、境界性パーソナリティ障害患者が社会生活に適応していくための看護の支援の枠組みを作成することを目的とした。＜患者の変化の段階＞＜患者

10”境界性パーソナリティ障害患者への支援枠組みの作成と検証 ～第2報～”	単独	平成28年	”日本精神保健看護学会 第26回学術集会(大津市)”	の状態><患者の変化の構造><看護の方向性><患者の状態に応じた看護の指針>からなる支援枠組み案を図作成した。 境界性パーソナリティ障害患者への支援枠組み案を適用しながらチームで看護を実践し、支援枠組み案の検証を経て支援枠組みとして完成させることを目的とした。支援枠組みを活用しながら、個々人の看護の自己評価能力高めていくこと、及びチームが一丸となって、境界性パーソナリティ障害患者に向き合っていくことは、境界性パーソナリティ障害患者が、社会に復帰し生活に適応にしていくための看護につながることを示唆された。
11”地域での生活が困難とされた統合失調症患者と家族を支える地域看護実践上の指針”	単独	平成29年	”日本看護科学学会 第37回学術集会(仙台市)”	精神障がい者の地域生活を促進していくためには、地域の一つの社会資源である医療機関を活用し、症状悪化時の急性期の入院治療を患者自らが納得して選択できるよう、ともに暮らす家族の協力を得ながら、支援していくことで、長期入院を行うことなく、地域生活を継続できると考える。
12”Clinical practicum of psychiatric nursing improves emotional intelligence. ”	共同	平成30年	”21st World Nursing Education Conference (Melbourne)”	4年生の精神領域における統合実習は学生の情動知能にどのような影響があるのかを明らかにすることを目的とした。EQSの3つの項目の内、「自己対応」「状況対応」に有意差がみられた。質問紙調査では、「患者への理解の深まり」、「精神科看護への認識の深まり」、「コミュニケーション能力の向上」の3つのカテゴリーが抽出された。 蓮池光人、久木元由紀子、外村昌子
13”Evaluating understanding of wheelchair seating care for multidisciplinary healthcare team workers”	共同	平成30年	”21st World Nursing Education Conference (Melbourne)”	看護学生は、臨地実習中に患者とラポールを確立することに困難を感じることもある。タッチケアは、痛み、吐き気、不安、疲労、不眠などに有効であり、受け手と送り手のラポール確立にも効果的である。本研究の目的は、タッチケアを学んだ看護学生が、患者とのコミュニケーションスキルが向上したことを明らかにすることである。学生は、タッチケアの効果を実感し、コミュニケーション能力の向上を認識していた。看護学生が治療的コミュニケーション能力を習得するために、タッチケアスキルは有効であった。 久木元由紀子、蓮池光人、外村昌子
14”Undergraduate nursing students acquire therapeutic communication skills through touch care practice. ”	共同	平成30年	”21st World Nursing Education Conference (Melbourne)”	医療従事者の車いすシーティングケアに対する理解度を評価することを目的とした。専門職間教育の重要性は、ほとんどの医療従事者が認識していた。車いすを必要とする人のQOL向上に専門職間教育は有益であり、看護師は専門職間教育をコーディネートする重要な役割を担っていると考えられる。しかし、介護職者がシーティングケアを認知していないことが明らかになった。シーティングケアについて、もっと医療従事者、看護師や看護学生に教え、実践していく必要性が示唆された。 外村昌子、蓮池光人、久木元由紀子

15”地域中核精神単科病床に勤務する看護師の首尾一貫感覚（SOC）とストレス反応の関連”	共同	平成30年	”日本看護研究学会第44回学術集会”	都市部中核病院の精神単科病床に勤務する看護師の首尾一貫感覚（SOC）とストレス反応との関連を明らかにすることを目的とした。地域中核病院の精神単科病床に勤務する看護師においても、SOCは職業性ストレス簡易調査票のストレス因子・影響因子、BSCP各下位尺度、HPI、属性で補正しても、独立して心理的・身体的ストレス反応に関連する要因であった。先行研究と同様、SOCが直接ストレス反応を少なくする可能性を示していると考えられる。 吉田えり、 <u>蓮池光人</u> （森ノ宮医療大学）山田和子、森岡郁晴（和歌山県立医科大学大学院）
16”The effects of end of life (EOL) education using color association related to death for nursing undergraduate students (ICN) ”	共同	令和元年	The International Council of Nurses 2019	成人慢性期看護学で継続して死生観についての講義を行い講義後に毎回、看護学生3年生の死生観の変化について、記述式アンケートとカラーイメージの調査を行った。講義を重ねるごとに、死に対する恐怖や不安は軽減し、受容すべきもの人間尊厳と変化していた。また、カラーイメージは初期は、黒と灰のみであったが、白や黄、オレンジなどバリエーションに変化が見られた。 藤本陽子、黒木美紀、久木元由紀子、 <u>蓮池光人</u>
17”セルフリフレクションシートを用いた精神看護主題実習前後の学生の情動知能と認識”	共同	令和元年	”日本精神保健看護学会 第29回学術集会”	精神看護主題実習期間中に、セルフリフレクションシートを用いながら実習を行うことで情動知能にどのような変化がみられるのか、また実習中のセルフコントロールにどのように影響があるのかを明らかにし、自分の感情をセルフリフレクションすることについての効果の検討を行う。一般の大学生と比較して情動知能は、主題実習後には、状況対応、全体合計において有意な差が見られた。アンケートの分析では、セルフリフレクションを行うことで学生が自分自身の一日の行動やその時の考えを客観視する機会となっており、自分自身の良い点や悪い点を振り返り、次の日の行動に繋げることができ、自分を客観視することで自己のコントロールができるようになっていた。 <u>蓮池光人</u> 、原邦子
18”統合実習においてプリセプターシップを取り入れた手術室実習の学びと効果”	共同	令和2年	”第46回日本看護研究学会”	手術室実習は学生にとって強い緊張や不安を伴う環境であり、学生の学びが促進できる実習指導者の関わりや学習意欲を高める教員の関わりが求められている。今回、統合実習においてプリセプターシップを取り入れた手術室実習を行い、学生の学びとプリセプターシップの効果を明らかにした。学生はプリセプターの指導による手術室実習での体験を通して、患者を中心とした周手術期看護の繋がりや手術室看護師としての専門性を学んでいた。 吉村弥須子、 <u>蓮池光人</u>
19”COVID-19 パンデミックがもたらした看護大学生・卒業	共同	令和3年	”第47回日本看護研究学会”	「COVID-19が世界に発生する前と後の意識・行動変容について」尋ねたアンケート

生の意識と行動変容に関する研究”			の回答を量的に分析し自由記述の内容を質的記述的に分析し学生と卒業生の比較を行った。自分自身が感染のリスクが高い状況にあり、感染に対する不安と恐怖を感じながらも、感染の媒介者とならないようにとの医療従事者としての高い意識を持ち、感染予防行動を行っていた。学生は、死生観に影響を与えられていた。 吉村弥須子、白井文恵、<u>蓮池光人</u>

教 育 研 究 業 績 書		
2025年 4月21日		
氏名 松井 利江		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
がん看護，成人看護	がん治療（手術療法・薬物療法），家族看護，婦人科がん，セクシュアリティ	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
病態に基づく成人慢性期疾患患者の看護の教育	2013年10月～ 2018年1月	天理医療大学 看護専門科目の共通基盤看護学実践論Ⅱセルフケアを支える看護（2年次、2単位30時間）の講義および演習を担当し、慢性腎不全患者、造血管疾患の看護、がん看護、緩和ケアに関する講義を担当した。講義では、関連する解剖生理、病態、診断・治療と治療に関する知識と、患者のアセスメントと看護について実際の経験や理論も用いて講義を行った。演習では、糖尿病認定看護師をゲストに迎え、血糖測定やインスリン注射の演習、在宅酸素療法の演習を担当した。学生の授業評価からは、病態を十分理解した根拠に基づく看護や、患者のセルフマネジメントを支援する重要性を学んでいることが分かった。
患者の強みを生かした看護過程の展開と健康を促進するための看護援助の指導	2013年10月～ 2018年10月	天理医療大学 看護専門科目の共通基盤看護学実習Ⅱ健康回復を支える看護（2年次、2単位90時間）の実習指導を担当した。初めて看護過程の展開の一連を学ぶ学生の実習指導として、身体的側面だけではなく、心理・社会面も含めて患者の全体像を捉えること、患者の看護上の問題点だけに着目するのではなく、患者の強みを生かした看護を展開する重要性を指導した。実習終了時には、学生は患者の反応を捉え実践を評価する難しさを感じつつ、患者のもつ力を尊重することの重要性を学んでいた。
病みの軌跡理論を活用した慢性期患者の看護実践の指導	2014年5月～ 2020年5月	天理医療大学 看護専門科目の、共通基盤看護学実習Ⅲセルフケアを支える看護および慢性期療養過程を支える看護実習（ともに3年次、2単位90時間）の実習指導を担当した。主に血液内科、泌尿器科、循環器内科、総合内科において受け持ち患者の全体像を捉え、患者が病とともに生きることを支援するための看護実践の指導を行った。受け持ち患者の病みの軌跡を理解し、学生が患者に関わる「今」すべきことは何かを学生に問いながら、患者と家族への看護を深く学べるように指導を行った。
術後離床の援助の体験的学習	2015年7月～ 2019年7月	天理医療大学看護専門科目の共通基盤看護学実践論Ⅲ急性期療養過程を支える看護（3年次、2単位30時間）および、急性期療養を支える看護演習（3年次、1単位15時間）において、看護技術演習を担当した。開胸手術あるいは開腹手術を受けた患者の事例を用い、学生が交代して看護師役・患者役になって術後初回歩行の援助を行った。デモンストレーションは行わず、学生が考えた方法で実施し、改善点を考察しながらより良い援助を検討させた。学生は、術後1日目の患者の離床に配慮すべき点や疼痛緩和の看護、離床の動機付けなど様々な視点で援助を検討でき、実習のイメージがついたと評価した。

周手術期患者の看護実践の指導	2015年11月～ 2021年2月	天理医療大学看護専門科目の共通基盤看護学実習Ⅳ急性期療養過程を支える看護実習（共に3年次、2単位90時間）の実習指導を担当した。主に、泌尿器科、心臓血管外科、婦人科病棟において、解剖生理や病態の知識を常に結びつけながら、患者が術後合併症を起こすことなく、順調な回復を支えるために不可欠な看護および、退院後の生活を想定した看護を学べるよう、思考過程およびベッドサイドでの看護援助の実際を指導した。
周手術期患者の看護実践を考察するケースレポートの指導	2015年11月～ 2019年11月	天理医療大学看護専門科目の共通基盤看護学実習Ⅳ急性期療養過程を支える看護（3年次、2単位90時間）の実習指導を担当し、学生が受け持ち患者に行った看護実践を客観的に振り返るためにケースレポートの指導を担当した。ケースレポートを記述し、先行研究を活用して考察することは学生にとって難しい課題ではあったが、その過程を通じて自己の課題にも気づくことができていた。
社会的問題を教材にしたがん看護教育	2015年～4月 2020年6月	天理医療大学 看護専門科目のがん看護論（4年次、選択1単位15時間）の科目担責任者として、講義と演習を担当した。より広い視野で現在のわが国でがん患者と家族が置かれている状況や課題を認識できるよう、セクシュアリティや就労、子どもへのがん教育、遺伝子医療などのトピックスを提示し、看護師の役割を考えるよう促した。さらには、天理市におけるがん罹患の状況と課題、行政の施策についての講義を取り入れ、地域に根差したがん感医療の展望を考える機会とした。学生による授業評価では、がん看護に対する関心の高まりと、がん患者と家族をめぐる課題の重大さが示された。
終末期がん患者の苦痛症状緩和に焦点を当てた緩和ケア教育	2015年4月～ 2022年6月	天理医療大学 看護専門科目の緩和ケア論（4年次、選択1単位15時間、令和3年からは3年次 選択2単位30時間）の科目責任者／科目担当者として、講義を担当した。緩和ケアはすべての患者に適応されるものであるが、本科目ではがん終末期患者に焦点を当て、身体的・心理的・社会的・スピリチュアルの局面から患者と家族の苦痛を緩和するための理論と具体的な看護援助について講義を行った。実際の事例を教材としたほか、臨床の認定看護師を招き、理論と実践がつながることをねらいとした。単位認定レポートや学生による授業評価では、緩和ケアへの理解・関心の高まりが示された。
終末期患者の心理を理解するための「死にゆく過程の疑似体験」ワークの導入	2016年10月～ 2018年10月	天理医療大学 看護専門科目の緩和ケア論（4年次、選択1単位15時間）の科目担当者として、初回講義の導入のために「死にゆく過程の疑似体験」ワークを簡易的に改変し、取り入れた。学生に、現在大事にしているものを4つ書き出してもらい、がん患者の病状の経過（診断、治療、再発、余命告知）において、一つずつ手放すものを選択するように指示した。「胸が苦しくなった」「どれも手放したくない思いで辛かった」「一番大事なものに気づけた」という学生の反応から、終末期患者の喪失体験に理解が深まり、講義への関心が高まったと評価した。
がん領域の認定看護師と協働した事例展開	2016年10月～ 2017年10月	天理医療大学 看護専門科目のがん看護論（4年次、選択1単位15時間）の科目責任者として、自ら作成した乳がん患者の事例展開を取り入れた。がん領域の認定看護師（がん放射線療法看護、がん化学療法看護、がん性疼痛看護）に授業に参加してもらい、アセスメント視点や看護援助について学生とディスカッションできるようにした。学生は「臨床看護師の思考が分かった」「その患者に必要な看護を導く過程が理解できた」と、実践に即した学びをしていた。

看護研究論文のクリティーク指導	2017年1月～ 2022年7月	天理医療大学 看護専門科目 看護研究方法論（3年次、1単位15時間）および、看護研究基礎演習（3年次、1単位30時間）のなかで、毎年2～5名の学生をゼミ形式で担当し。学生個々の関心に基づいて選択した質的・量的デザインの看護研究論文のクリティークを指導した。また、クリティークを通じて、研究疑問への発展を支援した。
看護研究計画書作成の指導	2017年4月～ 2022年8月	天理医療大学 看護専門科目看護研究演習Ⅰ・Ⅱ、看護研究演習（いずれも4年次、1単位30時間）にて毎年2～5名の学生をゼミ形式で担当し、研究疑問の明確化、文献レビュー、研究計画書作成、研究計画書発表までを指導した。担当学生のテーマは、がん治療期の看護、グリーフケア、看護師の終末期ケアに対する態度、慢性疾患患者のセルフマネジメントなど多岐にわたった。
ゴードンの機能的健康パターンの枠組みを用いたアセスメント方法・看護診断の授業	2017年4月～ 2022年12月	天理医療大学 看護専門科目実践基礎論Ⅲフィジカルアセスメント（2年次、2単位30時間）および健康回復過程を支える看護演習（2年次、1単位30時間）において、ゴードンの機能的健康パターンのうち「排泄パターン」「役割－関係パターン」「セクシュアリティパターン」と関連するNANDA-I看護診断について、各パターンの背景となる知識や概念・理論からアセスメント視点、情報収集の内容を講義した。その後の科目で行う事例展開に役立つよう、簡単な事例を用いたアセスメント演習を取り入れた。
慢性疾患患者事例を用いた早期からの退院支援を意図した看護展開の指導	2021年9月～ 2022年10月	天理医療大学 看護専門科目慢性期療養過程を支える看護演習（3年次、1単位30時間）を担当し、急性増悪を繰り返すCOPD患者の事例を設定し、看護過程の展開を指導した。現在だけでなく、今後を見据えた長期的な病態変化を捉え、患者の望む生活実現を支えることを重視して指導を勧めた。また、患者のセルフマネジメント支援の実施や、退院カンファレンスのロールプレイを取り入れることで、多職種における看護師の役割を学ぶ機会とし、4年次の実習のレディネスを高めるようにした。学生は、患者と家族の価値観を重視した支援を行う意義について考察を深め、4年次の実習に向けた意欲を示した。
国民の大規模調査結果を活用した成人の健康の現状と課題に関する授業	2021年5月～ 2022年4月	天理医療大学 看護専門科目健康の回復過程を支える看護（2年次、1単位15時間）において成人期の健康に関する動向と問題の講義を担当した。国民生活基礎調査などの大規模調査を示し、その背景を分析することで、学生がより成人期の特徴を理解できるようにした。都道府県別統計や、学生が属する青年期を題材にして、学生が身近に健康問題を考えられるように工夫をした。授業後には、自分の健康について振り返り、壮年期に向けた健康づくりが必要であるとの感想が多く聞かれた。
シミュレーションを取り入れた急性期患者の看護実習指導（COVID19感染拡大に伴う学内実習）	2021年11月～ 2023年2月	天理医療大学 看護専門科目急性期療養過程を支える看護実習（3年次、2単位90時間）を3クール担当した。令和2年は、コロナ禍において臨地実習が中止された。そのため、肺がん患者の事例を作成し、患者役を教員が演じて術前実～術後7日目までの患者のアセスメント・看護実践を日々進めていった。実習に近い状況を作るための場の再現をし、学生の実践を録画してリフレクションを繰り返した。学生個々の思考過程や実践指導を通じて、学生は臨床実習同等の意義があり、自己の課題が明確になったと述べた。

在宅移行支援を目指した慢性期患者の看護実践指導	2022年5月～7月	天理医療大学 看護専門科目在宅移行期を支える看護実習（4年次、3単位135時間）を担当し、慢性疾患患者の在宅移行の看護実践を指導した。入院・退院支援部門や看護専門外来の見学実習では、在宅で療養する患者の現状を捉えられるように支援し、続く病棟実習に活用できるようにした。患者を生活者としてとらえ、患者と家族が望む生活に着目しながら看護援助を導けるように指導した。また、看護チームや多職種と積極的にかかわり、学生が計画した看護が実践できる場づくりを調整した。コロナ禍で時間や行える援助の制約があったものの、学生や臨床指導者からは、これまでの学習の統合となる実習になったと評価を受けた。
教育用電子カルテシステムとアバターを活用した慢性期疾患患者に対する看護の事例展開	2022年9月～10月	天理医療大学 看護専門科目慢性期療養過程を支える看護演習（3年次、1単位30時間）を担当した。演習の半分強はオンラインで実施するため、急性増悪を繰り返すCOPD患者の事例展開において教育用電子カルテシステム・患者と家族はアバターを利用した。患者の状態に日々変化を捉えることや、カルテにはない情報を患者や家族から収集するといった臨床に近い状況を再現した。学生は関心をもって主体的に学習に取り組んでいた。
看護実践の基盤となる解剖生理学の知識習得の強化を目指した授業	2023年4月～6月、2024年4月～6月	関西医科大学 看護専門科目 障がい論（2年次、1単位15時間）において、主に身体機能障害（呼吸機能、循環機能、排泄機能、運動機能、高次脳機能障害、セクシュアリティ）をもつ患者を理解するための授業を行った。学生のレディネスを考慮しながら、解剖生理を楽しんで学べるよう資料は図表を多く取り入れ、低学年の学生にも理解できる事例を取り入れた。さらに、授業ごとにミニテストを行い、知識の習得に努めた。課題レポートはルーブリック評価表で評価をし、一人一人にフィードバックを行った。毎回の授業の感想から、「解剖生理が分かりやすく、楽しかった」「難しいけど理解したい」「実習で忘れないようにしたい」といった、概ね肯定的な評価を受けた。
将来の看護師キャリアを描くための実習指導	2023年4月～6月、2024年4月～6月	関西医科大学 看護専門科目卒前インターンシップ実習（4年次、3単位135時間）において、がん看護学領域ゼミの学生の実習指導を行った。がん患者が多い血液内科・消化器病棟での実習に加え、緩和ケアを重視する訪問看護ステーションによる実習を計画した。異なる看護実践の場における、それぞれの魅力と厳しさなどを知ることができるよう、看護師との対話の時間・カンファレンスを取り入れた。実習終了時には、学生たちは看護師として目指す看護師像や自己の課題を語るとともに、臨床で働くことへのイメージがついたと評した。
臨床判断能力の基礎形成を主眼とした周術期看護実習指導	2023年8月～2024年2月、2024年8月～2025年2月（予定）	関西医科大学 看護専門科目成人治療看護論実習（令和5年度は3単位135時間、令和6年は2単位90時間）において、実習指導を4クール/年担当した。全身麻酔下で手術を受ける患者の看護展開において、日々変化する患者の状態にあわせて必要な看護を速やかに行うこと、患者の反応を受けての「気づき」を重視し、リフレクションを積み重ねた。実習を通じて、学生は生体侵襲や術後合併症について理解を深め、患者に必要な看護を考えることができるようになっていった。また、実習後の面談において多くの学生が、毎日変化する患者の反応を捉えられるようになったと述べ、気づきを看護に発展させることの重要性を学んでいた。
学部生の卒業論文（文献研究）の指導	2023年4月～10月、2024年4月～10月	関西医科大学看護専門科目看護研究法Ⅱ（4年次3単位90時間）において、2年間に6名の学生を担当し、国内外論文を対象とした、文献研究の指導を担当した。学生のテーマはいずれも、がん看護に関連するものであった。学生の研究疑問の明確化から研究計画、研究の実施、論文作成、学内発表会に至るまでの指導を行った。

博士前期課程(高度実践看護師コース)の学位論文の指導	2023年4月～現在	関西医科大学大学院看護学研究科 博士前期課程 高度実践看護師コース治療分野の学生の学位論文の副指導を担当した。担当した学生はがん看護学領域2名、慢性疾患看護学領域1名であり、放射化学療法を受ける患者の体験、遺伝子プロファイリング検査を受ける患者の支援、生物学的製剤による治療を受ける炎症性腸疾患の患者の体験をテーマ(いずれも質的記述的研究)とした研究であった。
博士前期課程(高度実践看護師コース)の学位審査副査	2022年2月、2025年2月	関西医科大学大学院看護学研究科 博士前期課程 高度実践看護師コースの学生各1名の学位論文審査を、副査として担当した。
看護実践能力の向上を目指した高度実践コース学生の経験事例の分析・省察を取り入れた授業	2024年8月～9月	関西医科大学大学院看護学研究科 博士前期課程 共通科目臨床推論・診断学(1年次2単位)の科目責任者として、医師による臨床診断のプロセスを理解できる講義に併せ、看護の実践知と臨床推論について授業を行った。また、学生の経験事例を基に自己の看護実践プロセスを分析、省察する課題を与え、ディスカッションを取り入れた。これにより、学生が看護の質を高めるための臨床判断とはどのようなものかを熟考し、自己の課題に気づくことで臨床判断能力を高めることをねらいとした。学生は臨床経験が豊富な者が多く、授業後の意見では、自分の臨床判断の際の思考パターンを知り、学生同士のディスカッションによってより看護の専門性を理解する機会になったと語った。
高度実践看護師コース(がん看護学)の学生に対するがんサバイバーへの全人的ケアを目指した講義	2024年9月～11月	関西医科大学大学院看護学研究科 博士前期課程 治療看護分野専門科目がん看護生活援助論(1年次2単位)において、がん看護学高度実践看護師コースの学生1名に対し、がんサバイバーが直面する課題に対する看護について講義をした。講義では、看護モデルを取り入れた事例分析を取り入れて、学生が培ってきた実践知と知識が統合されるように努めた。なかでも、セクシュアリティや妊孕性、新たながん治療に伴う経済的問題など近年重要視されている内容も取り上げ、がんサバイバーに全人的なケアを提供するための知識を講義した。
高度看護実践コース(がん看護学)の学生に対する、最新のがん治療における看護師の役割を見出すための講義・演習	2024年11月～2025年1月	関西医科大学大学院看護学研究科 博士前期課程 治療看護分野専門科目がん看護学演習ⅠおよびⅡにおいて主に婦人科がんの放射線療法や遺伝子医療に基づく薬物療法の動向・現状を概観し、外界の知見やガイドラインを含めて理解を深められるように授業を行った。また、実際の事例をもとに患者と家族のアセスメント、看護介入をディスカッションした。そのなかで、がん専門看護師として、ジェネラリストに対してどのような教育や倫理調整ができるか、多職種と連携できるかを学生と共に検討した。
2 作成した教科書、教材		
・がん看護論における診断期～再発乳がん患者の事例作成	2016年4月	天理医療大学 看護専門科目のがん看護論(4年次、選択、1単位15時間)において、実際のがん患者が迎える療養過程に合わせた事例を作成した。診断期、治療期、再発治療の選択といった、がん患者の意思決定支援が重要な時期に焦点をあて、治療を継続するうえで必要な看護を検討できるようにした。
・慢性期療養過程を支える看護演習におけるCOPD患者の事例作成	2020年10月 2021年10月	天理医療大学 看護専門科目の慢性期療養を支える看護演習(3年次、2単位30時間)において、急性増悪を繰り返すCOPD患者の事例を作成した。緊急入院から回復し、自宅に退院する過程で、実際の退院支援や看護援助を導くことができるような情報を含めた。また、実習をイメージして7日間の変化を捉えられるように工夫した。

・在宅移行期を支える看護実習における外来化学療法を受ける乳がん患者の事例作成	2021年5月	天理医療大学 看護専門科目の在宅移行期を支える看護実習（3年次、3単位135時間）の学内実習のために外来化学療法を受ける乳がん患者の事例を作成した。化学療法外来での看護を想定し、患者のこれまでの経過と現状を端的に捉えられるように工夫し、学生がその日に必要な看護を検討・実施できるようにした。
・在宅移行支援を学ぶためのパーキンソン病患者の事例作成	2022年5月	天理医療大学 看護専門科目の在宅移行期を支える看護実習（4年次、3単位135時間）において、COVID-19感染拡大による臨地実習中止に備え、病棟実習の追体験が可能にする事例を作成し、教育用カルテMedi-EYE®に収納した、事例は、実習目標達成のために、患者の全体像を深く捉え、多職種連携や退院調整、家族看護が検討できるように工夫をした。
・疼痛を訴える子宮がん患者の事例作成	2023年7月	関西医科大学看護学部看護専門科目の卒前インターンシップ実習（4年次、3単位135時間）の一部として、がん看護学ゼミの学生3名を対象に、がん疼痛を訴える子宮がん患者の事例を作成し、患者の身体・心理・社会的アセスメント踏まえた清拭の援助計画立案・実施を行った。
・周術期看護実習のルーブリック評価表の作成	2024年8月	関西医科大学 専門科目成人老年治療看護論実習（3年次、2単位90時間）の科目責任者として、学生・教員・指導者間が到達度を共通理解するためのルーブリック評価表を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他		
【学会・研究会における活動】 第16回日本クリティカルケア看護学会 学術集会 実行委員	2020年7月～ 12月	当日の会場案内など参加者の対応を担う予定であったが、webによる開催となった。
日本看護科学学会 和文専任査読委員	2023年10月～ 現在	公益財団法人日本看護科学会の和文専任査読委員として、投稿論文6件の査読を担当した。
第21回日本乳癌学会近畿地方会 看護セミナー講師 乳がん女性のセクシュアリティ～女性として生きること を支えるために看護師が知っておきたいこと～	2023年11月 於：京都産業会 館	乳癌の最新の薬物療法によって生じるセクシュアリティの変化と、そのケアについて30分間の講演を担当した。多数の乳がん看護に携わる看護師の参加があり、患肢がん高い様子が伺われた。講演後は、多様なセクシュアリティへのケアの難しさ・重要性について参加者と議論した。
International Journal of Qualitative Studies on Health & Well-being 査読員	2024年2月	International Journal of Qualitative Studies on Health & Well-beingの編集者より依頼を受け、投稿論文1件の査読を行った。
第38回 日本がん看護学会学術集会 実行委員	2024年2月 於：神戸国際展 示場	口演会場の運営を担当し、座長の補佐、発表者の支援等を行った。
【天理医療大学における委員会・プロジェクト活動等 2013年4月～2023年3月まで】 ・教務委員会	2017年4月～ 2019年3月	委員として、学生の取得認定の確認、看護学科の時間割調整、筆記試験マニュアルや学習ガイドの改訂等を行った

・ハラスメント対策委員会	2016年4月～ 2018年3月、 2020年3月～ 2023年3月	委員として、ハラスメントガイドラインの作成と改訂、ハラスメント防止啓発のための講演会の企画運営、学生向けリーフレットの作成、ハラスメントに関する意識調査の実施、ハラスメント事案発生の対応を行った。
・学生委員会	2015年4月～ 2016年3月	委員として大学祭における学生支援、学生と教職員の意見交換会の企画・運営等を行った。
・図書委員会	2016年4月～ 2018年3月	委員として、新規購入図書の検討と希望図書の取りまとめ、図書の紛失予防策の検討・学生への啓発活動を行った。
・チューター会議	2019年4月～ 2023年3月	学年チューターとして、他の学年・検査学科と日々のチューター活動内容の共有と課題の検討を行った。
・安全管理委員会	2017年4月～ 2020年3月	委員として、防災・避難訓練の企画と当日の運営、防災講演会の企画、防災マニュアルの改訂、大学内の安全点検を行った。
・キャリア支援委員会	2018年4月～ 2020年3月	委員として、学生の進学・就職支援の講義の企画、天理医療大学同窓会と協働してホームカミングデーの企画と運営を行った。
・広報社会連携委員会	2020年4月～ 2023年3月	委員として、年間4回のオープンキャンパスを担当し（令和3年度は看護学科責任者）、各回の企画と看護学科紹介・体験教室の指揮、アルバイトの指導を行った。また、COVID19の感染状況に応じた開催方法、感染予防策を検討した。その他、参加者の個人相談の対応、模擬授業を行った。また、まちの保健室の準備、実施を行った。
・ハラスメント相談員としての活動	2014年8月～ 2023年3月	大学よりハラスメント相談員の任命を受け、教職員・学生に対するハラスメント相談業務、報告書作成、臨時委員会への参加を行った。
・国家試験対策	2019年4月～ 2023年3月	看護学科4年生のチューターとして、国家試験対策の計画・実施を行った。模擬試験や出張講義、学内補講のみならず、高頻度に出題されるキーワードに関連した練習問題の作成、学習成果の分析などを行い、それを看護学科教員と共有した。また、学生の学習意欲を維持するためのサポートを行った。
天理医療大学 教職員のための公開講座 講師	2018年7月	天理医療大学 教職員のための公開講座「学校教育におけるがん教育の進め方」において、県内の小中学校教諭を対象にがんの病態、治療、がん患者が経験する苦痛について講義を担当した。
天理よろづ相談所病院看護部 倫理審査委員としての活動	2020年4月～ 2023年3月	天理よろづ相談所病院看護部の倫理審査委員として、研究計画書の倫理審査を行った。
【関西医科大学における委員会・プロジェクト活動 2023年4月から2025年3月まで】		
・看護学部教務委員会	2023年4月～ 2024年3月	委員として、学部生の履修に関する審議、単位認定、授業シラバスの点検、成績不振者や単位未修得者の面談などを行った。また、令和6年度の日本看護学教育評価機構の受審にむけて、学部内の授業評価の実態調査を行い、資料を作成した。
・大学院教務委員会	2023年4月～ 2025年3月	委員として、大学院生の履修に関する審議、単位認定、授業シラバスの点検、学位論文の執筆要項の検討などを行った。博士前期課程の研究者コース修了生が、高度実践看護コースに入学する場合の履修モデル案作成を担当した。また、カリキュラム変更・セメスター変更に伴う時間割の検討などを行った。

・関西医科大学 看護キャリア開発センター・研究部門	2023年4月～ 2025年3月	委員として、関西医科大学の系列病院の看護研究の促進を目指し、研修の企画運営や、研究支援体制について検討した。看護スタッフの研究を指導する立場にある管理者(病棟師長や副師長, 教育担当者)約20名に向けて、2023年・2024年ともに研究デザインの選択をテーマとした研修の講師を務めた。
・国家試験対策委員会	2024年4月～ 2025年3月	副委員長として、看護師・保健師・助産師国家試験対策について検討・年間計画、実施をした。模擬試験の結果を分析し、ゼミの担当教員と連携して学習支援を行った。模擬試験結果と授業成績との関連などを分析し、指導を強化すべき学生の抽出を行った。
・1年生担任、学生委員会	2024年4月～ 2025年3月	1年生の担任として、学期ごとのオリエンテーション、チューターと連携した大学生活の支援を行った。学生委員では、委員として1年生の状況を報告し、生じている問題や対応について協議した。
【社会貢献活動】 ・NPO法人 ニューマン理論・研究・実践研究会 社員(令和4年4月に監事就任)	2016年9月～ 現在	本NPOは、マーガレットニューマンの看護理論研究者である遠藤恵美子氏代表のもと、国内の臨床看護師・研究者に理論に基づく看護実践を普及・発展することを目的としており、年間4回の研究会や年次集会の企画、運営を担当している
がん患者会支援の活動	2019年1月～ 現在	神戸市の婦人科がん患者会「パールポート」が2か月に1度開催する患者会にボランティアとして参画し、自身の医療専門的知識や臨床経験、研究成果に基づく情報の提供、参加者の相談に応じている。
世界卵巣がん連合(World Ovarian Cancer Coalition) Inspiring Voices Projectへの参加	2024年3月	Inspiring Voices Projectは、世界中の卵巣がん当事者、ケア提供者、研究者など様々な立場から、卵巣がん患者が声をあげる重要性をアピールするものである。卵巣がん患者のケアの研究者として要請を受け、実施した研究内容やそこから得られた考察、卵巣がん患者のケアの重要性などについてインタビューに応じることでプロジェクトに参加した。
【競争的研究資金の獲得】 日本学術振興会 科学研費助成事業 1. 壮年期の進行期婦人科がん患者の配偶者が体験する支援ニーズに基づくケアモデルの構築(基盤研究C 課題番号25463451)	2013年4月～ 2015年3月	研究代表者として、左記の研究課題に取り組んだ。第化学療法を受ける患者の配偶者に行った質的調査の結果と先行研究をもとに配偶者に対するケアモデルを作成し、臨床看護師のグループインタビューによる実行可能性と有用性の評価を行った。 研究代表者: 松井利江 分担研究者: 布谷麻耶、片岡純
2. 脳卒中患者の家族介護者に対する在宅支援介入プログラムに関する研究 (基盤研究C課題番号26463362)	2014年4月～ 2017年3月	研究協力者として、データ収集・データ分析を担当した。脳卒中患者家族に対して急性期からそれぞれの時期に応じた在宅移行のための看護支援を明らかにした。家族の不確かさを軽減できる病状説明と医療者の丁寧かつ親身なかかわりを意図的に組み込む必要性、看護師の先を見通す力と患者・家族の自宅での生活を判断する力が必須であることが示唆された。 研究代表者: 林みよ子
3. 卵巣がんが疑われる患者に対する術前外来ケアプログラムの開発(基盤研究C 課題番号19K10920)	2019年4月～ 2024年3月	研究代表者として、左記の研究課題に取り組んだ。手術まで確定診断がつかず、術中所見で術式が決まる不確かな状況で手術を受ける患者に対し、患者および熟練看護師に対する調査を基盤としたケアの開発に取り組んだ。卵巣がんが疑われる患者に対してセクシュアリティを根幹とした術前ケアプログラムの作成を試みた。 研究代表者: 松井利江 分担研究者: 青木早苗、瀬戸奈津子

4. 婦人科がん患者のセクシュアリティのケア実践能力向上を目指した教育プログラム開発(基盤研究C課題番号23K0994) 天理医療大学共同研究費 1. 婦人科がん患者が初回治療を完遂するプロセス—診断から術後補助療法までの体験— 2. 継続的なStructured debriefingがSCU若手看護師の早期在宅移行に向けた家族看護実践に与える影響 3. 終末期血液がん患者の在宅療養移行を支える看護活動 天理医療大学若手奨励研究 ・婦人科がん患者が初回治療を完遂するプロセス—診断から術後補助療法までの体験—	2023年3月～2028年3月(予定) 2016年9月～2017年8月 2016年9月～2017年8月 2022年9月～2023年3月 2016年9月～2017年3月	研究代表者として、婦人科がん患者のケアに携わる臨床看護師を対象とした、セクシュアリティの教育プログラムの作成に取り組んでいる。博士論文を含めたこれまでの調査、先行研究を基に教育プログラムのアウトカム・教育内容の検討を行っている。研究代表者：松井利江 分担研究者：青木早苗、瀬戸奈津子 研究代表者として研究全般を遂行した。外来通院する婦人科がん患者に面接調査を行い、質的に分析を行った。研究代表者：松井利江 共同研究者：林みよ子、森知美、木村智美 共同研究者として、SCUに勤務する卒後3年目の看護師を対象に、在宅移行における家族ケアの認識と実践についてStructured debriefingを1年間実施した。Structured debriefingの実施およびデータ収集、分析・結果のまとめを担当した。研究代表者：林みよ子 共同研究者：松井利江、森知美、臼井千春、大仲陽子 研究代表者として、高齢血液がん患者の在宅移行における看護師の思考と実践を明らかにする研究を行った。終末期に在宅移行を実現できた4事例の診療録や地域連携記録、カンファレンス記録をデータとし、看護師の実践を可視化した。研究代表者：松井利江 共同研究者：高田幸恵、山中政子、奥田眞紀子 研究代表者として研究全般を遂行した。外来通院する婦人科がん患者に面接調査を行い、質的に分析を行った。研究代表者：松井利江、林みよ子、木村智美
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格, 免許	1994年 5月2日 2009年 12月22日 2014年 5月11日	看護師免許 (第828097号) 厚生労働省認定看護教員養成講習会修了 第2199号 日本緩和医療学会 End-of-Life Nursing Education Consortium・Japan(ELNECJ)指導者
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. がん薬物療法の基本とマネジメント	分担著者	2024年1月	メジカルビュー社	第Ⅰ章「投与管理」「退院後のセルフマネジメント」および、第Ⅲ章「性機能障害」「ホットフラッシュ」を執筆した。看護師が実践にすぐに活用できるよう、最新のがん薬物療法を受ける患者の看護に必要な知識と介入についてガイドラインに準拠して解説した。
(学術論文) 1. 進行期卵巣がんの妻と療養を共にした壮年期配偶者の体験-2人の遺族の分析- (査読有)	共著	2015年3月	天理医療大学紀要, 3(1),16-24	進行期卵巣がん患者の療養過程における壮年期配偶者の体験を明らかにすることを目的に、2名の遺族である患者の夫に面接調査を行い、質的記述的分析を行った。結果、【妻を死なせるわけにはいかない】【今日1日をやり過ごす】【妻の気力を支える】【妻らしさを守る】【後悔なく見送る心づもり】という、卵巣がんの診断から死に至るまでの体験が明らかになった。 松井利江, 福田陽子, 布谷麻耶 本人担当分：研究全般
2. Decreased daytime light intensity at nonwindow hospital beds: Comparisons with light intensity at window hospital beds and light exposure in nonhospitalized elderly individuals (査読有)	共著	2018年5月	Chronobiol Int, 35(5), 719-723.	高齢入院患者の転倒と生体の日内リズムを検討するため、高齢入院患者が日中に浴びる日照強度の実態を調査した。1つの医療機関で日中のベッドサイドの光強度を、季節ごとに1分間隔で測定した。地域で過ごす高齢者のデータと比較して、非窓側ベッドは有意に低い日中の光強度を浴びていたが、窓側ベッドは地域の高齢者が浴びる光強度と有意差はなかった。これらの結果は、季節や部屋の方向に関係なく一貫していた。 Iwamoto J, Obayashi K, Kobayashi M, Kotsuji T, Matsui R, Ito K, Yoshida O, Kurumatani N, Saeki K. 本人担当分：データ収集、データ整理
3. 繰り返し化学療法を受ける婦人科がん患者の配偶者の対処 (査読有)	共著	2020年9月	日本がん看護学会誌, 34. 136-144	繰り返し化学療法を受ける婦人科がん患者の配偶者の対処プロセスを明らかにすることを目的に、10名の子宮がん、卵巣がん患者の配偶者を対象に面接調査を行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を用いて分析した。結果、配偶者は妻の気持ちに寄り添いたくても難しく、【妻の苦しみを前に自分の気持ちを抑え込む】ようにしながら、【自分一人で妻を守る】【共倒れしない術を探す】【妻の治療継続を支える】ようにし、【治療の限界を意識しながら夫婦で生きていく】ことが明らかになった。 本人担当分：研究全般 松井利江, 片岡純, 布谷麻耶
4. 卵巣がん患者のセクシュアリティに関する研究の動向と今後の課題 (査読有)	共著	2021年1月	Palliative Care Research, 16(1),3-12	卵巣がん患者のセクシュアリティに関する先行研究の動向と今後の課題を明らかにするため、国内外の文献を検討した。対象論文30件に日本の論文は含まれなかった。「性機能障害の実態と影響要因」「性行為の実態と影響要因」「パートナーとの関係性と影響要因」「性的魅力・ボディイメージの変化と影響要因」「セクシュアリティに関する患者のニーズとケア」であった。本研究より、卵巣がんの独自性に焦点を当てたセクシュアリティを明らかにする必要性が示唆された。 本人担当分：研究全般 松井利江, 瀬戸奈津子

5. 奈良ニューマン理論・実践学習会の歩みーMargaret.A.Newman理論に基づく看護実践をめざしてー	共著	2023年2月	天理医療大学紀要, 11(1),30-35	M.A.Newmanの拡張する意識としての健康の理論に基づく看護実践の探求を意図する奈良ニューマン理論・実践学習会の設立から7年間の活動を振り返り、その意義を考察した。文献抄読と看護実践を語り合う対話によって、参加者は全体論の視点で現象を捉えることができるようになり、看護実践に変化が生じていること、学習会が成長できる場として認識していることが示唆された。 <u>松井利江</u> , 森知美
6. A qualitative analysis of sexual transformation in Japanese women after ovarian cancer treatment (査読有)	共著	2024年4月	Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing,2024 Jan 19;11(4)	卵巣がん治療後の日本人女性におけるセクシュアリティの変容を明らかにすることを目的とした。卵巣がん治療を受けた18名の女性にインタビューを行い、修正グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて分析した。分析の結果、(1)卵巣と子宮を失う現実と直面する(2)女性であることの可逆性と不可逆性を熟考する(3)性行為に対する気持ちの変化と否定的な感情に向き合う(4)パートナーシップの本質を再評価する(5)女性としてのアイデンティティに満足感を見出すことが明らかになった。これらは、卵巣がんの診断と治療、過去の生殖に関する意思決定、パートナーとのコミュニケーションのありよう、日本における社会規範の特徴に影響されていると思われる。 本人担当分：研究全般 <u>Rie Matsui</u> , Sanae Aoki, Natsuko Seto
8. 成人看護学実習において単一医療機関で行われている在宅移行支援の見学実習を取り入れた学習成果 (査読有)	共著	2024年4月	天理大学学報, 75 (4), 1-13	成人看護学領域に単一の医療機関で行われている在宅療養移行支援の見学実習を取り入れたことによる学習成果を明らかにした。成人看護学実習の履修を終えた4年生64名の実習レポートとアンケート調査の結果を、テキストマイニングと質的統合法を用いて分析した。結果、学生の78%が見学実習の学びを病棟実習に活用できたと回答し、その内容として【療養生活継続のための看護展開：生活者の視点で地域に戻る患者を支援】などの5つが抽出された。 山中政子、森知美、大内田靖子、 <u>松井利江</u> 、東真理 本人担当分：データ分析、結果まとめ、論文の推敲
(その他) 「学会発表」 1. 化学療法を受ける壮年期婦人科がん患者の配偶者が体験する困難と対処	共同	2015年9月	日本家族看護学会第22回学術集会 (於 国際医療福祉大学 小田原保険医療学部)	化学療法を受ける壮年期婦人科がん患者の配偶者が体験している困難とその対処を明らかにすることを目的に、質的研究を行った。10名の研究参加者から得られたデータを、修正版グラウンデッド・アプローチの手法を用いて分析した。分析の結果、配偶者は【八方ふさがり】【抜け道を探す】【気負いを捨てる】というプロセスで課題に対処をしていること、このプロセスの全体を通じて<妻の苦しみを感じて辛い>ものの、<弱みは見せない>よう振る舞う対処が明らかとなった。 本人担当分：研究全般 <u>松井利江</u> 、福田陽子、布谷麻耶、片岡純

2. 卵巣がんの妻と死別した高齢配偶者のSpiritual Needs	共同	2015年11月	日本家族看護学会第22回学術集会 (於 国際医療福祉大学 小田原保険医療学部)	卵巣がんの妻と死別した高齢配偶者が抱くSpiritual Needsを明らかにすることを目的に、質的研究を行った。卵巣がん患者の妻を看取った高齢配偶者2名に対し、面接調査を行い、得られたデータをSCAT (Steps For Cording and Theorization)の手法で分析した。分析の結果、＜家族の健康を守りたい＞＜常に一緒に居たい＞＜あの世で幸せにいてもらいたい＞＜生きる希望を持ちたい＞＜面倒かけずに死にたい＞というニーズが明らかになった。 本人担当分：面接調査、データ分析、結果のまとめ 福田陽子、 <u>松井利江</u> 、布谷麻耶
3. 奈良ニューマン理論・実践学習会：発足から現在までの歩み	単独	2015年10月	ニューマン理論・研究・実践研究会第9回対話集会 (於：神奈川県立がんセンター)	マーガレット・ニューマンの拡張する意識としての健康の理論に基づく看護実践を追求するために、奈良ニューマン理論・実践学習会を創設したプロセス、毎回の学習会の企画・運営の実際を発表した。さらに、全国の医療機関や教育機関で学習会を開始するうえでの助言を行った。
4. 化学療法を受ける壮年期婦人科がん患者の配偶者へのケアモデル案の作成と評価	共同	2016年8月	日本家族看護学会第23回学術集会 岩手	化学療法を受ける壮年期婦人科がん患者の配偶者に対するケアモデル案を作成し、その評価を行った。国内外33件の文献検討と著者らの先行研究結果から、配偶者のケアに関する内容を抽出し、これをケアモデルの構成要素としてケアモデル案を作成した。次に、がん診療拠点病院の婦人科病棟に勤務する看護師へのグループインタビューによって、ケアモデルの内容の妥当性と実用性を評価した。結果、内容の妥当性は認められたものの、配偶者に関わる機会の少なさが障壁となり、配偶者へ直接介入するケア項目の実践は困難なことが明らかとなった。 本人担当分：研究全般 <u>松井利江</u> 、福田陽子、布谷麻耶、片岡純
5. Nursing Support for the Family Members of Cerebral Stroke Patients in the Acute to Subacute Stages	共同	2018年1月	21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (韓国・ソウル)	急性期から亜急性期の脳卒中患者の家族のケアにおける看護実践を明らかにすることを目的に7名の看護師に面接調査を実施し、質的機能的に分析した。結果、看護師は常に家族の受容を促進しようとしていた在宅介護への移行期に看護を提供した経験のある看護師は、入院直後に脳卒中患者の経過を予測し、その段階で家族のために何をすべきかを判断し、情報収集や支援を行った。対照的に、救命救急の経験しか持たない看護師は、何をすべきかの判断に苦労しながら、患者の変化を予測し、家族と関わっていた。 本人担当分：データ収集、結果の分析・考察 林みよ子、 <u>松井利江</u> 、山口真有美、森知美
6. Decreased daytime light intensity at non-window hospital beds compared with light exposure in non-hospitalized elderly individuals	共同	2018年7月	日本睡眠学会第43回定期学術集会 (於：札幌コンベンションセンター)	高齢入院患者の転倒と生体の日内リズムを検討するため、高齢入院患者が日中に浴びる日照強度の実態を調査した。地域で過ごす高齢者のデータと比較して、非窓側ベッドは有意に低い日中の光強度を浴びていたが、窓側ベッドは地域の高齢者が浴びる光強度と有意差はなかった。これらの結果は、季節や部屋の方向に関係なく一貫していた。 本人担当分：データ収集、データのまとめ 岩本 淳子、大林 賢史、 <u>松井利江</u> 、小林 美和、小辻 俊通、吉田 修、車谷 典男、佐伯 圭吾

7. 卵巣がん患者が初回治療を完遂するプロセス	共同	2018年12月	第38回日本看護科学学会学術集会 (於：愛媛県ひめぎんホール)	卵巣がん患者が初回治療を完遂するプロセスを明らかにすることを目的に、卵巣がん患者5名を対象に面接調査を行い質的帰納的に分析した。患者は<手術で腫瘍の正体を明らかにする><女性機能よりも命が優先>と考え手術を決意していた。化学療法を勧められたとき、<「卵巣がん患者」であることを思い知>り、やむを得ない、と化学療法に同意していた。<これ以上続けられない>と治療の継続に限界を感じるようになるが、<前を向くしかない>と自分に言いきかせ、<気力で押し切る><「絶対に生きなければ」と立ち上がる>。こうして、治療終了のカウントダウンの中で<「最後までいける」見通し>を立てていた。 本人担当分：研究全般 松井利江，林みよ子
8. 外来で初回治療を受ける壮年期子宮がん患者の体験	共同	2019年12月	第39回日本看護科学学会学術集会 (於：石川県立音楽堂)	外来で初回治療を完遂した壮年期子宮がん患者の体験を明らかにすることを目的に、子宮がん患者7名を対象に半構造化面接法でデータ収集し、質的帰納的に分析した。結果、患者は、[治療と生活を両立させる手立てを考え]ながら[手術による問題よりもがんをなくすことを優先する]ために迷わず手術を選択する。また、[化学療法に生き続けられる確証を求め]て同意する。化学療法開始後[自分なりに副作用と付き合おうと努力する]が[絶え間ない副作用に辟易]しながら[いつも通りでありたいと願]い[自分の生活を守るための体制をつくる][社会と繋がり続ける]ことに取り組んでいた。 本人担当分：研究全般 松井利江，林みよ子
9. Survey of Nursing Support for Patients with Stroke and their Family Caregivers in their Transition to Home Care in Japan	共同	2020年1月	23rd East Asian Forum of Nursing Scholars Loutus Hotel Pang Suan Kaew, Chang Mai, Thailand)	脳卒中患者とその家族の在宅移行期ケアにおける実態を明らかにするために、無作為抽出された国内210の医療機関の看護師に自己記入式質問紙調査を実施した。275名の看護師のうち95%がMSWやリハビリテーションスタッフ、訪問看護師等と協働しており、入院中は患者と家族のニーズの確認、患者の日常生活動作の自立支援を実施していた。退院前には、患者が使用できる資源に関する情報提供し、試験外泊の手配と実施を支援していた。その一方、約70%が看護師の知識と経験不足などの課題を認識していた。 本人担当分：データ収集、結果の考察 林みよ子，松井利江
10. Experience of a Middle-aged Gynecologic Cancer Patient Receiving Initial Surgery and Chemotherapy	共同	2020年1月	23th East Asian Forum of Nursing Scholars (Loutus Hotel Pang Suan Kaew, Chang Mai, Thailand)	壮年期の婦人科がん患者の初治療の体験を明らかにすることを目的に、婦人科がん患者11名に面接調査を行い、質的記述的に分析した。結果、「状況の不確かさ認知」と「日常性認知」によって変化する3つの局面と「前に進み続けるよりどころ」という支えがあることが明らかとなった。この変化は、診断時から治療方針が明確で比較的前後が良い子宮がん患者は、早期に「日常性維持の願い」と取り戻しの努力」の局面に移行するが、術前に確定診断できず予後が悪い卵巣がん患者は、「がん患者としての現実認知と治療継続への努力」の局面が長期化していた。 本人担当分：研究全般 松井利江，林みよ子

11. 継続的なStructured debriefingがSCU若手看護師の早期在宅移行に向けた家族看護実践に与える影響	共同	2020年12月	第47回日本脳神経看護研究学会 WEB開催	在宅移行に向けた家族看護実践に関するSCU若手看護師の変化を明らかにすることを目的に、基礎看護教育終了後SCUに配属された2年目と3年目の看護師6名を対象とし、Structured debriefingを1年間実施し、Debriefingでの語り内容、介入前・6ヶ月後・12ヶ月後の自律的看護実践認識度・実践度の自記式質問紙でデータ収集した。結果、自律的看護実践の認識度と実践度はいずれも介入前後で上昇した。対象者は先輩看護師の助言に基づいて実践する中で元の生活や家族に目を向け始め、今後の生活を予測して患者や家族の希望実現のために他職種と調整するようになった実践を語り、Debriefingの有用性が示された。 本人担当分：データ収集，考察 林みよ子， <u>松井利江</u> ，臼井千春，大仲陽子
12. 見学実習と看護過程展開の2部構成で行う成人慢性期看護学実習における学生の学び	共同	2022年8月	第48回日本看護研究学会 学術集会（於：松山市総合コミュニティセンター）	看護専門外来や退院支援部門などの多様な看護活動の場の見学と病棟実習を組み合わせた慢性期看護実習において、学生が見学実習の学びをどのように病棟実習に活かしたのかを明らかにすることを目的に、オンラインによるアンケート調査を実施した。結果、見学実習の学びを受け持ち患者への看護で活かすことができたかの問いに対し、78.0%がとてもそう思う・そう思うと回答した。また、自由記述の分析から、学生が＜患者目線の多職種連携＞＜退院前カンファレンス見学の成果＞＜家族看護＞＜看護過程の展開＞を行っていることが明らかになった。 本人担当分：データ分析，考察 山中政子， <u>松井利江</u> ，東真理，森知美，大内田靖子
13. 成人慢性期看護学実習において通院治療を受ける患者への看護を見学した学生の学び	共同	2022年11月	第12回日本在宅看護学会学術集会 於：東京都中野サンプラザ	成人慢性期看護学実習で透析室、化学療法室、心臓リハビリテーション室で通院治療を受ける患者への看護を見学した学生の学びを明らかにすることを目的に、4年生45名の実習記録をテキストマイニングソフトKH Coderを用いて分析した。共起ネットワーク分析の結果、強い共起関係にあったのは、サブグラフ1で「透析」「自己」「自身」「管理」「指導」、サブグラフ2で「化学」「療法」「受ける」「副作用」「対応」などであった。学生は、透析室では自己管理を促す指導、化学療法室では副作用への対応を学んでいた。また、通院治療の継続には病棟と外来、家族との情報共有や、患者と一緒に考えながら生活を支える看護の必要性を学んでいた。 本人担当分：分析，考察 山中政子， <u>松井利江</u> ，東真理，大内田靖子
14. 学生が捉えた入院当日患者に対する看護師の在宅移行支援—看護師のシャドウイング実習による学び—	共同	2022年11月	第12回日本在宅看護学会学術集会 於：東京都中野サンプラザ	入院当日患者を担当する病棟看護師のシャドウイング実習で学生が捉えた看護師の在宅移行支援を明らかにすることを目的に、4年次看護学生40名の実習記録を質的記述的に分析した。分析の結果、学生が認識した病棟看護師の在宅移行支援は、＜退院支援の必要性和開始のタイミングを判断する＞＜過去から今後を見据えて全人的に患者像を捉える＞など7つのカテゴリーに集約された。学生は、看護師が患者の今後を長期的に見据え、より望ましい生活実現の支援をしていることや、日々の看護援助を通じて患者の在宅移行を支援していることを認識していた。これは、将来の看護実践において、早期からの在宅移行支援に対する意識を高める効果が期待できる。 本人担当分：研究全般 <u>松井利江</u> ，山中政子，東真理，森知美，大内田靖子

15. 卵巣がん治療を受けた女性のセクシュアリティの変容プロセス	共同	2022年12月	第42回日本看護科学会学術集会 於:広島市文化交流開館	本研究は、卵巣がん治療を受けた女性のセクシュアリティの変容を明らかにした。卵巣がん経験者18名に半構造化面接を行い修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの手法を用いて分析した。結果、女性のセクシュアリティは、術前に【完全には拭い切れない生殖器温存への期待】をもつことで、術後に【「突然」生殖器を失った身体との対峙】をし、『女性である私の可逆性と不可逆性の問い』『これまで通りにいかないセックスへの否定的感情』『パートナーシップの真価の見極め』を繰り返しながらも、いずれの女性も『女性である私に対する納得』をするように変化していた。 本人担当分:研究全般 松井利江, 青木早苗, 瀬戸奈津子
16. 看護学生が看護専門外来の見学実習から捉えた通院患者の特徴と在宅移行期の支援における看護の学び	共同	2022年12月	第42回日本看護が各学会学術集会 於:広島市文化交流開館	A大学4年次の看護専門外来の見学実習を行った24名の実習記録内容を、SCAT(Steps for Cording and Theorization)を用いて分析した。結果、学生は看護専門外来に通院する患者を絶えず[専門的治療への関心]を持ち、[疾患と共に生きる方策]をとるがゆえ、[生活の狭小化]を余儀なくされた[生活者]と捉えていた。さらに[切れ目のない生活の維持]を図るために、[継続した通院治療]と[望ましい療養行動]、時には[家族を巻き込んだ健康管理]をしている人々と捉えていた。また、看護師は[共感的態度]で[患者の強み]を見極め、[患者の歩調に合わせた継続的支援]をする役割があり、時に[ソーシャルサポート]を提供し[患者の生活]に合わせ[ルーティンワークではない]生活の[切れ目のない支援]を見据え、[現実的な方法への転換]を導いていると捉えていた。 本人担当分:データ分析, 考察 東真理, 山中政子, 松井利江, 大内田靖子, 森知美
17. 卵巣がんが疑われる患者に対する外来看護師の実践と課題	共同	2024年2月	第38回日本がん看護学会学術集会 於:神戸国際会議場	卵巣がんが疑われる患者に対して外来看護師が行う支援の実際と課題を明らかにすることを目的に、外来看護師を対象にフォーカス・グループ・インタビューを実施し、質的記述的に分析した。 結果、来看護師は、【患者の心情に配慮しながら、卵巣がん患者と共に生きる場合の道筋を与える】【医師やスペシャリストと連携し、妊孕性温存の厳しさに対峙できるように支える】などの実践をしていた。その一方、【術前の患者に必要な情報が提供できないまま病棟に送り出すジレンマ】【遺伝的な観点で患者を捉えるスキルの不足】【継続的なケアを実現しうる病棟との連携不足】などの課題を認識していることが明らかになった。 本人分担分:研究全般 松井利江、青木早苗、瀬戸奈津子
(その他) 1. 経過が分かる！疾患別看護過程 前立腺肥大症/前立腺がん	共著	2018年11月	照林社, プチナーズ, 27(12)1-20	看護学生が実習で受け持つことが多い前立腺疾患の解剖生理学・病態・看護アセスメントの視点・看護問題と看護計画といった看護過程の展開に必要な知識や考え方をまとめた。 松井利江, 林みよ子 本人担当分:執筆全般

2. Margaret Ann Newman 先生の85歳の生涯を祝福し語る会の報告 Celebration of Dr. Margaret Newman's life!	共著	2019年3月	看護の科学社, 看護実践の科学, 44(3), 58-63	Margaret Ann Newman博士の逝去をうけ、NPO法人ニューマン理論・研究・実践研究会において追悼の会を開催しニューマン理論との出会いや理論に導かれて実践が変わった経験を語り合い、ニューマン博士の功績をたたえた。この追悼の会の様子をレポートし、ニューマン理論の意義を伝え実践への適応を呼び掛けた。 共著者：宮原知子, <u>松井利江</u> 本人担当分：原稿執筆
3. 経過が分かる！疾患別看護過程 慢性腎不全	共著	2019年6月	照林社, プチナース, 28(7)1-20	看護学生が実習で受け持つことが多い慢性腎不全の解剖生理学・病態・看護アセスメントの視点・看護問題と看護計画といった看護過程の展開に必要な知識や考え方をまとめた。 <u>松井利江</u> , 林みよ子 本人担当分：執筆全般
4. 実習で出合う疾患の病期別 看護ガイド】腎泌尿器、生殖器疾患 (DISEASE 14)慢性腎不全	単著	令和3年5月	照林社, プチナース創刊号, 30(6),88-93	血液透析を導入する末期腎不全患者の看護に必要な知識と看護の要点を、看護学生が理解しやすく実習で活用できるように工夫してまとめた。
5. 【実習で出合う疾患の病期別 看護ガイド】腎泌尿器、生殖器疾患 (DISEASE 15)前立腺がん	単著	2021年5月	照林社, プチナース創刊号, 30(6),94-99	周手術期にある前立腺がん患者の看護に必要な知識と看護の要点を、看護学生が理解しやすく、実習で活用できるように工夫してまとめた。
6. 第113回看護師国家試験問題解説 e-learning Nplus	単著	2024年5月	メディカ出版(e-learning教材)	第113回看護師国家試験問題のうち、がん看護に関する設問(午前第41問、48問、午後94-96問)の解説を執筆した。
7. ニューマン理論に導かれた看護実践をめざした学習会を始めよう！	単著	2024年7月	看護の科学新社, オンライン, 3(3), 33-37	M.A.Newmanの拡張する意識としての健康の理論に基づく看護実践を探究する学習会を立ち上げた経験を紹介した。学習会の準備・仲間づくり、学習会の進め方など、これから学習会を始めようとされる看護師に向けてポイントをわかりやすく記載した。

教 育 研 究 業 績 書		
2025年 5月 12日		
氏名 宮本 雅子		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
	助産学、母性看護学、周産期看護、健康教育、思春期教育、母子間愛着	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 (1) 助産学実習学内実習のシミュレーション教育の実践	2023年9月	奈良学園大学において、助産学実習の学内実習方法として、シミュレーション教育を担当した。全国助産師教育協議会の事例フォーマットに沿って、産婦事例の実習を計画し、2023年10～12月に実施した。産婦の入院から分娩介助、産後2時間までを継続してシミュレーションを行い、分娩経過中の助産診断を重視したリフレクションを行った。
2 作成した教科書、教材 (1) 助産診断指標の作成	2016年2月～ 2016年4月	摂南大学看護学部の助産師課程の学生用として、摂南大学看護学部の助産師課程の学生用として、「助産診断・技術学Ⅰ」の妊娠期の助産診断・診断指標の冊子作成の一部を担当した。作成途中でグループワークを行い指導と修正・追加を加えながら実施した。診断指標は助産学実習で活用できる有効な教材であり、学生から高い評価を得た。（全120頁）
3 教育上の能力に関する大学等の評価 なし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項 (1) 摂南大学看護学部 「自衛保安隊」 (2) 常翔啓光学園高等学校1年生を対象とした思春期教室 (3) 摂南大学看護学部 「国家試験対策委員会」 (4) 摂南大学看護学部 「教務委員会」 (5) 摂南大学看護学部 「安全管理委員会」 (6) 摂南大学看護学部 「学修支援センター運営委員会」 (7) 西宮市保健所課内保健師研修会講演 テーマ「妊娠中から始める母と子の歌唱」	2016年4月～ 2018年4月に 「安全管理委員会」に名称 変更 2016年12月 2017年4月～ 2018年3月 2018年4月～ 2019年3月 2018年4月～ 2019年3月 2018年4月～ 2019年3月 2018年10月	同大学「自衛保安隊」に所属し、地区看護部隊の「避難誘導班」を担当し、年に2回の防災訓練の学生の誘導を実施した。摂南大学枚方キャンパス防火・防災管理委員会にて、防災訓練内容について検討した。 摂南大学看護学部への左記授業依頼について、1年生男女の生徒479人を対象として、思春期教室を実施した。演習を担当し、助産学実習室において、助産に必要な教材を紹介し、分娩時のケアや体験などを企画、運営した。 同大学「国家試験対策委員会」に所属し、看護師国家試験対策の計画、模擬試験準備、実施手続き、試験監督、下位学生への指導を実施した。主に、助産師課程学生対象の国家試験対策として、年間学習計画、模擬試験手配、国家試験の動向と内容の分析、学生の意欲向上への取り組み、面談、学生の成績分析と対策考案、国家試験対策用の補講準備と資料作成を実施した。 同大学「教務委員会」に所属し、看護学部看護研究Ⅰ・Ⅱの手引書の検討、発表会企画運営、学部履修要綱の検討・確認を、ワーキンググループとして実施した。委員会全体として時間割作成、履修ガイダンス計画、学習状況調査などの業務に関わった。 同大学、「安全管理委員会」に所属し、災害訓練の企画、運営を実施した。災害記録用紙内容の検討を行った。委員会全体では、学生情報の教職員間での共有方法について検討し、実施に至った。 同大学「学修支援センター運営委員会」に所属し、ランチタイムイングリッシュの運営を担当し、学生利用者の把握、推進、集計を実施した。委員会全体では、学修支援センターの運営についても同様に実施した。 西宮市保健所の依頼にて、西宮市保健所課内の保健師32名を対象に講演を行った。講演内容として「妊娠中からの歌唱の意義、胎児や乳児への影響、妊娠期の歌唱クラスと継続した歌唱の効果等」を担当した。

(8) 常翔啓光学園高等学校1年生を対象とした思春期教室	2018年12月	摂南大学看護学部への左記授業依頼について、1年生男女の生徒436人を対象として、思春期教室を実施した。思春期教室の企画・運営を行い、授業は「胎児の発育、妊婦体験、育児体験、分娩室体験」の内容に関する演習を担当した。
(9) 四天王寺大学看護学部「学生支援委員会」	2019年4月～ 2020年3月	四天王寺大学看護学部「学生支援委員会」に所属し、学生生活に関する支援（ロッカー割り当て、各期オリエンテーションの企画運営他）を実施した。また、1年生から行う国家試験対策ゼミの企画運営、成績分析、学習状況調査を実施し、学生への支援を実施した。
(10) 四天王寺大学看護学部「キャリア委員会」	2019年4月～ 2020年3月	同大学、「キャリア委員会」に所属し、就職情報等の設置、就職支援シンポジウムの企画運営を行い、1年生に対し支援を実施した。
(11) 四天王寺大学、四天王寺大学大学院 四天王寺大学「入試問題校正委員（英語）」、 四天王寺大学大学院「入試問題作成委員（英語）」	2019年4月～ 現在に至る	同大学、「入試問題校正委員（英語）」の委嘱を受け、業務に携わった。同大学大学院、「入試問題作成委員（英語）」の委嘱を受け、業務に携わった。
(12) 四天王寺大学 「基礎教育ワーキンググループ」	2020年4月～ 2021年3月	同大学、社会人基礎力向上のための基礎教育の在り方について、和の精神Ⅰ・Ⅱ、および大学基礎演習、キャリア教育について検討した。
(13) 四天王寺大学高等教育推進センター員	2021年4月～ 2022年3月	同大学、「高等教育推進センター」の委嘱を受け、構成員としてプレエントランスガイダンスや社会人基礎力の向上に必要な入学前教育について検討した。
(14) 四天王寺大学看護学部 「国試対策委員会」	2020年4月～ 2023年4月	同大学、「国試対策委員会」委員長として、新たに設置された委員会に所属し、委員会規程、委員役割・活動計画、国試対策ゼミの企画・実行・評価、業者講座と模試を実施、成績分析と評価を実施した。
(15) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 「FD・SD委員会」、学科「FD部会」	2023年4月～ 2025年3月	同大学、全学委員会と学科部会に所属し、全学および学科のFD研修の企画や運営に携わった。さらに、学科部会において、PROGテストの実施運営、地域住民を対象とした「健康フェスタ」の企画、運営に携わった。
(16) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 「実習ワーキング」	2023年4月～ 2024年3月	同大学、学科教務部会の実習ワーキングに所属し、実習配置、実習オリエンテーション、看護学臨地実習要綱印刷調整、臨地実習指導者を対象とした実習調整会議の企画、運営に携わった。
(17) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 「教務委員会」	2024年4月～ 現在に至る	同大学、学科教務委員会に所属し、教育課程、履修に関する事項、学生の試験、進級・卒業に関する事項、導入教育に関する事項、卒業研究に関する事項、課程選択に関する事項について業務に関わっている。
5 その他 摂南大学大学院看護学研究科 修士論文審査（副	2018年4月	摂南大学大学院看護学研究科にて、健康発達支援看

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格, 免許 (1) 看護婦免許 (2) 助産婦免許 (3) 新生児蘇生法「一次」コース インストラクター資格 (4) 日本助産評価機構「アドバンス助産師」 認定		1990年5月 1991年5月 2014年2月 2015年12月	第700131号 第94883号 J-14-34269 認証番号15-013271	
2 特許等 なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 なし				
4 その他 なし				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) なし (学術論文) 1.Effects of antenatal exercise on the quality of life in pregnant women: a literature review. (妊娠期のエクササイズによる妊婦のQOL: 文献 検討) 《筆頭論文》 (査読付)	共著	2017年3月	摂南大学看護学研究 5 巻1号 pp.37～47 摂南大学	本研究は、妊娠期に行う身体的エクササイズの 心理的効果のうち、QOLの向上への効果について 文献検討を行った。レビューは、Cochrane Handbook for Systematic Reviewに基づき国内 外の文献137件よりRCT9文献を抽出した。その うち2件はWHOQOL-BREFに関してメタアナリシス を実施した。9文献からエクササイズ実施後のQOL が有意に上昇した報告を認めたが、メタアナリ シスの結果から有意差がなかった。今後はQOLに 効果的なエクササイズの内容や介入方法などの 検討が必要である。(11頁) (共著者：宮本雅子、小神野雅子、松田佳子) 担当部分：文献収集、レビュー、統計分析、論 文執筆を担当した。共著者は、文献検索、文献 の抽出、妥当性検討、結果の妥当性検討を担当 した。
2. 妊娠中期以後の妊婦のケ アへの関心と気分・感情と の関連－POMS尺度を用いて－ 《筆頭論文》 (査読付)	共著	2017年6月	第47回日本看護学会論文 集 ヘルスプロモーション pp. 7～10 日本看護学会	本研究は、妊婦の肯定的感情を促進するケアに つなげるために妊婦の興味・関心のあるケア、 および妊婦自身が気分の変化への対処として実 施しているケアと気分・冠状との関連について 明らかにすることを目的として実施した。初妊 婦209名のうち、有効回答が得られた125名を分 析対象とした。その結果、心身症状として最も 多いのが「疲れやすい」であり、「妊婦体操・ ヨガ・呼吸法・リラックス法」などのケアに関 心を持っていた。「胎教や音楽」への関心も認 めた。エクササイズを行っている妊婦はPOMSの 「活気」因子が有意に高く、音楽鑑賞や歌唱す る妊婦は「疲労」因子が有意に低下した。今後 は、ケアの実施効果を研究することが課題と なった。(4頁) (共著者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、データ収集、共著者とと もに内容分析の実施、論文執筆を担当した。

3. 性別にみた高校生の性に関する理解と性教育の在り方の検討 (査読付)	共著	2017年6月	第47回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション pp. 40～43 日本看護学会	本研究は、高校1年生974名を対象に性に関する理解について思春期教室実施前後に質問紙調査を行い、847名の有効回答について分析した。その結果、思春期教室後の性に関する理解が高く、その効果に性差は認められなかった。パワーポイントを用いた講義後に、育児体験や出産体験・妊婦体験など演習が理解に対するうかをあげたといえる。その後の知識の定着については今後の課題となった。(4頁) (共著者：穂迫享子、但馬まり子、 <u>宮本雅子</u> 、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
(その他) 「研究報告書」 1. 科学研究費補助金基盤研究C [研究費]	共著	2017年4月～ 2022年3月	日本学術振興会	課題名：「妊娠早期からの主体的・継続的な出産準備教育による父親役割形成への効果」 研究経費：4,550千円 研究内容：妊娠早期からのケア内容の充実を図ることを目的とし、妊娠期の父親へのケア効果に関するシステムティックレビューを実施し、効果内容を明らかにする。日本における妊娠期の父親の妊娠・出産・育児への意識や父親役割意識について調査を行い、夫のニーズを把握し、教育プログラムを作成した。 (共同研究者：宮本雅子、小神野雅子、松田佳子) 担当部分：研究代表者、研究統括、研究計画、調査計画、調査の実施、データ入力、分析、学術集会、論文の発表。
2. 科学研究費補助金基盤研究C [研究費]	共著	2021年4月～ 現在継続中	日本学術振興会	課題名：「妊娠期から産褥期の母親による歌唱の胎児・新生児への愛着促進の効果」 研究経費：4,030千円 研究内容：妊婦自身の愛着体験により、胎児から継続して乳幼児期の愛着の変化について、妊娠期から産後にかけて行う歌唱により明らかにする。歌唱による心理変化として、妊婦や母親自身が感じる肯定的感情の変化、うつや不安などが軽減する効果があるのか、対照群と比較して検討する。本研究は、歌唱を母子愛着増進への助産ケアと位置付ける意義があると考えられる。 (共同研究者：宮本雅子、西頭知子、石上浩美) 担当部分：研究代表者、研究統括、研究計画、調査計画、調査の実施、データ入力、分析、学術集会、論文の発表。
「総説」 なし 「国際学会発表」 1. Changing of mood status following singing sessions among Japanese pregnant women. (日本人妊婦の歌唱セッションにおける気分の変化) [示説発表]	共著	2016年3月	The 19th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (千葉市)	日本人妊婦が歌唱を伴うセッションを経験することに伴う気持ちの変化について、MCL-S.2 (気分調査票—短縮版2) を使用し信頼性を評価した。88人の初産婦を分析対象として、MCL-S.2の3つの下位尺度について歌唱セッションの前後を比較した結果、セッション後に「快感情」「リラックス」因子は有意に高くなり、「不安感」因子は有意に低下した。さらに、MCL-S.2とPCS (妊娠期快適性尺度) の基準関連妥当性は「快感情」「リラックス」因子で中程度の正の相関を認めた。「不安感」因子はCronbach's α 係数が0.807と高い内的整合性を認めた。したがって、日本人妊婦が歌唱をすることにより快感情などの肯定的感情が高まる傾向を見出した。MCL-S.2は、日本人妊婦の歌唱の気分の変化について信頼できる指標であることが明らかになった。 (共同研究者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、データ入力、分析、学会抄録、発表原稿、資料の作成を担当。

2.Role of active sexual education in changing high school students' feelings towards oneself and others. (高校生の参加型性教育後の自他への感情の変化) 〔示説発表〕	共著	2016年3月	The 19th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (千葉市)	高校生の参加型性教育前後の性の知識と自他への感情を知ることが研究目的として、大阪府内の15～16歳の日本人高校生に、生命誕生と性のリスク予防の講義、子育て体験、性行動に関するラベルグループビギングの3つのコースを含む性教育を実施した。分析対象者は322人であった。教育後に、自分を尊重する感情が有意に高くなっていた(p = .000)。自分と同じように相手を大事に思う感情が有意に高くなっていた(p = .015)。肯定的な自他への感情は、高校生では性対処の能力につながると考える。性教育は、知識だけではなく参加し、命について考え表現することが大切である。 (共同研究者：宮本雅子、但馬まり子、赤井由紀子、山本智津子) 担当部分：研究計画、データ入力、分析、学会抄録、発表原稿、資料の作成を担当。
3.Sexual awareness and education of high school students. (高校生の性への認識と性教育) 〔示説発表〕	共著	2016年3月	The 19th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (千葉市)	性教育の示唆を目的として、1754人の高校3年生を分析対象として、高校生の性に関する知識について調査を実施した。性行為に対して、高得点の高校生は有意に「リラックスできる、感情を高める、愛情表現、喜び」と回答していた。一方、低得点の高校生は「性行為には関わっていない」と回答する傾向にあった。男子は、性行為に対し肯定的で多方面からの対処を受け入れるのに対し、女子は不快で痛いものと認識する傾向であった。性教育は、ジェンダーの相違を考慮し、女子では性を肯定的になれるよう適切な段階をふみながら実施することが必要である。 (共同研究者：赤井由紀子、中島敦子、但馬まり子、宮本雅子、名草みどり、山本智津子、穂迫享子、徳重あつ子、竹中泉、坂口京子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不妊期と産後の夫への助産介入に関する文献より、ケアによる心理効果や父親役割向上に関する効果について検討した。国内外の1680文献より8文献を抽出し、RCT4文献、質的研究4文献を分析し、質的に統合した。その結果、RCTからは妊娠早期から始める教育的介入は、夫の不安を軽減する効果があり、質的研究からは、多くの夫が十分な情報や知識が不足し、妊娠・出産・育児の場面にいても関わりを持っていないことが明らかになった。本文献検討から、夫への妊娠早期からのケア介入の必要性和、知識や父親役割遂行に必要な十分な知識提供が課題となった。 (共同研究者：宮本雅子、小神野雅子、松田佳子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、分析、学会抄録、発表原稿、ポスター作成を担当。
4.Father' s involvement during antenatal and postnatal periods: a systematic review of mixed study methods. (妊娠中と産後における父親の関わり：マルチメソッドにおけるシステマティックレビュー) 〔示説発表〕	共著	2017年3月	The 20th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (香港)	就労女性がダブルケアを両立するための支援について、日本の動向を知り、今後の研究課題を明確にするために文献検討を行った。医学中央雑誌より1999年～2015年の原著論文のうち、ダブルケアに関するものは0件であった。「就労女性」の「介護」と「子育て」に関する文献は14文献あり、これらの文献の評価方法、結果を年代別に整理した。その結果、就労女性が介護と子育てを両立するための支援へとつなげる知見が必要であるが、サンプル数も少なく、負担面に注目したものが多かった。今後、検討を加えていく必要があると考える。 (共同研究者：堀川尚子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
5.Problems relating to dual caring roles in working women in Japan. (我が国の就労女性のダブルケアに関する課題) 〔示説発表〕	共著	2017年3月	The 20th East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (香港)	

6.Positive effect of singing on pregnant women' s mood and feelings. (妊婦の歌唱による気分と感情の肯定的効果) 〔示説発表〕	共著	2017年6月	31st ICM Triennial Congress (カナダ／トロント)	本研究は、妊娠期における歌唱クラスと毎日の歌唱の継続による気分や感情の変化について調査することを目的とした。質的記述的研究を実施した。妊婦を対象とした90分の歌唱クラスを月に1〜3回実施し、5人の妊婦が参加した。その後約4週間の毎日の歌唱と記述を継続した。歌唱直後の記述データの分析から「快感情 (29)」、「リラクセス (17)」、「ストレス軽減 (12)」、「歌への意欲向上 (10)」、「胎児への関心 (8)」、「回顧 (4)」の6つの主なカテゴリが得られた。毎日の歌唱日記の分析から上記に加え「胎児への意識向上 (15)」、「活気 (8)」、「ストレスと疲労の軽減 (6)」の3カテゴリが新たに抽出された。本研究の結果より、妊娠期に歌唱することは妊婦の肯定的感情を高める可能性が示唆された。妊娠期の歌唱は、重要な助産ケアの質提供のアプローチとして考慮する必要がある。 (共同研究者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、分析、学会抄録、発表原稿、ポスター作成を担当。
7.Importance of Japanese midwifery education in assisting alternative birth positions on the second stage of labour. (分娩第2期の分娩体位に関する日本における助産師教育の重要性) 〔示説発表〕	共著	2017年6月	31st ICM Triennial Congress (カナダ／トロント)	本研究は、分娩第2期のフリースタイル分娩の介助に関する助産ケアの重要性に関して、日本における助産師教育の重要性について検討する。367人の助産師を対象に、2007年に自記式質問紙法による調査を実施した。フリースタイル分娩の介助は、1986年ごろの助産師学校卒業生より経験していた。フリースタイル分娩の介助を行っている施設の助産師のうち、助産師学生時代にフリースタイル分娩の教育を受けた経験の有無と、促進・導入の意思に有意差を認めた。産婦の分娩体位の選択を促進していくためには、助産師教育において仰臥位以外の分娩体位の理論と技術が必要とされる。 (共同研究者：宮本雅子、赤井由紀子、但馬まり子、穂迫享子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、分析、学会抄録、発表原稿、ポスター作成を担当。
8. A literature review of respiratory changes and singing in pregnancy(妊娠期における呼吸機能と歌唱に関する文献検討) 〔口頭発表〕	共著	2020年1月	The 23rd East Asian Forum of Nursing ScholarsEAFONS (タイ／チェンマイ)	本研究は、妊娠期における呼吸機能の変化と、歌唱時の呼吸機能と変化について、文献学的に検討し、妊婦が歌唱する場合の利点や問題点を明らかにすることを目的とした。電子データベース；医中誌、MEDLINE、CINAHLより検索した文献からテーマに関連する文献を28件抽出し、妊娠期の呼吸機能について3文献、歌唱時の呼吸機能と変化について3文献、妊婦の歌唱時の呼吸機能に関する文献2件（ケーススタディ）を分析した。その結果、妊娠期に歌唱を行うことで、肺活量に変化はなく、上昇する横隔膜により、吸気で胸部の前後左右に拡大すること、残気量が増えること、過呼吸発作を起こしにくいこと、オキシトシンの分泌により多幸感を得ることなどの利点があった。今後、妊娠期の歌唱を推進するための根拠となる結果を得ることができた。 (共同研究者：宮本雅子、町浦美智子、西頭知子) 担当部分：研究計画、文献検索、文献検討、学会抄録、発表原稿・資料作成を担当、
「国内学会発表」				
1. 妊娠中期以後の妊婦のケアへの関心と気分・感情との関連－POMS尺度を用いて－ 〔示説発表〕	共著	2016年11月	第47回 日本看護学会学術集会へ ルスプロモーション (津市)	本研究は、妊婦の肯定的感情を促進するケアにつなげるために妊婦の興味・関心のあるケア、および妊婦自身が気分の変化への対処として実施しているケアと気分・冠状との関連について明らかにすることを目的として実施した。初妊婦209名のうち、有効回答が得られた125名を分析対象とした。その結果、心身症状として最も多いのが「疲れやすい」であり、「妊婦体操・ヨガ・呼吸法・リラクセス法」などのケアに関心を持っていた。「胎教や音楽」への関心も認めた。エクササイズを行っている妊婦はPOMSの「活気」因子が有意に高く、音楽鑑賞や歌唱する妊婦は「疲労」因子が有意に低下した。今後は、ケアの実施効果を研究することが課題となった。 (共著者：宮本雅子、町浦美智子) 担当部分：研究計画、データ収集、共著者とともに内容分析の実施、ポスター作成を担当した。

2. 性別にみた高校生の性に関する理解と性教育の在り方の検討 〔示説発表〕	共著	2016年11月	第47回 日本看護学会ヘルスプロモーション (津市)	本研究は、高校1年生974名を対象に性に関する理解について思春期教室実施前後に質問紙調査を行い、847名の有効回答について分析した。その結果、思春期教室後の性に関する理解が高く、その効果に性差は認められなかった。パワーポイントを用いた講義後に、育児体験や出産体験・妊婦体験など演習が理解に対するうかをあげたといえる。その後の知識の定着については今後の課題となった。 (共著者：穂迫享子、但馬まり子、宮本雅子、赤井由紀子) 担当部分：共同研究につき本人担当部分抽出不可能。
3. 妊娠期から産褥期の母親による歌唱の胎児・新生児への愛着促進の効果 (1) 〔ラウンドテーブル〕	共著	2023年3月	第34回 日本発達心理学会 (大阪府)	本研究は、妊娠中期以後産後にかけて、子守歌やわらべうたなど子どもをイメージする歌を題材に、継続的に「歌いかけ」ることによる、母子間の愛着形成効果、および助産師などによる教育的支援の効果を明らかにすることを目的とした。妊娠期の出産準備教育における歌唱実践事例報告および研究計画経緯を発表したのち、歌唱行為の意義、歌唱と子育ての支援の関係について討論を行った。 (共著者：石上浩美、宮本雅子、西頭知子)
4. 母親の子どもへの「歌い聴かせ」による愛着促進効果について 〔ラウンドテーブル〕	共著	2023年11月	第35回 日本発達心理学会 (大阪府)	本研究は、産後の母親が子どもに「歌いかけ」る行為により、感情変化と母子間愛着形成について、現在継続中であるインタビュー調査結果を発表した。3名の母親の調査から、「歌い聴かせ」を行うことにより、子どもの反応から母子相互作用を示す行為が語られていた。また、子どもが肯定的反応を示すと母親も肯定的な感情が生じていた。今後は、母子間愛着形成との関連性について、量・質ともに研究を続行する。 (共著者：石上浩美、宮本雅子、西頭知子、入江眞理)
5. 育児期における母親の“歌い聴かせ”による愛着感情への影響と内的ワーキングモデル	共著	2024年10月	第65回 日本母性衛生学会 (宮崎市)	本研究は、子どもに歌い聴かせることによる母親の感情の変化が、愛着形成や過去の愛着体験と関連があるか探究することを目的とし、乳幼児の母親を対象に、インタビューおよびwebアンケート調査を実施した。インタビューでは、母親が「歌い聴かせ」により母子相互作用を感じたり、子どもの肯定的な反応により、共感的感情や子どもとの一体感をもっていること等が語られた。アンケート(分析対象31名)では、歌い聴かせの実施群と未実施群において愛着尺度に有意差はないが、内的ワーキングモデルの不安定型、回避型因子の点数に有意差があることが認められた。 (共著者：宮本雅子、石上浩美、西頭知子、入江眞理)

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書		
2025年 5月 1日		
氏名 森岡 朋子		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
地域老年看護学、社会福祉学、社会心理学	レジリエンス、認知症支援意識、認知症多職種協働、プログラム評価	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1 教育方法の実践例	2025年4月～	ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health, 国際生活機能分類) 概念を用いて在宅療養者とその家族の理解、多職種連携、社会資源の活用など、教授する。
1) 地域・在宅看護概論		
2) 地域・在宅看護援助論演習Ⅰ		
3) 地域・在宅看護援助論演習Ⅱ (広域支援)		
4) 地域・在宅看護援助論		
5) 地域・在宅看護実習		
6) 卒業研究		
7) 在宅看護学特論Ⅰ		
8) 在宅看護学特論演習		
1) 地域・在宅援助論Ⅰ	2022年4月～ 2025年3月	前任校において地域・在宅援助論Ⅰ、ボランティア論、ボランティア活動論、地域・在宅実習のシラバス担当者として授業や実習を展開した。これまでの臨地での経験と知見を活かし、在宅における多職種連携・多職種協働、地域住民との連携・協働について教授し、学生自らの思考を育むためにグループワークを取り入れた。また、南丹市社会福祉協議会と連携し、学生による地域活動の後方支援を行うとともに、大学の地域貢献に寄与した。
2) ボランティア論		
3) ボランティア活動		
4) 地域・在宅看護実習		
5) 健康支援実践特論(大学院)		
6) 卒業研究		
1) チーム医療論(主)	2019年4月～ 2022年3月	大学院では博士前期課程で健康支援実践特論のシラバスを担当し、オムニバスで複合課題を抱えた事例の支援方法について教授した。
2) ケアマネジメント論(主)		
3) 看護に活かす疾病Ⅴ(主) オムニバス		
4) 老年看護学方法論Ⅰ(主)		
5) 老年看護学方法論Ⅱ		
6) 老年看護展開論		
7) 老年看護学実習Ⅰ		
8) 老年看護学実習Ⅱ		
9) 看護研究(主)		
10) 高齢者ケア論		
1) 在宅看護学総論(主)	2018年4月～ 2019年3月	在宅看護学総論、在宅看護学演習、在宅看護学実習を担当。看護師としての実践能力向上を目的とし、地域包括ケアにおける多職種協働・連携の理解、制度の運用と方法、療養者を全人的にアセスメントできる能力を得るために、具体事例を通じた学習方法を行い、理解を深める教育に務めた。また、国が進めている多職種協働研修「認知症ライフサポート研修」などを教材に使い、認知症施策の理解を深め、実践的な人材育成に向けた取組を行った。
2) 在宅看護学演習		
3) 在宅看護学実習(主)		
4) 研究方法論(主)		
5) 卒業論文指導(主)		
6) 統合実習		
7) 基礎看護学Ⅱ実習		
8) 基礎セミナー1		
9) 老年看護学実習		
2 作成した教科書、教材		
隅田好美、藤井博志、黒田研二編集：「よくわかる地域包括ケア」、ミネルヴァ書房、2018	2018年	分筆 「認知症の人を支える政策」 「認知症の人の生活支援」 「認知症の人を支えるための地域づくり」
高齢者虐待対応ソーシャルワークモデル実践ガイド	2010年	高齢者虐待対応マニュアル。(市町村向け) テキストの事例、内容を授業の中で使用している
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
明治国際医療大学	2024年	学生評価5段階 4.71～4.94
関西医療大学	2021年	学生評価5段階 3.67～4.46
	2020年	学生評価5段階 3.64～4.01

4 実務の経験を有する者についての特記事項			2009年～2016年	大阪市南エリア認知症連携担当として、大阪市立大学附属病院（当時）認知症の医療と介護の連携強化するため、認知症対策連携強化事業を実施。認知症介護研究・研修東京センターにモデルケースとして紹介され、全国に向けて取り組みを紹介する。
5 その他				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項			年月日	概 要
1 資格、免許				
看護師免許			1988年3月	学士(看護学)看護師免許
宅地建物取引主任			1992年10月	宅地建物取引主任 資格
介護支援専門員			1999年7月	介護支援専門員資格
社会福祉士			2000年3月	学士(社会学)社会福祉士免許
ケアマネジメントリーダー			2004年9月	ケアマネジメントリーダー
医療的ケア教員			2017年6月	医療的ケア教員
健康学修士			2018年3月	修士（健康学）
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
認知症地域支援推進員活動の手引き			2018年	認知症介護研究・研修東京センター作成、全国の市町村のための手引書。厚生労働省ホームページで紹介。
認知症の人の受診のための連携シート②の開発			2011年	大阪市認知症初期集中支援チーム、寝屋川市、廿日市市など、全国で使用。多職種協働教育で使用。下記の手引書を作成 認知症のステージによる“認知症の人の受診のための連携シート②” 活用法/認知症の人の受診のための連携シート活用のすすめ
地域における認知症の人と家族の支援～地域包括支援センターと諸機関との連携を目指して～			2014年	大阪ガスグループ福祉財団助成を活用。地域包括支援センターの困難事例と対処法を示した事例集。教材に利用している
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1よくわかる地域包括ケア・認知症の人を支えるための政策（P118、P119） ・認知症の人の生活支援（P126、P127） ・認知症に人を支えるための地域づくり（P128、129）	共著	2018年	ミネルヴァ書房	編著：隅田好美、藤井博志、黒田研二。共著：朝井政治、井上誠、岩木三保、榎田恵子、小原真知子、加藤亜紀子、川井太加子、川田明広、衣笠一茂、木村有子、木村成志、兒玉雅明、後藤至功、小森哲夫、佐瀬美恵子、佐藤寿一、佐藤美穂子、柴田由美、島内節、中尾正俊、中山優季、西澤正豊、針山大輔、春名由一郎、福島正義、福田由紀子、藤井由記代、藤本直規、堀川楊、本間武蔵、松下啓子、水上然、御牧由子、室谷牧子、◎森岡朋子、山口健太郎、山崎恭子、吉野亮子
2. 高齢者虐待対応ソーシャルワークモデル実践ガイド 第9章帳票の解説P200-226、 第10章事例P228-285を担当	共著	2010年	中央法規	共著者：青木佳史、池田恵利子、上釜光輝、大石剛一郎、川端伸子、菊池和則、多々良紀夫、谷川ひとみ、土屋典子、山田祐子、吉岡亨祐、和田忠志、高橋伸子、田村満子、村上明子、◎森岡朋子

3. ふれあいケア 特集 認知症への理解を深める 医療・介護・福祉の連携 に向けた取り組み：平成 21年からの実践報告 (学術論文)	単著	2014年	全国社会福祉協議会	森岡朋子
地域包括支援センター看 護職と訪問看護師におけ る在宅認知症ケアの困難 感；陰性感情を伴う困難 感とレジリエンス	共著	2025年	高齢者虐待防止研究 第21巻1号 40-53	森岡朋子 大西次郎
対面型認知症ライフサ ポート研修のオンライン 化の試み；事前・事後の 質問し調査から	共著	2023年	日本認知症ケア学会誌 第22巻3号 564-574	森岡朋子 大西次郎
ホワイトボード機能を用 いた認知症ライフサポー ト研修のオンライン化； 対面型の従来研修経験者 に対する試行から	共著	2023年	日本認知症ケア学会誌 第21巻4号 564-575	森岡朋子 大西次郎
フィットネスクラブ高齢 者会員の身体機能評価と 口腔機能評価	共著	2021年2月	社会問題研究 第70巻 13-23	隅田好美、頭山高子、朝井政治、田中健一 朗、 森岡朋子、大西 愛、黒田研二
認知症地域支援業務を推 進する要因：レジリエン ス・燃え尽き・ネット ワークに注目して	共著	2018年4月	関西大学大学院人間健 康研究科論集 第1巻 66-82	森岡朋子、黒田研二
認知症ライフサポート研 修受講による「認知症支 援意識の変化について」	共著	2018年2月	日本認知症ケア学会誌 第16巻4号 791-801	森岡朋子、黒田研二
認知症の地域包括ケア体 制の構築について 認知 症対策連携強化事業にお ける医療・介護・福祉・ 地域の連携に向けた取組 み～平成21年度からの実 践と考察～	共著	2015年12月	大阪市社会福祉研究第 38号	森岡朋子、野田美津子、江川紀子
地域包括支援センター職 員の認知症支援業務の実 施状況と認知症に関連す る知識との関係	共著	2015年10月	日本認知症ケア学会誌 第14巻3号 667-678	水上然、黒田研二、佐瀬美恵子、森岡朋 子、室谷牧子、田中園代
地域包括支援センターと 諸機関の連携による認知 症支援の現状	共著	2013年	大阪ガスグループ福祉 財団26 123-129	黒田研二、水上然、森岡朋子、室谷牧子、 田中園代、佐瀬美恵子
マイケアプランをめぐる 在宅介護支援センターの 実践	共著	2012年	大阪市社会福祉研究第 25号 72-83	植村利弘、森岡朋子、安藤勉
(その他) 修士論文 認知症の人の地域支援体 制構築に向けたプログラ ムの評価；認知症地域支援 業務を推進する要因と認 知症ライフサポート研修 効果検証	単著	2018年	関西大学大学院人間健 康研究科	森岡朋子 指導教員 黒田研二

教 育 研 究 業 績 書

令和 7 年 3 月 31 日

氏名 井上 葉子

研 究 分 野		研究内容のキーワード
地域看護学		公衆衛生看護、在宅看護
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
奈良学園大学における授業実践	平成 27 年 9 月～ 現在に至る	奈良学園大学で学生が看護実践をイメージできるように映像教材や実際の事例等を用いた授業を行っている。ICT機器活用による教育プログラムの実践（オンライン授業と対面式授業の併用）や、グループ活動を活用し、学生の理解力等が深まるように工夫を重ねている。また参加型・体験型の授業展開を中心とする学習形態を取り入れることや具体的事例を基に考えさせる実践的授業展開を心がけることで、学生の看護実践力・理解力を深めることができた。さらに、今まで継続してきた、毎時間学生に授業の感想を含む、小テストやレポートを実施し、次の週には学生全員に教師のコメント等の評価をフィードバックすることで、学生一人一人に適した双方向での個別指導も重ねている。
2 作成した教科書、教材		
成人看護実習Ⅰ（急性期・周手術期）実習記録用紙ガイドライン	平成 29 年 4 月	成人看護学Ⅰ（急性期・周手術期）において、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習内容と方法、思考過程、記録をする際の留意点などについてまとめた冊子を作成した。
成人看護学の動画教材：「一次救命（病室編）」、「一次救命（廊下編）」、「段階的離床」	平成 29 年 11 月	成人看護学の学内演習・臨地実習時のイメージがつくように、心肺蘇生法、AED の使用方法、緊急時の協力要請、手術後の段階的離床についての動画教材を作成した。
健康保育学演習（家庭看護実習含む）ワークシート	令和 2 年 3 月	大阪教育大学で開講している健康保育学演習（家庭看護実習を含む）において、人間の健康の概念をふまえて子どもの成長発達と生活を理解し、家庭と集団保育の場で必要な知識と技術について具体的な学習内容についてまとめた冊子を共同で作成した。 著者名：関谷まり・井上葉子

健康教育用動画教材：「笑って健康に ラフターヨガ」	令和 2 年 12 月	保健師の保健活動の一つである健康教育用のデジタル教材として、「ラフター（笑い）ヨガ」の楽しみ方、注意事項、始まりと終わり、セッション例をわかりやすく伝達できるよう工夫して作成した。
奈良学園大学 公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健） 実習要項	令和 3 年 3 月～ 現在に至る	専門科目「公衆衛生看護学実習Ⅱ（学校保健）」（4 年次配当）で、科目責任者として実習目的、実習目標、具体的な学習内容と方法などについてまとめた冊子を作成した。
バーチャルリアリティ教材：校内巡視の実際	令和 3 年 6 月	全天球カメラ「RICOH THETA」（株式会社リコー）を用いて実習校内を撮影し、①校門・玄関・各教室、②手洗場・トイレ、③体育館・運動場・足洗場、④保健室の 4 種類を各 5 分程に編集し作成している。臨地実習で体験する学校環境衛生活動の一環である校内巡視の経験を補完するための教材として作成し、校内巡視のポイントと観察する視点と方法を学校現場に居るような感覚を持って繰り返し学習できるものとなっている。
動画教材：乳児家庭訪問と身体計測	令和 3 年 9 月	保健師が行う乳児家庭訪問の方法について、コミュニケーション、情報収集、身体計測、保健指導を具体的に理解でき、看護技術の習得ができるよう工夫した動画教材を作成した。
動画教材：「キラリ☆多奈良の保健師」	令和 3 年 10 月	奈良県看護協会ならびに奈良県看護協会保健師職能委員会と本学との共同で、奈良県下で活躍する保健師の活動を紹介する PR 動画を制作した。保健師の仕事の魅力とやりがいについて、学生や一般の方にもわかりやすく伝えることができるよう、写真や音楽等を工夫して作成した。
動画教材：「保健師を目指すあなたへ」	令和 3 年 10 月	奈良県看護協会ならびに奈良県看護協会保健師職能委員会と本学との共同で、奈良県下で活躍中の現役保健師 2 名のインタビュー動画を制作した。保健師の仕事の魅力とやりがいについて、学生にわかりやすく伝えることができるよう工夫して作成した。
動画教材：「在宅療養生活を送る難病患者と家族-ALS 患者 N さんと家族の暮らし-」	令和 4 年 11 月	在宅で療養生活を送っている ALS 患者と家族へのインタビュー動画を制作した。①PC や文字盤を用いたコミュニケーション方法、②胃瘻の管理と経管栄養の方法、③リフトを用いたベッドから車いすへの移動の様子、④病に関する本人と家族の思いの 4 種類を制作した。学生が

		難病の対象と生活についてわかりやすく理解できるよう工夫して作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
奈良学園大学 FD・SD 委員会	令和2年4月～令和3年3月	2020 年度授業アンケートでは、話の聞き取りやすさ、説明の分かりやすさ、資料の分かりやすさ、学生の理解度を確認しながら授業を進める、授業時間の有効活用、授業の満足等において「そう思う」「ややそう思う」との回答であった。単独での講義実施だったため、自信につながった。
奈良学園大学 FD・SD 委員会	令和3年4月～令和4年3月	2021 年度授業アンケートでは、話の聞き取りやすさ、説明の分かりやすさ、資料の分かりやすさ、学生の理解度を確認しながら授業を進める、授業時間の有効活用、授業の満足等において「そう思う」「ややそう思う」との回答であった。
奈良学園大学 FD・SD 委員会	令和4年4月～令和5年3月	2022 年度授業アンケートでは、話の聞き取りやすさ、説明の分かりやすさ、資料の分かりやすさ、学生の理解度を確認しながら授業を進める、授業時間の有効活用、授業の満足等において「そう思う」「ややそう思う」との回答であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 28 年度研修会	平成 28 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 28 年度研修会「乳幼児の運動発達の観察のポイントと支援」開催において委員として、研修の企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 28 年度交流会	平成 28 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 28 年度交流会「思春期保健対策～若年妊婦へのアプローチを考える～」開催において委員として、研修の企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 29 年度研修会	平成 29 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 29 年度研修会「妊産婦のメンタルケアの重要性～チームでの育児支援～」開催において委員として、研修の企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 29 年度交流会	平成 30 年 2 月	日本看護協会による平成 29 年度保健指導支援事業保健指導ミーティング開催にあたって、委員として、奈良県保健予防課、保健所、保健セ

		ンターと協力し、企画、運営を担当した。
日本看護協会平成 29 年度保健指導支援事業 奈良県看護協会「保健指導ミーティング」事例検討会 ファシリテーター	平成 30 年 2 月	日本看護協会による奈良県下の新人保健師を対象にした研修会「平成 29 年度保健指導支援事業保健指導ミーティング」において、事例検討会のファシリテーター役として、保健指導ミーティング（事例検討会）参加者の新人保健師の意見が活発にできるように雰囲気作りやきっかけ作りに努め、とても勉強になったとの参加者の感想が聞かれた。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 30 年度研修会	平成 30 年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による平成 30 年度研修会「各々の力を発揮できる子育てネットワークを考える～専門職それぞれの強み・弱みをふまえた支援の在り方～」開催において委員として、研修内容の企画、講師との調整、運営を担当した。 参加者からは、看護職それぞれの支援の方向性や取り組みが聞けてよかった等の感想が聞かれた。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 平成 30 年度交流会	平成 30 年 11 月	日本看護協会による奈良県下の現任保健師を対象にした研修会「平成 30 年度保健指導支援事業保健指導ミーティング」開催にあたって、委員として、奈良県保健予防課、保健所、保健センターと協力し、企画、運営を担当した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 令和元年度研修会	令和元年 9 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による令和元年度研修会「育てにくさを抱えた親子への包括的支援～ダウン症児の赤ちゃん体操を通して考える療育支援～」開催において委員として、研修内容の企画、講師との調整、運営を担当した。 参加者からは、親と子への支援の在り方や実際の取り組みが聞けてよかった等の感想が聞かれた。
生駒市立生駒北小中学校育友会 保護者交流会 講師	令和元年 6 月	小中学校 PTA 活動の一環として保護者を対象にした文化交流活動「ラフターヨガ教室」の講師役を担い、笑いと健康づくりの講話とラフターヨガの実践を行った。

奈良県健康推進課主催 令和元年度保健指導ミーティング ファシリテーター	令和元年 11 月	令和元年 11 月奈良県主催の奈良県下の現任保健師対象の研修「令和元年度保健指導ミーティング」においてファシリテーター役を務め、グループワークによる保健師のアセスメント力向上に向けた支援役を担った。
奈良県看護協会 保健師職能委員会 令和元年度交流会	令和元年 12 月	奈良県看護協会 保健師職能委員会主催による令和元年度交流会「私の保健師だから～保健師の楽しさ再発見～」開催にあたって企画、講師依頼、運営を担当し、行政、産業等職域を越えたネットワークづくりを目指して活動した。
令和 2 年度奈良県看護学会 座長	令和 2 年 12 月	令和 2 年 12 月 8 日 奈良県橿原市で開催の令和 2 年度奈良県看護学会の演題発表第 1 群の座長役を担った。
介護予防講座「元気アップなら講座」講師	令和 3 年 11 月	奈良市二名地域包括支援センターが主催する介護予防講座「元気アップなら講座」において、地域の高齢者を対象にテーマ「笑い与健康」の講演を行った。参加者 42 名に笑い与健康づくりの講話とラフターヨガの実践を行った
志賀直哉旧居 奈良学園公開文化講座 講師	令和 5 年 11 月	学校法人奈良学園志賀直哉旧居が主催する奈良学園公開文化講座の講師として「笑い与健康」の講演とラフターヨガの実践を行った
フレイル予防教室 講師	令和 5 年 11 月	大和郡山市第三地域包括支援センターが主催するフレイル予防教室「健康長寿ための健康づくり講座」において、地域の高齢者を対象にテーマ「ラフターヨガで楽しくエクササイズ」の講演を行った。参加者 30 名に笑い与健康づくりの講話とラフターヨガの実践を行った。
2024 年度難病ピアサポーター養成講座修了生スキルアップ研修会「難病患者の心のサポートについて」講師	令和 6 年 10 月	特定非営利活動法人 奈良難病連主催の奈良県郡山総合庁舎で開催された「2024 年度難病ピアサポーター養成講座修了生スキルアップ研修会」において「難病患者の心のサポートについて」の講演を行った。
奈良難病連 2024 年度難病ピアサポーター養成講座修了生スキルアップ研修会「振り返り講座」講師（2024 年）	令和 7 年 1 月	特定非営利活動法人 奈良難病連主催の奈良県郡山総合庁舎で開催された「2024 年度難病ピアサポーター養成講座修了生スキルアップ研修会」において、難病ピアサポーターの方がピアサポート活動を振り返りスキルアップするためのファシリテーターとまとめの講師役を担った。
奈良県難病相談支援センター 「令和 6 年度 難病交流会」講師	令和 7 年 2 月	奈良県内の難病の患者が集う「難病交流会」でのアドバイザー役を担い、患者同士の交流とピ

		アサポート活動の意義等を紹介し交流会の進行がスムーズに行うよう努めた。
5 その他 奈良学園大学 平成 28 年度課程選択履修者選抜問題作成委員	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 3 月	保健医療学部看護学科看護師・保健師課程選択履修者選抜問題作成を担当し、作問、作問審議等の任を担った。
奈良学園大学 平成 28 年度課程選択履修者選考資料作成委員	平成 27 年 10 月～ 平成 28 年 3 月	保健医療学部看護学科看護師・保健師課程選択履修者選抜試験における採点、採点結果一覧表等の資料作成、選考会議に向けた原案作成等の任を担った。
奈良学園大学 平成 30 年度課程選択履修者選考資料作成委員	平成 29 年 11 月～ 平成 30 年 3 月	保健医療学部看護学科 看護師・保健師課程選択履修者選抜試験における採点、採点結果一覧表等の資料作成、選考会議に向けた原案作成等の任を担った。
奈良学園大学 2019 年度看護師・保健師課程選択者選抜試験実施委員	平成 30 年 12 月～ 平成 31 年 3 月	保健医療学部看護学科 2019 年度看護師・保健師課程選択者選抜試験の実施及び選考資料作成の任を担い、作問における採点、採点結果一覧表等の資料作成等を行った。
奈良学園大学 看護師・保健師課程選択者選考委員	令和 1 年 12 月～ 現在に至る	保健医療学部看護学科看護師・保健師課程選択者選考の任を担い、選考、作問、作問審議、採点、採点結果一覧表等の資料作成等を行った。
令和 6 年度奈良学園共同研究第 2 回研修会	令和 6 年 7 月 22 日	学園共同研究（「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅲ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化－）の第 2 回研修会において事例発表での関係部分に関するテキスト研修の講師役を担った。
奈良学園大学 令和 6 年度ハラスメント防止に係る教職員研修会 講師	令和 6 年 10 月 30 日	『いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム』の開発に関する研究（奈良学園共同研究）の視点から考えるハラスメント防止策をテーマに教職員を対象とした研修会の講師役を担った。
令和 6 年度奈良学園共同研究第 3 回研修会	令和 7 年 1 月 17 日	学園共同研究（「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅲ－『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化－）の第 3 回研修会において「開発的カウンセリング技法」に関するテキスト研修の講師役を担った。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許 看護師免許	平成 4 年	

	5 月 13 日	
養護教諭一種免許	平成 6 年 3 月 31 日	
保健師免許	平成 6 年 5 月 19 日	
第一種衛生管理者免許	平成 6 年 8 月 10 日	
受胎調節実地指導員免許	平成 8 年 2 月 24 日	
修士（学術）	平成 25 年 3 月 22 日	大阪教育大学 第 109702 号 修士論文題「看護専門学校学生の生活経験からみた看護技術力に関する研究 ―療養上の世話に関する看護技術に着目して―」
Laughter Yoga Leader	平成 29 年 6 月 11 日	
日本心理学会 認定心理士	平成 30 年 4 月 21 日	
Laughter Yoga ambassador	令和元年 7 月 5 日	
思春期保健相談士	令和 6 年 1 月 8 日	
2 特許等		
特記事項無し		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
奈良県看護協会 ナースセンター事業推進委員	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	奈良県看護協会ナースセンター推進委員として看護職の復職支援、看護学校ガイダンス、看護職の PR 活動に従事した。
奈良県看護協会 保健師職能委員会委員	平成 28 年 4 月～ 令和 2 年 3 月	奈良県看護協会保健師職能委員として研修会の企画、保健師職のネットワーク作りに活動している。
生駒市 PTA 協議会 理事	平成 29 年 4 月～ 令和元年 6 月	理事として生駒市内の教育について他の理事や役員とともに話し合い、よりよい教育を目指し活動した。
奈良県看護協会 奈良県看護学会委員会 副委員長	令和 2 年 4 月～ 令和 3 年 3 月	奈良県看護協会 常任委員会 教育研究委員会の下部組織である奈良県看護学会委員会の副委員長として学会の運営活動に携わった。
奈良県看護協会 奈良県看護学会委員会 委員長	令和 3 年 4 月～ 令和 4 年 3 月	奈良県看護協会 常任委員会 教育研究委員会の下部組織である奈良県看護学会委員会の委員長として学会の運営活動に携わった。
4 その他		

令和３年度奈良県看護協会会長表彰		令和３年４月		保健師として「長年にわたる看護業務の遂行ならびに奈良県看護協会活動に貢献し、看護教育・学術研究に顕著な功績があった者」として奈良県看護協会より表彰された。	
令和３年度奈良県看護功労者知事表彰		令和３年４月		奈良県において長年にわたり看護業務に精励し、顕著な功績があった者として奈良県知事より表彰された。	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項					
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概	要
(著書)					
1 2018 年看護師国家試験対策要点がわかる出題傾向がみえる在宅看護論	共著	平成 29 年 12 月	株式会社ピラールプレス	看護師国家試験科目の「在宅看護論」について、看護師国家試験出題基準の中項目に基づいた要点編と過去問題編の２部構成とし、過去問の要点の学びから知識を広げたり深めたりしながら、看護師国家試験合格のための学力向上の支援が図れるものとなっている。 担当部分：目標Ⅰ 在宅における安全と健康危機管理 p22-p24、目標Ⅱ 4 在宅療養生活を支える看護（食事・栄養、排泄、清潔、移動） p35-p37、目標Ⅲ 6 在宅療養において特徴的な疾病がある療養者への看護（小児、難病） p42, p45、7 在宅における医療管理を必要とする人と看護（膀胱留置カテーテル、褥瘡管理）p48, p51-p52 守本とも子監修、安藤邑恵編著、川口ちづる、 <u>井上葉子</u>	

2 出題基準平成 30 年版 準拠 2021 年出題傾向がみ える看護の統合と実践 中項目別にみた要点と解 説付過去問題集 予想問 題・第 98 回～第 109 回看 護師国家試験問題収録	共著	令和 2 年 8 月	株式会社ピラールプレ ス	看護師国家試験科目の「看護の統合と実 践」について、看護師国家試験出題基準 の中項目に基づいた過去問題と過去問 の要点の学びから知識を広げたり深め たりしながら、看護師国家試験合格のた めの学力向上の支援が図れるものとな っている。 担当部分：②災害と看護 p35-41, p75-80、 監修：守本とも子、編著：三浦康代 執筆：三浦康代、 <u>井上葉子</u> 、佐藤郁代
3 出題基準平成 30 年版 準拠 2021 年出題傾向がみ える健康支援と社会保障 制度 中項目別にみた要点と解 説付過去問題集 予想問 題・第 97 回～第 109 回看 護師国家試験問題収録	共著	令和 2 年 10 月	株式会社ピラールプレ ス	看護師国家試験科目の「健康支援と社会 保障制度」について、看護師国家試験出 題基準の中項目に基づいた要点編と過 去問題編の 2 部構成とし、過去問の要点 の学びから知識を広げたり深めたりし ながら、看護師国家試験合格のための学 力向上の支援が図れるものとなってい る。 担当部分：⑧公衆衛生における感染症 p76-91, p161-162、 ⑩母子保健 p90-92, p168-169、難病保健 p101-102, p175-176、 ⑪生活者の健康増進 p103-112, p177-182 監修：守本とも子、編著：三浦康代 執筆：三浦康代、芝田ゆかり、 <u>井上葉子</u> 、 佐藤郁代、松村あゆみ、齋藤英夫

4 看護師国家試験直前 社会福祉学領域ファイナルチェック	共著	令和3年 3月	株式会社金芳堂	看護師国家試験科目の「社会福祉学」領域について、看護師国家試験出題基準に沿った内容構成で、看護師国家試験合格のための学力向上の支援が図れるものとなっている。 担当部分：社会保障制度の動向 p14-p16、民生委員・児童委員とは p30-p31 星野政明監修、守本とも子・富永堯史編著、執筆：井上昌子、<u>井上葉子</u>、小林由里、齋藤英夫、佐藤郁代、芝田ゆかり、高橋寿奈、田場真理、中馬成子、辻下守弘、富永堯史、西出順子、西本美和、野口寿美子、松居典子、松浦純平、三浦康代、美甘祥子、守本とも子、吉水清、吉村雅世
(学術論文)				
1. 避難生活体験とポスターセッションを取り入れた学内演習の実践と評価—生活環境を主体的に理解することを目指した在宅看護論の授業展開—	共著	平成28年 1月	大阪教育大学家政学研究会「生活文化研究」第53巻、P57～67	短期大学看護学専攻学生2年生122名を対象にした、在宅看護論の学内演習での避難生活環境の体験演習の学習効果と、体験演習の学習のまとめとしてポスターセッションを活用したことによる共同学習の効果と課題を検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：関谷まり・<u>井上葉子</u>・碓田智子
2. 訪問看護ステーション実習での看護計画立案による学習効果について—実習目標の到達度の比較からの分析— (査読付)	共著	平成28年 4月	第46回日本看護学会論文集 看護教育 P23～26	3年課程の看護専門学校3年生36名を対象に、訪問看護ステーション実習において、看護計画立案の有無によって学習効果に違いがあるかどうかを質問紙調査の結果から比較検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：西村和子・田村和子・<u>井上葉子</u>・松村あゆみ・北畠昭弥・北出千春
3. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業の学習効果【第1報】—授業振り返りシートの分析から— (査読付)	共著	平成30年 2月	第48回日本看護学会論文集 看護教育 P3～6	在宅看護論において実践したモデル授業「難病患者の職業生活を支援する看護」について、授業振り返りシートの記載内容を分析し難病患者の就労支援の内容を看護基礎教育に組み入れたことによる学習の効果を検討した。

				担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：西村和子・<u>井上葉子</u>・松村あゆみ
4. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業の学習効果【第2報】一クローン病の事例を用いたワークシートの分析から— (査読付)	共著	平成30年 2月	第48回日本看護学会論文集 看護教育 P7～10	看護専門学校2年生の学生を対象に在宅看護論の授業で『職業生活を支援する看護』のモデル授業での難病患者のクローン病患者の事例ワークシートの分析から学生が難病患者の生活について就労を含めた視点で理解することについての学習効果について検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：松村あゆみ・<u>井上葉子</u>・西村和子
5. 臨地実習における看護学生のストレスとレジリエンスについての実態 (査読付)	共著	平成30年 2月	第48回日本看護学会論文集 看護教育 P75～78	看護専門学校学生2年生を対象に時期の異なる2つの臨地実習前後で調査した、気分プロフィアル検査(POMS2)とストレス自己統制評定尺度(SSI)の2つの調査結果を基に、学生個別のストレス反応とレジリエンスの状態の変化を把握し、学生個々への適切な介入方法の必要性について検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：山崎陸世・平山亜矢子・<u>井上葉子</u>・丸田裕子・高原 恵・後藤 恵・岡田和江・葦原佐衣・加納由紀子
6. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業の学習効果【第3報】一闘病記の感想文の分析から—	共著	平成30年 3月	奈良学園大学紀要 第8集 P13～19	在宅看護論において実践したモデル授業「難病患者の職業生活を支援する看護」の課題としての、難病患者による就労についての闘病記を読んでの感想文の分析から教材として闘病記を用いたことによる学習の効果を検討した。担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：<u>井上葉子</u>・西村和子・松村あゆみ・奥西志穂・駒井由美子・大谷未来

7. 臨地実習における看護学生レジリエンス育成に関する文献研究（査読付）	共著	平成 31 年 2 月	第 49 回日本看護学会論文集 看護教育 P75～78	臨地実習における学生のレジリエンス育成に関する文献検討を行い、個別支援のあり方について検討した。担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：山崎陸世・ <u>井上葉子</u> ・平山亜矢子・葦原佐衣・後藤 恵
8. 2019 第 22 回東アジア看護学研究者フォーラムの報告（Ⅱ）－炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する文献検討－ A Report on 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019 Part 2 –Study of literature on life skills that focus on eating habits of patients with inflammatory bowel disease－	共著	令和元年 9 月	奈良学園大学紀要第 11 集 P207～210	炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する研究の動向を明らかにし、支援方法のあり方について検討した。炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する研究の動向を明らかにし、支援方法のあり方について検討した。 著者名： <u>井上葉子</u> ・芝田ゆかり・吉水清・三浦 康代
9. 2019 第 22 回東アジア看護学研究者フォーラムの報告（Ⅰ）～文献検討による女性の身長短縮に関連する因子および因子間の関連～ A Report on 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) Conference 2019 (Ⅰ) ～Association among the factors in conjunction with Height Loss of females by the literature review～	共著	令和元年 9 月	奈良学園大学紀要第 11 集 P211～215	身長短縮を予防するための身長短縮に関連する因子とその因子間の関連について検討した。身長短縮を予防するための身長短縮に関連する因子とその因子間の関連について検討した。 著者：三浦 康代・芝田 ゆかり・吉水清・ <u>井上 葉子</u>

10. 療養者の生活への視点をもった技術習得のための看護技術教育の実践と評価—ベッドメイキング技術に着目して—	共著	令和2年 3月	大阪教育大学家政学研究会「生活文化研究」 第57巻, P1~10	A大学看護学科1年生91名を対象にしたベッドメイキングの看護技術試験での評価に関して学生の自己評価と教員評価の比較から技術習得を左右する要因について検討した。 担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者名：関谷まり・井上葉子・碓田智子
11. 要介護者が暮らす住環境を理解することを目指した住居の見取り図作成による学習効果の検討 (査読付)	共著	令和2年 3月	医療福祉情報行動科学研究 vol.7 P11~16	短期大学看護学専攻学生2年生115名を対象にした、在宅看護論の学内演習での要介護者が暮らす住居の見取り図の作成と見取り図を用いたポスターセッションを活用したことによる学習効果と課題を検討した。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。 著者：井上葉子・西村和子・松村あゆみ
12. 看護教員の難病患者の就労支援に対する意識に関する研究 (査読付)	共著	令和3年 3月	日本保健医療行動科学会雑誌 第35巻 第2号 P23-29	看護教員129名を対象にした質問紙調査から、難病患者の就労支援についての教育の実情を明らかにし、難病患者の就労支援を教育に取り入れる上での課題について検討した。担当の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 著者：井上葉子・松村あゆみ・内田勇人
13. 難病患者の就労に関する闘病記による学生の学び —学生の感想文の分析から— (査読付)	共著	令和3年 3月	医療福祉情報行動科学研究 vol.8 P115~121	公衆衛生看護学方法論Ⅰにおいて実践したモデル授業「難病患者の職業生活を支援する看護」の課題として、難病患者の就労についての闘病記を読んだ学生の感想文の分析から教材として闘病記を用いたことによる学習の効果を検討した。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。 著者：井上葉子・西村和子・内田勇人

14. 乳児と母の模擬患者を活用した乳児家庭訪問演習での学生の学び（査読付）	共著	令和6年 12月	医療福祉情報行動科学研究 vol. 11 (49 頁-55 頁)	乳児と母の模擬患者を活用した乳児家庭訪問演習後の感想文の内容分析を行い学生の学びを検討し、乳児と母の模擬患者の活用により家庭訪問における保健師の役割を再認識し今後の学習意欲の喚起につながることを示した。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。担当執筆の箇所については、共同研究につき抽出は不可能。 共著者：井上葉子・松浦尚子・西村和子
15. 看護専門学校における難病看護の教育の現状—難病患者の就労支援に着目して—（査読付）	共著	令和6年 12月	医療福祉情報行動科学研究 vol. 11 (3 頁-10 頁)	看護専門学校における難病看護教育の現状と難病患者への就労支援の内容を授業で教授する上での課題を検討した。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。 共著者：井上葉子・関谷まり・内田勇人
16. 「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」開発に関する研究Ⅲ—『学校法人奈良学園』における『教育相談活動（生徒指導含む）』のネットワーク強化—	共著	令和6年 12月	奈良学園大学紀要第17集 (227頁-238頁)	「いじめ対応研修会や事例研修会等の定期的実施」を奈良学園全体で複数回実施し(各校園の生徒指導、教育相談等の担当者各1名参加)、毎回(1)生徒指導、教育相談に関する事例報告・検討(2)最新の「教育相談」テキストを活用した研修を行い、各自の研修の振り返りを基に、内容分析し、「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発にあたった第1回研修会～第3回研修会実施結果から得られた知見を報告した。 共著者：住本克彦・高橋千香子・井上葉子・中山 健・橋本 宗隆・松原岳生・益田 美保・佐々木孝史・山田百代
17. いじめ防止、対応等、教職員研修の重要性—糖尿病をもつ思春期の子どもへの教育・保健・医療等の包括的視点からの—考察—	単著	令和7年 3月	令和6年度研究紀要第4巻	いじめ防止、対応等における教職員研修の重要性について、事例提供のあった糖尿病をもつ思春期の子どもへの支援に関する課題について教育・保健・医療等の包括的視点について先行研究を交えて論じた。

18. 在宅療養生活を送るALS患者の動画教材を活用した授業による看護学生の学び（査読付）	共著	令和7年 6月 （掲載予定）	日本難病看護学会誌 第30巻1号	ALS患者の在宅療養生活を撮影した動画教材をA大学看護学科2年生の授業で活用し、動画教材視聴の感想文を質的記述的分析方法し、動画教材を活用した授業による学生の学びを明らかにした。 担当部分：研究計画、対象者の確保、分析、論文の作成に至るまで全てにおいて行った。 共著者：井上葉子・葦原佐衣・西村和子・内田勇人
（その他） 1. 看護学生による災害看護演習の評価に関する考察 ―避難生活の看護活動を考える演習について―	－	平成 27 年 8 月	第 17 回日本災害看護学会（於 宮城県仙台市）	短期大学看護学専攻学生 2 年生 122 名を対象にした、在宅看護論における避難生活体験を題材とした演習の方法と学習効果について検討した。 共同発表者：関谷まり・井上葉子 抄録集 P. 160
2. ポスターセッションを活用した在宅看護論演習の学習展開―「避難生活支援演習」の実践事例―	－	平成 27 年 8 月	第 46 回日本看護学会―看護教育― （於 奈良県）	短期大学看護学専攻学生 2 年生 122 名を対象にした、在宅看護論の学内演習での避難生活環境の体験演習の学習効果と、体験演習の学習のまとめとしてポスターセッションを活用したことの効果と課題を検討した。 共同発表者：関谷まり・井上葉子 抄録集 P. 107
3. 訪問看護ステーション実習での看護計画立案による学習効果について―実習目標の到達度の比較からの分析―	－	平成 27 年 8 月	第 47 回日本看護学会―看護教育― （於 奈良県）	3 年課程の看護専門学校 3 年生 36 名を対象に、訪問看護ステーション実習において、看護計画立案の有無によって学習効果に違いがあるかどうかを質問紙調査の結果から比較検討した。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・田村和子・北畠昭弥・北出千春・井上葉子 抄録集 P. 85
4. 看護基礎教育における難病患者の就労支援に関する教員の認識	－	平成 28 年 10 月	第 75 回日本公衆衛生学会総会 （於 大阪府）	看護専門学校教員 129 名を対象にした質問紙調査から、難病患者の就労支援についての認識を明らかにし、難病患者の就労支援を教育に取り入れる上での課題について検討した。 共同発表者：井上葉子・西村和子・松村あゆみ・内田勇人 抄録集 P. 539

5. 看護基礎教育における難病看護に関する教育の実態	-	平成 28 年 12 月	第 37 回奈良県公衆衛生学会 (於 奈良県)	看護専門学校教員 129 名を対象にした質問紙調査から、難病患者の就労支援についての教育の実情を明らかにし、難病患者の就労支援を教育に取り入れる上での課題について検討した。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・奥西志穂・早味妙・駒井由美子・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 7
6. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業効果【第 1 報】—学生による授業振り返りシートの分析から—	-	平成 29 年 8 月	第 48 回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 香川県)	3 年課程看護専門学校学生 2 年生 77 名を対象に「難病患者の就労支援」を題材として行った授業実践の教育効果と課題について、授業後の学生による「授業振り返りシート」の内容から分析と検討をした。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 148
7. 在宅看護論における難病患者の就労支援に関する授業効果【第 2 報】—事例ワークシートからみた学習内容の分析—	-	平成 29 年 8 月	第 48 回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 香川県)	3 年課程看護専門学校学生 2 年生 77 名を対象に「難病患者の就労支援」を題材として行った授業実践の教育効果と課題について授業内で用いた教材「事例ワークシート」の内容から分析と検討をした。 共同発表者：西村和子・松村あゆみ・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 149
8. 臨地実習における看護学生ストレスとレジリエンスについての実態	-	平成 29 年 8 月	第 48 回日本看護学会—看護教育—学術集会 (於 香川県)	3 年課程看護専門学校学生 2 年生 42 名を対象に時期の異なる 2 つの臨地実習の実習前後で、学生のストレス反応とレジリエンスの状態を調査し、その結果からストレス反応とレジリエンスには個別性があり学生の特性を理解した支援の必要性を示した。 共同発表者：山崎陸世・平山亜矢子・丸田裕子・高原恵・佐藤則子・定政美香・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 114

9. 要介護者が暮らす住環境を理解することを目指した在宅看護論の授業展開ー住居の提案とポスターセッションを取り入れた演習の実践と評価ー	-	平成 30 年 8 月	第 49 回日本看護学会ー看護教育ー学術集会 (於 広島県)	看護短大 2 年生 122 名を対象に、在宅看護論演習において要介護者が暮らす住居の見取り図の作成を行い、授業の学習効果について授業後の学生の学びと感想の内容から分析を行った。学生が積極的な関心を持ち、能動的に学習する上で一定の効果があることが明らかとなった。 共同発表者：井上葉子・西村和子・松村あゆみ・奥西志穂・大谷未来・駒井由美子 抄録集 P. 86
10. 看護学生のレジリエンスに関する文献研究	-	平成 30 年 8 月	第 49 回日本看護学会ー看護教育ー学術集会 (於 広島県)	看護基礎教育における臨地実習での学生のストレスへの対応を方法を検討するため、学生を対象としたレジリエンスの介入方法に関する研究の動向を検討した。 共同発表者：山崎陸世・井上葉子・平山亜矢子・芦原佐衣・丸田裕子 抄録集 P. 205
11. 在宅看護論実習における事例を用いたグループワークによる学生の学びー使える社会資源を調べるグループワークを実施してー	-	平成 30 年 8 月	第 49 回日本看護学会ー看護教育ー学術集会 (於 広島県)	3 年課程看護専門学校学生 42 名を対象に在宅看護論実習の最終日に、事例の社会資源を調べる学習を行い、その学習効果を検討した。 共同発表者：西村和子・北出千春・井上葉子 抄録集 P. 206
12. ラフターヨガ（笑いヨガ）の実際と今後の可能性	共著	平成 30 年 12 月	日本保健医療行動科学会雑誌（33）No.2 P46～48	ラフターヨガの実践結果から身体面と精神面への効果について検討した。 共著者：井上葉子・安藤和子
13. Study of literature on life skills that focus on eating habits of patients with inflammatory bowel disease (炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する文献検討)	-	2019 年 2 月	the 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). (in Singapore)	炎症性腸疾患患者の食生活に焦点をあてたライフスキルに関する研究の動向を明らかにし、支援方法のあり方について検討した。 共同研究者：Inouye Y, Shibata Y, Miura Y, Yoshimizu K Abstract No: ABS2427

14. Review of the literatures on factors related to height loss and relationship among the factors (文献検討による身長短縮に関連する因子および因子間の関連)	-	2019 年 2 月	the 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS). (in Singapore)	身長短縮を予防するための身長短縮に関連する因子とその因子間の関連について検討した。 共同研究者：Miura Y, Shibata Y, Yoshimizu K, <u>Inouye Y</u> Abstract No: ABS2253
15. テキストマイニングを用いた精神看護学実習における学生の学びの分析	-	平成 31 年 3 月	日本看護研究学会第 32 回近畿・北陸地方会学術集会 (於 福井県)	3 年課程看護専門学校学生 42 名を対象に精神看護学実習の最終日に提出したレポート「精神看護学実習を終えて」の内容分析を行い実習における学びの内容を検討した。 共同発表者：山崎陸世・溝口みちる・ <u>井上葉子</u> 抄録集 P. 43
16. 新型コロナウイルス感染症に関する新しい生活様式における子どもの保護者のたばこに関する意識と喫煙状況 —男女別での比較—	-	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会第 34 回近畿・北陸地方会学術集会 (於 奈良県)	関東圏と関西圏の子どもの保護者 500 名と対象にした調査を行い、新型コロナウイルス感染症流行による新しい生活様式での喫煙状況とたばこに関する意識の状況から今後の喫煙対策の必要性について検討した。 共同発表者： <u>井上葉子</u> ・関谷まり・松村あゆみ・守本とも子・三浦康代 抄録集 P. 34
17. 大学衛生委員会が作成した新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」(査読付)	共著	令和 3 年 3 月	保健師ジャーナル 2021 年 4 月号 医学書院 P308~316	大学衛生委員会が作成した教職員と学生を対象とする新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」の作成過程と運用状況についての活動報告を行った。 共著者：三浦康代・ <u>井上葉子</u> ・松村あゆみ・上梶佳代子・阿波邦彦・森村佳史・島本卓也
18. 子育て世代を対象にしたラフターヨガ体験による心身の変化に関する研究	-	令和 3 年 3 月	日本看護研究学会第 34 回近畿・北陸地方会学術集会 (於 奈良県)	子育て世代の 30 歳~40 歳代男女 6 名を対象に 50 分間のラフターヨガ体験による心身の変化について検討し、ラフターヨガの効果について検討した。 共同発表者：山崎陸世・ <u>井上葉子</u> ・三浦康代 抄録集 P. 30

19. 看護基礎教育における精神看護学教育の研究の動向について—テキストマイニングを用いた論文タイトルの分析から—	—	令和3年 3月	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会（於 奈良県）	テキストマイニングを用いて「精神看護学」「臨地実習」「看護基礎教育を」キーワードにした論文タイトル268件の論文タイトルを分析し、看護基礎教育における精神看護学教育の研究の動向について検討した。 共同発表者：葦原佐衣・井上葉子・山崎陸世 抄録集 P.24
20. 大学衛生委員会が作成した新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」	—	令和3年 3月	第61回日本社会医学会総会（於 大阪府）	大学衛生委員会が作成した教職員と学生を対象とする新型コロナウイルス感染拡大防止のための「出席停止期間早見表」と「出勤不可期間早見表」の作成過程と運用状況についての実践報告を行った。 共同発表者：三浦康代・井上葉子・松村あゆみ
21. Survey on parents' attitudes toward smoking in home life after the law's revision to prevent passive smoking in Japan（日本における受動喫煙防止のための法改正後の親の家庭生活での喫煙に関する意識調査）	—	2022年 1月	The 6th International of Global Network of Public Health Nursing (in Osaka)	日本の健康増進法改正によって強化された受動喫煙防止について、子どもの親500人に対して喫煙に関する意識調査をインターネットによるアンケートで実施した。家庭生活における喫煙についての意識を喫煙者と非喫煙者、性別等から比較検討した。 共同発表者：Yohko Inoue・Mari Sekiya・Yusuke Yamamoto 抄録集 p. 295
22. 学校保健実習におけるバーチャルリアリティ教材の開発及び導入の試み	—	令和4年 12月	第11回日本公衆衛生看護学会学術集会（於 宮城県）	新型コロナウイルス感染症流行により、臨地実習が不可能となった学校保健実習において、バーチャルリアリティ教材を用いて実習の体験を代替する授業実践を試み、バーチャルリアリティ教材によって一定の学習効果があった事を報告した。抄録集 p. 146
23. 在宅療養生活を送る難病の患者理解を目指した動画教材の学習効果	—	令和6年 8月	第29回日本難病看護学会学術集会（於 静岡県）	難病のALS患者の在宅療養生活の様子を撮影した動画教材を授業で視聴し、視聴後の学生の感想文の内容分析から、動画教材活用による学習効果について検討し報告した。 共同発表者：井上葉子・葦原佐衣・西村和子 抄録集 p. 96

教 育 研 究 業 績 書		
令和7年 5月 12日		
氏名 高橋 晶		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
地域・在宅看護	在宅看護、訪問看護、再入院予防、多職種連携	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
5) 早期体験演習 基礎看護学実習Ⅰ、Ⅱにおける実践	平成26年7月～平成28年3月	奈良学園大学保健医療学部助教として、基礎看護学実習での臨地指導を行った。学内講義、演習で習得した知識、技術を実際の臨床現場で安全、安楽に対象者へ提供できるよう指導を行い、学生の対象者への看護実践を実現した。
6) 公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動）における実践	平成26年7月～平成28年3月	奈良学園大学保健医療学部助教として、公衆衛生看護学Ⅰ（地域活動）の学内講義を行った。地域活動において重要な地域診断について、グループワーク方式にて演習を行い、地域の特徴を明らかにし、課題抽出までのプロセスについて指導を行った。
7) 広域発展看護学概論における実践	平成28年4月～平成30年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、広域発展看護学概論の学内講義を担当した。地域看護活動に必要な知識、活動方法について臨床での経験を活かした講義を行った。また、地域包括ケアシステム構築における多職種連携の重要性なども追加し展開を行った。
8) 広域発展看護学実践論Ⅰにおける実践	平成28年4月～平成30年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、広域発展看護学実践論Ⅰの学内講義を担当した。平成28年度は、安心して在宅療養を送るための社会資源の活用方法について、例年、社会資源については学生の弱点項目のため、事例を用いてイメージしやすいように工夫した講義を展開した。平成29年度は新カリキュラムのため、主に援助技術の方法について講義を行った。家にあるものでケア物品を用意する方法など、在宅に特徴的な技術について講義を行った。
9) 広域発展看護学実践論Ⅱにおける実践	平成28年4月～平成30年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、広域発展看護学実践論Ⅱの学内講義を担当した。在宅看護に必要なセルフケア援助の視点と考え方を理解できること、療養場所の違いから在宅療養を支える看護職の役割が理解できることを目標に、在宅に特徴的なさまざまな援助技術の方法を、事例を用いて講義を行った。
10) 広域発展看護学実践論Ⅲにおける実践	平成28年4月～平成30年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、広域発展看護学実践論Ⅲの学内講義を担当した。在宅看護に必要なセルフケア援助の視点と考え方を理解できること、療養場所の違いから在宅療養を支える看護職の役割が理解できることを目標に、看護過程の展開を行い、看護計画立案では、在宅に特徴的なさまざまな援助技術の方法を、事例を用いて講義を行った。
11) 広域発展看護学実習Ⅰにおける実践	平成28年4月～平成30年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、地域で生活する高齢者や在宅療養者を支える医療・保健・福祉の多職種連携における看護の役割と継続看護および包括的な介護予防支援を学ぶことを目的とした広域発展看護学実習Ⅰの指導を行った。外来部門、地域医療連携室、入院案内センターでは地域と医療施設をつなぐ看護職の役割について、また、地域包括支援センター、地域包括ケア広場では、健康を維持しながら地域生活を継続するために必要な医療職と地域住民との関わりについて、学生とともに事業に参加し、場面場面において適宜指導を行い学生の学習効果が上がるよう携わった。
12) 広域発展看護学実習Ⅱにおける実践	平成28年4月～令和2年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、在宅療養者への地域で生活する高齢者や在宅療養者を支える医療・保健・福祉の多職種連携における看護の役割と継続看護および包括的な介護予防支援を学ぶことを目的とした広域発展看護学実習Ⅰの指導を行った。外来部門、地域医療連携室、入院案内センターでは地域と医療施設をつなぐ看護職の役割について、また、地域包括支援センター、地域包括ケア広場では、健康を維持しながら地域生活を継続するために必要な医療職と地域住民との関わりについて、学生とともに事業に参加し、場面場面において適宜指導を行い学生の学習効果が上がるよう携わった。

13) 総合実習における実践	平成28年4月～ 令和2年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、既修の知識・技術・態度を統合して実践する能力をさらに向上させること、そしてマネジメントと倫理観を持った行動を実践するための基礎的能力を養うことを目的とした、訪問看護ステーションでの2週間の実習指導を行った。少ない訪問回数での効果的な情報収集の方法や課題の抽出、看護援助計画の立案を広域発展看護学実習Ⅱで既修した知識を発揮できるよう指導を行った。また、受け持ち利用者への看護援助を行うための技術確認、援助実施後の評価と看護援助計画の追加、修正指導を的確に行うことで、少ない訪問機会を逃すことなく学生が実施できるよう指導に携わった。
14) パブリックヘルスケア論（科目責任者）における実践	平成28年4月～ 令和2年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、看護師による公衆衛生看護活動の概要、活動方法の講義を行った。我が国の社会的背景から、看護職による地域支援は、今後さらに求められると考えらるる考える。公衆衛生看護の歴史などの基礎的知識に加え、医療機関を退院後にスムーズに地域生活を送ることができるような指導方法について、また、退院後に戻る「地域・在宅」とはどのような所か、を学生自身の生活の場である自治体が発行している広報誌を用いて、「地域とは」を感じてもらえるよう工夫を行った。
15) 看護研究方法論における実践	平成28年4月～ 令和2年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、看護研究の目的と意義、研究方法および研究のプロセスを学び、看護研究計画書を作成するために必要な基礎的能力を修得することを目的に、平成28年度3名、平成29年度5名、平成30年度3名、令和元年度3名の学生に対し、興味のある事柄からリサーチクエスチョン決定、研究テーマの絞りこみをゼミナール形式で行った。
16) 看護研究演習Ⅰ、Ⅱにおける実践	平成28年4月～ 令和2年3月	天理医療大学医療学部看護学科教員として、学生の関心のある研究課題を整理することを通して実用価値及び実現可能性の高い研究テーマを設定すること、そして、設定した研究テーマに対して研究方法を検討し、研究計画の作成とプレゼンテーションを行い看護研究方法のプロセスを学ぶことを目的に平成28年度1名、平成29年度3名、平成30年度3名、令和元年度3名の学生に対し研究指導を行った。
17) 地域に生きる人々を支える看護における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、1. 在宅看護の意義と基本理念について学ぶ 2. 地域看護の意義と基本理念について学ぶ 3. 地域包括ケアシステムの意義と実際を学び、その活動を評価することが出来ることを目的に、地域看護および在宅療養者への看護について、実際の場面を撮影した動画等を用いて講義を行った。学生のほとんどは、病院、施設での看護の実際を見た経験があるが、地域、在宅で行われる看護については初見であることが多いため、イメージしやすいよう工夫した授業展開を行った。
18) 地域に生きる人々を支える看護演習における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、1. 日常生活の場としての地域を理解し、地域で暮らす人々の健康の維持増進に対するニーズを理解し、支援するための基礎的能力を養う2. 地域で生活しながら療養する人々とその家族が、地域において望む暮らしの継続のために必要な看護について、基礎的能力を身に付けることを目的に、主に地域看護領域を担当した。大学所在地である天理市について、コミュニティアズパートナーモデルを用いて、地域の特徴を把握し、地域課題の抽出を行った。統計学的に状況をアセスメントすることを苦手とする学生が多いため重点的に助言、指導を行い、理解できるよう努めた。
19) 在宅療養を支える看護における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、在宅療養者とその家族が住みなれた地域で生活することを支えるためのケアマネジメントを理解し、療養者とその家族のQOLの向上と自立支援をめざす看護を実践する基礎的能力を養うことを目的とし、在宅看護における看護展開の概要について、療養者のライフヒストリーから望ましい状態を看護師として考えるられるよう、指導、助言を行った。
20) 在宅療養を支える看護演習（科目責任者）における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、1. 在宅療養者と家族が住みなれた地域で、望む暮らしを継続することを支える看護の基礎的な知識と技術を学ぶ。 2. 事例の看護過程の展開を通して、在宅療養者と家族が地域で生活する課題をアセスメントし、地域包括ケアシステムにおける効果的な連携および援助する基礎的な能力を養うことを目的に、初回訪問看護のロールプレイや実際の訪問映像から看護を考察するという演習内容とし、学生が地域、在宅という場所での看護をできるだけ易く考えらるよう工夫を行った。

21) 課題研究演習における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、学生の関心のある研究課題を整理することを通して実用価値及び実現可能性の高い研究テーマを設定すること、そして、設定した研究テーマに対して研究方法を検討し、研究計画の作成とプレゼンテーションを行い看護研究方法のプロセスを学ぶことを目的に令和2年度3名、令和3年度3名、令和4年度3名の学生に対し研究指導を行った。
22) 課題研究演習における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、学生の関心のある研究課題を整理することを通して実用価値及び実現可能性の高い研究テーマを設定すること、そして、設定した研究テーマに対して研究方法を検討し、研究計画の作成とプレゼンテーションを行い看護研究方法のプロセスを学ぶことを目的に令和2年度3名、令和3年度3名、令和4年度3名の学生に対し研究指導を行った。
23) 健康支援看護論における実践	令和2年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、健康教育が行われる対象や場を理解し、個人・集団の健康増進や疾病予防のための行動変容を促す理論やモデルを活用した健康教育の企画・実施・評価等の一連のプロセスを修得できるよう指導を行った。学生が企画・実施し発表した健康教育に対する評価は、できるだけ具体的に、そして、実践可能とするための修正ができるよう助言を行った。
24) 在宅療養を支える看護実習（科目責任者）における実践	令和3年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、地域に暮らす対象の状態に応じた看護および暮らしの場で行われる医療的ケアについて対象者とその家族の理解を深め、その暮らしの実際を通して、制度、社会資源、関係機関、関係職種の機能と連携を学び、地域包括ケアシステムの中で、地域の人々が望む暮らしを継続するための看護を展開する基礎的能力を養うことを目的に、訪問看護ステーションおよび地域包括支援センター等において地域に暮らす人々の望む暮らしに近づくための支援の展開をできるよう関わった。限られた訪問回数であるため、事前に撮影した訪問看護映像等を用いて対象者理解を深め、例えば、実際の訪問場面に立ち会う工夫をお粉い、学
25) 看護統合実習における実践	令和3年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、既習の知識・技術・態度を統合して複数患者に対する全人的ケアを実践する能力を高めるとともに、看護職者としての使命や役割を発揮するために必要な看護活動のあり方を学ぶことを目的とした、訪問看護ステーションでの2週間の実習指導を行った。少ない訪問回数での効果的な情報収集の方法や課題の抽出、看護計画の立案を在宅療養を支える看護実習で既修した知識を発揮できるよう指導を行った。また、受け持ち療養者への看護を行うための技術確認、実施後の評価と看護計画の追加、修正指導を的確に行うことで、少ない訪問機会を逃すことなく学生が実施できるよう指導に携わった。
26) 看護実践能力の探究における実践	令和3年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、既習の知識・技術・態度を統合して、自らの役割と機能を発揮し主体的に働きかける経験を通して、他者と協働し、多様な場や健康状態にある人々の健康を支援するための看護実践能力を身に付けること目的とする演習に携わった。「臨床判断」および健康教育の実践である「まちの保健室」の2つの演習に分かれている。主に「まちの保健室」の演習を担当した。地域のニーズを把握し、そのニーズに合った健康教育の実施のための計画立案、媒体作成、実施がスムーズに進むよう、助言、指導を行った。「臨床判断」では、シミュレーション学習では、患者役、ファシリテーターを担当し、学生が体験した場面について省察できるよう関わった。
27) 地域の暮らしと看護における実践	令和3年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、人々の暮らしを理解し、地域の生活環境とその暮らしが健康に与えるを影響を学び、その人らしい暮らしの継続のための多様な看護の考察を深め、実践する基礎的な能力を養うことを目的に、入学間もない学生に対し、看護の対象は地域にくらす人々であることを理解できるよう、大学所在地の天理市内の地域探索を計画し実施した。学生は、普段何気なく通っている通学路も、意識して歩くと見えるものが異なることに気づき、また、様々な年代が生活者としてはどのような暮らしを営んでいるのか？を考え、療養者としての側面ではない対象理解を促した。
28) 地域包括医療演習における実践	令和3年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、地域完結型医療、ケアシステムにおける医療の役割を理解するとともに、将来、医療専門職として各地域において包括的ケアと関わり、牽引していくための技術・態度を習得することを目的に、看護学科と臨床検査学科合同で行っている全員参加型演習である。医師、臨床検査技師など、他職種の視点から包括的ケアを考えられるよう、グループワークではそれぞれの専門性を尊重したディスカッションが可能となるよう関わった。

29) 災害看護論における実践	令和3年4月～ 令和6年3月	天理医療大学医療学部看護学科講師として、災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の静穏期から災害直後および中・長期にわたり必要となる看護活動について学び、災害看護活動を実践できる基礎的能力を習得することを目的に、災害看護の基礎から、メディカルラシーでの判断能力習得のための実践演習をスムーズに実施できるよう関わった。
30) 地域健康教育方法論における実践	令和4年4月～ 令和6年3月	天理大学医療学部看護学科講師として、地域の人々の健康ニーズを把握するプロセスと方法を理解し、健康の保持増進、予防への健康ニーズに対する健康教育計画と評価の作成を通して、多様な場や状態にある人々への健康教育に関する基礎的能力を養うことを目標に、夏祭り会場と商店街での健康教育を実施できるよう計画立案に関わった。
31) 地域健康教育実習における実践	令和4年4月～ 令和6年3月	天理大学医療学部看護学科講師として、1. 多様な地域から集まる人々とのコミュニケーションを通して、人々の健康に対する認識や健康管理に影響をおよぼす要因を捉える基礎的能力を養う。 2. これまでに学習したの知識・技術・態度を統合して、地域で暮らす人々への健康教育の実施評価により、多様な対象の健康を支える看護を実践する基礎的能力を養うことを目標に、夏祭り会場と商店街での健康教育を実施できるよう関わった。
1) 公衆衛生看護学方法論Ⅰにおける実践	令和6年4月～ 令和6年9月	奈良学園大学保健医療学部看護学科講師として、公衆衛生看護学方法論Ⅰの学内講義を担当した。公衆衛生看護活動の対象となる個人・家族・集団の健康増進能力を高めるための支援方法・技術を学ぶ。また、公衆衛生看護活動が行われる場の多様性とそれぞれの場における保健師の役割と機能を学ぶ。さらに対象の健康意識を高め、行動変容に導く主要な方法としての家庭訪問、健康診査、健康相談、健康教育の目的、計画立案、実施、評価に関する基礎的实践能力を習得することを目的とした。講義内での健康教育演習では学生間での振り返り時間を多く確保し、ピアレビューによる実践の質の向上を目指した。
2) 地域・在宅看護学実習における実践(科目責任者)	令和6年4月～ 令和7年3月	奈良学園大学保健医療学部看護学科講師として、地域・在宅看護学実習を展開した。他家で行われる看護実習であるため、訪問時の立ち居振る舞い等のマナーに関して、実習前より詳細な指導を行った。実習中の指導では、在宅看護の特徴について焦点化し（家にある物をケア物品にする工夫など）、在宅の特徴的な看護技術についてディスカッションし、学びの深化を目指した。
2 作成した教科書，教材 なし		
3 教育上の能力に関する大学等の評価 なし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 天理よろづ相談所病院 看護師 内分泌内科病棟 総合内科、腹部外科外来	平成11年9月～ 平成19年3月	糖尿病単科病棟に勤務。糖尿病血糖コントロールのために療養生活を送る患者に対し、生活習慣についての指導、アドバイスを主に行った。また、糖尿病教育入院目的の患者に対して、教育プログラムに則って指導を行ってきた。 総合内科外来勤務では、初診患者の診察介助、看護を行った。救急患者搬送の際は検査部門や手術室との連携を行い、様々な看護処置を経験した。腹部外科外来では外来手術介助など、日帰り手術看護を経験する。実習生指導では地域にとっての医療機関の役割について指導を行った。
2) 奈良県桜井保健所 非常勤保健師	平成19年6月～ 平成20年3月	精神・難病係に配属され、主に特定疾患申請手続き業務や在宅療養中の難病患者が使用する医療機器についての業者説明会参加、対象者カルテの整理などを行った。申請窓口業務では、申請者とその家族に対する健康相談、指導を経験し、地域で療養生活を送る対象者に特化した指導方法を修得した。
3) 桜井市医療センター 保健師	平成20年4月～ 平成22年3月	主に労働安全衛生法に則った、従業員健康診断や特定健康診査、特定保健指導業務に従事。特定保健指導では、動機づけ支援、積極的支援を行い、生活習慣の行動変容への指導を行った。また、地域住民の健康支援に対して、行政機関と連携を図り事業を進める中で、より効果的な事業展開のための他機関との連携方法を修得した。

4) 桜井市役所 非常勤保健師	平成22年4月～ 平成23年3月	国民健康保険被保険者に対し特定健康診査後の特定保健指導（積極的・動機づけ支援）業務を行った。個別指導の初回、継続支援において、食事・運動習慣について面接、電話、電子メールによる指導を行い、6か月後の評価では効果あり、なしのどちらについても指導方法について自己評価を行いながら、対象者の指導にあたった。
5 その他 なし		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格, 免許 看護師免許（第1035193号） 保健師免許（第89827号）		平成 11年 4月 平成 11年 4月		
2 特許等 なし				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 なし				
4 その他 なし				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1) 高齢者のための疼痛ケア	共	平成30年3月	三恵社	困難と言われている高齢者の疼痛管理について、高齢者入居施設に勤務する看護職者に対し、知識の普及と教育のためのテキストである。（担当：高齢者の痛みとその特徴 P. 2-10）
2) 三重県看護職員等の海外派遣研修事業報告書（平成27年度～令和元年度）	共	令和3年3月	三重県医療保健部	英国における看護活動の実際やRFHにおける老年期、周産期の医療・看護について、5年間の海外研修事業内容の報告である。（担当：「英国からみえてきたもの」3. 地域における看護実践 P. 15-16）
(学術論文)				
1) 「日本の戸籍制度と女性役割の変遷 ―婚外子に対する法律処置を通して―」	共	平成11年9月	メディカ出版「ペリネイタルケア」 18巻9号、855-867.	日本の戸籍制度の歴史から特に婚外子への法的措置に焦点をあてて諸外国と比較し、我が国の戸籍制度が女性役割の変遷にどのような影響を与えているかについて文献検討を行った。諸外国と比較しても、婚外子（特に親権や養育権が女性）への諸手当に対する法律は、わが国では未だ充分ではなく、戸籍制度での女性役割は扶養されている存在であるが、婚外子を養育する女性には法的に擁護されることもなく、さらに社会生活においても冷遇されるという状況に明らかになった。我が国の戸籍制度のもとでの子の養育には、同じ「命」であっても嫡出子と非嫡出子（婚外子）では法的処置においても、子を養育するという役割においても差があることが明らかになった。 共著者：高橋(山中)晶、井浦真理
2) 「日常生活に占める健康行動の優先性について―医療従事者を中心として―」（修士論文）	単	平成23年3月	奈良女子大学大学院 1813号	就業者を対象とし、健康に関してとる行動（健康行動）について、日常生活行動よりも優先しているか否かについてアンケート調査を行った。また、就業者を医療従事者に特化し、健康に関する知識をもった医療従事者の健康行動の優先性の特徴について明らかにした。結果、就業内容など、様々な要因により、医療従事者は健康行動を日常生活行動よりも優先的に行っていないことが明らかとなった。
3) 「医療従事者における健康行動の優先性と生活習慣行動の実態」（査読付き）	共	平成23年3月	「奈良女子大学スポーツ科学研究」13、47-56.	医療従事者と医療従事者以外の有職者を対象に健康行動の優先性の特徴を明らかにするために尺度を用いてアンケート調査を行った。健康・保健・医療に関する専門的知識を有している医療従事者であるとはいえ、他の有職者よりも健康行動の優先性が高いわけではないと示唆された。しかし、実際、望ましい生活習慣行動を行っているにもかかわらず、健康行動を優先できていないという結果も同時に示され、今後、健康行動の実施を妨げている要因を明らかにし、より健康行動を優先できる方法を探るため検討を行う必要がある。 共著者：高橋 晶、佐久間春夫

4) 「医療従事者における保健行動実施を妨げる要因」（査読付き）	単	平成24年3月	「白鳳女子短期大学紀要」5、1-8.	健康に関する専門的知識を持ちながら、自らの保健行動がとられていない医療従事者の実態から、保健行動を妨げる要因を明らかにするために、総合病院に勤務する医療従事者に質問紙調査を行った。その結果、保健行動の実施を妨げる要因は、「自己都合」「他者優先」「優先性の低さ」「固定スタイルの習慣」に分類される結果となった。
5) 「高齢者の介護予防を目指すボランティアへの保健師の支援ーいきいきサロンボランティアの語りからの検討ー」	共	平成26年9月	「奈良学園大学紀要」1、181-189.	地域の健康づくりの担い手である保健師と協働を模索するサロンに焦点を当て、運営にかかわるボランティアの語りから、高齢者の介護予防についての保健師の支援のあり方について検討を行った。 共著者：家根明子、 <u>高橋晶</u> 、廣川聖子、ト田初子
6) 「保健行動の優先性と生活習慣行動の職種別比較ー医療従事者と非医療従事者とのアンケート調査からー」	共	平成27年3月	「奈良学園大学紀要」2、51-56.	変則的な勤務形態を特徴とする医療従事者の健康管理が急務となっている現状において、非医療従事者の健康意識、生活習慣行動について医療従事者と比較検討を行い、医療従事者の保健行動と生活習慣行動の特徴を明らかにした。 共著者： <u>高橋晶</u> 、家根明子、廣川聖子
7) 「「第1回・第2回 天理医療大学まちの保健室」実践報告」（査読付き）	共	令和4年3月	「天理医療大学紀要」10、1、45-50.	地域において住民や社会の資源と共生する中で教育・研究を進める中で、大学の役割として住民の健康増進・安全管理に寄与することを目的とし、2019年に社会連携・社会貢献委員会と安全管理委員会を中心に「第1回 天理医療大学まちの保健室」を開催した。その結果、地域住民から大学の社会貢献に対する更なる要望があり、継続して実施することとなった。2021年は感染予防を徹底し「第2回 天理医療大学まちの保健室」を実施した。医療人としてどのような場所で医療活動を行う場合においても、地域住民の健康と暮らしを支援する地域包括ケアシステムの一役を担っていくことが求められる。今後は本学の個性を活かし、どのような役割を担うことが出来るのか、柔軟な視点で模索していく必要がある。 共著者：江南宣子、奥田真紀子、山中政子、 <u>高橋晶</u>
8) 「看護師国家試験総得点と模擬試験総得点、学習動機づけ、自己調整学習方略、学習行動との関係」（査読付き）	共	令和5年3月	「天理医療大学紀要」11、1.	看護師国家試験総得点と模試総得点および学習動機づけ、自己調整学習方略、学習行動との関係を明らかにすることとした。 第111回看護師国家試験を受けたA大学4年生に自記式アンケート調査を実施した。計4回の模試総得点と学習動機づけ尺度14項目、自己調整学習方略尺度18項目、学習行動12項目を調査し、国家試験総得点で比較した。結果、分析対象は41名（高得点群30名、低得点群11名）。高得点群と低得点群ともに模試1回目～4回目の得点は上昇傾向にあった。高得点群と低得点群を比較した結果、学習動機づけにおいては、「希望する職業に必要だから」などの5項目で高得点群の方が有意に高く、「親がうるさいから」のみ低得点群の方が有意に高かった。自己調整学習方略においては、「何を求められているのか考えてから課題をやる」などの3項目で高得点群の方が有意に高かった。学習行動においては、「アプリや書籍で過去問題を解いた」は高得点群の方が有意に高く、11月の学習時間、動画視聴、予備校活用は低得点群の方が有意に高かった。 模試1回目から4回目の総得点は両群ともに上昇していた。また、国家試験総得点と学習動機づけ、自己調整学習方略、学習行動との関係が示された。今後は、国試合格だけを目標にするのではなく職業的価値を意識付けて学習の意義を明確に自覚させる関わりが必要と考える。 共著者：山中政子、 <u>高橋晶</u> 、森知美、前川理恵子

9)「訪問看護実践における心不全療養者に対する再入院予防の概念分析」 (査読付き)	共	令和7年3月	「日本在宅ケア学会誌」28、2. 50-61.	目的：訪問看護実践における心不全療養者に対する再入院予防の定義を明らかにする。 方法：Rodgers (2000) の概念分析の手法を用い、30文献を分析した。 結果：属性は【ライフスタイルを重視した包括的アセスメント】【生活に密着した早期からの支援】【予後予測が困難な病態を想定した意思決定支援】【他職種や他機関との一体的な連携・協働による疾病管理】【ケアの継続性を保持】の5つ、先行要件は5つ、帰結は4つが抽出された。 結論：訪問看護実践における心不全療養者に対する再入院予防は、「ライフスタイルを重視した包括的アセスメントに基づく、生活に密着した早期からの支援を、予後予測が困難な病態を想定した意思決定支援と他職種や他機関との一体的な連携・協働による疾病管理を行い、ケアの継続性を保持すること」と定義した。この実践によりセルフケアレベルの向上と習慣化、療養者と家族の積極的な疾病管理につながり、人生や生活の質に反映され、在宅療養の継続に至ると示された。 共著者：高橋晶、李錦純
(その他)				
1) 第4回こころと糖尿病看護のネットセミナー事例提供	共	平成20年5月	第4回こころと糖尿病看護のネットセミナー	糖尿病療養目的で入院した、対応困難患者への看護について事例提供を行い、糖尿病看護における精神的支援について参加者とともに検討を行った。 事例提供者：高橋晶、大野奈津子
2) 日本健康心理学会 (示説発表) 「医療従者の保健行動の優先性とHLCとの関係」	単	平成23年9月	第24回日本健康心理学会学術大会 (於：早稲田大学)	医療従事者の健康意識に着目し、健康行動の優先性尺度、HLC尺度を用いてその関連について検討することを目的とし、アンケート調査を行った。優先性の高低群とHLCとの関連では保健行動を優先させている人は、「自分自身」の内的統制だけでなく、「家族・周囲の人」「他者優先」といった外的統制による因子得点も高くなった。優先性が低いとはいえ、医療従事者において、健康を「運」に委ねているという結果から、専門的知識を有する医療従事者であっても、適切な健康行動への援助が必要であると考えられた。 発表者：高橋晶
3) 日本健康心理学会 (示説発表) 「女子看護短期大学生の保健行動の優先性と食習慣との関連」	単	平成26年11月	第27回日本健康心理学会学術大会 (於：沖縄科学技術大学院大学)	女子看護短期大学生の保健行動の優先性が、食習慣と心身の健康度、学習態度に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。結果、女子看護短期大学生は保健行動を優先させていない、傾向が明らかとなった。 発表者：高橋晶
4) 日本老年看護学会 (示説発表) 「認知症カフェにスタッフとして参加した専門職の学びと課題」	共	平成27年6月	日本老年看護学会第20回学術集会 (於：パシフィコ横浜)	「認知症カフェ」に焦点をあて、スタッフとして参加した専門職のミーティング内容を分析し、専門職にとってのカフェの意義を明らかにして課題を検討することを目的とした。スタッフは、カフェへの参加を通して認知症を理解する前提となる支援の姿勢を学んでいた。また、当事者らとスタッフが「対等な生活者」という意識をスタッフ自ら徹底する姿勢の重要性を認識していた。そして、参加所の事例を通して具体的な関わり方や支援を学ぶとともに、経験から掴むことのできた接し方に関する知識を蓄積する場にした。 発表者：家根明子、小野塚元子、廣川聖子、高橋晶
5) 日本健康心理学会 (示説発表) 「生活習慣指導における学生が意識する指導ポイントについてー看護学生同士での食事指導演習後のアンケートからー」	共	平成27年9月	第28回日本健康心理学会学術大会 (於：桜美林大学)	看護学生が生活習慣改善に対する指導を体験することをひとつの目的として講義中に行った食習慣の振り返りについて、学生が考える食習慣の改善点への指導ポイントについて分析を行いその特徴を明らかにすることを目的とした。結果、食事摂取の振り返りの改善点および指導コメントに関しては、どちらも【食事 (品目) バランス】、【間食量・回数・種類】にポイントが置かれ振り返りが行われていた。 発表者：高橋晶、杉本多加子

6) 日本看護科学学会（示説発表） 「Pain Management Education Content Requested by Nurses Working at Residential Facilities for Older People」	共	平成28年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（於：東京国際フォーラム）	高齢者入居施設に勤務する看護職を対象とした疼痛教育プログラム開発の基礎資料を得るために、看護職が求める疼痛管理教育の内容について把握することを目的とした。 分析の結果、研修会で受講したい教育内容として、【疼痛管理に使用される薬剤の種類と適切な使用方法、不定愁訴への対応方法】、【客観的な疼痛評価方法】、【生活重視の施設において麻薬を使用する高齢者の看護】、【高齢者入居施設で生活する高齢者の疼痛の原因・種類・特徴】、【症状や疾患の種類に応じた疼痛管理方法】、【疼痛管理の成功事例】の7カテゴリーが抽出された。 高齢者入居施設における疼痛管理の質向上のためには、鎮痛剤の適切な使用方法や高齢者の特徴に応じた疼痛管理方法に関する教育、他施設での疼痛管理の成功事例の提示などが看護職に対して必要であることが示唆された。 発表者：田中和奈、百々望、 <u>高橋晶</u> 、百瀬由美子
7) 日本保健医療福祉連携教育学会（示説発表） 「英国の高齢療養者を対象とした多職種連携の実例 ―急性期病院と地域・在宅で行われる多職種連携会議への参加から―」	共	平成29年9月	第10回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会（於：国際医療福祉大学成田キャンパス）	多職種連携実践が定着している英国の高齢療養者を対象とした多職種連携（MDT）会議の実際について、英国国立ロイヤルフリーホスピタル高齢者病棟及び南カムデン地区ヘルスセンターでの研修から得られた学びは以下のとおりである。 高齢者病棟では、全入院患者を対象とし、病棟内全職種が参加するMDT会議が1日複数回行われ、患者の身体的・精神的状態、入院中のADLの様子、ケア実施時に困っていること等について各職種が専門的立場から活発に発言していた。 ヘルスセンターでは、当該地区GP、老年専門医、精神科専門医、老年専門看護師等、地域で活動する医療職が参加したMDT会議が毎週1回開催され、近隣の病院や大学病院のスタッフも常時参加してケアプランの確認や困難事例の検討等が行われていた。また、看護学生も見学参加しており、MDT会議が臨床のみならず看護基礎教育の中でも重要な位置づけにあると考えられた。 今回の研修で、高齢者の安全で安心な療養生活の継続のためにMDT会議が重要な役割を担っていることが示唆された。 発表者： <u>高橋晶</u> 、田中和奈
8) 日本看護科学学会（示説発表） 「高齢者入居施設の看護職を対象とした疼痛管理研修会の有効性検討」	共	令和2年12月	第39回日本看護科学学会学術集会（於：石川県立音楽堂）	高齢者入居施設に勤務する看護職を対象とした疼痛管理に関する教材を用いた研修会の有効性検討を目的とした。研修会後には研修会の有効性を検討するために、無記名自記式質問紙調査を実施した。質問紙の内容は、対象者の属性、Chodosh らが作成した「高齢者のための疼痛管理質評価指標」7項目、研修内容の理解度・研修会の満足度について4段階評定で評価を問う内容で構成した。疼痛管理質評価指標の項目では、「新しい入所者に対しての入所時の疼痛のスクリーニングが全くできていない」と全員が回答していた。また、対象者全員が研修内容について「理解できた」と回答しており、研修内容に対する満足度については「満足」との回答が66.7%、「やや満足」との回答が33.3%であった。研修会受講後の感想では、【入所者の疼痛の訴えへの対応改善の必要性】の気づきが得られており、【疼痛評価の必要性の再認識】、【疼痛管理に関する知識の明確化】につながっていたことが明らかとなった。 発表者：田中和奈、 <u>高橋晶</u> 他

9) 日本看護学会 (示説発表) 「A県内の退院支援・調整活動の推進における病院看護管理者が認識する課題」	共	令和3年11月	第52回日本看護学会学術集会（於：WEB開催）	A県内の病院看護管理者が認識している、退院支援・調整活動の推進における課題を明らかにすることを目的に77施設の病院看護管理者を対象に「退院支援・調整活動の推進における悩みや課題」について自由に記述できる質問紙を配布し返送を依頼した。49施設（63.6%）から得た回答から、病院看護管理者が認識している退院支援・調整活動における課題として、《施設内ルールの周知と徹底》《人材の確保困難》《人材育成の推進困難》《他機関・他職種との連携・調整能力》の4つのカテゴリーが抽出された。明らかにされた4つの課題のうち、《人材育成の推進困難》は先行研究でも同様に挙げられており、取り組むべき重要課題であるといえ、それぞれの課題の解決には、病院看護管理者に課せられている、看護の対象者のニーズと看護職の知識・技術を合致するよう計画し、財政的・物質的・人的資源を組織化し、目標に向けて看護職を導き、目標の達成度を評価するという役割遂行のもと、退院支援・調整活動に関してもより積極的に関わる必要があると示唆を得た。 発表者：高橋晶、堀畑佐知子 他
10) 日本看護科学学会学会 (示説発表) 「看護師国家試験の得点と学習行動、学習動機づけ、自己調整学習方略との関連性」	共	令和4年12月	第42回日本看護科学学会学術集会（於：WEB開催）	看護師国家試験（以下、国試）の高得点群と低得点群で学習行動、学習動機づけ、自己調整学習方略を比較し、その差異を明らかにすることを目的とし、第111回国試を受けたA大学4年生80名を対象に、自己採点による国試の総得点、学習行動12項目、学習動機づけ尺度14項目、自己調整学習方略尺度18項目をデータとした。メディックメディア（株）ネコナースの合格予報 for Schoolに参加した全数のうち上位75%に入る者を高得点群、下位25%に入る者を低得点群とし比較した。結果、研究参加者は41名で、高得点群30名、低得点群11名であった。国試の総得点平均は高得点群251.2点、低得点群227.1点であった。2群を比較した結果、学習行動のうち高得点群の方が高かった項目は、アプリ使用、書籍使用で、低得点群の方が高かった項目は、11月の学習時間、動画視聴、予備校活用であった。学習動機づけのうち高得点群の方が高かった項目は、不安だから、新しい知識を得ることが楽しいから、勉強が楽しいから、などで、低得点群の方が高かった項目は、親がうるさいからであった。自己調整学習方略のうち高得点群の方が高かった項目は、何を求められているのか考えてから課題をやる、難しい課題に取り組む前に基礎がわかっているか確認する、自分のできる範囲を考えながら勉強するであった。2群で比較した結果、アプリや書籍の使用は高得点群の方が高く、11月の学習時間や動画視聴、予備校活用は低得点群の方が高かった。高得点群の学生は低得点群よりも、不安であること、新しい知識を得ることや勉強の楽しさ、良い成績、職業に必要であることが学習動機づけになっていることが示唆された。また、高得点群の学生は低得点群よりも、何を求められているのかを把握し、課題に取り組む前に基礎的知識を確認し、自分のできる範囲に合わせて勉強していることが示唆された。 発表者：山中政子、高橋晶、森知美、前川理恵子

- この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成すること。
- 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長について

もこの書類を作成すること。
- 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書		
2025年 3 月 31 日		
氏名 高橋 寿奈		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
老年看護学	高齢看護学，看護教育，エイジズム，認知症高齢者のアドバンス・ケア・プランニング	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 講義と演習授業 白鳳短期大学 非常勤講師 「基礎看護概論」 「基礎看護方法論Ⅰ」 「基礎看護方法論Ⅱ」 「基礎看護方法論Ⅳ」 「基礎看護方法論Ⅴ」 ① P P Pを使用したデジタル教材の作成 ② 演習時に患者の想定がしやすいように、 ボディイメージ資料作成使用 ③ 演習時の研究課題資料の作成使用	2014年5月～ 2017年3月	「基礎看護学概論」の授業の一部を担当した。主に看護の変遷として日本の看護と関係法規の歴史変遷、世界の看護の歴史についての授業とテスト作成をした。近代看護の基礎となる事柄や今後の看護の方向性などを写真や経験、ドラマを使って、親しみやすい内容にし、学生が習得しやすいように努めた。（1年次配当、1単位、学生150名） 「基礎看護方法論Ⅰ」の授業を担当した。活動と休息・感染予防・滅菌物品の無菌操作・食と排泄・移動と移乗・効率的な動きの講義を行い、人間が健康に向かうための看護援助の在り方について指導を行った。それぞれの授業で、実際に実技で学生に体験させることにより、よりイメージしやすいように、感染の仕方のモデルや重心変化の仕方の教具の作成を行い、学生に実施させ、わかりやすく習得できるように努めた。 「基礎看護学方法論Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ」（1年次配当各1単位）の演習授業全般について実施し、フィジカアセスメント・看護イグザミネーション技術・点滴・投薬・採血・排泄管理包帯法・ポジショニング・創傷管理・電法の技術について、指導と実技テスト教官を行った。学生がイメージしやすいように研究課題を与え、その課題に沿って資料と実技を行った。学生からは「実践的でわかりやすい」や主体的に実習に臨む様子がみられた。
2) 学内研究発表会指導 白鳳短期大学非常勤講師 基礎実習Ⅱ学内発表指導	2016年2月	基礎実習Ⅱでの実習指導教員として担当学生の学内研究発表の指導を行った。 主に、日常生活援助での関わり方による対象高齢者の言動の変化についての気づきについて自信をもって発表できるように指導した。学生は「不安だったが内容が整理でき自信を持った発表できたとの評価を得た。
3) 演習授業（白鳳短期大学 老年看護学 学内授業）	2017年4月～3月	「老年看護学」学内授業、演習授業のサポートを行っている。老年期の看護展開では、学生の個別指導も行い看護展開成果物の採点を行い、実習での看護展開時に実際に使用できるように補足説明をした。
4) 実習指導（白鳳短期大学非常勤講師） 「基礎看護実習学Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅱ」 「成人看護学Ⅰ」「成人看護学Ⅱ」 「統合看護学」 「精神看護学」 「老年看護学」	2014年5月～ 2017年3月	統合看護学実習では、要項説明と実習オリエンテーション、実習調整を行った。 「基礎看護学」では、看護の仕事の実際や病院施設の概要について疑問点などを起こさないように指導した。また学生が達成感が持てるようにそれぞれの学生が苦手とするところの克服できるように配慮しながら行った。根拠をもって看護し、患者に寄り添い、生活者として視点も忘れず、看護の先にあるものについても意識して指導した。 「成人看護学」では急性期・慢性期での成人の療養上における問題について看護性について指導した。学生が、急性期の看護展開のスピードについていけるように、事前課題を確認し不足するところの指導を行った。周手術期の指導では、疾患の理解・術後侵襲・生活や社会人としての患者の役割・精神的な不安なども指導した。 「統合看護学実習」では、要項説明と事前の実習調整も行った。タイムスケジュールを学生が出来るようにあ、学生同士でのカンファレンスを多く持ち、チームで看護を行うことを重視いた指導をした。病院の組織の在り方や他職種連携の重要性や実際についてより多くの経験が出来るように調整配慮した。どの領域の学生も目標達成できた。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
5) 講義と演習授業 奈良学園大学 専任教員 「老年看護学援助論」3年次 必修科目 1単位 15時間 「老年看護学援助論」2年次 必修科目 1単位 15時間 「卒業研究Ⅱ」4年次 必修科目 1単位 15時間 「基礎演習Ⅱ」1年次 必修科目 1単位 15時間 「演習実技指導」 ① P P Pを使用したデジタル教材作成 ② 高齢者の介助時の注意点資料作成 ③ 演習時の研究課題作成と添削 ④ 各授業開始時に前回授業の課題総括と説明・資料作成	2018年4月～ 2023年3月	2018年から「老年看護学援助論」の基本的な高齢者への援助、活動・休息・食事・排泄などの技術全般、浮腫やについての講義と演習を担当した。演習時にはボディイメージと看護をつなぐ資料を作成し、与えた課題研究のもと授業を行った。その振り返りとして、学生自身でグループワークを行い、検討内容を板書説明し、それをさらに解説していく事で内容の理解と定着に努めた。臨地実習前には、学生を個別に基本的な技術指導を行った。 令和3年からは、科目責任者としてシラバスを見直し、授業計画を作成した。基礎看護学実習の直前に終了する科目でもあり、基礎看護学実習と老年看護学援助論がつながるように意識した内容と後世にした。基本的な老年看護学における日常生活の基本活動や転倒リスク、排泄排尿障害やそれらの援助、権利擁護やリスクマネジメント、食事嚥下や口腔ケアの援助について行った。口腔ケアでは、実習時に活用できるように、必要物品や観察項目などを具体的に示せるような課題を作成し、知識の定着と狙った。外部講師との調整を行い歯科医師や衛生師による高齢者の口腔内の清潔についてや、地域包括看護・介護士による認知症サポーター養成講座の開講の支援を行った。おおむね目標達成でき、学生の授業評価の点数も平均以上であった。 「老年看護学援助論演習」では、高齢者体験や片麻痺体験を学生自身でグループごとで行い、研究演習とした。また、学生自身に体験させることにより、高齢者イメージがしやすいうに、看護に必要な内容を考えさせる機会とし、看護の視点の指導や理解、定着を図った。 令和2年からは、ほとんどの授業内容を担当し、看護展開を中心とし看護のアセスメントや計画の指導を中心の授業へ変化させた。看護展開は、学生が臨地実習で使用しているものを使用し実習時に戸惑いがないように配慮した。教員への質問もしやすいうに 授業の攻勢を変更し、机間巡回の時間を増やし、学生同士での相談や考えの広がりを持てるようにペアワークとした。学生の進捗に合わせた説明をするようにし、理解の徹底と定着を図った。 「卒業研究Ⅱ」では、卒業延期性には個別にさらに時間を作り指導を行った。 「基礎演習Ⅱ」では、基本的な大学生活での学習方法や時間・単位制について指導した。グループワークで、基本的なレポートの書き方、グループワークについて指導し、レポートはその都度添削した。また図書の有効利用。インターネットを津科tt壘情報リテラシーの方法なども学生に理解の程度に合わせて具体的な指導を行い、学生が大学での学習方法について積極的に行えるように指導した。学生はおおむね目標達成できた。
6) 老年看護学実習指導（奈良学園大学）専任教員 2019年度 領域実習・統合実習 実習要項 実習記録 実習評価表 2020～2022年度 領域実習 実習要項 実習記録 学内実習用事例： ・大腿骨頸部骨折術後 ・大腿骨頸部骨折術後リハビリ期 ・腰椎圧迫骨折保存的療法 ・腰椎圧迫骨折保存的療法と認知症 ・腰椎症と頸部腫瘍の終末期 ・脳梗塞後片麻痺後のリハビリ期 ・脳梗塞後の高次機能障害 ・脳梗塞後誤嚥性肺炎（繰り返し発症する患者） ・脳梗塞後の廃用症候群 ・軽度認知症と脛腓骨骨折の保存的療法 ・変形性膝関節症術後 ・腰椎圧迫骨折後と膝関節症リハビリ期 統合実習 実習要項 実習記録	2018年4月～ 2023年3月	事前に、実習先の全施設と実習説明内容のために訪問調整し、学生の実習目的・目標・スケジュールなど詳しい説明を行った。実習開始からは、「老年看護学Ⅰ・Ⅱ」（3年次配当 4単位）で、学生が老年看護の基本的な考え方に基づいて看護展開の方法の実際を個別に指導し、実技指導と評価指導を行った。また、緊張緩和に努め実習で対象者の個別性に合う実習内容になるように一緒に考えアドバイスし、指導した。すべての実習に同行し、精神的配慮として個別の面談を交え学内では学習などの指導も行った。 2019～2022年度では、コロナ渦で領域実習施設と病院での実習日程や内容の変更調整をすべて行った。学内実習内容でも臨地とできる限り似ている状況での実習が席るように、各担当学生1名に1事例作成し、看護展開や実技の実施ができるようにした。2022年からは実習はできる限り臨地に行けるように、コロナ感染で実習ができない時は他の病院と調整し、全学生が臨地実習で学べるようにした。学生からは、「臨地に行くことで学べる内容も多く急な変更になっても臨地実習できてよかった」との意見を直接聞くことができた。おおむね全学生が目標達成できた。 2020～2021年度の実習では、すべての内容がリモートへ変更になり、実習内容の変更をすべて行った。臨地実習の目標と齟齬が内容、動画やグループワークを効果的に使用した。学生間でのディスカッションやワークも偏らないように、適宜メンバーの変更を行い学びが最大限になるようにした。また、卒業後の仕事としての内容も意識し、様々なグルーでディスカッションすることによって、学習内容だけでなく対人能力や自己表現能力などもはぐぐまれ、能力の獲得と発揮ができるようにした。 令和4年度は、臨地実習に行けるように調整し、全員臨地実習で学ぶことができた。臨地実習では、今後臨地で就労することも見据え、チーム内で協力しながら具体的な生活課題に対する援助が実施できるように指導した。概ね目標達成できた。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
6) 老年看護学援助論（2018年：3年次配当1単位 2019年～2022年：2年次配当1単位） ①授業資料 ②演習授業資料 ③疾患理解のためのプリント作成 ④eラーニング授業と資料作成 2018年担当 担当講義：高齢者の基本的な生活援助（排泄・栄養・活動と休息・清潔）転倒転落・食事介助・嚥下困難・アクティビティケア・看護展開 演習授業：高齢者体験 片麻痺体験 夏季休暇中の実習前演習 陰部洗浄 移送移動 点滴中の更衣 片麻痺の更衣 看護展開の実践（看護計画の実技） 2019年担当 担当講義：排泄・転倒転落・廃用症候群・リスクマネジメント（災害看護・医療事故）看護展開 2020～2021年担当 講義授業：排泄・排尿障害・転倒転落・廃用症候群・発熱・浮腫・倦怠感・脱水・退院支援・権利擁護 2022年度担当 担当講義：排泄・排尿障害・転倒転落・廃用症候群・嚥下食事・退院支援・権利擁護 7)「老年看護学援助論演習」（2018年：3年次配当1単位、2019年～2022年次配当1単位） 2019年度担当 担当講義（演習）：退院支援グループワーク・セルフアセスメント・脳梗塞移動トイレ介助 2020～2021年度担当 「老年看護学援助論演習」看護展開 1～12回ゴードンの機能的健康パターンを使った脳梗塞患者の看護展開、事例、記録用紙、パワーポイントを使用した授業資料、課題のループリック評価表作成 2022～2023年度 看護展開 1～12回ゴードンの機能的健康パターンを使ったパーキンソン病患者・脳梗塞患者の事例の看護展開、関連図作成、事例、記録用紙、パワーポイントを使用した授業資料、課題のループリック評価表作成	2018年4月～ 2025年3月	2018年～2019年では、「高齢者体験」ではグループワークで行う内容についての援助の方法の編成とないようについての目標や目的についてのプリントの作成を行った。また、杖歩行の援助方法の教授では、図式の資料と注意点を記入する用紙を作成し、実際に使いながら看護者・援助者・観察者と分け、肉体的だけでなく精神的な援助を含め考えるように指導した。「転倒転落」では、事例をち使って転倒要因を考えると同時に、アセスメントスコアシートを実際につけアセスメントの視点と実際を行った。嚥下困難では、高齢者体験の感覚器系装具を付け、感覚器系の変化について体験させた。そのうえで事例を使って、栄養状態の評価をし食事摂取するという事とその困難について考えさせアセスメントさせた。アクティビティケアでは、写真等を使ってイメージしやすいようにした。また実際の学生間でも行った。演習授業では、限りなく実践に近くできるように、グループごとでワーク形式で行った。 2020年度では、オンライン授業が中心であるが、学生が受け身にならないように、相互に意見交換やGWを使い授業参加できるように工夫した。eラーニングでは、すべ手を教授してしまわず、自分で考え調べたり、実習で考えて使えるような資料づくりを心かけた。演習授業では、学生間でのディスカッションができるように、問題提起や発問などで実際の援助の方法に多角的に考えることができるように注意した。 看護展開の授業では、コロナ渦でオンライン授業が中心であったが、学生同士相談し合いながらZOOMを使用してグループワークを行った。わからない学生には、個別に指導し理解を促した。学生からは積極的に参加する姿勢があり、自己学習をしている姿も多かった。令和4年からは、退院支援などでは実習時に必要なプレゼンテーションのスキルも養うためにパワーポイント資料での提出とした。 2023年度では、ペアワークを行い個別でも確実に看護展開できるようにし、実習でも使用できる内容の資料提供とした。老年看護学らしい、施設看護も視野に入れた事例を使用し、徹底した老年特有の高齢者の通夜身を生かした看護の考え方を学び実践できるようにした。全学年の学生ともおおむね目標達成できた。
8) 成人老年看護学援助論 I（2023年：3年次配当1単位） ①授業資料 ②事後課題用紙 ③学習課題用紙 2023年度担当講義 手術を受ける高齢者の看護の基本・手術時の看護 2024年度担当 「手術療法時の看護」「高齢者の手術時の看護」「術前看護」「術中の看護」「術直後の看護」「亜急性期の看護・生活の再編」「関節運動器の手術を受ける人・家族の看護」「腹部の科手術を受ける人・家族の看護」「統計部の手術を受ける人・家族の看護」「循環器系疾患発症時の看護」「循環器心臓カテーテル時の看護」「ERC・肝臓疾患の看護」「婦人科系疾患の看護」	2023年4月～ 現在	2023年度からは、主に高齢者が手術を受ける場合の注意点や看護の基本について授業をおこなった。高齢者に多く、術後の影響を与える術後せん妄や認知症との違い、高齢者が医療従事者から説明をけるときに注意や環境の整え方、等、看護実践に即したレベルでイメージしやすいように授業を展開した。また、学生が分かりやすいようにロールプレイをとりいれたり、板書や発言の機会を多くもてるように実施した。事後課題で学びが定着しやすいように反復した内容の考察を行った。 2024年からは、手術時の看護や術中術後の看護や疾患別の看護について担当した。疾患についての事前学習を通して学習習慣を身につけるように設定するとともに、看護の導き方を自身で考えることができるように、考え方を重視して授業構築を行った。ペアワークやグループワークを取り入れ、板書、提出物、自分の考えの発表という形で授業するように工夫した。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
9) 成人老年看護援助論Ⅱ（2023年：3年次配当 1単位） ①授業資料 ②事後課題用紙 ③学習課題用紙 慢性的な健康障害を持つ人の看護として、 「検査時・外来受診時・薬物療法時の高齢者の看護」「退院支援・多様な場の看護」「家族の人生最終段階の看護」「加齢変化の伴う症状と看護①」「加齢変化の伴う症状と看護②」「合併症のコントロール不良時・生活の質保証のための生活支援と看護」 2024年～学外授業：高齢者の看護①～② 学外授業要項、記録用紙作成	2023年4月～現在	2023年度からは、複数の疾患を持つ高齢者の看護の基本的なことから、多様な場の看護と、実際の高齢者の看護に活用できる内容を中心に授業を行った。授業のなかでは、高齢者の特徴とそれが医療や看護に及ぼす影響とを中心に授業添加した。授業資料では、視覚的にイメージしやすいように、必要書類やスコアシート、クリティカルパスなどを配布し学生が実践時に混乱しないように工夫した。自身の意見や看護として何ができるのか考えやすいようにグループワークを取り入れたり、板書や記録用紙の形式だけでなく、パワーポイントで要点を絞った資料作成も行わせ、授業内容の定着を図った。 2024年からの学外授業では、介護老人保健施設や介護老人福祉施設、グループホームやケアハウスなどで学生が実際に高齢者の特徴やコミュニケーション、日常生活の援助について実践で学べるように企画、準備を実施した。
10) 成人老年看護看護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 実習指導病院：西奈良中央病院・八尾徳洲会総合病院・近畿大学奈良病院	2024年4月～現在	事前に実習指導の内容の説明会の調整を行い、初めての病院では、事前に研修に行き、スムーズに学生受け入れがしてもらえるように各病棟の構造や実習指導者との調整をし、準備を行った。 実習では、脳神経、循環器、消化器、呼吸器、運動器、腫瘍、終末期の学生担当患者の実習指導を行った。できうる限り学生の進捗に合わせて繰り返し内容を指導するとともに、必要な資料の提示をしながら実習指導を行った。また学生の学びが広がるように学生の発案に対してはできる限り実施できるように実習病院とも調整し支援した。看護が、病院だけにとどまったり、看護の対象が偏らないように、患者選定でも、学生のウイークポイントはチャレンジング可能な看護が必要な患者を設定し、ストロングポイントは十分に生かし看護できるように、実習指導者と相談しながら患者決定を行った。担当学生は目標達成することができた。
1) 老年看護学実習要項・評価表・記録用紙・学内実習用事例・学内実習用プログラム 施設概要	2018年4月～2024年3月	看護学科専門科目「老年看護学Ⅰ・Ⅱ」（3年次配当 4単位）で、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習方法と内容、実習の進め方、実習の心得、健康管理の方法などについてまとめた冊子を作製した。老年看護学実習でない経験できない看護援助の実技面でも、確手順書を作成し観察項目などの確実な習得を目指した。 R2～4年度は、コロナ禍の非常事態宣言にて臨地実習ができず、臨地と遜色ないように一人1事例事例を準備し、看護展開と実際の看護の内容について学内実習を行った。また臨地での受け入れが可能な施設では、感染予防とできるだけ多くの学生の受け入れをしてもらうために実習先変更や日程調整を行い、実習内容を組みなおし調整した。学生は到達目標へおおむね到達できた。評価表はパフォーマンス評価が適切にできるように、ルーブリック評価へ変更した。
2) 統合看護学実習要項（老年看護学領域・成人老年看護学領域）学校奈良学園大学保健医療学部看護学科の専門科目 統合実習要項・記録用紙・学内実習プログラム 評価表の作成	2018年5月～現在	「統合実習」（4年次配当 1単位）で、学生が実習目的、実習目標に到達するための具体的な学習方法とスケジュール内容、実習の進め方、実習の心得、健康管理の方法、領域実習で実習できなかった看護技術の実習の仕方についてまとめた冊子を作製した。 コロナ禍で臨地実習に行けないときは、学生が学内で実習できるようにスケジュールを調整した。 成人老年看護学での統合実習では、急性期に特化した患者の流れに合わせて様々な外来検査病棟部門で実習できるように調整した。
3) 老年看護援助論での授業教材として、パーキンソン病・排泄の機能障害（排尿・排便）についての自己学習プリントの作成 浮腫のイグザミネーションの手順、脱水・浮腫・倦怠感・脱水のeラーニング後の確認テスト作成 テスト問題作成 老年看護概論の社会保障制度eラーニング資料作成 令和3～4年 ゴードンの機能的健康パターンの内容についてかみ砕き、内容がわかるように平癒な言葉に直した資料の作成 口腔ケア時の看護の課題作成 定期テスト問題作成	2018年4月～2023年3月	学生自身が学習内容を深められるように、解剖整理から、病態生理、症状検査、看護と発展的にできるように工夫をした。また、学習してきた内容は、授業の中で発表する時間をもちお互いの学習内容について振り返りを行った。また、提出後にはすべての学習内容についてチェックし、不足している部分についてはさらに復習として授業の中で補足説明を行い理解できるようにした。 eラーニングでは、テキストを使用し学習を深められるように発問の内容をおきながらポイントを学習できるようにした。暗記を必要とする科目に関しては繰り返す学習で使えるように、自分独自の資料が作成できるようにした。 実習で作成した資料をそのまま使えるように、実習時に必要な内容を盛り込んで資料とした。領域実習で使いながらアセスメントする学生を多数確認できた。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
4) 老年看護学実習学内での事例作成 事例：高齢者特有の疾患患者11例 シュミレーターの設定 総合病院での実習計画スケジュールの作成 「大腿骨頸部骨折後の看護」（3例）「腰椎圧迫骨折後の看護」（2例）「心不全時の看護」（3例）「COPD時の看護」「頸部腫瘍時の看護」 「変形性膝関節術後の看護」	2020年8月～ 2023年3月	老難看護学実習Ⅰ・Ⅱではコロナ感染予防のために学内実習に切り替わることも多く、事例を使用し、学生へ臨地実習に近づけるようにした。シュミレーターなども使用し、異常音の聴取や心電図の読み取りなどもできるようにした。また2グループ共同での実習の場合の実習計画表を作成し、各グループで実習ができるように工夫し学びの低下を防ぐようにした。 学生からは、「実技指導もありよかった」という声や「少しでも臨地に行けて安心した」「患者さんと関わってよかった」という声が聞かれた。おおむね全学生は目標達成できた。
5) 国家試験対策講座 老年領域資料 出題傾向問題作成と解説パワーポイント資料	2022年1月～ 2024年12月	前年度までの過去問題や参考書、学生の模擬試験結果から間違いやすい問題と出題傾向の強い問題を作成し配信した。また今年度の予測問題もテキストの内容などを参考に作成した。そして、それらの解答と解説を行い、看護師国家試験へ向けて知識の再確認と定着を行った。参加した学生からはおおむね好評であった。学生の看護師国家試験の合格率は2023年度は100%、2024年度は97.3%であった。
6) 成人老年看護学援助論Ⅰ・Ⅱ 試験問題 追再試験問題	2023年4月～ 現在	授業内容に合わせて学生の能力が発揮しやすいように、文章・記号挿入・○×などの問題形式にしたものを作成した。しかし、当学の主軸となる領域であることやそれをふまえて成人老年看護学の実習の単位数が10単位に増加したことを鑑み、学生の理解をより深める内容や、自身の考えを十分に述べるができるような内容に重点を置いた内容へ変更した。理解が促されるように自身で考える、考え方を重視した内容の問題を実施した。 学生の中には暗記科目であると勘違いしている学生もおり、希望の学生には、個別に学生と面談し、学習方法や求められている看護師像などを話し学習の意欲が増強するように試みた。
7) 老年看護学領域の実習協議会報告書・実習報告会資料 ①実習報告書 ②インシデントアクシデント報告書 ③学生の実習出欠状況報告書 ④次年度の実習計画書	2019年1月～ 2023年度3月	毎年行われる実習報告会の老年看護学領域の実習報告資料の作成を行った。旧領域の老年看護学では、学生の自己評価と教員評価のグラフを作成し、内容分析後に相違点や学びの内容についての考察を行い報告した。老年領域～現、成人老年看護学領域を作成した。
8) 成人老年看護学概論 授業認知症サポーター養成講座の企画、外部講師との調整	2024年4月～ 現在	昨今の認知症患者の理解を図るために、地域支援支援センターの職員と連携をし、講座の企画運営を行った。内容とした認知症の基本的な理解をうながす内容と実際に認知症の方を講師としてお招きし、自身の社会で偏見を受けた体験や、病状の進行についての受けとめ等を語っていただいた。資料も作成した。学生90名程度が全国キャンパ・ン・メイト連絡協議会の認知症サポーター養成講座の受講証書を受領できた。
9) 老年看護学援助論演習Ⅰ・Ⅱ 事例と演習で使用する模擬モデル6体 事後課題、成績評価表の作成	2020年4月～ 2023年3月	実習で使用する内容の看護展開や看護技術について演習として行った。 学生の看護展開について学生評価では、積極的に参加できるような授業展開にしたため、参加度は4.33に上昇していた。しかし、on-lineということもあり、わかりやすさや満足といった内容評価は平均であった。おおむね学生は目標達成できていた。
10) 成人老年看護援助論演習Ⅰ・Ⅱ 直腸切除後の患者のモデル人形作成 事例として高齢者の術後の状況や生活の再編の状況設定事例を作成	2023年4月～ 現在	直腸切除術後の患者のモデル人形を作成しよりリアルな状況が想像できるようにして学生に実際の患者の状況を理解できるようにした。 生活の再構築の授業では、学生が行う指導内容の実施に対し発問や内容についてコメントし演習内容の振り返りを行うように促した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
1) ①奈良学園大学法人広報委員会 ②奈良学園大学保健医療学部入試広報	①②2018年4月～2019年4月 ②2020年4月～2022年4月 2024年4月～ 現在	①②学外広報誌作成の参画と調整、広報誌の内容の修正 オープンキャンパス参画運営と教員への周知徹底、内容や物品の調整を行った。リハビリテーション学科開設の伴う広報活動として、外部向けシンポジウム運営調整を行った。当日はオープンキャンパスとの同時開催があり、教員と学生に対し企画説明・役割や時間調整等を行い運営した。また、学外広報としての高校への派遣授業の教員への意見聴取ととりまとめを行い教員派遣の調整をした。広報活動企画報告書の作成を行った。入試面接のルーブリック案の作成を行った。 2024年度からは入学のウエルカムボードや花見会 納涼会などの発案、企画運営を実施した。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
5 その他		
特記事項なし		
1 資格，免許		
1) 看護師免許	1990年5月	第684127号
2) 厚生労働省専任教員養成課程修了	2015年3月	
3) 次世代教育学 学士	2015年3月	
4) 看護師・保健師養成所専任教員	2015年3月	大学・短大・専門学校などでの看護師・保健師の養成教育、病院での新人教育などに携わる教員を認定する資格を取得した。
5) 学術修士	2017年3月	老年看護学教育で、学部学生のエイチズムについての調査を行い修士論文を執筆した。
6) 心療回想士 5 級技術位	2022年6月	内閣総理大臣認証法人第1050号特定非営利活動法人日本回想法学会認定心療回想法5級技術委心療回想士
2 特許等		
該当なし		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
1. 著書				
該当なし				
2. 学術論文				
高齢者の健康状態の多様性を理解するための看護教育に関する研究	単著	2017年3月	大阪教育大学大学院教育学研究科 修士論文要旨集第17号 2017年3月 p 135	目的：老年看護学での教授による看護学生へのエイジズムの影響について調査した。学生の観察課題においてエイジズムが是正されるか実施調査した。 調査方法：A短期大学3年生110人を対象とし、地域で活動している高齢者の観察を行った群と統制群で、実習開始前後にパルモアのクイズを使用しエイジズム調査し、群間比較した。 結果：高齢者の特徴について学ぶうちにエイジズムが発生していた。それらを改善するため、戸外での高齢者観察課題を実施は効果的であったと言える。しかし、「大多数の高齢者は社会的に孤立している」、「ほとんどの医療専門家は高齢者を軽視する傾向にある」は理解できなかった。実習時に内容理解できるように改善していく必要があることを考察した。
受け持ち患者とのコミュニケーションにおける看護学生の自己評価-老年看護学実習でのアンケート調査より-	共著	2017年9月	奈良学園大学紀要第7集 2017年9月 P121～126	目的：ゆとり世代の看護学生が老年看護学実習で受け持ち患者とのコミュニケーションについての自己評価を行い、実際の高齢者の感じるコミュニケーションとの乖離の状態を調査した。調査方法：A市在住で地域のスポーツクラブや文化会で活動している65歳以上のアクティブな高齢者に対してのアンケート調査を行った。結果：看護学生は努力は90%以上できたが、高齢者は看護学生のことを66%以上は不快だと感じておりとし、乖離している実態を明らかにした。 主担当として実施調査し論文執筆した。 共著：高橋寿奈・瀬山由美子
原著)「老人性皮膚掻痒症」のシュガー・スクラブによるスキんケア効果の検証(査読付)	共著	2019年3月	医療福祉情報行動科学研究会誌 第6巻 2019.3 p 65～72	目的：「老人性皮膚掻痒症」に対して、皮脂量の増加効果のあるシュガー・スクラブを使用したスキんケアによって改善が認められるか検証した。調査方法：老健施設でケア群と統制群で1日目と5日目ケア前後に皮膚の油分・水分、唾液中のIgAを採取しt検定で比較検討した。結果：油分値は初日から全ての計測時に有意に上昇を認めた。水分値は初日のケア後に増加したが他は変化見られなかった。これらより皮膚バリア機能の促進により水分保持能力が上昇し、スキんケアとして効果的であることが示唆された。 担当部分：文献検索・調査・分析・執筆 執筆：高橋寿奈・齋藤英夫・山口求他5名
「老人性皮膚掻痒症」のシュガー・スクラブによるスキんケア効果の検証 アビサルジャパン委託研究 報告書	共著	2019年4月	アビサルジャパン委託研究報告書冊子	「老人性皮膚掻痒症」に対して、皮脂量の増加効果のあるシュガー・スクラブを使用したスキんケアによって改善が認められるか検証した。結果皮脂量の増加と皮膚バリア機能の促進により水分保持能力が上昇し、スキんケアとして効果的であることが示唆された。 担当部分：調査実施・分析 執筆：高橋寿奈・齋藤英夫・山口求他5名
チームビルディングを基盤とした全学合同新入生研修の試み	共著	2023年3月	奈良学園大学紀要15集 2023.3.28 P121～126	大学キャンパス統合に伴う学部・学科を超えた仲間づくりとキャンパスを知ることが目的とした、全学合同のチームビルディングを基盤とした謎解きゲームを用いた新入生研修を実施した。内容について取りまとめ、効果について検証した。 担当：企画・実施・検討 共著：服部律子・松岡克則・阿波邦彦・安東雅訓・川端咲子・松浦尚子・萩布優子・嶋田理博・高橋寿奈・辻井直幸
3. 学会発表				
「アクティブシニアと看護師との言語的コミュニケーションでの不快体験について」	単著	2018年6月	日本保健医療行動科学会第34回学術大会 ポスター発表	アクティブシニアがかかりつけ医で看護師とのコミュニケーション時に不快な体験を起こした内容と、その割合をアンケート調査した結果をプレゼンテーションした。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
「高齢者入居施設の看護職を対象とした疼痛管理研修会の有効性」	共著	2019年11月	日本看護科学学会第39回学術大会 ポスター発表	高齢者入居施設に勤務する看護職を対象とした疼痛管理に関する研修会を開催し、受講後に疼痛管理の指標の理解、受講内容の満足度や理解度についてアンケート調査を行った。
Effects of skin care with Karada Kirei on senile cutaneous pruritus in older adults	共著	2020年1月	EAFNS 2020 Chiang Mai, Thailand ポスター発表	「老人性皮膚掻痒症」のシュガー・スクラブによるスキンケア効果の検証についての内容をポスター発表。 守本とも子, 山口求, <u>高橋寿奈</u> , 他 5 名
介護老人保健施設の明るさの研究－居室の照度調査から認知症高齢者の睡眠改善のためのブライトケアについて検討する－	共著	2021年3月	日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会	認知症高齢者の睡眠改善のために「ブライトケア」を施設の居室で行う事ができるか検討する為、介護老人保健施設の居室の照度を測定を行い検討した。結果を発表した。 担当：データ収集・分析・執筆 共著： <u>高橋寿奈</u> ・吉村雅世
認知症高齢者へアドバンスケアプランニング（ACP）を行う看護師の認識調査 認知症病棟勤務の看護師のインタビューより－	共著	2024年8月	日本看護研究学会第50回学術集会 ポスター発表	認知症高齢者に関わる病棟看護師に、認知症高齢者へACPを行う際に障壁と感ずる内容や必要な意思確認内容、ACPを実施するための具体的な支援の内容を明らかにするためのインタビュー調査を行った。その結果を発表した。 担当：企画・実施・検討 共著： <u>高橋寿奈</u> ・松村あゆみ・清水亜希子
4. その他				
2017年度版 看護師国家試験対策 出題傾向が見える老年看護学	共著	2017年10月	ピラールプレス社 B5判全109頁	主に急性期看護、社会参加、セクシャリティについて執筆した。また合わせて国家試験問題より老年看護学分野についての問題抽出を行った。執筆はP25～33 高齢者の周手術期についての特徴、社会参加の動向、セクシャリティについての傾向について、を行った。 監修：守本とも子・吉村雅世 共著：吉村雅世・田中和奈・ <u>高橋寿奈</u>
看護師国家試験対策 直前社会福祉学領域 ファイナルチェック	共著	2021年2月	金芳堂 A5判全177頁	「ケアマネジメント」「介護サービス」「介護サービスの種類と概要」「総合事業」をp.57～65を執筆した。「ケアプラン作成と流れについて」はマトリックスを「介護サービスの概要」については一覧表を作成し、わかりやすさに努めた。また最新の制度の見直しに併せて漏れのないように作成した。
公的貢献				
NPO法人 大阪天王寺区スポーツクラブ保健医療担当		2016年9月～現在	スポーツ大会参画・保健衛生指導 コロナ感染症予防発信参画	地域貢献として大阪市天王寺区のスポーツクラブでの毎年の定例会での救護担当を行う。また参加者のメディカルチェックとして事前に血圧測定を行い当日の事故防止と健康啓蒙活動に努めた。 注意喚起ポスター・健康指導パンフレット・チェックリスト作成と指導を行った。
(学会等への貢献) 日本保健医療行動科学会 第33回学術大会実行委員		2018年4月～8月	日本保健医療行動科学会第33回学術大会 実行委員	日本保健医療行動科学会第33回学術大会実行委員として、事前打ち合わせ、当日会場運営に参加した。
第27回日本看護診断学会 学術大会 実行委員		2021年4月～8月	第27回日本看護診断学会学術大会 実行委員	第27回日本看護診断学会学術大会実行委員として、事前に学会発表者へのコンタクトや調整、資料作成、オンデマンドの作成や案内を行った。
奈良県看護学教育協議会 研究指導協力		2022年4月～現在	奈良県看護学教育協議会	奈良県看護学校協議会で、教員向けの看護研究指導に協力参加している。
医療福祉情報行動科学研究 査読		2022年12月	医療福祉情報行動科学研究	医療福祉情報行動科学研究室的研究論文査読

教 育 研 究 業 績 書		
2025 年 5 月 7 日		
氏名 西出 順子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学、心理学	自己心理学、共感、 患者－看護師関係、相互作用	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 課題・レポートの活用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）「精神看護特性論」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）において、次回の講義内容の予習として、他の科目で習得した内容が講義内容と関連する場合、レポートにまとめたうえで受講する形をとっている。例えば、講義内容が「向精神病薬の副作用に対する援助」であれば、解剖学・生理学等で既習した錐体外路や副交感神経の作用について、有害反応の根拠となる基本をレポートにまとめ、授業に挑むようにしている。「精神看護学概論」や「精神看護特性論」は、「精神援助論」につながる基本をおさえているので、既習した内容が「精神援助論」の授業内容に関連する場合、既習の知識をレポートとしてまとめた上での受講としている。定期試験において、レポートと関連させた内容のところは正答率がやや高い結果となっている。学生の意欲の差はあるが、既習得の授業内容とリンクさせ学生にまとめさせることによって、授業に向かう動機付け及び順序立てた理解につながると考えられる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学 保健科学部 看護学科において、1年次配当「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、予習としてポイント個所をまとめ授業前に発表する形をとっている2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、半期、必修2単位）においては、授業後にポイントを文脈を作ってノートにまとめ、授業期間中間と最終日に提出し、コメントをつけて返却する。これらにより、単位修得試験以外において、最低限、授業内容について考える機会を設けている。また、看護の対象を理解するツールとして用いるエリクソンの発達論に関しては、自己の発達と関連させてキーワードの考察を深めるためにレポートを課している。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 CNSコースの精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ（専門科目、半期、各2単位）において、授業内容に応じたテーマで日頃の看護実践場面をまとめたものを持参してもらい、授業素材とし、実践に応じた助言を行っている。

事項	年月日	概要
2) 演習・実習の効果的な活用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）において、IBL(inquiry-based learning)方式のアクティブラーニングとロールプレイングを導入している。IBLは、①目的に沿った事例を作成（統合失調症、うつ病性障害等）②事例から数行の情報が入ったパートを3から4作成。パートごとに＜事実＞＜仮説＞＜必要な情報＞＜調べる項目＞に分けて進行していく。＜調べる項目＞では学生が次の授業までに分担して調べる。③②に続くグループワークでは、①で作成した事例を学生に提示し、病院実習で用いる記録用紙に情報を記入、治療薬について調べ、精神のアセスメント、セルフケア項目順に沿ってのアセスメント、全体図、看護計画を作成していく。④③で作成した看護計画をロールプレイングで実施する。また、ロールプレイングでは他に「かかわりを拒絶する患者」や「幻覚のある患者」等、病院実習でよく遭遇する場面を設定し行っている。IBL方式の少しずつの情報提供は、病院実習での情報のとり方を想定し、少しずつイメージを膨らませ、患者に問いかねられるようにと言う意図も含み行っている。学生からは、この方式に馴染めない者もいるが、情報から、考えを進めていく筋道がわかるとの評価ももらっている。ロールプレイングでは、患者像のイメージを掴むのが難しく、双方向のコミュニケーション効果までは望めないが、「このような場面に遭遇した時はどうすればいいのか」と意識することにはなっていると思われる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において3年次配当、「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、前期、必修1単位）ペーパーペイシェントを用い、情報の収集の仕方、収集した情報の記録の仕方、アセスメント方法と看護援助の導き方について、小ステップでの個人ワークとグループでの意見交換の後教員の解説を行う。授業ごとに個人ワークは提出し、教員のコメント付きで返却することを看護過程終了までの5回行う。次に、別事例（ペーパーペイシェント）をグループで展開する。グループワークの内容は、情報の収集・アセスメント、援助の方向性までグループで検討しながら看護の展開をはかる。自分で思考したうえでグループで検討しあうことは、思考過程を広げ深めていくことができると考える。また、グループで立案した看護計画は学生同士で患者・看護師役を交代で行い実践し、その実践課程をプロセスレコードに記入し振り返りを行っている。模擬ではあるが実習で実施する看護実践課程を一通り体験している。

事項	年月日	概要
3) 視聴覚教育技術その他教材の利用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）「精神看護特性論」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）において、精神障がい者の生きづらさや苦悩について、理解をはかるためにドキュメンタリーのDVDを活用している。「精神看護学概論」では、映画「精神」から統合失調症の女性のヒストリーを語る場面を視聴、後に解説をすることで、成育歴や生活環境が患者の精神状態や心理にいかに関与を及ぼすのかについて理解を図る。「精神看護特性論」では、自閉症の患者のDVDを用い、障害の特性や苦悩の理解を図る。「精神看護特性論」と「精神援助論」では、COMHBO地域精神保健福祉機構の作成するDVDを用い、SSTや訪問看護、心理教育など地域で暮らす障がい者の様々な治療やサポートについて患者の心理の描写とともに理解を図る。後の感想・評価からは、いずれも精神障がい者に対して、共感的にイメージ化が図れている一助となっていることがわかる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科にて「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、後期、必修1単位）で、抗精神病薬の有害反応や、閉鎖病棟のイメージ化を図るためにドキュメンタリーの映像を活用している。また、妄想や幻覚などの病的体験のイメージを広げ共感的理解の促進を図ることを目的に、当事者グループが作成した「妄想幻聴かるた」を活用している。 精神看護の理解が進んだ後に、奈良県の地域活動支援センターに通所する当事者にゲストスピーカーを依頼し、ご自身の体験と看護師の支援に関する体験をお話しいただいている。以上により、様々な生きづらさや背景を持つ対象と看護に必要な基本知識の理解を促進する。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅳ・精神看護学演習Ⅱ（専門科目、1年次配当、後期、各2単位）でSSTの実践について、流れやポイントを理解するためにDVDを活用している。
4) 双方向授業の実践	平成19年4月～平成27年3月	神戸常盤短期大学神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程 専任講師の講師「精神看護学実習」（専門分野Ⅱ、必修1単位）では、2日間の見学実習の後、3日間のスクーリング授業を実施する。スクーリングでは講義やグループワーク、個別指導等の方法をとる。グループワークでは見学したことについて、対象理解や援助方法、治療的環境という観点で話し合い、話し合ったことを発表する形ですすめている。グループワークに適度に入り、質問や助言を行うことや、その後の発表では各グループの発表直後に質問や助言をしている。その後のレポートから、その場その時のやりとりは、学生に理解の深まりや広がりにつながっていることが読み取れる。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」「精神看護特性論」「精神援助論」において、講義形式をとる場合、適宜発問をし、周囲の学生と2分ほど話し合い、意見を発言してもらおう。これらを1回の授業で4回～5回設けることで、学生の注意を喚起し、居眠りが減る傾向にある。

事項	年月日	概 要
5) ディスカッションの導入		神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「健康支援実習Ⅲ（精神）」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）では、8日間の病院実習と半日の学内実習を行っている。病院での実習と学内実習では、学生に付き添い、対象者の背景から読み取る理解やコミュニケーションを通しての理解、精神状態や心理状態の把握、コミュニケーションの取り方や実施した援助についてなど、その場その時に応じた質問や助言を行っている。実習学生から返ってくる内容や感想、提出物の内容の充実さから効果が認められる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において担当の1年次配当「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、ゼミ形式にて、常時間いかけと発言を繰り返して行っており、学生が自分の考えを発言する機会を多く持つようにしている。2年次配当「精神看護学概論」（専門科目、2年次配当、半期、必修2単位）においては、授業の終わりにミニノートと質問を記述し、次の授業の際に授業のおさらいの意図も含め、質問に答えている。オムニバスにて、次週担当しない場合は、GoogleClassroomにコメントを掲載し、学生に返している。2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、半期、1単位）および3年次配当「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、半期、必修1単位）においては、講義形式の際は質問を取り入れ、演習の際には、巡回し、質問ができる環境を整えている。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ（専門科目、1年次配当、半期、各2単位）では、理論や知識の説明後、臨床経験を有する学生の現場での体験を話してもらいながら関連付けて授業を進めている。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護特性論」「精神援助論」において、隔離・拘束について“人権を守る”ということはどういうことなのかについてディスカッションをしている。ディスカッションをすることで精神障がい者の人権を守る意義について意識化を図る。また、精神状態やセルフケアのアセスメントをする際、まずグループで事例を用いて討議することからはじめ、個人作業に移行させている。グループによっては、討議までにはなかなか至れず、発言する者にグループが引っ張られる傾向も見られるが、学生同士が質問し教え合う場にはなっている。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において1年次配当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、少人数の中でさらにグループに分け、テーマに応じてディスカッションする時間を複数設けている。その時の約束事として、相手の意見を積極的に聞く・否定しない・話の腰を折らないなどを設け、自分の考えを発言し、他者に受け入れてもらえる体験を強化している。2年次配当「精神看護学援助論」（専門科目、2年次配当、後期、必修1単位）においては、幻聴妄想かるたをグループで行った後、患者の気持ちの推測や、似たような体験、どう関わると安心できるかについて討議し、理解を深める機会としている。3年次配当「精神看護学援助論演習」（専門科目、3年次配当、前期、必修2単位）においてはペーパーペイシェントの演習を通して、根拠を相手に伝えながら、グループで一つのをまとめていくことを狙いとしている。自分の意見も主張しつつ、他者の考えも受け入れる態度を学習する機会としている。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ（専門科目、1年次配当、半期、各2単位）では、社会で自立し仕事をしている者同士のディスカッションを通して、さらに建設的な学びになるように時には、教員はファシリテーターの役割を担いながら、ディスカッションを促進する。

事項	年月日	概要
6) プレゼンテーションの導入	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護特性論」において、他の授業で既に授業を受けた発達課題についてグループでまとめ、発達段階ごとにプレゼンテーションを行う。また評価は、各グループの成員同士が互いのグループワークの参加度について5段階で評価し、平常点として加算することになっている。ほとんどの学生が4～5の評価をしており、グループワークの参加に対する意欲が高いと考える。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「健康支援実習Ⅲ（精神）」において、実習の最終日に各実習病棟ごと（1クール：10～18名、1病棟3～6人、実習病棟は2～4病棟）に各病棟の紹介と実習で看護展開をした2事例を取り上げ、援助の流れと学び・感想を模造紙にまとめて発表している。プレゼンテーションを通して、他病棟での実習内容を共有することで学びの広がりを広げている。実習最終日でもあり、様々な思いを抱く中、プレゼンテーションに対する内容の質疑・応答、感想などの発言も比較的活発であり、主体的な参加が認められる。
	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「課題別総合実習」（専門分野、4年次配当、半期、必修4単位）において、実習を終えた後、実習病院で全実習病棟の看護部長・師長・指導者・かかわりのあった看護師に向けて、パワーポイントを用い、実習の成果を発表し、評価を受ける。自己の成果について実習病院で発表し評価を得ることは、学生にとって緊張度も高いが、また達成感も大きく、その後の自信につながっていくと考えられる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において1年次配当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、グループで話し合った内容を模造紙やパワーポイントを活用して、プレゼンテーションを行っている。学生は、初めて体験するものも多いが、グループで要点をまとめ、分担しながら行っている。3年次配当「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、前期、必修1単位）においては、グループワークの成果である看護過程の経過と援助の方向性について、決められたパワーポイントの枚数内と制限時間内で発表をしている。制限のある中で、メンバーが協力し合い、おのおののマンパワーを生かしつつ成果を発表する場は、学生にとって達成感を得、自信を得る機会となっている。

事項	年月日	概要
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学大学院看護学研究所 精神看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（専門科目、半期、各2単位）において、授業内容について、あらかじめ各自で調べプレゼンテーションを行うことで、主体的な授業参加、学習となっている。

事項	年月日	概 要
7) 小テストの活用	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」「精神看護特性論」「精神援助論」において、軸となる理論については、小テストを実施し、理解の定着を図っている。小テストの項目としては自我防衛機制、エリクソンの発達論、精神の症状、薬の有害反応、ペロウとトラベルビーの関係性の進捗等がある。これらの知識を臨地実習において活用していることから、繰り返しの学習効果によるものと考えられる。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、半期、必修2単位）においては、精神看護学の重要な内容の授業が続く、内容は多岐にわたり、その都度の予習復習が求められるが、この時期、他科目も同じように進行しているため、学生は学ぶことが多く、能力を超えるものも多い。小テストをこまめにするすることで、要所要所でいやおうでも、振り返り学習機会を持つことで、ポイントは抑えられると考える。
2 作成した教科書、教材		
1) 各授業、レジュメを作成し配布する。	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」「精神看護特性論」「精神援助論」において、講義の要点の理解と、復習に活用するために、授業のアウトライン及びポイントを1回ごとに作成し、そのプリントを毎回の授業で配布している。「精神看護特性論」「精神援助論」では、精神状態のアセスメントについては他の授業で馴染みがなくイメージしにくいことを受け、DVDで視聴した事例について、学生が考えた後に、教員が精神状態をアセスメントしたプリントを配布し、比較し考えるようにしている。
	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科において1年次配当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年時配当、半期、必修1単位）では、レポートの書き方、要約の仕方のところで、朝日新聞の天声人語を学生が興味を持ちやすいと思われるテーマを8つほど選び教材を作成した。その中からさらに、学生を選び、グループで内容の精読や要約を行っている。2年次配当「精神看護学概論」（専門科目、2年次配当、前期、必修2単位）、2年次配当「精神看護援助論」（専門科目、2年次配当、後期、必修1単位）においては、毎回講義内容のポイントをまとめたうえで関連するアニメポイントをを用い視覚的に工夫したレジュメを配布している。

事項	年月日	概 要
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
1) 神戸常盤大学学生による授業評価		神戸常盤大学において平成27年度に実施された学生による授業評価によると、「精神看護学概論」では、授業内容 4.2, 授業方法 4.3, 学習成果 4.2, 総合評価 4.5 「精神看護特性論」では、授業内容 3.4, 授業方法 3.4, 学習成果 3.5, 総合評価 3.3 「精神援助論」では、授業内容 3.6, 授業方法 3.5, 学習成果 3.8, 総合評価 3.7であり、2年・3年次の授業においては満足度が高いとは言えない。
2) 奈良学園大学保健医療学部看護学科における学生による授業評価		2022年度「精神看護援助論」では、授業方法に関する内容の＜先生の説明はわかりやすいですか＞3.54、＜毎時間の授業汚要点は明確ですか＞3.77 2022年度「精神看護援助論演習」では、授業方法に関する内容について1組＜先生の説明はわかりやすいですか＞3.43、＜毎時間の授業汚要点は明確ですか＞3.21、2組＜先生の説明はわかりやすいですか＞4.07、＜毎時間の授業汚要点は明確ですか＞3.93、基本同じ内容と方法の授業をしているにもかかわらず、この点数差について考察するが、一つ思い浮かぶのは印象の問題が考えられる。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) なし		

事項	年月日	概 要
5 その他		
1) 神戸常盤大学保健科学部看護学科における教育実績		神戸常盤大学保健科学部看護学科の専任教員（講師）として、以下のような科目を担当している。
	平成27年4月～平成30年3月	「精神看護学概論」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）において、精神の機能と精神の健康・不健康に関する基本概念、および様々な成長・発達段階にある人の精神・心理状態を理解するための基礎的な理論の概要、精神看護実践に活用する理論の基礎的知識の内容の授業を行い、精神看護を支える基本的な知識の修得をはかっている。
	平成27年4月～平成30年3月	「精神看護特性論」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神看護特性論」（専門分野、2年次配当、半期、必修1単位）においては、ライフサイクルにおける危機と心と精神の問題、精神障害を有する人の精神機能上の問題や苦悩、セルフケアに及ぼす影響、各種療法と看護援助に関する基礎的な知識、精神保健福祉施策の変遷や精神障がい者に向けられる偏見の問題等を理解する内容となっており、グループワークや演習等を行い、医療・福祉・看護における現状の理解と課題を意識化させている。
	平成27年4月～平成30年3月	「精神援助論」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「精神援助論」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）においては、精神ならびに身体の病をもつ人を総合的に理解し、適切な看護援助を組み立てる基礎的能力を培うことを狙いとした内容となっている。講義・グループワーク・IBL(inquiry-based learning)方式のアクティブラーニングとロールプレイング等の演習を通して、代表的な精神の病と生活への影響、精神の病をもつ人に対する看護展開の基礎、精神の病をもつ人と家族への看護援助の基礎、適切な社会資源の活用を理解させている。また、リエゾン精神看護の役割及び機能や精神看護における倫理についての理解も図っている。
	平成27年4月～平成30年3月	「健康支援実習Ⅲ（精神）」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「健康支援実習Ⅲ（精神）」（専門分野、3年次配当、半期、必修2単位）では、一学生につき8日間の精神科病院での実習と半日の学内実習を行っている。精神の病をもつ人を生物学的・心理的・社会的側面から総合的に理解するとともに、良好な治療関係を構築し、セルフケアニーズとストレングス視点に基づく看護実践能力の基礎を培うことを目的とした実習内容になっている。その場その時に応じた指導内容によって、精神看護の統合を図る効果がある。計14週/年の精神科病院（急性期・回復期・慢性期）において学生指導を行う。

事項	年月日	概要
	平成27年4月～平成30年3月	「課題別総合実習」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学の講師として担当の「課題別総合実習」（専門分野、4年次配当、半期、必修4単位）では、自己の課題を明らかにし、課題を達成するために精神科病院での実習を希望する学生が対象となる。学生自身が実習計画を立て実習を行うことで、総合的な実践能力を高め、自己の将来の看護展開能力へとつなげる実習となっている。13日間の病院実習と2日間の学内実習から成り、病院実習最終日に成果を発表することでさらなる学習効果を得ている。
	平成27年4月～平成30年3月	「看護研究」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「看護研究」（専門分野、4年次配当、通年、必修2単位）では、研究方法の基礎力と研究的態度を身につけることを目標としている。精神看護学に関連する研究課題を選択した学生を対象に、一緒に研究過程をたどることを通して論文をまとめ上げ、目標を達成している。
	平成27年4月～平成30年3月	「看護活動基礎実習」（平成27年4月～平成30年3月） 神戸常盤大学保健科学部看護学科の講師として担当の「看護活動基礎実習」（専門分野、1年次配当、半期、必修1単位）では、看護専門職の実際の活動場面の見学実習を通して、看護の対象と機能・役割について学ぶ内容となっている。実習形態の学習に不慣れな学生のフォローと、実習場面でのポイントをその場その時におさえながら実習を進めることで成果を得ている。
2) 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科における教育実績	平成18年4月～平成30年3月	兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科の非常勤講師として以下の科目を担当している。
	平成21年4月～平成28年3月	「ヘルスカウンセリング」 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科の非常勤講師として担当の「ヘルスカウンセリング」（2年次、14時間）においては、臨地実習前に行動変容とカウンセリング技術の関係性、心の理論、相互作用に関する理論、医療現場でのコミュニケーション技術についての内容の授業を行い、実習後に学生が実習でとってきたプロセスレコードを素材に、演習を行う。これらのことを通して、人の心の成り立ちと関係性についての理論的な観点をおさえた上で、実習で体験したケースから、関わり方の基本と応用を習得した。
	平成28年4月～平成30年3月	「健康心理学」 兵庫県立総合衛生学院歯科衛生学科の非常勤講師として担当の「健康心理学」（2年次、4時間）においては、オムニバスで演習部分を担当した。臨地実習後に学生が実習中にとってきたプロセスレコードを素材に、対象者の思いに寄り添ったコミュニケーションの理解を図った。

事項	年月日	概 要
3) 奈良学園大学保健医療学部看護学科における教育実績	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の専任教員（助教）として、以下のような科目を担当している。令和2年4月に講師となり、以下科目を担当する
	平成30年4月～令和元年前期	「基礎演習Ⅰ」（ラーニングスキルズ） 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「基礎演習Ⅰ」（共通教育科目、1年次前期配当、必修1単位）においては、1年生が大学の学習に慣れ、4年間の大学生活を有意義に送るための基礎を習得することを目的としている。講義ノートのとり方、文献資料の検索、学術的な文章の読み方、グループワークの進め方などについてゼミ形式の演習を通じて学習する。慣れたグループの中で、自分の意見を発言し他者に受け入れられる体験を通して、自己発信する基礎的な力を培っている。

事項	年月日	概 要
	令和2年6月～ 現在に至る	「精神看護学概論」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護学概論」（専門科目、2年次前期配当、必修1単位）においては、他教員と分担・協力して授業を展開している。主に人間の精神の機能や脳の仕組み、発達段階における漸次的心理葛藤など、看護の対象理解を促進する基本的や自身のメンタルヘルスの向上をはかる部分を担当する。令和5年度よりカリキュラム変更にて（専門科目、2年生前期配当、必修2単位）になり、オムニバス形式で、主に人間の心の働きとパーソナリティ、心の発達論、精神看護の基盤となる理論と実践に関する内容について担当する。
	平成30年4月～現在 に至る	「精神看護学援助論」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護学援助論」（専門科目、3年次前期配当、必修2単位）においては、他教員と分担・協力して授業を展開している。様々な精神疾患や精神障がい者を理解し、精神看護学の基礎的知識と看護を学ぶことを目標としている。例えば、治療的な患者－看護師関係を成立させる方法、精神障がい者の観察の方法と治療について、精神科医療現場における身体合併症の看護について、精神症状や問題行動とその援助について、精神科リハビリテーション及び地域におけるサポートシステムの現状・課題について修得する。 令和2年度より（2年次後期配当、必修1単位）講義形式に変更。精神障害の理解から様々な治療方法、精神保健福祉法、精神疾患と苦渋の症状と看護のポイントについて修得する。
	令和2年4月～現在 に至る	「精神看護援助論演習」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護援助論演習」（専門科目、3年次前期配当、必修1単位）においては、ペーパーペイシエントを用い、情報の収集の仕方、収集した情報の記録の仕方、アセスメント方法と看護援助の導き方について、小ステップでの個人ワークとグループでの意見交換の後教員の解説を行う。授業ごとに個人ワークは提出し、教員のコメント付きで返却することを看護過程終了までの5回行う。次に、別事例（ペーパーペイシエント）をグループで展開する。グループワークの内容は、情報の収集・アセスメント、援助の方向性までグループで検討しながら看護の展開をはかる。また、グループで立案した看護計画は学生同士で患者・看護師役を交代で行い実践し、その実践課程をプロセスレコードに記入し振り返りを行っている。模擬ではあるが実習で実施する看護実践課程を一通り体験している。

事項	年月日	概要
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学実習」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「精神看護学実習」（専門科目、3年次後期配当、必修2単位）においては、精神の健康上の問題を有する人とその家族について、身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解するとともに、治療的な関係を築き、精神看護における看護実践能力の基礎を培うことを目的に精神科病院にて実習を行う。実習時間中は実習場にて、その場その時に応じて助言を行う。令和2年度は病院実習がかなわなくなったことを期に、訪問看護ステーションでの実習を行ったところ生活者としての対象をどのように支えていくかということの意識を強めることができた。令和3年度から病院実習と訪問看護ステーション両方の場で実習をすすめていく。
	平成30年4月～現在に至る	「統合看護学実習」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「統合看護学実習」（専門科目、4年次後期配当、必修2単位）においては、看護過程の展開はもとより多重課題や看護マネジメント、多職種連携、地域連携などを視野に入れた実習を行っている。令和3年度から、学生自身の課題と探求したい内容に応じて個別の計画を立て、主体的な実習の中で看護観を深め、探求する意義を学ぶ。

事項	年月日	概 要
	平成30年4月～現在に至る	「卒業研究Ⅱ」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「卒業研究Ⅱ」（専門科目、4年次前後期配当、必修1単位）においては、学生の興味関心のあるテーマを文献検討し、論文を作成する。少人数グループ（2～4名）でゼミ形式で進めている。
	令和3年～現在に至る	「統合看護論」 奈良学園大学保健医療学部看護学科の講師として担当の「統合看護論」（専門科目、4年次後期配当、必修2単位）において、精神看護学分野において担当する。精神看護の全体像をおさえたうえで家族・地域も含めた複雑事例の看護の展開について、小テストの事例からアセスメントと支援の方向性について解説し、精神看護学についてさらに実際に根差した気づきと理解の深化を促進する。
3) 奈良学園大学大学院看護研究科における教育実績	平成30年4月～現在に至る	奈良学園大学保健医療学部看護学科の専任教員として、以下のような科目を担当している。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅰ（歴史・法制度）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にノーマライゼーションの概念と実際について担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。

事項	年月日	概要
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅱ（精神・身体状態の評価）」 奈良学園大学大学院看護学研究科講師として主に心理機能評価・身体機能評価を担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅲ（精神科治療技法）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主に治療技法（精神療法）について担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学特論Ⅳ（精神看護理論、援助技法）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にSSTについて担当し、ゼミ形式で各々の経験や調べてきたことを交えながら建設的に話し合いをする中で進め、担当以外はメンバーとしてゼミに参加する。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学演習Ⅰ（精神科治療技法）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にカウンセリングの基本技法について担当し、各々の実践による経験による検討や模擬演習をしならすめる。
	平成30年4月～現在に至る	「精神看護学演習Ⅱ（精神看護理論、援助技術）」 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として主にSSTについて担当し、計画立案と模擬演習を行う。
	平成30年4月～令和4年度	「特別研究」（専門科目、1・2年通年、8単位） 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として、学生の研究テーマから研究計画、倫理申請、データ収集、結果、論文の作成まで助言を行った。
	平成30年4月～現在に至る	「課題研究」（専門科目、2年通年、4単位） 奈良学園大学大学院看護学研究科の講師として、学生の研究テーマ、研究計画、倫理申請、データ収集、結果、論文の作成まで助言を行った。データ収集においては、直接ケア実習、上級ケア実習の実践内容から抽出するため、実習の進行の最中においてもテーマに焦点を当てた助言を行う。

事項	年月日	概 要
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
1) 看護師免許証	昭和60年5月9日	第532000号
2) 修士(人間文化学)	平成15年3月	甲子園大学大学院人間文化学研究科人間文化学専攻 修了 人間文化学 修人第9号 論文題目「看護師の共感性に関する認識と特徴」
3) 臨床心理士資格認定	平成16年3月20日	第11561号
4) 公認心理師登録	平成31年2月5日	第14522号
2 特許等		
1) なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1) 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 基盤研究C(課題番号: 24593282) 研究代表者 武ユカリ 研究題目「在宅看護における対応困難事例、暴言、暴力の現状と対策に関する研究」	平成24年度～平成27年度	在宅看護の臨床現場に特化した暴言、暴力に関する調査はまだ少なく、現状も明らかになっていない。本研究では在宅看護における暴言、暴力の発生状況、対応の現状と、それらの発生する背景や要因や対応困難事例について、明らかにした。困難事例、暴言・暴力についての訪問看護師への個別面接調査や訪問看護ステーションに対する郵送質問紙調査、グループ対話による困難事例の困難に関する検討を行った。在宅看護におけるリスクマネジメントや、療養者と家族に対する支援の在り方について検討した。
2) 常盤大学テーマ別研究助成金 研究代表者 西出順子 研究題目「在宅で生活する精神障がい者と家族のストレングスに焦点を当てた支援方法の検討― 訪問看護師のストレングスへの着目点とケアの成果 ―」	平成28年5月～平成29年2月	訪問看護師が在宅で生活する精神障がい者と家族(以下、対象者とする)に対して行っているストレングスに着目した支援方法とその成果を明らかにした。対象者を訪問する看護師に半構造化面接を行い、得られた結果から意識化されず実施されているストレングスに着目した支援内容をカテゴリ化にて明らかにし、成果について検討した。

事項	年月日	概 要
3) 奈良学園大学共同研究助成金 研究代表者 西出順子 研究題目「COVID-19 状況下でのグループワークにおける学生の体験」	令和4年5月～令和5年3月	令和3年度に実習を終えた4年生に臨地実習とグループワーク演習についての体験についてインタビュー調査を行った。奈良学園大学紀要第17集に投稿する。
4) FD委員会 委員	平成19年4月～平成27年3月 平成28年4月～平成30年4月	神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程在籍中と神戸常盤大学保健科学部看護学科において、FD委員として活動を行っている。大学教職員の能力開発を目標とし、平成19年度から全教員に向けて年2回の研修を行っている。平成28年度は 1. 教育改革を進めようとする当大学の教職員の理解を進めるために最近の教育改革の動向を文科省の大学改革官から聞く機会を企画する。 2. 主体的かつ深く志向する学生を育成するための教育技能を学ぶためにディープアクティブラーニングのワークショップを開催する。 3. 学科内のFD活動を計画的に進める 4. 公開授業を促進し、教員相互の教育技法を向上させるを目標に進めている。学科内FDでは、全体のディープアクティブラーニングのワークショップの前に、学科内で活発にアクティブラーニングを行っている教員に依頼し、模擬授業を実施、そのあとグループワークを行い、アクティブラーニングの効果的な方法について検討を行った。
5) 国家試験対策委員会 委員	平成28年4月～平成30年3月	神戸常盤大学短期大学部看護学科通信制課程在籍中と神戸常盤大学保健科学部看護学科において国家試験対策委員をしている。看護師国家試験対策として、学科教員の講座や業者の模擬試験や講座を組み入れたプログラム作り、模擬試験成績の振るわない学生へのフォロー、学生主体の学習会のサポート等を行っている。平成27年度生の看護師国家試験の合格率は95.1%であった。
6) 入学試験の出題 看護学 委員	平成27年4月～平成30年3月	神戸常盤大学 保健科学部 看護学科 編入試験の精神看護学に関する問題を作成した。
7) イギリス研修旅行（トラウマ・インフォームドケア研修）に参加	平成28年9月18日～9月25日	医療法人寿栄会有馬高原病院主催の研修旅行に参加。イギリスを訪問し、認知症の方が利用する施設・病院の視察を行い、またスウォンジー大学で研修を受けた。認知症を患った方が利用する施設や病院を見学し、トラウマ・インフォームド・ケアの観点から日本との差異を認識し、よりよいケアのありかたについて考える機会を得た。患者一看護師関係は平等であり、患者の意思と尊厳が最大限に守られる理念のもと物理的・人的環境が作られていた。スウォンジー大学では当事者（てんかん）から治療による有害反応から生活障害を引き起こした体験や、治療の弊害を訴え発言する場を確保する活動について話を聞いた。また、研究者からはメンタルヘルスシステムが細分化されすぎ、ケアの評価が患者個人の思いや願いが重視されず、数値のみに頼る弊害を明らかにしたうえで見直すための研究や、患者目線からみたケアの評価の検討等の研究について聞く機会を得た。
8) 第2回 臨床精神看護学研究会 準備事務局員	平成29年1月～5月	平成29年5月20日 有馬高原病院で開催予定。発表会の運営と準備に関する役割を担う。

事項	年月日	概要
9) FD委員会 委員	平成30年4月～平成31年3月、令和4年4月～令和5年3月	奈良学園大学において『教育力をあげるようなFD活動』をテーマに2回/年の研修会を企画運営に携わった。8月日頃の指導の中での困難さや課題を出し合い次回FDプログラム作成につなげるためのワーク、3月コーチングについて 令和4年度は、教育に関する現状の課題や取り組みの工夫について、グループワークを中心としたFD研修会を3回開催した。第1回テーマ「PROGテストの結果の説明を受け、教育の工夫についてのグループワークで話し合い、結果を共有する」、第2回テーマ「学生の授業態度によく見られる2ケース <集中力が続かない学生><事前学習が不十分なまま実習に行き、自己評価が高く、自分のことを振り返られない学生>について工夫や対処方法を検討する」、第3回テーマ「後期の授業を振り返り、次年度への改善策を発見する」その他、1年次生対象に地域住民との交流「健康フェスティバル」を企画運営した。
1 0) 人権教育研究推進委員会	平成30年4月～平成31年3月	奈良学園大学において、奈良県大学人権教育研究協議会の企画する研修会に参加するとともに、1回/年の研修会を企画運営する。30年度は「ハラスメントを防止するために」の企画運営に携わった。
1 1) 実習ワーキング	平成31年4月～令和2年3月	奈良学園大学において、3年次各領域の臨地実習枠の作成、4年次統合実習の実習枠の作成、実習場の開拓、実習方法の見直し、実習要綱の見直し、コロナ禍においての臨地実習方法などについて検討した。また、実習における学生の進捗状況やケア方法なども検討し共有しあった。
1 2) カリキュラムワーキング	令和2年4月～令和5年3月	奈良学園大学において、新カリキュラムに向けて、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを新たに定め、カリキュラムの立案に携わった。

事項	年月日	概 要
1 3) 教務ワーキング (令和4年度教務部会に変更)	令和2年4月～現在	奈良学園大学において、時間割や単位修得に関する判定方法と各種日程・期間、履修の手引き、入学前試験、新入生ガイダンスや新年度ガイダンスに関する内容検討と実施に携わった。その他、学習・授業に関する問題など適宜検討した。
1 4) 学生生活部会	令和4年4月～令和5年3月 令和6年4月～令和7年3月	学生の状況の共有、他、学生からの提案窓口の設置と事項の共有、支援などを検討した。
1 5) 日本看護研究学会 第50回学術集会 企画準備委員	令和5年4月～令和6年8月	令和6年8月24日25日奈良県コンベンションセンターにて学会が開催され、広報はじめ企画準備に携わる。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1. 会話でわかる看護師のコミュニケーション技術	共著	平成30年9月	中央法規	第6章 様々な分析からわかる看護師のコミュニケーション技術の中の「共感の視点を分析してわかるコミュニケーション技術」のテーマで自己心理学を用い共感に着目し会話を分析した。(p. 98～107)
2. 改訂版 エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図関連図	共著	令和2年1月 (改訂版発行日)	中央法規	ワンポイントラーニング 身体合併症を担当する。生活習慣病、生活習慣病から生命にかかわる疾患へ、衛生面からの問題、ロコモティブ症候群など、精神障がい者と関連の深い合併症について解説した。(p. 149)
(学術論文)				
1. 精神科病院におけるトラウマインフォームドケアの有用性について 資料 (査読なし)	単著	平成28年3月	甲子園大学 発達・臨床心理センター紀要10. 11号合併号 p. 30～33	トラウマインフォームドケアは、アメリカの精神科医療におけるコア戦略の中でも核となる概念の一つであり、トラウマインフォームドケアを導入することで入院中の再トラウマ体験を防止し、速やかに回復を図ることが狙いとされ、精神科病院においてこの考え方が浸透している。日本では、2015年に川野がアドバイザーとして所属する特定医療法人寿栄会有馬高原病院で病院をあげてトラウマインフォームドケアの理解を深め、臨床の中で実践を試みている。トラウマインフォームドケアについて、以下二点考察を行った。一つは自己心理学を用い個別的なケアの有用性について、もう一つは組織における管理的な側面からの取り組みの必要性について考察を行った。

事項			年月日	概 要
2. 看護のケアリング機能—共感の意味についての一考察— 研究報告 (査読付)	単著	平成29年12月	日本サイコセラピー学会雑誌第18巻第1号 p. 87～95	急性骨髄性白血病(AML)で化学療法を受けた50歳男性の看護援助の経過について報告し、看護師の患者に対する共感的理解と看護師のニーズに焦点を当てて考察を行う。生活のほとんどが受け身的にならざるを得ない患者にとって、過酷な入院生活で生じる感情こそが自己の存在を確認するものとなる。しかし、時には患者から発せられる感情は、看護師のニーズに反することもある。看護師は共感を通して患者の気持ちに寄り添いながらも、時としてアンビバレントな感情を抱え、関係性の中でその瞬間に浮かび上がってくる言語・非言語の表現を返し、それを受けて患者は反応し看護師に投げかける。この絶え間ないやりとりがケアリングであり、危うくなる患者の自己存在感を支えることとなる。
3. 訪問看護師にとっての対応困難事例の困難要素について：テキストマイニングソフトを用いた個別面接調査の分析より原著 (査読付)	共著	平成29年12月	日本在宅医学会雑誌第19巻第1号 p. 11～18	困難事例について多職種連携チームでの対応を促進するため、訪問看護師の困難要素を明確にすることを目的とした。訪問看護師12名に対する半構造化面接法による個別面接調査、横断研究で、テキストマイニングソフトを用い解析し、困難要素の分類を行った。【体制・マネジメント】【職務】【疾患・障害】【現状認識】【治療・ケアに対する反応】【利用者・家族の不服】【人間関係】【療養環境】の8カテゴリーの困難要素を特定し、「利用者・家族の感情」「訪問看護師の職務意識」「地域体制の整備と訪問看護ステーションのチームマネジメント」について考察した。 分担部分：構想・デザイン・データの取得・分析・解釈に関与 共著者：◎武ユカリ、小坂素子、西出順子、安斎三枝子、金川治美
4. 20歳代女性のカウンセリング場面の分析～自己心理学の観点から治療的かわりについて焦点を当てて (査読付)	単著	平成30年3月	精神看護におけるディスコース分析研究会誌第5巻 p. 25～32	カウンセリングの一場面を取り上げ、会話分析を行った。セラピストは60代の男性。患者は20歳代の女性であり、職場でのハラスメントをきっかけにパニックになり、認知行動療法をベースに定期的にカウンセリングを受けていた。定期的に行われている面接場面を患者の同意を得て録音・録画し、そのうちの1セッションの逐語録を作成した。本稿では、セラピストが患者のいつもと違う様子を察知し、手法を切り替えた1セッションを取り上げ、治療的関りについて自己心理学の主要概念である「自己対象ニード」「自己対象体験」「共感」「相互的調制」に焦点を当てて分析を行った。セラピストとの安定した自己対象体験は、患者の傷ついた自己対象(男性像)を修復し、成果に通じる可能性を大きく持つと考える。

事項			年月日	概 要
5. 相互作用を振り返るための概念枠組み—ポスト自己心理学の臨床活用(査読付)	単著	令和2年3月	第3回 臨床精神看護学研究会(奈良) p48～52	患者看護師関係のプロセスを振り返るツールとして、自己心理学派のリヒテンバーグの動機付けシステム理論をとり上げる。リヒテンバーグの言う動機付けとは、シンプルには「何がその人を動かすのか、その人は何を求め、何を避けるのか」を指しており、これを関係性の中で湧く「欲求」と捉え、以下7つの欲求・動機付けシステムを挙げている。①生理的要請に対する心理的調節②個人への愛着③集団への親和性④養育⑤探求と好みや能力の主張⑥身体感覚的快と性的興奮⑦引きこもりや敵意を用いた嫌悪的反応、これらの欲求には感情が伴い、その先には意図や目的がある。これら7つのシステムが相対的に「今ここで」あるいは「その時そこで」重要あるいは優勢かということは刻一刻と変化する事柄といえる。この動きを相互作用として丁寧に捉えることが、その場その時の関係性をアセスメントすることにつながると考える。今回は、事例を用いて理論の概要を紹介する。
6. 精神障害を有する患者の理解を促進する授業方法の工夫—『幻聴妄想かるた』を教材にした学生の体験と学び—(査読なし)	単著	令和2年12月	奈良学園大学紀要第13集 p. 177～188	〔目的〕『幻聴妄想かるた』を取り入れた演習が、学生にどのように体験されているかを把握し、学習への影響や体験の中で生じている現象について考察し、さらに効果的な授業方法を検討する。〔研究方法〕『幻聴妄想かるた』を用いた演習後、任意によるアンケート調査を行った。〔結果〕『かるた』を行っている時の感想は【学生の感情体験】【現象・対象理解】【作品の印象】に、精神障がい者に対する理解では【精神障がい者に対する理解】【グループメンバーの視点の差異】【関わりの姿勢】に、幻覚妄想を有する精神障がい者に対する援助では<聞く><寄り添う><受けとめる><共感する><否定も肯定もせず、幻聴を深めることは言わない><幻覚・妄想の対応へのとまどい>〔考察〕『幻聴妄想かるた』を用いた演習は、自由な雰囲気の中で楽しみながらも、幻聴妄想体験の不思議さや、わからなさ探究の動機付けに適切だったこと、そして、学生同士安心して楽しめる場を作り、そこでの討議がイメージの拡充や理解の促進に効果的だったことが示唆された。課題として、共感的な支援につなげるために、学生自身が当事者に近い体験ができるような工夫が必要であることが明らかになった。

事項			年月日	概 要
7. 新型コロナウイルス感染症流行下で臨地と学内混合による実習形態が看護学生にもたらす心理的变化	共著	令和4年12月	奈良学園大学紀要第17集 p. 119～130	本研究の目的は、新型コロナウイルス感染症（以下COVI-19）流行下における3年次後期の臨地実習と学内実習の混合の実習形態が、継続する学内実習（学内演習）におけるグループでの学生の心理的体験への影響、及び、そのプロセスを明らかにすることである。方法は、A大学在学中の4年次看護学生18名に半構造インタビューを実施し、M-GTAを用いて分析した。結果、プロセスは23個の概念と9個のカテゴリーで構成された。3年次学生の心理面に2年次から続くコロナ渦での体験＜COVI-19流行下による学習体験の影響＞を受けての体験が基盤にあり、3年次後期の臨地実習と学内実習が混在する中での学内実習ではグループワークがほとんどを占めていた。＜グループワークの参加の仕方＞としてメンバーの特性をアセスメントし、＜カンファレンスの空気感＞等グループワークの寄り方を模索し＜グループに参加する努力＞を行っていた。一方、メンバーの発言力や能力の差を目の当たりにし、焦りや劣等感、羨望を抱くことや、また、課題に向ける熱量の差からやりづらさを感じ葛藤する中で、グループ形成のための対応に尽力していた。これらグループ・ダイナミックスの渦中にある個人の自己内界では＜グループ活動を通しての自己成長のプロセス＞を踏んでいった。これらの過程の中で生じる内なる葛藤を収め、成長に向かうためのコアカテゴリーを【協働する中での自己調整】とした。 共著者：◎西出順子，上野栄一
(その他)				
[実践報告]				
1. 患者を支えるための概念枠組みー自己心理学の臨床活用	単著	平成29年11月	第2回 臨床精神看護学研究会誌 2017年 p. 2～5	筆者は看護師の経験を持ちながら大学・大学院で心理学を学習する機会を得た。多くの理論を学び、臨床心理士としてリハビリテーション病院に入職し、患者と自己の理解、関係性の把握に活用してきたが、精神分析系の理論を治療的な関りに用いようとする、病院臨床では使うことが難しい現状に行き当たった。その理由として、治療の枠組みが厳密であること、患者自身が自己を分析し、把握していくためのモチベーションを必要とすること等が考えられた。模索する中で、患者の言動と筆者の心理がちょうどマッチした自己心理学に出会った。本稿では筆者の臨床での経験を通して、これら理論の活用の概要を紹介する
[学会発表]				

事項			年月日	概要
1. 訪問看護師の対応困難事例における困難要素の検討—全国質問紙郵送調査の結果より	—	平成28年7月	第18回日本在宅医学学会（東京）	8カテゴリ28分類に整理した個別面接調査の分析結果と文献検討、グループ対話で得られた結果を含め、岩間の分類を参考に質問項目を作成した。回答数588（回収率29.4%）、うち505（有効回答25.3%）を分析対象とした。65項目について最終的に全40項目、4因子を抽出し、以下の通り命名した。i「家族・利用者の抑制のバランスが保てていない態度」、ii「訪問看護師の能力レベルと組織の協力体制」、iii「利用者・家族の疾患と状態に起因する生活能力の低下」、iv「家族が円滑にケアすることを阻む状況」全体のクロンバック α 係数は0.96であり、各因子のクロンバック α 係数は0.89～0.92で内的整合性は高い結果が得られた。 本人担当部分：質問紙の作成（訪問看護師への個別面接調査と語りの内容からカテゴリの作成とネーミング、文献やグループ対話で得られた結果から質問項目を考えた）、結果分析（因子分析過程におけるデータの絞り込みとネーミング）、発表内容の検討を行った。 共同発表者：武ユカリ、金川治美、小坂素子、西出順子
2. 訪問看護師が感じる困難要素の検討—インタビューによる質的分析と質問紙による量的分析の統合—	—	平成28年8月	第2回 日本混合研究法学会（東京）	訪問看護師は療養者と家族を対象に個別性の高い多様な援助ニーズに対応しなければならず、対応困難事例に遭遇することが多い。文献研究ではこれまで対応困難事例に関する訪問看護領域の研究は少なく、何が困難の要素となっているかについて検討されていなかった。また哲学的対話手法（NSD）による調査では、訪問看護の対応困難事例には非常に複雑な困難要素があるが、それらにはいくつかの抽象的な枠組みがあることが示唆された。そこで本研究では対応策の検討につなげるため、訪問看護師の感じる困難要素の構造を明らかにすることとした。研究方法は、質的研究の結果から訪問看護における困難要素を抽出し、その結果得られた知見をもとに、仮説検証のための量的研究につなげ統合した探索的順次的デザインを用いた。混合研究法を用いることで、より実態に沿った調査を行い、困難要素の構造を明らかにした。本人担当部分：発表内容に関連する研究への関与と発表内容の構成と内容検討。共同発表者：武ユカリ、小坂素子、西出順子、會澤久仁子、金川治美

事項			年月日	概 要
3. 在宅で生活する精神障がい者の支援方法の検討～訪問看護師のストレングスに着目したケアの一考察～	－	平成30年7月	第49回日本看護学会－在宅看護－学術集会（佐賀）	【目的】訪問看護師が精神障害を有する療養者に対して、独自の方法で行っているストレングスに着目した支援方法を明らかにする【方法】[研究対象]A県下の訪問看護ステーション6施設、各施設管理者に推薦された看護師10名[研究期間]平成28年9月～平成29年2月[研究デザイン]質的記述的研究[分析方法]質的統合法（KJ法）【結果】元ラベル74枚から①困りごとは強みに通じるゲート②身体をいたわる③好きなことは現実感覚強化の糸口④自信は新たな希望のエネルギー源⑤望みや願いを第1に守るの5要素を抽出した。【結論】訪問看護師は日々の関りの中で自ずとストレングスに着目しながら支援をしている。時に、利用者の願いや望みが過剰に作用し体調を崩すことにもなるが、あきらめずに将来に希望を持ち共存していく手立てを一緒に探ることが、地域での生活を支えていく上で重要であることがわかった。 本人担当部分：研究計画、文献検討、インタビューガイドの作成とインタビュー、結果分析、考察、発表 発表者：西出順子、木村聡子、鶴飼知鶴、畑吉節未
4. トラウマに関する看護研究の特徴－テキストマイニングによる解析－	－	令和4年7月	第28回日本看護診断学会学術大会 Web開催	【目的】トラウマに関する文献検討から、トラウマの研究の特徴を明らかにし、今後のケアの方向性について検討すること【方法】医学中央雑誌ウェブ版（2022年4月10日現在）（1998年12月～2022年1月）を用いた。検索はトラウマ、看護、原著論文、本文有とした。結果、72件抽出され本研究対象とした。テキストマイニングにより、タイトルと抄録内容について共起分析、コロケーション解析対応分析をして、トラウマ研究の特徴をみた。【結果・考察】多岐にわたる研究（対人ストレス、災害、疾患や出産体験など）がなされ、トラウマの研究の特徴として、「トラウマへの支援」、「様々な外傷に関連するストレス」「ケア行動の効果」「障害の治療」「退院困難な患者の家族への支援」があった。トラウマのケアに対する有効性の研究はほとんどされておらず、今後の検証が期待され、また、看護診断の指標にT I Cの新しい概念を取り入れることも必要と考える。 本人担当部分：結果分析、考察 発表者：上野栄一、西出順子、山崎陸世、高田勝子
5. 高校生のマインドフルネスが心身の健康状態に及ぼす効果の関係性	－	令和5年1月15日	第66回日本心身医学会近畿地方会Web開催	【目的】高校生のストレス軽減法として、マインドフルネス呼吸法に着目し、健康状態に及ぼす効果を検討する。【方法】高校生16名に起床後に5分間の呼吸を2週間実施し、呼吸開始前と14日目健康状態と主観的ストレス度を測定した。また、毎日の呼吸前後に現在の気分を数字で評価し、ノンパラメトリック検定を行った。【結果】2週間後の主観的ストレス19項目中7項目に優位差があり、また、呼吸前後で気分の変化指数が上昇した。本人担当部分：実施準備、データ打ち込み、結果考察 発表者：高田勝子、上野栄一西出順子

事項			年月日	概 要
6. COVID-19感染症拡大の状況下での精神看護学実習における看護学生の学び	-	令和5年3月4日	第27回日本看護研究学会東海地方会	【目的】Withコロナ時代における臨地実習の教育につなげるため、看護学生へのインタビューによる調査を行い、今後の教育の示唆を得ること。 【方法】研究 対象者14名の学生にインタビューを行った。分析はKrippendorffの内容分析法に準じた。 【結果】「病院実習」では、実際に『患者－看護師関係のコミュニケーション』を通して《患者視点へシフト》することで『精神患者の生きづらさを認識』し、【精神看護実習ならではの体験】をしていた。また、受け持ち患者の【看護展開】を通して《意図的な看護ケア》について『自己の未熟さに気づき』ながらも『患者からもらったことば』に感動していた。さらに目標とする『将来の看護師像』ができ【将来への展望】につながった。「訪問看護実習」では、学生は『利用者精神障害の心情を感じ取る』ことで『訪問看護を活用する意義』を深め、【病院から訪問看護へのつながりの実感】があったが【精神科病院イメージ化の困難】を感じていた。「学内実習」では、《事例での看護展開のジレンマと限界》を感じながらも『アセスメントの共有』や『ディスカッションに対する満足感』などの《グループワークの強み》を認識し、様々な【グループワークの長短】があった。また《臨地での体験不足による自信のなさ》から精神看護の【イメージと現実のギャップ】を感じていた。【考察】病院実習とは異なる実習でも、違った視点の学びがあると提示することで学習効果が期待され则认为る。 本人担当部分：インタビュー、カテゴリー生成、結果分析、考察 発表者：山崎陸世、西出順子、高田勝子、上野栄一
7. 新型コロナウイルス感染症下でのメンタルヘルスの研究の特徴	—	令和6年3月16日	第37回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会	新型コロナウイルス感染症下でのメンタルヘルスの研究の特徴 を明らかにすることを目的とした。医学中央雑誌 Web 版にて、キーワード「新型コロナウイルス、メンタルヘルスを設定し、 検索した結果（2023 年 12 月 14 日）、70 件検索され、本文のある 63 件の抄録をテキストマイニングを用いて分析した。単語頻度解析では、「感染」は、「調査」「対象」「パーセント」「結果」、「新型」「コロナ」「ウイルス」と関連しており、新型コロナウイルスは当初、未知のウイルスとされており、新型コロナウイルス感染に対して多くの調査が行われていた。また、不安に関する記述が多く、不安と「COVID19」と「メンタル」「ヘルス」の関連性は高いことが示され、今後のさらなるメンタルヘルスの必要性が示唆されていた。 担当部分：結果分析、考察 発表者：上野栄一、蓮池光人、西出順子

教育研究業績書

令和7年5月 16日

氏名 林 文子 印

研究分野	研究内容	キーワード
看護学	小児看護 小児救急 子ども家庭療養支援	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例 1) 清恵会医療専門学院 ・小児看護学実習指導 ・基礎看護学実習指導 ・精神看護学実習指導 ・事例研究指導 ・クラス担任 ・オープンキャンパス担当 ・国家試験対策実施 2) 宝塚大学看護学部 ・小児看護学Ⅳ（演習） 「小児のバイタルサインズ測定」 「離乳期の児の食事」 「児の抱き方・着衣」 ・小児看護学実習 実習指導 ・基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ 実習指導 ・総合実習 実習指導 ・看護の探求 研究指導（補助） ・成人看護学実習（慢性期）実習指導 ・チューター制度における学生支援 ・国家試験対策補講（小児看護学） ・オープンキャンパスにて看護ミニ体験講座実施小児看護学【子どもの食事】	平成23年～平成24年 平成24年～平成29年 平成26年～平成27年 平成28年～平成29年 平成30年～令和元年9月	清恵会医療専門学院看護科3年生約50名に小児看護学実習を担当し指導にあたった。小児病棟では川崎病、ネフローゼ、気管支喘息、肺炎などに罹患した各発達段階の小児とその家族の看護について指導した。保育所では健康な乳幼児の生活と発達に応じた保育の指導にあたった。「事例研究」では小児看護学領域の研究に臨む学生の指導を行った。クラス担任として2年生約40名を受け持ち、学校生活における学生の管理（成績管理、健康管理、必要時面談など）をとクラス運営を行った。 宝塚大学看護学部3年次生約100～130名のを担当し、小児看護学Ⅳ（演習）「バイタルサインズ測定」「離乳期の児の食事」「児の抱き方・着衣」についての技術演習を担当した。 小児看護学実習では小児病棟および小児外来にて1クール2週間の実習を、10～13グループに分け指導にあたった。小児病棟では、川崎病、ネフローゼ、気管支喘息などに罹患した各発達段階の小児とその家族の看護について指導した。実習最終日には各学生が、「看護上の問題」と「患者の全体像」を発表し、その講評や指導にあたった。 総合実習では小児看護学ゼミ受講学生の小児関連福祉施設や教育機関等での実習の指導にあたった。看護の探求では学生がこれまでの看護の学びから選択し設定したテーマに合わせ、看護研究の指導にあたった。基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの各期の実習で1年次、2年次生に対し指導にあたった。 成人看護学実習では、1クール3週間の実習を毎年2グループ担当し、慢性期疾患を持つ患者とその家族への看護の指導にあたった。2年次生のチューターを担当し、修学状況や就職および健康面の相談など学生生活のサポートにあたった。また必要時保護者を含めた面談を行うなど問題を抱えた学生に対してチューター主任や学生委員会と連携し指導や支援を行った。
3) 大阪堺倭高等学校看護科・看護専攻科 ・基礎看護学実習Ⅱ実習指導 ・老年看護学実習 ・成人看護学実習	平成26年～平成27年	大阪堺倭高校の看護科および看護専攻科の学生約30名に、基礎看護学実習Ⅱ、老年看護学実習、成人看護学実習の各領域実習を担当し、担当する学生の臨地での指導と学内演習の実技指導にあたった。
4) 太成学院大学 ・小児看護学実践実習	平成28年～平成29年	太成学院大学看護学部の学生に対して小児看護学実践実習の指導にあたった。病棟では主にウイルス感染による呼吸困難や消化器症状のある児への看護を展開した。またレスパイト入院を利用する児の管理と家族への対応に触れる機会もあり、児を中心とした家族看護について考える機会となった。小児外来では、見学実習を展開した。疾患に罹患した児とその家族への家庭療養への支援、小児の発達・発育を支える役割・機能について学習できた。
5) 奈良学園大学保健医療学部看護学科 ・基礎看護技術演習Ⅰ 「活動を支える援助技術」 「睡眠と休息を支える援助技術」 ・基礎看護技術演習Ⅱ・Ⅲ 「栄養と食生活を支える援助技術」 「総合演習」	平成30年～令和元年9月	奈良学園大学保健医療学部看護学科1年次生約90名に対し、基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ「活動と運動」「睡眠・休息」「食事と栄養」「総合演習」を担当し講義・演習を行った。また2年次生約90名に対して基礎看護技術Ⅱの「食生活を支える技術」を担当した。各単元の講義では療養生活を支える必要な援助に関する基礎的知識と概念について教授し、演習では学生間で模擬患者と看護師となり、安全・安楽に基づいた技術を展開し習得できるよう指導にあたった。

・基礎看護学実習Ⅰ ・基礎看護学実習Ⅱ	平成30年 ～令和元年9月	基礎看護学実習Ⅰでは、一年次生が実習病院施設をととして医療と看護の組織および役割について学習した。対象者の治療・看護の提供場面を見学し、ケアの一部実施およびコミュニケーションを経験することで、対象者の生理的・精神的・社会的側面の理解を深めることができた。
・統合看護実習	令和3年～	基礎看護学実習Ⅱでは、2年次生が看護過程演習で学修した看護過程を用いて、対象者に必要とされる援助を計画し、実施、評価を行った。また既習の看護技術の知識を活用し、対象者の安全・安楽・自立に基づいた技術の実践を行った。学生の対象者との関わりを通して基本的な援助的關係についても養うことができた。
・卒業研究Ⅱ	平成30年 ～	統合看護実習は、学生の興味関心のある分野から課題を見出し探求していくため自ら実習を設計し、その内容に応じて病院施設を選択し展開した。4年生3～4名を担当し、卒業研究でも継続して指導した。
・基礎演習Ⅰラーニングスキルズ	平成31～令和元年 令和7年～	卒業研究の指導では、学生が自らテーマを設定し問題提起したことについて関連する既存の研究論文を用いて分析する過程を指導した。学生の主体性で調査・思考することによって論理的な思考方法を身に付けることができた。
・小児看護学実習 ・小児看護援助論 ・小児看護援助論演習	令和元年 10月～	基礎演習Ⅰでは、1年次生7～9名の小グループで大学生活における学習方法の演習を行った。文章の構成や学術論文の検索、読み方などを学習し、個々の学生が助言・指導のもとに興味関心のあるテーマを設定し、各自で文献検索を行い調査したことについてグループディスカッションを行いテーマと課題について深めた。レポート作成の指導を行った。
		3年次生約80名に対し、小児看護学実習を担当し指導を行った。小児病棟では川崎病、ネフローゼ、気管支喘息、肺炎などに罹患した各発達段階の小児とその家族の看護について指導した。保育所では健康な乳幼児の生活と発達に応じた保育の指導にあたった。
		2年次生約90名に対し、小児看護援助論の授業を担当した。健康障害および治療や入院が子どもと家族に及ぼす影響をとらえ看護の方法・支援の在り方を、小児期に必要な看護の理論を用いて検討していけるよう授業を行った。
		3年次生約80名～90名に対し、小児看護援助論演習の授業を担当した。小児と家族への看護過程の展開方法と、基本的な看護技術について演習形式の授業で学習した。看護過程展開演習では、紙上事例を通して、健康障害をもつ小児と家族のニーズのアセスメントと看護支援の方法を理解し、看護支援を学習した。技術演習では、発達段階を踏まえた基本的小児看護技術をシミュレーター等を用いて学習した。
2 作成した教科書，教材 1)宝塚大学看護学部 ・小児看護学実習要項 ・実習オリエンテーション資料 ・講義資料（国家試験対策用問題） ・オープンキャンパス【体験講座】資料 「子どものバイタルサインズ測定」		宝塚大学看護学部小児看護学実習要項（平成25年度以降）の作成にあたり、実習目標の検討やスケジュールの設定および記録類を作成した。また、東大阪市立医療センター小児病棟実習の導入にあたり、臨床との打ち合わせや事前研修を行い、各種資料およびオリエンテーション資料を作成し、学生の指導に用いた。その他、市立池田病院、北野病院においても同様に資料を作成し、臨地での実習の進行および学生指導を行った。小児看護学の講義に使用する資料の一部として国家試験問題の作成を担当した。オープンキャンパスでは「子どものバイタルサインズ測定」を参加者が体験するための資料を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
5 その他 1)宝塚大学看護学部 ・小児看護学実習施設の開拓	平成26年 10月	宝塚大学看護学部小児看護学における臨地実習病院として、市立堺病院・大阪労災病院を実習病院として新たに開拓し、実習を行った。
職務上の実績に関する事項		

事項	年月日	概要

1 資格，免許 看護師資格取得		看護師免許看護師免許取得（第857665号）
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		なし
4 その他 1）宝塚大学看護学部活動 ・FD委員会 ・キャリア委員	平成25年 ～平成28年	宝塚大学看護学部にてFD委員会、キャリア委員会に所属した。FD委員会では教員の研修企画や開催にあたった。キャリア委員会では、卒業生にチャトル研修を開催し「若手看護師のためのキャリアアップ研修」を実施するなどの活動を行った。
2）奈良学園大学保健医療学委員会活動 ・学生部会（平成31年3月まで） ・自己点検・評価委員（平成30年～令和2年3月） ・国家試験対策委員（平成31年～令和2年3月） ・実習ワーキング 3）地域貢献活動 ・厚生労働省小児救急電話相談（＃8000） 大阪府小児救急電話相談相談員 ・NP0法人小児救急サポートネットワーク認定員 ・大阪府小児救急電話相談マニュアル 改訂 ・病院における電話対応スキルアップ研修会ファシリテーター ・お父さんに役立つ育児セミナー “子どもの病気やケガの対処”－＃8000での相談 ・第30回日本外来小児科学会年次集会ワークショップ9 〈電話相談から学ぶクリニックの電話対応〉	平成30年 ～現在に至る 平成19年 ～現在に至る 令和2年 ～ 令和3年8月	奈良学園大学において、学生部会に所属し部会の活動を行った。主な活動は、新入生研修の計画、運営、引率を行い、その他の学年では学生への問題対応、研修会の開催、意見収集など学生生活にかかわる諸々の業務を行った。 自己点検・評価委員に所属し、会議を通して白書の見直し点検や作成作業に携わった。 国家試験対策委員に所属し、定期的な会議に出席し、各学年の国家試験対策に関する検討と過去の成績の分析、ガイダンスでの説明、模試を実施しするなどに携わった。 実習ワーキンググループに所属し、担当領域を代表し、全領域の実習における計画、学生や施設の配置調整および課題を検討するなど、実習の進行に携わった。特に令和2年以降、新型コロナウイルス感染症流行のために、これまでの実習が困難となり、そのための実習施設の変更や学内実習における教育内容の検討など繰り返し審議を繰り返し、学生の教育の保証に努めた。 厚生労働省小児救急電話相談事業（＃8000） 大阪府小児救急電話相談の相談員として、子どもに起きる突発的な病気やケガについて家庭での療養方法や対処について相談を受けている。保護者の子どもの症状の緊急性についての判断支援となっており、全国的に利用件数は毎年増加している。 子どもの救急電話相談に携わる相談員の対応マニュアルの改訂について携わった。 「病院における電話対応スキルアップ研修会」にて、患者や家族への医療従事者の対応力向上のための講座にてファシリテーターを務めた。 「お父さんに役立つ育児セミナー」にて、子どもに起きる病気や突発的なケガの対象方法、また＃8000の活用方法方法などを紹介した内容の講演を行った。 クリニックへの電話を介する会話と顔の見える会話の印象の違いを体験し、電話の会話の注意点を学ぶと共に、子どもと保護者の立場に立って話をよく聴くことの大事さとスキルを考えるワークショップのメンバーとして、開催に携わった。開催はコロナ禍のためWEB開催となった。参加者13名であった。

研究業績等に関する事項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書） 1、なし				
学術論文 1、小児救急電話相談（＃8000）における電話相談員の職務満足に関連する因子の探索（修士論文）	共著	平成29年3月	和歌山県立医科大学	子どもの急病時などに家庭での対処を保護者に支援する、小児救急電話相談（＃8000）の相談員370名を対象に、相談対応の向上を図るために質問紙調査を行った。まず質問紙作成のため相談員に予備調査を行い、データから電話相談の職務満足概念を質的分析し抽出した。その内容から54問の質問項目を作成し、コミュニケーション・スキル尺度および自己肯定感尺度を使用し調査を行った。回収した質問紙よりデータの因子分析を行ったところ、電話相談員の職務満足は【肯定的感情】【労働環境】【自律性】からなる23項目の尺度で構成された。また【肯定的感情】には自己効力感やコミュニケーション・スキルおよび相談に必要な電話対応スキルなど電話相談の実践そのものと関連しており、電話相談対応の向上には職務満足が有用であることが明らかとなった。そのため相談員が従事する環境を調整することや、それに向けた支援の重要性が示唆された。 共同研究者：林 文子、内海みよ子

2、卒業して8か月目及び2年目の看護師に対するキャリアアップ支援の試みーアサーティブネス研修を実施してー	共著	平成29年3月	宝塚大学要ARTES No30	A大学卒業生のキャリアアップ支援として、組織人としての役割を考えることを目的に、卒業して8か月目及び2年目の卒業生を対象とした合同研修を行った。研修参加者のアンケートより、アサーティブネスという概念から、他者の権利を守りながら自分の権利を守り、自分の意見を伝えることの大切さを学んだ。卒後8か月目の参加者は、先輩と話をし、1年後の姿を予測できた。卒後2年目の参加者は、1年前の自分を振り返り、自分の成長を実感するとともに、職場の後輩への接し方を考えていた。それぞれの立場で重要と感じる点や考える視点は異なるが、お互いの考えを知ること、職場におけるチームワークへの理解が深まった。研修の意義を実感し、今後も継続する必要があると考えられた。 共同研究者：美王真紀、岩下真由美、岡和美、江口秀子、合田友美、寺田准子、大和志麻、福島美幸、上田裕子、林文子、人見啓江、西絵里 担当部分：データ分析
3, 健康な高齢者におけるケリーパッドを用いた安楽な洗髪姿勢時の股関節・膝関節の屈曲角度、及びそれら角度と基本属性の関連（原著論文）	共著	令和 2 年	日本健康医学会雑誌	健康な高齢者において、ケリーパッドを用いた仰臥位での洗髪援助時に、安楽だと感じる股関節及び膝関節の関節屈曲角度を明らかにし、それら角度と対象者の基本属性との関連について検討した。 対象者は 51 名の高齢者で、バイタルサイン、基本属性、関節角度に関するデータを収集した。 1) 人が安楽だと感じる股関節の平均屈曲角度は 34.7 ± 9.6 度、膝関節の平均屈曲角度は 73.2 ± 20.1 度である、2) 人が安楽だと感じる股関節と膝関節の屈曲角度のバランスは、股関節の屈曲角 度に対し膝関節の屈曲角度が平均 2.1 ± 0.3 倍である、3) 股関節・膝関節の屈曲角度は、性別や年齢、体 格（身長、体重、BMI、体脂肪率、大腿長、下腿長）を含む基本属性と相 関関係を認めない、4) 大腿長の 長さからみて高値群と低値群では股関節の屈曲角度に差が あ り、高値群のほうが低値群より有意に値が小さい ($p < 0.05$)、ということが明らかとなった。以上から、今後実際にケリーパッドを用いた仰臥位での洗髪援助時に股関節や膝関節の屈曲角度を決定する際には、本研究結果を活用されることが望まれる。木村静 澤田京子、上山直美、葉山有香 、林文子、中馬成子 担当部分：データ分析
(学会発表) 1、慢性疾患児との対応経験と担任の対応の分析（査読あり）	共著	平成26年 8月30日	日本育療学会第18回学術集会（於新潟県）	慢性疾患児に関わる教育機関関係職種の役割を明確にし、連携を円滑に進めるために質問紙調査と面接調査を行った。慢性疾患児と身近に関わっている担任の対応を分析し、学内体制としての担任への支援の方法を検討したところ、各担任は児に対する配慮や対応策など情報共有の工夫をしていた。そのため、管理職の統率力により連絡調整の方法や連携プログラムが明確なことなどが学内体制の充実につながることが明らかになった。 共同研究者：河合洋子、中塚志麻、大見サキエ、横田雅史、津田聡子、林 文子、江村多加子 担当部分：データ分析

2、健康な女性高齢者における床上仰臥位での洗髪時の膝関節屈曲の有無が対象者の感覚に及ぼす影響の違い 科学研究費助成事業(若手研究B、15K21536)分担	共著	平成30年12月 15日	日本看護科学学会第38回学術集会 (於愛媛県)	健康な女性高齢者に対し仰臥位でクリーパッドを用いた洗髪援助における膝関節の屈曲の有無が対象者の感覚に及ぼす影響の違いについて調査した。対象者（12名）の年齢は70.5（±1.8）歳（平均値±SD）であった。感覚データでは大腿・下腿の筋の緊張感において伸展群は34.9（±10.5）点、屈曲群は5.1（±2.1）点で、屈曲群のほうが伸展群より筋の緊張感が低く、有意差を認めた。（p=0.021）姿勢の安心感では、伸展群は58.7（±11.1）点、屈曲群は94.5（± 1.9）点で、屈曲群のほうが伸展群より安心感が 高く、有意差があった。（p=0.021）したがって 仰臥位での洗髪時に膝を伸展するよる屈曲したほうが、足にかかる筋の緊張感が有意に少なく、安心感が得られることが科学的に明らかとなった。今後は対象者数を増やすことや身体的な影響も含めて総合的に検討すること、さらに実際にベッド上で洗髪援助を受けている高齢者を研究対象者として研究を進めていくことが課題として考えられる。 共同研究者：木村静、澤田京子、大江真人、上山直美、葉山有香、平野加代子、林文子 担当部分：データ分析
3、女性高齢者における仰臥位で洗髪援助を受けるときの股関節と膝関節の屈曲の有無が、血圧と脈拍に及ぼす影響についての検討 科学研究費助成事業(若手研究B、15K21536)分担	共著	平成31年3月9日	日本看護研究学会第32回近畿北陸地方会学術集会	健康な女性高齢者に対し仰臥位でクリーパッドを用いた洗髪援助における膝関節の屈曲の有無が対象者の血圧と脈拍に及ぼす影響について調査した。屈曲群→伸展群の順で実施した者が6名、伸展群→屈曲群で実施した者が6名であった。洗髪前後の比較は、血圧では有意差がなかったが、脈拍では屈曲群において前81.3（±11.6）回/分が、後69. 1（±9.8）回/分に、伸展群において前82.0（±10.6）回/分が後71.0（±10.4）回/分、2群ともに洗髪前後で有意差があった（p=0.001、p=0.000）各側手項目の変化率における2群の比較では全て有意差は認めなかった。したがって女性高齢者では仰臥位で洗髪援助を受ける際、洗髪前より洗髪後に脈拍が有意に減少するが、膝関節の屈曲の有無によって脈拍の減少における有意な違いは認めないことが明らかとなった。今後は対象者数を増やすことや心理的な影響も含めて総合的に検討すること、さらに実際にベッド上で洗髪援助を受けている高齢者や療養患者を研究対象者として研究を進めていくことが課題として考えられる。共同研究者：木村静、澤田京子、大江真人、上山直美、葉山有香、平野加代子、林文子 担当部分：データ分析
4、ベッド上仰臥位での洗髪時における安楽な膝関節および股関節の屈曲角度と基本属性との関係 科学研究費助成事業(若手研究B、15K21536)分担	共著	令和元年8月20日	日本看護研究学会第45学術集会 (於大阪)	健康な高齢者がベッド上仰臥位で洗髪援助を受ける際に安楽だと感じる体位における 股関節と膝関節の屈曲角度と、それら角度と基本属性との関係について調査した。対象者は女性高齢者12名であった。対象者が安楽であると感じる関節の屈曲角度は、正規分布を辿ると仮定され、股関節では 42.3±7.9 度、膝関節では 88.4±20.4 度であった。また、股関節と膝関節の屈曲角度はともに BMI と体脂肪率と負の相関関係が認められた($\gamma=-0.60\sim0.67$ 、 $p<0.05$)。以上から、仰臥位での洗髪援助時には、上記、安楽な股関節や膝関節の屈曲角度に調整することを目安とし、BMI や体脂肪率の値が高いほど関節屈曲角度は低くなることが示唆された。共同研究者：木村静、澤田京子、大江真人、上山直美、葉山有香、平野加代子、林文子 担当部分：データ分析

5. A県で小児救急電話相談（#8000）に携わる相談員の様相	共著	令和2年 3月21日	日本看護研究学会第33回 近畿・北陸地方学術集会	A県の小児救急電話相談に携る看護師を対象に電話相談の職務状況、経験上の思いや考えを質問し、電話相談の職務の様相を調査した。アンケート内容を質的記述的に分析しカテゴリー分類した。＜子どもの救命・救急医療に貢献している＞＜保護者の対処行動が向上される＞＜保護者の思いに応える＞＜保護者の不安や問題が解消・軽減される＞＜現代の子育て環境に対応する＞＜対応力を向上したい＞＜管理やサポート環境が重要＞＜救急医療と電話相談のあり方＞の8つのカテゴリーが抽出された。A県の相談員の職務は、様々な育児環境にある保護者のニーズの把握と救急医療情勢を相互させ、保護者に適切な相談ができるよう駆使していた。電話相談員が保護者のニーズに応え、力の発揮ができるよう支援する必要性が示唆された。共同研究者：林文子、木村静香
6. 仰臥位での洗髪援助についての文献レビュー	共著	令和2年 3月21日	日本看護研究学会第33回近畿・北陸 地方学術集会	仰臥位での洗髪援助における研究の動向を調査した。健康な者を対象とした研究が9件、患者を対象とした研究が8件（心疾患と切迫流早産が各3件、貧血が2件）であり、対象者数では5～80名の範囲であった。洗髪の方法では、洗髪台を使用した研究が6件、ケリーパッドを使用した研究が5件であった。「洗髪車を利用」「ベッド上」「膝の下や頸部に枕を使用」など具体的な記載もみられた。また、血圧、脈拍、呼吸数などの客観的指標や、苦痛、爽快感、疲労感などの主観的指標が測定されていた。さらに、「腹部の張り」「筋の緊張」「血圧や心拍数への変動」が生じたという研究もあったが、仰臥位での洗髪援助の安全性や安楽性が確認できたという研究結果が多かった。 仰臥位での洗髪援助の先行研究では、臨床研究は全体の半数程度であり洗髪台やケリーパッドでの検討が多い。対象者の負担を主観及び客観的指標から検討している。洗髪の安全、安楽を確認する研究結果が多いことが明らかとなった。研究者：木村静、葉山有香、林文子、上山直美、澤田京子 担当部分：データ分析
7、Literature review on the psychological effects of hair-washing support on subjects	共著	令和2年2月	The 6th Internathional Narsing Reserch Conference of Nursing Science,	(Purpose) TTo examine the research trends in Japan on the psychological effects of hair-washing supporton subjects.(Methods) Using Ichushi-Web without restrictions regarding the year of publishing (but excluding conference proceedings, meeting minutes, review articles, and commentaries), we performed searcheswith the keywords “hair washing” and “body position or posture.” Next, we narrowed the results to16 papers that dealt with the psychological effects on subjects who underwent hair washing (search date: February 6, 2019). Thereafter, the trends in these previous studies were observed (Results) Eight studies targeted healthy persons and eight studies targeted patients with disease (including three cases of threatened premature delivery). The number of subjects ranged from 5 to 80. Body positions examined included the supine position, sitting position, Fowler’s position, lateral position, and prone position; of these, the supine position was most common, with 11 hits. Subjects’ emotions such as distress, fatigue, exhilaration, postural stability, etc. were measured. The supine position and Fowler’s position were associated with many positive emotions, such as relaxed, easy, and “no oppressive” feelings, while the sitting position was associated more often with more negative emotions, such as tiredness, fatigue, and pain .(Discussion) Examination of extant research on various hair-washing positions and psychological evaluation indicators grouped according to the subjects’ condition revealed that each position waschosen to maximize the comfort of subjects. However, due to the limited number of references

8. 小児救急電話相談（#8000）における電話相談員の職務満足を構成する 概念の検討	共著	2020年11月 6日	第67回小児保健協会学術 集会	小児救急電話相談（#8000）に携わる相談員の職務満足を構成する概念を明らか職務環境の在り方および向上への示唆を得る。調査は平成 28 年 4 月から 5 月で、参加者は小児救急電話相談に 5 年～10 年携わっている看護師の資格を有する相談員 13 名であった。参 加者にはアンケート用紙を用いて、電話相談の職務について、やりがいや満足感あるいは使命感や誇りを感じたこと、環境について改善して欲しいことなどを質問し、自由記述による回答を得た。【結果】相談員の職務満足の概念は、仕事に対するやりがいや誇り、使命感などからなる〈仕事に対する肯定的感情〉〈仕事の成果の確認〉〈#8000 の在り方・存在意義〉と、専門性の発揮や良い相談を行うことに関する〈相談員としての自律〉〈充実して仕事ができる環境〉の5つのカテゴリーで構成された。【考察】参加者は、子どもの病状に対する保護者の不安や疑問が電話相談によって解消されたことで〈仕事の成果の 確認〉がなされ、保護者から得られる良い反応に対し てやりがいや満足感を得ることができ〈仕事に対する肯定的感情〉を抱いていた。さらに子育てをする保護者への支援として〈#8000 の在り方・存在意義〉の高さを認識 し、良い相談が行えるよう自己の課題や目標を見出し、〈相談員としての自律〉の意識が、仕事を向上させる努力として発揮されていた。そして同僚や管理者による周 囲からのサポートは〈充実して仕事ができる環境〉として相談員を支えていた。電話相談の専門的知識や相談のスキルが発揮され、相手から得られる反応によって良い 相談ができたことを認識し、肯定定な感情を抱くとともに相談員という専門的な職務の意識を高めていた。それが相談員の満足につながっていることが考えられた。【結論】相談員が力を発揮し質の高い相談を行うためには、職務満足の検討が有用であることが示唆された。林 文子、内海みよ子、松山恵美子、宮下佳代子、木村 静
9. 大阪府小児救急電話相談（#8000）に寄せられる新児についての相談内容	共著	2020年11月 6日	第67回日本小児保健協会学術集会	2018年度大阪府#8000には58,694件（1日平均160.8件）の相談が寄せられ、新生児に関する相談は772件（4.6%）である。新生児期の相談は育児相談に分類される内容が主で、相談件数は2017年度81件、2018年度155件と倍増している。そこで新生児についての相談内容を分析し、保護者の不安の要因を明らかにした。2018年度大阪府小児救急電話相談#8000への新生児の育児相談の内容について音声データ（148件）を週数別に分析した。生後1週までの新生児の相談内容は「37.5度前後の体温」「呼吸が変ではないか」、生後2週では「首を反らして抱っこしてしまった」「ずっと寝ている」「ミルクの量」、生後3週では「ミルクを噴水状に吐いた」、生後4週では「おなかが張っている」との相談が多かった。相談員は夜間救急への受診の可否の判断について返答 することが多いが、新生児の相談の場合は帯下など新生児期特有の知識が必要とされる。また保護者も相談内容をどのように伝えたらよいのか迷い言葉が明確でない場合がみうけられた。近年、産後入院期間の短縮や個室入院が多くなり、新生児を養育する保護者は、日々変化する子どもの様子に異常ではないかと戸惑いながら自身の育児に不安をもち#8000へ相談している。#8000事業の認知が広がり活用に繋がっていることは、育児不安から情緒不安定や育児放棄(虐待)に陥る保護者を援助する手立てとなりうる。しかし#8000事業を利用する保護者のニーズは、適切な受診の判断と育児支援と幅広く、新生児期の子どもをもつ保護者の困りごとや不安に十分に寄り添い対応するには専門的な知識が必要である今後、#8000事業は出産した産院・地域の保険センター・助産師会・産婦人科医会とも連携し新生児期の育児相談に対応できるような体制となることが望ましい。宮下佳代子、的場仁美、林文子、阿部榮子、福井聖子

10、小児救急電話相談（＃8000）への発熱に関する相談の分析～子どもの状態と相談に至る背景～	共著	2021年3月 21日	第34回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会	＃8000への発熱の相談内容と子どもの状態を分析し保護者のニーズと有用な電話相談対応を検討する。2018年度A県＃8000への5歳以下の子どもの発熱の相談で、〈熱の高さ、機嫌、食事水分、摂取量、睡眠状況、排尿状況の全身状態に関する5項目を聞き取った3284件を分析対象とした。分析は、全身状態5項目と〔相談目的〕、症状の〔開始時期〕、受診や家庭療養など保護者への勧奨を〔対応〕としたカテゴリごとに集計し、χ^2 検定を用いて検証した(p<0.05)。【結果】発熱に関する保護者の〔相談目的〕は“受診について”2732件(83.9%)が多く、摂取、睡眠状況、排尿状況に差を認めた(p<0.00~0.05)。症状の〔開始時期〕では“今起こった”が1290件(39.5%)と最も多く、熱の高さ摂取量、機嫌に差を認めた(p<0.00~0.05)。〔対応〕は“これから受診”となる事例が311件(9.6%)あり、〈摂取量〉;排尿状況に差を認めた(p<0.00)。子どもの全身状態の詳細は、体温“38.5℃以上”での相談が2640件(80.4%)と最も多く、〔機嫌〕は“普段通り/少し元気がない”が1291(39.3%)、〈摂取量〉は “普段通り” 929件(28.3%)、〔睡眠状況〕 “眠れる”が941件(28.7%)であった。【考察】5歳以下の子どもの発熱では38.5℃以上での相談が多く熱の高さに不安を抱き電話相談の利用に至るが症状の開始時期や機嫌・摂取量など保護者が相談に至った経緯にはばらつきがあり、発熱に伴う全身状態の悪化や受診を勧奨する事例は少ない。【結論】5歳以下の子どもの発熱に関する相談は、子どもの全身状態を保護者と一緒に丁寧に確認し、保護者の相談目的と不安の詳細を把握し、子どもへの有効なケアにつなげる必要がある。宮下佳代子、林文子（データ分析）
11、健康な男性高齢者の仰臥位での洗髪姿勢時における安楽な股・膝関節屈曲角度と下肢長、下肢周囲径との関係についての検討	共著	2021年3月 21日	第34回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会学術集会	健康な男性高齢者が仰臥位での洗髪姿勢時に安楽だと感じる股・膝関節の屈曲角度、下肢長、下肢周囲径の関係を明らかにする。データ収集期間は2019年11～12月であった。対象者はA市シルバー人材センターに登録のある男性高齢者27名であった。測定項目は年齢、バイタルサイン(以下VS)、下肢長(大腿長、下腿長)、下肢周囲径(大腿周囲径、下腿周囲径)、左右の股・膝関節の屈曲角度であった。測定手順は、まず下肢長、下肢周囲径を測定した。次にベッドに仰臥位にて臥床後、頭部にケリーパッドを挿入し、対象者の最も安楽な体位における股・膝関節の関節屈曲角度をデジタル角度計(シンワ測定社製)で測定した。分析方法は、測定項目間で相関関係をみた(Pearsonの相関係数)。統計学的分析はSPSSを使用し、有意水準はp<.05とした。【結果】年齢は73.3±4.4(平均値±SD,以下同様)歳で、VSに問題はなかった。股関節は53.5±5.9度、膝関節は107.7±10.3度、大腿長は37.5±2.6cm、下腿長は38.1±2.5cm、大腿周囲径は43.4±2.7cm、下腿周囲径は35.1±2.7cmであった。関節角度と下肢長や周囲径との間には相関関係がなかったが、股関節と膝関節の屈曲角度では正の相関関係があった($r=0.91$,$p=0.000$)。【考察・結論】安楽な洗髪体位における股・膝関節の屈曲角度は対象の下肢長や周囲径とは関連がないことがわかった。また、股関節の屈曲角度が大きくなれば膝関節の屈曲角度も大きくなり、両者は関連性を持ちながら安楽な体位を保持することが示された。今後は、下肢以外の体格や身体組成も含めた詳細な検討が望まれる。本研究は同志社女子大学学術研究奨励費による助成を受けた。 木村 睦、和泉 佳枝、荒山 友香、原 錦三子、林 文子、假谷 真由美

12、小児救急電話相談（#8000）の実践とコミュニケーションスキル、自己効力感との関連	共著	2021年3月 21日	第34回日本看護 研究学会近畿・北 陸地方会学術集会	小児救急電話相談（#8000）に携わる看護師の電話相談の実践に関連する要因を明らかにする目的で、# 8000事業に属する看護師211名を対象に質問紙調査を実施した。調査は①電話相談実践状況（7項目）②特性自己効力感（23項目）③コミュニケーションスキル（6下位因子、24項目）、看護師の背景要因には実践年数、小児看護経験の有無、研修参加状況、マニュアルや地域医療情報の充実感を質問した。分析は、背景要因との関連に Mann- WhitneyのU検定、一元配置分散分析を行った。①②③の各合計得点を算出し、Spearmanの順位相関分析を実施した。①との関連を認めた変数の重回帰分析（Stepwise法）を行った。統計学的分析はSPSS（Ver. 26.0）を使用した（ $p<0.05$ ）。【結果】電話相談の実践「子どもをとらえる適切なトリアージ」「保護者の不安や相談の趣旨の理解」「家族を含め子どもの症状をとらえる」「相手が理解し納得できる話し方」「状況に応じた家庭内療法の提供」「地域医療を考慮した臨機応変なアドバイス」の6項目に、③の総得点、下位因子「読解力」「他者受容」「関係調整」との相関を認めた（ $r=0.33\sim 0.44$ ）。また背景要因「地域医療情報の充実感」に有意な差を認めた（ $p<0.00\sim 0.04$ ）。自己効力感との相関は認めなかった。①を従属変数とした重回帰分析では、②下位因子「読解力」が特に影響しており、（ $\beta=0.013\sim 0.386$ 、 $p<0.001$ ）。電話相談の実践には、子どもの看護の専門知識と保護者の声を理解し対話によって進めるコミュニケーションを活用し、家庭状況やニーズの把握、地域医療の情報提供を充実して行うことが重要と考えられた。電話相談の実践は、看護師のコミュニケーションスキルと地域医療情報提供の充実に関連し、電話相談の促進には、これらの向上の必要性が示唆された。林 文子 木村静
13、小児救急電話相談（#8000）に携わる看護師の肯定的感情と実践およびコミュニケーションスキルとの関連	共著	2022年3月14日	第35回日本看護研究学会近畿・北陸地 方会学術集会	小児救急電話相談（#8000）に携わる看護師の肯定的感情と実践およびコミュニケーションスキルとの関連を明らかにする。#8000に携わる看護師229名（有効回答率69%）を対象に、①肯定的感情と②電話相談の実践スキル「トリアージ」「保護者の不安や趣旨の理解」「話の聞き方」「話し方」「家庭内療法の提供」「地域医療受診のアドバイス」の6項目、および③コミュニケーションスキル因子「読解力」「他者受容」「関係調整」との間に正の相関関係を認めた（ $r=0.30\sim 0.43$ ）。看護師は電話相談に求められる実践力とコミュニケーションを駆使し、様々な相談および子どもと保護者の不安や問題の解消に対して、やりがいや成果などの肯定的な感情を感じていることが明らかとなった。さらに適切なトリアージやアドバイスなどの必要なスキルについて、自身の判断や経験が役立ち活かされることで、電話相談への肯定感が高められてる可能性が示された。これらのスキルを獲得していく取り組みの充実が必要であると考えられた。林 文子、木村静

14. 小児救急電話相談(#8000)における電話相談院の職務満足に関連する因子の探索	共著	2022月7月9日	日本小児看護学会第32回学術集会	【目的】#8000電話相談員の職務満足に関連する因子の探索を目的とした。【方法】#8000電話相談員370名を対象に無記名自記式質問紙調査を行った。調査は、職務満足に関する質問54項目、特性自己効力感23項目、コミュニケーションスキル24項目、電話相談実践状況7項目、属性には年齢や性別、小児看護や電話相談の経験年数、従事する理由等を質問した。職務満足に関する質問は相談員を対象とした予備調査から質的分析により構成した。分析は、職務満足を因子分析により抽出し、信頼性と妥当性を検証した。次に属性、特性的自己効力感、コミュニケーションスキルを各変数とし、職務満足と相関および有意な差を示した変数との重回帰分析を行い、職務満足に関連する要因を検証した。本研究は所属機関の倫理委員会の承認を得た。開示すべきCOI関係にある企業および団体等はない。【結果】調査は有効回答のあった229名（有効回答率62%）であった。相談員の職務満足は、第1因子(11項目) やりがいいや使命感などで集約する【肯定的感情】、第2因子（6項目）従事する職場の環境で集約する【労働環境】、第3 因子(6項目) 仕事の向上意欲などで集約する【自律性】の3因子構造であった。各因子のクロンバックα係数は0.8以上を示し、信頼性が検証され、因子分析の結果から構成概念妥当性が検証された。重回帰分析では【肯定的感情】に、コミュニケーションスキル下位因子「関係調整」、電話相談の実践「子どもの症状をとらえる適切なトリアージ」「保護者に共感する話し方」「地域医療を考慮した臨機応変なアドバイス」と「特性的自己効力感」「今後の飛躍や展望」が関連していた。【結論】相談員の職務満足は、相談の実践状況や職場環境に関する内容が示され、仕事の発揮や向上には職務満足を高めることへの有用性が示された。
15. 洗髪が頭皮・頭髪の清潔に及ぼす影響に関する文献レビュー	共著	2024年3月16日	第37回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会	文献検討により、洗髪が頭皮・頭髪の清潔に及ぼす影響を明らかにする。研究対象者の属性は、入院患者が8件(53.3%)、大学生など健康な者が6件(40.0%)、人毛モデルが1件(6.7%)であった。対象者数は、1～10名が7件(46.7%)、11～30名が3件(20.0%)、31～50名が4件(26.7%)、51名以上が1件(6.7%)であった。洗髪方法：洗髪方法は、クリーパッド、洗髪車が各5件、洗髪台と洗髪椅子が3件、シャワー入浴装置、入浴用車椅子が各2件、記載無しが5件であった(複数回答)。洗髪の手順や手技は、記載有りが6件(40.0%)、無しが9件(60.0%)であった。清潔に関する測定項目：細菌(ブドウ球菌のみを含む) が7件、落屑量・フケが6件、頭皮の皮脂量が4件、陰イオン界面活性剤残留濃度が3件、他にATP値、pH値、頭皮の水分量、頭皮の発赤の有無などがあった(複数回答)。また、これら項目の測定時期は、洗髪前後での測定が9件、洗髪後のみの測定が7件であった(複数回答)。清潔に関する研究結果：洗髪前後で測定値を比較した9件では、洗髪後、頭皮・頭髪が清潔になったと評価した文献は5件、清潔効果が評価できなかった文献7件、髪型により評価に差を認めた文献1件であった。洗髪方法では、洗髪援助で一般的に用いられるクリーパッドや洗髪車、洗髪台での検討が多い一方、手技を含め洗髪方法が不明な文献も多く、今後は手順を明確に示し、洗髪方法による差の検討も必要だと考えた。測定項目では落屑量や発赤など研究者の視覚的な観察項目による判定や、洗髪前後の測定値を比較していない研究もあり、今後、看護技術のエビデンス構築に向けて、より客観的で再現性の高い測定指標を用いた検証が望まれる。さらに、研究結果では、清潔効果を認めた文献より、確認されない文献が多く、髪型による差もみられた。対象の条件によって選択すべき洗髪方法や手順が異なる可能性もあるため、効果が認められなかった先行研究における対象者や洗髪方法の特徴を踏まえ、より清潔効果の高い個別的な洗髪方法の検討が必要であると考えた。 科研費(基盤研究C、科研番号23K09851)による研究助成を受けた。木村 静、和泉美枝、葉山有香、岡崎和子、林文子、眞鍋えみ子

16. 洗髪が頭皮・頭髪の清潔に及ぼす影響に関する文献レビュー	共著	2024年3月16日	第37回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会	文献検討により、洗髪が頭皮・頭髪の清潔に及ぼす影響を明らかにする。研究対象者の属性は、入院患者が8件(53.3%)、大学生など健康な者が6件(40.0%)、人毛モデルが1件(6.7%)であった。対象者数は、1～10名が7件(46.7%)、11～30名が3件(20.0%)、31～50名が4件(26.7%)、51名以上が1件(6.7%)であった。洗髪方法：洗髪方法は、クリーパッド、洗髪車が各5件、洗髪台と洗髪椅子が3件、シャワー入浴装置、入浴用椅子が各2件、記載無しが5件であった(複数回答)。洗髪の手順や手技は、記載有りが6件(40.0%)、無しが9件(60.0%)であった。清潔に関する測定項目：細菌(ブドウ球菌のみを含む)が7件、落屑量・フケが6件、頭皮の皮脂量が4件、陰イオン界面活性剤残留濃度が3件、他にATP値、pH値、頭皮の水分量、頭皮の発赤の有無などがあった(複数回答)。また、これら項目の測定時期は、洗髪前後での測定が9件、洗髪後のみの測定が7件であった(複数回答)。清潔に関する研究結果：洗髪前後で測定値を比較した9件では、洗髪後、頭皮・頭髪が清潔になったと評価した文献は5件、清潔効果が評価できなかった文献7件、髪型により評価に差を認めた文献1件であった。洗髪方法では、洗髪援助で一般的に用いられるクリーパッドや洗髪車、洗髪台での検討が多い一方、手技を含め洗髪方法が不明な文献も多く、今後は手順を明確に示し、洗髪方法による差の検討も必要だと考えた。測定項目では落屑量や発赤など研究者の視覚的な観察項目による判定や、洗髪前後の測定値を比較していない研究もあり、今後、看護技術のエビデンス構築に向けて、より客観的で再現性の高い測定指標を用いた検証が望まれる。さらに、研究結果では、清潔効果を認めた文献より、確認されない文献が多く、髪型による差もみられた。対象の条件によって選択すべき洗髪方法や手順が異なる可能性もあるため、効果が認められなかった先行研究における対象者や洗髪方法の特徴を踏まえ、より清潔効果の高い個別的な洗髪方法の検討が必要であると考ええる。 科研費(基盤研究C、科研番号23K09851)による研究助成を受けた。
18. 子どもの急病に対する保護者の対処力に関する文献検討	共著	2024年8月25日	第50回日本看護研究学会学術集会	文献検討により、子どもの急病に対する保護者の対処力について明らかにした。対処に関する保護者のニーズの検証3件、認識に関する調査3件、教育効果の検討4件、対処行動との関連要因の検証3件であった。以上に整理した文献から、子どもの急病時の保護者の対処の実態とその性質を分析した。対処とは、子どもを観察してその症状や状況を改善しようとする行動で知識や情報収集したことから受診を考えたり、他者へ相談しながら子どもの看病にあたっていた。しかしその知識は十分ではなく、不安をもつ保護者が多いとされていた。対処に関する教育や支援の効果の検証は少なく、子どもの急病時の不安解消のために、実際の対処としてどのような方法を選択し、その選択や判断が有効であったかの詳細は明らかではなかった。急病時の対処力は、子どもの年齢、保護者の生活状況や家族形態などの条件によって変化するが、対処の経験を通して身につけていくものと推測される。その対処力とは、どのような経験と判断によって、どのような支援が影響し、身につけるに至っているのか、明らかではない。これら一連の過程を明らかにしていく必要がある。林 文子、木村 静
19. 洗髪が頭皮・頭髪の清潔に及ぼす影響に関する文献レビュー	共著	2024年8月25日	第51回日本看護研究学会学術集会	文献検討により、文献検討により、洗髪が頭皮・頭髪の清潔に及ぼす影響や今後の課題を明らかにする。「洗髪and清潔」は88件、「洗髪and汚れor汚染」は21件で、重なりを除いたところ、該当した文献は103件であった。さらに、洗髪による頭皮・頭髪の汚れの清潔に焦点を当てた文献のみを調べたところ、15件が該当した。洗髪方法では、洗髪援助で一般的に用いられるクリーパッドや洗髪車、洗髪台での検討が多い一方、手技を含め洗髪方法が不明な文献も多く、今後は手順を明確に示し、洗髪方法による差の検討も必要だと考えた。測定項目では落屑量や発赤など研究者の視覚的な観察項目による判定や、洗髪前後の測定値を比較していない研究もあり、今後、看護技術のエビデンス構築に向けて、より客観的で再現性の高い測定指標を用いた検証が望まれる。さらに、研究結果では、清潔効果を認めた文献より、確認されない文献が多く、髪型による差もみられた。対象の条件によって選択すべき洗髪方法や手順が異なる可能性もあるため、今後、効果が認められなかった先行研究における対象者や洗髪方法の特徴を踏まえ、より清潔効果の高い個別的な洗髪方法の検討が必要であると考ええる。なお、本研究は科研費(基盤研究C、科研番号23K09851)による研究助成を受けた。

20. 日本での看護学生に対するバーチャルリアリティを活用した看護教育に関する文献検討	共著	2025年3月8日	第38回日本看護研究学会近畿・北陸地方学術集会	日本でVRを活用した看護教育の現状について先行研究から検討することを目的とする。「VR」、「看護」、「教育」で検索を行い、原著論文に絞った（検索その結果、該当した文献は44件であった。さらに、助産師や臨床看護師、患者を研究対象とした文献を除き、日本の看護学生を対象とした文献に絞ったところ、23件（2006～2024年）が該当した。その後、対象研究の発行年、対象者の人数・属性、VRに関する看護教育の内容の3点について整理し、傾向をみた。日本での看護学生に対するVRを活用した看護教育に関する先行文献は、1件を除き2020年以降に発表され、年が経つごとに増加していることが確認できた。これは新型コロナウイルス感染症の蔓延時期と重なるため、コロナ対策として実践され始め、現在も国の指針のもと看護教育での活用が増加している表れであると考えられた。また、大学での活用は2、3年次生を対象とした検討が多く、臨地実習に行く機会の多い学年で臨地実習の代替として取り組まれていると考えられた。さらに、取り組みでは、老年や精神分野が全体の半数を占め、疾患を持つ患者体験における活用が多かった。コロナ禍で臨床現場に赴く機会の減っても、少しでも疾患の症状や対象理解ができるように取り組まれたと思われた。加えて、VR教材を用いて対象理解やイメージ化ができたという肯定的な報告があり、VR教材を用いた看護教育は、学生の学びを深めために有効だと考えられた。今後もVR教材を上手く看護教育に活用し、学習効果を高められる取り組みの増加が期待される。木村 静、和泉美枝、葉山有香、岡崎和子、林文子、眞鍋えみ子
21. 早期にスキンケア指導を実施したアトピー性皮膚炎患者の治療経過		2025年3月	日本小児臨床アレルギー学会誌 2025, 23 (1)	Aクリニックにおいて早期治療が開始されたAD乳児64名の保護者に対しスキンケア指導を実施し3年経過した時点での治療経過から患者指導の評価を行った。評価は診療記録やアンケートに記載内容および重症度や生活状況等で治療良好群と中断群に分け比較検討した。患者全員(100%)がいったん寛解に至ったが3年経過した時点で42%の患者の中断があった。中断の理由は症状が改善されたと認識していたこと、ステロイドに関する不安、きょうだいの世話等が増えたことなどとされた。保護者のAD治療に関する認識や環境の変化からの影響を考えた関わり方、支援方法を検討していく必要がある。速藤香緒里, 下出由紀子, 西川嘉英. 本研究の研究計画、倫理審査への申請、データー分析、学会発表および論文の編集や投稿までの指導を実施した。学会発表に関しては、内容の新規性が評価され学会誌への投稿の推薦を得た。

教 育 研 究 業 績 書		
2025年5月8日		
氏名 山本 真樹子		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
社会医学、看護学及びその関連分野	助産学 女性の思い 助産師のありよう	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
・ 小レポートの活用	2018年～2020年 前期 授業期間	関西大学人間健康学部・人間健康研究科の非常勤講師として担当した「医学一般I」（専門・選択科目、1年次配当、半期）において、授業1回目に学生自身がその時点で考える「健康とは」を小レポートとして課した。小レポートから学生たちの授業に期待した求めている内容およびプレコンセプションケアを意識した内容とすることで、学生が自身や家族を含めた周囲の健康について考え、生活変容に繋がるように講義内容を工夫した。学生からの毎回の授業後の感想及び意見と授業評価アンケートより、学生自身や家族を含めた周囲の健康や生活に意識がいくようになっていた。
・ 視聴覚教育教材の作成と利用	2021年6～7月	本学の「母性看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、半期、必修1単位）において、実習で出会う褥婦と助産師との授乳場面でのやりとりを教員が演じる視覚教材を作成し、褥婦の言動から心理・社会面の観察（情報収集の方法）、母性看護学の主要な理論を用いたケアをみる視点とアセスメント方法を学習できるように工夫した。
2 作成した教科書、教材		
・ 母性看護援助論演習の画像媒体	2021年6月	本学の「母性看護援助論演習」（専門科目、3年次配当、半期、必修1単位）において、授乳場面の褥婦と助産師とのやりとりを教員が演じる視覚教材を作成し、看護過程の演習で活用した。Classroomで共有し、繰り返し自由に活用できるようにした。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
・ 学生による授業評価アンケート結果における評価	2020年7月	・ 関西大学人間健康学部・人間健康研究科の非常勤講師として担当した「医学一般I」（専門・選択科目、1年次配当、半期）に対して2020年度に実施された学生による授業評価において、約7割の学生が、「友人や後輩に推薦したい授業内容」「総合的に判断してこの授業は意義のあるものだった」と回答していた。（回答数293/330人：88.7%）
	2022年1月	「母性看護援助論」の学生評価は、授業への積極的な参加度3.95、説明のわかりやすさ3.80、要点の明確さ3.89、授業内容の分量の適切さ3.57、聞き取りやすさ4.05、資料のわかりやすさ3.82と、概ね、学生は授業に積極的に参加しており、授業は要点が明確で説明や資料もわかりやすく、聞き取りやすい。授業の分量は多いからどちらとも言えないという状況であった。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		
・ 助産学共用試験問題作成	2021年4～6月	助産師教育における実習生の質保証のための助産学共用試験問題を作成し、登録を行った。
	2022年6～12月	全国助産師協議会の「令和4年度助産師国家試験ブール問題公募の啓発・応募促進事業」において、協力員として一つのグループでリーダーとなり、3回のzoomによるオンラインミーティング、メール会議等を行い、厚生労働省に試験問題を登録した

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格, 免許		1998年3月	看護師免許(第1018456号)、助産師免許(第106495号)、保健師免許(第88011号)	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1 :				
(学術論文)				
1.妊娠糖尿病と診断された女性の体験についての一考察～出産後の振り返りから～(査読付)	共 著	2023年3月	医療福祉情報行動科学研究Vol. 10, pp47-54(2023. 3. 24)	GDMと診断された女性の体験について知り、助産師の支援方法を検討することを目的に研究を行った。女性の語りから、「GDMと診断された後の思い」「糖尿病という言葉への反応」など7つのカテゴリーが抽出された。GDMを診断される妊娠週数から、身体面の治療やケアと同様に、母親役割取得過程への影響を考えた関わりが必要であると示唆されていた。山本真樹子, 樫野響子, 恵愛, 澤尾理津江 (8頁)
2女性の出産体験と助産師のありよう	単 著	2016年2月	武庫川女子大学大学院臨床教育学研究科臨床教育学専攻学位論文	女性の出産に焦点を当て、出産経過での身体変化に対する女性の身体感覚と、女性とその出産の場を共有する人との関係性と、出産の方向性を示す一つの因子である時間という3つの視点から、出産を女性がどのように体験しているか、また、助産師が女性の出産をどのように捉えて関わっているのかを知り、出産の意味と出産の場における助産師のありようを検討することを目的におこなった。
:				
(その他)				
:	一			

教 育 研 究 業 績 書				
2025年 5月 12日				
氏名 浅野 千晶				
研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド		
臨床看護学/ライフサイエンス		クリティカルケア/周術期看護		
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 教育方法の実践例				
2 作成した教科書，教材				
3 教育上の能力に関する大学等の評価				
4 実務の経験を有する者についての特記事項				
看護専門学校での臨地実習		2023年4月 ～2024年3月	基礎看護学実習Ⅰ－1 基礎看護学実習Ⅰ－2 基礎看護学実習Ⅱ 成人老年看護学実習ⅠⅡⅢ 統合実習 精神看護学実習	
大学看護学科での臨地実習		2024年9月 ～2025年3月	成人老年看護学実習ⅠⅡⅢⅣ	
5 その他				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格，免許 看護師免許 集中ケア認定看護師		1999年5月24日	第668474号	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 2 (学術論文) 修士論文：ICUに入室した患者がICUでの体験を認知し意味付けsプロセス (その他) 1		2016年3月	神戸市看護大学大学院	予定手術後、ICUに36時間以上入室した5名の患者を対象に、退室後、ICUでの体験について半構造的面接と不安・抑うつ測定を行った質的記述的研究。患者の語りの中でICUでの記憶の欠落や非現実的な体験が語られた。患者は非現実的な体験について自問自答したり他者に語ったりしながらその理由や意味を見出そうとしており、体験を確認し折り合いをつけるために必要なことは「語ること」「他者とのかかわり」であった。

教 育 研 究 業 績 書				
2025 年 5 月 12 日				
氏名 趙 聖 櫻				
研 究 分 野		研究内容のキーワード		
地域看護学 臨床看護学		地域看護学 精神看護学		
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 教育方法の実践例				
2 作成した教科書，教材				
3 教育上の能力に関する大学等の評価				
4 実務の経験を有する者についての特記事項		2024 年 9 月 1 日～	大学における実習指導の実施	
5 その他				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格，免許		2018 年 11 月 5 日	看護師免許	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 2 3 ：				
(学術論文) 1 統合失調症の母親を持つ 子どもに生じるセルフ スティグマ	単著	2020 年 1 月 31 日	大阪大学看護学雑誌 投稿予定	修士論文
(その他) 1 2 3 ：				

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあつては校長）及び基幹教員（大学院にあつては専任教員）について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書

令和 7 年 5 月 12 日

氏名 松浦 尚子

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
基礎看護学	基礎看護技術演習，評価、学校看護師	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
(1) 国家試験対策における e ポートフォリオの導入	平成 27 年 4 月～現在	国家試験対策のため，e ポートフォリオを活用し，学生の目標を明確にし，モチベーションを低下させず国試に向かわせ合格に導いた。
(2) 基礎技術演習へのルーブリックの導入	平成 29 年 4 月～令和 2 年 3 月	基礎看護学方法論Ⅳ（診療の補助技術）」（2 年次配当，半期，必修科目，2 単位）において，基礎看護技術演習でルーブリック評価を導入し，学生のパフォーマンスを含む主体的学修，演習後の課題レポートの基準の明確化を行った。
(3) 人体の構造と機能の授業において書画カメラの活用	平成 30 年 4 月～令和元年 8 月	「人体の構造と機能Ⅰ，Ⅱ」（1 年次配当，半期，必修科目，各 2 単位）において，栄養の消化と吸収を担当し，書画カメラを活用しながら，消化器の構造と機能の理解を深める取り組みを行った。
(4) 社会福祉学の授業でのグループワークの導入	平成 30 年 4 月～令和元年 8 月	「社会福祉学」（1 年次配当，半期，必修科目，2 単位）において，前半は講義を行い，後半は問題提起，グループワーク，発表，解説を繰り返し展開した。このことで学生からは，社会福祉がどのように生活と結びついているのかを理解することができたと評価が得られた。
(5) 基礎技術演習での感染対策を行いながらの実施による学びの確保	令和 2 年 5 月～令和 3 年 3 月	「看護技術演習Ⅰ」（1 年次配当，半期，必修科目，2 単位）において，演習は学年を 4 分割し，感染対策を講じながらすべての演習単元を実施し，「より良い」を深めることができた。
(6) 国家試験対策の領域別の講義	令和 3 年 1 月 令和 4 年 1 月	奈良学園大学の国家試験の領域別の対策講習において，基礎看護学領域の過去 10 年間の国家試験問題から出題基準別に出題傾向を分析し講義を行った。
基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ、ヘルスアセスメント看護技術の基礎Ⅰの講義・演習	令和 3 年 4 月～令和 5 年 3 月	看護技術と思考がつながるように、根拠を考えさせ、なぜその技術が必要なのか、対象者のより良いを考えた時にどのような方法が良いのか考えるような授業を実施した。
(7) 看護技術の基礎Ⅰ・Ⅱ、看護実践プロセスの基盤Ⅰの講義演習	令和 5 年 4 月～現在	看護技術と思考がつながるように、根拠を考えさせ、なぜその技術が必要なのか、対象者のより良いを考えた時にどのような方法が良いのか考えるような授業を実施している。
2 作成した教科書，教材 特記事項なし		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
(1) 学生による授業評価アンケート	令和元年前期	令和元年度の学生による授業評価は，5 点満点中、4.0 を上回り平均 4.19～4.7 となっている。
4 実務の経験を有する者についての特		

(1) 奈良県立高田高等学校の学生に模擬授業	平成 30 年 9 月 28 日	看護師の仕事について
(2) 奈良県立五條高等学校の学生に講義	平成 31 年 3 月 4 日	高齢者看護について
(3) 大阪市立扇町総合高等学校の学生に模擬授業	令和元年 6 月 24 日	バイタルサインについて
(4) 大阪府立懐風館高等学校の学生に模擬授業	令和元年 7 月 17 日	看護師の仕事について
(5) 奈良県立高田高等学校でフィジカルサポート	令和元年 7 月 19 日	CPR と AED について
(6) 梅花高等学校の学生に模擬授業	令和元年 12 月 12 日	看護師の仕事と看護師になるための高校生活の過ごし方について
(7) 高田商業高校の学生に模擬授業	令和 3 年 11 月 26 日	自分の身体を知ろう！
(8) 東大阪市立日新高等学校で 3 年次進路探求講座の講師	令和 4 年 5 月 12 日	看護師に必要な知識
(9) 東大阪市立日新高等学校で 3 年次進路探求講座の講師	令和 5 年 5 月 11 日	「健康」って何？「コミュニケーション」って何？
5 その他		
(1) 白鳳短期大学総合人間学科看護学専攻における教育実績	平成 27 年 4 月～令和 2 年 3 月	成人看護学Ⅳ（慢性期・終末期）、成人看護学Ⅴ（看護過程）、成人看護学実習Ⅰ（急性期・周手術期）、成人看護学実習Ⅱ（慢性期）、人間学研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業研究Ⅱ、看護基礎技術演習Ⅰ、基礎看護学方法論Ⅳ（診療の補助技術）、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、社会福祉学、生体機能学Ⅰ、生体機能学Ⅱの消化器、統合実習を担当した。
(2) 白鳳短期大学総合人間学科看護学専攻における教育実績	平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月	白鳳短期大学において国試対策のサブリーダーを担当し、学生を合格へと導いた。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許		
(1) 看護師免許	昭和 63 年 5 月 18 日	登録番号 第 630355 号
(2) 養護教諭Ⅰ種免許状	平成 7 年 3 月 31 日	登録番号 平 6 養 1 第 2013 号
(3) 保健師免許	平成 7 年 5 月 12 日	登録番号 第 77561 号
(4) 看護師養成所専任教員資格	平成 27 年 3 月	
2 特許等 特記事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		

(1) 教務部	平成 27 年 4 月～令和 2 年 3 月	教務副リーダーとして時間割の調整・変更作業，定期試験の準備，非常勤講師との連絡調整等を行い，授業が円滑に進むよう調整を行った。
(2) 学年のリーダー・サブリーダー	平成 28 年 4 月～令和 2 年 3 月	学年のリーダー，サブリーダーを行い，学年での国試対策の企画運営，人間力を高めるための企画，運営等を行った。
(3) 領域でのリーダー	平成 30 年 4 月～令和 2 年 3 月	白鳳短期大学で領域のリーダーとして，基礎看護学領域の授業，実習の調整，実習病院への書類の作成，実習グループの構成等を行った。更に実習後の実習発表会の企画・運営を行った。
(4) 学生生活	令和 2 年 4 月～現在	学生との会話を意図的に持ちながら，学生の変化を感じ取り，必要があればメールでの相談，対面での相談を行っている。
(5) 入試広報	令和 3 年 4 月～令和 4 年 3 月	奈良学園大学で入試広報委員として，オープンキャンパスの企画・運営，学校見学の対応，学校パンフレットの構成等を行った。
4 その他 特記事項なし		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文)				
1 看護技術演習における学生評価の検討	共著	平成 31 年 1 月	星槎大学大学院教育学研究科 教育学専攻 修士論文	基礎看護学技術演習の評価として，パフォーマンス評価と演習レポートのルーブリック評価を導入しその有用性を検証した。(共著者：松浦尚子、佐藤智彦)
2 基礎看護技術演習における学生の主体的学修の評価に関する検討	共著	令和 3 年 3 月	医療福祉情報行動科学 研究 2021. Vol18 P99-114	基礎看護学技術演習でルーブリック評価を導入し，学生のパフォーマンスを含む主体的学修，演習後の課題レポートの基準の明確化を行った。(共著者：松浦尚子，佐藤智彦)
(その他) 学会発表				
学生の主体性を引き出す有効な教育支援の検討	共著	令和 4 年 12 月	第 42 回日本看護科学学会	統合実習での実践を振り返り，教員のどのような支援が学生の主体性を引き出しているかを明らかにしていった。(共著者：松浦尚子，西薊貞子，小林由里)
「医療的ケア」が必要な子どもが，より良い学校生活を送るためには一学校看護師の役割についての文献検討ー	共著	令和 5 年 12 月	第 43 回日本看護科学学会	医療的ケアが必要な子どもがより良い学校生活を送るために看護師に期待されていることは教育の視点から捉えた安全で安心な医療的ケアの実施を行うことであった。その期待に応えるためには何が必要かを明らかにしていった。(共著者：松浦尚子、中島栄之介)

看護専門学校の教員が抱く仕事上の困難感	共著	令和6年8月20日	第34回日本看護学教育学会学術集会	看護教員への支援体制を検討するための基礎資料として、教員の特性や困難感を抱く理由に着目しながら、専門学校に勤務する看護教員が抱いている仕事上の困難感の要因とそれに影響する因子を明らかにした。
特別支援学校における医療的ケアの法制度の変遷と看護師に期待される役割の変化	共著	令和6年8月25日	第50回日本看護研究学会学術集会	法制度の整備による、特別支援学校に在籍する医療的ケア児に必要な「医療的ケア」変遷と、学校看護師に期待される役割について整理した。さらに、学校看護師に期待される今後の課題について考察した。
基礎看護学実習Ⅰの体験想起を活用した看護技術における学びのアウトプット	共著	令和6年8月25日	第50回日本看護研究学会学術集会	基礎看護学実習Ⅰにおける学生身体体験想起の活用は、後続の授業＜看護技術Ⅰ＞でどのように学びのアウトプットにつながるのか明らかにした。

教育研究業績書		
令和7年5月10日		
氏名 溝口みちる		
研究分野	研究内容のキーワード	
看護学，情報学	オストメイト、スマートストーマ	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
(1) 基礎看護学の講義・演習の工夫と技術試験の試み（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校 1年生）	平成26年4月～平成29年1月	「生活を支援する技術Ⅱ」（環境、休息、活動）、「生活を支援する技術Ⅳ」（食事・排泄）を担当した。パワーポイントや板書だけではなく、DVDも活用し授業した。授業したことがすぐに演習できるよう、白衣を着用し、すべての授業は実習室で行った。また、事前学習をもとに、活発な意見を発言できるよう、グループワークを行った。入学後すぐの学生は、自分で書籍を調べるということが難しいため、授業時間内で図書室も利用した。そうすることで、よりグループ内の協調性が増し、演習でも自ら考えて行動できるようになった。また、授業終了後には、学生にアクションシートを記載してもらい、授業の目標と授業の成果を照らし合わせ自己の授業評価を行った。「導尿処置」の基礎看護学技術試験について、これまでチェックリストによる基礎看護学技術試験を行っていたが、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの能力も含めた学習の到達度を評価していくことが重要である。教員と学習者である学生にとって、学習の到達状況を把握するための指標となるばかりではなく、次の学習の方向性を示し、自己学習力を培う指針となるため、ループリック評価表を作成した。評価基準を「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技術・表現」「知識・理解」に分け、三段階の評価基準を設定した。ループリック評価を活用し技術試験を行った結果、世具体的な評価ができた半面、全教員での統一がいま一つであり、改善していく必要があった。
(2) 能動的な授業を考えたジグソー学習の導入（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校 2年生）	平成26年4月～平成29年1月	座学やグループワークのみにとどまらず、学生がいかに効果的・能動的に授業を行うことができるのかを考え、「診療行為を支援する技術Ⅰ」の注射の授業で実施した。「注射」は学生にとって一番興味を示す反面、医療事故にも繋がるものと考えたためである。学生は、「皮下注射」「皮内注射」「筋肉注射」「静脈内注射」のどれか一つを担当し、他のメンバーに自分が教授したことを伝える。まず、事前課題を提示し、授業当日に役割別の専門家チーム皮下、皮内、筋肉、静脈内それぞれの注射）に参加し、他者に教えることができるまで学び合う。その後は、学生は他のグループで教員役となり実施する。教員はそれぞれの専門家チームのアドバイザー的存在として指導する。ジグソー学習前には、教員による授業と実践を行い、根拠、留意点、ポイントを伝えている。授業評価には、30項目の授業アンケートを作成し、「責任感を感じた」「自分から進んで理解しないとこの授業は難しかった」「友達に伝えようという気持ちを持った」など、の声が多数寄せられた。
(3) 統合看護学実習を意識した統合看護技術の実施（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校 3年生）	平成26年4月～平成29年1月	ケーススタディ、シナリオを用いた演習を行った。6名の受け持ち患者を想定し、グループで患者の優先順位を考えた行動計画の立案をさせた。その後、モデル人形を活用し、実際に上京設定したうえで、観察項目や看護技術などの演習を行った。隣接する病院看護師および1年生の学生の協力のもと、統合看護技術試験を行った。時間内に優先順位を考え、ナースコールの対応やリーダー、メンバーの役割等を確認した。また、この授業の中には、統合看護知識確認として、統合看護技術、医療安全の確認試験を行った。学生は実際にはできなかった場面が多く、看護師国家試験の受験終了後から卒業するまでの間、技術練習を自主的に行うようになった。
(4) 実習調整者（社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校）	平成28年4月～平成29年1月	実習調整者の役割である年間計画をもとに、臨地実習（基礎看護学実習、領域別実習、統合実習）における、実習施設および各担当教員との調整、実習調整会議にて司会進行等を行った。
(5) 基礎演習Ⅰラーニングスキルズ（奈良学園大学 保健医療学部看護学科 1年生）	令和2年4月～令和2年8月	1年次生が大学の学習に慣れ、4年間の大学生活を有意義におくるための基礎を習得することを目的とし、大学での学習を進めるうえで必要となる基礎的な知識や技能、学ぶ姿勢を身につけることを目標としている。目標達成するためには、大学での学び方を身につける、文献や資料を調べることができる、分析的かつ批判的に文章を読み、意見を聞くことができる、論理的かつ多方面に思考することができるとしている。課題や積極的な授業参加ができるよう、ゼミ形式で行った。

事項	年月日	概要
(6) 成人看護援助論Ⅰ 急性期・周手術期 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和3年4月～ 令和4年3月31日	急激な健康破綻が対象者および家族に及ぼす様々な影響を理解し、適切な看護援助ができるように学習する。急性期、リハビリ期、回復期にある患者と家族への具体的看護方法を学ぶとともに問題解決能力を養うための学習を行う。目標は、クリティカル・周術期にある対象の生体反応や治療・回復過程の特徴を踏まえた看護を理解し、治療による身体機能、自己イメージの変化、苦痛の緩和などに対して、支援する看護を理解する。また、倫理的側面を考慮した看護を理解する。私は、消化・吸収障害をもつ患者の看護を担当した。全身麻酔による影響や手術による侵襲を考え、消化器疾患患者さんの術後合併症を予防するための看護や回復に向けての看護を考えられるように教授した。具体的には、事例を取り上げグループワークを通して学べるようにした。特に、人工肛門造設術を受ける患者さんは、排泄経路の変更による不安が強い。十分な説明や個別性を考え、また、術後回復よりストーマ管理を行うためにも、術前から必要な看護を考えられるようにした。
(7) 成人看護援助論Ⅱ 慢性期・回復期・終末期 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和2年9月～ 令和5年3月31日	生涯疾患とともに生活することを余儀なくされている対象者とその家族の看護、および終末期にある患者と家族の看護について学習する。慢性期疾患患者の看護においては、終生自己管理を必要としなければならない患者の心理状況を理解するとともに、具体的な看護方法について学ぶ。目標は、慢性的な経過をたどる主な疾患の特徴と、症状や治療が生活に与える影響と慢性的な健康障害をもつ対象とその家族が病氣と付き合いながらセルフマネジメントできるための看護を理解する。私は膠原病を持つ患者の看護、消化・吸収障害をもつ患者の看護を担当した。ペーパーベシエントで看護過程を展開するために、まず、罹患した患者さんの経験や思いを理解する必要がある。そのために、患者会等の患者さんの動画を事前課題として掲示した。それを踏まえ、患者さんおよびその家族に対する看護を考え、退院後の生活に必要な指導についてグループワーク行い学びを深めた。
(8) 成人老年看護援助論Ⅱ 障害適応とエンドオブライフへの支援 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和5年9月～ 現在	慢性的な毛公生涯を抱えた患者・家族に対し、成人期、老年期の発達段階、健康段階に応じた看護援助方法を理解する。また、回復困難な疾患を抱え、人生の最終段階にある患者が尊厳をもってその人らしい人生を全うできるよう、多職種連携のもと、地域への移行支援がなされ、地域包括システムの様々な場面での看護援助をしていく方法について理解し、看護師としての知見を深めていく。私は、難病を持つ人の看護、生活習慣病を持つ人の看護を担当した。事例をもとに病態や治療を理解するところから始め、既習の知識から理論をもとに看護支援についてグループワークを行い学びを深めた。
(9) 成人看護援助論演習Ⅰ・Ⅱ (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 3年生)	令和3年4月～ 令和5年3月31日	成人期の急性期・慢性期・終末期にある対象を看護するために臨床場面で必要となる看護過程や看護技術について、演習を通して学ぶことが目標である。具体的な目標は、1. 適切な一次救命救急の手技が習得できる、2. ICUにおける術後看護の視点が理解でき、適切な看護の視点での観察が分かる、3. 周手術期における患者の看護過程の展開が分かる、4. 簡易血糖測定の意義を理解でき、その技術の習得と患者への指導を考察できる、5. 輸液ポンプ・シリンジポンプの操作方法や管理が理解できる、6. COPDを持つ大腿骨頭部骨折術患者の看護過程の展開が分かる、である。私が担当する「COPDを持つ大腿骨頭部骨折術患者の看護過程の展開が分かる」は、COPDの基礎疾患を持ちながら大腿骨頭部骨折に対して手術を行い、退院後の生活を見すえた看護を考えられるような事例とした。複雑な事例ではあるが、実際に臨地実習では経験する事例ではあると考え、患者さんやその家族の状況や気持ちを考え、看護過程を展開できるようにした。
(10) 成人看護学実習における学外実習の実践 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 3年生)	平成30年9月～ 令和5年3月31日	成人看護学の担当となり、成人看護学実習Ⅰ（急性期）および成人看護学実習Ⅱ（慢性期）の臨地実習指導を担当している。成人看護学実習Ⅰ（急性期）では、学生は周手術期も含めた、手術を受けられる患者さんを受け持ち、術前・術中・術後の看護展開を行う。全身麻酔と術式による侵襲が身体へどう影響をおよぼすのかを考え、術後の観察や状況に合わせた看護ケア、退院に向けて必要なこと等を指導した。また、成人看護学実習Ⅱ（慢性期）の実習では、障害受容の過程、行動変容、自己効力感などをキーワードに、特に患者さんの入院前の生活に目を向け、看護介入ができるようにした。

事項	年月日	概要
(11) 成人老年看護援助論Ⅰ 急性期・周手術期 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 2年生)	令和6年9月～現在	この科目の目標は、重篤な健康破綻が発生し、生命の危機状態に陥った人と家族の回復過程を支援する看護実践の基礎的知識を幅広く習得し、急性・重篤患者の看護実践について見方・考え方ができることである。全身麻酔を受ける患者の術後合併症の看護、合併症の発生機序や生体反応とその看護、腹部手術を受ける人の看護、侵襲の大きい検査・治療を受ける人・家族の看護を担当した。 講義と事例をもとに事前学習を活かした授業とした。術後の経過を確認し、事前学習をもとに学生自身が調べ学習を行いながら、術後1日目、術後3日目の術後観察や看護を考えられるようにした。
(12) 成人老年看護援助論演習Ⅰ・Ⅱ (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 3年生)	令和6年4月～現在	援助論演習Ⅰは、急激な健康破綻により生命の危機状態に陥った患者の生命維持と回復過程を支援する基本的な看護援助方法を習得することを目標にしている。全身麻酔で手術を受ける人の事例をもとに、術前・術中・術後の患者の状態を考え、モデル人形で術後患者を想定し、できるだけ実践に近いリアルな状況を工夫し演習を行った。援助論演習Ⅱは、より実践で活用できるよう、電子カルテにあるような詳細な情報を設定した事例をもとに看護過程を展開できるよう工夫した。
(13) 成人老年看護学実習における学外実習の実践 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 3年生)	令和6年9月～現在	成人老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、これまでの既習の知識・技術をもとに、実際の看護状況へ適応し学びを統合する科目であり、多様な生活のなかでの健康課題に対して看護実践の基礎的能力の修得を目指す。健康段階に応じた人の健康課題について考え、看護展開を行うことができるよう介入している。
(14) 統合看護実習における学外実習の実践 (奈良学園大学 保健医療学部看護学科 4年生)	平成30年5月～現在	成人老年領域の統合看護学実習では興味・関心のある探求テーマ（課題）を明らかにし、各自が実習計画を行い、探求テーマ（課題）に基づき、実際に現場で行われている看護を探求する力を身につけることを重点としている。また、その時々で対象者が抱えるさまざまな課題について優先順位を考え、さらに専門的な知識を持つ看護師の視点から必要な看護を学ぶ。
(15) 卒業研究Ⅱ	令和2年9月～現在	学生が研究テーマを決め、深く研究を進めて論文を作成することが目標である。学生2名を担当し、学生が興味のある分野でテーマを決定し、文献検討を行っている。卒業研究Ⅰをもう一度振り返りながら論文と抄録の作成までの指導を行っている。
2 作成した教科書、教材		
(1) 学生の目標達成に向けたポートフォリオの作成 (社会医療法人 機内会 岡波看護専門学校)	平成26年4月～平成29年1月	学生が自らテーマや目標を決め、学び続ける学習法を取り入れることを考え、ポートフォリオを作成した。入学時にポートフォリオの説明を行い、ビジョンとゴールを記載させた。中間の面接時に、ゴールに向かうためにはどうしていくのかを指導した。また、2～3月には、各学年による発表の機会を設け、学生全員がプレゼンをした。学生自身がどのように成長してきたのかがわかり、また、学生は自信をもって成長できたと主張できるようになった。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 三重県立名張桔梗ヶ丘高等学校 出前講座	平成26年9月～平成28年12月	「看護学探求」の授業があり、看護に興味・関心を持っている学生に対し、授業を行った。「形態機能学に関連した基礎看護技術」を担当し、授業の後、実際に血圧測定やビニール手袋の装着・脱着の方法、体位変換等を行った。学生からは、「看護師を目指すそうと決めた」「もっと勉強しないといけないと思った」などの声があった。
5 その他		特記事項なし
職 務 上 の 実 績 に		関 する 事 項
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
(1) 准看護師免許	平成10年3月	第17056号
(2) 看護師免許	平成12年3月	第1075353号
(3) 厚生労働省認定看護専任教員養成講習会終了	平成24年1月	厚生労働省認定三重県専任教員養成講習会
(4) 修士（看護学）	令和2年3月	奈良学園大学大学院 修士課程 看護学専攻

事項	年月日	概要
2 特許等		特記事項なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
(1) 日本看護技術学会第18回学術集会 企画委員	平成30年4月～ 令和元年3月	「過去・現在から未来へ発信する看護イノベーション」をテーマに、令和元年9月7日、8日の学術集会の開催に向けて、役割を遂行した。
(2) 日本看護研究学会第45回学術集会 実行委員	令和元年8月	「研究成果をためる つかう ひろげる ―社会に評価される看護師―」をテーマに、令和元年8月20日、21日の学術集会の役割を遂行した。
(3) 日本看護研究学会第34回近畿・北陸地方会学術集会 事務局（庶務）および企画実行委員	令和2年2月～ 令和3年3月	「看護の原点回帰 情緒的価値観へのパラダイムシフト」をテーマに奈良学園大学登美ヶ丘キャンパスで実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響にて、プログラムと演題を収録した抄録集をもって、発表・大会参加のかたちとなった。

事項	年月日	概要
(4) 第27回日本看護診断学会学術集会大会 企画委員	令和2年4月～ 令和3年7月	「看護過程のプロセスとしての看護診断」をテーマに、これまでの看護診断を振り返り、現状から未来へどのように看護診断を発展させればよいかについて考える機会とする。
(5) 第27回日本看護診断学会学術集会大会 特別企画交流集会Ⅲ	令和2年4月～ 令和3年7月	「看護診断に基づく口腔ケアに関する現状と今後の展望」のテーマで、看護基礎教育における学生、臨床における看護師の口腔ケアアセスメント力、口腔ケア実践能力の現状と課題について発表し、口腔ケアの今後の展望について、看護基礎教育の立場と臨床の立場から意見交換を行った。
(6) 日本オストミー協会 奈良県支部 若いオストメイトオンライン交流会（オストメイト協会・奈良県支部）講師	令和4年3月	オストメイトの参加者に向けて、自身の研究したオストメイトの余暇活動に関する内容を伝えた。
(7) 第27回日本看護診断学会学術集会大会 実行委員	令和6年8月	「発祥の地から未来を拓く看護研究」をテーマに、令和6年8月24日、25日の学術集会の役割を遂行した。
4 その他		
(1) 入試対策委員（社会医療法人 畿内会 岡波看護専門学校）	平成27年4月～ 平成29年1月	入学試験に関する筆記試験監督および面接試験監督を行った。判定会議に向けて、入試状況をまとめた。
(2) 広報活動（社会医療法人 畿内会 岡波看護専門学校）	平成26年4月～ 平成29年1月	三重県および奈良県内の高等学校を訪問し、学生募集の案内を行った。また、学校ホームページのニュース更新や広報業者との打ち合わせに参加するなど、広報活動を行った。
(3) 学校における防災・災害に関する見直しを検討	平成26年4月～ 平成29年1月	「災害発生時に適切な判断・行動がとれる教員の養成－防災マニュアルの再構築－」として、アクションカードを作成した。実際に、防災訓練に活用し、「責任者（指示命令）」「第一発見者（初期消火）」「応援者（避難・誘導）」を行った。結果、焦らずスムーズに学生を誘導でき、自らの役割も担うことができた。また、隣接する病院内での業務改善発表会で発表した。

別記様式第4号（その2の1）

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1. 2019年出題傾向がみえる 必修問題	共著	平成30年12月	ピラールプレス	看護師国家試験出題基準の中項目に基づき要点編と過去問題編からなる2部構成となっている構成となっている。担当部分：健康の定義と理解、看護における倫理（看護師等の役割）、人間の特性、人間のライフサイクル各期の特徴と生活（成人期）、人体の構造と機能（人間の死）、疾患と特徴（吐血、咯血、チアノーゼ、呼吸困難、胸痛、不整脈、腹痛・腹部膨満、悪心・嘔吐、下痢、便秘、下血、乏尿、無尿、頻尿、多尿）、薬物の作用とその管理（薬物の管理）、看護における基本技術（フィジカルアセスメント）、患者の安全・安楽を守る看護技術、診療に伴う看護技術（救急救命処置）著者：守本とも子、松浦純平、井上昌子、齋藤英夫、溝口みちる、明神一浩
2. エビデンスに基づく消化器看護ケア関連図	共著	令和3年1月	中央法規	9症状と17疾患の病態生理、検査、治療、看護ケアまでの解説されている。担当部分：黄疸の定義、病態生理、メカニズム、原因となる疾患、症状と随伴症状、検査・診断、治療、観察ポイント、看護目標、看護ケアとその根拠について執筆した。著者：溝口みちる他
(論文)				
1. オストメイトの余暇活動に関する促進要因と阻害要因の検討	単著	平成30年3月	修士論文	ストーマ保有者に対する余暇活動を促進する要因と阻害する要因について明らかにするために、質問紙を用い実態調査を行った。年齢4群およびストーマ造設経過年数5群と現在の生活満足度の平均の差をそれぞれ比較したところ、ストーマ造設経過年数と現在の生活満足度には「3年未満」と「20年以上」との間に有意差があり、ストーマ造設経過年数が「20年以上」になると生活に満足感を満たすことで日常生活を整え、余暇活動の促進に向かうと推察される。余暇活動の促進要因と阻害要因に関連した行動予測を測定するためには、今後、個々の価値観とのマッチングなども行い、明らかにする必要がある。
2. Selection and Evaluation of Color/Depth Camera for Imaging Surgical Stoma（査読あり）	共著	令和3年7月	2021 Human-Computer Interaction. Interaction Techniques and Novel Applications pp 601-614	目的は、ストーマと呼ばれる人工肛門を持つ被験者が便の漏れを検知し、適切なタイミングでストーマ袋を取り出せるよう、それらを評価するシステムを開発することです。本研究では、大きさの異なる3つの実ストーマモデルをD435と3Dスキャナーで360°回転・角度調整しながら撮影し、点群マッチングにより評価した。実際のストーマの形状を計測できる可能性があることを示している。 共著者：溝口みちる、樫木方俊、吉川知輝、朝野美穂、大西克彦、登尾啓史
3. 舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要第15集	舌癌サバイバーのレジリエンスを構成する要素について、I have, I am, I canの3側面から明らかにすることを目的とする。舌癌サバイバーがメンタルヘルスを良好に保つためには、これらレジリエンスを構成する要素を舌癌サバイバーが身に付けられる、あるいは高められるよう調整、支援することが重要であることが考えられた。 共著：田場真理、柳生貴裕、溝口みちる、桐田忠昭、守本とも子
4. Comparison of the Accuracy of Pouch Replacement Timing Decisions Using Image Generation Artificial Intelligence and Machine Learning（査読あり）	共著	令和5年7月	2023 Human-Computer Interaction. Interaction Techniques and Novel Applications pp 107-120	非接触型ストーマ保有者の便漏れを検出するために、ストーマからパウチを外すタイミングを決定するシステムを開発した。より多くの画像を含む人工知能（AI）画像生成を用いて、十分なトレーニングデータと正しいデータを取得した。そして、これらの訓練データを用いて、パウチを交換する適切なタイムを決定した。最後に、マイクロソフトのローブ機械学習とグーグルのティーチャブル機械学習モデリングツールの2つの学習アルゴリズムを用いて、判定の精度を比較し、2つの学習アルゴリズムにおける正しい判断の割合は、面板装着初日から約3日後までは100%であったが、交換日の1日前から3日前までは40%から87.5%と低い傾向にあった。 共著者：溝口みちる、渡辺 駿、中原匡哉、登尾啓史
5. System to Check Organs, Malignant Tumors, Blood Vessel Groups, and Scalpel Paths in DICOM with a 3D Stereo Immersive Sensory HMD（査読あり）	共著	令和5年7月	2023 Human-Computer Interaction. Interaction Techniques and Novel Applications pp 431-449	MこのアルゴリズムにDICOMを直接利用する手術シミュレータを開発した。このシミュレータは、没入型ヘッドマウントディスプレイMeta Quest 2 HMD のジェスチャー機能を用いて、DICOMの3Dボリュームを自由に操作し、視点や視線を変更することができる。今回の研究は、DX Medicineに掲載された別の研究ともリンクしており、ストーマにパウチを装着する手技が、上記のハンドジェスチャーを使って行われた。その研究では、自分のストーマのVRモデルを使い、何度でも遠隔練習ができるように試みている。 共著者：国居貴浩、渡辺 郁、溝口みちる、登尾啓史
6. Practice Equipment for Attaching a Pouch to a Stoma in a Metaverse Environment（査読あり）	共著	令和6年11月	IJPMBS 2024 Vol.13(4):pp 104-111	バーチャルリアリティ（VR）を活用したストーマポーチの装着練習を可能にするソフトウェアの開発に関する研究で、VRとファントムデバイスとの統合における3D視覚的ジェスチャーフィードバックと触覚フィードバックの統合を特に調査した。VRの視覚効果とファントムデバイスの触覚効果を統合したスマートストーマに関する先行研究は存在せず、視覚と触覚を統合したシステムは、視覚のみまたは触覚のみのシステムに比べて、体験効果ははるかに現実的である。これにより、患者はストーマパウチを単に視覚的に見るだけでなく、実際に触れることができ、ストーマパウチの装着スキルを学ぶことが可能である。 共著者：溝口みちる、樫木方俊、国居貴浩、夢野凌太郎、登尾啓史
(資料)				

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
1. カリキュラム改正に伴う本学保健医療学部看護学科の新カリキュラム構築のプロセス	共著	令和5年3月	奈良学園大学紀要第15集	臨床実習が行われる施設を医療施設と介護施設、訪問リハビリテーションに大別しながら、核施設の理学療法の特徴や役割を整理し、臨床実習の内容や方向性を確認した。次に、学生に対する経験の積み重ね方を考慮しながら、各施設における臨床参加型実習モデルを構築し、合わせて臨床実習におけるキーポイントを提示した。共著：服部律子，吉村雅世，西園貞子，三浦康代，嶋田理博，小林由里，佐藤郁代，西出順子，溝口みちる
(国際学会・国際会議発表)				
1. Selection and Evaluation of Color/Depth Camera for Imaging Surgical Stoma	共著	令和3年7月	23RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON HUMAN-COMPUTER INTERACTION,2021,Washington DC .	目的は、ストーマと呼ばれる人工肛門を持つ被験者が便の漏れを検知し、適切なタイミングでストーマ袋を取り出せるよう、それらを評価するシステムを開発することです。本研究では、大きさの異なる3つの実ストーマモデルをD435と3Dスキャナーで360°回転・角度調整しながら撮影し、点群マッチングにより評価した。実際のストーマの形状を計測できる可能性があることを示している。 共著者：溝口みちる，榎木方俊，吉川知輝，朝野美穂，大西克彦，登尾啓史
2. THE NEED FOR OSTOMATES TO CONTINUE LEISURE ACTIVITIES AND FACTORS INFLUENCING LEISURE ACTIVITIES	共著	令和4年4月	The 25TH East Asian Forum of Nursing Scholars Conference,2022,Taiwan.	本研究の目的は、余暇活動を継続する必要性と余暇活動への影響要因について明らかにすることである。ストーマ造設経過年数5群と現在の生活満足度との間に有意差があり、「3年未満」と「20年以上」との間に有意差があった。余暇活動を継続するためには配偶者の存在が関連しているが、対象者に未婚者もいることから家族や関連する周囲の人々にも伝えていく必要がある。 共著者：溝口みちる，中馬成子
3. Comparison of the Accuracy of Pouch Replacement Timing Decisions Using Image Generation Artificial Intelligence and Machine Learning	共著	令和5年7月	25RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON HUMAN-COMPUTER INTERACTION,2023,Copenhagen, Denmark .	非接触型ストーマ保有者の便漏れを検出するために、ストーマからパウチを外すタイミングを決定するシステムを開発した。より多くの画像を含む人工知能（AI）画像生成を用いて、十分なトレーニングデータと正しいデータを取得した。そして、これらの訓練データを用いて、パウチを交換する適切なタイムを決定した。最後に、マイクロソフトのローブ機械学習とグーグルのディープラーニング機械学習モデルリングツールの2つの学習アルゴリズムを用いて、判定の精度を比較し、2つの学習アルゴリズムにおける正しい判断の割合は、面板装着初日から約3日後までは100%であったが、交換日の1日前から3日前までは40%から87.5%と低い傾向にあった。 共著者：溝口みちる，渡辺 駿，中原匡哉，登尾啓史
4. System to Check Organs, Malignant Tumors, Blood Vessel Groups, and Scalpel Paths in DICOM with a 3D Stereo Immersive Sensory HMD	共著	令和5年7月	25RD INTERNATIONAL CONFERENCE ON HUMAN-COMPUTER INTERACTION,2023,Copenhagen, Denmark .	MこのアルゴリズムにDICOMを直接利用する手術シミュレータを開発した。このシミュレータは、没入型ヘッドマウントディスプレイMeta Quest 2 HMD のジェスチャー機能を用いて、DICOMの3Dボリュームを自由に操作し、視点や視線を変更することができる。今回の研究は、DX Medicineに掲載された別の研究ともリンクしており、ストーマにパウチを装着する手技が、上記のハンドジェスチャーを使って行われた。その研究では、自分のストーマのVRモデルを使い、何度でも遠隔練習ができるように試みている。 共著者：国居貴浩，渡辺 郁，溝口みちる，登尾啓史
(国内学会演者)				
特別企画交流集会Ⅲ		令和3年 7 月	第27回日本看護診断学会学術大会	看護診断に基づく口腔ケアに関する現状と今後の展望について、看護基礎教育における学生、そして臨床における看護師の口腔ケアアセスメント力（看護診断能力）、口腔ケア実践能力の現状を、そこに潜む課題を発表し、現状の課題を踏まえ看護における口腔ケアの今後の展望について、看護基礎教育の立場と臨床の立場から意見交換を行った。

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(国内学会発表)				
1. テキストマイニングを用いた災害看護における教育に関する研究の動向と課題	共著	平成31年3月	第32回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	国内における災害看護の教育に関する研究の動向と課題を明らかにするために、KHCoderを用いて論文のタイトルを分析した。クラスター分析、共起関係ネットワーク分類の結果、臨床や教育現場で多角的な分類より、盛んに研究が取り組まれている現状が明らかとなった。 共著者：溝口みちる、松浦純平
2. テキストマイニングを用いた精神看護学実習における学生の学びの分析	共著	平成31年3月	第32回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	看護学生が精神障害者に実際に関わり、対人関係のプロセスを通して、どのような「学び」があったのか、その特徴を明らかにすることで今後のより良い実習の提供や教育内容の示唆を得ることを目的とした。「考える」「感じる」「関わる」といった情意・精神・運動領域に関する記述が多くあり、学生は受け持ち患者の関わりを通して精神障害者の「生きにくさ」を理解していた。 共著者：山崎陸世、溝口みちる、井上葉子
3. テキストマイニングを用いた看護過程に関する研究の特徴	共著	令和元年9月	日本看護技術学会 第18回学術集会	看護のプロセスを考える看護過程が、学生は困難と感じている現状があり、看護過程に関する研究の特徴を明らかにすることを目的とした。看護過程の展開と演習との結びつきのある研究が示唆され、学生および臨床は、成人の実習において看護過程を展開するうえで困難を抱えていることが明らかとなった。共著者：溝口みちる、松浦純平
4. Trends and issues of research on disaster nursing education overseas using text mining	共著	令和3年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	海外における災害看護教育に関する研究の動向と課題を明らかにすることで、テキストマイニングを用いて分析を行った。海外では、あらゆる災害を想定した訓練を行っている。災害看護は多職種協働のもと、教育プログラムの開発を進めていくことが示唆された。共著者：溝口みちる、松浦純平
5. Analysis of nursing research on CPR in gender: a 10-year study in the world	共著	令和2年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	世界のCPR実施時の性に関する研究の分析と課題を明らかにすることで、テキストマイニングを用いて分析を行った。階層的クラスターの結果から、学生のCPR教育の中で性差に囚われず、確実なCPRの実施、振り返り、実施後の報告会が重要であることが明らかとなった。共著者：松浦純平、溝口みちる、小林由里、田場真理、守本とも子
6. Analysis and problem of research on dialysis nursing at disaster time in the world	共著	令和2年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	世界の災害時における透析看護に関する研究の分析と課題をテキストマイニングで分析した。その結果、素早い対応ができるプログラムの開発と医療職種チームが連携することが重要である。また、病院の医療職チームが実際に行動（アクション）を起こすこと、透析患者の健康を優先的に考えることが重要である。地域により地震やハリケーンなどの多様な災害があるため、今後も多種多様な研究の増加が望まれる。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、小林由里、守本とも子
7. A systematic review of research on postoperative delirium onset prevention from the viewpoint of circadian rhythm in the world	共著	令和2年2月	第6回世界看護科学学会学術集会（大阪）	世界における先行研究よりサーカディアンリズムとせん妄発症の関連からせん妄発症予防について分析し、現状を明らかにすることである。メラトニン産生がサーカディアンリズムを調節し、術後せん妄発症予防の可能性が示された。今後は症例研究の無作為ランダム試験の研究が進むことが期待される。共著者：松浦純平、小林由里、田場真理、溝口みちる、守本とも子
8. 看護におけるAI（人工知能）に関する研究の現状－テキストマイニングを用いた分析－	共著	令和2年3月	第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会（滋賀）	医療分野の中でも看護におけるAIに関する研究の現状と展望を明らかにすることを目的に、「人工知能」「看護」で文献を検索し、テキストマイニングで分析した。結果、介護支援採用ロボットスーツHALや手術支援ロボットda Vinciなどロボットに関する研究とその効果について取り組んでいた。看護実践への取り組み、効果の検証も必要である。共著者：松浦純平、溝口みちる、田場真理、上野栄一
9. 看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴－テキストマイニングによる分析から－	共著	令和2年3月	第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会（滋賀）	過去の看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究の特徴を明らかにすることを目的に、「看護師」「看護管理」「コンピテンシー」で文献を検索し、テキストマイニングで分析した。結果、看護師の看護管理のコンピテンシーに関する研究は人材育成、能力評価、支援・指導体制、キャリア開発、臨床実践能力など特徴があった。共著者：上野栄一、松浦純平、溝口みちる、田場真理、杉島優子

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
10. オストメイトの考える余暇活動に関する希望について - テキストマイニングを用いた分析に焦点を当てて -	共著	令和2年8月	日本看護研究学会第46回学術集会（札幌）	オストメイトのストーマ造設後の余暇活動に関する希望を明らかにすることを目的に、質問紙調査を行い、自由記述のあった252名の余暇活動を分析対象とし、テキストマイニングで分析した。KWICコンコーダンスでは、「思い」の前後の文脈に注目したところ、外出するという行動から現状維持までの前向きな希望が明らかとなった。対象者が介護世代でもあり、一部では介護が外出の阻害要因となっていた。階層的クラスター分析、共起ネットワーク分類で活動を拡大したいという希望が抽出され、現状に留まっていたくないという思いと社会に出て余暇活動をとおして、生活をしてみたいという思いが明確になった。看護職者によるオストメイトに対する情緒的および手技的サポートの必要性が示唆された。共著者：溝口みちる、松浦純平、中馬成子
11. せん妄とPICSに関する研究動向の分析	共著	令和2年8月	日本看護研究学会第46回学術集会（札幌）	せん妄とPICSに関する研究の動向について、今後のせん妄看護を検討することを目的に、「せん妄」、「PICS」で文献を検索し、テキストマイニングで分析した。PICSの概念は、ICU入室中からの理学療法士や作業療法士などの多職種が連携した介入で、品詞別の結果では看護師以外の医療職種は該当なかった。共起関係ネットワーク分類の結果より、現在は主に看護師の介入と効果の検証とICUと患者が多い結果であり、看護師と共に理学療法士や作業療法士などの多職種が連携して介入することによりPICSの予防策の一助につながると考える。共著者：松浦純平、溝口みちる、植木奈美枝、上野栄一
12. テキストマイニングを用いた青年期・壮年期におけるオストメイトの余暇活動に関する希望	共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	研究の目的は、青年期・壮年期におけるオストメイトの余暇活動に関する希望を明らかにすることである。日本オストミー協会A支部会員の1470名のうち、有効回答が得られた509名から60歳未満の42名のうち、自由記述のあった22名を分析対象とした。計量テキスト分析ソフトKH Coderを用いて分析を行った。その結果、「役に立ちたいと思う自分」「ストーマ造設後の活動」などのカテゴリーに分類され、「スポーツ」と「ストーマ」、また「自分」を中心に「役に立つ」、「人」、「思う」、「生活」との間に強い相関がみられた。体力維持や活動を活発に行いたいという気持ちに、思いとどめてしまっていると考えられ、セルフヘルプ・グループの活動を通して、ストーマを造設した自身の存在を主張し、共通の悩みを持つものと協働すること、さらに余暇活動への希望が膨らむのではないかと考える。共著者：溝口みちる、松浦純平
13. テキストマイニングを用いた看護系大学生が考えるCPR実施上の困難感（第一報）	共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	研究の目的は、看護系大学生が考える一次救命処置実施上の困難感を明らかにして、今後の教育に示唆を得ることである。A看護系大学1～4年生320名に質問紙調査を実施した。有効回答者53名の自由記載を分析対象とし、自由記載について計量テキスト分析ソフトKH Coderにて分析した。CPRで大事なことは確実な手技のもと胸骨圧迫の継続である。結果より実施阻害要因の1つとして不安が明らかになった。不安の内容は確実な胸骨圧迫の実施ができるかと周囲の目がある中でCPRの2つの不安が明らかになった。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子、上野栄一
14. テキストマイニングによる看護系大学生が考えるCPR実施を阻害する理由（第2報） 一要因の具体的内容－	共著	令和2年12月	第40回日本看護科学学会学術集会	研究の目的は、看護系大学生が考えるCPR実施を阻害する要因の具体的内容を明らかにし、今後の教育への示唆を得ることである。A看護系大学1～4年生320名へ質問紙調査を実施し、有効回答が得られた53名の自由記載を分析対象とし、自由記載内容を計量テキスト分析ソフトKHCoderにて分析した。CPRでは無理して人工呼吸を実施するよりも確実な胸骨圧迫の継続、優先順位を考慮した正しい知識の提供と実施への自信のための繰り返し演習が重要である。衣服の完全脱衣ではなく衣服の下からのパッド貼付などを普段から想定した教育・演習が必要である。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子、上野栄一
15. テキストマイニングによるICUにおける術後せん妄に関する研究の現状と展望	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会近畿・北陸地方会	研究の目的は、ICUにおける術後せん妄に関する研究の現状と展望を明らかにすることである。検索データベースは医学中央雑誌Web版を使用した。キーワード検索は術後せん妄、ICUとした。絞り込み条件は原著論文、看護文献とした（2020. 4. 7現在）。検索の結果、得られたICUと術後せん妄に関する論文39編を抽出し、研究目的を分析対象とし、計量テキスト分析ソフトKH Coderを用いて分析を行った。患者の思いを実際に語ってもらい聞き取るなどの患者側の視点からの研究（2編）の5つの側面からの研究に取り組まれていることが明らかになった。今後の展望はICUにおけるせん妄看護の統一ガイドライン策定の必要性があると考えられる。共著者：溝口みちる、松浦純平、田場真理

著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
16. A看護系大学生のCPR（心肺蘇生法）教育に関する意識調査	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	研究の目的は、看護系大学生のCPR教育に関する意識の実態を明らかにすることである。A看護系大学1～4年生356名に質問紙票調査を実施し、回収数53名（14.9%）、有効回答数51名（14.3%）。BLS受講の有無は45名。BLS受講回数は1回17名（33.3%）、2回18名（35.2%）、3回5名（9.8%）、4回11名（22%）であった。SPSS Ver. 26を使用しTukey法による多重比較検定を行った結果、BLS実施の自信について学年比較した結果、1年と3年、1年と4年の2群間について有意差（ $p<.005$ ）がみられた。学年間で群間比較した結果、有意差はみられなかった。BLS講義・演習を受講済であるため学生はやればできるという自信につながっているのではないかと推察する。共著者：松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子、上野栄一
17. オンライン上グループワーク型授業における看護学生の態度に影響を及ぼす要因	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	オンライン上グループワーク（以下、GWとする）型授業における看護学生の態度に影響を及ぼす要因について明らかにすることを目的とした。A看護系大学3年次生88名を対象に「ZOOM」のブレイクアウトセッション機能を用いて周術期看護に関するGW型授業を28時間実施後、授業に関する質問紙調査を行った。分析では記述統計により各変数の分布について確認した後、GWにおける態度を従属変数、通信状況以外を独立変数とし重回帰分析を行った（VIF：1.000～1.074）。その結果、分析では記述統計により各変数の分布について確認した後、GWにおける態度を従属変数、通信状況以外を独立変数とし重回帰分析を行った（VIF：1.000～1.074）。看護学生がオンライン上GW型授業においてスキルを発揮したり、やりがいある態度で参加するためには、安心して自分の考えを発言できるような心理的に安全な環境と、GWに備えた事前学習が必要であることが考えられた。共著者：田場真理、松浦純平、溝口みちる
18. 看護過程におけるアセスメントに関する研究	共著	令和3年3月	第33回日本看護研究学会 近畿・北陸地方会	研究の目的は、看護過程におけるアセスメント能力に関する研究の特徴を明らかにすることである。医学中央雑誌Webを用いて「看護」「アセスメント能力」をキーワードとして、315件の論文を対象とした。共起分析では「看護とアセスメントと能力」「今後と課題」などがグループ形成した。対応分析では「学生と実習と指導」「支援と活動」などの特徴が示された。アセスメントのコロケーション解析では「アセスメント能力」「アセスメントシートの活用」「アセスメント能力の概念」「アセスメントの方法」「症状別アセスメント」「焦点を当てたアセスメント」「EBMに基づいたアセスメント」の7つのカテゴリーが生成された。今後は、指定規則の改変による臨床判断が求められる。また、病院から在宅への医療体制が進む中、在宅、地域を包括したアセスメント能力が求められる。アセスメント能力は、正確な看護診断をするために必要な能力であり、今後の学校教育や臨床での能力向上に向けた取り組みが必要と考える。共著者：上野栄一、松浦純平、田場真理、溝口みちる、守本とも子
19. クリニカルパスに対する看護師の認識	共著	令和3年7月	第27回日本看護診断学会 学術大会	DPCの導入に伴い、効率的で質の高い医療を目指すために標準診療計画としてクリニカルパスが活用され、看護過程をクリニカルパスで展開することが多くなった。研究の目的は、看護師がクリニカルパスをどのように認識しているかを明らかにすることである。計量テキスト分析ソフトKH Coderを用いて分析を行った。クリニカルパスの現状としては、外科的な手術に活用され術前術後のクリニカルパスの効果や見直しなどの検証が行われていることが示唆された。またクリニカルパスの活用は、外科的な手術以外の診療分野でも活用が広がっていることが明らかになった。看護師にとってクリニカルパスは、作成や機能に関する部分のみで、項目の検索や活用できるための認識に留まっているのではないかと考える。在院日数短縮化がさらに広まるなか、標準診療計画としてのクリニカルパスは有用であると考えられる。今後はより質の高いクリニカルパスを活用できるのか検討する必要がある。また、新人看護師がどのようなアセスメントを踏まえたうえでクリニカルパスを活用し、対象の個性に応じた看護の実行と評価につなげているのかということを明確にする必要があると考える。共著者：溝口みちる、松浦純平、田場真理、上野栄一
20. 舌亜全摘を受けた患者のレジリエンスの構成要素	共著	令和3年7月	第27回日本看護診断学会 学術大会	舌亜全摘を受けた患者のレジリエンスの構成要素を明らかにし、看護支援の方向性について示唆を得ることを目的とする。半構造化面接を実施、逐語録を作成し、「治療後の生活の中での困難な体験をどのように乗り越えてきたか」について具体的に語られた部分を抽出、コード化しサブカテゴリー化、カテゴリー化した。亜全摘を受けた患者のレジリエンスを高めるための看護支援としては、患者が舌癌も舌癌になった自分も受け入れられるよう心身の回復段階を見極めながら患者のよき理解者となること、そして患者から信頼を得られるよう関わることを求められる。また、医療者のサポートはもちろん、家族等ソーシャルサポートの調整をすること、さらに患者が障害・後遺症改善へ向け探索・実践を継続できるよう自己効力感を高める関わりを行うことも求められる。共著者：田場真理、松浦純平、溝口みちる、守本とも子

著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
21. 看護過程の観点から考えるせん妄への介入研究の特徴	共著	令和3年7月	第27回日本看護診断学会学術大会	研究の目的は、看護過程の観点からせん妄発症介入研究に関する特徴を明らかにすることである。分析ソフトKH Coderを使用し、テキストマイニング法にて分析した。せん妄発症介入研究に関する看護過程の特徴は、成人期における術後せん妄発症に対する予防介入やCOVID-19とせん妄を同時に発症した患者への看護、認知症看護の観点から看護過程のプロセスをふまえた介入研究が多いことが明らかになった。共著者：松浦順平，溝口みちる，田場真理，松村あゆみ，上野栄一
22. ストーマ撮影時のiPhone12 ProMaxとD435の空間分解能の比較評価	共著	令和4年3月	情報処理学会第84回全国大会	iPhone12 ProMaxとD435が搭載の深度センサで人工ストーマを撮影し、その形状精度の評価実験を行った。すなわち、dToF方式のLiDARとIR投射の深度センサの形状精度の評価実験を行った。3cm、6cm、9cmの人工ストーマをコンピュータで操作が可能な回転台に設置し、それらの真上に位置するようにカメラを設置する。取得した点群データをCloud Compare内で点群マッチングし、精度評価を行った。結果としてはD435の方がより少ない誤差許容距離で精度が高いものとなった。共著者：吉川知輝，登尾啓史，溝口みちる，榎木方俊，朝野美穂

教 育 研 究 業 績 書		
2025年 5月 12日		
氏名 宮原聡子 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
成人老年看護学	チーム医療・急変対応・気づき・臨床判断・教育	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例	2012年～	グループワークを通して自己と他者のディスカッションから潜在的問題に気づき思考力を育成する。主にアクティブラーニングを取り入れることで学生の思考力が向上した。 シミュレーション研修では体験型学習を導入し、演習の効果的活用を行った。
1) 大阪府看護協会 認定看護師教育課程での講義 2) 大阪府看護協会 復職ナース向け講義 3) 大阪府看護協会 特定行為研修OSCE実習 4) 大阪市淀川区医師会看護専門学校での講義		
2 作成した教科書、教材	2012年～2024年	院内ラダー別研修・BLS研修で使用する教材やプログラムを立案・作成 1回90分のBLS研修では人形、AEDを使用し胸骨圧迫・マスク換気・AEDの使用方法などのハンズオンを行った。
・院内および大阪府看護協会講習会で使用するBLS の資料作成 ・ラダー別研修講義資料作成 ・大阪府看護協会ナースセンターでの一般看護師向け講義資料作成 ・大阪府淀川区医師会看護専門学校における講義資料作成	2020年～2022年	大阪府看護協会クリティカルケア認定看護師教育課程の講義資料作成 クリティカルケアにおけるチーム医療（RST）、RRTとMETでは急変対応の意義、クリティカル認定看護師として急変を予測した対応やOJT、急変事例の臨床判断を事例を使って考察し、介入方法を学ぶ内容とした。
・CCRI（Critical Care Research Institute）セミナー教材作成 ・奈良学園大学保健医療学部看護学科 ラーニングスキルズ授業資料作成	2020年～2022年	一般の看護師や復職目的の看護師を対象に、フィジカルアセスメントの講義とBLS研修を行った。また、シミュレーション研修では、グループでフィジカルイグザミネーションを体験してもらい、ハンズオンを行った。
	2021年～2024年	大阪府淀川区医師会看護専門学校での講義資料作成 「看護の統合と実践Ⅱ」の科目を担当し、病状の急激な変化に対応するための看護の視点、人工呼吸中の患者の看護についてレクチャーを行った。フィジカルアセスメントやフィジカルイグザミネーションでは実際に学生同士で聴診、打診の練習などを行った。
	2022年 7月	インターネットを使用したセミナーで、一般社団法人 Critical Care Research Institute（CCRI）”が主催。クリティカルケア看護や急性期医療に関わる看護を中心とした「臨床における問題」を見出し、その改善策を検討し「Best Practice」の提供に繋がる支援をする内容とした。
	2025年 5月～	新1年生に対して、大学生としての学習法を中心に、レポートの書き方、文章の構成、論読の読み方などの授業資料を作成した
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項	2018年9月、11月	医療法人 医仁会 武田総合病院、鹿児島県鹿児島市立病院においてRapid Response Teamについて、医療安全対策研修会で講演を実施した。
	2018年12月	病棟看護師向け、気管切開をしている患者の看護について講義を実施した。気管切開の仕組み、呼吸管理、ケアの方法、精神的援助、吸引方法など、医療安全からの視点も加え講義を実施した。
	2019年9月	大阪府看護協会復職支援ナース受講生に対しフィジカルアセスメント・BLSの講義を実施
	2022年4月	外来で急変事例が発生した場合の対応方法についてシミュレーション研修を実施した。スライド資料を使った講義ののち、必要物品、看護師以外の多職種それぞれの動きと役割など場面を実際に設定して行った。
	2020年～2022年	クリティカルケア認定看護師教育課程研修生に対し、チーム医療・急変対応の講義を実施
5 その他	2017年4月	医療安全研修の一環で、院内看護師50名を対象に呼吸ケアセミナーを開催した。スライドを使用し、呼吸生理、呼吸器系の解剖、呼吸管理（酸素、呼吸器を含む）の内容とした。また、実際に呼吸器を使ってトラブルシューティングをレクチャーした。
・特定行為研修に係る運営・評価 ・認定看護師活動としてセミナーを担当 ・都島区在宅医療・介護推進協議会主催の動画出演	2018年9月	他職種を対象に、リハビリテーション室における急変事例のシミュレーション訓練についてスライドで講義を行ったのち実践を行った。
	2019年11月	集中ケア認定看護師会教育セミナー講演。「特定行為研修の現在・未来」というテーマでクリティカルケア看護部門で働く看護師や一般看護師を対象に特定行為研修終了後の活動や組織におけるチーム医療、今後の展望について講演を行った。

			2021年10月～	大阪公立大学付属病院特定行為研修受講生のOSCE評価・研修運営に係る内容の検討	
			2021年2月	大阪府都島区保健福祉センター主催の在宅医療・介護推進事業の一環として、エンディングノートを紹介する動画に救急看護師として出演協力を行った。	
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項					
事項			年月日	概 要	
1 資格, 免許			1986年3月 1993年4月 2012年6月 2018年3月	幼稚園教諭2級・保育士資格取得 看護師免許取得（第781165） 集中ケア認定看護師資格取得（のちにクリティカルケア認定看護師に呼称変更） 特定行為研修修了（3区分5行為）呼吸器関連・動脈血液ガス関連	
2 特許等				なし	
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1) 海外講演 2) 認定看護師審査作問			2013年12月 2019年11月～ 2021年10月	台湾 台北市民病院において心臓外科チーム（医師・看護師・臨床工学技士）による交流シンポジウムで講演 日本看護協会集中ケア認定看護師認定試験問題の作成	
4 その他			2013年	論文被引用1件 DOI : https://doi.org/10.4058/jsei.28.154	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項					
著書, 学術論文等の名称		単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 雑誌					
本当に風邪?違う怖い疾患かも?隠れた致死性の疾患を見逃すな!TIA～脳梗塞への進展 重大な脳梗塞を防ぐ重要なカギ		共 著	2014年10月	救急看護トリアージスキル強化	患者の対応の際に致死性の疾患が隠れていることがあり、臨床判断を行う上で見逃してはならないサインに気付くこと（脳梗塞編）
本当に風邪?違う怖い疾患かも?隠れた致死性の疾患を見逃すな!よくある痛み胸痛・胃痛・背部痛への早期介入 痛みの程度と発生部位の見極め		共 著	2014年10月	救急看護トリアージスキル強化	患者の対応の際に知識手疾患が隠れていることがあり、臨床判断を行う上で見逃してはならないサインに気付くこと（大動脈解離編）
ゆるキャラ “ボタボタちゃん” が案内役☆ 「何を」「いつ」「どれくらい」「いつまで」がわかる! 急性期の輸液・輸血のポイント		共 著	2015年	Emergency Care	急性期に必要な輸液管理と、輸血投与について28(6) 590-596
急変前の察知⇒アセスメント⇒ドクターコール(RRT要請)ミラクルメソッドRRSってなに?		共 著	2015年	Emergency Care	急変対応チームの役割と要請する判断 28(8)
病態別!輸液・輸血のポイント 小児		共 著	2015年6月	Emergency Care	小児の輸液管理と輸血投与・管理について28(6)
安全・迅速・確実に!ちょっとした処置から外傷まで “いつもの手技” のコツ&工夫 AEDと胸骨圧迫の最前線とエビデンス 妊婦・大動脈解離の患者に胸骨圧迫しても大丈夫ですか?		共 著	2015年6月	救急看護ケア・アセスメントとトリアージ (隔月刊誌救急看護ケア・アセスメントとトリアージ)	妊婦に対する急変時の胸骨圧迫の方法とAED使用に関する解説5(1) 6-12
RRSってなに?		共 著	2015年8月	Emergency Care	Rapid Response Systemとチーム活動について解説28(8) 754-757
二次・三次救急・急性期現場での的確な見極めと処置 敗血症・敗血症性ショック 敗血症と代謝・栄養管理 侵襲の大きさとエネルギーの需要バランスとは?		共 著	2016年3月	救急看護ケア・アセスメントとトリアージ (隔月刊誌救急看護ケア・アセスメントとトリアージ)	敗血症に至る生体侵襲の過程と栄養者医者について6(1) 29-35
ココが知ってたかった!急変対応Q&A「役割分担」に関するギモン ココがポイント スタッフの役割/リーダーの役割		共 著	2016年7月	エキスパートナース	急変があった場合の役割分担について、チームダイナミクス32(10) 102-114
保存版 人工呼吸器管理マスター 呼吸(ガス交換)の仕組み		共 著	2017年4月	急変看護ケアとトリアージ (隔月刊誌救急看護ケア・アセスメントとトリアージ)	人工呼吸器管路とガス交換の仕組みについて 6(6) 2-8
何か変?の察知と院内急変時の報告・対応 腹痛を訴える患者		共 著	2018年	急変ABCD+呼吸・循環ケア	腹痛を訴える患者の急変予測と対応について
アテローム血栓症～左麻痺の出現と右脳梗塞		共 著	2018年4月	脳の看護実践	アテローム血栓症とマヒの出現、ケアについて 3(6) 40-45
(著書)					
呼吸と循環をつなげた急変予測・対応行動の基本実践事例集		共 著	2013年12月	日総研	第1章 基礎知識 編 呼吸・循環・意識から判断する 急変を見逃さない患者の見方 “あれっ?”と思ったら立ち止まって観察しよう)
消化器ナースのギモン		共 著	2017年	照林社	ドレーン管理について
いまさら聞けない急変対応		共 著	2018年9月	照林社	役割分担に関するギモンについて回答する
先輩ナースが書いた看護の鉄則		共 著	2021年5月	照林社	気管切開管理について 患者ケアや酸素療法

看護のギモン	共著	2024年4月	照林社	酸素療法について
(学術論文)				
1. 閉鎖式三方活栓を用いた細菌汚染改善の試み（査読付）	筆頭・共著	2006年	環境感染 21巻（1）	中心静脈カテーテル留置に伴うカテーテル関連敗血症（Catheter related blood stream infection, CRBSI）の重要な原因の一つに三方活栓がある。今回、現在使用している保護栓付きの三方活栓（以下非閉鎖式とする）を、アーガイルセイフアクセスシステムセイフTポート（以下閉鎖式とする）に変更する事により細菌汚染の改善がみられるかを検討した。当院集中治療室に入室した患者で、中心静脈カテーテル留置開始後トリプルルーメンカテーテルを使用した症例のうち、三方活栓を使用してから72時間以上経過した88症例436個の三方活栓を対象とした。 非閉鎖式39症例169個、閉鎖式（死腔あり）20症例123個ならびに閉鎖式（死腔なし）29症例144個の三方活栓について細菌培養を行い、細菌汚染の陽性率、検出菌の比較を行った。 三方活栓全体における細菌汚染度は、非閉鎖式11.8%の陽性率であったのに対し、閉鎖式は0.7%と有意に低下した。閉鎖式で陽性率が低かった要因として、外部への開放状態をなくすことにより細菌侵入を防ぐことや、非閉鎖式に存在するサイドリブの死腔をなくすことで、菌の増殖を低下させるなどが考えられる。しかし、閉鎖式を用いても0.7%の陽性率が認められる事から、閉鎖式を用いるのみでは感染を防ぐ事はできず、手洗いの励行を初めとする標準的な予防策の徹底や環境整備のあり方、三方活栓の消毒方法にも目を向ける必要がある。 ◎宮原 聡子, 吉田 麻美, 原田 幹子, 安宅 一晃, 光野典子, 奥山 道子
2.Effect of post-ICU follow-up by a rapid response team after congenital heart surgery (査読付)	共著	2022年4月	Scientific reports	Patients with congenital heart disease who have a variety of cardiac/extracardiac problems are at high risk for deterioration. This study aimed to determine the effectiveness of post-intensive care unit (ICU) follow-up by a rapid response team (RRT) after congenital heart surgery. This before-and-after study was conducted at an urban regional tertiary hospital. We enrolled 572 consecutive patients who underwent congenital heart surgery and were transferred alive from the paediatric ICU (PICU) between April 2015 and March 2020. Post-ICU follow-up for 48 h was started in April 2018. The primary and secondary endpoints were unplanned ICU readmission and clinical outcomes at ICU readmission, respectively. Overall, 346 and 226 patients were analysed pre- and post-intervention, respectively. Patient demographics were similar between groups, but in the post-intervention group, patients tended to have had more complicated surgery. Unplanned ICU readmission rates within 30 days were similar between groups. Regarding the demographics and outcomes at ICU readmission, patients in the post-intervention group had lower predicted mortality rates (1.7% vs 5.3%, $P = 0.001$), required less ventilator days (median, 0.5 days [interquartile range (IQR) 0-1] vs median, 3 days [IQR 0.5-4], $P = 0.02$), and had a shorter ICU stay (median, 3 days [IQR 2-4] vs median, 6 days [IQR 3-9], $P = 0.03$), but there was no significant between-group difference in ICU mortality. Post-ICU follow-up by a RRT after congenital heart surgery did not decrease unplanned ICU readmission but improved several outcomes at ICU readmission. Taiki Haga, Takaaki Sakaguchi, Takao Kazuta, Takaya Morooka, Junji Maruyama, Naoko Yamaoka, <u>Satoko Mivahara</u>
（その他）学会発表				
RRS(Rapid Response System) 始動から3年における活動の評価と課題		2016年	日本臨床救急医学会	川口なぎさ, 木村千穂, 松村京子, 上田小百合, 千田多絵子, <u>宮原聡子</u> , 植村桜, 有元秀樹
Rapid Response System開始後の院内死亡患者の推移と予期せぬ死亡患者の内容分析		2016年	日本集中治療医学会	松下千紘, 上田小百合, 川口なぎさ, 木村千穂, 松村京子, <u>宮原聡子</u> , 有元秀樹, 奥村将年, 重光胤明, 師岡晋也
RRTラウンドの振り返りと今後の課題～病棟看護師への急変に対するアンケート調査からの検討～		2016年	日本集中治療医学会学術集会	川口なぎさ, 木村千穂, 安宅一晃, 堀江沙矢希, 松村京子, <u>宮原聡子</u> , 松下千紘, 上田小百合, 千田多絵子, 有元秀樹
Behavioral Pain Scaleの導入による鎮痛管理の実態		2016年	日本集中治療医学会学術集会	ICUにおける患者の鎮痛評価としてBPSを導入し、適切な鎮痛管理を得られたか検証した 千田多絵子, <u>宮原聡子</u> , 中島愛那, 清水朋, 植村桜
クリニカルラダー導入に向けた教育体制の構築		2016年	日本集中治療医学会学術集会	ICUなどの重症センターにおけるクリニカルラダーを構築し、技術や知識の教育の評価が適切に行えるようにした。 植村桜, <u>宮原聡子</u> , 松村京子, 木村千穂, 川口なぎさ

小児・成人混合集中治療室における成人患者のせん妄発症率とその実態	2017年	日本クリティカルケア看護学会	小児と成人が同じユニット内という治療環境下において、成人患者のせん妄の発症に影響を及ぼすか検討した 植村桜, <u>宮原駿子</u> , 吉田麻美, 曾谷幸美
当院の一般病棟入院患者における急変予兆を把握するための検討- National Early Warning Score(NEWS)の有用性に関する考察-	2017年	診療情報管理	板垣恭子, 清水貞利, 清水貞利, <u>宮原駿子</u> , 木村千穂
当院における小児院内急変のICU入室に至る経過からRRT起動基準が小児RRSに有効か検証する	2017年	日本小児救急医学会	成人にのみ使用していたRRT起動基準を新たに小児を対象とした起動基準を作成し、急変予兆を判断するツールとして有効であるか検証した 松村京子, 川口なぎさ, 木村千穂, <u>宮原駿子</u> , 上田小百合, 千田多絵子, 有元秀樹, 清水萌, 師岡善也, 岩田博文, 芳賀大樹
National Early Warning ScoreはRapid Response Teamラウンド終了時の患者予後を予測するか	2017年3月	第44回日本集中治療医学会 学術集会一般口演	NEWSスコアが、RRTラウンドを終了する指標になるか検証した ◎ <u>宮原駿子</u> , 芳賀大樹, 松村京子, 木村千穂, 川口なぎさ, 千田多絵子, 上田小百合, 植村桜, 師岡善也, 有元秀樹
総合病院における小児Rapid Response System	2018年	第45回日本集中治療医学会	芳賀大樹, 岩田博文, 師岡善也, 有元秀樹, 川口なぎさ, 木村千穂, 松村京子, 丸山純治, <u>宮原駿子</u>
小児看護領域に勤務する看護師のRRTに対する意識調査からみえてくる小児RRSの課題	2018年	日本小児救急医学会	松村京子, 川口なぎさ, 木村千穂, <u>宮原駿子</u> , 有元秀樹, 師岡善也, 芳賀大樹
急変事例からみた医療行為施行後のバイタルサイン測定及び患者状態確認に関する検討	2018年	診療情報管理	板垣恭子, <u>宮原駿子</u> , 松村京子, 古山とし, 清水貞利,
医療安全の観点から検討したRSTのICU退室後フォローアップラウンドの有用性	2019年	日本呼吸療法医学会学術集会	植村桜, 豊島美樹, <u>宮原駿子</u> , 松村京子, 藤原美紀, 上田小百合, 左直子, 井畑勝也, 田村匡弘, 山野上清匡, 香川啓, 大塚康義, 重光胤明, 鶴岡歩, 林下浩士
ICU再入室予防のための退室後ラウンド有用性の検証	2020年	第47回日本集中治療医学会 学術集会一般口演	<背景>A病棟のICUに入室する患者は、予定術後患者、三次救急患者、院内急変患者である。2018年1月～12月にICUを退室した患者1029例のうち、再入室症例（ICU退室後7日以内の再入室）が37例（3.6%）あった。A病棟にはRRS(Rapid Response System:以下RRS)があり、院内急変ではコードブルーチームが対応し、急変のリスクがあると懸念された患者に対してはRRT(Rapid Response Team:以下RRT)が対応している。RRTが介入しICU入室となった患者に対しては、ICU退室後もRRTがフォローのラウンドを実施しているが、その他の退室患者に対してはフォローのラウンドは実施していなかった。ICUへの再入室は在院日数の増加や院内死亡率のリスク因子であることは知られている。そこで、ICU退室後ラウンドを行うことでICU再入室を予防できないか検証した。 <方法>2018年10月～12月にICUを退室した患者（ラウンドなし群）、2019年4月～6月にICUを退室した患者（ラウンドあり群）の診療録から、ICU退室時NEWS2（National Early Warning Score:早期警告スコア）の点数が5点以上であった患者の再入室の有無を後方視的に調査し比較検証した。<結果>ラウンドなし群は259例で、再入室患者は5例（1.9%）であった。NEWS2が5点以上の退室患者は72例（27.8%）で、そのうち再入室患者は3例（4.2%）であった。また、ラウンドあり群は230例で、再入室患者は7例（3%）であった。NEWS2が5点以上の退室患者は47例（20%）、そのうち再入室患者は4例（8.5%）であった。NEWS2が5点以上の再入室率は、ラウンドあり群とラウンドなし群では有意差は認めなかった。<結論>退室後ラウンドの有無によるICU再入室率に変化は認めなかった。 ◎<u>宮原駿子</u>, 山根正寛
院内迅速対応チームによる先天性心疾患術後患者に対するPICU退室後48時間までの定期訪問の効果	2021年	第47回日本集中治療医学会学術集会	【背景と目的】2018年度から院内迅速対応チームによる先天性心疾患術後を対象としたPICU退室後48時間までの定期訪問(CO)を開始。CO介入による効果を検証した。【方法】前後比較研究（介入前3、後2年）。対象：先天性心疾患術後のうちPICUを生存退室した患者。患者背景、手術/ICU情報、予定外再入室率、重症度・転帰（予測死亡率:PIM3、ICU/人工呼吸日数、ICU死亡率）を比較した。 【結果】介入前346、後226例。予定外再入室率は介入前後で退室後24時間以内 1.2 vs 0%、48時間 1.4 vs 0.4%、72時間 1.7 vs 1.3%、7日 2.6 vs 3.1%、14日 4.0 vs 5.8%、30日 5.2 vs 8.0%。再入室率は72時間までは介入前、7日以降は介入後で多い傾向があったが有意差はなかった(背景因子調整後も差無し)。再入室原因は、循環44%、呼吸31%、感染14%、神経8%、心肺停止3%。介入後で循環が多く、呼吸、神経が少ない傾向があった。また外科的合併症58.3%、手術残存病変19.4%だった。重症度・転帰では、介入後でPIM3が低かったが(中央値5.3[IQR3.6-7.8] vs 1.7[0.9-4.3], P=0.003)、その他転帰は両群間で差はなかった(ICU日数6.5[3-11] vs 4日[2-6], P=0.17, 人工呼吸日数3[1-6] vs 1日[0-2], P=0.076, ICU死亡5.6 vs 0%, P>0.99)。COによる転帰改善が困難と考えられる手術残存病変を除外すると、介入後でPIM3が低く(5.3[0.5-97] vs 1.7[0.5-7.9], P=0.001)、ICU日数(6[2-18] vs 3日[2-13], P=0.037)、人工呼吸日数(3[0-9] vs 0.5日[0-4], P=0.023)が短かった。【結論】退室後48時間COは、再入室率を低下させないが、手術残存病変以外でICU/人工呼吸日数を短縮させた。芳賀大樹, 坂口高章, 数田高生, 師岡善也, 丸山純治, 山岡直子, <u>宮原駿子</u>

Face to Faceで始まるRRT	2023年	第49回日本集中治療医学会 学術集会 パネルディスカッショ ン	A病院は、大阪の中心部にあり、病床数1063床、12の臓器別セン ター、58診療科を有し、集中治療センター40床（スーパーICU28床 HCU12床）の急性期病院である。2012年にRapid Response System （RRS）が導入され、現在のチーム実働メンバーは医師6名、認定 看護師5名とスタッフNs 1名であり、看護師2名で平日9:00から 17:00に病棟ラウンドとオンコール対応を行っている。毎日病棟に 足を運ぶことで次第に顔が見える関係となった。垣根を低くして 相談をしやすい状況にできたことや、チームが対応することで 患者の急変を未然に防ぐことができた、あるいはスムーズにICUに 入室させ集中治療を受けることができたなどの成功体験を増やす ことで、看護師だけではなく医師からの依頼も増えつつある。ま た、ラウンド時に専門的な知識と経験をもとに、病棟看護師にQIT を行うなど、院内教育活動も担ってきた。看護師が中心となり医 師の協力のもと活動しているが、看護師の人員確保が現在の最大 の課題である。専門的知識を駆使し最大限に活用できる人材とし てチームメンバーの多くを重症系の認定看護師としてきたが、コ ロナ禍においては、それぞれの部署外での活動が困難となり、 2020年からはRRT活動が休止にまで追い込まれた。RRT活動を行う 上で看護師の役割は大きい。今回、このセッションで看護師の 人員確保という課題についてヒントを得たい。 ◎宮原聡子、師岡誉也、芳賀大樹、數田高生、坂口高章、前島慶 人、木村千穂、山根正寛、丸山純治、山岡直子
コロナ禍のRapid Response Team(RRT)活動休止による予期せぬ院内 心停止への影響	2022年	日本臨床救急医学会	師岡誉也、芳賀大樹、 <u>宮原聡子</u> 、木村千穂、重本達弘、林下浩士
Rapid response teamの活動休止による 院内の重篤有害事象への影響	2023年	第50回日本集中治療医学会学 術集会	【目的】Rapid response team(以下RRT)は入院患者の重 篤有害事象(予期せぬ死亡、心停止、ICU予定外入室)の 減少を目的としたチームであり、導入による有効性は多 数報告されているが、RRTの活動休止による影響を検討 した報告はない。当院は2013年にRRTが設置されたが、 2020年4月～2021年11月に新型コロナウイルス流行に伴 う人力不足のためRRTが活動休止となった。RRT休止によ り重篤有害事象が増加傾向にないか調査するため本研究 を行った。【方法】RRT活動休止期間を含む4年間(2018 ～2021年)における重篤有害事象の件数を電子診療録お よびRRT記録から後方視的に抽出し、活動群vs休止群で 比較を行った。さらに予期せぬ死亡、予期せぬ心停止に 関しては成人と小児に分けて評価を行った。【結果】観 察期間における全体、成人、小児における重篤有害事象 の推移を図に示す。活動群と休止群の比較では、休止期 間中のICU予定外入室は減少しており [OR 0.73 (95%CI 0.63-0.86, p<0.01)]、全体と成人において予期せぬ心 停止は増加傾向 [全体: 1.4 (0.96-2.0, p=0.08)、成人: 1.4 (0.96-2.1, p=0.08)] にあった。【結語】RRTの休止 が予期せぬ心停止の増加に寄与した可能性がある。 坂口高章、芳賀大樹、數田高生、山岡直子、丸山純治、 <u>宮原聡子</u> 、左直子、師岡誉也

(注)

- この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び専任教員について作成すること。
- 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 「氏名」は、本人が自署すること。

教 育 研 究 業 績 書		
2025年 5月 7日		
氏名 村川 園美		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
小児看護学	子どもをケアする看護師の能力の向上	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
奈良学園大学 ラーニングスキルズ	2023年～現在	1年生が大学での学習を進めるうえで必要となる基礎的な知識を学ぶことを目標に、ゼミ形式で授業を行っている。
奈良学園大学 小児看護学援助論	2023年～現在	2年生を対象に小児看護学援助論の授業を行っている。「検査・処置を受ける子どもと家族への看護」「手術を受ける子どもと家族への看護」「痛みに対する子どもと家族への看護」等に関する講義を行い、実際の臨床現場の写真を見せながら授業を行い、学生たちが周術期の子どもの様子をイメージできるよう工夫している。
奈良学園大学 小児看護学援助論演習 奈良学園大学 小児看護学実習	2023年～現在	3年生を対象に小児看護学援助論演習と小児看護学実習指導を行っている。小児看護学援助論演習では、「子どもの視野体験」「子どもの心肺蘇生」に関する演習を実施し、看護過程に関するグループワークの指導を行っている。小児看護学実習では各学生が子どもを受け持つことができるよう臨床指導者と調整し、看護過程が展開できるよう指導している。
奈良学園大学 統合看護実習 奈良学園大学 卒業研究Ⅱ	2023年～現在	4年生を対象に指導を行っている。学生がテーマを設定し、各自で文献検討・調査を行い、言語化できるよう指導している。
奈良学園大学大学院 育成看護学概論Ⅳ	2023年～現在	大学院生が持ち寄った事例に対して家族看護の視点から分析しディスカッションを行っている。
2 作成した教科書，教材		
特記すべき事項なし		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
特記すべき事項なし		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
（1）国立循環器病研究センター 看護倫理に関する院内研修の担当	2020年4月～2023年3月	自施設に在籍する専門看護師4名とともに、院内の看護師が倫理的意思決定力を身に付けられるよう、プロセスモデルとして提唱されている倫理的感受性・倫理的推論・態度表明・実現をラダーレベルに応じて系統的に展開した。
（2）国立循環器病研究センター 子どもの権利擁護、意思決定支援に関する院内研修担当	2020年4月～2023年3月	自施設の看護師を対象に行われている意思決定支援の研修の中で、「子どもの権利擁護・意思決定支援」の講義を担当した。また、小児関連病棟での意思決定支援の助言を行った。

(3) 大阪府病院協会主催、看護職員実務者研修(循環器総合コース)の講義担当	2022年2月21日 2022年10月5日	依頼を受け、看護職員として5年以上業務に従事している者を対象に、循環器疾患に対する基礎知識及び看護を学び、各所属施設の看護の質の向上につなげる目的で開催された研修の「小児循環器疾患の看護」の講義を担当した。
(4) 国立循環器病研究センター主催、小児循環器看護研修「こどもの心臓病と看護について学ぼう」の講義・ファシリテート担当	2022年8月11日	依頼を受け、院外看護師を対象に、地域で生活する小児循環器疾患患者の生活を支える看護職が必要な基本的知識を獲得し、看護の質を向上させることにより、患者の QOL が高まることにつなげる目的で開催された研修の「心内修復術を終えていない子どもの観察ポイント」の講義、グループワークのファシリテートを担当した。
(5) 姫路医療センター附属看護学校 小児援助論の授業を担当	2022年10月～12月	依頼を受け、姫路医療センター附属看護専門学校2年生48名の小児看護援助論8コマ分を担当し講義・演習を実施した。担当内容は「小児の成長発達及び全身状態を観察するための看護技術」「検査や処置を受ける子どもと家族への看護技術」「安全安楽を保持する看護技術」についてであった。
5 その他 特記すべき事項なし		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 看護師免許 小児看護専門看護師資格 ACTすこやか子育て講座ファシリテーター資格	4月5日 11月23日 3月10日	登録番号：1576232号 登録番号：3141号 登録番号：02601
2 特許等 特記すべき事項なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 特記すべき事項なし		
4 その他 第57回日本小児循環器学学術集会 指定討論者 広報部会 日本看護研究学会第50回学術集会 実行委員 日本外来小児科学会 メディカルスタッフ向け教育コンテンツ作成メンバー	2021年7月9日～7月11日 2023年4月～2025年3月 2024年 2024年11月～現在	依頼を受け、オンラインで行われた日本小児循環器学会学術集会の口述発表の指定討論者を担当した。 広報部会委員として、オープンキャンパスの企画運営等を行った。 2024年8月24日・25日奈良県コンベンションセンターにて開催された日本看護研究学会学術集会の実行委員を担当した。 依頼を受け、小児看護の専門家や小児看護専門看護師、小児救急看護認定看護師らと、メディカルスタッフ向けの教育コンテンツ作成している。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) (1) これでわかる！ 心臓病の子どもの看護 のきほん	共著	2023年4月	雑誌：小児看護 第46巻 4号 発行：株式会社へるす 出版	心臓病の子どもにおける看護の理解に必要な視点が全126ページにまとめられている書籍の「動脈管依存性心疾患の新生児；術前の看護」(pp450-453)を執筆した。 共著者：宗村弥生（編集）その他15名
(学術論文) (1) 集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が『何か変』と察知する様相	共著	2021年	日本小児看護学会誌 第30巻	集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が『何か変』と察知する様相を明らかにすることを目的に看護師11名に半構造化面接を行い質的帰納的に分析した。看護師が子どもの現在の一時的な状況から感覚的に察知した〔看護師の感覚によりとらえた子どもの様相〕、看護師の判断軸からの変化により察知した〔子どもとのかかわりやケアの中でとらえた子どもの様相〕、ほかの看護師や家族からの指摘・情報から察知した〔他者からの指摘・情報を手がかりにとらえた子どもの様相〕の3大カテゴリーを抽出した。 共著者：◎西宮園美 檜木野裕美
(その他) —学会発表— (1) 小児科病棟におけるベッド選択のためのチャートの検討	共同	2014年	愛媛大学医学部付属病院看護部研究発表会	小児科病棟における「ベッド選択のためのチャート」を作成し、問題点や修正点について検討し、口述発表した。 共同発表者：遠藤洋二 武智美枝 片岡舞子 ◎西宮園美
(2) 集中治療を受けている乳幼児をケアする看護師が『何か変』と察知する様相	単独	2020年	日本小児看護学会 第30回学術集会	上記学術論文を口述発表した。
(3) COVID-19による面会制限下における先天性心疾患姑息術後患児の家族への退院指導に関する一事例	共同	2021年	第57回日本小児循環器学会学術集会	COVID-19による面会制限の中、限られた時間で退院指導を行った。その事例を振り返り、退院のための看護師の親への関わりに着目し、口述発表した。 共同発表者：◎西宮園美 濱野恵理 西川由花 前川由紀子
(4) PICUに長期入院している乳児の発達を促すケアに関する一考察	単独	2022年	日本小児看護学会 第32回学術集会	PICUに長期入院となり発達が遅れている乳児に対し、発達を考えたケアを行った。その事例を振り返り、発達を促すための児のケア、親への関わり、他職種の支援に着目し、乳児の発達を促すケアの視点で分析を行い、口述発表した。
(5) 面会の少ない父親に対する退院支援	共同	2023年	第13回 NCVC看護研究学会	先天性心疾患姑息術後の子どもが在宅療養へ移行するにあたり、父親へも退院支援を行う必要があるが、NICUには面会に制限があり、父親は子どもとの直接的な関わりが限られている。そのような父親に対して退院支援を行った事例を振り返り、院内研究発表会にて口述発表した。 共同発表者：田中優美 ◎西宮園美 山下知穂

（６）医療ケアが必要な子どもの家族への退院指導について	共同	2023年	第13回 NCVC看護研究学会	医療的ケアが必要な先天性心疾患姑息術後の子どもが、在宅で安全に生活できるよう家族へ退院指導を行った。両親以外の支援者がおらず、同胞の世話をを行いながら両親が疲弊することなく過ごせるよう児のケア時間を検討したり、限られた時間で手技が習得できるよう関わった事例を振り返り、院内研究発表会にて口述発表した。 共同発表者：安部由里子 ◎西宮園美 山下知穂
（７）子どもの最善の利益に関する看護師の援助における概念分析	共同	2024年	日本小児看護学会第34回学術集会	子どもの最善の利益に関する看護師の援助における概念の定義・属性・先行要件・帰結を明らかにし、ポスター発表を行った。 共同発表者：小池伝一 ◎村川園美
（８）精神疾患を患う母親をもつ子どもの思いに関する国内文献の検討	共同	2024年	日本看護研究学会第50回学術集会	精神疾患を患う母親をもつ子どもの思いに関して国内文献検討を行い、その結果を、ポスターで発表した。 共同発表者：蓮池光人 小池伝一 西出順子 ◎村川園美 林文子 上野栄一

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病もこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書

2025 年 5 月 1 日

氏名 森本 早紀

研 究 分 野	研究内容のキーワード	
文化人類学	実践・感覚・臨床看護・サウンド	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
事例を用いた学習。ロールプレイの活用を採り入れた授業設定【成人看護学講座】	2019 年 1 月から 2020 年 3 月まで	梅花女子大学 専門科目 急性期看護援助論 3 学年（通年・必修）3 単位 80 名 成人看護学実習 1（急性期）を担当し、手術療法によって生じる生体機能の変化と生活の変化を理解し、問題解決に向けたアプローチ方法を学ぶことを目的とした。実習と関連付けられた本科目では、事例展開を通して根拠をもった看護過程の展開について学習を進めた。学生は作成した看護問題と解決策のシナリオをもとに、根拠に基づく理解をさらに深められるよう、学生の主体的な行動を引き出す目的でアドバイザーとしての配慮を行った。
ロールプレイを採り入れた看護技術演習【基礎看護学講座】	2022 年 4 月から 現在	奈良学園大学 専門科目 基礎看護学技術演習Ⅱ 2 学年（前期・必修）2 単位 88 名と 1 学年看護技術の基礎Ⅰ（後期・必修）2 単位 88 名を担当した。基礎的な看護技術を身体の構造や科学的根拠に基づいて理解し、個別具体的な患者に即したアプローチ方法を学び実践できることを目的とした。学生が座学での学びと事前学習をもとに、主体的な行動と思考を獲得することを目的に指導を行っている。
2 作成した教科書，教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記		
新人看護師に教育指導（大阪大学医学部附属病院）	2016 年 4 月から 2018 年 3 月まで	新人看護師の教育支援担当として、学習支援計画を立て、個別の状況に応じた支援を行った。
記録委員（大阪大学医学部附属病院）	2018 年 4 月から 2019 年 3 月まで	電子カルテシステムを活用した看護の質の向上を目的に所属部署の現任教育に取り組み、実践現場における教育支援を行った。
広報委員（奈良学園大学）	2022 年 4 月から 2025 年 3 月まで	奈良学園大学保健医療学部看護学科において、広報委員として学科の広報活動、支援を行った。
学生生活委員（奈良学園大学）	2025 年 4 月から 現在	奈良学園大学保健医療学部看護学科において、2 年生の学年担当アドバイザーとして学生の学修環境を整えるための支援と情報共有について検討している。
5 その他		
第 10 回 日本移植・再生医療看護学会学術集会運営委員	2014 年 11 月	学会進行や関連な議論のための運営サポートを行った。

日本看護研究学会第 50 回学術集会 運営委員	2023 年 4 月～ 2025 年 3 月	学会運営における会計はじめ企画準備、運営に携わった。		
日本 WHO 協会 関西グローバルヘルスの集い運営委員	2020 年 4 月から 現在	関西グローバルヘルスの集いが主催するセミナーの運営を担い、機関紙『目で見る WHO』の編集を担当している。		
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項	年月日	概 要		
1 資格、免許 看護師免許 保健師免許	2013 年 3 月 27 日 2013 年 4 月 8 日	第 1666099 号 看護師 第 215339 号 保健師		
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記	2017 年 8 月 28 日	大阪大学医学部附属病院 ACLS コース受講		
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(学術論文) 1「看護師の医療機器をめぐる聴覚に関わる実践の人類学的研究」 (その他) 学会発表 1「ワールドカフェ形式による双方向のオンラインイベント開催の試み」 2「看護師の聴覚をめぐる実践についての人類学的研究」 3「朝鮮学校における『保健室』に関する研究―設置・運営過程のコンフリクトに着目して― 4「『音を聞く』という実践」 5「看護師が病棟で聞き取る音と実践の関係―病棟看護師の語りの分析から―」	単著 <			

(注)

- この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成すること。
- 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書				
2025年5月12日				
氏名 泉 抽岐				
研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド		
看護学生		看護学生・学習意欲・キャリアレディネス・COVID-19		
性感染症予防対策		性感染症予防教育・HIV／AIDS・性教育・出前講座		
小児看護学		シミュレーション・幼児の主導性		
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 教育方法の実践例				
2 作成した教科書，教材 *研究協力者として共同で作成				
教育教材DVD「本気でCONDOMING ～HIV/エイズの予防と最新治療～」		2010年	高校生を対象に、HIV/AIDSの知識やコンドーム装着等の 予防、治療について動画を撮影し教材用DVD作成	
DVD「看護職として知っておきたい10のこと」		2012年	看護職を対象に、HIV/AIDSの知識や感染予防、初期対応 等の関わり方についてP.PにてDVD作成	
DVD「養護教諭として知っておきたい10のこと」		2014年	養護教諭を対象に、HIV/AIDSの知識や感染予防、生徒と の関わり方についてP.PにてDVD作成	
DVD「介護職として知っておきたい10のこと」		2016年	介護職を対象に、HIV/AIDSの知識や感染予防、入所者と の関わり方についてP.PにてDVD作成	
かるた製作 色覚特性に配慮したセクシュアリティ教育かるた		2025年	男性を対象に、セクシュアリティや性感染症予防を含 めたおつきあいマナーの内容で、色覚特性に配慮したか るたを製作	
3 教育上の能力に関する大学等の評価				
4 実務の経験を有する者についての特記事項				
5 その他				
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格，免許		1994年 5月	看護師免許	
		2003年12月	大阪府看護教員養成講習会修了	
		2008年 6月	社団法人日本アロマ環境協会 アロマセラピー1級	
		2009年 1月	認定看護管理者制度教育課程 ファーストレベル	
		2024年 7月	文部科学省後援 色彩検定2級 ・2級色彩コーディネーター資格	
		2024年 7月	文部科学省後援 色彩検定UC級 ・UC(色のユニバーサルデザイン)アドバイザー資格	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項 *研究協力者として共同で実践				
府立高等学校 出前講義（ファシリテータ）		2010年 ～2020年	高校生に対して性教育・おつきあいマナーの講座	
介護施設 出前講座（ファシリテータ）			介護職員に対してHIV/AIDS基礎知識・感染予防の講座	
HIVサポーターリーダー養成研修 （企画・運営補助・ファシリテータ）			看護師に対して、セクシュアリティ・HIV/AIDSの知識や 現状・感染予防の学びをワークショップを入れながら研 修を実施（2日間）	
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
1				
2				
3				

：				
(学術論文)				
1. 赤ちゃん人形を「抱く・あやす」という体験から得られる学び (査読付)	共著	2019年	人と環境Vol. 12：1－8	中野幸子、 <u>泉柚岐</u> ＜要約＞ 高大連携教育の一環で医療看護コースの女子高校2年生33名対象に、赤ちゃん人形を「抱いてあやす」という体験後の学びを調査して、赤ちゃんとも母子への関心度をはかることを質的に分析した。母性意識の高まりと共に、シュミレーション教育の効果が得られたことを述べた。 ＊データの収集、まとめ、表の作成。及び、考察内容の検討。
2. COVID-19 感染拡大における看護学生の学習意欲とキャリアレディネスに関する研究 (査読付)	単著	2023年	人と環境Vol. 16：21－33	＜要約＞ COVID-19感染拡大が看護学生の生活様式、食生活、学習意欲、キャリアレディネスにどのように影響を及ぼしているかを調査し、実習経験が看護学生の学習意欲、キャリアレディネスに及ぼす影響を明らかにした。今後の看護の学びやキャリアレディネスの向上にむけて、課題や適切な介入方法を述べた。
3 ：				
(その他)				
1. 介護保険施設における感染症予防研修：全職員への出前講座企画	共同筆頭	2015年11月	第29回日本エイズ学会 東京 学会発表、口演	◎ <u>泉柚岐</u> 、佐保美奈子、西口初江、豊島裕子、井田真由美、井内公仁子、熊谷祐子、岡本友子、白阪琢磨 ＜概要＞ 介護保険施設の全職員に対する感染症予防研修を施設で実施するための研修プログラムの目的と内容、今後の展望について発表した。
2. 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討	共同	2016年8月	第47回日本看護学会 一看護教育、滋賀 学会発表、口演	古藤みどり、 <u>泉柚岐</u> ＜概要＞ 成人看護学急性期実習で実際に実施する看護技術を精選し、学内の演習につなげていく看護技術教育を検討し発表した。
3. 大阪市A地区における看護職のHIV研修の検討	共同	2016年11月	第30回日本エイズ学会 東京 学会発表、示説	佐保美奈子、安井典子、三澤朋洋、 <u>泉柚岐</u> 、西口初江、堀有優美、田中彩水、岸本晶愛、白阪琢磨 ＜概要＞ 訪問看護など地域で働く看護師、介護職を対象に、大阪市A地区でHIV研修を実施し、調査研究から内容検討と今後の課題を発表した。
4. 介護保険施設における感染症予防研修：全職員への出前研修実践報告	共同	2017年11月	第31回日本エイズ学会 大阪 学会発表、示説	井田真由美、佐保美奈子、西口初江、 <u>泉柚岐</u> 、豊島裕子、白阪琢磨 ＜概要＞ 介護保険施設の全職員に対して、感染症予防研修を実践し、調査研究から内容検討と今後の課題を発表した。
5. 幼児の主導性を引き出す関わり方	共同	2021年7月	第31回日本小児看護会 千葉 オンライン発表、示説	中野幸子、 <u>泉柚岐</u> ＜概要＞ モンテッソーリ教育を理念とした保育実習施設で学んだ看護学生の振り返りを通して、学生が小児看護において主導性を引き出す関わり方や意識、学びを明らかにし発表した。
6. コロナ感染拡大下の乳幼児のマスク着用の現状 ―保育実習後の調査から―	共同	2022年7月	第31回日本小児看護会 福岡 学会発表、示説	中野幸子、 <u>泉柚岐</u> ＜概要＞ 小児看護学実習の保育実習後、コロナ感染拡大下の乳幼児のマスク着用の現状と子どもの発育への影響について学生の認識を明らかにし発表した。
：				

教 育 研 究 業 績 書				
2025 年 6 月 26 日				
氏名 城島哲子				
研 究 分 野		研究内容のキーワード		
公衆衛生看護学		保健師教育 地域母子保健 災害保健活動		
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事項		年月日		概 要
1 教育方法の実践例				
①仮説検証型の地域診断演習の実践		平成 10 年		聖隷クリストファー看護大学の地域看護学で実践
②ケースメソッドを用いた家族看護学演習の取り組み		平成 18 年		奈良医大3年生科目家族看護学でケースメソッドを用いた演習を行い、家族介入の目的と方法を実践的に教授した。
2 作成した教科書，教材				
①DVD1 巻「保健所・市町村で働く保健師活動」 ②DVD2 巻「ヘルスプロモーションと保健婦活動」		平成 10 年		聖隷クリストファー看護大学において静岡県西部地域の保健所・市町村の協力を得て、保健事業・地域活動場面を取材して教材を作成した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価				
①奈良県立医大 任期更新のための評価。 ②奈良県立医大 学生による授業評価		平成 16 年～令和 4 年 平成 16 年～令和 4 年		大学による評価を受け任期を更新した。 概ね看護学科平均を上回った。
4 実務の経験を有する者についての特記事項				
行政保健師としての活動		昭和 56 年～昭和 61 年		政令市保健所において地区担当保健師、母子保健・結核・感染症、難病、精神保健、成人保健活動に従事した。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日		概 要
1 資格，免許				
看護師免許（第 414403 号） 保健師免許（第 46284 号）		昭和 56 年 5 月 7 月 昭和 56 年 5 月 6 日		
2 特許等				なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
聖隷クリストファー看護大学・大学院		平成 6 年～平成 12 年		なし 地域看護学科目と実習、家族看護援助論等を担当した。
青森県立保健大学・大学院		平成 12 年～平成 16 年		在宅看護学科目と実習、地域看護学科目と実習、修士課程科目・演習を担当した。
奈良県立医科大学・大学院看護学専攻		平成 16 年～令和 4 年		在宅看護学実習、地域看護学概論等の科目と実習、
4 その他				
①奈良県国保事業支援・評価委員会 ②全国保健師教育機関協議会理事		平成 26 年度～令和 5 年度 平成 23 年度～平成 28 年度		
③厚生労働省保健師助産師看護師試験委員		平成 29 年度～令和 2 年度		
研 究 業 績 に 関 す る 事 項				
著書，学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所，発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1 公衆衛生看護学体系 第8巻疫学・健康管理論	共著	平成3年4月 平成8年改訂	日本看護協会出版会	

2 カウンセリングの実	共著	平成 10 年 5	北樹出版	分担「保健におけるカウンセリング」
3 看護理論と看護過程 理論と実践のリンケージ	共著	平成 18 年	NOUVELLE HIROKAWA	分担「在宅患者の看護ケアと看護理論」
4 疫学・保健統計学	共著	平成 28 年 4	建康社	分担「保健統計」の一部
(学術論文)				
1. Related factors in pregnant women who have economic anxiety: From the notification of pregnancy report investigation	共著	H23		Purpose: The purpose of this study was to elucidate the factor that would provide women with the needed support, predominantly based on the characteristics of women who experience economic anxiety in certain areas. Survey methods and participants: Participants comprised 1,273 pregnant women, who visited the health center in City A between April 1, 2006 and March 31, 2008 to submit a notification of pregnancy. They completed a self-administered questionnaire
2. Development in 18-month-old infants born of smoking women in pregnancy: Result of a health examination at a municipality health center	共著	H23 2011	MEDICINE AND BIOLOGY	" Purpose: The present study examined the relationships between motor and mental development and maternal smoking during pregnancy. Subjects: 51 smokers and 124 nonsmokers who reported getting pregnant in A city health center from August, 2006 to March, 2007, and consulted a physician for the routine child health examination for 18-month-old infants between April and October, 2007 were enrolled. Methods of analysis: With the subjects classified into a smoking group and a non-smoking group, abnormal labor, gestational age, physical status at birth, infant development at 18-month-old, and need for follow-up were examined. Statistical significance was tested using the chi-square test and the Mann-Whitney U-test as appropriate. The significance level was set at 5%. SPSS17.0J for Windows was used for all analyses. 2. Results: 1. Smoking status when mother became pregnant 29.1% (n=51) were smokers, and 70.9% (n=124) were non-smokers at the time of becoming pregnant. 2. Abnormal labor and smoking status There was no significant relationship between smoking and abnormal labor; abnormal labor occurred in 40.8% (n=20) of the smoking group and 29.6% (n=34) of the non-smoking group. 3. Gestational age, physical status at birth, and maternal smoking status Harumi Bando1)2), Noriko Johjima1), Norie Matsuo3), Yukari Kuroki4), Naomi Ueda5), Tohru Yoshida2) "

3. Related factors in pregnant women who have economic anxiety: From the notification of pregnancy report investigation	共著	H23 2011		"Purpose: The purpose of this study was to elucidate the factor that would provide women with the needed support, predominantly based on the characteristics of women who experience economic anxiety in certain areas. Survey methods and participants: Participants comprised 1,273 pregnant women, who visited the health center in City A between April 1,2006 and March 31,2008 to submit a notification of pregnancy. They completed a self-administered questionnaire survey. Results and Conclusion: In the present study, we compared women who submitted notifications of pregnancy These finds suggest that women who are smokers, have an unplanned pregnancy,have anxiety about childrearing, are at 12 weeks or more of gestation, and have anxiety about birth are high-priority targets for support. Harumi BANDO Noriko JOJIMA "
4. Association between first airborne cedar pollen level peak and pollinosis symptom onset: a web-based survey	共著	2014	International Journal of Environmental Health Research, 2014. pp1-10	:Harumi Bandoa, Hiroaki Sugiurab*, Yasushi Ohkusac, Manabu Akahaneb, Tomomi Sanod, Noriko Jojima, Nobuhiko Okabec and Tomoaki Imamurab
5. The tsunami' s impact on mortality: A town severely damaged by the 2011 Great East Japan Earthquake :	共著	2014	Disasters, 2014, 38(S2): S111-S122.	Satoko Nagata, Chie Teramoto, Reiko Okamoto, Keiko Koide, Masumi Nishida, Ruriko Suzuki, Michie Nomura, Toshiko Tada, Emiko Kishi, Yoko Sakai, Noriko Jojima, Emiko Kusano, Saori Iwamoto, Miki Saito, and Sachiyo Murashima
6. Identifying Residents' Health Issues Six Weeks after the Great East Japan Earthquake	共著	2015	Public Health Nursing, MAY 2015, 10.1111/phn.12201 .	Chie Teramoto PHN, RN, MS1,*, Satoko Nagata PhD, PHN, RN1, Reiko Okamoto PhD, PHN, RN2, Ruriko Suzuki PHN, RN, MS3, Emiko Kishi PhD, PHN, RN4, Michie Nomura DSN, PHN, RN5, Noriko Jojima PHN, RN, MS6, Masumi Nishida PhD, PHN, RN2, Keiko Koide PhD, PHN, RN2,Emiko Kusano PhD, PHN, RN7, Saori Iwamoto PhD, PHN, RN8 and Sachiyo Murashima
7. 酸素療法、夜間ケアを必要とする障害児の母親の睡眠と心の健康	共著	2022	第 69 巻日本公衆衛生学会誌、第 4 号 PP262-272	特別支援学校在籍の障害児の母親 180 人に自記式質問し調査を行い、同意を得た 9 人に対してアクチグラフィーによる客観的睡眠測定を行った。主観的睡眠（ピッツバーグ睡眠質問紙）

	共著		心の健康状態（GHQ12）を実施した。有効回答は84人（46.7%）であり、主観的睡眠不足は52人（64.2%）にみられた。こころの健康不良は34人（42.0%）にみられた。 客観的睡眠測定の結果（個人平均）、有効睡眠時間は283分から381分、中途覚醒時間は36分から123分、睡眠効率は68.6%から90.9%、睡眠潜時は0分から8分であった。人工呼吸器管理。てんかん発作、発熱などの児の体調の変化は、母親の途中覚醒時間の延長や睡眠効率の変動につながるが示された。 笹井佐和子、坂東晴美、大林賢史、山上優紀、佐伯圭吾、城島哲子

（注）

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあっては校長）及び基幹教員（大学院にあっては専任教員）について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。

教 育 研 究 業 績 書		
令和6年 6月20日		
氏名 臼井 キミカ 印		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学	地域・老年看護学	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
1) 学生の背景を考慮した動機づけと授業設計	平成7年4月 ～ 現在に至る	大阪府立看護大学看護学部看護学科講義科目「生活支援看護学概論」、奈良学園大学保健医療学部看護学科において実践した。近年は高齢者と同居した経験のない学生が増加しているが、それらの実態を知って講義を展開するために、事前に高齢者関連の実態調査を行い、毎回の講義の導入に用いる。学生は高齢者を身近な存在として感じながら、理解できると評価している。
2) マルチメディアを利用した講義の効果的な方法	平成7年4月 ～ 現在に至る	大阪府立看護大学看護学部看護学科演習科目「生活支援論」、長崎大学大学院医歯薬学研究科「老年看護学概論」、大阪市立大学医学部看護学科「老年看護学概論」、甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科「老年看護学概論」、奈良学園大学保健医療学部看護学科「成人老年看護学概論」において実践した。高齢者の特性の理解を深めるために、既存のビデオ教材活用とともに、最新の身近な情報である新聞の切り抜き、テレビ番組の録画等を編集して用いることで学生の関心を高め、実践的な内容にしている。
3) ゲストを招き、活きた講義の展開	平成10年4月 ～ 現在に至る	大阪府立看護大学看護学部看護学科講義科目「生活支援看護学概論」、甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科「老年看護学概論」、奈良学園大学保健医療学部看護学科「成人老年看護学概論」で実践している。健康で円熟した精神の高齢者、要介護状態でありながらもボランティア活動等で人生に挑戦している高齢者、家族介護者（家族の会代表）等をゲスト招き、生きてきた人生、そして現在と将来の希望等について語ってもらった後、学生との意見交換を行い、高齢者の健康や高齢者看護の機能と役割についての理解が深められるような授業展開をしている。終了後はレポート提出により評価およびフォローアップを行い、その後の講義に活かしている。
4) 学生のニーズに対応した講義の展開	平成15年4月 ～ 現在に至る	大阪府立看護大学看護学部看護学科講義科目「生活支援看護学概論」、長崎大学大学院医歯薬学研究科「老年看護学概論」、大阪市立大学医学部看護学科「老年看護学概論」、甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科「老年看護学概論」、奈良学園大学保健医療学部看護学科「成人老年看護学概論」において実践した。講義に対する感想・意見を提出してもらい、次回の講義時に、理解が十分でなかった部分は補足説明を行うなど学生の評価を生かした講義を工夫している。
2 作成した教科書、教材		

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1) 講義用教材作成 「諸外国の高齢者看護の現状と課題」	平成13年4月 ～ 現在に至る	諸外国の高齢者看護の現状を知り、日本における高齢者看護の課題を明らかにするために、アメリカ、オーストラリア、スウェーデン、デンマーク、フィンランド等での海外視察情報をDVD/Blu-rayなどの視聴覚教材に編集して解りやすく解説した（奈良学園大学医療看護学部看護学科 科目名：国際看護論、成人老年看護学概論）。
2) 車いすを使用する認知症高齢者の適正な座位姿勢への支援 －看護・介護職のためのガイドライン－ (DVD教材作成)	平成22年3月～ 現在に至る	施設や病院で認知症高齢者が普通型車いすに不自然な姿勢で座っている姿を見かけることがあるが、高齢者の安全で安楽な生活の実現には座位姿勢への支援が重要であり、その手がかりは日頃のケアの中にあることを理解してもらうために動画のDVDを制作した。DVDでは、座位姿勢での観察項目、観察方法、判断のポイント等について解説し、支援方法では①椅子の使用が考えられる場合と、②椅子に座ることは困難と考えられる場合を紹介し、具体的には3つの事例のアセスメントから支援方法、判断の根拠を含めて動画で解りやすく説明し、活用しやすく工夫した（奈良学園大学保健医療学部看護学科 科目名：成人老年看護援助論Ⅱ）。 共著者：白井みどり、佐々木八千代、北村有香、長畑多代、山内加絵、今川真治、 <u>白井キミカ</u>
3. 教育上の能力に関する大学等の評価 「老年看護学概論」の学生評価等		大阪府立看護大学看護学部看護学科、生活支援看護学概論、生活支援論、総合研究、老年看護学実習担当(教授)として、高齢者看護における実践的調査・研究で培った知識経験を、ビデオやOHP、液晶プロジェクター等で理解しやすく編集するなど、生きた授業を行っており、高い教育能力を有していると評価された。また、大阪市立大学医学部看護学科、及び甲南女子大学での「老年看護学概論」、奈良学園大学保健医療学部看護学科「成人老年看護学概論」での学生評価では「概ねよい」と評価された。
4. 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) 保健・医療・福祉職に対する研修活動	平成12年3月 ～ 現在に至る	大阪府、京都府、兵庫県、神奈川県、広島県、岡山県、石川県、宮崎県、香川県、長崎県等で介護保険事業者、保健・医療・福祉職員に対して「認知症高齢者の人権擁護」「高齢者虐待予防と対処」についての講師を務めた。
2) 介護保険事業者等に対する 人権関連研修活動	平成13年5月 ～ 現在に至る	介護保険事業者、福祉関係職に対する人権啓発の講演「よりよいサービス提供のために－在宅における身体拘束－」、「高齢者虐待の現状と課題」、「施設における人権擁護」等の講師を務めた。
3) 大阪府立大学大学院リハビリテーション学研究科	平成27年6月 ～ 平成31年3月	コア・プロジェクト外部評価委員会委員
4) 第6回長崎県認知症グループホーム大会 特別講演	平成27年11月	特別講演講師 テーマ「グループホームだからできたこと」
5) 日本病院協会 平成28年度「認知症ケア講習会」講師	平成28年6月	平成28年度「認知症ケア講習会（認知症ケア加算2取得講座）講演講師。テーマ「入院認知症患者に対する看護に必要なアセスメントと援助スキル」

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
6) 暮らしの学校 特別講座	平成28年7月 ～平成30年7月 愛知県岡崎市	第58回特別講座 講演講師 テーマ「家族のための認知症高齢者ケア～後悔 しない介護とは～」 テーマ「幸せに暮らす心と生き方」 「家族のための認知症高齢者介護ケア」 第59回「健康と家庭の医学」特別講座 講師 テーマ「絆を深め、不安を和らげる ～タッチ ケア～」
7) 日本病院協会 平成28年度「認知症ケア講 習会」	平成28年9月	平成28年度「認知症ケア講習会（認知症ケア加 算3取得講座）講演講師。テーマ「入院認知症患 者に対する看護に必要なアセスメントと援助ス キル」
8) ネットワーク大府 ケア担当者研修	平成28年9月	平成28年度 ケア担当職員研修講師。テーマ 「北欧の認知症ケアに学ぶ」
9) 愛知県看護協会 研修会	平成29年1月～ 令和3年3月	愛知県看護協会 高齢者看護ケア研修会 講師
10) 名古屋市高齢者虐待相談支援会議	平成29年4月～ 平成31年3月	名古屋市高齢者虐待相談支援介会議 スーパー バイザー
11) 高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する 支援等に関する法律に基づく「市町村・都道 府県における高齢者虐待への対応と養護者支 援について」のマニュアル改訂 (厚生労働省)	平成29年10月 ～平成30年3月 総頁101ページ	高齢者虐待防止、高齢者の養護者に対する支援 等に関する法律に基づく「市町村・都道府県に おける高齢者虐待への対応と養護者支援につい て」のマニュアル改訂委員会（座長）として、 平成29年度までの各自治体における高齢者虐待 への取組状況、その他の制度運用状況を踏まえ て、マニュアル内容の追補・充実を図り、より 適切な対応に資するマニュアルとして改訂を 行った。
12) 市町村・地域包括支援センターへの期待 ～学会と朝日新聞との合同調査から～ 講演	平成29年7月 16日（千葉県 松戸市）	日本高齢者虐待防止学会主催研修会において高 齢者虐待防止に資するために、保健医療福祉専 門職及び行政担当者を対象（60人、50分間）に実 践力向上を目的として研修を実施。講演テーマ は「市町村・地域包括支援センターへの期待～学 会と朝日新聞との合同調査から～」と題して学 会と新聞社との合同調査の結果からみえてきた 市区町村・地域包括支援センターをめぐる支援 課題に関する最新の動向を提示・問題提起し た。さらに、看護・医療関係のQ&Aコーナーで意 見交換・実践的な助言等を実施した（約90分 間）。
13) 高齢者のケアの質の向上を目的とした実践 と啓発活動 講演	平成19年4月 ～ 現在に至る	認知症高齢者の尊厳を尊重したケアの具体的な 方法やコミュニケーション方法としての回想法 について、その有効性と具体的な進め方、留意点 及び認知症高齢者が自己決定をする意味や、それ を支えて質の高いケアを提供するための視点に ついて啓発活動を実施。対象は①グループホー ムの認知症高齢者とケアスタッフ、②医療機関や 地域包括支援センター等に勤務する看護職等 ③一般住民 ④介護老人保健施設従事者など。
14) 学園前サロン 講演	令和5年10月 28日	奈良県学園前サロンにおいて一般住民を対象に 健康教育・啓発活動を実施した。講演テーマは 「健康と食生活～健康日本21を基本とした栄養 と健康問題を中心として～」

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
15) 高齢者虐待防止セミナー (Zoomオンラインセミナー、オンデマンドビデオ配信)	令和6年7月 18日 (ビデオ公開 期間：7月22日 ～8月22日)	日本高齢者虐待防止学会理事会企画プログラム「夏季学会セミナー」2024年7月18日開催、「法改正と高齢者虐待防止課題～今、『現場』で何が起こっているのか?～」において、テーマ「グローバル化する介護」で講演。対象は、高齢者施設職員、高齢者介護職員、道府県・市町村担当者・地域包括支援センター等（Zoom定員：200人）である。
16) 登美ヶ丘カレッジ「新しい研究成果を活かした健康な生活」講演	令和6年12月 7日	奈良学園大学 登美ヶ丘カレッジにおいて、地域在住高齢者を対象に、テーマ「新しい研究成果を活かした健康な生活」と題して、成人期では健康に関するエビデンスと認知されていた事柄も高齢期では否定される場合も多く（主として長期間の縦断研究による成果による）、それらの内容を活かした高齢期を健やかに豊かに生き抜く生活術について実践的に解説した。
17) 奈良学園大学図書館 「研究の森」展示	令和7年3月1日 ～5月15日	奈良学園大学図書館の「研究の森」コーナー展示を行った。研究テーマは「看護学生と共に取組んだ認知症高齢者看護に関する研究 その1：居心地の良い環境の構成要素 その2：人生紙芝居を用いた回想法の効果」である。
5. その他 ① 学位論文指導実績	平成11年4月 ～ 現在に至る	1) 大阪府立看護大学大学院（前期課程）指導教授として博士前期課程学生6人を対象に6年間「老年看護学研究」を指導した。学位論文のテーマは「環境の変化にみる痴呆性高齢者の行動特性―施設建て替えに伴う転居を通して―」「排泄援助場面でのプライバシー保護―高齢者と看護職双方の立場からの考察―」「高齢血液透析患者の食に対する看護ケア」「予防的ケアに至った看護職の認識の特徴―痴呆性高齢者の問題行動を予測して―」「高齢者の身体的抑制に直面する病棟勤務看護者のジレンマに関する研究」「痴呆性高齢者看護の「人生暦」に関する研究―行動障害の対処とQOLの向上のために―」である。 2) 大阪府立大学大学院（後期課程）指導教授として平成13年度より3名の博士後期課程の「生活支援看護学特別研究」を担当し、博士後期課程生2名の博士論文「痴呆性高齢者の感情反応と行動に基づく生活環境の査定方法の開発」、「高齢者の強みを導入した介護予防プログラム開発とその有用性」を指導した。 3) 大阪市立大学大学院指導教授として平成20年度より3名の修士課程の「生活支援看護学特別研究・課題研究」を担当し、修士課程生3名の課題研究論文「養護者から虐待を受け分離・保護の処遇にある高齢者のニーズ～回想を通しての語りからの一考察～」施設入所中の高齢者を持つ娘介護者の介護に対する肯定的感情の変化」「施設に環境移行した認知症高齢者の初期の思いと継続的関わり」を指導した。

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
		4) 甲南女子大学大学院看護学研究科指導教授として平成24年度より3名の修士課程の「老年看護学特別研究・老年看護学課題研究」を担当し、「認知症の人へ選択の機会を提供する意味－グループホーム入居者の表情・行動を手がかりにした介入研究－」「家族介護者の嫁が認知症になった姑を介護する意味」を指導した。 5) 人間環境大学大学院看護学研究科指導教授として平成27年度より合計3名の博士後期課程生、平成29年度からは合計4名の博士後期課程生の「成人・高齢者特別研究」を担当し、平成30年度博士論文「認知症高齢者への選択的支援ケアモデルの開発」、「関節拘縮高齢者に対するポジショニングケアの有効性」、「認知症高齢者への表情筋運動を取り入れたケアプログラム開発と有効性の検討」「軽度から中等度のアルツハイマー型認知症高齢者を対象とする写真療法の有効性の研究」を指導した。 6) 岐阜保健大学大学院看護学研究科指導教授として令和3年度より1名の修士課程生の「広域看護学」特別研究を担当し、論文指導した。 7) 奈良学園大学大学院看護学研究科指導教授として令和5年度より合計4名の修士課程生を担当し、令和6年度修士論文「地図アプリケーションを使用した回想法が地域在住高齢者の感情及び生体に与える影響」「閉じこもり高齢者が改善に至るプロセス－複線径路・等示性モデリング(TEM)による変容の分岐点および文化的・社会的影響の分析」「新型コロナウイルス感染症による面会制限の中で入院高齢患者とその家族の心理的・社会的苦痛を緩和するためのアプローチ」を指導した。なお、1名は「訪問看護師による『在宅療養に対する意思決定支援』における遺族の満足度に関連する要因」を継続指導中である。
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 看護師免許 養護教諭一級普通免許 保健師免許 高等学校教諭二級普通免許 衛生管理者免許証 修士（社会福祉学） 日本公衆衛生学会認定専門家	昭和43年 5月16日 昭和47年 3月16日 昭和47年 5月31日 昭和49年 2月20日 昭和57年 9月30日 平成5年 3月31日 平成23年 4月22日	第182238号 昭46養一第102号 第31275号 昭48養高二普第4661号 第い3871号 大阪府立大学 第1号 日本公衆衛生学会認定専門家として認定（登録番号第739号）
2 特許等 ありません		
3. 実務の経験を有する者についての特記事項	平成26年 1月	日本看護系大学協議会専門看護師教育課程認定委員会より専門看護師教育課程認定審査において「老年看護」可と判定(大学院該当科目：看護研究方法論、老年看護学特講、老年看護学援助特講、老年看護学演習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱ、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学実習Ⅱ)（平成27年4月人間環境大学大学院看護学研究科開学に伴う審査）

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年 月 日	概 要	
4. その他 (科学研究費、共同研究補助金等) 22) 認知症高齢者への表情筋運動を取り入れたケアプログラム開発と有効性の検討		平成28年度～ 平成31年度	科学研究費補助金研究（基盤研究(C)） 認知症の進行に伴い「笑う」ことなどの感情の表出が乏しくなりがちな認知症高齢者に対して、表情筋運動を取り入れたケアプログラムの開発と有効性の検討を行い、その実践応用性を検証することを研究目的とする。 研究代表:神谷智子 共同研究者:福田由紀子、杉浦美佐子、竹内貴子、奥村潤子、 <u>白井キミカ</u> 、安藤純子、中川武夫、中島香緒里、服部美穂、山田聡子 〔研究分担者として介入調査の企画・集計・分析、総括〕を担当。	
23) 写真療法が軽度から中等度の認知症高齢者のQOLに及ぼす効果に関する研究		平成30年度～ 令和2年度	科学研究費補助金研究（基盤研究(C)） 認知症高齢者認知症高齢者を対象にした写真療法が認知症高齢者のQOLの向上に及ぼす効果を紹介群30名と比較群30名の介入研究（不等対照群デザイン）により明らかにする。収集データは、MMSE、DBDスケール、QOLDスケール、意欲評価指標、半構成インタビュー、指尖脈による自律神経活動8ゆらぎ数値：リアプノフ指数等)のデータを基礎水準期(4週間)、操作導入期（8週間）、追跡期（4週間）に測定する。介入プログラムは5つのセッションを配置した60分のプログラムとする。データ分析は、SPSSを用い基礎水準期の測定値をベースラインとして各測定値との比較をFriedman検定等を用い、インタビュー調査は質的分析を実施した。 研究代表:荻野朋子 共同研究者: <u>白井キミカ</u> 、 〔研究分担者として介入調査の企画・集計・分析、総括〕を担当。	
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名	概 要
128. 人権意識と認知症高齢者の看護	単著	平成27年3月	研究助成兵庫県人権啓発協会 研究紀要第16号 平成27年3月 pp. 69-85	認知症の人の人権を守り、認知症になっても暮らしやすいまちづくりにつながるのかを検討した結果、認知症の人の視点で考え、認知症の人が変わるのではなく社会が変わることが重要。認知症は人生の終わりではなく、それからの人生に挑戦する希望を持てる方策のひとつに「ユマニチュード」があり、さらに人生の最期まで寝たきりにならない技法もその中から修得できる可能性がある。認知症は誰にも起こる可能性があり、家族介護に関する提言を行った。
129. 心身のストレスおよび作業量から見た体圧移動で座面が変化するERチェアの評価ー健康成人女性および高齢者を対象としたプレテストの結果からー (査読付)	共著	平成28年3月	甲南女子大学研究紀要 看護学・リハビリテーション学編 第10号 pp. 19-28	研究目的はA社が開発したERチェアと通常の椅子を比較して使用者の心身のストレス、能動的な作業量に与える影響の違いを明らかにする。対象は健康成人女性6名と高齢者8名の計14名。研究デザインはクロスオーバー・デザインであり、読書等の課題を課したときの主観的疲労感、唾液アミラーゼ値、作業量等を比較した結果、統計的な差が認められたが、交互作用が認められ、更なる検証が必要であるものの、ERチェアは心身のストレス「を軽減させることが示唆された。 分担部分は研究代表として企画・総括を担当 共著者：丸尾智実、兼田美代、 <u>白井キミカ</u> 、辻下守弘、速水裕子

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
130. 認知症ケアメソッド「バリデーション」「パーソンセンタードケア」「ユマニチュード」の文献検討によるメソッド比較 (査読付)	共著	平成28年3月	中部学院大学・中部学院大学短期大学部、研究紀要第17号 17. PP. 73-79	認知症ケアの代表的なメソッドである、バリデーション、パーソンセンタードケア、ユマニチュードについて文献検討による方法でメソッドの特徴を比較検討した。医学中央雑誌、CiNii, EBSCO hostから検索し、バリデーション17件、パーソンセンタードケア36件、ユマニチュード8件を抽出し、精査した結果、「パーソンセンタードケア」と「バリデーション」については評価尺度に基づけケアがなされていたが、「ユマニチュード」は評価指標が存在しなかった。 共著者：中谷こずえ、 <u>臼井キミカ</u> 、安藤純子、兼田美代、神谷智子 担当部分：研究企画、総括を担当。
131. ベトナム社会主義共和国における看護の現状－JICA事業 草の根技術協力時魚緒「老年ケア・キーパーソン研修」参加者調査から（査読付）	共著	平成28年7月	日本ヒューマンヘルスケア学会誌1 (1) pp. 21-32 日本ヒューマンヘルスケア学会	ベトナムにおける看護の現状と課題を明らかにして、わが国の看護職に期待されていることを明確にするために、「老年ケア・キーパーソン養成研修」受講者に対して研修前後のアンケート調査を行った。その結果、「ベトナムの看護」では改善が必要であると全員が回答していたものの、教育内容に日常生活支援技術は含まれていないため、他国の価値観の押し付けではない技術協力事業となるための方策や検討が急務である。（総13頁） 共著者：中谷こずえ、海老諭香、 <u>臼井キミカ</u> 担当部分：研究企画、総括を担当。
132. 通所介護における選択的ケアの意味－利用者、ケア提供者へのインタビュー調査から－ (査読付)	共著	平成29年7月	日本ヒューマンヘルスケア学会誌2 (1) pp. 45-57	「自己選択・自己決定」をケア理念としている通所介護での選択的支援ケアの意味を明らかにするのが研究目的である。対象は利用者14名、ケア提供者14名であり、面接調査の結果をテキストマイニングで解析し、それぞれの主要語を主成分分析とクラスター分析を用いて類型化した結果、選択的支援ケアはコンフォートにつながる4つのコンテキストに全て包含できること、ケアは利用者の自律を支え、ケア提供者と利用者双方が「超越」へと導かれる可能性を秘めていた。 共著者：中谷こずえ、 <u>臼井キミカ</u> 、兼田美代 担当部分：研究企画、総括を担当

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
133. 矯正施設で生活する元受刑者の健康プログラム開発に向けて (査読付き)	共著	平成30年 3月	中部学院大学・中部学院大学短期大学部 研究紀要第19号 pp. 81－87	元受刑者の健康状態と受診の実態から、健康増進プログラムを開発することが最終目的であり、その第一段階として基礎データを収集することが今回の研究目的である。研究方法は支援法人から紹介された6名（男5名、女1名、年齢レンジ50～73歳）に対して1人20分程度の半構成面接を実施し、その内容をICレコーダーに録音し、逐語録に起こし、共通点を探った。対象者が少人数であるため一般的傾向を導くことは困難であるが、5人は脳梗塞等による疾病・障害があるため生活に支障があり、服薬治療中4人、飲酒及び喫煙習慣あり各々4人、痛みの訴え、特に腰痛が共通していた。長寿に対する認識では、長生きは考えていない3名、早く死にたい1名であり、相談者なし3名は、自らの意思で他者との関わりを絶ち、他者に頼らないと回答していた。 共著者：中谷こずえ、小嶋健仁、 <u>臼井キミカ</u> (担当部分：研究企画、総括を担当)
134. 長期臥床高齢者の筋緊張による関節屈曲拘縮に対するポジショニングケアプログラムの有効性 (原著論文・査読付き)	共著	令和2年1月	社会医学研究 Vol. 37, No1、 PP24－34	研究目的は長期臥床高齢者の筋緊張によるポジショニングケアプログラムによるケアを実施し、その効果を明らかにする。対象は長期臥床状態にあり、肘・膝関節屈曲拘縮を有する高齢者20名とケア提供者147名、方法は90日間のシングル・ケースA-B型準実験介入研究。対象高齢者に30日毎に測定した関節可動域等の客観的評価とケア提供者に介入前後の主観的評価をフルードマン検定等を用いて総合的に評価。結果：90日間の測定が可能であった12名の高齢者の肘・膝関節屈曲、膝関節筋緊張は全て有意に改善、肘関節筋緊張は改善傾向、脳波変動解析による自律神経機能（LF/HF）は差はなく、ケア提供者の主観的評価は内的一貫性があり、信頼性は高く、評価項目7項目中3項目有意に改善した。以上からポジショニングケアプログラムは長期臥床高齢者の筋緊張による関節屈曲拘縮の改善に有効であることが示唆された。（総11ページ） 共著者：兼田美代、 <u>臼井キミカ</u> 、中谷こずえ 担当部分：研究企画、総括を担当。
135. 介護老人保健施設の認知症入所者への選択的支援ケアモデルの有効性 (原著論文・査読付き)	共著	令和2年3月	高齢者虐待防止研究 Vol. No1. PP. 2-17 (2020)	研究目的は介護老人保健施設に入所中の認知症高齢者への選択的支援ケアモデルを作成し、その効果を検証することである。 (総16ページ) 共著者：中谷こずえ、 <u>臼井キミカ</u> 、兼田美代、小嶋健仁 担当部分：研究企画、総括を担当。
(その他) ①口頭発表				

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
169. 高齢者への実用化を目指した体圧移動で座面が変化するERチェアの快適性評価 (示説)	-	平成27年6月	第6回日本プライマリ・ケア連合学会大会 (茨城県)	高齢者への実用化を目指した体圧移動で座面が変化するERチェアを試作した。その快適性を評価するために、健康な高齢者を対象に、日常生活での座位で行う様々な行為（テレビを見る、新聞・雑誌を見る、読書をする、寛ぐ等）をERチェアと普通の椅子で実施時の体圧の状況、唾液のアミラーゼ値測定、主観的評価等を実施し、年齢、性別、体格（身長・体重・BMI等）、座位時間により比較検討し、快適性の評価を実施し、有効性を評価した。 共著者：丸尾智実，<u>臼井キミカ</u>，兼田美代，辻下守弘，速水裕子，（TBカワシマ株式会社受託研究） 担当：研究の総括
170. 認知症ケアメソッド「humanitude ユマニチュード」の文献検討 (示説)	-	平成27年12月	第35回日本看護科学学会学術集会 (広島)	認知症の代表的なケアメソッドである「バリデーション」「パーソンセンタードケア」「ユマニチュード」の3つの特徴を文献で比較検討した。医学中央雑誌、CiNii, EBSCO host により検索し、バリデーション17件、パーソンセンタードケア36件、ユマニチュード8件が抽出できた。その結果、「パーソンセンタードケア」と「バリデーション」では評価尺度に基づいてケアがなされていたが、「ユマニチュード」では評価指標が存在しないことが明らかになった。
171. 笑いの介入による効果と評価指標に関する文献検討 (示説)	-	平成27年12月	第35回日本看護科学学会学術集会 (広島)	認知症の進行に伴い「笑う」ことなどの感情の表出が乏しくなりがちな認知症高齢者に対して、表情筋運動を取り入れたケアプログラムの開発を研究の最終目的としており、今回の研究はその基礎的データの収集である。笑いの介入による効果と評価指標を明らかにするための国内外における文献レビューの結果を明らかにした。 共著者：神谷智子，中谷こずえ，兼田美代，<u>臼井キミカ</u>，安藤純子 担当：研究の総括
172. フィンランドの高齢者介護施設における認知症高齢者ケアと介護状況－3施設への調査訪問とアンケート調査（2施設）から－ (示説)	-	平成28年6月	第17回日本認知症ケア学会大会 (神戸)	研究目的は、フィンランドにおける認知症高齢者ケアの実情と、介護に携わる職種の実態を明らかにすることであり、ラップランド州の3つの高齢者介護施設を訪問調査と、2施設を対象にしたアンケート調査の結果を分析し、日本の認知症ケアとの違いと課題を明らかにした。 共著者：三宅眞理，佐瀬美恵子，<u>臼井キミカ</u>，兼田美代，山本恵
173. Support for choice during everyday life for elderly care facility residents: a literature review (高齢者ケア施設利用者の日常生活における選択支援ケアの 文献検討) (査読付) (示説)	-	平成28年10月	2016 Global Human Caring Conference- China (Wuhan, China) 国際ケアリング学会 (中国) 武漢	研究目的は、高齢者の日常生活における「選択するためのケア」について文献検索を行い、その内容を明らかにすることである。Webデータベースは、1995年から2015年までの20年間とし、キーワードを「選択」「高齢者」「ケア」「看護」として検索した。その結果、医学中央雑誌では97件のうち3件、海外文献からは44件のうち5件が抽出できた。しかし、国内外を問わず、文献の内容は共に医療的な内容の選択についてであり、日常生活に関する内容は存在しなかった。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：Kozue Nakatani, <u>Kimika Usui</u>

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
174. The meaning of the choice support care in everyday life to the day care facility utilization elderly (通所介護施設の高齢利用者に関する日常生活における選択支援ケアの意味) (査読付)	-	平成29年4月	32rd International Conference of Alzheimer's Disease International 26-29 April 2017. Kyoto, JAPAN 第32回国際アルツハイマー病協会国際会議 (京都)	研究目的は、利用者・ケア提供者の2者間での日常生活に関する選択的支援ケアの意味を明らかにする。方法は、通所介護サービス利用者、ケア提供者各14名合計28名にインタビュー調査を行い、テキストマイニングで解析し、それぞれの主要語を主成分分析とクラスター分析による類型化し統合する。結果：単語頻度分析により主要語は利用者26語、ケア提供者42語抽出され、それぞれの主要語を類別抽出すると、利用者6クラスター、ケア提供者8クラスターに類別できた。両者を統合し、「選択的支援ケアは、身体的、サイコスピリットの、社会的、環境的要素もコンフォートな状態に変化させることができるケア」であると導き出され、さらに選択的支援ケアはコンフォートに繋がる4つのコンテキストに全て含まれるケアであると意味づけられた。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：Kozue Nakatani, <u>Kimika Usui</u> (中
175. Promoting of Understanding Dementia Report of the Project "Dancing with Peoples with Dementia ~Let's Dance Together~"	-	平成29年4月	32rd International Conference of Alzheimer's Disease International 26-29 April 2017. Kyoto, JAPAN 第32回国際アルツハイマー病協会国際会議 (京都)	認知症に対する理解を深めることを目的にして 歌詞・作曲等を行い、その内容をDVDに収め、認知症の人も、そうでない人も、関心の高い人もそうでない人も一緒になって踊るプロジェクトを立ち上げて活動してきた。参加者総数は2012年から5年間で6660名であり、その様子・経過と成果について写真とともに分析評価した。認知症の人とつながる力として、ダンスは効果的なコミュニケーション手段であり、国境を越えての有効性が示唆された。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：三宅真理、佐瀬美恵子、前原園代、橋本洋子、 <u>臼井キミカ</u> 、David Sykes, Heather Hill, 植田正美
176. A Study on Timing of Laughing Seen in Healthy Elderly People Who Do Not Utilize Nursing Service (Poster) 介護保険サービスを利用していない健康な高齢者を対象にした笑いのタイミングに関する研究 (示説) (査読付き)	-	平成30年6月	The 7th GCQHR2018 (Global Congress for Qualitative Health Research), 21-22 June 2018, Seoul, Republic of Korea. 第7回国際質的健康学会 韓国 (ソウル)	研究目的は地域で生活しており、介護保険等のサービスを利用していない元気高齢者を対象に、日常生活で笑い始める場面を明らかにすることである。研究対象は某地域の老人クラブに所属する高齢者であり、「どのような状況下で声を出して笑うか、笑顔になるか」の質問に対しての回答を質的に分析した結果、笑い始めるのは人との関係性が影響することが明らかになった。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：神谷智子、 <u>臼井キミカ</u> 、兼田美代、中谷こずえ (Satoko Kamiya, <u>Kimika Usui</u> , Miyo Kaneda, Kozue Nakatani)

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年 月 日	概 要	
177.The Effectiveness of Positioning Care for Long-term Bedridden Elderly People in Joint Contracture Caused by Muscle Tone:An Interviews survey of care providers (Poster) 筋緊張による関節拘縮のある長期臥床高齢者のためのポジショニングケアの有効性～ケア提供シヤンへのインタビュー調査から～ (示説) (査読付き)	-	平成30年6月	The 7th GCQHR2018 (Global Congress for Qualitative Herlth Research), 21-22 June 2018, Seoul, Republic of Korea. 第7回国際質的健康学会 韓国 (ソウル)	研究対象は「1ヶ月以上臥床状態で療養病棟入院の肘・膝・後頸部に拘縮のある高齢者」に3ヶ月間ポジショニングケアを継続した看護・介護職。6病棟から無作為抽出した18名に半構面面接調査を実施。逐語録からポジショニングケアの有効性を意識した部分を一要素として抽出し、類似するものをまとめてネーミングしカテゴリーに分類。結果：ケアの有効性は「ケア方法の重要性を理解し納得した」「ケアが高齢者の心身により影響を及ぼすことを観察し実感した」「高齢者と家族とケア提供者の三者の信頼関係が高まりケアを楽しめた」「ケアの有効性の意味を考え他の高齢者にも活用できた」の4カテゴリーに分類できた。結論：ポジショニングケアは関節拘縮のある高齢者の心身両面に好影響をもたらし、その有効性を家族・職員間で共有でき、ケアの楽しさへと繋がり、他的高齢者への活用へと広がる。
178.Assessment of positioning care for joint flexion contracture caused by muscle tone in long-term bedridden elderly people (Poster) 療養病棟に入所中の長期臥床高齢者の筋緊張による関節屈曲拘縮に対するポジショニングケアの評価 (示説) (査読付き)	-	平成30年7月	The12th WHOCC2018(Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery) 17-20 July 2018, Cairns, Australia. オーストラリア (ケアンズ)	共著者：兼田美代、<u>臼井キミカ</u>、中谷こずえ、神谷智子、中野美加 長期臥床者の関節拘縮には筋緊張に起因するものが考えられる。対象は肘・膝関節拘縮拘縮(60度以上)、後頸部後屈拘縮(20度以上)の寝たきり高齢者20人に5カ月間のポジショニングケアによる介入を行い、関節可動域・自律神経指標LF/HF等の6項目、ケア提供者によるVAS主観的QOL評価等2項目の総合的評価によりケアの有効性を検証。全データ収集が可能であった2名(平均年齢94歳)のすべての関節拘縮が有意に改善し、QOL評価では「関節が柔らかくなり、表情が和らぎ笑顔が出てきた」等があり、心身状態が深刻な高齢者でもケアにより関節屈曲拘縮は改善し、QOLが高まることが示唆された。 担当：論文全体の総括を担当。
179.A study for healthy elderly people on awareness of positive sentiment and stress depending on frequency of laughing (Poster) 健康な高齢者の笑いの頻度に関連する肯定的な感情とストレスの認識に関する研究 (示説) (査読付き)	-	平成30年7月	The12th WHOCC2018(Global Network of WHO Collaborating Centres for Nursing and Midwifery) 17-20 July 2018, Cairns, Australia. オーストラリア (ケアンズ)	共著者：兼田美代、<u>臼井キミカ</u>、中谷こずえ、神谷智子、中野美加 研究目的は、地域で生活する健康な高齢者を対象に、笑いによって脳に生じるポジティブな感情がどのように高齢者のQOLに影響を与えるのかを明らかにすることである。研究方法は郵送法によるアンケート調査であり、「笑いの頻度」「高齢者用うつ尺度GDS-15」「ストレス認識(VAS)」等であり、5つの肯定的な感情による合成変数を作成した。分析は年齢、性別、家族構成、心身状況、家庭内・地域等での役割、仕事の有無とその内容、社会的交流の程度等との関連を解析した。笑いの少ない群に有意にうつ傾向が認められ、うつ傾向を予防するには日常生活に表情筋運動を意図的に取り入れていく必要性があり、介入研究でその成果を明らかにする予定である。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：神谷智子、<u>臼井キミカ</u>、兼田美代、中谷こずえ (Satoko Kamiya, Kimika Usui, Miyo Kaneda, Kozue Nakatani)

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
180. 元受刑者に対する健康実態・意識調査 －インタビュー調査から－ (示説) (査読付き)	－	平成30年 9月	日本ヒューマンヘル スケア学会学術集会 (大府市)	研究目的は矯正施設で生活する元受刑者の健康実態・予防意識を明確にし、看護職が介入可能な課題を明らかにし、健康プログラムの開発をすること。対象者6名に面接調査を実施した結果、既往歴の無い者の現在歯数は全国平均を超えており、その背景には、健康知識・意識が高く、特に歯の衛生に留意していたことが明らかになった。矯正施設という限られた条件下でも、健康に留意した支援・指導が可能であり、施設入所中から口腔ケアに重点をあてた支援の必要性が示唆された。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：中谷こずえ、小寫健仁、 <u>臼井キミ</u>
181. 介護老人保健施設における日常生活の選択的支援ケア実施頻度と必要性の認識－その人らしさのケアの実現を志向して－ (口頭発表) (査読付き)	－	平成30年9 月	第15回日本高齢虐待 防止学会学術集会 泉州大会 (堺市) 抄録集pp. 171	研究目的は介護老人保健施設における日常生活の中で日常的に実施している選択的支援の実態について、その頻度とケア職種の支援の必要性に関する認識の実態を明らかにすることである。 担当：論文全体の総括を担当。 共著者：中谷こずえ、 <u>臼井キミカ</u> 、兼田美代、神谷智子、中野美加
182. 療養病床入所中の長期臥床高齢者の筋緊張による関節屈曲拘縮に対するポジショニングケアの有効性－ケアの質の向上を目指した試み－ (口頭発表) (査読付き)	－	平成30年9 月	第15回日本高齢虐待 防止学会学術集会 泉州大会 (堺市)	療養病棟に入院中の関節屈曲拘縮を有する長期臥床高齢者20人を対象にポジショニングケアを行い有効性を明らかにした。拘縮部位は肘関節、膝関節、屈曲60度以上、介入期間は、5か月間。評価は関節可動域、筋緊張(MAS)、自律神経指標LF/HF、写真撮影、ケア提供によるVisual Analogue Scale測定等であり、全ての測定が可能だったのは12名(5名死亡等)。測定結果をFriedman検定等により検定した結果、いずれも有意(肘関節:p<.000、膝関:p<.000、後頸部後屈:p<.001)、筋緊張は膝関節では有意(p<.005)に改善、肘関節では改善傾向(p<.053)を認め、以上からポジショニングケアの有効性が示唆された。 担当部分：論文全体の総括を担当した。 共著者：兼田美代、 <u>臼井キミカ</u> 、中谷こず
183. 看護の視点からみたsexual behavior への理解と対応 シンポジウム11： テーマ「高齢者の性－介護現場のsexual behavior に対する理解と対応」 (口頭発表) (査読あり)	－	令和元年 6月	第61回日本老年医学 会学術集会 (仙台) 日本老年医学会雑誌 56巻 臨時増刊号 (学術集会講演抄録集) p77	セクシャリティとは、人の様々な性の側面を包含した概念であり、人間であることの中核的な特質であるにもかかわらず、看護師国家試験の出題基準では基本的な理解を問う内容に限定され、今日までに出題されたことはなく、看護基礎教育(高齢者看護学実習)でもセクシャリティが取り上げられることは殆どないのが実情である。しかし対応困難事例として苦慮し、深刻な課題となっているのがケアの現場である。これらの現状を踏まえて、事例の背景を可能な限り詳細に分析し、いわゆる成功事例から対応の試案と共に、看護基礎教育や現任教

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項				
事 項		年月日	概 要	
184. 向老期にある女性受刑者に対する健康維持増進ケアモデルの有効性 (口頭発表) (査読あり)	－	令和3年12月4日～5日	第41回日本看護科学学会 学術集会 (名古屋市) (学術集会講演抄録集) p427	研究目的は、向老期にある女性受刑者が自身の健康に目を向け、行動変容を支援する健康維持増進ケアモデルを開発し、主観的指標を用いてその有効性を検証する。研究方法は、①呼吸法、②口腔ケア、③腰痛体操、④手洗いをケアモデルとした介入研究であり、基礎水準期、介入期、フォローアップ期からなり、日常生活状況、歯周病症状の主観的評価を実施。結果：対象の年齢は57～65歳の28名、喫煙者10名、平均現在の歯牙数16.04 (±9.88) 本であり、介入の結果、歯周病症状「歯間に者が詰まりやすい」「起床時の口腔内のネバネバ感」の2項目と「睡眠の質」が有意に改善。さらに単語頻度解析・非階層クラスタの結果、健康に対して積極的な行動や前向きな心の変化があり、健康の視点から自身の将来まで見据える機会になったことが明らかになった。共著者：中谷こずえ、 <u>臼井キミカ</u> 、原田英子 担当部分：論文全体の総括を担当した。
185. 地図アプリケーションを使用した回想法の効果 その1 (口頭発表) (査読あり)	共著	令和6年7月	第63回近畿公衆衛生学会 (滋賀県大津市)	地域在住の健常な高齢者17人を対象に、VR空間上で地図アプリケーション用いて思い出の地を巡る回想法を週1回合計6回実施し、脳活動への影響を測定。MCI度は有意差はなかったなかったものの脳全体の脳波の平均値は低下し、認知症予防への効果が示唆された。 担当部分：脳波測定、論文全体の総括を担当した。
186. 地図アプリケーションを使用した回想法が地域在住高齢者の感情及び生体に与える影響 (口頭発表) (査読あり)	共著	令和6年12月	認知症ケア学会 大阪大会 (大阪市)	共著者：片山彩萌、 <u>臼井キミカ</u> 、堀内美由 地域在住の健常な高齢者17人を対象に、VR空間上で地図アプリケーション用いて思い出の地を巡る回想法を週1回合計6回実施し、脳活動への影響を測定。MCI度は有意差はなかったなかったものの脳全体の脳波の平均値は低下し、認知症予防への効果が示唆された。 担当部分：脳波測定、論文全体の総括を担当した。
②その他				共著者：片山彩萌、 <u>臼井キミカ</u> 、堀内美由
136. 学会功労者の業績紹介 津村智恵子先生を偲ぶ	単著	令和5年8月	一般財団法人日本高齢者虐待防止学会 創立20周年記念誌 PP34-35	一般財団法人日本高齢者虐待防止学会創設時から学会活動を支え、第3回大会長として活躍、数々の看護大学創設に携わってこられた津村智恵子先生の功績を紹介した。
上記記載以外に				
		著書	1 件	
		学術論文	5 件	
		その他	5 件	

教 育 研 究 業 績 書		
令和7年6月30日		
氏名：嶋田 理博		
研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
天文学	光学赤外線天文学、科学教育	
教 育 上 の 能 力 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書、教材		
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
1) けいはんな科学体験プログラム「けいはんな子ども天文クラブ～星の光のひみつ～」実施主担当者および講師	平成27年10月31日 平成27年11月7日 平成27年12月5日 平成27年12月19日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 地域の小学生向けの天文教室を開催し、分光観測をテーマとして取り上げた。分光観測は、太陽をはじめ、天体に含まれている元素の量や、物理状態、運動状態を知ることが出来る手段である。参加者は、分光観測に必要な光の性質や分光器の原理について学び、レプリカグレーティングを用いた簡易分光器を製作し、太陽の分光観測を行った。観測結果から太陽の元素組成を調べ、天文学者がどのように天体からの情報を引き出しているのかを、体験を通じて学習した。光を分光することによって、手に取れない遠くの天体でもその物理状態を知ることが出来ること、そして、その情報を活用して宇宙の成り立ちについて知ることが出来ることを、工作と実験・観察を通して体験した。
2) 「けいはんな科学フェスティバル2016」出展	平成28年2月6日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、奈良教育大学、(公財)関西文化学術研究都市推進機構 「けいはんな科学フェスティバル2016」の中で、1ブース展示を担当した。 レプリカグレーティングを用いた簡易分光器を展示し、白熱電球や蛍光灯、LEDなど家庭にある光源、水素、ヘリウム、ネオン、水銀の各放電管のスペクトルの違いを、参加者に観察してもらった。目に見える光は、様々な色の成分が合成されて出来ていること、発光する物質によってそのスペクトルのパターンが異なること、水素やヘリウムのスペクトルが天文学の研究とどのような関係にあるかを解説した。
3) けいはんな科学体験プログラム「けいはんな子ども天文クラブ～手作り望遠鏡で星を見よう～」実施主担当者および講師	平成28年9月10日 平成28年10月8日 平成28年11月5日 平成28年12月10日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、土星から、明るい星雲・星団までを対象とした観測指導を行った。
4) 平成28年度「まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル」講師	平成28年11月12日	主催：奈良県立奈良高等学校 共催：(公財)関西文化学術研究都市推進機構 けいはんな地域の11高校・中学校の28件の研究活動報告を指導講評した。
5) けいはんなサイエンスプログラム in KICK「太陽の光を調べよう」講師	平成29年1月8日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク グレーティングシートと工作用紙を使った簡易分光器の製作を指導した。また、それを用いた、白熱電球や蛍光灯、LEDなど家庭にある光源、水素やヘリウムなど各種元素の放電管スペクトルの観察を行った。発光する物質によってスペクトルのパターンが異なることを学び、分光が天文学の研究でどのように使われているかを解説した。

6) けいはんな科学フェスティバル2017「けいはんな子ども天文クラブ2016年活動報告」「太陽・月を観測しよう」出展	平成29年2月4日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構、奈良教育大学、京都府立大学 「けいはんな科学フェスティバル2017」の中で、「けいはんな子ども天文クラブ2016年活動報告」「太陽・月を観測しよう」の2ブースの展示・体験コーナーを担当した。前者では上記25)の活動成果を報告した。後者では、H α ナローバンドフィルタを備えた太陽観測望遠鏡を用いた太陽表面の観察、通常の天体望遠鏡を用いた月表面のクレーターの観察を行なった。
7) けいはんな科学体験プログラム「けいはんな子ども天文クラブ～手作り望遠鏡で星を見よう～」実施主担当者および講師	平成29年8月26日 平成29年8月30日 平成29年9月2日 平成29年10月7日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、土星から、明るい星雲・星団までを対象とした観測指導を行った。
8) 平成29年度「まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル」講師	平成29年10月28日	主催：奈良県立奈良高等学校 共催：（公財）関西文化学術研究都市推進機構 けいはんな地域の17高校・中学校の48件の研究活動報告を指導講評した。
9) けいはんな科学体験プログラム「けいはんな子ども天文クラブ～流れ星を観測しよう～」実施主担当者および講師	平成29年12月12日 平成29年12月13日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。肉眼および電波エコーでふたご座流星群を観測した。
10) けいはんな科学フェスティバル2018「けいはんな子ども天文クラブ2017年活動報告」「太陽を観測しよう」出展	平成30年2月3日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構、奈良教育大学、けいはんな科学共育デザインラボ、京都府立大学 「けいはんな科学フェスティバル2018」の中で、「けいはんな子ども天文クラブ2017年活動報告」「太陽を観測しよう」の2ブースの展示・体験コーナーを担当した。前者では上記25)の活動成果を報告した。後者では、H α ナローバンドフィルタを備えた太陽観測望遠鏡を用いた太陽表面の観察を行なった。
11) 三郷町男女共同参画セミナー「親子天文教室」講師	平成30年7月21日	主催：三郷町 三郷町在住の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いた観測指導を行った。
12) 科学体験プログラム「けいはんな子ども天文クラブ～手作り望遠鏡で星を見よう～」実施主担当者および講師	平成30年8月20日 平成30年9月15日 平成30年10月6日 平成30年10月27日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、火星、木星、土星を対象とした観測指導を行った。
13) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	平成30年11月3日 平成30年12月14日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
14) けいはんな科学フェスティバル2019「けいはんな子ども天文クラブ～太陽を観測しよう～」出展	平成31年1月26日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構、京都府立大学 「けいはんな科学フェスティバル2019」の中で、「けいはんな子ども天文クラブ～太陽を観測しよう～」ブースの展示・体験コーナーを担当し、H α ナローバンドフィルタを備えた太陽観測望遠鏡を用いた太陽表面の観察を行なった。
15) サイエンスプログラムinせいか「けいはんな子ども天文クラブ～太陽の光を調べよう～」講師	平成31年3月23日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 共催：せいか自然観察倶楽部 助成：国立青少年教育振興機構、ロート製菓 「サイエンスプログラムinせいか」の中で、「けいはんな子ども天文クラブ～太陽の光を調べよう～」プログラムの講師を務め、分光器の製作とそれを用いた太陽スペクトルの観察を行なった。
16) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	平成31年4月28日 平成31年4月29日 令和元年11月2日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
17) 「けいはんな子ども天文クラブ」実施主担当者および講師	令和元年8月10日 令和元年9月7日 令和元年9月14日 令和元年10月26日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、木星、土星を対象とした観測指導を行った。

18) けいはんな科学フェスティバル2020「けいはんな子ども天文クラブ～太陽を観測しよう～」出展	令和2年2月11日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構、京都府立大学 「けいはんな科学フェスティバル2020」の中で、「けいはんな子ども天文クラブ～太陽と金星を観測しよう～」ブースの展示・体験コーナーを担当し、H α ナローバンドフィルタを備えた太陽観測望遠鏡を用いた太陽表面の観察、通常望遠鏡を用いた昼間の金星の観察を行なった。
19) 「けいはんな子ども天文クラブ」実施主担当者および講師	令和2年10月24日 令和2年11月21日 令和2年11月28日 令和2年12月12日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、火星、木星、土星を対象とした観測指導を行った。
20) 令和2年度「まほろば・けいはんなSSHサイエンスフェスティバル」講師	令和2年11月7日 ～令和2年11月13日	主催：奈良県立奈良高等学校 共催：（公財）関西文化学術研究都市推進機構 けいはんな地域の13高校・中学校の50件の研究活動報告を指導講評した。
21) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	令和2年12月20日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
22) 令和2年度「サイエンスチームなら」科学研究実践活動発表会講師	令和3年2月11日	主催：奈良教育大学、奈良県立教育研究所 奈良県下7高校・中学校の15件の科学研究活動の実践活動報告を指導講評した。
23) けいはんな科学フェスティバル2021「太陽を観察しよう」「冬の星団・星雲めぐり」「冬の星座めぐり」出展	令和3年2月13日 ～令和3年2月28日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構 「けいはんな科学フェスティバル2021」の中で、「太陽を観察しよう」「冬の星団・星雲めぐり」「冬の星座めぐり」の3つのオンラインワークショップを企画し、講師を務めた。
24) 「けいはんな子ども天文クラブ」実施主担当者および講師	令和3年10月9日 令和3年10月16日 令和3年11月6日 令和3年11月13日 令和3年11月27日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、金星、木星、土星を対象とした観測指導を行った。
25) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	令和3年11月28日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
26) けいはんな科学フェスティバル2022「冬の星団・星雲めぐり」「冬の星座を観察しよう」出展	令和4年2月13日 ～令和4年2月27日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構 「けいはんな科学フェスティバル2022」の中で、「冬の星団・星雲めぐり」「冬の星座を観察しよう」の2つのオンラインワークショップを企画し、講師を務めた。
27) 令和3年度「サイエンスチームなら」科学研究実践活動発表会講師	令和4年3月17日 ～令和4年2月27日	主催：奈良県立教育研究所 助成：奈良教育大学 奈良県下7高校・中学校の19件の科学研究活動の実践活動報告を指導講評した。
28) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	令和4年4月4日 令和4年8月28日 令和4年10月16日 令和5年3月5日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
29) 「けいはんな子ども天文クラブ～星空観察教室～」実施主担当者および講師	令和4年8月27日 令和4年9月10日 令和4年9月24日 令和4年10月22日 令和4年11月12日 令和4年12月10日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。肉眼および双眼鏡で季節の星座、アステリズム、星団、星雲、銀河、二重星等の観察指導を行なった。
30) 令和4年度「サイエンスチームなら」科学研究実践活動中間報告会、発表会 講師	令和4年9月20日 令和4年12月24日	主催：奈良県立教育研究所 助成：奈良教育大学 奈良県下7高校・中学校の17件の科学研究活動の実践活動報告を指導講評した。
31) 「けいはんな子ども天文クラブ～望遠鏡工作教室～」実施主担当者および講師	令和4年10月1日 令和4年10月8日 令和4年10月29日 令和4年11月5日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、木星、土星を対象とした観測指導を行った。

32) けいはんな科学フェスティバル2023「太陽を観察しよう」出展	令和5年2月23日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構 助成：（公財）京都オムロン地域協力基金 「けいはんな科学フェスティバル2023」の中のワークショップ「太陽を観察しよう」を企画し、講師を務めた。
33) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	令和5年4月8日 令和5年9月3日 令和5年11月5日 令和5年12月3日 令和6年3月2日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
34) 「けいはんな子ども天文クラブ～星空観察教室～」実施主担当者および講師	令和5年7月29日 令和5年8月26日 令和5年9月9日 令和5年10月1日 令和5年11月11日 令和5年12月9日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。肉眼および双眼鏡で季節の星座、アステリズム、星団、星雲、銀河、二重星等の観察指導を行なった。
35) 「けいはんな子ども天文クラブ～望遠鏡工作教室～」実施主担当者および講師	令和5年9月23日 令和5年10月21日 令和5年10月28日 令和5年11月25日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月、木星、土星を対象とした観測指導を行った。
36) 令和5年度「サイエンスチームなら」科学研究実践活動発表会 講師	令和6年1月20日	主催：奈良県立教育研究所 助成：奈良教育大学 奈良県下の7つの高等学校、4つの中学校、計18グループの生徒による科学研究実践活動の報告発表を聞き、講評・審査を行った。
37) 「けいはんな子ども天文クラブ天体観望会」実施主担当者および講師	令和6年4月14日 令和6年10月20日 令和6年11月24日 令和6年12月8日 令和7年3月9日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ、けいはんな記念公園 けいはんな地域の住民を対象とした天体観望会を開催した
38) 日本看護研究学会 第50回学術集会 学術集会企画講演「万葉の星空」	令和6年8月25日	主催：日本看護研究学会 後援：奈良県、奈良市 「看護発祥の地」として第50回学術集会の開催地に選ばれた奈良は、看護以外にも多くの文化・技術の発祥地で、古代の天体観測の記録も多数残されている。『万葉集』には天体を詠んだ歌が約300首があり、『日本書紀』には日食、月食、彗星など様々な天文現象が約20件記録されている。古代人の星空観や最新天文学を交え、古代と現代、奈良と宇宙とのつながりについて講演した。
39) 「けいはんな子ども天文クラブ～星空観察教室～」実施主担当者および講師	令和6年8月3日 令和6年9月28日 令和6年10月26日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。肉眼および双眼鏡で季節の星座、アステリズム、星団、二重星等の観察指導を行なった。
40) 「けいはんな子ども天文クラブ～望遠鏡工作教室～」実施主担当者および講師	令和6年10月12日 令和6年11月9日 令和6年11月16日 令和6年12月7日	主催：けいはんな科学共育デザインラボ 助成：国立青少年教育振興機構 地域の小学生とその保護者を対象とした天文教室を開催した。天体望遠鏡の組立工作进行を指導し、その望遠鏡を用いて、月を対象とした観測指導を行った。
41) 令和4年度「サイエンスチームなら」科学研究実践活動発表会 講師	令和7年1月26日	主催：奈良県立教育研究所 助成：奈良教育大学 奈良県下の8つの高等学校、3つの中学校、計11グループの生徒による科学研究実践活動の報告発表を聞き、講評・審査を行った。
42) けいはんな科学フェスティバル2025「太陽を観察しよう」出展	令和7年2月15日	主催：けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク 共催：精華町、（公財）関西文化学術研究都市推進機構 助成：（公財）京都オムロン地域協力基金 「けいはんな科学フェスティバル2025」の中のワークショップ「太陽を観察しよう」を企画し、講師を務めた。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項				
事項		年月日	概 要	
1 資格、免許				
1) 修士（理学）		平成3年3月	京都大学 第3900号	
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
1) けいはんな科学コミュニケーション推進ネットワーク サイエンス・サポーター		平成26年9月10日～現在	けいはんな学研都市で実施する科学イベントや科学体験プログラムについて企画・参加・支援している。（宇宙分野担当）	
2) 奈良県産業廃棄物排出抑制等事業費補助金審査委員		平成30年4月1日～現在	奈良県産業廃棄物排出抑制等事業費補助金に係る事業についての審査を行なっている。（令和4年度より委員長）	
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称 （著書）	単著・	発行又は	発行所、発表雑誌等	概 要
(学術論文)				
1) グループ方式によるアンケート分析演習の実践と課題	共著	平成27年12月	神戸山手短期大学紀要, 58, 41-56	2015年度前期に開講された「アンケート演習(1)」はアンケート分析を主目的とした必修科目であった。授業を終えて、本科目の教育方法や成果を検討すると同時に、本科目で採用されたグループ方式によるアンケートの計画・実施・分析・発表の利点と問題点を考察した。 共著者：渡辺卓也、飯田一郎、本多佐知子、嶋田理博
2) 学生向けポータルサイトにおける個人認証システムの構築	単著	平成30年9月	奈良学園大学紀要, 9, 93-97.	奈良学園大学保健医療学部ポータルサイト上で、学生個人ごとのコンテンツやサービスを提供するため、個人認証システムを構築した。構築したシステムは、パスワードの平文を扱わずに認証を行えるダイジェスト認証と、パスワードのオンライン自動発行機能から構成されている。システムは約2年間稼働しており、その間にのべ約400名のユーザが利用し、約1,000個のパスワードを発行した。
3) デジタル天体観望システムの構築およびそれをを用いた教育の効果	共著	令和3年12月	奈良学園大学紀要, 14, 73-78.	眼視での天体観望とは異なり、望遠鏡またはカメラレンズにデジタルカメラを取り付け、ディスプレイ上で観望するものをデジタル天体観望という。デジタル天体観望には、肉眼での天体観望とは異なる数多くのメリットがある。我々は、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校の校舎屋上望遠鏡にデジタル観望システムを構築した。児童を対象とした教育効果の検証を行い、眼視での天体観察、デジタルでの眼視観測、それぞれに教育上のメリットがあることを確認した。 共著者：嶋田理博・福呂匠・吉岡真志
4) チームビルディングを基盤とした全学合同新入生研修の試み	共著	令和4年12月	奈良学園大学紀要, 14, 225-232.	学部・学科を越えた仲間づくりとキャンパスを知ることが目的として、全学合同で、チームビルディングを基盤とした謎解きゲームを用いた新入生研修を実施し、研修の効果を分析した。 共著者：服部律子、松岡克典、阿波邦彦、安東雅訓、川端咲子、松浦尚子、荻布優子、嶋田理博、高橋寿奈、坪内善仁、辻井直幸

5) カリキュラム改正に伴う本学保健医療学部看護学科の 新カリキュラム構築のプロセス	共著	令和4年12月	奈良学園大学紀要, 15, 233-238.	2020年の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正に伴い、育成しようとする学生像や能力の検討を行い、看護学科の新カリキュラムを構築した。教員が共通理解のもとに協力しながら教育に携わるため、および、学生が目指す方向を理解できるようにするため、3ポリシーや育成する学生像、育成する能力をより具体的に明らかにした。 共著者：服部律子、吉村雅世、西菌貞子、三浦康代、嶋田理博、小林由里、佐藤郁代、西出順子、溝口みちる
：				
(その他) 【学会発表】				
1) 看護教育IT化の一考察：教える側教わる側の思いとサービスデザイン	共同	平成27年7月	情報処理学会 第47回ユビキタスコンピューティングシステム・第2回高齢社会デザイン合同研究発表会 (於 立命館大学 大阪いばらきキャンパス)	看護教育における教材の電子化においては、単純に教科書を電子書籍や補助教材で置き換えるのではなく、教える側と教わる側の双方の要望に応える形で教材とサービスをデザインすることが重要である。筆者らは看護知識と技術を教育するためのタブレット型ツールを新設の看護学科に導入し、設立準備期間を含めて約2年間運用してきた。本発表では、その過程で得られた知見を報告した。 共同発表者：笹嶋宗彦、高岡良行、嶋田理博、吉岡隆之
2) 奈良産業大学／奈良学園大学での子ども向け天文普及活動の10年	単独	平成30年6月	日本天文教育普及研究会 2018年近畿支部会 (於 奈良学園大学 登美ヶ丘キャンパス)	奈良産業大学および奈良学園大学において活動してきた子ども向け天文教室の10年を総括した。
3) ペーパークラフト展開図作成アプリによる惑星儀、天球儀の製作	単独	令和元年11月	日本天文教育普及研究会 2019年近畿支部会 (於 大阪市立科学館)	任意の全球画像または全天画像を用いてペーパークラフト展開図を作成し、教材とすることができるアプリ「PazuCraft」を用いた、地球儀、月球儀、惑星儀、天球儀の製作について紹介した。
4) コロナ禍におけるデジタル観望会の可能性	単独	令和3年8月	第35回天文教育研究会・2021年天文教育普及研究会 年会 (オンライン開催)	コロナ禍の昨年度、参加者同士の接触を避けるため、 1) 屋外でディスプレイを使用したデジタル観望会、 2) ネット中継双方向観望会、3) 録画映像観望会という異なる3種類の観望会を、それぞれ異なる機会に実践した。各観望会について報告するとともに、デジタル観望会の長所・短所について考察した。
5) 保健医療大学教育における効果的なオンライン学習の活用に関する検討	共同	令和4年9月8日	2022年度 私立大学情報教育協会 教育イノベーション大会 (オンライン開催)	オンライン授業 の実際を、授業設計 (Instructional Design: ID) の視点で概観し、保健医療系学部におけるICT活用をどのように推進できるかを検討した。 共同発表者：堀内美由紀、宮崎誠、嶋田理、伊藤健一、服部律子、大浦智子
6) 双眼装置を用いた「ハイブリッド」天体観望会	単独	令和5年12月17日	日本天文教育普及研究会 2023年近畿支部会 (オンライン開催)	天体観望には、昔ながらの眼視観望と、近年普及してきたデジタル観望があり、それぞれにメリットがある。望遠鏡で集めた光を双眼装置で2つに分け、1台の望遠鏡でその両方を同時に行える「ハイブリッド」天体観望会の実践を報告した。